

医学部

第一内科学教室（呼吸器内科）	3	麻酔科学教室	90
第一内科学教室（腎臓・リウマチ膠原病内科）	7	臨床検査医学教室	93
第一内科学教室（神経内科）	11	総合医療学教室	95
第二内科学教室（循環器内科）	13	リハビリテーション医学教室	97
不整脈先進治療学研究講座	20	リハビリテーション室	
第二内科学教室（血液内科）	21	（リハビリテーション医学教室）	98
第三内科学教室（消化器内科）	21	脳卒中医学教室	98
第三内科学教室（糖尿病・内分泌・代謝内科）	32	医学教育学教室	104
腫瘍内科学教室	36	解剖学教室（肉眼解剖学）	104
高齢医学教室	42	解剖学教室（顕微解剖学）	106
精神神経科学教室	45	統合生理学教室	107
小児科学教室	48	細胞生理学教室	108
外科学教室（消化器・一般外科）	50	生化学教室（1）	110
外科学教室（呼吸器・甲状腺外科）	54	生化学教室（2）	110
外科学教室（乳腺外科）	57	薬理学教室	111
小児外科学教室	58	病理学教室	111
救急医学教室	58	感染症学教室（微生物学）	114
脳神経外科学教室	59	感染症学教室（寄生虫学）	117
心臓血管外科学教室	63	衛生学公衆衛生学教室	118
整形外科科学教室	64	法医学教室	120
皮膚科学教室	67	共同研究施設 RI 部門	120
形成外科学教室	70	フローサイトメトリー部門	121
泌尿器科学教室	73	実験動物施設部門	121
遺伝性腎疾患研究講座	76	生物学教室	122
眼科学教室	76	物理学教室	122
耳鼻咽喉科学教室	82	化学教室	123
産科婦人科学教室	85	英語学教室	123
放射線医学教室	88		

第一内科学教室
(呼吸器内科)

講演

- 倉井大輔, 皿谷健, 塚越博之, 石井晴之, 木村博一, 滝澤始, 佐々木佳子: 大学病院における Respiratory syncytial virus 感染患者の予後と背景 Influenza virus 感染患者との比較. 第91回日本感染症学会学術講演会, 東京, 2017年4月6-8日.
- 布川寛樹, 井上真奈美, 大熊康介, 小川ゆかり, 渡邊崇靖, 田村仁樹, 皿谷健, 滝澤始: 当院でのレジオネラ肺炎の検討. 第91回日本感染症学会学術講演会, 東京, 2017年4月6-8日.
- 長澤耕男, 塚越博之, 平野映子, 菱木はるか, 石和田稔彦, 三崎貴子, 倉井大輔, 皿谷健, 石井晴之, 大石和徳, 木村博一: ヒトRSウイルスサブグループBF遺伝子の分子進化についての検討. 第91回日本感染症学会学術講演会, 東京, 2017年4月6-8日.
- 下田真史, 倉井大輔, 須田智也, 皿谷健, 石井晴之, 滝澤始: qSOFA scoreによる重症度評価と予後についての検討. 第91回日本感染症学会学術講演会, 東京, 2017年4月6-8日.
- 皿谷健, 倉井大輔: 第20回症例から学ぶ感染症セミナー 発熱と急速に進行する呼吸不全を呈した1例. 第91回日本感染症学会学術講演会, 東京, 2017年4月7日.
- 渡辺雅人, 中本啓太郎, 佐田充, 乾俊哉, 田村仁樹, 小田未来, 小川ゆかり, 高田佐織, 横山琢磨, 皿谷健, 倉井大輔, 石井晴之, 滝澤始: 呼吸器感染症では気管支上皮のsoluble ST2/IL-33バランスが変化する. 第57回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2017年4月21-23日.
- 小田未来, 石井晴之, 石田学, 布川寛樹, 倉井大輔, 皿谷健, 田澤立之, 中田光, 滝澤始: 肺蛋白症におけるCT値定量評価による治療効果の検討. 第57回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2017年4月21-23日.
- 野村知宏, 横山琢磨, 平田彩, 渡邊崇靖, 井上真奈美, 小川ゆかり, 田村仁樹, 高田佐織, 渡辺雅人, 倉井大輔, 皿谷健, 石井晴之, 滝澤始: EGFR-TKIに耐性を来したEGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺癌患者に対するre-biopsyの実施可能性の検討. 第57回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2017年4月21-23日.
- 大熊康介, 皿谷健, 宮岡智花, 和田翔子, 小川ゆかり, 田村仁樹, 高田佐織, 渡辺雅人, 横山琢磨, 倉井大輔, 藤原正親, 石井晴之, 滝澤始: 当院におけるIgG4関連疾患の臨床像及び画像的検討. 第57回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2017年4月21-23日.
- 皿谷健, 倉井大輔, 木村博一, 滝澤始: 気管支喘息の病因・病態 気管支喘息発作におけるウイルス感染の前視的研究. 第57回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2017年4月21-23日.
- 三倉直, 皿谷健, 石田学, 小田未来, 高田佐織, 渡辺雅人, 横山琢磨, 倉井大輔, 石井晴之, 南太郎, 滝澤始: 神経筋疾患において横隔膜エコーが有用であった3症例. 第57回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2017年4月21-23日.
- 井澤麻耶, 佐藤絵梨, 加藤冠, 高野智子, 木村文平, 滝澤始: 高齢者における非結核性抗酸菌症の臨床経過の検討. 第57回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2017年4月21-23日.
- 皿谷健: 呼吸器専門医が教える「誰でもわかる呼吸音の診かた」. セミナー, 東京, 2017年5月19日.
- Watanabe M, Nakamoto K, Sada M, Inui T, Takata S, Yokoyama T, Saraya T, Ishii H, Takizawa H: Bacterial and Viral Infection Enhances sST2 Production by Bronchial Epithelial Cells. American Thoracic Society 2017 International Conference, USA, May 19th-24th, 2017.
- Watanabe M, Nakamoto K, Sada M, Inui T, Takata S, Yokoyama T, Saraya T, Kurai D, Ishii H, Takizawa H: Serum sST2 Levels Predict Severe Exacerbation of Asthma: A Potential Implication for Neutrophilic Asthma. American Thoracic Society 2017 International Conference, USA, May 19th-24th, 2017.
- 皿谷健: Comparison of Clinical and Radiological Findings between Child and Adult patients with *Mycoplasma pneumoniae* pneumonia: Scoring system values on chest X-ray. 日本マイコプラズマ学会第44回学術集会, 千葉, 2017年5月26-27日.
- 和田翔子, 石井晴之, 石田学, 麻生純平, 布川寛樹, 渡邊崇靖, 大熊康介, 小田未来, 小川ゆかり, 田村仁樹, 高田佐織, 横山琢磨, 滝澤始: びまん性肺炎患における肺マクロファージ(ロゼット形成)の検討. 第40回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 長崎, 2017年6月9-10日.
- 麻生純平, 石井晴之, 和田翔子, 石田学, 布川寛樹, 渡邊崇靖, 三倉直, 下田真史, 大熊康介, 小田未来, 小川ゆかり, 田村仁樹, 高田佐織, 横山琢磨, 滝澤始: 気管支肺泡洗浄液中における好酸球核過分葉の臨床的意義. 第40回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 長崎, 2017年6月9-10日.
- 小川ゆかり, 横山琢磨, 麻生純平, 布川寛樹, 平田彩, 小田未来, 高田佐織, 石井晴之, 滝澤始: EGFR-TKIに耐性を来したEGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺癌患者に対する当院における再生検の現状. 第40回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 長崎, 2017年6月9-10日.
- 小出卓, 肥留川一郎, 蘇原慧介, 橘啓盛, 横山琢磨, 石井晴之, 滝澤始: 肺出血を呈した防水スプレー吸入による肺障害の一例. 第40回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 長崎, 2017年6月9-10日.
- 本多紘二郎, 山名一平, 松田周一, 大澤武司, 宮本牧, 森本耕三, 田中良明, 吉森浩三, 黒崎敦子, 菊池文史, 後藤元: ニボルマブ投与中に両肺多発すりガラス状陰影を呈し, BAL TBLBでリンパ球主体の浸潤を認めた1例. 第40回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 長崎, 2017年6月9-10日.
- 皿谷健, 中本啓太郎, 塚原弥生, 小川ゆかり, 石田学, 小田未来, 大熊康介, 下田真史, 渡邊崇靖, 乾俊哉, 佐田充, 田村仁樹, 高田佐織, 渡辺雅人, 横山琢磨, 倉井大輔, 石井晴之, 滝澤始: 多発血管炎の新展開 各領域における最近のトピックス EGPAの胸部画像. 第66回日本アレルギー学会学術大会, 東京, 2017年6月16-18日.
- 渡辺雅人, 滝澤始: 喘息と環境因子 母体環境から大気汚染まで 大気汚染と気管支喘息. 第66回日本アレルギー学会学術大会, 東京, 2017年6月16-18日.
- 佐田充, 渡辺雅人, 乾俊哉, 中本啓太郎, 滝澤始: 成人喘息 病態 気道上皮細胞におけるウイルス感染時のCCL5の発現とその制御機構の基礎的検討. 第66回日本アレルギー学会学術大会, 東京, 2017年6月16-18日.
- 皿谷健: 診療に役立つ聴診のコツー異常音に潜む重大な疾患ー. 第12回立川呼吸器疾患連携カンファレンス, 立川, 2017年6月27日.
- 皿谷健: フィジカルアセスメントを基礎から学ぶ 呼吸器のフィジカルアセスメント. 医療従事者のためのセミナー, 東京, 2017年7月1日.
- 石井晴之: 間質性肺炎とは一知っておきたい重要なポイントー. 中野区医師会胸部レ線読影会, 東京, 2017年7月14日.
- 皿谷健: 呼吸器領域の漢方治療. 武蔵野市薬剤師会学術講演会, 武蔵野, 2017年7月25日.
- 皿谷健: 症例から学ぶ. 第5回感染症サマースクール2017,

東京, 2017年8月4-5日.

30. 皿谷健:聴診を学ぶ. 湘南サマーフェスティバル. 厚木, 2017年8月12日.
31. 皿谷健:呼吸器疾患の身体所見. 第57回臨床呼吸機能講習会, 横浜, 2017年8月24-26日.
32. 滝澤始:喘息重症化のメカニズムとその対策. 第28回専門の垣根を超えた臨床医学研究会, 東京, 2017年8月30日.
33. 横山琢磨, 佐久間翔, 福田のぞみ, 麻生純平, 小林史, 和田翔子, 渡邊崇靖, 大熊康介, 石田学, 小田未来, 肥留川一郎, 小川ゆかり, 本多紘二郎, 小出卓, 高田佐織, 石井晴之, 滝澤始:複数回の再生検でT790Mを検出したEGFR陽性肺腺癌の1症例. 第162回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会, 東京, 2017年9月2日.
34. Ishii H, Tazawa R, Ishida M, Saraya T, Inoue Y, Oda M, Nakata K: The analysis of alveolar macrophage form in secondary pulmonary alveolar proteinosis complicated with myelodysplastic syndrome. European Respiratory Society International Congress 2017. Italy, September 9th-13th, 2017.
35. 皿谷健:診療に役に立つ聴診のコツ・異常音に潜む重大な疾患. 中野区杉並区呼吸器疾患フォーラム, 東京, 2017年9月29日.
36. 石井晴之:続発性肺蛋白症における診療戦略. 第53回日本肺サーファクタント関連(界面)医学会学術集会, 新潟, 2017年10月1日.
37. 渡辺雅人, 滝澤始:呼気ガス測定の将来 気管支喘息における呼気NOの位置付け. 第21回日本医療ガス学会学術大会・総会, 東京, 2017年10月7日.
38. 倉井大輔:首都圏在宅酸素療法患者の概要:病院における災害対策. 第21回日本医療ガス学会学術大会・総会, 東京, 2017年10月7日.
39. 小川ゆかり, 横山琢磨, 福田のぞみ, 佐久間翔, 小林史, 平田彩, 石井晴之, 滝澤始:再発非小細胞肺癌に対するニボルマブの治療成績に関する検討. 第58回日本肺癌学会学術集会, 横浜, 2017年10月14-15日.
40. 皿谷健:最近の胸水の話. Chest Conference in Yamagata, 山形, 2017年10月27日.
41. 田村仁樹, 皿谷健, 米谷正太, 荒木光二, 布川寛樹, 三倉直, 佐田充, 渡辺雅人, 倉井大輔, 石井晴之, 滝澤始:当院でのKlebsiella pneumoniaeの血流感染の後視的研究. 第66回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第64回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会, 東京, 2017年10月31-11月2日.
42. 滝澤始:呼吸器感染症における炎症の分子病態とその治療戦略. 第66回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第64回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会, 東京, 2017年10月31-11月2日.
43. 倉井大輔:マイコプラズマ肺炎の診断とその問題点. 第66回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第64回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会, 東京, 2017年10月31-11月2日.
44. 倉井大輔, 河合伸:真菌性膿胸の14例の臨床的検討(単施設における後方視的研究). 第66回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第64回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会, 東京, 2017年10月31-11月2日.
45. 下田真史, 倉井大輔, 皿谷健, 田村仁樹, 横山琢磨, 佐々木結花, 石井晴之, 後藤元, 滝澤始:感染症患者の初診時の体温と頻呼吸は短期死亡率と関連があるか:単施設後ろ向き研究. 第66回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第64回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会, 東京, 2017年10月31-11月2日.
46. 乾俊哉, 渡辺雅人, 佐田充, 中本啓太郎, 中村益夫, 本多紘二郎, 小川ゆかり, 田村仁樹, 横山琢磨, 倉井大輔, 皿谷健, 石井晴之, 滝澤始:LPS刺激による気道上皮細胞からのCXCL1産生. 第66回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第64回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会, 東京, 2017年10月31-11月2日.
47. 三倉直, 小田未来, 大熊康介, 佐田充, 本多紘二郎, 渡辺雅人, 皿谷健, 石井晴之, 滝澤始:Epstein-Barr Virusの再活性化に伴う胸膜炎を呈した一例. 第66回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第64回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会, 東京, 2017年10月31-11月2日.
48. 小田未来, 皿谷健, 白井達也, 三倉直, 倉井大輔, 石井晴之, 滝澤始:多数の巨大なGalaxy signを呈しサルコイドーシスとの鑑別を要した肺結核/結核性胸膜炎の一例. 第66回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第64回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会, 東京, 2017年10月31-11月2日.
49. 大熊康介, 皿谷健, 小林史, 井上真奈美, 小田未来, 佐田充, 小川ゆかり, 本多紘二郎, 田村仁樹, 小出卓, 渡辺雅人, 横山琢磨, 倉井大輔, 石井晴之, 滝澤始:悪性胸水と肺炎随伴性胸水/膿胸の鑑別に関する後視的検討. 第66回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第64回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会, 東京, 2017年10月31-11月2日.
50. 佐久間翔, 皿谷健, 米谷正太, 荒木光二, 滝澤始:肺Mycobacterium kansasii症の当院での後方視的研究. 第66回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第64回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会, 東京, 2017年10月31-11月2日.
51. 白井達也, 皿谷健, 小田未来, 渡辺崇靖, 三倉直, 倉井大輔, 石井晴之, 滝澤始, 槇村浩一:成人T細胞白血病・リンパ腫に多彩な日和見感染症を合併した一例. 第66回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第64回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会, 東京, 2017年10月31-11月2日.
52. 今井静佳, 倉井大輔, 麻生純平, 下田真史, 皿谷健, 石井晴之, 滝澤始:気胸に合併したMycobacterium avium complex膿胸の一例. 第66回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第64回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会, 東京, 2017年10月31-11月2日.
53. 布川寛樹, 皿谷健, 木村博一, 石井晴之, 倉井大輔, 横山琢磨, 渡辺雅人, 田村仁樹, 佐田充, 滝澤始:間質性肺炎の急性増悪におけるウイルス検出の頻度及び意義に関する前視的検討. 第66回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第64回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会, 東京, 2017年10月31-11月2日.
54. 浅野史男, 大熊康介, 小林史, 井上真奈美, 皿谷健, 倉井大輔, 横山琢磨, 石井晴之, 藤原正親, 滝澤始:自己免疫性溶血性貧血を合併した器質性肺炎の1例. 第637回日本内科学会地方会, 東京, 2017年11月11日.
55. 皿谷健:iPodアプリを使用した聴診音と身体所見の検討:Case based discussion. 第42回肺音(呼吸音)研究会, 東京, 2017年11月12日.
56. 皿谷健:聴診器発明から200年 ~コモンな疾患を中心に, 実際の聴診音とともに~. 第535回診療内容向上研究会, 神戸, 2017年11月25日.
57. Oda M, Ishii H, Hojo M, Akasaka K, Tazawa R, Nakata K, Takizawa H: Evaluation for the therapeutic response by using a quantitative computed tomographic method in pulmonary alveolar proteinosis. Asian Pacific Society of Respiratory congresses 2017, Australia, November 23rd-26th, 2017.
58. Kurai D, Saraya T, Ishii H, Kimura H, Takizawa H: Comparison of the patients affected with respiratory

syncytial virus and influenza virus: A single center prospective observational study in Japan. Asian Pacific Society of Respiratory Congresses 2017, Australia, November 23rd-26th, 2017.

59. Shimoda M, Kurai D, Saraya T, Nakamoto K, Yokoyama T, Sasaki Y, Ishii H, Goto H, Takizawa H: A new criteria in predicting 30-day mortality in hospitalized adults patients with infectious diseases compared to qSOFA in three age groups: a retrospective study. Asian Pacific Society of Respiratory Congresses 2017, Australia, November 23rd-26th, 2017.
60. 石井晴之: 続発性肺蛋白症の疫学データ解析. 平成29年度第2回班会議 平成28年度日本医療研究開発機構研究費 肺蛋白症, 遺伝性間質性肺疾患に関する研究: 重症難治化要因とその克服, 大阪, 2018年1月14日.
61. 本多紘二郎: 結節性硬化症—国際レコメンデーションの実践—. 多摩地区結節性硬化症診療ネットワークセミナー, 立川, 2018年2月22日.
62. 皿谷 健: Case-based research oriented Seminar (CABROS) 日本感染症学会合同シンポジウム. 第29回日本臨床微生物学会総会学術集会, 岐阜, 2018年2月9-11日.
63. 皿谷 健: 呼吸器疾患の聴診と漢方診療「実際の聴診音を含めて」. 東村山市医師会学術講演会, 東村山, 2018年3月8日.
64. 皿谷 健: 理学的所見(聴診を中心に)の取り方について. 第1回神奈川フェローシップセミナー 明日の呼吸器科医を育てる会, 横浜, 2018年3月14日.
65. 小川ゆかり: 肺がんの基礎的な話. すこやかに生活するための肺がんを知ろう 市民公開講座, 三鷹, 2018年3月14日.
66. 横山琢磨: ここまで進んだ, 肺がん治療. すこやかに生活するための肺がんを知ろう 市民公開講座, 三鷹, 2018年3月14日.
67. 小出卓, 比留川一郎, 蘇原慧伶, 橋啓盛, 横山琢磨, 石井晴之, 滝澤始: 高齢者サルコイドーシスの1例. 第164回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会, 東京, 2018年3月24日.
68. 森田喜久子, 横山琢磨, 佐久間翔, 麻生純平, 本多紘二郎, 小林史, 小田未来, 小川ゆかり, 田村仁樹, 石井晴之, 滝澤始: EBUS-TBNAで診断した胸膜肥厚を主体とする小細胞肺癌の1例. 第164回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会, 東京, 2018年3月24日.

論文

1. Saraya T: Mycoplasma pneumoniae infection: Basics. J Gen Fam Med. 18(3):118-125, 2017.
2. Saraya T, Kimura H¹, Kurai D, Ishii H, Takizawa H (¹National Institute of Infectious Diseases): The molecular epidemiology of respiratory viruses associated with asthma attacks: A single-center observational study in Japan. Medicine (Baltimore). 96(42):8204, 2017.
3. Shirai T, Saraya T, Oda M, Takizawa H: Memory of World War II with loud atypical friction rub due to pulmonary asbestosis. BMJ Case Rep 2017. doi:10.1136/bcr-2017-222085.
4. Ogawa Y, Saraya T, Fujiwara M¹, Takizawa H (¹Department of Pathology): Massive Neurosarcoidosis. Intern Med 56(18):2537-2538, 2017.
5. Saraya T, Watanabe T, Tsukahara Y¹, Ohkuma K, Ishii H, Kimura H², Yan K³, Goto H⁴, Takizawa H (¹Department of Radiology, ²National Institute of Infectious Diseases, ³Department of Pediatrics, ⁴Fukujuji Hospital): The Correlation between Chest X-ray Scores and the Clinical Findings in Children and Adults with Mycoplasma pneumoniae Pneumonia. Intern Med 56(21):2845-2849, 2017.
6. Ohkuma K, Saraya T, Shimoda M, Takizawa H: A case of pneumatoxis cystoides intestinalis. J Gen Fam Med. 18(6):481-482, 2017.
7. Nakamoto K, Saraya T, Takizawa H: Asthma phenotypes: An important step for tailor-made therapy. J Gen Fam Med. 18(5):315-316, 2017.
8. Saraya T, Nunokawa H, Sada M, Takizawa H: Critical pitfall: another cause of wheezing. BMJ Case Rep 2017, 2017.
9. Saraya T, Ohkuma K, Fujiwara M¹, Miyaoka C, Wada S, Watanabe T, Mikura S, Inoue M, Oda M, Sada M, Ogawa Y, Honda K, Tamura M, Yokoyama T, Kurai D, Ishii H, Takizawa H (¹Department of Pathology): Clinical characterization of 52 patients with immunoglobulin G4-related disease in a single tertiary center in Japan: Special reference to lung disease in thoracic high-resolution computed tomography. Respir Med 132:62-67, 2017.
10. Tokura S¹, Akira M¹, Okuma T², Tazawa R³, Arai T¹, Sugimoto C¹, Matsumuro A¹, Hirose M¹, Takada T³, Nakata K³, Ishii H, Kasahara Y⁴, Hojo M⁴, Ohkouchi S⁵, Tsuchihashi Y⁶, Yokoba M⁷, Eda R⁸, Nakayama H⁹, Nei T¹⁰, Morimoto K⁶, Nasuhara Y¹¹, Ebina M¹², Ichiwata T¹³, Tatsumi K¹⁴, Yamaguchi E¹⁵, Inoue Y¹ (¹National Hospital Organization (NHO), Kinki-Chuo Chest Medical Center, ²Osaka City University Graduate School of Medicine, ³Niigata University Medical and Dental Hospital, ⁴National Center for Global Health and Medicine, ⁵Tohoku University, ⁶Nagasaki University, ⁷Kitasato University, ⁸Kurashiki Municipal Hospital, ⁹Tokyo Medical University, ¹⁰Nippon Medical University School of Medicine, ¹¹Hokkaido University Hospital, ¹²Tohoku Medical and Pharmaceutical University, ¹³Tokyo Medical University Hachioji Medical Center, ¹⁴Chiba University, ¹⁵Aichi Medical University): A semiquantitative computed tomographic grading system for evaluating therapeutic response in pulmonary alveolar proteinosis. Ann Am Thorac Soc 14(9):1403-1411, 2017.
11. Nir-Paz R¹, Saraya T, Shimizu T², Van Rossum A³, Bébear C⁴ (¹Hadassah Medical Center, ²Yamaguchi University, ³Sophia Children's Hospital, ⁴University of Bordeaux-INRA): Editorial: Mycoplasma pneumoniae Clinical Manifestations, Microbiology, and Immunology. Front Microbiol. 8:1916, 2017.
12. Yanagihara K¹, Watanabe A², Aoki N³, Matsumoto T², Yoshida M², Sato J², Wakamura T², Sunakawa K², Kadota J⁴, Kiyota H², Iwata S⁵, Kaku M², Hanaki H⁶, Ohsaki Y⁷, Fujiuchi S⁸, Takahashi M⁸, Takeuchi K⁹, Takeda H¹⁰, Ikeda H¹¹, Miki M¹², Nakanowatari S¹², Takahashi H¹³, Utagawa M¹³, Nishiya H¹⁴, Kawakami S¹⁴, Morino E¹⁵, Takasaki J¹⁵, Mezaki K¹⁵, Chonabayashi N¹⁶, Tanaka C¹⁶, Sugiura H¹⁶, Goto H¹⁷, Saraya T, Kurai D, Katono Y¹⁷, Inose R¹⁷, Niki Y¹⁸, Takuma T¹⁸, Kudo M¹⁹, Ehara S¹⁹, Sato Y¹⁹, Tsukada H²⁰, Watabe N²⁰, Honma Y²¹, Mikamo H²², Yamagishi Y²², Nakamura A²³, Ohashi M²³, Seki M²⁴, Hamaguchi S²⁴, Toyokawa M²⁴, Fujikawa Y²⁵, Mitsuno N²⁵, Ukimura A²⁶, Miyara T²⁷, Nakamura T²⁸, Mikasa K²⁹, Kasahara K²⁹, Ui K²⁹, Fukuda S³⁰, Nakamura A³⁰,

- Morimura M³¹, Yamashita M³¹, Takesue Y³², Wada Y³², Sugimoto K³³, Kusano N³⁴, Nose M³⁴, Mihara E³⁴, Kuwabara M³⁵, Doi M³⁵, Watanabe Y³⁵, Tokuyasu H³³, Hino S³⁶, Negayama K³⁷, Mukae H³⁸, Kawanami T³⁹, Ota T³⁹, Fujita M⁴⁰, Honda J⁴¹, Hiramatsu K⁴², Aoki Y⁴³, Fukuoka M⁴³, Magarifuchi H⁴³, Nagasawa Z⁴³, Kaku N⁴⁴, Fujita J⁴⁵, Higa F⁴⁵, Tateyama M⁴⁵ (1 Nagasaki University School of Medicine, 2The Surveillance Committee of Japanese Society of Chemotherapy (JSC), The Japanese Association for Infectious Diseases (JAID), and The Japanese Society for Clinical Microbiology (JSCM), 3Shinrakuen Hospital, 4Oita University Faculty of Medicine, 5Keio University Hospital, 6The Kitasato Institute, 7Asahikawa Medical University, 8National Hospital Organization Asahikawa Medical Center, 9Iwate Prefectural Central Hospital, 10Saiseikai Yamagata Saisei Hospital, 11Sanyudo Hospital, 12Japanese Red Cross Sendai Hospital, 13Saka General Hospital, 14Teikyo University School of Medicine, 15National Center for Global Health and Medicine, 16St. Luke's International Hospital, 17Keio University Hospital, 18Showa University, School of Medicine, 19Yokohama City University Hospital, 20Niigata City General Hospital, 21Shinrakuen Hospital, 22Aichi Medical University Hospital, 23Nagoya City University Hospital, 24Osaka University Hospital, 25Osaka City General Hospital, 26Osaka Medical College Hospital, 27Kansai Medical University Hirakata Hospital, 28Japan Community Health Care Organization Hoshigaoka Medical Center, 29Center for Infectious Diseases, Nara Medical University, 30Tenri Hospital, 31Nara Prefectural Gojo Hospital, 32Hyogo College of Medicine Hospital, 33Kobe Red Cross Hospital, 34Okayama University Hospital, 35Hiroshima Prefectural Hospital, 36Matsue Red Cross Hospital, 37Kagawa University Hospital, 38Hospital of the University of Occupational and Environmental Health Japan, F; Nagasaki University School of Medicine, 39Hospital of the University of Occupational and Environmental Health Japan, 40Fukuoka University, 41St. Mary's Hospital, 42Oita University Faculty of Medicine, 43Saga University, School of Medicine, 44Nagasaki University School of Medicine, 45Faculty of Medicine, University of the Ryukyus): Nationwide surveillance of bacterial respiratory pathogens conducted by the surveillance committee of Japanese Society of Chemotherapy, the Japanese Association for Infectious Diseases, and the Japanese Society for Clinical Microbiology in 2012: General view of the pathogens' antibacterial susceptibility. *J Infect Chemother.* 23(9):587-597, 2017.
13. Saraya T: Paraneoplastic Syndrome: What should Pulmonologists know?. *Pulm Res Respir Med Open J.* 4(2):e6-e8, 2017.
 14. Saraya T, Nunokawa H, Ohkuma K, Watanabe T, Sada M, Inoue M, Honda K, Oda M, Ogawa Y, Tamura M, Yokoyama T, Kurai D, Kimura H, Ishii H, Goto H, Takizawa H: A Novel Diagnostic Scoring System to Differentiate between *Legionella pneumophila* Pneumonia and *Streptococcus pneumoniae* Pneumonia. *Intern Med.* 2018. doi:10.2169/internalmedicine.0491-17.
 15. Kobayashi F, Saraya T, Ohkuma K, Fujiwara M¹, Takizawa H⁽¹Department of Pathology): Rapid diffuse pleural thickening due to metastatic meningioma. *Respirol Case Rep* 6(4):e00313, 2018.
 16. Saraya T, Kimura H¹, Kurai D, Tamura M, Ogawa Y, Mikura S, Sada M, Oda M, Watanabe T, Ohkuma K, Inoue M, Honda K, Watanabe M, Yokoyama T, Fujiwara M, Ishii H, Takizawa H⁽¹National Institute of Infectious Diseases): Clinical significance of respiratory virus detection in patients with acute exacerbation of interstitial lung diseases. *Respir Med* 136:88-92, 2018.
 17. Saraya T, Ohkuma K, Watanabe T, Mikura S, Kobayashi F, Aso J, Nunokawa H, Honda K, Ogawa Y, Tamura M, Sada M, Oda M, Inoue M, Yokoyama T, Kurai D, Ishii H, Kimura H, Takizawa H: Diagnostic Value of Vascular Endothelial Growth Factor, Transforming Growth Factor- β , Interleukin-8, and the Ratio of Lactate Dehydrogenase to Adenosine Deaminase in Pleural Effusion. *Lung* 196(2):249-254, 2018.
 18. Sato S¹, Masui K^{2,3}, Nishina N⁴, Kawaguchi Y⁵, Kawakami A⁶, Tamura M⁷, Ikeda K⁸, Nunokawa T⁹, Tanino Y¹⁰, Asakawa K¹¹, Kaneko Y¹², Gono T¹³, Ukichi T¹⁴, Kaieda S¹⁵, Naniwa T¹⁶, Kuwana M⁴, JAMI investigators, Collaborators (Okano Y, Yamaguchi Y, Taniguchi Y, Kikuchi J, Kubo M, Watanabe M, Harada T, Kazuyori T, Kameda H, Kaburaki M, Matsuzawa Y, Yoshida S, Yoshioka Y, Hirai T, Wada Y, Ishii K, Fujiwara S, Saraya T, Morimoto K, Hara T, Suzuki H, Shibuya H, Muro Y, Aki R, Shibayama T, Ohshima S, Yasuda Y, Terada M, Kawahara Y.) (¹Tokai University School of Medicine, ²National Defence Medical College School of Medicine, ³Showa University School of Medicine, ⁴Nippon Medical School Graduate School of Medicine, ⁵Tokyo Women's Medical University, ⁶Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences, ⁷Yokohama City University Graduate School of Medicine, ⁸Chiba University Hospital, ⁹Tokyo Metropolitan Tama Medical Centre, ¹⁰Fukushima Medical University School of Medicine, ¹¹Niigata University Medical and Dental Hospital, ¹²Keio University School of Medicine, ¹³Jichi Medical University, ¹⁴The Jikei University School of Medicine, ¹⁵Kurume University School of Medicine, ¹⁶Nagoya City University School of Medicine): Initial predictors of poor survival in myositis-associated interstitial lung disease: a multicentre cohort of 497 patients. *Rheumatology (Oxford)* 2018. DOI: 10.1093/rheumatology/key060.
 19. 滝澤始: オーバービュー 今求められるアレルギー的アプローチ. *呼吸器内科* 31(3):203-205, 2017.
 20. 本多紘二郎, 滝澤始: COPDの増悪の予防. *呼吸器内科* 31(6):528-532, 2017.
 21. 皿谷健: 高熱が下がらず、咳が止まりません [8日間続く発熱、咳]. *内科* 119(4):632-637, 2017.
 22. 皿谷健: (System 1)電光石火の感染症snap diagnosis 電話口から見えた疾患 歴史は繰り返す! 総合診療 27(7): 892-895, 2017.
 23. 皿谷健: 呼吸器 心にのこる症例 稀な胸水. *Medicina* 54(10): 1653-1657, 2017.
 24. 倉井大輔, 石井晴之: 急性下痢症の診断と治療. *感染制御と予防衛生* 1(1): 19-24, 2017.
 25. 倉井大輔: 成人・高齢者とRSウイルス感染症. *Medical Technology* 45(12): 1219-1220, 2017.
 26. 小田未来, 石井晴之: 診療の秘訣 結核性胸膜炎の診断

- の難しさ. *Modern Physician* 37(10): 1102, 2017.
27. 皿谷健: 他科への手紙 呼吸器内科→内科/外科一般. 週刊日本医事新法 4854: 49, 2017.
28. 皿谷健: さて, この検査をしよう! 人を見たら結核と思え! 結核は, 忘れた頃にやってくる. 総合診療 27(4): 448-452, 2017.
29. 倉井大輔: CAPの診断. 呼吸器内科 33(2): 120-124, 2018.

著書

- 滝澤始: NPPVとネーザルハイフロー. 東京, 文光堂, 2017.
- 横山琢磨: 腫瘍性疾患を疑うときの血液検査(腫瘍マーカー)とその意義. むかしの頭で診ていませんか? 呼吸器診療をスッキリまとめました. 滝澤始編集. 東京, 南江堂, 2017. p.83-87.
- 倉井大輔: NPPV患者さんを外来で診るときの注意点. むかしの頭で診ていませんか? 呼吸器診療をスッキリまとめました. 滝澤始編集. 東京, 南江堂, 2017. p.135-140.
- 皿谷健: 第2章 目的別フィジカルの取り方 呼吸器系肺炎を疑った時の身体診察. 身体診察 免許皆伝. 平島修, 志水太郎, 和足孝之編集. 東京, 医学書院, 2017. p.108-119.
- 倉井大輔: システマティックレビューチーム診断CQ1-CQ5. 成人肺炎診療ガイドライン2017. 日本呼吸器学会成人肺炎診療ガイドライン2017作成委員会編集. 東京, 一般社団法人日本呼吸器学会, 2017. p.58-75.
- 皿谷健: 第3章 ウイルス感染症 呼吸器ウイルス. 最新醫學別冊診断と治療ABC 呼吸器感染症. 川名明彦編集, 東京, 最新医学社, 2017. p.141-147.
- 滝澤始: 5呼吸器疾患 気管支拡張症. 今日の治療指針. 福井次矢, 高木誠, 小室一成編集. 東京, 医学書院, 2018. p.293-294.
- 皿谷健: 胸部X線に人生が, 歴史が見える! [プラタナス]. 週刊日本医事新報No.4898. 東京, 日本医事新報社, 2018. p.3.
- 皿谷健: マイコプラズマ肺炎. 本日の内科外来. 村川裕二編集. 東京, 南江堂, 2018. p.265-268.

その他

- 皿谷健, 大野城太郎, 知念克也, 西垂水和隆, 徳田安春: 病歴と診察で診断できない発熱!—その謎の賢い解き方を伝授します. こんな原因もあった! 本当は怖い発熱貴重な体験物語でレア原因Caseを語る!. 総合診療 27(4): 467-481, 2017.
- 小田未来: APSR Travel Award Interstitial lung disease, Asian Pacific Society of Respiratory 2017.
- 皿谷健: 身体所見×画像×エビデンスで迫る呼吸器診療(1)~(11) 週刊医学会新聞. 2017.
- 皿谷健: 聴診器発明から200年 コモンな疾患を中心に, 実際の聴診音とともに~, 兵庫保険新聞. 2018.
- 滝澤始: 第164回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会主催, 東京, 2018年3月24日.

第一内科学教室 (腎臓・リウマチ膠原病内科)

講演

- 要伸也: 膠原病と血管炎における腎障害の診方. 第114回日本内科学会講演会, 東京, 2017年4月16日.
- 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 難治性血管炎における新しい治療戦略. 第61回日本リウマチ学会, 福岡, 2017年4月20-22日.

- 遠藤彰子, 駒形嘉紀, 村上華奈子, 高橋孝幸, 窪田沙也花, 齋藤督芸, 清水英樹, 川嶋聡子, 池谷紀子, 福岡利仁, 軽部美穂, 要伸也, 有村義宏: 好中球が放出するNeutrophil Extracellular Traps(NETs)は腎糸球体内皮細胞との共培養により内皮細胞を障害する. 第61回日本リウマチ学会, 福岡, 2017年4月20-22日.
- 要伸也: 血管炎治療のガイドラインを考える: パネルディスカッション〜腎臓の立場から〜, 難治性血管炎に関する調査研究班合同シンポジウム. 第61回日本リウマチ学会, 福岡, 2017年4月20日.
- 要伸也: リウマチ医のための腎合併症の見方. 第61回日本リウマチ学会, 福岡, 2017年4月20-22日.
- 軽部美穂, 清水英樹, 川嶋聡子, 池谷紀子, 高橋孝幸, 福岡利仁, 山田明, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: ループス腎炎患者におけるミコフェノール酸モフェチルの有用性. 第61回日本リウマチ学会, 福岡, 2017年4月20-22日.
- 國友理恵, 清水英樹, 稲永亮平, 石出崇, 久木元光, 小林昌史, 窪田沙也花, 齋藤督芸, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 非定型抗酸菌症とANCA関連血管炎の臨床的関連. 第61回日本リウマチ学会, 福岡, 2017年4月20-22日.
- 高橋孝幸, 駒形嘉紀, 清水英樹, 川嶋聡子, 池谷紀子, 福岡利仁, 軽部美穂, 山田明, 要伸也, 有村義宏: 当院における膠原病性肺高血圧症15例の検討. 第61回日本リウマチ学会, 福岡, 2017年4月20-22日.
- 長坂憲治, 佐田憲映, 駒形嘉紀, 堤野みち, 針谷正祥, 有村義宏: 日本リウマチ学会・難治性血管炎に関する調査研究班合同シンポジウム 血管炎治療のガイドラインを考える リツキシマブによる新規治療のその後. 第61回日本リウマチ学会, 福岡, 2017年4月20-22日.
- 有村義宏: 顕微鏡的多発血管炎に伴う間質性肺炎. 第61回日本リウマチ学会, 福岡, 2017年4月20-22日.
- 福岡利仁: 内科医からみた整形外科医のRA診断・紹介のポイント. 西多摩整形外科フォーラム, 東京, 2017年4月28日.
- 要伸也: CKD患者の保存期管理と紹介基準. 第2回北多摩北部CKD病診連携講演会, 東村山, 2017年5月11日.
- 福岡利仁: 生活習慣病と腎臓病. 第12回三鷹市民公開講座 腎臓について考えるフォーラム, 東京, 2017年5月13日.
- 久木元光, 清水英樹, 軽部美穂, 川嶋聡子, 池谷紀子, 福岡利仁, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 透析導入時期と補正AGの関連. 第60回日本腎臓学会, 仙台, 2017年5月26-28日.
- 軽部美穂, 要伸也, 清水英樹, 川嶋聡子, 池谷紀子, 福岡利仁, 駒形嘉紀, 有村義宏: 壊死性病変を伴う増殖性ループス腎炎に対するMMFの治療効果. 第60回日本腎臓学会, 仙台, 2017年5月26-28日.
- 小澤祐子, 軽部美穂, 宮本彩子, 國沢恭平, 窪田沙也花, 川嶋聡子, 清水英樹, 池谷紀子, 福岡利仁, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 腎機能低下を伴うANCA関連腎炎に対するリツキシマブ治療効果の検討. 第60回日本腎臓学会, 仙台, 2017年5月26-28日.
- 石出崇, 齋藤督芸, 清水英樹, 國友理恵, 小林昌史, 山田博明, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 当院におけるメサネギウム領域にIgA沈着を伴う抗好中球細胞質抗体(ANCA)関連血管炎5例の検討. 第60回日本腎臓学会, 仙台, 2017年5月26-28日.
- 竹森愛, 高橋孝幸, 清水英樹, 小林昌史, 窪田沙也花, 齋藤督芸, 川嶋聡子, 池谷紀子, 福岡利仁, 軽部美穂, 吉原堅, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: IgA腎症に対するステロイドパルス療法後のステロイド漸減の検討. 第60回日本腎臓学会, 仙台, 2017年5月26-28日.

19. 有村義宏:AMED難治性血管炎診療のエビデンス構築のための戦略的研究班の生花と課題.第60回日本腎臓学会, 仙台, 2017年5月26-28日.
20. 要伸也:よくわかるシリーズ5「免疫抑制薬の作用機序と使い方」.第60回日本腎臓学会, 仙台, 2017年5月26-28日.
21. 有村義宏:難治性血管炎に関する研究成果と課題,第60回日本腎臓学会学術総会 公的研究報告(AMED等).第60回日本腎臓学会, 仙台, 2017年5月26-28日.
22. 國友理恵, 軽部美穂, 清水英樹, 稲永亮平, 久木元光, 駒形嘉紀, 有村義宏, 要伸也:後方可逆性脳症症候群を反復したループス腎炎透析患者の一例.三多摩腎疾患治療医会第73回研究会, 三鷹, 2017年6月11日.
23. 片山満代, 渡邊恭子, 曹由美, 濱井章, 小田浩之, 西川あや子, 清水英樹, 有村義宏, 軽部美穂, 要伸也:糖尿病透析予防指導の介入効果.三多摩腎疾患治療医会第73回研究会, 三鷹, 2017年6月11日.
24. 有村義宏, 針谷正祥, 本間栄, 丸山彰一:抗好中球細胞質抗体関連血管炎診療ガイドライン2017.第66回日本アレルギー学会学術集会, 東京, 2017年6月16日.
25. 要伸也:大学病院におけるIPWの現状,シンポジウム 透析医療における多職種医療連携IPW.第62回日本透析医学会, 横浜, 2017年6月16-18日.
26. 佐藤由利子, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏:原発性副腎機能亢進症に続き二次性副甲状腺機能亢進症が合併し,副甲状腺腫大が進行した腹膜透析患者の1例.第62回日本透析医学会, 横浜, 2017年6月16-18日.
27. 石出崇, 清水英樹, 久木元光, 國友理恵, 福岡利仁, 軽部美穂, 栗山廉二郎, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏:腹膜炎後の腸閉塞を契機にPD歴8年で離脱した一例.第62回日本透析医学会, 横浜, 2017年6月16-18日.
28. 片山満代, 渡邊恭子, 曹由美, 浜井章, 小田浩之, 西川あや子, 清水英樹, 有村義宏, 軽部美穂, 要伸也:糖尿病透析予防指導の介入効果.第62回日本透析医学会, 横浜, 2017年6月16-18日.
29. 國友理恵, 軽部美穂, 清水英樹, 稲永亮平, 久木元光, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏:後方可逆性脳症症候群を反復したループス腎炎 透析患者の一例.第62回日本透析医学会, 横浜, 2017年6月16-18日.
30. 要伸也:夏場の水分管理について～腎保護観点から～.第38回在宅医療会勉強会, 西東京, 2017年6月20日.
31. 福岡利仁: TMAとMalignant Hypertension – accelerated hypertension-.八王子TMAセミナー, 八王子, 2017年6月22日.
32. 軽部美穂, 内田裕子, 竹森愛, 下田佐知子, 駒形嘉紀, 有村義宏, 要伸也:ループス腎炎と組織学的な鑑別を要した抗リン脂質抗体症候群関連腎症の1例.第18回東京腎炎・ネフローゼ研究会, 東京, 2017年6月24日.
33. 要伸也:ANCA関連腎炎とその周辺疾患の病態と治療.第38回伊勢原リサーチセミナー, 伊勢原, 2017年6月26日.
34. 軽部美穂:自己免疫性疾患に対する内科的アプローチ ループス腎炎を中心に.免疫抑制療法と腎移植セミナー, 八王子, 2017年6月29日.
35. 福岡利仁:杏林大学腎臓・リウマチ膠原病内科におけるCKDの診療状況.第四回CKD病院連携懇話会, 東京, 2017年7月13日.
36. 福岡利仁:ループス腎炎の治療について.腎障害と自己免疫疾患研究会～診療科を超えた免疫疾患のクロストーク～, 東京, 2017年7月29日.
37. 有村義宏:ANCA関連血管炎-診断・治療の進歩-.第11回相模原臨床アレルギーセミナー, 横浜, 2017年8月4日.
38. 軽部美穂, 駒形嘉紀, 小林知志, 増古紳太郎, 池田哲也, 松田真紀子, 要伸也:リウマチ膠原病疾患の理解を深めよう.第8回リウマチ膠原病教室, 三鷹, 2017年9月2日.
39. 増古紳太郎, 軽部美穂, 久木元光, 清水英樹, 福岡利仁, 下山田博明, 駒形嘉紀, 有村義宏, 要伸也:巣状壊死性静脈炎と糸球体周囲の細動脈炎を合併した薬剤誘発性急性尿細管壊死の一例.第21回腎間質障害研究会, 東京, 2017年9月9日.
40. 要伸也:CKDの栄養指導と腎臓病療養指導士について.第380回大阪大学臨床栄養研究会, 大阪, 2017年9月11日.
41. 石出崇, 軽部美穂, 齋藤督芸, 駒形嘉紀, 有村義宏, 要伸也:赤芽球瘡に対するCyAの休薬にて増殖性ループス腎炎が顕在化した一例.第13回腎・膠原病治療研究会, 東京, 2017年9月15日.
42. 福岡利仁:腎臓内科からみた糖尿病.第6回日本くすりと糖尿病学会学術集会, 東京, 2017年9月18日.
43. 福岡利仁:高齢者の関節リウマチの問題点と治療戦略.ヤンセンファーマリウマチWeb セミナー, 東京, 2017年9月29日.
44. Arimura Y: ANCA-Associated Vasculitides Japanese Experience in Comparison With Other Ethnicities. 19th Asia Pacific League of Associations for Rheumatology Congress APLAR 2017, UAE, October 20th, 2017.
45. 福岡利仁:関節リウマチ診療におけるcsDMARDsの役割 イグランチモドを用いて治療し多関節痛の使用経験.多摩アダリブマブ研究会, 国分寺, 2017年10月26日.
46. 有村義宏:全身性血管炎の視点からの川崎病.第37回日本川崎病学会・学術集会, 東京, 2017年10月28日.
47. 要伸也:腎臓病療養指導士の創設に向けて.第47回日本腎臓学会東部学術大会, 横浜, 2017年10月28-29日.
48. 要伸也:aHUSの疾患概念と治療の実際.第47回日本腎臓学会東部学術大会, 横浜, 2017年10月28-29日.
49. 下田佐知子, 軽部美穂, 竹森愛, 宮本彩子, 内田裕子, 塚田弘之, 駒形嘉紀, 有村義宏, 要伸也:ループス腎炎と組織学的な鑑別を要した抗リン脂質抗体症候群腎症の1例.第47回日本腎臓学会東部学術大会, 横浜, 2017年10月28-29日.
50. 宮本彩子, 高橋孝幸, 下田佐知子, 兵動智夏, 竹森愛, 軽部美穂, 福岡利仁, 駒形嘉紀, 要伸也:全身性エリテマトーデスに合併した非典型性溶血性尿毒症症候群にエクリズマブを投与した1例.第47回日本腎臓学会東部学術大会, 横浜, 2017年10月28-29日.
51. 石出崇, 軽部美穂, 齋藤督芸, 駒形嘉紀, 有村義宏, 要伸也:赤芽球瘡に対するCyAの休薬にて増殖性ループス腎炎が顕在化した一例.第47回日本腎臓学会東部学術大会, 横浜, 2017年10月28-29日.
52. 増古紳太郎, 久木元光, 清水英樹, 福岡利仁, 軽部美穂, 早川哲, 小路仁, 下山田博明, 駒形嘉紀, 有村義宏, 要伸也:NSAIDsによる薬剤性急性尿細管間質性腎炎と壊死性血管炎を呈した一例.第47回日本腎臓学会東部学術大会, 横浜, 2017年10月28-29日.
53. 兵動智夏, 高橋孝幸, 竹森愛, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也:ステロイド治療で尿所見正常化した薬剤性尿細管間質性腎炎合併IgA腎症の1例.第47回日本腎臓学会東部学術大会, 横浜, 2017年10月28-29日.
54. 福岡利仁:腎限局高齢MPAの治療をどう考えるか? CMEコース.第47回日本腎臓学会東部学術大会, 横浜, 2017年10月28-29日.
55. 軽部美穂, 宮澤さやか, 國沢恭平, 佐藤綾, 駒形嘉紀, 要伸也:悪性リンパ腫再発に対して臍帯血移植を行い,2年後にTMA病変を発症した1例.多摩TMA研究会, 立川,

2017年11月30日.

56. 福岡利仁: Clinical Immunology Web Seminar シムジアのBest Useを考える. ウェブ講演会, 東京, 2017年11月30日.
 57. 小澤祐子, 池谷紀子, 宮本彩子, 竹森愛, 前園知宏, 福岡利仁, 駒形嘉紀, 要伸也: G群B溶血性連鎖球菌感染症により多発軟部組織膿瘍を呈した長期透析例. 三多摩腎疾患治療医会第74回研究会, 三鷹, 2017年12月3日.
 58. 軽部美穂, 竹森愛, 高橋孝幸, 兵動智夏, 李恵怜, 國友理恵, 宮本彩子, 佐藤由利子, 小林知志, 石出崇, 久木元光, 國沢恭平, 増古紳太郎, 前園知宏, 池谷紀子, 福岡利仁, 駒形嘉紀, 中林公正, 要伸也: 糖尿病歴のある関節リウマチ患者のリウマチ治療中に膜性腎症と著明なポドサイト障害を認めた1例. 第91回東京腎生検カンファレンス, 東京, 2017年12月15日.
 59. 要伸也: ANCA関連血管炎の診断と治療. 厚生労働科学研究費補助金事業 難治性血管炎に関する調査研究班主催 市民公開講座 難治性血管炎診療の最新情報, 大阪, 2018年1月14日.
 60. 久場起志, 軽部美穂, 久木元光, 下山田博明, 小林知志, 清水英樹, 駒形嘉紀, 要伸也: 典型的な症状を欠き長期診断が困難であったが, 側頭動脈生検で確定診断が得られた巨細胞性動脈炎 (GCA) の一例. 第639回日本内科学会関東地方会, 東京, 2018年2月10日.
 61. 福岡利仁: 内科からみた関節リウマチの診療. 第五回多摩地域域の整形外科疾患を考える会, 東京, 2018年2月21日.
 62. 福岡利仁: 内科からみた関節リウマチの診療. KYO会, 甲府, 2018年2月22日.
 63. Kaname S: A multidisciplinary CKD team care and expectations for the Certified Kidney Disease Educator in Japan. The certified kidney disease educator system, International Society of Nephrology (ISN) Frontiers, Panel discussion, Tokyo, February 25th, 2018.
 64. Karube M, Takahashi T, Hayakawa S, Komagata Y, Arimura Y, Yamada A, Kaname S: Diagnostic significance of TCR gene clonal rearrangement analysis in granulomatous interstitial nephritis associated T cell lymphoma. ISN Frontiers Meetings, Tokyo, February 22nd-25th, 2018.
 65. 要伸也: 腎臓病療養指導士について. 平成29年度慢性腎臓病 (CKD) シンポジウム 厚生労働省主催, 東京, 2018年3月8日.
 66. 軽部美穂: 内科からみたリウマチ疾患の診断と治療. 北多摩北部整形外科学術講演会, 東京, 2018年3月13日.
 67. 福岡利仁: 腎臓病と関節リウマチ. リウマチ エリア Web Seminar 東京・神奈川・長野・山梨, 東京, 2018年3月20日.
- 論文**
1. 宮本彩子, 要伸也: CKDを合併している関節リウマチ患者. 薬局 68(6): 57-63, 2017.
 2. 要伸也: 顕微鏡的多発血管炎. 医学のあゆみ 263(6): 505-510, 2017.
 3. 高橋孝幸, 要伸也: 急性腎不全における凝固・線溶系異常. 腎臓内科・泌尿器科 6(4): 300-305, 2017.
 4. 要伸也: 膠原病と血管炎における腎障害の診方. 日本内科学会雑誌 106:2018-2027, 2017.
 5. 久木元光, 清水英樹, 要伸也: 栄養指導のコツ. 腎・高血圧の最新治療 6(4): 208-214, 2017.
 6. 石出崇, 要伸也: マグネシウム代謝異常の病態と治療. Medical Practice 34:1819-1824, 2017.
 7. 駒形嘉紀: 難治性ANCA関連血管炎. リウマチ科 58:40-45, 2017.
 8. Fukuoka K, Sato Y, Sakurai H, Kawashima S, Kaname S, Arimura Y: A dialysis patient with hyperphosphatemia, hyperkalemia, and azotemia without an excessive intake. Kidney Int Rep 2:770-773, 2017.
 9. Tsukada H, Shimizu H, Kaname S: Bilateral nephromegaly due to isolated renal sarcoidosis. Clin Exp Nephrol 21:169-170, 2017.
 10. 有村義宏: 肺血管炎の基礎と臨床 オーバービュー 血管炎の病態, 診断, 治療. 呼吸器内科2017, 32(4): 307-313, 2017.
 11. 有村義宏: 肺血管炎の画像診断 ANCA関連血管炎. 臨床画像2017 33(10):1212-1214, 2017.
 12. 有村義宏: ANCA関連血管炎 Chapel Hill 2012分類と国際血管炎ワーキンググループ腎病理組織学的分類. 腎と透析2017 82(増刊):395-400, 2017.
 13. 有村義宏: CKDの薬物治療(疾患別) 急速進行性腎炎症候群. 月刊薬事2017増刊号 59(10): 2121-2126, 2017.
 14. 有村義宏: 関節痛をどうみるか 血管炎症候群. 成人病と生活習慣病 47(9): 1150-1156, 2017.
 15. Bossuyt X, Cohen Terbeart JW, Arimura Y, Blockmans D, Flores-Suarez LF, Gullievin L, Helimichi B, Jayne D, Jennette JC, Kallenberg CGM, Moiseev S, Nobikob P, Radice A, Savige JA, Sinoco RA, Specks U, van Paassen P, Zhao MH, Rasmussen N, Damoiseaux J, Csemok E: Position paper Revised 2017 international consensus on testing of ANCA in granulomatous polyangiitis and microscopic polyangiitis. Nat Rev Rheumatol 13(11): 683-692, 2017.
 16. Ishizaki J, Takemori A, Suemori K, Matsumoto T, Akita Y, Sada KE, Yuzawa Y, Amano K, Takasaki Y, Harigai M, Arimura Y, Makino H, Yasukawa M, Takemori N, Hasegawa H: Research Committee of Intractable Vasculitis Syndrome and the Research Committee of Intractable Renal Disease of the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan: Targeted proteomics reveals promising biomarkers of disease activity and organ involvement in antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis. Arthritis Res Ther. 19(1):218, 2017. doi: 10.1186/s13075-017-1429-3.
 17. Ishizu A, Tomaru U, Masuda S, Sada KE, Amano K, Harigai M, Kawaguchi Y, Arimura Y, Yamagata K, Ozaki S, Dobashi H, Homma S, Okada Y, Sugiyama H, Usui J, Tsuboi N, Matsuo S, Makino H: Research Committee of the Intractable Vasculitis Syndrome and the Research Committee of the Intractable Renal Disease of the Ministry of Health, Labour, and Welfare of Japan: Prediction of response to remission induction therapy by gene expression profiling of peripheral blood in Japanese patients with microscopic polyangiitis. Arthritis Res Ther. 19(1):117, 2017. doi: 10.1186/s13075-017-1328-7.
 18. Furuta S, Chaudhry AN, Arimura Y, Dobashi H, Fujimoto S, Homma S, Rasmussen N, Jayne DR: Comparison of the Phenotype and Outcome of Granulomatosis with Polyangiitis Between UK and Japanese Cohorts. J Rheumatol. 44(2): 216-222, 2017.
 19. Kawasaki A, Yamashita K, Hirano F, Sada KE, Tsukui D, Kondo Y, Kimura Y, Asako K, Kobayashi S, Yamada H, Furukawa H, Nagasaka K, Sugihara T,

- Yamagata K, Sumida T, Tohma S, Kono H, Ozaki S, Matsuo S, Hashimoto H, Makino H, Arimura Y, Harigai M, Tsuchiya N: Association of ETS1 polymorphism with granulomatosis with polyangiitis and proteinase 3-anti-neutrophil cytoplasmic antibody positive vasculitis in a Japanese population. *J Hum Genet* 63:55-62, 2018. doi:10.1038/s10038-017-0362-2.
20. 要伸也：腎臓病療養指導士制度とチーム医療。日本腎臓学会誌 60(1)：1-5, 2018.
 21. 要伸也：慢性腎臓病（CKD）に対する療養指導－腎臓病療養指導士について－。日本医師会雑誌 146:2526-2527, 2018.
 22. 要伸也：急速進行性腎炎症候群ガイドライン（ANCA関連腎炎を含む）。炎症と免疫 26:51-55, 2018.
 23. 要伸也：腎臓病療養指導士，その後。腎・高血圧の最新治療 7(1):36-38, 2018.
 24. 要伸也：免疫抑制剤(含ステロイド)。高齢者の腎不全対策 治療薬解説 カレントレピー 36:81-85, 2018.
 25. 駒形嘉紀：ANCA関連血管炎による腎障害に対する新しい治療戦略。リウマチ科 59:145-151, 2018.
 26. Watanabe M, Yamada C, Komagata Y, Kikuchi H, Hosono H, Itagaki F: New low-dose liquid pilocarpine formulation for treating dry mouth in Sjögren's syndrome: clinical efficacy, symptom relief, and improvement in quality of life. *J Pharm Health Care Sci.* 4:4, 2018.
 27. Higashihara E, Horie S, Kinoshita M, Harris PC, Okegawa T, Tanbo M, Hara H, Yamaguchi T, Shigemori K, Kawano H, Miyazaki I, Kaname S, Nutahara K: A potentially crucial role of the PKD1 C-terminal tail in renal prognosis. *Clin Exp Nephrol* 22:395-404, 2018.
 28. 有村義宏：血管の炎症を俯瞰する 血管炎 小型血管炎。診断と治療2018 106(2):187-195, 2018.
 29. 有村義宏：医学と医療の最前線 血管炎の最近の話題 ANCA関連血管炎を中心に。日本内科学会誌2018 107(1)：115-123, 2018.
 30. Hara A, Wada T, Sada KE, Amano K, Dobashi H, Harigai M, Takasaki Y, Yamada H, Hasegawa H, Hayashi T, Fujimoto S, Muso E, Kawakami T, Homma S, Yoshida M, Hirahashi J, Ogawa N, Ito S, Makino H, Arimura Y: Research Committee on Intractable Vasculitides, and the Strategic Study Group to Establish the Evidence for Intractable Vasculitis Guideline: Risk Factors for Relapse of Antineutrophil Cytoplasmic Antibody-associated Vasculitis in Japan: A Nationwide, Prospective Cohort Study. *J Rheumatol* 45(4):521-528, 2018. doi:10.3899/jrheum.170508.
- 著書**
1. 要伸也：薬剤の使い方 リツキシマブ。腎疾患・透析最新の治療2017-2019。東京，南江堂，2017. p.339-342.
 2. 要伸也：尿細管機能異常をきたす疾患の診断と治療，尿細管間質性腎炎をきたす疾患の診断と治療。レジデントのための腎臓病診療マニュアル 第3版。深川雅史，安田隆監修。東京，医学書院，2017. p.402-418.
 3. 要伸也：膠原病に伴う腎疾患。レジデントのための腎臓病診療マニュアル 第3版。深川雅史，安田隆監修。東京，医学書院，2017. p.451-460.
 4. 要伸也：顕微鏡的多発血管炎。臨床脈管学。日本脈管学会編集。東京，日本医学出版，2017. p.322-324.
 5. 要伸也：輸液療法の基本。今日の処方 改訂第5版。浦部晶夫，大田健，川合眞一，島田和幸，菅野健太郎編集。東京，南江堂，2017. p.41-43.
 6. 要伸也：電解質異常補正法。今日の処方 改訂第5版。浦部晶夫，大田健，川合眞一，島田和幸，菅野健太郎編集。東京，南江堂，2017. p.47-53.
 7. 要伸也：高カロリー輸液。今日の処方 改訂第5版。浦部晶夫，大田健，川合眞一，島田和幸，菅野健太郎編集。東京，南江堂，2017. p.53-56.
 8. 國友理恵，要伸也：若年者にみられる低カリウム血症。いまさら訊けない！水電解質異常の診かた・考えかた。加藤明彦，安田日出夫編集。東京，中外医学社，2017. p.59-65.
 9. 兵動智夏，要伸也：尿細管性アシドーシスとカリウム代謝異常。いまさら訊けない！水電解質異常の診かた・考えかた。加藤明彦，安田日出夫編集。東京，中外医学社，2017. p.66-74.
 10. 李恵怜，要伸也：漢方薬(甘草)による低カリウム血症。いまさら訊けない！水電解質異常の診かた・考えかた。加藤明彦，安田日出夫編集。東京，中外医学社，2017. p.75-81.
 11. Hirotani S, Kaname S, Gamou S: Vascular Access: Experiences in the Aged Japanese Society in Hemodialysis Access. *Fundamentals and Advanced Managements*. Shalhub S, Dua A, Shin S, eds. Switzerland, Springer, 2017. p.49-56.
 12. 福岡利仁：プロブレム16 全身性疾患と腎障害 膠原病による腎障害を疑うとき：シェーグレン症候群の尿細管異常。腎臓・水電解質コンサルタント第2版。深川雅史監修。京都，金芳堂，2017. p.392-396.
 13. 福岡利仁：プロブレム16 全身性疾患と腎障害 膠原病による腎障害を疑うとき：ループス腎炎。腎臓・水電解質コンサルタント第2版。深川雅史監修。京都，金芳堂，2017. p.397-403.
 14. 福岡利仁：プロブレム16 全身性疾患と腎障害 血管炎による腎障害を疑うとき。腎臓・水電解質コンサルタント第2版。深川雅史監修。京都，金芳堂，2017. p.404-410.
 15. 要伸也：腎盂腎炎（急性，慢性）。今日の治療指針2018。福井次矢，高木誠，小室一成総編集。東京，医学書院，2018. p.603-605.
 16. 駒形嘉紀（分担執筆）：免疫複合体性小型血管炎，Cogan症候群。今日の治療指針2018。福井次矢，高木誠，小室一成編集。東京，医学書院，2018. p.854-855.
 17. 軽部美穂，要伸也（分担執筆）：感染症の薬物治療 顕微鏡的血管炎で治療中。日和見感染（サイトメガロウイルス，ニューモシスチス・イロペチイ）の予防法と発症した際の治療法は？。CKD患者の薬物治療。加藤明彦編集。東京，文光堂，2018. p.47-53.
 18. 軽部美穂，要伸也（分担執筆）：腎機能低下の予防 高齢者にARB，ACE阻害薬を投与。適応となるCKD症例は？副作用およびその予防法は？エビデンスはどこまである？。CKD患者の薬物治療。加藤明彦編集。東京，文光堂，2018. p.269-273.
- 報告書**
1. 要伸也：ANCA関連血管炎診療ガイドライン2017，（厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業）。Part2進行性腎障害に関する調査研究班・日本腎臓学会による「エビデンスに基づく急速進行性腎炎症候群(RPGN)診療ガイドライン2014。有村義宏，丸山彰一，本間栄編集。東京，診断と治療社，p144-147, 2017.
 2. 要伸也：エビデンスに基づく急速進行性腎炎症候群(RPGM)診療ガイドライン2017。丸山彰一監修，厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患等政策研究事業）難治性腎疾患に関する調

査研究班編集, 東京医学社, 2017年6月15日発行 (厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業難治性腎疾患に関する調査研究班), p6-9, 2017.

3. 要伸也: 抗糸球体基底膜抗体病. 血管炎症候群の診療ガイドライン (2017年改訂版). p.71-75, 日本循環器学会, 2018.

その他

1. 要伸也: チーム医療で慢性腎臓病の診療水準向上をめざす. 腎臓病療養指導士の役割とは. 医学界新聞 (3265) p.3, 2018.
2. 要伸也: aHUS診療の実践. ケアネット, 東京, 2018年3月20日.

第一内科学教室 (神経内科)

講演

1. Hoshino K, Fukuda H, Nagao Y, Kimura K, Hayashi M, Tokushige S, Terao Y: Saccadic eye movement compared to the scores of YGTSS-J, CY-BOCS, SCAS in Tourette Syndrome. 14th Asian and Oceanian Congress of Child Neurology, Fukuoka, May 11th-14th, 2017.
2. 綾野水樹, 澁谷裕彦, 若杉憲孝, 内堀歩, 大石知瑞子, 市川弥生子, 千葉厚郎: 可逆性白質脳症を合併したギラン・バレー症候群の61歳女性例. 第221回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 2017年6月3日.
3. Shibuya H, Ichikawa Y, Sumitani Y, Uchibori A, Ishimoto M, Nagai K, Tanaka M, Miyazaki T, Ishiura H, Mitsui J, Tsuji S, Chiba A: Japanese homozygous carriers of p.Arg684Ter variant in TBC1D4: markedly high-risk variant of type 2 diabetes in Inuit. ACP(米国内科学会)日本支部年次総会2017, 京都, 2017年6月10日.
4. Hoshino K, Fukuda H, Nagao Y, Kimura K, Hayashi M, Tokushige S, Sugiyama Y, Terao Y: Saccadic eye movement compared to the scores of YGTSS-J, CY-BOCS, SCAS in Tourette Syndrome. 第59回日本小児神経学会学術集会, 大阪, 2017年6月15-17日.
5. Chiba A, Uchibori A, Gyohda A: Ca(2+)-dependent anti-GQ1b antibody in Fisher syndrome: detection and insight into the molecular mechanism. 2017 Peripheral Nerve Society Annual Meeting, Spain, July 8th-12th, 2017.
6. Uchibori A, Chiba A, Gyohda A: Ca²⁺-dependent anti-ganglioside antibody in seronegative Guillain-Barré syndrome. 2017 Peripheral Nerve Society Annual Meeting, Spain, July 8th-12th, 2017.
7. 茂呂直紀, 綾野水樹, 白鳥嵩之, 中島昌典, 中西郁, 本田有子, 鳥居正剛, 千葉厚郎: 脳梗塞を繰り返し, 脳幹・脊髄周囲で顕著なGd増強効果を示した髄膜炎の53歳女性例. 第65回三鷹ニューロ, 三鷹, 2017年7月20日.
8. 内堀歩: fingolimod導入時に房室ブロックが出現した再発寛解型多発性硬化症の22歳女性. MSクリニックカンファレンス, 三鷹, 2017年8月7日.
9. 宮地洋輔, 大石知瑞子, 溝井令一, 田中章景, 園生雅弘: 手根管症候群の神経伝導検査は「感覚神経優位の障害」ではない: 正中神経分枝ごとの障害されやすさについて. 第28回日本末梢神経学会学術集会, 名古屋, 2017年8月25-26日.
10. 永井健太郎, 内堀歩, 大石知瑞子, 市川弥生子, 千葉厚郎: 胸腺腫合併重症筋無力症 (MG) 経過中に心停止となり非運動症状である心筋炎と考えられた52歳女性例. 第222回日本神経学会関東・甲信越地方会, 2017年9月2日.
11. Terao Y, Tokushige S-I: "Tapping out" the pace of internal clock and rhythm generation in neurological patients. The second international symposium on the science of mental time. Nara, September 13th, 2017.
12. Oishi C, Chiba A, Sonoo M: Case series of suspected tarsal tunnel syndrome (TTS) in Japan. American Association of Neuromuscular and Electrodiagnostic Medicine 64th Annual Meeting (64th AANEM), USA, September 13th-16th, 2017.
13. Chiba A, Uchibori A, Gyohda A: Molecular mechanism of Ca(2+)-dependent anti-GQ1b/GT1a antibody in Fisher syndrome. The XXIII World Congress of Neurology 2017, Kyoto, September 16th-21st, 2017.
14. Uchibori A, Gyohda A, Chiba A: Ca(2+)-dependent anti-ganglioside antibodies in seronegative AMAN, AIDP, and SAN. The XXIII World Congress of Neurology 2017, Kyoto, September 16th-21st, 2017.
15. Tokushige S, Matsuda S, Oyama G, Shimo Y, Umemura A, Sekimoto S, Sasaki T, Inomata-Terada S, Yugeta A, Hamada M, Ugawa Y, Hattori N, Tsuji S, Terao Y: The Effect of Deep Brain Stimulation on Visual Scanning of Parkinson's Disease Patients. The XXIII World Congress of Neurology 2017, Kyoto, September 16th-21st, 2017.
16. Ichikawa Y, Miyazaki T, Shibuya H, Nagai K, Tanaka M, Uchibori A, Ishiura H, Mitsui J, Tsuji S, Chiba A: A Japanese consanguineous family with early-onset dementia. The XXIII World Congress of Neurology 2017, Kyoto, September 16th-21st, 2017.
17. Okano H, Nakajima M, Chiba A, Shiokawa Y, Hirano T: Eosinophilia observed among stroke patients: three case series. The XXIII World Congress of Neurology 2017, Kyoto, September 16th-21st, 2017.
18. Koh K, Ishiura H, Ichikawa Y, Matsukawa T, Goto J, Mitsui J, Takahashi Y, Kawabe M, Matsukawa M, Doi K, Yoshimura J, Namekawa M, Morishita S, Ogawa T, Sunada Y, Kurisaki H, Hasegawa K, Tsuji S, Takiyama Y: Clinical characteristics and detailed haplotype analysis of patients with SCA36 in Japan. The XXIII World Congress of Neurology 2017, Kyoto, September 16th-21st, 2017.
19. Matsukawa M, Ishiura H, Ichikawa Y, Higashihara M, Sakiyama Y, Otsuka M, Ueki A, Kaida K, Tanaka M, Takahashi Y, Mitsui J, Matsukawa T, Hanajima R, Hayashi T, Terao Y, Inomata-Terada S, Hamada M, Shirota Y, Kubota A, Tsuji S: Genetic anticipation and clinical features of 32 patients with Benign Adult Familial Myoclonic Epilepsy (BAFME). The XXIII World Congress of Neurology 2017, Kyoto, September 16th-21st, 2017.
20. Ishiura H, Matsukawa M, Tanaka M, Higashihara M, Ichikawa Y, Takahashi Y, Abe K, Sakiyama Y, Otsuka M, Ueki A, Kaida K, Mitsui J, Suzuki Y, Sugano S, Shinichi M, Goto J, Tsuji S: Linkage and haplotype analyses of families with benign adult familial myoclonic epilepsy. The XXIII World Congress of Neurology 2017, Kyoto, September 16th-21st, 2017.
21. Terao Y, Fukuda H, Tokushige S, Inomata-Terada S, Hamada M, Ugawa Y: Oculomotor task repetition reveals differential short-term modulation of saccade performance in neurological disorders. The XXIII World Congress of Neurology 2017, Kyoto, September

16th-21st, 2017.

22. Inomata-Terada S, Tokushige S, Matsuda S, Yugeta A, Hamada M, Ugawa Y, Tsuji S, Terao Y: Saccadic eye movements in hereditary spinocerebellar degeneration—horizontal and vertical saccades. The XXIII World Congress of Neurology 2017, Kyoto, September 16th-21st, 2017.
23. 千葉厚郎, 内堀歩, 行田敦子: Ca^{2+} 依存性抗GQ1b抗体の抗原認識機序: 新たな Ca^{2+} イオン/糖脂質相互作用検出系の作製とそれによる検討. 第29回日本神経免疫学会学術集会, 札幌, 2017年10月6-7日.
24. 茂呂直紀, 内堀歩, 中島昌典, 大石知瑞子, 千葉厚郎: 抗CV2/CRMP5抗体陽性傍腫瘍性神経症候群の臨床像の検討. 第29回日本神経免疫学会学術集会, 札幌, 2017年10月6-7日.
25. 上月直樹, 内堀歩, 伊藤洋人, 畑中祐己, 千葉厚郎: 再発性Guillain-Barré症候群5例の検討. 第29回日本神経免疫学会学術集会, 札幌, 2017年10月6-7日.
26. 白鳥嵩之, 内堀歩, 綾野水樹, 中島昌典, 大石知瑞子, 市川弥生子, 千葉厚郎: 抗GT1a/GD1a複合体抗体が単独陽性であった純粋運動型Guillain-Barré症候群の1例. 第29回日本神経免疫学会学術集会, 札幌, 2017年10月6-7日.
27. 千葉厚郎: 1症例から始める新規自己抗体の探索. 産業医科大学神経内科学大学院講義, 北九州, 2017年10月20日.
28. 星野恭子, 福田秀樹, 杉山雄亮, 長尾ゆり, 木村一恵, 林雅晴, 徳重真一, 寺尾安生: トウレット症における衝動性眼球運動検査と臨床症状の相関について. 第11回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres, 東京, 2017年10月26-28日.
29. 丸岡響, 岡野晴子, 鈴木理恵子, 本田有子, 天野達雄, 鳥居正剛, 河野浩之, 海野佳子, 平野照之: 抗リン脂質抗体症候群が原疾患の脳梗塞で, 頭蓋内主幹動脈の限局性狭窄を認めた52歳男性. 第66回三鷹ニューロ, 三鷹, 2017年11月9日.
30. Oishi C, Hatanaka Y, Tsukamoto H, Chiba A, Sonoo M: Utility of Somatosensory Evoked Potential (SEPs) for the Diagnosis of Sensory CIDP. 6th Asian-Oceanian Congress of Clinical Neurophysiology (6th AOCCN), India, November 9th-12th, 2017.
31. Konoeda F, Sonoo M, Oishi C, Suzuki N: Clinical and electrophysiological features of true neurogenic thoracic outlet syndrome. 6th Asian-Oceanian Congress of Clinical Neurophysiology (6th AOCCN), India, November 9th-12th, 2017.
32. 中島昌典, 茂呂直紀, 白鳥嵩之, 上月直樹, 綾野水樹, 市川弥生子, 山岸夢希, 豊田研隆, 齊藤邦昭, 塩川芳昭, 長濱清隆, 柴原純二, 高橋孝幸, 池谷紀子, 要伸也, 千葉厚郎: 慢性髄膜炎に伴う再発性脳梗塞を呈した中枢神経系血管炎の一例. 第22回日本血管病理研究会, 東京, 2017年11月11日.
33. Matsukawa M, Ishiura H, Ichikawa Y, Higashihara M, Sakiyama Y, Otsuka M, Ueki A, Kaida K, Tanaka M, Takahashi Y, Mitsui J, Matsukawa T, Hanajima R, Hayashi T, Terao Y, Terada S, Hamada M, Shirota Y, Kubota A, Tsuji S: Genetic anticipation of 32 patients with benign adult familial myoclonic epilepsy (BAFME). 日本人類遺伝学会第62回大会, 神戸, 2017年11月16日.
34. 丸岡響, 岡野晴子, 鈴木理恵子, 本田有子, 天野達雄, 鳥居正剛, 河野浩之, 海野佳子, 平野照之: 抗リン脂質抗体症候群が原疾患の脳梗塞で, 頭蓋内主幹動脈の限局性狭窄を認めた52歳男性. 第46回杏林医学会, 三鷹, 2017年11月18日.
35. 平山健次, 和田晴香, 森田喜久子, 澁谷裕彦, 永井健太郎, 徳重真一, 内堀歩, 市川弥生子, 千葉厚郎: 経静脈的免疫グロブリン療法が奏功したオプソクロモス・ミオクロモス症候群の1例. 第46回杏林医学会, 三鷹, 2017年11月18日.
36. 大石知瑞子, 市川弥生子, 千葉厚郎, 園生雅弘: 足根管症候群の診断における電気生理学的検査の有用性について. 第47回日本臨床神経生理学会学術大会, 横浜, 2017年11月29日-12月1日.
37. 大石知瑞子: 筋電図・神経伝導検査とPhase cancellation. 第47回日本臨床神経生理学会学術大会, 横浜, 2017年11月29日-12月1日.
38. 徳重真一, 松田俊一, 他田正義, 矢部一郎, 武田篤, 田中洋康, 畠中めぐみ, 榎本博之, 小林俊輔, 清水和敬, 清水崇宏, 花島律子, 辻省次, 宇川義一, 寺尾安生: 脊髄小脳変性症の病型ごとの時間的統合能力. 第47回日本臨床神経生理学会学術大会, 横浜, 2017年11月29日-12月1日.
39. 永井健太郎, 徳重真一, 大石知瑞子, 上月直樹, 澁谷裕彦, 畑中祐己, 市川弥生子, 園生雅弘, 千葉厚郎: 電気生理学的検査で病変局在し得た末梢中枢神経合併障害を呈した一例. 第47回日本臨床神経生理学会学術大会, 2017年11月29日-12月1日.
40. 宮地洋輔, 大石知瑞子, 溝井令一, 田中章景, 園生雅弘: 手根管症候群の神経伝導検査は「感覚優位の障害」ではない: 適正な重症度分類の提唱. 第47回日本臨床神経生理学会学術大会, 横浜, 2017年11月29日-12月1日.
41. 宮地洋輔, 大石知瑞子, 溝井令一, 田中章景, 園生雅弘: 手根管症候群の神経伝導検査は「感覚神経優位の障害」ではない: 正中神経分枝ごとの障害されやすさについて. 第47回日本臨床神経生理学会学術大会, 横浜, 2017年11月29日-12月1日.
42. 寺田さとみ, 徳重真一, 松田俊一, 弓削田晃弘, 濱田雅, 宇川義一, 寺尾安生: 脊髄小脳変性症における眼球運動一臨床症状との対応. 第47回日本臨床神経生理学会学術大会, 横浜, 2017年11月29日-12月1日.
43. 澁谷裕彦, 永井健太郎, 徳重真一, 宮崎泰, 市川弥生子, 千葉厚郎: 腹膜炎および反復する髄膜炎を来した37歳女性例. 第223回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 2017年12月2日.
44. 丸岡響, 岡野晴子, 鈴木理恵子, 本田有子, 天野達雄, 鳥居正剛, 河野浩之, 海野佳子, 平野照之: 抗リン脂質抗体症候群を原疾患とする脳梗塞で, 頭蓋内主幹動脈の限局性狭窄を認めた52歳男性例. 第223回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 2017年12月2日.
45. 宇川義一, 寺田さとみ, 徳重真一, 松田俊一, 濱田雅, 寺尾安生: 眼球運動を用いた小脳症状のバイオマーカーの確立. 運動失調症の分子病態解明・治療法開発に関する研究班 班会議, 東京, 2018年1月12-13日.
46. 千葉厚郎, 内堀歩, 行田敦子. Ca^{2+} 依存性GQ1b抗体の Ca^{2+} 依存性機序に関する基礎的検討. 厚生労働省難治性疾患(神経免疫疾患)政策および実用化研究班 平成29年度合同班会議, 東京, 2018年1月18-19日.
47. 寺尾安生, 徳重真一: 同期タッピング課題と時間的統合. こころの時間学領域会議, 宜野湾, 2018年1月29-30日.
48. 徳重真一, 千葉厚郎: 胸上げの後で持続する頭痛を来した64歳男性例. 第67回三鷹ニューロ, 三鷹, 2018年2月8日.
49. 大石知瑞子, 神林隆道, 山田和明, 時村文秋, 花北順哉, 千葉厚郎, 園生雅弘: 感覚障害を欠くが, 下肢体性感覚誘発電位(SEP)から腰部に局在診断できた腰部脊柱管狭窄症例. 第39回脊髄機能診断研究会, 東京, 2018年2月10日.

50. 此枝史恵, 大石知瑞子, 松野博優, 山本真一, 時村文秋, 鈴木則宏, 園生雅弘: 真の神経性胸郭出口症候群15例の臨床的・電気生理学的特徴. 第39回脊髄機能診断研究会, 東京, 2018年2月10日.
51. 千葉厚郎: 1症例から始める新規自己抗体の探索. 第18回兵庫県神経免疫研究会, 神戸, 2018年3月2日.
52. 茂呂直紀, 中島昌典, 綾野水樹, 山岸夢希, 齊藤邦昭, 長濱清隆, 市川弥生子, 千葉厚郎: 再発性脳梗塞と慢性髄膜炎をきたし, 中枢神経血管炎と診断した53歳女性例. 第224回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 2018年3月3日.
53. 村尾昌美, 野崎和博, 徳重真一, 松本由美, 渡邊衡一郎: うつ病の診断で入院加療中に筋萎縮性側索硬化症と判明した1例. 第112回東京精神医学会学術集会, 東京, 2018年3月3日.
54. 千葉厚郎: 1症例から始める新規自己抗体の探索. 第3回城南神経疾患フォーラム, 東京, 2018年3月8日.
55. 岡野晴子, 天野達雄, 河野浩之, 鈴木理恵子, 海野佳子, 本田有子, 鳥居正剛, 塩川芳昭, 千葉厚郎, 平野照之: 抗リン脂質抗体症候群における脳卒中の検討. 第43回日本脳卒中学会総会, 福岡, 2018年3月15-18日.
56. 中島昌典, 岡野晴子, 鳥居正剛, 河野浩之, 天野達雄, 鈴木理恵子, 海野佳子, 千葉厚郎, 塩川芳昭, 平野照之: 脳アミロイドアンギオパチーの潜在的脳卒中における鑑別診断の必要性について. 第43回日本脳卒中学会学術集会, 福岡, 2018年3月15-18日.
57. 綾野水樹, 蛭沢志織, 大辻恵, 露木菜緒, 小松由佳, 小河百合子, 河野浩之, 塩川芳昭, 千葉厚郎, 平野照之: 他疾患のため入院中の患者に発症した虚血性脳卒中の特徴. 第43回日本脳卒中学会学術集会, 福岡, 2018年3月15-18日.
58. 大石知瑞子, 園生雅弘, 千葉厚郎: 突然発症の下垂手を繰り返し脳梗塞との鑑別を要した症例. 第43回日本脳卒中学会学術集会, 福岡, 2018年3月15-18日.
59. 中島昌典: Primary-progressive multiple sclerosisに対してfingolimodを導入した30歳代男性例. MSクリニカルカンファレンス, 三鷹, 2018年3月19日.

論文

1. Yamagishi Y, Suzuki H, Sonoo M, Kuwabara S, Yokota T, Nomura K, Chiba A, Kaji R, Kanda T, Kaida K, Ikeda SI, Mutoh T, Yamasaki R, Takashima H, Matsui M, Nishiyama K, Sobue G, Kusunoki S: Markers for Guillain-Barré syndrome with poor prognosis: a multi-center study. *J Peripher Nerv Syst* 22: 433-439, 2017.
2. Terao Y, Fukuda H, Tokushige S, Inomata-Terada S, Ugawa Y: How saccade intrusions affect subsequent motor and oculomotor actions. *Front. Neurosci. - Systems Biology* 10: e608, 2017.
3. 内堀歩, 行田敦子, 千葉厚郎: GQ1b-seronegative Fisher症候群におけるCa²⁺依存性GQ1b抗体. 末梢神経 28:52-59, 2017.
4. Nakajima M, Uchibori A, Ogawa Y, Miyazaki T, Ichikawa Y, Kaneko K, Takahashi T, Nakashima I, Shiraishi H, Motomura M, Chiba A: A Case of CV2/CRMP5-antibody-related Paraneoplastic Optic Neuropathy Associated with Small-cell Lung Cancer. *Intern Med*. 2018. doi: 10.2169/internalmedicine.9736-17.
5. Terao Y, Fukuda H, Sugiyama Y, Inomata-Terada S, Tokushige S-I, Hamada M, Ugawa Y: Recording horizontal saccade performances accurately in neurological patients using electro-oculogram. *J Vis Exp* (133): e56934, 2018. doi: 10.3791/56934.
6. Sasaki T, Kodama S, Togashi N, Shiota Y, Sugiyama Y, Tokushige SI, Inomata-Terada S, Terao Y, Ugawa Y, Hamada M: The intensity of continuous theta burst stimulation, but not the waveform used to elicit motor evoked potentials, influences its outcome in the human motor cortex. *Brain Stimul*. 11(2): 400-410, 2018. doi: 10.1016/j.brs.2017.12.003
7. Mitsutake A, Matsukawa T, Ishiura H, Miitsui J, Taira K, Tokushige S, Iwata A, Terao Y, Shimizu J, Sakai N, Tsuji S: A case of late-onset Krabbe disease which showed subacute progression of spastic paresis with bilateral spinal cord lesions. *Neurology and Clinical Neuroscience* 2018. doi.org/10.1111/ncn3.12188.
8. 千葉厚郎: 学会印象記, 2017 PNS Annual Meeting-Peripheral Nerve Society Annual Meeting. *Brain and Nerve* 70:82-84, 2018.
9. 大石知瑞子: 学会印象記 AANME 2017 Annual Meeting-American Association of Neuromuscular and Electrodiagnostic Medicine 64th Annual Meeting (2017年9月13-16日, フェニックス). *Brain and Nerve* 70: 259-261, 2018.

著書

1. 徳重真一(分担執筆): タッピング検査でできること. 運動失調のみかた, 考えかた—小脳と脊髄小脳変性症—. 宇川義一編集. 東京, 中外医学社, 2017. p.163-170.
2. 千葉厚郎: 多巣性運動ニューロパチー. 今日の治療指針 2018. 福井次矢, 高木誠, 小室一誠総編集. 東京, 医学書院, 2018. p.958-959.

報告書

1. 宇川義一, 寺田さとみ, 徳重真一, 松田俊一, 濱田雅, 寺尾安生: 眼球運動を用いた小脳症状のバイオマーカーの確立. 運動失調症の分子病態解明・治療法開発に関する研究班 班会議 報告書.

第二内科学教室 (循環器内科)

講演

1. 副島京子: Lectures on Micra implantation. MICRA implantation tutor, 神戸, 2017年4月22日.
2. 副島京子: 心房細動治療. 多施設大規模研究RYOUMA 東京, 2017年4月24日.
3. 坂田好美: 肺高血圧症と右心機能評価. 66回可茂循環器セミナー, 岐阜, 2017年4月26日.
4. Taniai S, Ito J, Yamasaki S, Takeuchi S, Satoh T, Yorozu T, Yoshino H: Usefulness of patient screening system based on physical activity and myocardial perfusion SPECT for non-cardiac surgery candidates. International Conference on Nuclear Cardiology and Cardiac CT 2017, Austria, May 6th, 2017.
5. 伊波巧: CTEPHの現状. 第50回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会, 東京, 2017年5月6日.
6. 副島京子: cardiac sarcoidosis: Sudden death associated with Rare disease. APHRS-HRS joint session, USA, 2017年5月12日.
7. 富士圭, 金剛寺謙, 田島幸佳, 若林典弘, 金谷允博, 仁科善雄, 重田洋平, 樋口聡, 柳澤亮爾, 吉野秀朗: 左内胸動脈—前下行枝バイパス術後の内胸動脈の屈曲により不安定狭心症を発症した1例. 第46回多摩地区虚血性心疾患研究会, 東京, 2017年5月13日.
8. 副島京子: 不整脈治療の最前線. 渋川市医師会講演会,

渋川, 2017年5月17日.

9. 副島京子: VT治療と管理. 山梨不整脈セミナー, 甲府, 2017年5月19日.
10. 副島京子: 周術期の抗凝固療法. 周術期ティーム医療, 多摩, 2017年5月26日.
11. 金剛寺謙, 仁科善雄, 重田洋平, 樋口聡, 高昌秀安, 吉野秀朗, 大浦紀彦: Balloon angioplasty 2か月後に急性閉塞を来した重症下肢虚血の1例. 第9回日本下肢救済学・足病学会, 福岡, 2017年5月26日.
12. 坂田好美: iで進化した3次元Tracking: RV評価の進化とともに!. 第90回日本超音波医学会学術集会, 宇都宮, 2017年5月27日.
13. 佐藤徹: 肺動脈性肺高血圧症治療における安静療法の効果. 第18回肺高血圧治療談話会, 札幌, 2017年6月2日.
14. 菊池華子, 木村郷, 伊波巧, 合田あゆみ, 片岡雅晴, 吉野秀朗, 佐藤徹: 肺高血圧症に対するSorafenibの有効性と安全性の検討. 第2回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会, 札幌, 2017年6月2日.
15. 伊波巧, 片岡雅晴, 柳澤亮爾, 重田洋平, 菊池華子, 竹内かおり, 合田あゆみ, 佐藤徹, 吉野秀朗: 慢性血栓塞栓性肺高血圧症の治療戦略～経皮的肺動脈形成術の可能性. 第2回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会, 札幌, 2017年6月2日.
16. 伊波巧, 片岡雅晴, 重田洋平, 竹内かおり, 菊池華子, 合田あゆみ, 吉野秀朗, 佐藤徹: 経皮的肺動脈形成術後の選択的肺血管拡張剤の効果. 第2回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会, 札幌, 2017年6月2日.
17. 伊波巧, 片岡雅晴, 竹内かおり, 菊池華子, 重田洋平, 吉野秀朗, 佐藤徹: 慢性肺血栓塞栓症に対する経皮的肺動脈形成術の効果. 第2回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会, 札幌, 2016年6月2日.
18. 伊波巧: 肺高血圧症の最新治療—慢性血栓塞栓性肺高血圧症を中心に—. 第2回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会, 札幌, 2017年6月2日.
19. 副島京子: VTアブレーションのコツ. 次世代不整脈セミナー, 鹿児島, 2017年6月3日.
20. 福島啓太, 小柳正道, 荻安俊哉, 勝目有美, 伊波巧, 宮崎功, 中西章仁, 佐藤徹, 吉野秀朗, 横山健一, 壺井美香: CTEPHに対するCTラングサブトラクションの低ノイズ撮像条件検討. 第2回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会, 札幌, 2017年6月3日.
21. 竹内かおり, 合田あゆみ, 伊波巧, 吉野秀朗, 佐藤徹: エポプロステノール持続注射療法からの離脱判定法. 第2回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会, 札幌, 2017年6月3日.
22. Higuchi S: An Indication for Thrombus Aspiration According to EBM/Guideline; Routine Use should be Avoided. The 26th Annual Meeting of the Japanese Association of Cardiovascular Intervention and Therapeutics, Kyoto, July 6th-8th, 2017.
23. 谷合誠一: 杏林大学における脂質管理の現状と対策について. 循環器Optimal Medical Therapy講演会～脂質異常症における病診連携～, 東京, 2017年6月7日.
24. Inami T, Kataoka M, Yanagisawa R, Takeuchi K, Shigeta H, Kikuchi H, Goda A, Yoshino H, Satoh T: Efficacy of percutaneous transluminal pulmonary angioplasty for chronic thromboembolic disease without pulmonary hypertension. International CTEPH Conference 2017, Belgium, June 9th-10th, 2017.
25. Inami T, Kataoka M, Yanagisawa R, Takeuchi K, Shigeta H, Kikuchi H, Goda A, Yoshino H, Satoh T: Efficacy of percutaneous transluminal pulmonary angioplasty for long-term in chronic thromboembolic pulmonary hypertension. International CTEPH Conference 2017, Belgium, June 9th-10th, 2017.
26. Yanagisawa R, Inami T, Kataoka M, Yanagisawa R, Takeuchi K, Shigeta H, Kikuchi H, Goda A, Yoshino H, Satoh T: Efficacy of pulmonary hypertension-targeted drugs for chronic thromboembolic pulmonary hypertension after percutaneous transluminal pulmonary angioplasty. International CTEPH Conference 2017, Belgium, June 9th-10th, 2017.
27. 副島京子: リードレスペースメーカー: 新たな徐脈治療の幕開け. 日本循環器学会関東甲信越地方会, 東京, 2017年6月10日.
28. 副島京子: 最新循環器治. 中央区循環器フォーラム, 東京, 2017年6月14日.
29. 副島京子: 不整脈治療の進歩. 秋桜会, 秋田, 2017年6月17日.
30. 副島京子: 心房細動の治療. 相模大野不整脈, 相模原, 2017年6月20日.
31. 富樫郁子: 静脈形成術を必要とした両心室ペーシング. Tokyo Heart Rhythm Academy for Next Leaders, 立川, 2017年6月20日.
32. 坂田好美: 心血管疾患と心エコー検査. バイエル研究会, 東京, 2017年6月22日.
33. 副島京子: リードレスペースメーカー. 山形不整脈セミナー, 山形, 2017年6月23日.
34. 副島京子: リードレスペースメーカー: 新たな徐脈治療. 日本循環器学会九州地方会, 福岡, 2017年6月24日.
35. 佐藤徹: 肺動脈性肺高血圧症の最新治療戦略. ウプトラビ発売記念講演会, 東京, 2017年6月24日.
36. 金剛寺謙: Global Vascular Intervention 全身の血管病変に対する治療戦略～厳格な血圧管理を含めて～. 調布市医師会学術集会, 東京, 2017年6月30日.
37. 金谷允博, 金剛寺謙, 三浦陽平, 仁科善雄, 重田洋平, 山岸民治, 樋口聡, 石黒晴久, 高昌秀安, 吉野秀朗: 冠動脈バイパス末梢で急性冠症候群を来し, カテーテルインターベンションにて再灌流に成功した1例. 急性心筋梗塞研究会, 東京, 2017年7月1日.
38. Kongoji K, Mitarai T, Kasahara M, Yamazaki H, Ishibashi Y, Koyama K, Akashi Y-J, Yoshino H: Minimally Invasive Percutaneous Transluminal Renal Artery Stenting. CVIT 2017, Kyoto, July 6th, 2017.
39. 松下紀子, 勝目有美, 竹内真介, 長岡身佳, 百瀬裕一, 米田道嗣, 星田京子, 三輪陽介, 富樫郁子, 上田明子, 佐藤俊明, 吉野秀朗, 副島京子: 重症肺高血圧症例におけるアブレーション術中の麻酔管理. 第29回カテーテルアブレーション委員会公開研究会, 札幌, 2017年7月6-8日.
40. 吉岡卓, 伊波巧, 竹内かおり, 菊池華子, 合田あゆみ, 坂田好美, 佐藤徹, 吉野秀朗: メサラジンによる薬剤性心膜胸膜炎の一例. 第634回日本内科学会関東地方会, 東京, 2017年7月9日.
41. 谷合誠一: 当院における経皮吸収型 β 1遮断薬の使用経験. 第5回八王子心不全談話会, 東京, 2017年07月12日.
42. 上田明子: フレイルを踏まえた高齢者トータルケア. リクシアナWeb座談会「アブレーション時代の高齢者不整脈トータルケアを考える」, 東京, 2017年7月12日.
43. 三輪陽介: 心房細動に対する抗不整脈薬の使い方・使い分け. 第6回井の頭ファーマ会, 東京, 2017年7月13日.
44. 伊波巧: CTEPHに対するEVT—経皮的肺動脈形成術の

- 可能性. TOPIC 2017, 東京, 2017年7月20日.
45. 佐藤徹: 肺動脈性肺高血圧症の最近の治療. 第9回青森肺高血圧症研究会, 青森, 2017年7月22日.
 46. 金剛寺謙: インターベンション医のためのトレーニングコース (Polyvascular disease). TOPIC 2017, 東京, 2017年7月22日.
 47. 副島京子: 心外膜アブレーション. EP summer Seminar 日本不整脈心電学会, 東京, 2017年7月23日.
 48. 伊藤準之助, 谷合誠一: 糖尿病性腎症から透析導入となったHFpEFの一例. 第3回多摩三科懇話会, 東京, 2017年8月1日.
 49. 坂田好美: 糖尿病における心不全. フォシーガ研究会, 東京, 2017年8月2日.
 50. 佐藤徹: PAH治療の現状—最近の治療の進歩. 肺動脈性肺高血圧症学術講演会in福岡, 福岡, 2018年8月4日.
 51. 副島京子: Lectures on Micra implantation. Micra implantation tutor, 大阪, 2017年8月6日.
 52. 坂田好美: ω 3系脂肪酸と心疾患. 武田薬品研究会, 東京, 2017年8月16日.
 53. 副島京子: 心房細動治療. Arrhythmia Seminar in Asahikawa, 旭川, 2017年8月18日.
 54. 副島京子: リードレスペースメーカー. 長野心臓ペースティング研究会, 松本, 2017年8月19日.
 55. 副島京子: 心房細動治療のupdate. 八事循環器疾患フォーラム, 名古屋, 2017年8月26日.
 56. Inami T, Kataoka M, Yanagisawa R, Takeuchi K, Shigeta H, Kikuchi H, Goda A, Yoshino H, Satoh T: Efficacy of percutaneous transluminal pulmonary angioplasty for chronic thromboembolic disease without pulmonary hypertension. ESC 2017, Spain, August 26th-30th, 2017.
 57. Inami T, Nishina Y, Shigeta Y, Kataoka M, Yoshioka S, Takeuchi K, Kikuchi H, Goda A, Yoshino H, Satoh T: Efficacy of percutaneous transluminal pulmonary angioplasty for long-term in chronic thromboembolic pulmonary hypertension. ESC 2017, Spain, August 26th-30th, 2017.
 58. Inami T, Yoshioka S, Kataoka M, Nishina Y, Takeuchi K, Shigeta H, Kikuchi H, Goda A, Yoshino H, Satoh T: Efficacy of pulmonary hypertension-targeted drugs for chronic thromboembolic pulmonary hypertension after percutaneous transluminal pulmonary angioplasty. ESC 2017, Spain, August 26th-30th, 2017.
 59. Higuchi S, Suzuki M, Horiuchi Y, Tanaka H, Miyauchi K, Yamasaki M, Yoshikawa M, Yamashita J, Iwata H, Kishi M, Saji M, Yoshino H, Yamamoto T, Nagao K, Takayama M: How should we comprehend and treat the patients with type2 myocardial infarction?: insight from Tokyo CCU Network Registry. ESC Congress 2017, Spain, 26th-30th 2017.
 60. 谷合誠一: 術前循環器疾患スクリーニング～直前のトラブルを避けるため. ～はじめよう! 周術期管理センター～杏林大学附属病院の取り組み～, 東京, 2017年8月27日.
 61. 伊波巧: 慢性血栓塞栓性肺高血圧症の治療戦略—経皮的肺動脈形成術の可能性. 多摩慢性肺血栓塞栓症を考える会, 東京, 2017年9月8日.
 62. Togashi I, Sato T, Ueda A, Miwa Y, Hoshida K, Matsushita N, Komeda M, Momose Y, Nagaoka M, Takeuchi S, Katsume Y, Yoshino H, Soejima K: Slew Rate of Ventricular Potential as a Predictor of Lower Pacing Threshold after Active Lead Fixation. 第64回日本不整脈心電学会学術大会, 横浜, 2017年9月14-17日.
 63. Matsushita N, Takeuchi S, Nagaoka M, Momose Y, Komeda M, Hoshida K, Miwa Y, Togashi I, Ueda A, Sato T, Yoshino H, Soejima K: Repeat Cardiac MRI to Tailor Therapy in Patients with Initial Presentation with Complete Atrioventricular Block: Usefulness of MRI Conditional Device. The Joint Meeting of the 10th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session (APHRs 2017) and the 64th Annual Meeting of the Japanese Heart Rhythm Society (JHRS2017). Yokohama, September 14th-17th, 2017.
 64. 副島京子: How to reduce the radiation exposure during EP. APHRs allied profession lecture, 横浜, 2017年9月15日.
 65. 副島京子: Leadless pacemaker. luncheon seminar APHRs, 横浜, 2017年9月15日.
 66. 坂田好美: 心エコーを活用した2次性心筋症の早期診断・早期治療について. 心臓疾患をともに考える会, 東京, 2017年9月15日.
 67. Ueda A: Outflow VPC ablation. APHRs2017 Symposium48 Ablation and Surgery of outflow Tract VT/VPC. Yokohama, September 15th, 2017.
 68. 副島京子: Role of amiodarone for heart failure management. luncheon seminar APHRs, 横浜, 2017年9月16日.
 69. 合田あゆみ, 横山さち, 竹内かおり, 菊池華子, 伊波巧, 吉野秀朗, 佐藤徹: 肺高血圧症に対する運動療法の現状—当院における重症度に応じた介入. 第2回心臓リハビリテーション地方会関東支部, 松本, 2017年9月16日.
 70. 佐藤徹: BPA for treatment of CTEPH and latest data of PAH registry in Japan. 2017 Annual Meeting of Taiwan PH Association, Taiwan, 2017年9月17-23日.
 71. 副島京子: 心房細動の治療とコツ. Web seminar, 東京, 2017年9月22日.
 72. 副島京子: 心房細動の治療とコツ, 横浜市西部地区 NWM2017, 横浜, 2017年9月22日.
 73. 副島京子: 心房細動の治療. 大分市民公開講座, 大分, 2017年9月24日.
 74. 合田あゆみ, 竹内かおり, 菊池華子, 伊波巧, 吉野秀朗, 佐藤徹: 肺高血圧症に対する運動療法の現状—当院における重症度に応じた介入. 第65回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 2017年9月29日-10月1日.
 75. 坂田好美, 伊藤準之助, 古谷充史, 南島俊徳, 井坂葵, 松下健一, 佐藤徹, 吉野秀朗: 三次元スペクトルトラッキング心エコーを用いた肺高血圧症の右房機能評価. 第65回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 2017年9月30日.
 76. 伊藤準之助, 谷合誠一, 山崎聡子, 佐藤徹, 吉野秀朗: 非心臓手術の周術期における心合併症の検討・不整脈に関する検討. 第65回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 2017年9月30日.
 77. 伊波巧: 当院における静脈血栓症の診断と治療. 三鷹市医師会循環器研究会, 東京, 2017年10月4日.
 78. 金剛寺謙: Global Vascular Intervention 全身の血管病変に対する治療戦略. 三鷹市医師会循環器研究会, 東京, 2017年10月4日.
 79. 樋口聡: 虚血性心疾患における継往開来～診断からインターベンション, 慢性期降圧管理まで～. 大日本住友製薬講演会, 渋川, 2017年10月5日.
 80. 佐藤徹: 肺動脈性肺高血圧症の最近の治療. 浜松肺高血圧症セミナー, 浜松, 2017年10月10日.

81. 副島京子：不整脈の最新治療．東葛抗凝固カンファレンス，松戸，2017年10月11日．
82. 合田あゆみ，竹内かおり，菊池華子，伊波巧，吉野秀朗，佐藤徹：Exercise-induced pulmonary arterial wedge pressure elevation in subjects who had SOB unknown reason. 第21回心不全学会学術集会，秋田，2017年10月12-14日．
83. 菊池華子，合田あゆみ，竹内かおり，伊波巧，吉野秀朗，佐藤徹：Clinical Background in patients with Pulmonary Hypertension due to left heart disease. 第21回心不全学会学術集会，秋田，2017年10月12-14日．
84. 新名良広，樋口聡，三浦佑介，吉岡卓，田島幸佳，福士圭，若林典弘，仁科善雄，重田洋平，柳澤亮爾，伊波巧，金剛寺謙，坂田好美，吉野秀朗：狭心症を発症した特発性血小板減少性紫斑病患者にDAPTを導入したが出血イベントを起こさず良好な経過を辿った一例．第51回CVIT関東甲信越地方会，東京，2017年10月14日．
85. 若林典弘，樋口聡，吉岡卓，新名良広，福士圭，田島幸佳，仁科善雄，重田洋平，柳澤亮爾，伊波巧，金剛寺謙，坂田好美，吉野秀朗：造影剤を使用しないPCIにより急性腎障害を回避した慢性腎臓病stage4の一例．第51回CVIT関東甲信越地方会，東京，2017年10月14日．
86. 富樫郁子：リードレスペースメーカー・遠隔モニタリングについて．不整脈治療UptoDate，三鷹，2017年10月16日．
87. 副島京子：心房細動の治療とコツ．Anticoagulation Forum，立川，2017年10月18日．
88. 坂田好美：実臨床における頸動脈エコー．第288回多摩エコー研究会，東京，2017年10月19日．
89. 副島京子：リードレスペースメーカー．innovation technology conference，大阪，2017年10月20日．
90. 仁科善雄，金剛寺謙，田島幸佳，福士圭，重田洋平，樋口聡，柳澤亮爾，吉野秀朗：CROSSERが断裂し断端の回収に難渋した1例．第47回多摩地区虚血性心疾患研究会，東京，2017年10月21日．
91. 三輪陽介：VT/PVC(特発性，流出路起源，基質心疾患)．平成29年度不整脈治療関連指定講習会・応用編，東京，2017年10月22日．
92. Ueda A: Ventricular Tachycardias. Featured Symposium. Value of Standard ECG in Assessing the Mechanisms and Site of Origin of Cardiac Arrhythmias. Venice Arrhythmia 2017, Italy, October 25th-28th, 2017.
93. 坂田好美：エコーを用いた肺高血圧症の早期診断と治療効果判定．港・中央肺高血圧症講演会，東京，2017年10月26日．
94. 副島京子：Initial experience of leadless pacemaker in Japan. APHRS-VA joint session Venice Arrhythmia 2017, Italy, 2017年10月26日．
95. 副島京子：VT ablation in Ischemic CM. interactive session discussant Venice Arrhythmia 2017, Italy, 2017年10月26日．
96. Higuchi S: Percutaneous coronary intervention with small amounts of contrast medium improved not only the cardiac, but renal function in a patient with severe heart and renal failure. Complex Cardiovascular Therapeutics 2017, Kobe, October 26th-28th, 2017.
97. Fukushi K, Kongoji K, Tashima Y, Wakabayashi N, Nishina Y, Shigeta Y, Higuchi S, Yanagisawa R, Koyama K, Yoshino H, Oura N: A case of distal embolism cause by a wire broken piece due to the Crosser System. CCT2017, Kobe, October 26th, 2017.
98. 佐藤徹：肺動脈性肺高血圧症の最近の治療．第6回金沢杯高血圧症研究会，金沢，2017年10月27日．
99. 副島京子：リードレスペースメーカー：徐脈治療の新たな幕開け．城南Arrhythmia Forum，東京，2017年11月1日．
100. 谷合誠一，伊藤準之助，森山久美，萬知子，吉野秀朗：非心臓手術の周術期における循環器リスク評価：ACC/AHAガイドラインに沿った統一的スクリーニングの効果．日本臨床麻酔学会第37回大会，東京，2017年11月3日．
101. 上田明子：高齢者における抗凝固療法．新宿Circulation seminar2017，東京，2017年11月17日．
102. 佐藤徹：CTEPHの臨床-最近の治療の発展-．CTEPH Clinical Conference Tokyo, 2017, 東京，2017年11月25日．
103. Sakata K: Evaluation of Cardiac Function Using 3D Speckle Tracking Echocardiography. The 43rd Annual Scientific Meeting of the Korean Society of Echocardiography. JSK-KSE Joint Session, Korea, November 25th, 2017.
104. 伊波巧，片岡雅晴，柳澤亮爾，竹内かおり，菊池華子，合田あゆみ，吉野秀朗，佐藤徹：Efficacy of Percutaneous Transluminal Pulmonary Angioplasty for chronic thromboembolic disease without pulmonary hypertension. 第24回肺塞栓症研究会，東京，2017年11月25日．
105. 伊波巧，佐藤徹，竹内かおり，菊池華子，合田あゆみ，重田洋平，石黒晴久，佐藤徹：当院における急性肺塞栓症診療のまとめ．第23回肺塞栓症研究会，東京，2016年11月26日．
106. 副島京子：心房細動治療のコツ．抗血栓療法を考える会，府中，2017年11月29日．
107. 副島京子：リードレスペースメーカー．ペースメーカー治療研究会，東京，2017年12月2日．
108. 副島京子：循環器のすすめ．Meet the Expert 2017，三鷹，2017年12月6日．
109. 副島京子：リードレスペースメーカー．ペースメーカー治療最前線，博多，2017年12月8日．
110. 副島京子：脈は健康のバロメータ．杏林大学公開講座，三鷹，2017年12月9日．
111. 副島京子：致死性不整脈治療update．Expert Meeting in Tochigi，宇都宮，2017年12月13日．
112. 副島京子：noncompactionに合併するVT．奈良県不整脈臨床カンファレンス，奈良，2017年12月16日．
113. 上田明子：心室性不整脈アブレーションにおける3Dマッピングシステムの応用．AF FCE Meeting2017，東京，2017年12月16日．
114. 副島京子：リードレスペースメーカーMicra．新しいデバイスマネージメント研究会，福岡，2018年1月19日．
115. 副島京子：心房細動治療のコツ．長崎不整脈カンファレンス，長崎，2018年1月22日．
116. 上田明子：高齢者における抗凝固療法．循環器セミナー in Mitaka，三鷹，2018年1月23日．
117. 副島京子：無症候性心房細動のアブレーション．伊勢志摩アブレーションライブ，松阪，2018年1月27日．
118. 副島京子：アブレーション周術期の抗凝固療法．久留米winter expert meeting，久留米，2018年1月30日．
119. 富樫郁子，副島京子，前田明子，毛利崇人，竹内真介，長岡身佳，百瀬裕一，米田道嗣，松下紀子，星田京子，三輪陽介，上田明子，佐藤徹，吉野秀朗：リードレスペースメーカー(MicraTM, Medtronic)植込み後の長期成績．第10回植込みデバイス関連冬季大会，横浜，2018年2月10-12日．

120. 副島京子: リードレスペースメーカー植込みのコツ. 日本不整脈心電学会植込みデバイス関連冬季大会, 横浜, 2018年2月11日.
121. 副島京子: 抗不整脈薬. 旭川CCU症例検討会, 旭川, 2018年2月13日.
122. Taniai S, Ito J, Takeuchi S, Yorozu T, Hideaki Y: Evaluating the Patients before Non-cardiac Surgery According to Exercise Capacity of 4METs. The 34rd Congress of the PPSA-Japan Chapter, USA, February 17th, 2017.
123. 富樫郁子: 徐脈性不整脈に対するHis bundle pacing. 第5回Women in EP Japan, 東京, 2018年2月17日.
124. Takeuchi K, Inami T, Kataoka M, Shigeta H, Kikuchi H, Goda A, Yoshino H, Satoh T: Effectiveness of percutaneous transluminal pulmonary angioplasty for long-term in chronic thromboembolic pulmonary hypertension. World Symposium on Pulmonary Hypertension 2018, France, February 27th,- March 1st, 2018.
125. Inami T, Kataoka M, Takeuchi K, Shigeta H, Kikuchi H, Goda A, Yoshino H, Satoh T: Usefulness of percutaneous transluminal pulmonary angioplasty for chronic thromboembolic disease. World Symposium on Pulmonary Hypertension 2018, France, February 27th,- March 1st, 2018.
126. 副島京子: 心房細動治療のコツ. 東海地区ablation small conference, 名古屋, 2018年2月28日.
127. 副島京子: リードレスペースメーカーの現状. 九州トランスラディアル研究会, 長崎, 2018年3月3日.
128. 副島京子: 心房細動治療のコツ. 第三回奥州循環器医療連携の会, 奥州, 2018年3月7日.
129. 坂田好美: 心エコーを用いた肺高血圧症の早期診断と治療効果判定. 立川肺高血圧症講演会, 立川, 2018年3月8日.
130. 伊波巧: 当院におけるCTEPH治療戦略, 第3回岩手CTEPHフォーラム, 盛岡, 2018年3月8日.
131. 副島京子: Catheter ablation of substrate VTs: whats new in 2017. THRS Annual Conference in conjunction with TTS, Taiwan, 2018年3月10日.
132. 合田あゆみ: 安静時正常血行動態で運動時に左室拡張障害が疑われたMCTDの1例. 膠原病に伴う難治性病態を考える会, 東京, 2018年3月10日.
133. Ueda A: Catheter Ablation for Idiopathic Ventricular Arrhythmia, State-of-the Art in the Management of Ventricular Arrhythmias. 2018THRS Annual Conference in Conjunction with Tokyo-Taipei-Seul Arrhythmia Joint Conference, Taiwan, March 10th-11th, 2018.
134. Sakata K, Uesugi Y, Isaka A, Ito J, Minamishima T, Furuya M, Satoh T, Yoshino H: Evaluation of Global and Regional Right Ventricular Function Using Three Dimensional Speckle Tracking Echocardiography Specialized For Right Ventricle. ACC.18, The 67th Annual Scientific Session & Expo, USA, March 11th, 2018.
135. 副島京子: 心室頻拍治療の進歩と限界. Fukui Circulation Forum, 福井, 2018年3月16日.
136. 副島京子: 最新機器を使った器質的心疾患に合併する心室頻拍のアプローチ. 日本循環器学会, 大阪, 2018年3月23日.
137. Sakata K, Uesugi Y, Ito J, Isaka A, Furuya M, Minamishima T, Matsushita K, Satoh T, Yoshino H: Evaluation of Global and Regional Right Ventricular Function Using A Novel Three-Dimensional Speckle-Tracking Echocardiographic System. The 81th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society. Osaka. March 23rd, 2018.
138. Taniai S, Ito J, Takeuchi S, Yamasaki S, Yoshino H: Potential use of “4METs exercise capacity threshold” in evaluating non-cardiac surgery. 第82回日本循環器学会学術集会, 大阪, 2018年3月23日.
139. Goda A, Takeuchi K, Kikuchi H, Inami T, Satoh T, Yoshino H: Detection of Occult Left Ventricular Diastolic Dysfunction by Right Heart Catheterization with Exercise. 第82回日本循環器病学会学術集会, 大阪, 2018年3月23-25日.
140. Mohri T, Goda A, Takeuchi K, Kikuchi H, Inami T, Satoh T, Yoshino H: Characteristics of cardiopulmonary exercise testing in patients with combined post-capillary and pre-capillary pulmonary hypertension (Cpc-PH) due to left heart disease. 第82回日本循環器病学会学術集会, 大阪, 2018年3月23-25日.
141. Togashi I, Soejima K, Sato T, Ueda A, Miwa Y, Hoshida K, Matsushita N, Komeda M, Momose Y, Nagaoka M, Takeuchi S, Mori T, Yoshino H: The initial results of the implantations of leadless transcatheter pacing systems. 第82回日本循環器学会学術集会, 大阪, 2018年3月23-25日.
142. Ikeda T, Kinoshita T, Miwa Y, Yodogawa K, Yoshioka K, Nakamura K, Watanabe E, Nakagawa M, Nakamura K, Yusu S, Watanabe T, Samukawa M, Nakahara S, Mizumaki K: Risk Stratification Techniques for Prediction of Cardiac Mortality in Patients with Left Ventricular Dysfunction: First Report of the JANIES Study. The 82nd Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Osaka, March 23rd-25th, 2018.
143. 松下紀子, 毛利崇人, 勝目有美, 竹内真介, 長岡身佳, 百瀬裕一, 米田道嗣, 星田京子, 三輪陽介, 富樫郁子, 上田明子, 佐藤俊明, 足立正光, 野上昭彦, 中村啓二郎, 金子鎮二, 吉野秀朗, 副島京子: Stellate Ganglion Phototherapy as a Rescue Therapy for Refractory Ventricular Arrhythmias. 第82回日本循環器学会学術集会, 大阪, 2018年3月23-25日.
144. 副島京子: リードレスペースメーカーの現状. 日本循環器学会, 大阪, 2018年3月24日.
145. 副島京子: MPP: BioSelectPiolotに期待するもの. Biotronik Arrhythmia Forum, 岡山, 2018年3月30日.

論文

(和文)

1. 佐藤徹: 肺高血圧症—診断と治療の新展開—序論. 最新医学社72(8): 5-6, 2017.
2. 佐藤徹: 慢性血栓性肺高血圧症. 日本内科学会雑誌107(2): 234-242, 2018.
3. 佐藤徹: 診る 右心不全はこう診る. Heart View 22(3): 215-220, 2018.
4. 坂田好美: 心臓領域における超音波診断装置『Aplio i900』の使用経験. 映像情報Medical 50(3): 22-28, 2018.
5. 坂田好美: iで進化した3次元Tracking RV評価の進化とともに!(解説). INNERVISION 32(9): 91-93, 2017.
6. 坂田好美: 心臓超音波, 心エコー検査 Echocardiography(解説/特集). 杏林医学雑誌48(1): 9-44, 2017.
7. 坂田好美: 口腔内スピロヘータが確認された犬の歯周炎に対するアジスロマイシンの効果. 日本獣医師会雑誌70(10): 659-662, 2017.

8. 須永眞司, 松岡良, 伊藤敦彦, 佐藤徹, 波多野将, 岡輝明: 高拍出性心不全を呈した肺高血圧症の80歳代女性. 日本内科学会雑誌107-2: 304-314, 2018.
 9. 岩田真由美, 坂田好美, 上杉陽一郎, 井坂葵, 古谷充史, 松下健一, 佐藤徹, 吉野秀朗: Using Multimodality Strain: Comparison between Cardiac Cine Magnetic Resonance Multimodality Tissue Tracking and Two-dimensional Speckle-tracking-Echocardiography. 日本循環器学会学術集会抄録集81回: 456, 2017.
 10. 鶴久大介¹, 石本麻衣, 炭谷由計, 今田枝里, 七条裕孝, 佐々木有紀, 森田奈瑠, 田中利明, 近藤琢磨, 保坂利男, 板垣英二, 末岡順介, 佐藤徹, 石田均¹(杏林大学医学部第三内科): 特発性肺動脈性高血圧症に対してPGI2製剤使用中に下垂体前葉機能低下症の診断に至った一例. 日本内分泌学会雑誌 93(1):350, 2017.
 11. 合田あゆみ, 竹内かおり, 菊池華子, 伊波巧, 佐藤徹, 吉野秀朗: 肺高血圧症のリハビリテーション 肺高血圧症患者における運動時肺動脈圧上昇からみた運動強度設定に関する検討. 日本心臓病学会学術集会抄録65回. JS2-2, 2017.
 12. 伊藤準之助, 坂田好美, 古谷充史, 井坂葵, 南島俊徳, 松下健一, 佐藤徹, 吉野秀朗: 三次元スペクトルトラッキング心エコーを用いた肺高血圧症の右房機能評価. 日本心臓病学会学術集会抄録65回: 321, 2017.
 13. 磯貝俊明, 吉川勉, 上田哲郎, 前川裕一郎, 坂田好美, 村上力, 山口徹雄, 山本剛, 長尾建, 高山守正, 東京都CCUネットワーク学術委員会: 心尖部型たこつぼ心筋症と急性前壁心筋梗塞の比較検討. ICUとCCU 41: S87-S91, 2017.
 14. 前川裕一郎, 吉川勉, 上田哲郎, 坂田好美, 磯貝俊明, 村上力, 山口徹雄, 井守洋一, 寺岡邦彦, 長尾建, 山本剛, 高山守正, 東京都CCUネットワーク学術委員会: たこつぼ心筋症. たこつぼ心筋症における入院時白血球数の意義(会議録). ICUとCCU 41: S87-S91, 2017.
 15. 伊波巧: 慢性血栓塞栓性肺高血圧症は, カテーテル治療が非常に有用である. 最新医学 72(8): 99-107, 2017.
 16. 伊波巧: 慢性血栓塞栓性肺高血圧症とはどんな病気ですか? 心臓 49(10): 1014-1019, 2017.
 17. 伊波巧, 佐藤徹, 菊池華子, 竹内かおり, 合田あゆみ, 吉野秀朗: 当院における急性肺塞栓症診療のまとめ. 心臓 49(7): 768-770, 2017.
 18. 三輪陽介, 米田道嗣, 副島京子: 当院でのアミオダロン低用量療法を考慮した使用実態. Therapeutic Research 38: 185-9, 2017.
- (英文)
1. El Chami M, Kowal RC, Soejima K, Ritter P, Duray GZ, Neuzil P, Mont L, Kypta A, Sagi V, Hudnall JH, Stromberg K, Reynolds D: Impact of operator experience and training strategy on procedural outcomes with leadless pacing: Insights from the Micra Transcatheter pacing study. Pacing Clin Electrophysiol. 40(7):834-842, 2017.
 2. Duray GZ, Ritter P, El-Chami M, Narasimhan C, Omar R, Tolosana JM, Zhang S, Soejima K, Steinwender C, Rapallini L, Cicic A, Fagan DH, Liu S, Reynolds D: Micra Transcatheter Pacing Study Group: Long-term performance of a transcatheter pacing system: 12-Month results from the Micra Transcatheter Pacing Study. Heart Rhythm. 14(5):702-709, 2017.
 3. Piccini JP, Stromberg K, Jackson KP, Laager V, Duray GZ, El-Chami M, Ellis CR, Hummel J, Jones DR, Kowal RC, Narasimhan C, Omar R, Ritter P, Roberts PR, Soejima K, Zhang S, Reynolds D: Micra Transcatheter Pacing Study Group: Long-term outcomes in leadless Micra transcatheter pacemakers with elevated thresholds at implantation: Results from the Micra Transcatheter Pacing System Global Clinical Trial. Heart Rhythm. 14(5):685-691, 2017.
 4. Sato T, Soejima K, Yoshino H, Shoda M: Unusual fracture in a Durata lead with shock coil fragmentation and cable externalization. HeartRhythm Case Rep. 3(7):327-331, 2017.
 5. Ueda A, Nagaoka M, Soejima K, Miwa Y, Matsushita N: Epicardial access and ventricular tachycardia ablation in a postmyocarditis patient using a nonfluoroscopic catheter visualization system. HeartRhythm Case Rep. 3(9):411-414, 2017.
 6. Momose Y, Soejima K, Ueda A, Arai T, Koyanagi M, Hagiwara Y, Togashi I, Miwa Y, Hoshida K, Miyakoshi M, Matsushita N, Nagaoka M, Sato T, Nitatori T, Yoshino H: Elongated ascending aorta predicts a short distance between his-bundle potential recording site and coronary sinus ostium. J Arrhythm. 33(4):318-323, 2017.
 7. Ogawa A¹, Satoh T, Tamura Y³, Fukuda K³, Matsubara H¹ (¹National Hospital Organization Okayama Medical Center, ³Keio University School of Medicine): Survival of Japanese Patients With Idiopathic/Heritable Pulmonary Arterial Hypertension. Am J Cardiol 119(9): 1479-1484, 2017.
 8. Funabashi S, Kataoka M¹, Inami T, Kikuchi T², Yanagisawa R, Ishiguro C, Okamoto S³, Yoshino H, Watanabe K², Satoh T (¹Keio University School of Medicine, ²Department of Neuropsychiatry, Kyorin University School of Medicine, ³Department of General Medicine, Kyorin University School of Medicine): Depressive Status in Patients With Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension. Circ J. 81(7): 1051-1053, 2017.
 9. Kimura G, Kataoka M¹, Inami T, Fukuda K¹, Yoshino H, Satoh T (¹Keio University School of Medicine): Sorafenib as a potential strategy for refractory pulmonary arterial hypertension. Pulm Pharmacol Ther. 4: 46-49, 2017.
 10. Kimura M¹, Tamura Y^{1,2,3,4,5}, Guignabert C^{2,4}, Takei M¹, Kosaki K¹, Tanabe N^{1,6}, Tatsumi K⁶, Saji T⁷, Satoh T, Kataoka M¹, Kamitsui S⁸, Kamatani N⁸, Thuillet R^{2,4}, Tu L^{2,4}, Humbert M^{2,3,4}, Fukuda K¹, Sano M¹(¹Keio University School of Medicine, ²Univ Paris-Sud, ³Hôpital Bicêtre, ⁴Hôpital Marie Lannelongue, ⁵International University of Health and Welfare Mita Hospita, ⁶Chiba University, ⁷Toho University, Medical Center, ⁸StaGen Co. Ltd.): A genome-wide association analysis identifies PDE1A|DNAJC10 locus on chromosome 2 associated with idiopathic pulmonary arterial hypertension in a Japanese population. Oncotarget 8(43): 74917-74926, 2017. DOI: 10.1016/j.jiac.2017.02.003.
 11. Minamishima T, Matsushita K, Morikubo H, Isaka A, Matsushita N, Endo H¹, Kubota H, Sakata K, Satoh T, Yoshino H (¹Department of Cardiovascular Surgery, Kyorin University School of Medicine): Considerations in cardio-oncology: Multiple mobile left-sided cardiac thrombi in chemotherapy-induced cardiomyopathy. J Infect Chemother 23(7):488-492, 2017.
 12. Tanaka H^{1,2}, Kataoka M¹, Isobe S¹, Yamamoto T¹,

- Shirakawa K¹, Endo J¹, Satoh T, Hakamata Y², Kobayashi E¹, Sano M¹, Fukuda K¹ (¹Keio University School of Medicine, ²Actelion Pharmaceuticals Japan Ltd., ³Nippon Veterinary and Life Science University) : Therapeutic impact of dietary vitamin D supplementation for preventing right ventricular remodeling and improving survival in pulmonary hypertension. *PLoS One* 12(7) : e0180615, 2017.
13. Tanabe N¹, Ikeda S², Tahara N³, Fukuda K⁴, Hatano M⁵, Ito H⁶, Nakayama T⁷, Anzai⁸ T, Hashimoto A⁹, Inoue T¹⁰, Kajinami K¹¹, Kihara Y¹², Kinoshita H¹³, Kuwahara K¹⁴, Murohara T¹⁵, Okazaki O¹⁶, Sakai S¹⁷, Satoh T, Takeda Y¹⁸, Takeishi Y¹⁹, Taniguchi M²⁰, Watanabe H²¹, Yamamoto T²², Yamauchi-Takahara K²³, Yoshioka K²⁴, Sasayama S²⁵ (¹Chiba University, ²Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences, ³Kurume University School of Medicine, ⁴Keio University School of Medicine, ⁵The University of Tokyo Hospital, ⁶Okayama University Graduate School of Medicine, ⁷Toho University Omori Medical Center, ⁸National Cerebral and Cardiovascular Center, ⁹Sapporo Medical University Hospital, ¹⁰Dokkyo Medical University School of Medicine, ¹¹Kanazawa Medical University, ¹²Hiroshima University Graduate School of Biomedical and Health Sciences, ¹³Kyoto University Graduate School of Medicine, ¹⁴Shinshu University School of Medicine, ¹⁵Nagoya University Graduate School of Medicine, ¹⁶National Center for Global Health and Medicine, ¹⁷Faculty of Medicine, University of Tsukuba, ¹⁸Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences, ¹⁹Fukushima Medical University, ²⁰Saiseikai Tondabayashi Hospital, ²¹Hamamatsu University School of Medicine, ²²Yamaguchi University Graduate School of Medicine, ²³Osaka University Graduate School of Medicine, ²⁴Graduate School of Medicine, Tokai University, ²⁵Uji Hospital) : Efficacy and Safety of an Orally Administered Selective Prostacyclin Receptor Agonist, Selexipag, in Japanese Patients With Pulmonary Arterial Hypertension. *Circ J.* 81(9) : 1360-1367, 2017.
 14. Gamou S¹, Kataoka M², Aimi Y, Chiba T³, Momose Y, Ise S, Hirayama T, Yoshino H, Fukuda K, Satoh T (¹Kyorin University Center for Comprehensive Regional Collaboration, ²Keio University School of Medicine, ³Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine) : Genetics in pulmonary arterial hypertension in a large homogeneous Japanese population. *Clin Genet cge.* 2017. doi: 10.1111/cge.13154.
 15. Ogawa A¹, Satoh T, Fukuda T², Sugimura K³, Fukumoto Y⁴, Emoto N⁵, Yamada N⁶, Yao A¹⁰, Ando M⁶, Ogino H⁷, Tanabe N⁸, Tsujino I¹⁰, Hanaoka M¹¹, Minatoya K⁹, Ito H¹⁰, Matsubara H¹¹ (¹National Hospital Organization Okayama Medical Center, ²National Cerebral and Cardiovascular Center, ³Tohoku University Graduate School of Medicine, ⁴Kurume University School of Medicine, ⁵Kobe University Graduate School of Medicine, ⁶Mie University Graduate School of Medicine, ⁷Tokyo Medical University, ⁸Chiba University, ⁹Kyoto University, ¹⁰Hokkaido University Hospital, ¹¹Shinshu University School of Medicine, ¹²Okayama University Graduate School of Medicine) : Balloon Pulmonary Angioplasty for Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension : Results of a Multicenter Registry. *Circ Cardiovasc Qual Outcomes.* pii : e004029, 2017. doi: 10.1161/CIRCOUTCOMES.117.004029.
 16. Tamura Y¹, Kumamaru H², Satoh T, Miyata H^{2,3}, Ogawa A⁴, Tanabe N⁵, Hatano M⁶, Yao A⁷, Abe K³, Tsujino I⁸, Fukuda K³, Kimura H⁸, Kuwana M⁹, Matsubara H⁴, Tatsumi K⁵ (¹International University of Health and Welfare Mita Hospital, ²The University of Tokyo, ³Keio University School of Medicine, ⁴National Hospital Organization Okayama Medical Center, ⁵Graduate School of Medicine, Chiba University, ⁶The University of Tokyo Hospital, ⁷Hokkaido University School of Medicine, ⁸Nara Medical University, ⁹Nippon Medical School Graduate School of Medicine) : Japan PH Registry (JAPHR) Network. Effectiveness and Outcome of Pulmonary Arterial Hypertension-Specific Therapy in Japanese Patients With Pulmonary Arterial Hypertension. *Circ J.* 82(1) : 275-282, 2017.
 17. Isogai T^{1,2}, Yoshikawa T¹, Ueda T¹, Yamaguchi T¹, Imori Y¹, Maekawa Y¹, Sakata K¹, Murakami T¹, Mochizuki H¹, Arao K¹, Kimura A¹, Nagao K¹, Yamamoto T¹, Takayama M¹ (¹Tokyo CCU Network Scientific Committee, ²Tokyo Metropolitan Tama Medical Center) : Apical Takotsubo syndrome versus anterior acute myocardial infarction: findings from the Tokyo Cardiovascular Care Unit network registry. *Eur Heart J Acute Cardiovasc Care* 2018. doi: 10.1177/2048872618762638.
 18. Ueda A, Nagaoka M, Soejima K, Miwa Y, Matsushita N: Epicardial access and ventricular tachycardia ablation in postmyocarditis patient using a nonfluoroscopic catheter visualization system. *Heart Rhythm Case Rep* 3(9):411-414, 2017. doi: 10.1016/j.hrcr.2017.05.003.
 19. Matsushita K, Dzau VJ¹ (¹National Academy of Medicine): Mesenchymal stem cells in obesity: insights for translational applications. *Lab Invest.* 97(10): 1158-1166, 2017. DOI: 10.1038/labinvest.2017.42.
 20. Matsushita K, Harada K¹, Miyazaki T¹, Miyamoto T¹, Kohsaka S¹, Iida K¹, Tanimoto S¹, Yagawa M¹, Shiraishi Y¹, Yoshino H, Yamamoto T¹, Nagao K¹, Takayama M¹ (¹Tokyo CCU Network Scientific Committee): Effect of Heart Failure Secondary to Ischemic Cardiomyopathy on Body Weight and Blood Pressure. *Am J Cardiol.* 120(9): 1589-1594, 2017. DOI: 10.1016/j.amjcard.2017.07.054.
 21. Kongoji K, Mitarai T¹, Kasahara M¹, Yamazaki H¹, Ishibashi Y¹, Koyama K¹, Yoneyama K¹, Tanabe Y¹, Akashi YJ¹, Yoshino H (¹St. Marianna University School of Medicine): Minimally invasive percutaneous transluminal renal artery stenting. *Int J Cardiol.* 252:52-56, 2018. doi: 10.1016/j.ijcard.2017.11.050.
 22. Higuchi S, Kabeya Y, Kiyoe Kato : Visceral-to-subcutaneous fat ratio is independently related to small and large cerebrovascular lesions even in healthy subjects. *Atherosclerosis.* 259:41-45, 2017.
 23. Higuchi S, Kabeya Y, Matsushita K, Taguchi H, Ishiguro H, Kohshoh H, Yoshino H: Clinical Impact of Non-Culprit Lesions on 1-Year Mortality in Very Elderly Patients with Acute Coronary Syndrome. *Heart and Vessels.* 32(1):8-15, 2017.

著 書

1. 金剛寺謙(分担執筆): 動脈疾患/末梢動脈疾患. 循環器ナーシング第7巻 第5号. 葛谷雅文企画編集. 東京, 医学出版, 2017. p.90-95.
2. 上田明子: クライオバルーンを用いた心房細動アブレーション. 三鷹医師会会報, 東京, 2017.
3. 上田明子(分担執筆): アブレーション中のモニターの見方のポイントは?. ハートナーシング Vol.30 No.11, 副島京子監修, 東京, メディカ出版, 2017. p.45-49.
4. 上田明子: 日経メディクイズ[心電図] 71歳女性・労作時息切れ. 日経メディクイズ(デジタル版). 東京, 日経メディカル, 2018. <http://medical.nikkeibp.co.jp>.
5. 上田明子(分担執筆): 不整脈心電図診断 カテーテルアブレーションに必要な心電図のポイント, 教えます. 本当は教えたくないカテーテルアブレーションがうまくいくカラクリ. 深水誠二編集, 東京, メジカルビュー, 2018. p.14-20.
6. Ueda A, Soejima K: Fascicular Ventricular Arrhythmias. Cardiac Electrophysiology: From Cell to Bedside, 7th Edition. Zipes D, Jalife J, Stevenson W. eds. USA, Elsevier. 2017. p.793-798.
7. Ueda A, Soejima K: How to ablate ventricular tachycardia associated with hypertrophic cardiomyopathy. Hands-on-Ablation 2nd edition. Al-Ahmad A, Callance D, Hsia H, Natale A, Oseroff O, Wang P. eds. USA, Cardiotext Publishing. 2017. p.531-538.
8. Ueda A, Soejima K: Ventricular Tachycardia in Ischemic Heart Disease. Catheter ablation: A Current Approach on Cardiac Arrhythmias. Hirao K. ed. Tokyo, Springer, 2018. p.349-358.
9. 金剛寺謙(分担執筆): 第V章 腎動脈狭窄症 TOPICS. 末梢血管疾患診療マニュアル. 東谷迪昭, 尾原秀明, 金岡裕司, 水野篤編集. 東京, 南江堂, 2018. p.367.

受 賞

1. 伊波巧: 平成29年度杏林医学会奨励賞受賞.
2. 樋口聡: European Society of Cardiology Congress 2017, Best Poster Presentation.
3. 樋口聡: 杏林医学会第六回研究奨励賞.

その他

1. 佐藤徹: 治癒を射程内においた肺高血圧症の治療. 最新医学第72巻第7号巻頭座談会, 大阪, 2017年5月14日.
2. 副島京子: 羽鳥慎一モーニングショー「玉川さんのそもそも総研」そもそも心臓ペースメーカーがこれほど進化したとは! テレビ朝日 2017年8月3日.
3. 佐藤徹: 肺動脈性肺高血圧症の治療の現状と展望(コメンテーター). 第2回Challenge for Treatment of PAH ~Build a Bridge to the future~, 2017年9月22日.
4. 佐藤徹, 桑名正隆, 田邊信宏, 波多野将: 難治性肺高血圧症診療の経験から学ぶ(座談会/特集). Pulmonary Hypertension Update3-2: 90-100, 2017.
5. 松原広己, 大郷剛, 佐藤徹: 治癒を射程内においた肺動脈性肺高血圧症(PAH)の治療. 最新医学社 72(8): 7-18, 2017.

不整脈先進治療学研究講座

講 演

1. Sato T: Selective His-bundle Pacing in a Patient with Brady AF, Low EF, and Narrow QRS. Heart Rhythm 2017, USA, May 10th-13th 2017.
2. Sato T, Soejima K, Maeda A, Nagaoka M, Momose Y,

Matsushita N, Hoshida K, Miwa M, Togashi I, Ueda A, Yoshino H: Early Detection and Anticoagulant Therapy for Atrial Fibrillation Guided by Remote Monitoring Systems of Cardiac Implantable Electrical devices. EHRA Europace - Cardiotim 2017, Austria, June 18th-21th 2017.

3. Sato T: Update of Primary ICD Indication for Idiopathic VF (Brugada and J Wave Syndrome) IVF and ICD Therapy in Asian-Pacific Countries. The 10th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session (APHRs 2017) / Meeting of the Japanese Heart Rhythm Society (JHRS2017), Yokohama, June 18th-21th 2017.
4. Sato T, Soejima K, Maeda A, Nagaoka M, Momose Y, Matsushita N, Hoshida K, Miwa M, Togashi I, Ueda A, Yoshino H: Early detection and anticoagulant therapy for atrial fibrillation guided by remote monitoring systems of cardiac implantable electrical devices. The 10th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session (APHRs 2017) / Meeting of the Japanese Heart Rhythm Society (JHRS2017), Yokohama, June 18th-21th 2017.
5. Sato T, Soejima K, Maeda A, Nagaoka M, Momose Y, Matsushita N, Hoshida K, Miwa M, Togashi I, Ueda A, Yoshino H: Feasibility and Safety of His-Bundle Pacing in Patients with Sick Sinus Syndrome. The 10th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session (APHRs 2017) / Meeting of the Japanese Heart Rhythm Society (JHRS2017), Yokohama, June 18th-21th 2017.
6. 佐藤俊明: 心臓再同期療法(CRT)を再評価する 心機能, 運動耐容能, QOL 心臓再同期療法における健康関連 QOLの評価. 第65回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 2017年9月29日-10月1日.
7. 星田京子, 佐藤俊明, 前田明子, 毛利崇人, 長岡身佳, 竹内真介, 百瀬裕一, 米田道嗣, 松下紀子, 三輪陽介, 富樫郁子, 上田明子, 副島京子: 心筋炎急性期に単形性心室頻拍を合併し, 慢性期にも単形性心室頻拍の storm をきたした1例. 第30回心臓性急死研究会, 東京, 2017年12月16日.
8. 星田京子, 佐藤俊明, 前田明子, 毛利崇人, 長岡身佳, 竹内真介, 百瀬裕一, 米田道嗣, 松下紀子, 三輪陽介, 富樫郁子, 上田明子, 副島京子: 徐脈性心房細動に対し His束ペーシングを施行したICD症例. 第10回植込みデバイス関連冬季大会, 横浜, 2018年2月10-12日.
9. 露口晃, 稲葉健太, 藤巻佑介, 小沼健人, 中島明日美, 吉村高寛, 安村佑樹, 萩原陽, 佐藤俊明, 副島京子: His束ペーシング時のデバイス設定の検討. 第10回植込みデバイス関連冬季大会, 横浜, 2018年2月10-12日.
10. 竹内真介, 佐藤俊明, 前田明子, 毛利崇人, 長岡身佳, 百瀬裕一, 米田道嗣, 松下紀子, 星田京子, 三輪陽介, 富樫郁子, 上田明子, 吉野秀朗, 副島京子: 一時ペーシングリード心筋穿通後, 経静脈用手牽引抜去に成功した一例. 第10回植込みデバイス関連冬季大会, 横浜, 2018年2月10-12日.
11. Sato T, Soejima K, Maeda A, Nagaoka M, Momose Y, Matsushita N, Hoshida K, Miwa M, Togashi I, Ueda A, Yoshino H: Different Electrophysiological Characteristics Between Selective and Non-selective His-Bundle Pacing. 第82回日本循環器学会学術集会, 大阪, 2018年3月23-25日.
12. Watanabe T, Ando K, Yamazaki F, Goto T, Asai T, Sakakibara M, Hirooka K, Sato T, Kasai A, Ueda N, Sugai Y, Yamakawa K, Tokunaga T, Ueda Y, Yamamoto K, Tanaka K, Hiramatsu S, Arakawa T: At

Home Study: Safety and Efficacy of the Management of Pacemaker Patients via Home Monitoring versus Conventional In-Office Follow-up. 第82回日本循環器学会学術集会, 大阪, 2018年3月23-25日.

13. Togashi I, Sato T, Maeda A, Nagaoka M, Momose Y, Matsushita N, Hoshida K, Miwa M, Ueda A, Yoshino H, Soejima K: The Initial Results of the Implantations of Leadless Transcatheter Pacing Systems. 第82回日本循環器学会学術集会, 大阪, 2018年3月23-25日.

論文

1. Sato T, Soejima K, Yoshino H, Shoda M: Unusual fracture in a Durata lead with shock coil fragmentation and cable externalization. Heart Rhythm Case Rep. 3(7):327-331, 2017. DOI: 10.1016/j.hrcr.2017.03.006.
2. Nakai T, Sato T, Soejima K, Takamine Y, Watanabe M, Kobayashi K, Oshima H, Fukaya C, Okumura Y, Ohkubo K, Kunimoto S, Watanabe I, Yoshino A, Hirayama A: Brain magnetic resonance imaging examination in a patient with non-magnetic resonance conditional pacemaker. J Arrhythm. 33(5):518-520, 2017. doi: 10.1016/j.joa.2017.04.008.
3. Soejima K, Asano T, Ishikawa T, Kusano K, Sato T, Okamura H, Matsumoto K, Taguchi W, Stromberg K, Lande J, Kobayashi Y: Micra Transcatheter Pacing Study Group. Performance of Leadless Pacemaker in Japanese Patients vs. Rest of the World - Results From a Global Clinical Trial. Circ J. 81(11):1589-1595, 2017. doi: 10.1253/circj.CJ-17-0259.
4. 長岡身佳, 佐藤俊明, 勝目有美, 竹内真介, 百瀬裕一, 松下紀子, 樋口聡, 星田京子, 三輪陽介, 富樫郁子, 上田明子, 副島京子, 吉野秀朗: 心筋炎急性期に単形性心室頻拍を合併し, 慢性期にも単形性心室頻拍のstormをきたした1例. 心臓 49(Suppl.1): 61-67, 2017.
5. 長岡身佳, 上田明子, 勝目有美, 竹内真介, 百瀬裕一, 松下紀子, 星田京子, 三輪陽介, 富樫郁子, 佐藤俊明, 副島京子, 吉野秀朗: MediGuideシステムを用いた心外膜アクセス・マッピングを行い孤立遅延電位の焼灼により心室頻拍を抑制できた心筋炎後Electrical stormの1例. 心臓 49(Suppl.2): 152-159, 2017.
6. 佐藤俊明: 不整脈一知りたかった現在および近未来の治療スタンダード トピックス リードレスペースメーカの開発と今後の展望. Medical Practice 34(6): 997-998, 2017.
7. 佐藤俊明: 不整脈デバイス治療の進歩 リードレスペースメーカ. Cardiovascular Contemporary 6(1): 6-9, 2017.
8. 佐藤俊明: ペースメーカ治療の過去, 現在, 未来(リードレスペースメーカが開く未来). 循環器画像技術研究 36(1): 5-7, 2018.
9. 星田京子, 佐藤俊明: 心室頻脈性不整脈 その常識は正しいか? 失神の既往のある肥大型心筋症はICDの適応か?. 救急・集中治療 29: 283-290, 2017.

著書

1. 佐藤俊明, 副島京子: 心臓植込みデバイスの新たな選択肢—リードレスペースメーカとS-ICD. 循環器疾患最新の治療 2018-2019. 永井良三監修. 東京, 南江堂, 2018. p.22-25.

第二内科学教室 (血液内科)

講演

1. 桑原彩子, 関雅史, 佐藤範英, 永根基雄, 高山信之: 中枢神経再発の寛解後, 腕神経叢のneurolymphomatosisにて再発した乳癌原発DLBCL. 第7回日本血液学会関東甲信越地方会, 松本, 2017年7月1日.
2. Kobayashi M, Satoh N, Seki M, Kuwabara A, Yoshimori E, Momose E, Takayama N: Calfilzomib, lenalidomide and dexamethasone for relapsed multiple myeloma. 第79回日本血液学会学術集会, 東京, 2017年10月20日.
3. Takayama N, Kuwabara A, Seki M, Kobayashi M, Momose E, Yoshimori E, Satoh N: Tacrolimus alone for GVHD prophylaxis in myeloablative cord blood transplantation. 第79回日本血液学会学術集会, 東京, 2017年10月21日.
4. Satoh N, Kuwabara A, Seki M, Momose E, Kobayashi M, Yoshimori E, Takayama N: Bendamustine plus Rituximab for follicular lymphoma relapsed after R-CHOP therapy. 第79回日本血液学会学術集会, 東京, 2017年10月21日.
5. Yoshimori E, Kobayashi M, Seki M, Kuwabara A, Satoh N, Takayama N: Three cases of TAFRO syndrome diagnosed in our institute. 第79回日本血液学会学術集会, 東京, 2017年10月21日.
6. Seki M, Satoh N, Kohara Y, Kobayashi M, Nagane M, Oomori Y, Shibahara J, Takayama N: IVL relapsing as brain mass was successfully salvaged by primary CNS lymphoma-oriented therapy. 第79回日本血液学会学術集会, 東京, 2017年10月21日.
7. 吉森恵未, 小林誠, 関雅史, 百瀬恵美, 桑原彩子, 佐藤範英, 高山信之: アザシチジン療法施行中に心嚢液貯留が出現し, 心嚢穿刺にて急性骨髄性白血病への移行と診断した骨髄異形成症候群の一例. 第46回杏林医学会総会, 東京, 2017年11月18日.
8. 高山信之, 桑原彩子, 関雅史, 小林誠, 吉森恵未, 百瀬恵美, 佐藤範英: 当施設における同種造血幹細胞移植後の非再発死亡の検討. 第40回日本造血細胞移植学会総会, 札幌, 2018年2月2日.
9. 関雅史, 佐藤範英, 小林誠, 吉森恵未, 桑原彩子, 高山信之: 皮疹を伴わない皮膚の搔痒感を初発症状として発症したHHV-6脳炎の1例. 第8回日本血液学会関東甲信越地方会, 東京, 2018年3月3日.

論文

1. 河合伸¹, 佐野彰彦¹, 佐野麻里子², 寺澤典子², 佐藤範英, 高山信之 (¹杏林大・医・総合医療学, ²杏林大学医学部付属病院看護部): 臍帯血移植により良好な経過が得られたエイズ関連悪性リンパ腫の1例. 日本エイズ学会誌 19: 171-175, 2017.
2. 穴戸・原由紀子¹, 佐藤範英, 桑原彩子, 高山信之, 菅間博¹ (¹杏林大・医・病理学): 非血縁者間同種骨髄移植後64日目に死亡した鼻型NK/T細胞リンパ腫の1剖検例. 病理と臨床 35: 667-675, 2017.

第三内科学教室 (消化器内科)

講演

1. 森久保拓, 齋藤大祐, 三浦みき, 櫻庭彰人, 林田真理, 柴原純二, 森秀明, 正木忠彦, 河合伸, 久松理一: アメーバ大腸炎とCMV大腸炎を合併したHIV感染患者の一例. 第114回日本内科学会総会, 東京, 2017年4月14-16日.
2. 森秀明: 腹部エコーマスター講座 (STEP1: ビギナー向

- けセミナー)。アスリードセミナー, 東京, 2017年4月17日。
3. 徳永健吾: 胃がんリスク検診(ABC検診)の事後指導について～平成29年度からの変更点を中心に～. 平成29年度三鷹医師会消化器がん検診講演会, 三鷹, 2017年4月19日。
 4. 久松理一: 生物学的製剤治療のup to date クローン病治療の新時代. 第103回日本消化器病学会総会, 東京, 2017年4月20-22日。
 5. 新井健介, 大野亜希子, 楠原光謹, 田邊秀聡, 神保陽子, 久松理一: 当院における食道表在癌に対するAPC治療成績の検討. 第103回日本消化器病学会総会, 東京, 2017年4月20-22日。
 6. 倉田勇, 吉田翼, 深澤友里, 太田博崇, 落合一成, 榎藤興一, 渡邊俊介, 蓮江智彦, 土岐真朗, 中村健二, 山口康晴, 両角克朗, 森秀明, 高橋信一, 久松理一: 中等症急性胆管炎を伴った総胆管結石症に対する一次的内視鏡的結石除去術の有用性と安全性の検討. 第103回日本消化器病学会総会, 東京, 2017年4月20-22日。
 7. 箕輪慎太郎, 齋藤大祐, 佐藤太龍, 池崎修, 三井達也, 三浦みき, 櫻庭彰人, 林田真理, 徳永健吾, 望月眞, 森秀明, 正木忠彦, 久松理一: 当院における病理組織学的診断が得られた腸管子宮内膜症の検討. 第103回日本消化器病学会総会, 東京, 2017年4月20-22日。
 8. 川村直弘: C型肝炎治療の最近の動向について. 杉並・中野ネットワーク消化器疾患講演会, 東京, 2017年4月25日。
 9. 徳永健吾: *H. pylori* 感染症 胃がんリスク検診に関するトピックス. 杉並中野ネットワーク消化器疾患講演会, 東京, 2017年4月25日。
 10. Kiyohara H, Sujino T, Mizuno S, Arai M, Nakamoto N, Matsuoka K, Naganuma M, Hisamatsu T, Kanai T: Skin inflammatory change affects gut microbial environment with exacerbation of colitis in mice. *Digestive Disease Week, USA, May 6th-9th, 2017.*
 11. Mitsui T, Hayashida M, Miura M, Saito D, Sakuraba A, Tokunaga K, Mori H, Hisamatsu T: Evaluation of the colonic diverticular bleeding in very elderly patients in our hospital. *Digestive Disease Week, USA, May 6th-9th, 2017.*
 12. Nakase N, Motoya S, Matsumoto T, Watanabe W, Hisamatsu T, Yoshimura N, Ishida T, Kato S, Nakagawa T, Esaki M, Nagahori M, Matsui T, Naito Y, Kanai T, Suzuki Y, Nojima M, Watanabe M, Hibi T: Association between pharmacokinetics of adalimumab and disease outcome in japanese patients with biologics naive crohn's disease: a subanalysis of diamond study. *Digestive Disease Week, USA, May 6th-9th, 2017.*
 13. Watanabe K, Matsumoto T, Motoya S, Hisamatsu T, Nakase H, Yoshimura N, Ishida T, Kato S, Nakagawa T, Nagahori M, Esaki M, Matsui T, Naito Y, Kanai T, Suzuki Y, Nojima M, Watanabe M, Hibi T: Comparison of endoscopic responses to adalimumab monotherapy and combination therapy with azathioprine in patients with crohn's disease: a sub-analysis of diamond trial. *Digestive Disease Week, USA, May 6th-9th, 2017.*
 14. 大野亜希子, 楠原光謹, 田邊秀聡, 新井健介, 徳永健吾, 辻陽介, 久松理一: 胃ESDにおける全身麻酔と局所麻酔の比較検討. 第93回日本消化器内視鏡学会総会附置研究会, 大阪, 2017年5月11日。
 15. 大野亜希子, 楠原光謹, 田邊秀聡, 新井健介, 神保陽子, 畑英行, 森秀明, 久松理一: 内視鏡的粘膜下層剥離術後に発症した偽痛風症例の検討. 第93回日本消化器内視鏡学会, 大阪, 2017年5月11-13日。
 16. 深澤友里, 土岐真朗, 後藤知之, 吉田翼, 太田博崇, 落合一成, 榎藤興一, 渡邊俊介, 倉田勇, 蓮江智彦, 中村健二, 山口康晴, 両角克朗, 森秀明, 高橋信一, 久松理一: ERCP施行前に施行する上部消化管内視鏡検査の有用性と安全性の検討. 第93回日本消化器内視鏡学会, 大阪, 2017年5月11-13日。
 17. 三井達也, 齋藤大祐, 佐藤太龍, 箕輪慎太郎, 池崎修, 三浦みき, 櫻庭彰人, 林田真理, 徳永健吾, 森秀明, 久松理一: 大腸憩室出血における造影CT検査の有用性に関する検討. 第93回日本消化器内視鏡学会, 大阪, 2017年5月11-13日。
 18. 楠原光謹, 大野亜希子, 田邊秀聡, 新井健介, 神保陽子, 畑英行, 森秀明, 久松理一: 抗血栓薬服用例における非静脈瘤性消化管出血の後出血に関する因子の検討. 第93回日本消化器内視鏡学会, 大阪, 2017年5月11-13日。
 19. 尾崎良, 小林拓, 齋藤詠子, 豊永貴彦, 岡林慎二, 梅田智子, 中野雅, 松岡健太郎, 森永正二郎, 久松理一, 日比紀文: 潰瘍性大腸炎における大腸内視鏡下生検組織による臨床的再燃予測. 第93回日本消化器内視鏡学会, 大阪, 2017年5月11-13日。
 20. 大野亜希子, 楠原光謹, 田邊秀聡, 新井健介, 徳永健吾, 辻陽介, 久松理一: 胃ESDにおける全身麻酔と局所麻酔の比較検討. 第93回日本消化器内視鏡学会 附置研究会第2回内視鏡検査・周術期管理の標準化に向けた研究会, 大阪, 2017年5月13日。
 21. 大野亜希子: 当院の大腸ESD成績～導入から3年を経て～. 第19回武蔵野消化器・肝疾患医療連携懇談会, 東京, 2017年5月16日。
 22. 久松理一: 潰瘍性大腸炎治療におけるチオプリン製剤と抗TNF α 抗体製剤の位置づけ. いわきIBDカンファレンス, 福島, 2017年5月24日。
 23. 森秀明: 腹部領域の超音波検査士の現状と問題点. 日本超音波医学会第90回学術集会, 宇都宮, 2017年5月27日。
 24. 西川かおり, 森秀明, 山田博康, 関根智紀: 認定超音波検査士取得のための報告書等作成時のポイントと注意点—消化器領域—. 日本超音波医学会第90回学術集会, 宇都宮, 2017年5月28日。
 25. 森秀明, 西川かおり, 關里和, 塚田幾太郎, 奥山秀平, 小樽二世, 峯佳毅, 川村直弘, 岸野智則, 黒岩紀子: 「到達時間等高線」表示の有用性の検討. 日本超音波医学会第90回学術集会, 宇都宮, 2017年5月28日。
 26. 久松理一: 抗TNF α 抗体二次無効のメカニズム. 第48回IBD club Jr, 東京, 2017年6月3日。
 27. 野坂岳志, 倉田勇, 後藤知之, 吉田翼, 深澤友里, 太田博崇, 落合一成, 榎藤興一, 渡邊俊介, 蓮江智彦, 土岐真朗, 中村健二, 山口康晴, 高橋信一, 森秀明, 久松理一: 胆嚢癌合併胆石胆嚢炎に対してENGBDにより加療診断し得た1例. 第104回日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 東京, 2017年6月10-11日。
 28. 土岐真朗, 倉田勇, 渡邊俊介, 高橋信一, 久松理一: 緊急ERCP関連手技における安全な腸管蠕動抑制薬の選択についての検討「より安全, 確実な内視鏡のリスクマネージメントの実践」. 第104回日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 東京, 2017年6月10-11日。
 29. Saito D, Sato T, Minowa S, Ikezaki O, Mitsui T, Miura M, Sakuraba A, Hayashida M, Tokunaga K, Mori H, Hisamatsu T: Evaluation of usefulness of Drug-induced Lymphocyte Stimulation Test (DLST) for the diagnosis of mesalazine allergy. The 5th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis, Korea, June 14th-17th, 2017.
 30. Hisamatsu T: AOCC Forum II What are the

- predicting factors for poor outcomes in IBD in Asia?. The 5th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis, Korea, June 14th-17th, 2017.
31. 久松理一: IBDにおける抗TNF α 製剤が与えたインパクトと今後の課題. 第1回鳥取IBD研究会, 米子, 2017年6月22日.
 32. 久松理一: IL-12/23とクローン病. ステララ 点滴静注130mg新発売記念講演会, 東京, 2017年6月24日.
 33. 久松理一: メインテーマ: 進化する消化器病診療 炎症性腸疾患治療の現在と今後の展望. 日本消化器病学会関東支部第30回教育講演会, 東京, 2017年6月25日.
 34. 徳永健吾, 伊藤慎芳, 浅岡大介, 松久威史, 嶋田裕慈, 永原章仁, 小俣富美雄, 栗原直人, 川村洋, 河合隆, 鈴木秀和, 大草敏史, 峯徹哉, 榊信廣, 高橋信一 (東京HP研究会): ボノプラザンを用いた *H. pylori* 三次除菌療法の有用性—東京都内多施設検討—. 第23回日本ヘリコバクター学会学術集会, 函館, 2017年7月1日.
 35. 徳永健吾, 田中昭文, 大野亜希子, 高橋信一, 久松理一: *Helicobacter pylori* 二次除菌不成功例における再感染診断の重要性. 第23回日本ヘリコバクター学会学術集会, 函館, 2017年7月1日.
 36. 森英毅, 鈴木秀和, 小俣富美雄, 正岡建洋, 浅岡大介, 伊藤慎芳, 川上浩平, 松久威史, 栗原直人, 永原章仁, 榊信廣, 佐々木仁, 川村洋, 河合隆, 高橋信一 (東京HP研究会): 東京地区多施設共同調査による *Helicobacter pylori* 一次・二次除菌率の経年変化. 第23回日本ヘリコバクター学会学術集会, 函館, 2017年7月1日.
 37. 伊藤慎芳, 浅岡大介, 永原章仁, 鈴木秀和, 栗原直人, 森英毅, 松久威史, 榊信廣, 徳永健吾, 高橋信一, 河合隆 (東京HP研究会): ペニシリンアレルギー症例のボノプラザンを含む除菌治療成績 東京地区多施設共同調査. 第23回日本ヘリコバクター学会学術集会, 函館, 2017年7月1日.
 38. 久松理一: これから出てくる IBD の新薬をメカニズムから考える. 第14回 IBD Seminar, 神戸, 2017年7月1-2日.
 39. 久松理一: 抗TNF抗体時代に栄養療法をどう使うか? (クローン病). 旭川地区IBDセミナー, 旭川, 2017年7月6日.
 40. 川村直弘: C型肝炎疾患治療の移り変わり. Digestive disease conference, 三鷹, 2017年7月12日.
 41. 徳永健吾: *H. pylori* 陰性時代における酸関連疾患. 第25回 Digestive Disease Conference, 三鷹, 2017年7月12日.
 42. 太田博崇, 渡邊俊介, 野坂岳志, 菊地翁輝, 後藤知之, 吉田翼, 深澤友里, 落合一成, 権藤興一, 倉田勇, 蓮江智彦, 中村健二, 土岐真朗, 徳永健吾, 山口康晴, 両角克朗, 森秀明, 高橋信一, 久松理一: 85歳以上の高齢者総胆管結石症例の治療戦略. 第20回日本高齢消化器病学会総会, 東京, 2017年7月14-15日.
 43. 渡邊俊介, 土岐真朗, 小栗典明, 野坂岳志, 吉田翼, 深澤友里, 落合一成, 太田博崇, 権藤興一, 倉田勇, 蓮江智彦, 中村健二, 山口康晴, 藤原正親, 望月眞, 菅間博, 柴原純二, 高橋信一, 森秀明, 久松理一: 肺癌の脾転移による脾炎に対し内視鏡的経鼻脾管ドレナージが有用であった1例. 第48回日本脾臓学会大会, 京都, 2017年7月14-15日.
 44. 大島康太, 三井達也, 佐藤太龍, 箕輪慎太郎, 池崎修, 三浦みき, 齋藤大祐, 櫻庭彰人, 林田真理, 徳永健吾, 森秀明, 久松理一: 当院における後期高齢者の大腸憩室出血についての検討. 第20回日本高齢消化器病学会総会, 東京, 2017年7月14-15日.
 45. 土岐真朗, 倉田勇, 後藤知之, 吉田翼, 深澤友里, 太田博崇, 落合一成, 権藤興一, 渡邊俊介, 岡野尚弘, 蓮江智彦, 中村健二, 鈴木裕, 山口康晴, 両角克朗, 古瀬純司, 杉山政則, 高橋信一, 森秀明, 久松理一: ERCP関連手技におけるエアーネックピローの有用性の検討. 第48回日本脾臓学会大会, 京都, 2017年7月15日.
 46. 鈴木裕, 金翔哲, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 横山政明, 中里徹矢, 橋本佳和, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 土岐真朗, 岡野尚弘, 古瀬純司, 杉山政則: IPMNの手術適応と術式を再考するIPMNの手術適応と術式選択 至適郭清範囲—スコア式の構築と検証. 第48回日本脾臓学会大会, 京都, 2017年7月15日.
 47. 砂村眞琴, 糸井隆夫, 板倉淳, 土岐真朗, 土田明彦, 永川裕一, 清水京子, 北郷実, 田邊稔, 岩淵篤敬, 杉本昌弘: 脾癌の早期診断・治療の現状と展望 唾液中ポリアミン類による脾癌の早期診断. 第48回日本脾臓学会大会, 京都, 2017年7月15日.
 48. 神林孔明, 林田真理, 北田修一, 佐藤太龍, 箕輪慎太郎, 池崎修, 三井達也, 三浦みき, 齋藤大祐, 櫻庭彰人, 徳永健吾, 森秀明, 生形之男, 正木忠彦, 久松理一: Accelerated infliximab induction regimenが奏功した出血性ショックを伴ったステロイド抵抗性重症潰瘍性大腸炎の一例. 第345回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2017年7月15日.
 49. 久松理一: 炎症性腸疾患に対する分子標的治療の進歩. 第38回日本炎症・再生医学会, 大阪, 2017年7月18-19日.
 50. 久松理一: 腸内微生物と疾患 腸内細菌と炎症性腸疾患. 第38回日本炎症・再生医学会, 大阪, 2017年7月18-19日.
 51. 鈴木康夫, 久松理一, 猿田雅之, 長堀正和, 池内浩基: IBDの病診連携を構築するプロジェクト (統括責任者久松理一) 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」. 平成29年度第1回総会, 東京, 2017年7月19-20日.
 52. 小林拓, 久松理一, 松本主之, 本谷聡, 仲瀬裕志, 渡辺憲治, 平井郁仁, 田中正則, 渡辺 守, 日比紀文: インフリキシマブ治療によって寛解維持された潰瘍性大腸炎患者に対するインフリキシマブ治療の中止および継続群の寛解維持率比較研究 (HAYABUSA) 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」. 平成29年度第1回総会, 東京, 2017年7月19-20日.
 53. 渡邊聡明, 畑啓介, 杉田昭, 池内浩基, 福島浩平, 二見喜太郎, 楠正人, 小山文一, 水島恒和, 板橋道朗, 木村英明, 安藤朗, 岡崎和一, 緒方晴彦, 金井隆典, 猿田雅之, 清水俊明, 仲瀬裕志, 中野雅, 中村志郎, 西脇祐司, 久松理一, 平井郁仁, 穂苅量太, 松岡克善, 松本主之, 鈴木康夫: クローン病再手術率の時代的変遷 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」. 平成29年度第1回総会, 東京, 2017年7月19-20日.
 54. 渡邊聡明, 畑啓介, 杉田昭, 池内浩基, 福島浩平, 二見喜太郎, 楠正人, 小山文一, 水島恒和, 板橋道朗, 木村英明, 安藤朗, 岡崎和一, 緒方晴彦, 金井隆典, 猿田雅之, 清水俊明, 仲瀬裕志, 中野雅, 中村志郎, 西脇祐司, 久松理一, 平井郁仁, 穂苅量太, 松岡克善, 松本主之, 鈴木康夫: 外科手術症例・内視鏡切除症例からみた潰瘍性大腸炎合併腫瘍の臨床病理学的検討 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」. 平成29年度第1回総会, 東京, 2017年7月19-20日.
 55. 江崎幹宏, 松本主之, 平井郁仁, 二見喜太郎, 中村志郎, 池内浩基, 渡辺憲治, 大宮直木, 中村正直, 半田修, 内藤裕二, 仲瀬裕志, 松浦稔, 藤谷幹浩, 遠藤克哉, 大森鉄平, 飯島英樹, 平岡佐規子, 蔵原晃一, 加藤順, 金城徹, 芦塚伸也, 山本章二郎, 竹島史直, 光山慶一, 猿田雅之, 石川大, 澁谷智義, 久松理一, 細江直樹, 緒方晴

- 彦, 長沼誠, 金井隆典, 小林拓, 日比紀文, 松岡克善, 長堀正和, 渡辺守, 竹内健, 鈴木康夫: クローン病術後再発に関するカプセル内視鏡評価の意義に関する検討 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」. 平成29年度第1回総会, 東京, 2017年7月19-20日.
56. 岡崎和一, 福井寿朗, 深田憲將, 大宮美香, 濱田円, 吉岡和彦, 仲瀬裕志, 妹尾浩, 松浦稔, 渡辺憲治, 池内浩基, 緒方晴彦, 久松理一, 鈴木康夫: 潰瘍性大腸炎(UC), クローン病(CD), 分類不能のIBD (IBD unclassified, IBDU), Indeterminate colitis (IC) における診断変遷症例の検討 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」. 平成29年度第1回総会, 東京, 2017年7月19-20日.
 57. 渡邊聡明, 畑啓介, 味岡洋一, 安藤朗, 池内浩基, 岡崎和一, 緒方晴彦, 金井隆典, 猿田雅之, 清水俊明, 杉田昭, 仲瀬裕志, 中野雅, 中村志郎, 西脇祐司, 久松理一, 平井郁仁, 福島浩平, 二見喜太郎, 穂刈量太, 松岡克善, 松本主之, 日比紀文, 渡辺守, 鈴木康夫: 潰瘍性大腸炎に対する癌サーベイランス法の確立—Target vs Random生検のランダム化比較試験のフォローアップスタディー 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」. 平成29年度第1回総会, 東京, 2017年7月19-20日.
 58. 杉田昭, 小金井一隆, 内野基, 二見喜太郎, 根津理一郎, 藤井久男, 舟山裕士, 渡邊聡明, 福島浩平, 板橋道朗, 篠崎大, 池内浩基, 荒木俊光, 高橋賢一, 水島恒和, 畑啓介, 植田剛, 亀山仁史, 久松理一: 腸管ペーチェット病, 単純性潰瘍の手術例の検討・特徴と予後—厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」. 平成29年度第1回総会, 東京, 2017年7月19-20日.
 59. 小林拓, 細江直樹, 松岡克善, 竹内健, 中野雅, 遠藤豊, 吉田篤史, 久松理一, 上野文昭, 金井隆典, 日比紀文, 渡辺守, 鈴木康夫, 緒方晴彦: 潰瘍性大腸炎における抗TNF α 抗体の治療効果判定・予後予測のための大腸カプセル内視鏡の有用性に関する前向き研究—便中カルプロテクチンとの比較を含めて— 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」. 平成29年度第1回総会, 東京, 2017年7月19-20日.
 60. 角田洋一, 木内喜孝, 中村志郎, 高川哲也, 花井洋行, 池谷賢太郎, 櫻庭裕丈, 西田淳史, 佐々木誠人, 岡庭紀子, 久松理一, 小林拓, 小野寺馨, 石黒陽, 篠崎大, 長沼誠, 平岡佐規子, 荒木寛司, 佐々木悠, 志賀永嗣, 本谷聡, 小野寺基之, 松岡克善, 藤谷幹浩, 佐藤雄一郎, 桂田武彦, 梁井俊一, 穂刈量太, 石原俊治, 新井勝大, 野口光彦, 中川倫夫, 加藤順, 杉田昭, 松浦稔, 遠藤克哉, 内藤健夫, 諸井林太郎, 黒羽正剛, 木村智哉, 金澤義丈, 安藤朗, 鈴木康夫, 下瀬川徹: チオプリン不耐症を判別するNUDT15遺伝子検査の開発を軸とした炎症性腸疾患治療薬に係る遺伝子マーカーの探索と臨床応用研究 (MENDEL Study) 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」. 平成29年度第1回総会, 東京, 2017年7月19-20日.
 61. 松本主之, 久松理一, 江崎幹宏, 平井郁仁, 梅野淳嗣, 平野敦士, 梁井俊一, 川崎啓祐, 中村昌太郎, 緒方晴彦, 細江直樹, 大宮直木, 渡辺憲治, 小林拓, 日比紀文: CEASの全国集計と遺伝子解析に関する研究 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」. 平成29年度第1回総会, 東京, 2017年7月19-20日.
 62. 細江直樹, 緒方晴彦, 長沼誠, 金井隆典, 久松理一, 大宮直木, 安川重義, 平井郁仁, 田邊寛, 岩下明德, 平野敦士, 梅野淳嗣, 江崎幹宏, 松本主之: chronic enteropathy associated with SLCO2A1 gene (CEAS)の胃粘膜病変の内視鏡像と病理学的な特徴の解明 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」. 平成29年度第1回総会, 東京, 2017年7月19-20日.
 63. 仲瀬裕志, 飯田智哉, 小野寺馨, 櫻井晃洋, 久松理一, 松本主之, 江崎幹宏, 国崎玲子, 松浦稔, 本谷聡, 小林拓, 日比紀文, 竹内健, 鈴木康夫: 家族性地中海熱遺伝子関連腸炎の診断法の確立並びに病態解明 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」. 平成29年度第1回総会, 東京, 2017年7月19-20日.
 64. 久松理一, 井上詠, 渡辺憲治, 谷田諭史, 国崎玲子, 小林清典, 長堀正和, 新井勝大, 内野基, 小金井一隆, 小林拓, 岳野光洋, 上野文昭, 松本主之, 鈴木康夫: 腸管型ペーチェット病診療ガイドライン作成 (鈴木班・水木班合同プロジェクト) 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」. 平成29年度第1回総会, 東京, 2017年7月19-20日.
 65. 渡辺憲治, 松本主之, 仲瀬裕志, 久松理一, 平井郁仁, 小林清典, 国崎玲子, 長堀正和, 竹内健, 大藤さとし, 福島若葉, 梁井俊一, 稲場勇平, 藤谷幹浩, 櫻庭裕丈, 角田洋一, 勝野達郎, 大森鉄平, 小林拓, 秋山純一, 本田穰, 佐藤公, 佐々木誠人, 谷田諭史, 加賀谷尚史, 馬場重樹, 安藤朗, 深田憲將, 岡崎和一, 細見周平, 湯川知洋, 鎌田紀子, 山上博一, 宮孝孝子, 樋田信幸, 中村志郎, 松浦稔, 平田敬, 石田哲也, 松本吏弘, 金城福則, 金城徹, 上野義隆, 田中信治, 渡辺知佳子, 穂刈量太, 高橋素真, 進士明宏, 北村和哉, 辻川知之, 山下真幸, 長沼誠, 鈴木康夫, 上野文昭, 日比紀文, 渡辺守: 特殊型炎症性腸疾患におけるアグリマブとステロイドの前向き無作為化比較試験Castle Study: 国内多施設共同試験 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」. 平成29年度第1回総会, 東京, 2017年7月19-20日.
 66. 西川かおり: 肝炎・肝硬変・肝がんにおける画像診断 (超音波) のポイント. 第6回福島リバーフォーラム, 福島, 2017年7月22日.
 67. 久松理一: 非特異性多発性小腸潰瘍症の責任遺伝子同定と今後の展望. 第10回鳥取県根消化器病懇親会, 松江, 2017年7月22日.
 68. 久松理一: 便通異常とIBS. 調布市医師会学術講演会, 調布, 2017年7月25日.
 69. 久松理一: 日常診療で注意すべき下痢—感染性腸炎と炎症性腸疾患の鑑別, 治療など—. 府中市医師会学術講演会, 府中, 2017年7月26日.
 70. 井上詠, 長堀正和, 久松理一: 腸管ペーチェットガイドライン作成の経過報告 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業 ペーチェット病に関する調査研究班. 平成29年度第1回会議, 横浜, 2017年7月28日.
 71. 久松理一: CD治療の新しい展開—Ustekinumabの特性と今後の展望—. ステララ発売記念講演会 in Gifu, 岐阜, 2017年8月2日.
 72. 久松理一: 腸管型ペーチェット病の最新知見/潰瘍性大腸炎治療の最新知見. 兵庫IBD連携ミーティング, 神戸, 2017年8月3日.
 73. 久松理一: 増加する炎症性腸疾患患者への対応—診断と治療のビットホールと医療連携—. 北多摩IBDミーティング, 立川, 2017年8月24日.
 74. 久松理一: IBDの病態と新規治療法/腸管ペーチェット病について. Upcoming IBD Strategy Seminar, 東京, 2017年8月30日.
 75. 久松理一: IBD治療のトピックス. 埼玉東部IBD EXPERT MEETING, さいたま, 2017年9月6日.

76. 徳永健吾: *H. pylori* 陰性時代における上部消化管疾患治療の新たな展望. 消化器病セミナー, 相模原, 2017年9月8日.
77. 久松理一: 炎症性腸疾患と脊椎関節炎. 第27回日本脊椎関節炎学会学術集会, 高知, 2017年9月9日.
78. 久松理一: ~最新の診断と治療~潰瘍性大腸炎のモニタリングにおけるカルプロテクチンの位置づけ. 東京IBDフォーラム2017, 東京, 2017年9月13日.
79. 久松理一: 潰瘍性大腸炎治療におけるチオプリン製剤と抗TNF α 抗体製剤の位置づけ. 第10回福島炎症性腸疾患セミナー, 福島, 2017年9月20日.
80. 久松理一: 腸管ペーチェット病とその類縁疾患. 第6回北海道IBD学術講演会, 札幌, 2017年9月22日.
81. Yoshida T, Watanabe S, Toki M, Nosaka T, Kikuchi O, Goto Y, Fukasawa Y, Ota, H, Ochiai K, Gondo K, Kurata I, Hasue T, Nakamura K, Yamaguchi Y, Mori H, Takahashi S, Hisamatsu T: The safety of continuation Antithrombotic Agents undergoing Percutaneous Transhepatic Biliary Drainage. Asian Pacific Digestive Week, Hong Kong, September 23rd-26th, 2017.
82. 落合一成, 土岐真朗, 後藤知之, 吉田翼, 深澤友里, 太田博崇, 榎藤興一, 渡邊俊介, 倉田勇, 蓮江智彦, 中村健二, 山口康晴, 森秀明, 久松理一: 総胆管結石による閉塞性黄疸を発症した初期妊婦に対しPTBDチューブ長期留置および出産後に結石除去術を施行した1例. 第53回日本胆道学会学術集会, 山形, 2017年9月28日.
83. 吉田翼: HCCに対するTACE合併症で胆嚢炎を発症しENGBDで加療し得た1例. 第53回日本胆道学会学術集会, 山形, 2017年9月28日.
84. 久松理一: IBD治療のup to date. 第346回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2017年9月30日.
85. 荻原良太, 倉田勇, 後藤知之, 吉田翼, 深澤友里, 落合一成, 太田博崇, 榎藤興一, 渡邊俊介, 蓮江智彦, 中村健二, 土岐真朗, 山口康晴, 森秀明, 高橋信一, 久松理一: 術前にEUS-FNAで確定診断し得た十二指腸神経内分泌腫瘍の1例. 第346回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2017年9月30日.
86. 藤麻武志, 關里和, 佐藤悦久, 川村直弘, 西川かおり, 森秀明, 久松理一: 当院で経験したデルタ肝炎の一症例. 第346回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2017年9月30日.
87. 森秀明: 腹部エコーマスター講座 STEP2: アドバンスドセミナー. アスリッドセミナー, 東京, 2017年10月1日.
88. 西川かおり: 腹部エコーマスター講座 アドバンスドセミナー 胆道・脾臓. アスリッド, 東京, 2017年10月1日.
89. 久松理一: ステラーラのメカニズムとクローン病治療における期待. 腸管免疫カンファレンスin城西, 東京, 2017年10月4日.
90. 渡邊俊介, 土岐真朗, 後藤知之, 吉田翼, 深澤友里, 太田博崇, 落合一成, 榎藤興一, 倉田勇, 蓮江智彦, 中村健二, 山口康晴, 森秀明, 高橋信一, 久松理一: 経乳頭の胆管挿管困難例に対するPTGBDランデブー法の有用性. 第94回日本消化器内視鏡学会総会, 福岡, 2017年10月10日.
91. 川村直弘, 清水孝夫, 關里和, 奥山秀平, 佐藤悦久, 西川かおり, 久松理一, 森秀明: 肝エラストグラフィにおける「到達時間等高線」表示の有用性の検討. JDDW2017, 福岡, 2017年10月12日.
92. 土岐真朗, 倉田勇, 後藤知之, 吉田翼, 深澤友里, 太田博崇, 落合一成, 榎藤興一, 渡邊俊介, 中村健二, 山口康晴, 両角克朗, 高橋信一, 久松理一: 内視鏡的結石除去術施行ハイリスク 症例に対する治療戦略. 第94回日本消化器内視鏡学会総会, 福岡, 2017年10月12日.
93. 久松理一: レーザーが切り拓く内視鏡診断・治療の最前線 症性腸疾患に対するLinked Color Imagingの有用性. JDDW2017, 福岡, 2017年10月12日.
94. 久松理一: 抗TNF製剤と免疫調整剤併用の是非—日本発のDIAMONDスタディから見たもの— hat has been seen from analysis of the reason for withdrawal-Physician's concerns and the risk factor of withdrawal-(DIAMOND study sub-analysis) . JDDW2017, 福岡, 2017年10月13日.
95. 三井達也, 齋藤大祐, 佐藤太龍, 箕輪慎太郎, 池崎修, 三浦みき, 櫻庭彰人, 林田真理, 徳永健吾, 森秀明, 久松理一: 高齢者憩室出血に対する特別な治療ストラテジーは必要か?—当院における大腸憩室出血の検討—. JDDW2017, 福岡, 2017年10月13日.
96. 齋藤大祐, 佐藤太龍, 箕輪慎太郎, 池崎修, 三井達也, 三浦みき, 櫻庭彰人, 林田真理, 徳永健吾, 森秀明, 久松理一: 潰瘍性大腸炎におけるメサラジン製剤に対する薬剤リンパ球刺激試験の有用性の評価. JDDW2017, 福岡, 2017年10月13日.
97. 三浦みき, 齋藤大祐, 佐藤太龍, 箕輪慎太郎, 池崎修, 三井達也, 櫻庭彰人, 林田真理, 徳永健吾, 森秀明, 久松理一: 当院における潰瘍性大腸炎に対する抗TNF- α 抗体製剤の治療成績. JDDW2017, 福岡, 2017年10月13日.
98. 尾崎良, 小林拓, 齋藤詠子, 豊永貴彦, 岡林慎二, 梅田智子, 中野雅, 松岡健太郎, 森永正二郎, 久松理一, 日比紀文: 潰瘍性大腸炎における組織学的再燃リスク因子の探索. JDDW2017, 福岡, 2017年10月13日.
99. 奥山秀平, 川村直弘, 清水孝夫, 關里和, 佐藤悦久, 西川かおり, 森秀明, 久松理一: 当院における肝硬変患者へのレボカルニチン製剤の効果について. JDDW2017, 福岡, 2017年10月13日.
100. 鈴木康夫, 渡辺守, 松井敏幸, 本谷聡, 久松理一, 湯浅博俊, 田平淳一, 五十嵐直樹, 新井洋子, 日比紀文: 活動期潰瘍性大腸炎患者におけるトファシニブ寛解維持試験 (国際共同P3臨床試験) の日本人部分集団解析. JDDW2017, 福岡, 2017年10月13日.
101. 渡邊俊介, 土岐真朗, 後藤知之, 吉田翼, 深澤友里, 太田博崇, 落合一成, 榎藤興一, 倉田勇, 蓮江智彦, 中村健二, 山口康晴, 森秀明, 高橋信一, 久松理一: 経乳頭の胆管挿管困難例に対するPTGBDランデブー法の有用性. JDDW2017, 福岡, 2017年10月13日.
102. 土岐真朗, 倉田勇, 後藤知之, 吉田翼, 深澤友里, 太田博崇, 落合一成, 榎藤興一, 渡邊俊介, 中村健二, 山口康晴, 両角克朗, 高橋信一, 久松理一: 内視鏡的結石除去術施行ハイリスク 症例に対する治療戦略. JDDW2017, 福岡, 2017年10月14日.
103. 新井健介, 大野亜希子, 楠原光謹, 田邊秀聡, 神保陽子, 畑英行, 山口康晴, 徳永健吾, 森秀明, 久松理一: 当院における胃ESDのlearning curveの検討. JDDW2017, 福岡, 2017年10月14日.
104. 奥山秀平, 川村直弘, 清水孝夫, 關里和, 佐藤悦久, 西川かおり, 森秀明, 久松理一: PBC患者の皮膚搔痒感に関してアンケート調査に基づく検討. JDDW2017, 福岡, 2017年10月14日.
105. 久松理一: IBDのReal World—患者目線で考える潰瘍性大腸炎の実臨床医師と患者の認識の乖離 Discrepancy of physician-patient recognition in IBD. JDDW2017, 福岡, 2017年10月14日.
106. Tokunaga K, Tanaka A, Saito D, Miura M, Hayashida M, Mori H, Takahashi S, Hisamatsu T: Efficacy of the dual therapy with vonoprazone and amoxicillin as the 3rd *Helicobacter pylori* eradication regimen based on amoxicillin susceptibility. American College

- of Gastroenterology (ACG) 2017 Annual Scientific Meeting, USA, October 15th, 2017.
107. Tanaka A, Tokunaga K, Takahashi S, Mori H, Hisamatsu T: *Helicobacter pylori* eradication therapy with a potassium-competitive acid blocker, metronidazole, and sitafloxacin in patients with penicillin-allergy. American College of Gastroenterology (ACG) 2017 Annual Scientific Meeting, USA, October 17th, 2017.
 108. 林田真理, 三浦みき, 徳永創太郎, 佐藤太龍, 箕輪慎太郎, 池崎修, 三井達也, 齋藤大祐, 櫻庭彰人, 正木忠彦, 久松理一: 当院におけるクローン病に対する外科治療適応症例についてのマネージメントについて 適正化を目指したクローン病, 腸管ペーチェット病の治療戦略. 第55回日本小腸学会学術集会, 京都, 2017年10月21日.
 109. 森秀明: 検診結果をどう読むか?—消化器疾患を中心とした経過観察と精査について—. 小平市医師会主催市民公開講座, 東京, 2017年10月21日.
 110. 久松理一: IBD診療におけるアドヒアランスの重要性/今後期待される新薬. 第18回宮崎IBD講演会, 宮崎, 2017年10月25日.
 111. 久松理一: IBDの最近の話題について. 第18回多摩GI-Endoscopy研究会, 小平, 2017年10月26日.
 112. 川村直弘: 肝疾患に於けるサルコペニア・肝細胞癌の治療. バイエル薬品社内勉強会, 東京, 2017年10月26日.
 113. 土岐真朗, 落合一成, 七条裕孝, 後藤知之, 吉田翼, 深澤友里, 太田博崇, 権藤興一, 渡邊俊介, 倉田勇, 蓮江智彦, 中村健二, 保坂利男, 山口康晴, 高橋信一, 森秀明, 石田均, 久松理一: 2型糖尿病に発症した膵癌の臨床的特徴についての検討—膵癌の早期発見をめざして—. 第32回日本糖尿病合併症学会日本糖尿病合併症学会総会, 東京, 2017年10月27日.
 114. 大野亜希子: 潰瘍性大腸炎に合併した早期大腸癌の1例. 多摩大腸疾患懇話会, 東京, 2017年10月28日.
 115. Naganuma M, Sugimoto S, Mitsuyama K, Kobayashi T, Yoshimura N, Matsuoka K, Hisamatsu T, Watanabe K, Abe T, Watanabe M, Suzuki Y, Hibi T, Kanai T: INDIGO study group. INDIGO NATURALIS IS EFFECTIVE FOR INDUCING CLINICAL REMISSION AND MUCOSAL HEALING IN PATIENTS WITH ULCERATIVE COLITIS (INDIGO STUDY). 25th United European Gastroenterology Week, Spain, October 28th, November 1st, 2017.
 116. 久松理一: CD治療の新しい展開—Ustekinumabの特性と今後の展望—. ステララ クローン病適応拡大記念講演会in愛媛, 松山, 2017年11月1日.
 117. 齋藤大祐, 佐藤太龍, 箕輪慎太郎, 池崎修, 三井達也, 三浦みき, 櫻庭彰人, 林田真理, 徳永健吾, 森秀明, 久松理一: 潰瘍性大腸炎におけるメサラジン製剤に対する薬剤リンパ球刺激試験の有用性の評価. 第72回日本大腸肛門病学会学術集会, 福岡, 2017年11月10-11日.
 118. 久松理一: IBDの新規治療薬オーバービュー. 第72回日本大腸肛門病学会学術集会, 福岡, 2017年11月10-11日.
 119. 川村直弘: 透析患者へのDAA治療. HCV expert seminar in Kichijoji, 武蔵野, 2017年11月15日.
 120. 久松理一: 潰瘍性大腸炎の治療—潰瘍性大腸炎の治療— up to date—. 潰瘍性大腸炎治療を考える会, 徳島, 2017年11月15日.
 121. 久松理一: クローン病の治療戦略を整理する—新薬を迎えて—. 第28回新潟炎症性腸疾患研究会, 新潟, 2017年11月16日.
 122. 森秀明: 知っておきたい腹部超音波診断. 葛飾医師会第347回超音波研究会, 東京, 2017年11月16日.
 123. 久松理一: 腸内細菌のトピックスと新しいIBD治療薬について. 杏林医学会市民公開講演会, 三鷹, 2017年11月18日.
 124. 徳永健吾, 田中昭文, 久松理一: *Helicobacter pylori* 3次除菌前における感染診断の再確認の重要性. 第45回日本潰瘍学会, 京都, 2017年11月20日.
 125. 久松理一: 潰瘍学への原点回帰 腸管ペーチェットと単純性潰瘍. 第45回日本潰瘍学会, 京都, 2017年11月20-21日.
 126. 徳永健吾, 田中昭文, 久松理一: *Helicobacter pylori* 3次除菌前における感染診断の再確認の重要性. 第45回日本潰瘍学会, 京都, 2017年11月20-21日.
 127. 久松理一: ステララのメカニズムとCD治療における期待. Ustekinumab Optimizer Meeting in YOKOHAMA, 横浜, 2017年11月22日.
 128. 久松理一: IBDの病態からみた抗TNF- α 阻害剤の有効性と課題. Johoku Biologics Summit, 東京, 2017年11月28日.
 129. 久松理一: 潰瘍性大腸炎における最新治療—Golimumabによる治療成績も含めて—. IBD Forum in 多摩・武蔵野, 立川, 2017年11月29日.
 130. 森久保拓, 三浦みき, 齋藤大祐, 佐藤太龍, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 池崎修, 三井達也, 櫻庭彰人, 林田真理, 松岡弘芳, 正木忠彦, 久松理一: 潰瘍性大腸炎患者治療における内科外科の連携—当院入院患者の成績から—. 第8回日本炎症性腸疾患学会学術集会, 東京, 2017年12月1日.
 131. 大島康太, 川村直弘, 野坂岳志, 清水孝夫, 關里和, 櫻庭彰人, 田中昭文, 佐藤悦久, 西川かおり, 森秀明, 久松理一, 小暮正晴, 杉山政則, 岡部直太, 菅間博: 造影超音波検査が診断に有用であった肝血管筋脂肪腫の1例. 第347回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2017年12月2日.
 132. 久松理一: IBDの新薬について. 日本炎症性腸疾患学会メディカルスタッフ教育セミナー, 東京, 2017年12月2日.
 133. 久松理一: 胃酸と腸内細菌叢の関連について. 大塚製薬社内研修会, 三鷹, 2017年12月6日.
 134. 田邊秀聡, 大野亜希子, 新井健介, 楠原光謹, 千葉知宏, 下山田博明, 柴原純二, 森秀明, 久松理一: 炭酸ランタン沈着症により特徴的の内視鏡所見を呈した1例. 第105回日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 東京, 2017年12月9-10日.
 135. 久松理一: JAK-STAT pathway. GS-6034 (Filgotinib) Meeting, 東京, 2017年12月9-10日.
 136. 久松理一: クローン病のトピックス—ウステキヌマブのメカニズムを含めて—. Cronh's Disease Web Seminar, web, 2017年12月13日.
 137. 久松理一: コンセンサスガイドラインについて. 第36回IBD&ペーチェット病研究会, 東京, 2017年12月15日.
 138. 森秀明: 超音波所見を極める「肝臓」. 超音波スクリーニング研修講演会2017, 東京, 2017年12月16日.
 139. 久松理一: クローン病の診断と治療 up to date. 神戸IBD Clinical Forum, 神戸, 2018年1月6日.
 140. 久松理一: クローン病におけるInfliximab治療マネージメント. Upcoming Infliximab Strategy Seminar, 松本, 2018年1月13日.
 141. 久松理一: 抗TNF製剤によるIBD治療を整理する. IBD最新情報報告会, 東京, 2018年1月17日.
 142. 久松理一, 鈴木康夫, 猿田雅之, 長堀正和, 池内浩基: IBDの病診連携を構築するプロジェクト—進捗報告— (統括責任者 久松理一) 厚生労働科学研究費難治性

- 疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」. 平成29年度第2回総会, 東京, 2018年1月18-19日.
143. 畑啓介, 杉田昭, 池内浩基, 福島浩平, 二見喜太郎, 楠正人, 小山文一, 水島恒和, 板橋道朗, 木村英明, 安藤朗, 岡崎和一, 緒方晴彦, 金井隆典, 猿田雅之, 清水俊明, 仲瀬裕志, 中野雅, 中村志郎, 西脇祐司, 久松理一, 平井郁仁, 穂刈量太, 松岡克善, 松本主之, 鈴木康夫: 潰瘍性大腸炎に合併した **dysplasia, cancer** の外科治療指針 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」. 平成29年度第2回総会, 東京, 2018年1月18-19日.
 144. 小林拓, 久松理一, 松本主之, 本谷聡, 仲瀬裕志, 渡辺憲治, 平井郁仁, 田中正則, 渡辺守, 日比紀文: インフリキシマブ治療によって寛解維持された潰瘍性大腸炎患者に対するインフリキシマブ治療の中止および継続群の寛解維持率比較研究 (HAYABUSA) 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」. 平成29年度第2回総会, 東京, 2018年1月18-19日.
 145. 畑啓介, 杉田昭, 池内浩基, 福島浩平, 二見喜太郎, 楠正人, 小山文一, 水島恒和, 板橋道朗, 木村英明, 安藤朗, 岡崎和一, 緒方晴彦, 金井隆典, 猿田雅之, 清水俊明, 仲瀬裕志, 中野雅, 中村志郎, 西脇祐司, 久松理一, 平井郁仁, 穂刈量太, 松岡克善, 松本主之, 鈴木康夫: クロウン病再手術率の時代的変遷 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」. 平成29年度第2回総会, 東京, 2018年1月18-19日.
 146. 江崎幹宏, 松本主之, 平井郁仁, 二見喜太郎, 中村志郎, 池内浩基, 渡辺憲治, 大宮直木, 中村正直, 半田修, 内藤裕二, 仲瀬裕志, 松浦稔, 藤谷幹浩, 遠藤克哉, 大森鉄平, 飯島英樹, 平岡佐規子, 蔵原晃一, 加藤順, 金城徹, 芦塚伸也, 山本章二郎, 竹島史直, 光山慶一, 猿田雅之, 石川大, 澁谷智義, 久松理一, 細江直樹, 緒方晴彦, 長沼誠, 金井隆典, 小林拓, 日比紀文, 松岡克善, 長堀正和, 渡辺守, 竹内健, 鈴木康夫: クロウン病術後再発に関するカプセル内視鏡評価の意義に関する検討 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」. 平成29年度第2回総会, 東京, 2018年1月18-19日.
 147. 岡崎和一, 福井寿朗, 深田憲将, 大宮美香, 濱田円, 吉岡和彦, 仲瀬裕志, 妹尾浩, 松浦稔, 渡辺憲治, 池内浩基, 緒方晴彦, 久松理一, 鈴木康夫: 潰瘍性大腸炎 (UC), クロウン病 (CD), 分類不能のIBD (IBD unclassified, IBDU), Indeterminate colitis (IC) における診断変遷症例の検討 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」. 平成29年度第2回総会, 東京, 2018年1月18-19日.
 148. 畑啓介, 味岡洋一, 安藤朗, 池内浩基, 岡崎和一, 緒方晴彦, 金井隆典, 猿田雅之, 清水俊明, 杉田昭, 仲瀬裕志, 中野雅, 中村志郎, 西脇祐司, 久松理一, 平井郁仁, 福島浩平, 二見喜太郎, 穂刈量太, 松岡克善, 松本主之, 日比紀文, 渡辺守, 鈴木康夫: 潰瘍性大腸炎に対する癌サーベイランス法の確立-Target vs Random生検のランダム化比較試験のフォローアップスタディー 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」. 平成29年度第2回総会, 東京, 2018年1月18-19日.
 149. 杉田昭, 小金井一隆, 内野基, 二見喜太郎, 根津理一郎, 藤井久男, 舟山裕士, 渡邊聡明, 福島浩平, 板橋道朗, 篠崎大, 池内浩基, 荒木俊光, 高橋賢一, 水島恒和, 畑啓介, 植田剛, 亀山仁史, 久松理一: 腸管パーチェット病, 単純性潰瘍の手術例の検討—特徴と予後— 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」. 平成29年度第2回総会, 東京, 2018年1月18-19日.
 150. 細江直樹, 緒方晴彦, 長沼誠, 金井隆典, 久松理一, 大宮直木, 安川重義, 平井郁仁, 田邊寛, 岩下明德, 平野敦士, 梅野淳嗣, 江崎幹宏, 松本主之: **chronic enteropathy associated with SLC2A1 gene (CEAS)** の胃粘膜病変の内視鏡像と病理学的な特徴の解明 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」. 平成29年度第2回総会, 東京, 2018年1月18-19日.
 151. 仲瀬裕志, 飯田智哉, 小野寺馨, 櫻井晃洋, 久松理一, 松本主之, 江崎幹宏, 国崎玲子, 松浦稔, 本谷聡, 小林拓, 日比紀文, 竹内健, 鈴木康夫: 家族性地中海熱遺伝子関連腸炎の診断法の確立並びに病態解明 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」. 平成29年度第2回総会, 東京, 2018年1月18-19日.
 152. 久松理一, 井上詠, 渡辺憲治, 谷田諭史, 国崎玲子, 小林清典, 長堀正和, 新井勝大, 内野基, 小金井一隆, 小林拓, 岳野光洋, 上野文昭, 松本主之, 鈴木康夫: 腸管型パーチェット病診療ガイドライン作成 (鈴木班・水木班合同プロジェクト) 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」. 平成29年度第2回総会, 東京, 2018年1月18-19日.
 153. 渡辺憲治, 松本主之, 仲瀬裕志, 久松理一, 平井郁仁, 小林清典, 国崎玲子, 長堀正和, 竹内健, 大藤さとし, 福島若葉, 梁井俊一, 稲場勇平, 藤谷幹浩, 櫻庭裕丈, 角田洋一, 勝野達郎, 大森鉄平, 小林拓, 秋山純一, 本田穰, 佐藤公, 佐々木誠人, 谷田諭史, 加賀谷尚史, 馬場重樹, 安藤朗, 深田憲将, 岡崎和一, 細見周平, 湯川知洋, 鎌田紀子, 山上博一, 宮寄孝子, 樋田信幸, 中村志郎, 松浦稔, 平田敬, 石田哲也, 松本吏弘, 金城福則, 金城徹, 上野義隆, 田中信治, 渡辺知佳子, 穂刈量太, 高橋素真, 進士明宏, 北村和哉, 辻川知之, 山下真幸, 長沼誠, 鈴木康夫, 上野文昭, 日比紀文, 渡辺守: 特殊型炎症性腸疾患におけるアグリマブとステロイドの前向き無作為化比較試験 **Castle Study**: 国内多施設共同試験 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」. 平成29年度第2回総会, 東京, 2018年1月18-19日.
 154. 久松理一, 三浦みき, 清水泰岳, 新井勝大, 清水俊明, 岩間達, 仲瀬裕志: 本邦の炎症性腸疾患患者におけるEBウイルス感染状況に関する多施設共同研究 厚生労働科学研究費難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」. 平成29年度第2回総会, 東京, 2018年1月18-19日.
 155. 久松理一: 炎症性腸疾患治療における新たに登場する分子標的治療薬～mode of actionからみた抗TNF α 抗体製剤との相違点～. 第204回日本消化器病学会東北支部例会, 仙台, 2018年2月2日.
 156. 大島康太, 新井健介, 大野亜希子, 八谷隆仁, 佐藤太龍, 太田博崇, 關里和, 川村直弘, 西川おかり, 森秀明, 久松理一: 門脈圧亢進症により痔出血を繰り返した1例. 第58回三多摩肝臓懇話会, 武蔵野, 2018年2月2日.
 157. 久松理一: IBDと類縁疾患. 第18回日本小児IBD研究会, 東京, 2018年2月4日.
 158. 三浦みき, 齋藤大祐, 森久保拓, 菊地翁輝, 佐藤太龍, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 池崎修, 三井達也, 櫻庭彰人, 林田真理, 松岡弘芳, 森秀明, 正木忠彦, 久松理一: 当院の入院潰瘍性大腸炎患者治療における内科と外科の連携 潰瘍性大腸炎治療における内科と外科の連携. 第14回日本消化管学会総会, 東京, 2018年2月9-10日.
 159. Hisamatsu T, Matsumoto T, Watanabe K, Nakase H, Motoya S, Yoshimura N, Ishida T, Kato S, Nakagawa T, Esaki M, Nagahori M, Matsui T, Naito Y, Kanai T, Suzuki Y, Nojima N, Watanabe M, Hibi T: DIAMOND

study group. 13th Congress of ECCO, Austria, February 14th-17th, 2018.

160. 小栗典明, 櫻庭彰人, 森久保拓, 佐藤太龍, 菊地翁輝, 徳永創太郎, 箕輪慎太郎, 池崎修, 三井達也, 三浦みき, 齋藤大祐, 林田真理, 森秀明, 久松理一, 大崎敬子, 神谷茂, 岡部直太, 大窪泰弘, 柴原純二: binary toxin陽性株による市中感染重症型Clostridium difficile感染症の一例. 第348回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2018年2月17日.
161. Naganuma M, Sugimoto S, Mitsuyama K, Kobayashi T, Yoshimura N, Ohi H, Matsuoka K, Hisamatsu T, Watanabe K, Abe T, Watanabe M, Hibi T, Suzuki Y, Kanai T: INDIGO study group. Indigo naturalis induces mucosal healing in patients with ulcerative colitis: A multicentre randomised controlled trial. 13th Congress of ECCO, Austria, February 14th-17th, 2018.
162. 大野亜希子: 深部大腸病変に対するシングルバルーンオーバーチューブを用いた大腸ESDの検討. 第37回多摩消化器シンポジウム, 東京, 2018年2月24日.
163. 森秀明: 健診と消化器疾患. 群馬診連携講演会, 高崎, 2018年2月24日.
164. 久松理一: 「IBDの新規治療薬について」～病態とメカニズムを理解せずして使うべからず～. 第14回IBD Schola, 府中, 2018年2月24-25日.
165. 大野亜希子: 内視鏡診断と女性医師の役割. Tokyo Multi-care Woman's Forum, 東京, 2018年2月25日.
166. 久松理一: IBDと皮膚病変. 三鷹 皮膚科・内科関連疾患フォーラム, 三鷹, 2018年2月28日.
167. 久松理一: 「腸管バーチェット病の新しい診療ガイドラインについて」. 第7回北東北IBD研究会, 盛岡, 2018年3月4日.
168. 平塚智也, 池崎修, 箕輪慎太郎, 櫻庭彰人, 林田真理, 森秀明, 岡部直太, 柴原純二, 高山信之, 久松理一: サルモネラ感染性大動脈瘤が十二指腸憩室に穿破した1例. 第640回日本内科学会関東地方会, 東京, 2018年3月10日.
169. 久松理一: IBDの治療戦略～分子標的治療薬をどう使うか?～. 第17回所沢IBDセミナー, 所沢, 2018年3月14日.
170. 久松理一: 腸管バーチェット病とCEAS. 第7回城南炎症性腸疾患フォーラム, 東京, 2018年3月15日.

論 文

1. 榎藤興一, 土岐真朗, 後藤知之, 吉田翼, 深澤友里, 太田博崇, 落合一成, 渡邊俊介, 倉田勇, 蓮江智彦, 中村健二, 徳永健吾, 山口康晴, 両角克朗, 森秀明, 高橋信一, 久松理一: 高齢者(80歳以上)の膵癌による胆管閉塞に対するSelf-Expandable Metallic Stentの有用性と安全性についての検討. 日本高齢消化器病学会誌 19: 39-43, 2017.
2. Kawano Y¹, Kishino T², Ohnishi H³, Sugiyama M⁴, Mori H, Nishikawa K, Matsushima S³, Ohtsuka K³, Mochizuki M⁵, Watanabe T³ (¹Department of Clinical Laboratory, ²Department of Clinical Engineering, Kyorin University Faculty of Health Sciences, ³Department of Laboratory Medicine, ⁴Department of Surgery, ⁵Department of Pathology): Mass-forming pancreatitis possibly due to localized obstructive chronic pancreatitis: sonographic characteristics. Rinsho Byori 65: 860-864, 2017.
3. 徳永健吾, 久松理一: 昨年, 除菌療法を受けてヘリコバクター・ピロリが消えました. それでも毎年胃の検査が必要と言われたのですが本当でしょうか?. 内科増大 120: 427-428, 2017.
4. 徳永健吾, 久松理一: 十二指腸潰瘍を繰り返していてヘリコバクター・ピロリ感染が原因と診断されています.

ペニシリンアレルギーのため除菌できないと言われたのですが, 諦めるしかないのでしょうか?. 内科増大 120: 425-426, 2017.

5. 徳永健吾, 久松理一: 人間ドックでヘリコバクター・ピロリに感染していると言われました. 何も症状はないのですが, 除菌をするべきでしょうか?. 内科増大 120: 422-424, 2017.
6. 久松理一: 炎症性腸疾患診療の最前線 Crohn病内科的治療の最前線. 日本大腸肛門病会誌 70(10): 601-610, 2017.
7. Hosoe N¹, Ohmiya N², Hirai F³, Umeno J⁴, Esaki M⁴, Yamagami H⁶, Onodera K⁶, Bamba S⁷, Imaeda H⁸, Yanai S⁹, Hisamatsu T, Ogata H¹, Matsumoto T⁹; CEAS atlas group (¹Center for Diagnostic and Therapeutic Endoscopy, School of Medicine, Keio University, ²Department of Gastroenterology, School of Medicine, Fujita Health University, ³Department of Gastroenterology, Fukuoka University Chikushi Hospital, ⁴Department of Medicine and Clinical Science, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University, ⁵Department of Gastroenterology, Osaka City University Graduate School of Medicine, ⁶Department of Gastroenterology and Hepatology, Sapporo Medical University School of Medicine, ⁷Department of Medicine, Shiga University of Medical Science, ⁸Department of Gastroenterology, Saitama Medical University, ⁹Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, School of Medicine, Iwate Medical University): Chronic enteropathy associated with SLCO2A1 gene (CEAS)-Characterization of an enteric disorder to be considered in the differential diagnosis of Crohn's disease. J Crohns Colitis. 11(10): 1277-1281, 2017. DOI: 10.1093/ecco-jcc/jjx068.
8. Nakamura M¹, Qverty A¹, Uehara A¹, Oda M², Takahashi S, Murayama S³, Matsui H⁴ (¹School of Pharmacy, Kitasato Univ., ²International Univ. of Health and Welfare ³School of Pharmacy, Nihon Univ., ⁴Kitasato Institute for Life Sciences, Kitasato Univ.): Significance of cholinergic and peptidergic nerves in stress-induced ulcer and MALT Lymphoma formation. Current Pharmaceutical Design 23: 3993-3996, 2017.
9. Nakase H¹, Motoya S², Matsumoto T³, Watanabe K⁴, Hisamatsu T, Yoshimura N⁵, Ishida T⁶, Kato S⁷, Nakagawa T⁸, Esaki M⁹, Nagahori M¹⁰, Matsui T¹¹, Naito Y¹², Kanai T¹³, Suzuki Y¹⁴, Nojima M¹⁵, Watanabe M¹⁰, Hibi T¹⁶; DIAMOND study group (¹Department of Gastroenterology and Hepatology, Sapporo Medical University School of Medicine, ²IBD Center, Sapporo-Kosei General Hospital, ³Division of Gastroenterology, Department of Medicine, Iwate Medical University, ⁴Department of Intestinal Inflammation Research, Hyogo College of Medicine, ⁵Department of Medicine, Division of Gastroenterology, Tokyo Yamate Medical Center, ⁶Ishida Clinic of IBD and Gastroenterology, ⁷Department of Gastroenterology and Hepatology, Saitama Medical Center, Saitama Medical University, ⁸Department of Gastroenterology and Nephrology, Graduate School of Medicine, Chiba University, ⁹Department of Medicine and Clinical Science, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University, ¹⁰Department of Gastroenterology and Hepatology, Tokyo Medical and Dental University, ¹¹Department of Gastroenterology, Fukuoka University Chikushi Hospital, ¹²Department of Molecular Gastroenterology and Hepatology, Kyoto

- Prefectural University of Medicine, ¹³Department of Internal Medicine, School of Medicine, Keio University, ¹⁴Department of Internal Medicine, Toho University Sakura Medical Center, ¹⁵Center for Translational Research, The Institute of Medical Science Hospital, The University of Tokyo, ¹⁶Center for Advanced IBD Research and Treatment, Kitasato University): Significance of measurement of serum trough level and anti-drug antibody of adalimumab as personalised pharmacokinetics in patients with Crohn's disease: a subanalysis of the DIAMOND trial. *Aliment Pharmacol Ther*, 46(9): 873-882, 2017.
10. Watanabe K¹, Matsumoto T², Hisamatsu T, Nakase H³, Motoya S⁴, Yoshimura N⁵, Ishida T⁶, Kato S⁷, Nakagawa T⁸, Esaki M⁹, Nagahori M¹⁰, Matsui T¹¹, Naito Y¹², Kanai T¹³, Suzuki Y¹⁴, Nojima M¹⁵, Watanabe M¹⁰, Hibi T¹⁶ ;DIAMOND study group (¹Department of Intestinal Inflammation Research, Hyogo College of Medicine, ²Division of Gastroenterology, Department of Medicine, Iwate Medical University, ³Department of Gastroenterology and Hepatology, Sapporo Medical University School of Medicine, ⁴Inflammatory Bowel Disease Center, Sapporo Kosei General Hospital, ⁵Department of Medicine, Division of Gastroenterology, Tokyo Yamate Medical Center, ⁶Ishida Clinic of IBD and Gastroenterology, ⁷Department of Gastroenterology and Hepatology, Saitama Medical Center, Saitama Medical University, ⁸Department of Gastroenterology and Nephrology, Graduate School of Medicine, Chiba University, ⁹Department of Medicine and Clinical Science, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University, ¹⁰Department of Gastroenterology and Hepatology, Tokyo Medical and Dental University, ¹¹Department of Gastroenterology, Fukuoka University Chikushi Hospital, ¹²Department of Molecular Gastroenterology and Hepatology, Kyoto Prefectural University of Medicine, ¹³Department of Internal Medicine, School of Medicine, Keio University, ¹⁴Department of Internal Medicine, Toho University Sakura Medical Center, ¹⁵Center for Translational Research, The Institute of Medical Science Hospital, The University of Tokyo, ¹⁶Center for Advanced IBD Research and Treatment, Kitasato University): Clinical and pharmacokinetic factors associated with adalimumab-induced mucosal healing in patients with Crohn's disease. *Clin Gastroenterol Hepatol*. 2017. pii: S1542-3565(17) 31303-4.
 11. Naganuma M¹, Sugimoto S¹, Mitsuyama K², Kobayashi T³, Yoshimura N⁴, Ohi H⁵, Tanaka S⁶, Andoh A⁷, Ohmiya N⁸, Saigusa K⁹, Yamamoto T¹⁰, Morohoshi Y¹¹, Ichikawa H¹², Matsuoka K¹³, Hisamatsu T, Watanabe K¹⁴, Mizuno S¹, Suda W¹⁵, Hattori M¹⁶, Fukuda S¹⁷, Hirayama A¹⁷, Abe T¹⁸, Watanabe M¹³, Hibi T³, Suzuki Y¹⁹, Kanai T²¹ ;INDIGO Study Group (¹Division of Gastroenterology and Hepatology Department of Internal Medicine Keio University School of Medicine, ²Division of Gastroenterology Department of Medicine Kurume University School of Medicine, ³Center for Advanced IBD Research and Treatment Kitasato University Kitasato Institute Hospital, ⁴Department of Internal Medicine Division of IBD Tokyo Yamate Medical Center, ⁵Department of Gastroenterology Imamura Hospital Kagoshima, ⁶Department of Endoscopy and Medicine Hiroshima University Hospital, ⁷Department of Medicine Shiga University of Medical Science, ⁸Department of Gastroenterology Fujita Health University School of Medicine, ⁹Department of Medicine Tokyo Saiseikai Central Hospital, ¹⁰IBD Center Yokkaichi Hazu Medical Center, ¹¹Department of Medicine Yokohama Municipal Citizen's Hospital, ¹²Department of Gastroenterology Tokai University Hachioji Hospital, ¹³Department of Gastroenterology and Hepatology Tokyo Medical and Dental University, ¹⁴The Third Department of Internal Medicine Kyorin University School of Medicine, ¹⁵Division of Gastroenterology Osaka City General Hospital Osaka Japan; Department of Intestinal Inflammation Research Hyogo College of Medicine, ¹⁶Department of Immunology Keio University School of Medicine Tokyo Japan; Laboratory of Metagenomics Graduate School of Frontier Sciences, ¹⁷Laboratory of Metagenomics Graduate School of Frontier Sciences The University of Tokyo Chiba Japan Graduate School of Advanced Science and Engineering Waseda University, ¹⁸Institute for Advanced Biosciences Keio University, ¹⁹Department of Preventive Medicine and Public Health Biostatistics Unit at Clinical and Translational Research Center Keio University School of Medicine, ²⁰Department of Gastroenterology Department of Internal Medicine Toho University Sakura Medical Center, ²¹Division of Gastroenterology and Hepatology, Department of Internal Medicine, Keio University School of Medicine) : Efficacy of Indigo naturalis in a Multicenter Randomized Controlled Trial of Patients with Ulcerative Colitis. *Gastroenterology*. 2017. pii: S0016-5085 (17) 36382-5.
 12. Mizuno S¹, Wakui M², Machida Y¹, Hosoe N³, Hisamatsu T, Ishida T⁴, Kameyama K⁵, Naganuma M¹, Kanai T¹ (¹Division of Gastroenterology and Hepatology Department of Internal Medicine, ²Department of Laboratory Medicine, ³Center for Diagnostic and Therapeutic Endoscopy, ⁴Department of Surgery, ⁵Department of Pathology Keio University School of Medicine) : Increased levels of prostaglandin E-major urinary metabolite (PGE-MUM) in active mesenteric panniculitis patients A case report. *Medicine (Baltimore)*. 96(51) : e9237, 2017.
 13. 徳永健吾, 田中昭文, 大森嘉彦, 高橋信一, 久松理一 : 黄色腫. *Helicobacter Research* 21 : 660-663, 2017.
 14. 野坂岳志, 倉田勇, 後藤知之, 吉田翼, 深澤友里, 太田博崇, 落合一成, 権藤興一, 大森嘉彦¹, 渡邊俊介, 中里徹矢², 土岐真朗, 高橋信一, 杉山政則², 森秀明, 久松理一(1杏林大・医・病理学教室, 2杏林大・医・一般外科) : 胆嚢癌合併胆石胆嚢炎に対して内視鏡的経鼻胆嚢ドレナージ術 (ENGBD) により加療診断し得た1例. *Progress of Digestive Endoscopy* 91(1): 190-191, 2017.
 15. 深澤友里, 土岐真朗, 後藤知之, 吉田翼, 太田博崇, 落合一成, 権藤興一, 渡邊俊介, 岡野尚弘¹, 倉田勇, 小暮正晴², 立石秀勝³, 鈴木裕², 仲村明恒³, 下山田博明⁴, 望月眞⁴, 柴原純二⁴, 森秀明, 古瀬純司¹, 久松理一, 杉山政則²(1杏林大・医・腫瘍内科, 2杏林大・医・一般消化器外科, 3杏林大・医・放射線科, 4杏林大・医・病理学教室) : 短期間の膵炎再発により診断に至った膵癌の一例. *杏林医学会雑誌* 48(4): 129-135, 2017.
 16. Umeno J¹, Esaki M¹, Hirano A¹, Fuyuno Y¹, Ohmiya N², Yasukawa S³, Hirai F³, Kochi S⁴, Kurahara K⁴, Yanai S⁵, Uchida K⁶, Hosomi S⁷, Watanabe K^{7,8},

Hosoe N⁹, Ogata H⁹, Hisamatsu T, Nagayama M¹⁰, Yamamoto H¹⁰, Abukawa D¹², Kakuta F¹², Onodera K¹², Matsui T³, Hibi T¹³, Yao T¹⁴, Kitazono T¹, Matsumoto T^{15,16}; CEAS study group (1Department of Medicine and Clinical Science Graduate School of Medical Sciences Kyushu University Department of Gastroenterology, 2 Fujita Health University School of Medicine, 3Department of Gastroenterology, Fukuoka University Chikushi Hospital, 4Department of Gastroenterology, Matsuyama Red Cross Hospital, 5Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, School of Medicine, Iwate Medical University, 6Department of Gastrointestinal and Pediatric Surgery Mie University Graduate School of Medicine, 7Department of Gastroenterology Osaka City University Graduate School of Medicine, 8Department of Intestinal Inflammation Research Hyogo College of Medicine, 9Center for Diagnostic and Therapeutic Endoscopy, Keio University School of Medicine, 10Division of Gastroenterology Department of Medicine Jichi Medical University, 11Department of General Pediatrics Miyagi Children's Hospital, 12Department of Gastroenterology and Hepatology Sapporo Medical University School of Medicine, 13Center for Advanced IBD Research and Treatment, Kitasato University Kitasato Institute Hospital, 14Sada Hospital, 15Department of Medicine and Clinical Science Graduate School of Medical Sciences Kyushu University, 16Division of Gastroenterology Department of Internal Medicine School of Medicine Iwate Medical University) : Clinical features of chronic enteropathy associated with SLC02A1 gene: a new entity clinically distinct from Crohn's disease. *J Gastroenterol*, 2018. DOI: 10.1007/s00535-017-1426-y.

17. Park DI¹, Hisamatsu T, Chen M², Ng SC³, Ooi CJ⁴, Wei SC⁵, Banerjee R⁶, Hilmi IN⁷, Jeon YT⁸, Han DS⁹, Kim HJ¹⁰, Ran Z¹¹, Wu K¹², Qian J¹³, Hu PJ¹⁴, Matsuoka K¹⁵, Andoh A¹⁶, Suzuki Y¹⁷, Sugano K¹⁸, Watanabe M¹⁵, Hibi T¹⁹, Puri AS²⁰, Yang SK²¹ (1Department of Internal Medicine, Kangbuk Samsung Hospital, Sungkyunkwan University, 2Department of Gastroenterology, The First Affiliated Hospital, Sun Yat-sen University, 3Department of Medicine and Therapeutics, 4Institute of Digestive Disease, LKS Institute of Health Science, State Key Laboratory of Digestive Disease, The Chinese University of Hong Kong, Gleneagles Medical Centre and Duke-NUS Medical School, 5Department of Internal Medicine, National Taiwan University Hospital, 6Department of Medical Gastroenterology, 7Asian Institute of Gastroenterology Hyderabad India, 8Department of Medicine, University of Malaya, 9Department of Internal Medicine, Korea University College of Medicine, 10Department of Internal Medicine, Hanyang University Guri Hospital, 11Department of Internal Medicine, Kyung Hee University School of Medicine, 12Department of Gastroenterology, Shanghai Jiao Tong University, 13Department of Gastroenterology, Fourth Military Medical University, 14Department of Gastroenterology, Peking Union Medical College, 15Department of Gastroenterology and Hepatology, Tokyo Medical and Dental University, 16Department of Gastroenterology, Shiga University, 17Department of Internal Medicine, Toho University, Sakura, 18Department of Medicine,

Jichi Medical University, 19Center for Advanced IBD Research and Treatment, Kitasato University, 20Department of Gastroenterology, Govind Ballabh Pant Institute of Postgraduate Medical Education and Research, New Delhi, India, 21Department of Gastroenterology, Asan Medical Center, University of Ulsan College of Medicine) : Asian Organization for Crohn's and Colitis and Asia Pacific Association of Gastroenterology consensus on tuberculosis infection in patients with inflammatory bowel disease receiving anti-tumor necrosis factor treatment. Part 1: risk assessment. *Intest Res*, 16(1): 4-16, 2018.

18. Park DI¹, Hisamatsu T, Chen M², Ng SC³, Ooi CJ⁴, Wei SC⁵, Banerjee R⁶, Hilmi IN⁷, Jeon YT⁸, Han DS⁹, Kim HJ¹⁰, Ran Z¹¹, Wu K¹², Qian J¹³, Hu PJ¹⁴, Matsuoka K¹⁵, Andoh A¹⁶, Suzuki Y¹⁷, Sugano K¹⁸, Watanabe M¹⁵, Hibi T¹⁹, Puri AS²⁰, Yang SK²¹ (1Department of Internal Medicine, Kangbuk Samsung Hospital, Sungkyunkwan University, 2Department of Gastroenterology, The First Affiliated Hospital, Sun Yat-sen University, 3Department of Medicine and Therapeutics, 4Institute of Digestive Disease, LKS Institute of Health Science, State Key Laboratory of Digestive Disease, The Chinese University of Hong Kong, Gleneagles Medical Centre and Duke-NUS Medical School, 5Department of Internal Medicine, National Taiwan University Hospital, 6Department of Medical Gastroenterology, 7Asian Institute of Gastroenterology Hyderabad India, 8Department of Medicine, University of Malaya, 9Department of Internal Medicine, Korea University College of Medicine, 10Department of Internal Medicine, Hanyang University Guri Hospital, 11Department of Internal Medicine, Kyung Hee University School of Medicine, 12Department of Gastroenterology, Shanghai Jiao Tong University, 13Department of Gastroenterology, Fourth Military Medical University, 14Department of Gastroenterology, Peking Union Medical College, 15Department of Gastroenterology and Hepatology, Tokyo Medical and Dental University, 16Department of Gastroenterology, Shiga University, 17Department of Internal Medicine, Toho University, Sakura, 18Department of Medicine, Jichi Medical University, 19Center for Advanced IBD Research and Treatment, Kitasato University, 20Department of Gastroenterology, Govind Ballabh Pant Institute of Postgraduate Medical Education and Research, New Delhi, India, 21Department of Gastroenterology, Asan Medical Center, University of Ulsan College of Medicine) : Asian Organization for Crohn's and Colitis and Asia Pacific Association of Gastroenterology consensus on tuberculosis infection in patients with inflammatory bowel disease receiving anti-tumor necrosis factor treatment. Part 2: management. *Intest Res*, 16(1): 17-25, 2018.
19. Park DI¹, Hisamatsu T, Chen M², Ng SC³, Ooi CJ⁴, Wei SC⁵, Banerjee R⁶, Hilmi IN⁷, Jeon YT⁸, Han DS⁹, Kim HJ¹⁰, Ran Z¹¹, Wu K¹², Qian J¹³, Hu PJ¹⁴, Matsuoka K¹⁵, Andoh A¹⁶, Suzuki Y¹⁷, Sugano K¹⁸, Watanabe M¹⁹, Hibi T²⁰, Puri AS²¹, Yang SK²² (1Department of Internal Medicine, Kangbuk Samsung Hospital, Sungkyunkwan University, 2Department of Gastroenterology, The First Affiliated Hospital, Sun Yat-sen University, 3Department of Medicine and Therapeutics,

- ⁴Institute of Digestive Disease, LKS Institute of Health Science, State Key Laboratory of Digestive Disease, The Chinese University of Hong Kong, Gleneagles Medical Centre and Duke-NUS Medical School,⁵Department of Internal Medicine, National Taiwan University Hospital, ⁶Department of Medical Gastroenterology, ⁷Asian Institute of Gastroenterology Hyderabad India, ⁸Department of Medicine, University of Malaya, ⁹Department of Internal Medicine, Korea University College of Medicine, ¹⁰Department of Internal Medicine, Hanyang University Guri Hospital, ¹¹Department of Internal Medicine, Kyung Hee University School of Medicine, ¹²Department of Gastroenterology, Shanghai Jiao Tong University, ¹³Department of Gastroenterology, Fourth Military Medical University, ¹⁴Department of Gastroenterology, Peking Union Medical College, ¹⁵Department of Gastroenterology and Hepatology, Tokyo Medical and Dental University, ¹⁶Department of Gastroenterology, Shiga University, ¹⁷Department of Internal Medicine, Toho University, Sakura, ¹⁸Department of Medicine, Jichi Medical University, ¹⁹Center for Advanced IBD Research and Treatment, Kitasato University, ²⁰Department of Gastroenterology, Govind Ballabh Pant Institute of Postgraduate Medical Education and Research, New Delhi, India, ²¹Department of Gastroenterology, Asan Medical Center, University of Ulsan College of Medicine): Asian Organization for Crohn's and Colitis and Asia Pacific Association of Gastroenterology consensus on tuberculosis infection in patients with inflammatory bowel disease receiving anti-tumor necrosis factor treatment. Part 2: management. *J Gastroenterol Hepatol*, 33(1): 30-36, 2018.
20. Park DI¹, Hisamatsu T, Chen M², Ng SC³, Ooi CJ⁴, Wei SC⁵, Banerjee R⁶, Hilmi IN⁷, Jeon YT⁸, Han DS⁹, Kim HJ¹⁰, Ran Z¹¹, Wu K¹², Qian J¹³, Hu PJ¹⁴, Matsuoka K¹⁵, Andoh A¹⁶, Suzuki Y¹⁷, Sugano K¹⁸, Watanabe M¹⁹, Hibi T²⁰, Puri AS²¹, Yang SK²² (¹Department of Internal Medicine, Kangbuk Samsung Hospital, Sungkyunkwan University, ²Department of Gastroenterology, The First Affiliated Hospital, Sun Yat-sen University, ³Department of Medicine and Therapeutics, ⁴Institute of Digestive Disease, LKS Institute of Health Science, State Key Laboratory of Digestive Disease, The Chinese University of Hong Kong, Gleneagles Medical Centre and Duke-NUS Medical School, ⁵Department of Internal Medicine, National Taiwan University Hospital, ⁶Department of Medical Gastroenterology, ⁷Asian Institute of Gastroenterology Hyderabad India, ⁸Department of Medicine, University of Malaya, ⁹Department of Internal Medicine, Korea University College of Medicine, ¹⁰Department of Internal Medicine, Hanyang University Guri Hospital, ¹¹Department of Internal Medicine, Kyung Hee University School of Medicine, ¹²Department of Gastroenterology, Shanghai Jiao Tong University, ¹³Department of Gastroenterology, Fourth Military Medical University, ¹⁴Department of Gastroenterology, Peking Union Medical College, ¹⁵Department of Gastroenterology and Hepatology, Tokyo Medical and Dental University, ¹⁶Department of Gastroenterology, Shiga University, ¹⁷Department of Internal Medicine, Toho University, Sakura, ¹⁸Department of Medicine, Jichi Medical University, ¹⁹Center for Advanced IBD Research and Treatment, Kitasato University, ²⁰Department of Gastroenterology, Govind Ballabh Pant Institute of Postgraduate Medical Education and Research, New Delhi, India, ²¹Department of Gastroenterology, Asan Medical Center, University of Ulsan College of Medicine): Asian Organization for Crohn's and Colitis and Asia Pacific Association of Gastroenterology consensus on tuberculosis infection in patients with inflammatory bowel disease receiving anti-tumor necrosis factor treatment. Part 1: risk assessment. *J Gastroenterol Hepatol*, 33(1): 20-29, 2018.
21. Wada H, Hayashida M, Sato T, Minowa S, Ikezaki O, Mitsui T, Miura M, Ohmori Y¹, Saito D, Sakuraba A, Kamiichi H², Tokunaga K, Mochizuki M¹, Shibahara J¹, Mori H, Hisamatsu T (¹Department of Pathology Kyorin University School of Medicine, ²Department of Gastroenterology, National Disaster Medical Center): A Caucasian American patient with celiac disease diagnosed in Japan and successfully treated with a gluten-free diet. *Clin J Gastroenterol*, 11(1): 23-28, 2018.
22. Morikubo H, Saito D, Miura M, Sato T, Minowa S, Ikezaki O, Mitsui T, Sakuraba A, Hayashida M, Fujiwara M¹, Tokunaga K, Shibahara J¹, Mori H, Masaki T², Kawai S³, Hisamatsu T (¹Department of Pathology, Kyorin University, ²Department of Surgery, Kyorin University, ³Department of Infectious Diseases, ⁴Kyorin University): A Case of an HIV-infected Patient with Confirmed Overlapping Complications of Severe Amebic Colitis and CMV Enteritis. *Intern Med*. 2018. DOI: 10.2169/internalmedicine.0112-17.
23. Hisamatsu T, Ohno A, Chiba T¹ (¹Department of Pathology Kyorin University School of Medicine): Linked Color Imaging identified UC Associated Colorectal Cancer. A case report. *Dig Endosc*, 30(2): 267, 2018.
- ### 著書
- 林田真理, 久松理一: 各論(1)腸管ペーチェット病・単純性潰瘍の病態と診断. *INTESTINE* Vol.21 No.6. 東京, 日本メディカルセンター, 2017. p.499-505.
 - 久松理一: 潰瘍性大腸炎治療後のフォローアップ. *消化器の臨床* Vol.20 No.4. 東京, ヴァンメディカル, 2017. p.294-298.
 - 久松理一: 炎症性腸疾患の糞便微生物移植治療をみる. *分子リウマチ治療* Vol.10 No.3. 東京, 先端医学社, 2017. p.18-22.
 - 久松理一, 關里和: SLCO2A1の機能とその異常—SLCO2A1の機能とプロスタグランジン関連腸症. *胃と腸* Vol.52 No.11. 東京, 医学書院, 2017. p.1453-1457.
 - 久松理一: 特集「抗TNF抗体はなぜ効くのか」Overview. *消化器病学サイエンス* Vol.1 No.1. 久松理一他編集幹事. 東京, 先端科学社, 2017. p.1.
 - 久松理一: 炎症性腸疾患に対する現在開発中の新薬. *月刊Mebio* Vol.34 No.7. 渡辺守企画. 東京, メジカルビュー社, 2017. p.74-80.
 - 久松理一, 林田真理: ペーチェット病, trisomy8, 単純性潰瘍. *消化器・肝臓内科* 第1巻第5号. 東京, 科学評論社, 2017. p.479-484.
 - 久松理一, 林田真理: 自己免疫疾患・膠原病・血管炎など Behcetを疑う消化管病変. *消化器内視鏡* 29巻4号. 東京, 東京医学社, 2017. p.719-723.
 - 川村直弘(分担執筆): 肝硬変(3): 栄養治療～内科医と

しての腕の見せどころ～.臨床雑誌内科 Vol.119 No.6. 矢島知治監修. 東京, 南江堂, 2017. p.1177-1180.

10. 大野亜希子: ナイス! な介助のために一止血クリップの向きー. 教科書では教えてくれない! 私の消化器内視鏡 Tips. Web, ガストロペディア, 2017.
11. 久松理一: 炎症性腸疾患とアミノ酸代謝異常. Modern Physician 38-2. 東京, 新興医学出版社, 2018. p.172-176.
12. 久松理一, 林田真理, 櫻庭彰人, 齋藤大祐, 三浦みき, 三井達也, 池崎修, 箕輪慎太郎, 佐藤太龍, 徳永創太郎, 菊地翁輝, 森久保拓: 炎症性腸疾患における粘膜治癒と長期経過. 胃と腸 Vol.53 No.2. 東京, 医学書院, 2018. p.157-162.

その他

1. (座長) 川村直弘: 日本消化器病学会デジタルポスターセッション95 消化器P501～P504, その他(緩和医療) JDDW2017 (第59回日本消化器病学会大会), 福岡, 2017年10月13日.
2. (座長) 森秀明: デジタルポスターセッション22. 胆道(基礎/検査・診断). JDDW2017, 福岡, 2017年10月14日.
3. (講師) 大野亜希子: 第9回つくば内視鏡ライブセミナー, 茨城, 2017年11月11日.
4. (座長) 森秀明: イメージリーディング. 日本超音波医学会関東甲信越地方会第29回学術集会, 東京, 2017年11月12日.
5. (座長) 川村直弘: 演者 武蔵野赤十字病院 栄養課課長 原純也: サルコペニアに対する栄養管理. Otsuka Nutrition Forum, 三鷹, 2017年12月7日.
6. (巻頭言) 森秀明: 特集「超音波検査」企画のねらい. 杏林医会誌 48: 4, 2017.
7. 森秀明: 今さら聞けない画像診断の基本. 腹部エコー編. 第11回良性か悪性か膵腫瘍の鑑別法. Nikkei medical 601. 東京, 日経BP社, 2017, p.80-81.
8. 森秀明: 今さら聞けない画像診断の基本. 腹部エコー編. 第12回食道・胃・腸で異なる消化管壁のエコー像. Nikkei medical 602. 東京, 日経BP社, 2017, p.70-72.
9. 森秀明: 日経メディクイズ. Nikkei medical 590. 東京, 日経BP社, 2017, p.73-74.
10. 森秀明: 今さら聞けない画像診断の基本. 腹部エコー編. 第1回診断精度を高める表示法と調節法. Nikkei medical 591. 東京, 日経BP社, 2017, p.67-70.
11. 森秀明: 今さら聞けない画像診断の基本. 腹部エコー編. 第7回胆嚢の腫大・萎縮は壁や胆管の形態に着目. Nikkei medical 597. 東京, 日経BP社, 2017, p.56-57.
12. 森秀明: 今さら聞けない画像診断の基本. 腹部エコー編. 第9回ガスの影響はこう排除膵臓描出のコツ. Nikkei medical 599. 東京, 日経BP社, 2017, p.56-57.
13. 森秀明: 今さら聞けない画像診断の基本. 腹部エコー編. 第3回血管の走行を基に肝区域を同定. Nikkei medical 593. 東京, 日経BP社, 2017, p.59-60.
14. 森秀明: 今さら聞けない画像診断の基本. 腹部エコー編. 第2回エコー画像に頻出するアーチファクトの特徴. Nikkei medical 592. 東京, 日経BP社, 2017, p.59-62.
15. 森秀明: 日経メディクイズ. Nikkei medical 594. 東京, 日経BP社, 2017, p.65-66.
16. 森秀明: 今さら聞けない画像診断の基本. 腹部エコー編. 第5回限局性肝疾患の鑑別は腫瘍辺縁や内部に着目. Nikkei medical 595. 東京, 日経BP社, 2017, p.72-73.
17. 森秀明: 今さら聞けない画像診断の基本. 腹部エコー編. 第4回びまん性肝疾患は肝の形状, 脈管に注目. Nikkei medical 594. 東京, 日経BP社, 2017, p.74-75.

18. 森秀明: 今さら聞けない画像診断の基本. 腹部エコー編. 第10回膵炎と浸潤性膵管癌はこう鑑別する. Nikkei medical 600. 東京, 日経BP社, 2017, p.78-79.
19. 森秀明: 今さら聞けない画像診断の基本. 腹部エコー編. 第8回胆管の閉塞・壁肥厚は結石や腫瘍のサイン. Nikkei medical 599. 東京, 日経BP社, 2017, p.80-81.
20. 森秀明: 今さら聞けない画像診断の基本. 腹部エコー編. 第6回胆嚢と胆管の描出は走査法や体位に工夫を. Nikkei medical 596. 東京, 日経BP社, 2017, p.86-87.
21. 森秀明: 日経メディクイズ. Nikkei medical 603. 東京, 日経BP社, 2018, p.81-82.
22. 森秀明: 今さら聞けない画像診断の基本. 腹部エコー編. 第13回限局性の壁肥厚では癌の存在を念頭に. Nikkei medical 603. 東京, 日経BP社, 2018, p.70-71.
23. 森秀明: 今さら聞けない画像診断の基本. 腹部エコー編. 第14回大腸の壁肥厚では腸炎や悪性腫瘍を疑う. Nikkei medical 604. 東京, 日経BP社, 2018, p.81-83.
24. (座長) 川村直弘: 一般演題 第58回三多摩肝臓談話会. 武蔵野, 2018年2月2日.

第三内科学教室 (糖尿病・内分泌・代謝内科)

講演

1. 保坂利男: SGLT2阻害薬の奥深さ. 第3回Diabetes Meeting, 川崎, 2017年4月10日.
2. 近藤琢磨: 糖尿病と腎臓病～最近の話題～. 第18回多摩CKD超低たんぱく食治療研究会, 東村山, 2017年4月14日.
3. 石本麻衣, 今田枝里, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 2型糖尿病入院患者における簡易睡眠検査装置を用いた睡眠の時間と質の実態調査. 第114回日本内科学会総会, 東京, 2017年4月14-16日.
4. 七条裕孝, 近藤琢磨, 津村哲郎, 今田枝里, 澤井梓, 鶴久大介, 竹脇史絵, 箕輪久美, 佐々木有紀, 永瀬惟, 石本麻衣, 近藤健, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 保坂利男, 石田均: 当院における膵臓癌を有する糖尿病症例の臨床的特徴とその背景. 第90回日本内分泌学会学術総会, 京都, 2017年4月20-22日.
5. 澤井梓, 炭谷由計, 箕輪久美, 石本麻衣, 今田枝里, 津村哲郎, 七条裕孝, 鶴久大介, 竹脇史絵, 佐々木有紀, 永瀬惟, 近藤健, 石飛実紀, 小沼裕寿, 田中利明, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: ジソピラミドとクラリスロマイシン併用により低血糖発作を生じた超高齢者の一例. 第90回日本内分泌学会学術総会, 京都, 2017年4月20-22日.
6. 鶴久大介, 石本麻衣, 炭谷由計, 今田枝里, 七条裕孝, 佐々木有紀, 森田奈瑠, 田中利明, 近藤琢磨, 保坂利男, 板垣英二, 末岡順介, 佐藤徹, 石田均: 特発性肺動脈性高血圧症に対してPGI₂製剤使用中に下垂体前葉機能低下症の診断に至った一例. 第90回日本内分泌学会学術総会, 京都, 2017年4月20-22日.
7. 近藤健, 炭谷由計, 村嶋俊隆, 竹脇史絵, 七条裕孝, 澤井梓, 鶴久大介, 石本麻衣, 小沼裕寿, 田中利明, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 成人期に診断された膵形成不全を伴う糖尿病の一例. 第90回日本内分泌学会学術総会, 京都, 2017年4月20-22日.
8. 石田均: 「日本人のための糖尿病食事療法を考える」ー「腎症」食品交換表第3版への改訂ポイントとともにー. 犬山糖尿病スタッフセミナー, 犬山, 2017年4月28日.
9. 石田均: これからの食事療法の展望ー関連学会からの提言「糖尿病における食事療法の意義と課題」. 第60回日本糖尿病学会年次学術集会, 名古屋, 2017年5月18-20日.

10. 泉亮介, 炭谷由計, 小林庸子, 廣瀬道宣, 田中耕史, 水石裕, 児玉優太, 鈴木絹代, 鶴久大介, 七条裕孝, 澤井梓, 石本麻衣, 石飛実紀, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 服薬アドヒアランスと運動療法に対する意識・実施状況との関連性についての調査. 第60回日本糖尿病学会年次学術集会, 名古屋, 2017年5月18-20日.
11. 西田進, 鈴木清, 佐々木有紀, 永瀬惟, 箕輪久美, 石飛実紀, 石本麻衣, 近藤健, 小沼裕寿, 炭谷由計, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 男性2型糖尿病の手中骨の骨量の変化とその成因に関する臨床的検討. 第60回日本糖尿病学会年次学術集会, 名古屋, 2017年5月18-20日.
12. 田中耕史, 炭谷由計, 藤澤祐基, 須崎由香, 児玉優太, 廣瀬道宣, 横山敏彦, 小笠原準悦, 近藤琢磨, 保坂利男, 岡島康友, 石田均: 2型糖尿病症例における変時性不全の有無と運動強度との関係. 第60回日本糖尿病学会年次学術集会, 名古屋, 2017年5月18-20日.
13. 須崎由香, 炭谷由計, 田中耕史, 廣瀬道宣, 児玉優太, 横山敏彦, 石本麻衣, 石飛実紀, 小笠原準悦, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 血糖コントロールに影響を及ぼす運動の強度と持続時間の重要性に関する検討. 第60回日本糖尿病学会年次学術集会, 名古屋, 2017年5月18-20日.
14. 鈴木絹世, 下田ゆかり, 高橋久子, 山田光洋, 小林庸子, 浅野紀子, 鈴木光一, 児玉優太, 岡野和子, 塚田芳枝, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 当院での糖尿病透析予防指導管理の4年間の実施状況. 第60回日本糖尿病学会年次学術集会, 名古屋, 2017年5月18-20日.
15. 七条裕孝, 津村哲郎, 今田枝里, 澤井梓, 鶴久大介, 竹脇史絵, 佐々木有紀, 箕輪久美, 永瀬惟, 石本麻衣, 近藤健, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 2型糖尿病先行症例及び新規糖尿病診断後に膵臓癌の診断となった患者の臨床的特徴. 第60回日本糖尿病学会年次学術集会, 名古屋, 2017年5月18-20日.
16. 今田枝里, 石本麻衣, 津村哲郎, 鶴久大介, 七条裕孝, 澤井梓, 竹脇史絵, 永瀬惟, 近藤健, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 肥満ならびに非肥満糖尿病患者における簡易睡眠検査装置を用いた睡眠の実態調査〜第二報〜. 第60回日本糖尿病学会年次学術集会, 名古屋, 2017年5月18-20日.
17. 廣瀬道宣, 炭谷由計, 田中耕史, 水石裕, 児玉優太, 須崎由香, 横山敏彦, 石飛実紀, 小笠原準悦, 近藤琢磨, 保坂利男, 岡島康友, 石田均: 糖尿病症例における運動指導介入とその実施後のアウトカム—運動指導歴の有無による比較—(第2報). 第60回日本糖尿病学会年次学術集会, 名古屋, 2017年5月18-20日.
18. 児玉優太, 炭谷由計, 田中耕史, 水石裕, 廣瀬道宣, 須崎由香, 横山敏彦, 石飛実紀, 小笠原準悦, 近藤琢磨, 保坂利男, 岡島康友, 石田均: 2型糖尿病症例の心理的負担度と運動実施状況についての検討. 第60回日本糖尿病学会年次学術集会, 名古屋, 2017年5月18-20日.
19. 伊藤史織, 保坂利男, 伊東尚浩, 矢野互, 安村美沙子, 清水由香理, 小林秀之, 中川隆, 井上敬介, 田辺宗平, 近藤琢磨, 石田均: 尿糖排出促進SGLT2阻害薬と糖質摂取を制限する低炭水化物食が糖・脂質代謝に与える影響は異なる. 第60回日本糖尿病学会年次学術集会, 名古屋, 2017年5月18-20日.
20. 森田奈瑠, 保坂利男, 北原敦子, 村嶋俊隆, 五林可織, 小沼裕寿, 炭谷由計, 高橋和人, 田中利明, 近藤琢磨, 石田均: 肥大化脂肪細胞での炎症性サイトカイン発現に対するAMPK活性化の影響とメトホルミンの効果について. 第60回日本糖尿病学会年次学術集会, 名古屋, 2017年5月18-20日.
21. 小林庸子, 下田ゆかり, 高橋久子, 今野里美, 鈴木絹世, 炭谷由計, 高橋和人, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 産科・内科連携システム導入後の妊娠糖尿病症例の特徴. 第60回日本糖尿病学会年次学術集会, 名古屋, 2017年5月18-20日.
22. 高橋和人, 北原敦子, 森田奈瑠, 村嶋俊隆, 石飛実紀, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 西田進, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 糖尿病における骨代謝異常の進展メカニズムの解明, ならびにこれに対する温熱処理の影響の検討. 第60回日本糖尿病学会年次学術集会, 名古屋, 2017年5月18-20日.
23. 北原敦子, 高橋和人, 村嶋俊隆, 森田奈瑠, 近藤健, 石本麻衣, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 膵β細胞の酸化ストレス下におけるオートファジー機構の意義とアスタキサンチンの保護作用の検討. 第60回日本糖尿病学会年次学術集会, 名古屋, 2017年5月18-20日.
24. 村嶋俊隆, 近藤琢磨, 北原敦子, 森田奈瑠, 近藤健, 石本麻衣, 小沼裕寿, 高橋和人, 炭谷由計, 田中利明, 保坂利男, 石田均: 糖質コルチコイドが及ぼす膵β細胞機能への慢性効果とその分子メカニズムに関する検討. 第60回日本糖尿病学会年次学術集会, 名古屋, 2017年5月18-20日.
25. 仁科範子, 藤井仁美, 宮川高一, 近藤琢磨, 炭谷由計, 佐藤文紀, 樋口真司, 宮城調司, 名嘉真香小里, 森貴幸, 植木彬夫, 貴田岡正史: 西東京地域持続皮下インスリン注入療法(CSII)患者実態調査—自由記載欄より—. 第60回日本糖尿病学会学術総会, 名古屋, 2017年5月18-20日.
26. 藤井仁美, 仁科範子, 宮川高一, 近藤琢磨, 炭谷由計, 佐藤文紀, 樋口真司, 宮城調司, 名嘉真香小里, 森貴幸, 植木彬夫, 貴田岡正史: 西東京地域持続皮下インスリン注入療法(CSII)患者実態調査(第1報). 第60回日本糖尿病学会学術総会, 名古屋, 2017年5月18-20日.
27. 近藤琢磨: 高齢者の血糖管理はどうあるべきか? —症例検討を通して高齢者糖尿病診療ガイドラインを読み解く—. 第10回多摩糖尿病先端医療研究会, 立川, 2017年6月7日.
28. Morita N, Hosaka T, Kitahara A, Murashima T, Onuma H, Sumitani Y, Takahashi K, Tanaka T, Kondo T, Ishida H: The Effect of AMPK Activation on Inflammatory Cytokine in Mature Hypertrophied 3T3-L1 Adipocyte. American Diabetes Association 77th scientific sessions, USA, June 9th-13th, 2017.
29. Ito S, Hosaka T, Ito T, Yano W, Yasumura M, Shimizu Y, Kobatashi H, Nakagawa T, Inoue K, Tanabe S, Kondo T, Ishida H: The Treatment of SGLT2 Inhibitor Exhibits Different Effects on Glucose and Lipid Profile Compared with Carbohydrate-Restricted Diet. American Diabetes Association 77th scientific sessions, USA, June 9th-13th, 2017.
30. 保坂利男: 高齢者2型糖尿病治療2017—SGLT2阻害薬の上手な使い方update—. 三鷹市医師会学術講演会, 三鷹, 2017年6月16日.
31. 保坂利男: 2型糖尿病治療2017—先手必勝, 定石の一剤としてのSGLT2阻害薬—. 最新の糖尿病治療セミナー, 三鷹, 2017年6月20日.
32. 石田均: 食事のなかの炭水化物の意義を考える—日本人の糖尿病食事療法のために—. 県央地区糖尿病講演会 2017, 桶川, 2017年6月23日.
33. 保坂利男: 外来で安全で簡単にできるインスリン導入. 最適なインスリン療法を考える会, 三鷹, 2017年6月23日.
34. 石田均: 食事療法のなかでの炭水化物の意義(その重要性の再確認). 生活習慣病栄養指導外来のための講演会, 福生, 2017年6月29日.
35. 保坂利男: 2型糖尿病治療2017—先手必勝, 定石の一剤としてのSGLT2阻害薬—. Cardio-Diabetic Meeting in稲城, 稲城, 2017年6月30日.

36. 石田均:食事のなかの炭水化物の意義を科学的に考える. 第50回C-Bioセミナー, 宇都宮, 2017年7月4日.
37. 石田均:食事のなかの炭水化物の意義を科学的に考える. 第16回東京CDEフォーラム, 東京, 2017年7月22日.
38. 保坂利男:高齢者糖尿病患者の診療入門. 糖尿病トータルケア〜これからの糖尿病治療を考えるin 多摩〜, 武蔵野, 2017年7月25日.
39. 保坂利男:糖尿病患者における高血圧治療〜血圧手帳管理から見えてくるもの〜. 高血圧Web講演会, 三鷹, 2017年7月26日.
40. 近藤琢磨:2型糖尿病の薬物治療update. 第3回多摩三科懇話会, 調布, 2017年8月1日.
41. 勝又明彦, 近藤琢磨, 和田侑子, 松岡孝, 七条裕孝, 竹脇史絵, 石本麻衣, 近藤健, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 保坂利男, 石田均: DPP-4阻害薬投与中止後に血糖不安定性が改善した抗インスリン抗体陽性の2型糖尿病症例の検討. 第18回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会, 高崎, 2017年9月8-9日.
42. 津村哲郎, 炭谷由計, 嶋崎枝里, 鶴久大介, 石本麻衣, 小沼裕寿, 田中利明, 保坂利男, 石田均: パセドウ病の再発を契機に糖尿病性ケトアシドーシスに陥った1型糖尿病の1例. 第18回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会, 高崎, 2017年9月8-9日.
43. 保坂利男:GLP-1アナログ使用マニュアル-トルリシテイ注アテオスの適した患者像とは?. Incretin Seminar in 調布, 調布, 2017年9月12日.
44. 保坂利男:徹底分析: SGLT2阻害薬有効活用. 武蔵野市薬剤師会学術講演会, 武蔵野, 2017年9月14日.
45. 保坂利男:先手必勝, 定石の一剤としてのSGLT2阻害薬. 武蔵野腎臓病フォーラム, 三鷹, 2017年9月21日.
46. 近藤琢磨:基礎インスリンの隠し味?〜ライゾデグ配合注の活用法と適正使用〜. Changing diabetes, 東京, 2017年9月21日.
47. 石田均:食事のなかの栄養素の意義と正しい糖質調整食への道. 第25回糖・脂質代謝研究会, 静岡, 2017年9月28日.
48. 近藤琢磨:高齢者糖尿病治療の実際. これからの医療を考える会, 西東京, 2017年9月29日.
49. 森田奈瑠, 保坂利男, 北原敦子, 高橋和人, 近藤琢磨, 石田均:肥大化脂肪細胞での炎症性サイトカイン発現に対するAMPK活性化の影響とその生理的役割について. 第38回日本肥満学会, 大阪, 2017年10月7-8日.
50. 保坂利男:食事療法を見据えたSGLT2阻害薬のポジショニング. 第5回糖尿病三位一体セミナー, 武蔵野, 2017年10月12日.
51. 保坂利男:療養指導を活かした2型糖尿病薬物療法. 糖尿病と健康寿命を語る夕べ, 武蔵野, 2017年10月17日.
52. 石田均:「糖尿病合併症」は糖尿病・合併症, あるいは糖尿病合併・症?一骨代謝異常の病態からの新たな提言一. 第32回日本糖尿病合併症学会・第23回日本糖尿病眼学会総会, 東京, 2017年10月27-29日.
53. 近藤琢磨:[療養チーム]それぞれの糖尿病療養の立場からのお互いの眺め方を知る「診療所」から見た「病院」一連携の意義と方法を考える一. 第32回日本糖尿病合併症学会・第23回日本糖尿病眼学会総会, 東京, 2017年10月27-29日.
54. 下田ゆかり:[療養チーム]「腎症」食品交換表の改訂から一年を経て 透析予防指導管理チームにおける看護師の療養指導の実際. 第32回日本糖尿病合併症学会・第23回日本糖尿病眼学会総会, 東京, 2017年10月27-29日.
55. 高橋和人:[臓器チーム]内科学的側面からの糖尿病の骨病変へのアプローチ 糖尿病骨代謝異常の基盤病態の解明とこれに対する温熱処理の影響の検討. 第32回日本糖尿病合併症学会・第23回日本糖尿病眼学会総会, 東京, 2017年10月27-29日.
56. 近藤琢磨: Back to the Future 糖尿病治療の変遷と進歩 (内科領域). 第32回日本糖尿病合併症学会・第23回日本糖尿病眼学会総会, 東京, 2017年10月27-29日.
57. 保坂利男:心血管系や腎臓に本当に良いのは, インクレチン製剤とSGLT2阻害薬のどちらか? SGLT2阻害薬は糖尿病治療薬の定石. 第32回日本糖尿病合併症学会・第23回日本糖尿病眼学会総会, 東京, 2017年10月27-29日.
58. 小沼裕寿:「症例検討会」ある日, 突然見えなくなる〜あなたの眼に忍び寄る糖尿病の話〜. 第32回日本糖尿病合併症学会・第23回日本糖尿病眼学会総会, 東京, 2017年10月27-29日.
59. 七条裕孝, 近藤琢磨, 津村哲郎, 嶋崎枝里, 澤井梓, 鶴久大介, 竹脇史絵, 永瀬惟, 石本麻衣, 近藤健, 小沼裕寿, 炭谷由計, 保坂利男, 笹野公伸, 管間博, 石田均: 短期間に眼底所見の増悪を認めたサイトカイン産生性褐色細胞腫合併糖尿病の一例. 第32回日本糖尿病合併症学会・第23回日本糖尿病眼学会総会, 東京, 2017年10月27-29日.
60. 北原敦子, 高橋和人, 村嶋俊隆, 森田奈瑠, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 膵β細胞の酸化ストレス下におけるオートファジー機構の意義とアスタキサンチンの保護作用の検討. 第32回日本糖尿病合併症学会・第23回日本糖尿病眼学会総会, 東京, 2017年10月27-29日.
61. 村嶋俊隆, 近藤琢磨, 北原敦子, 森田奈瑠, 近藤健, 石本麻衣, 小沼裕寿, 高橋和人, 炭谷由計, 田中利明, 保坂利男, 石田均: 糖質コルチコイド慢性投与が膵β細胞のインスリンおよび炎症性サイトカイン分泌に与える影響. 第32回日本糖尿病合併症学会・第23回日本糖尿病眼学会総会, 東京, 2017年10月27-29日.
62. 石本麻衣, 炭谷由計, 嶋崎枝里, 勝又明彦, 野中麻衣, 山崎幸, 楽得隆之, 津村哲郎, 澤井梓, 七条裕孝, 鶴久大介, 竹脇史絵, 永瀬惟, 近藤健, 小沼裕寿, 田中利明, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 2型糖尿病患者における簡易睡眠検査装置を用いた睡眠の実態調査一肥満の有無の観点から一. 第32回日本糖尿病合併症学会・第23回日本糖尿病眼学会総会, 東京, 2017年10月27-29日.
63. 森田奈瑠, 保坂利男, 北原敦子, 村嶋俊隆, 小沼裕寿, 五林可織, 炭谷由計, 高橋和人, 田中利明, 近藤琢磨, 石田均: 肥大化脂肪細胞でのAMPK活性化が及ぼす炎症性サイトカイン発現に対する影響とその細胞内機構の検討. 第32回日本糖尿病合併症学会・第23回日本糖尿病眼学会総会, 東京, 2017年10月27-29日.
64. 鈴木絹世, 登内彩絵, 小田浩之, 塚田芳枝, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 糖尿病教育入院における栄養士介入の意義とは〜退院後も継続した行動変容に繋がった一症例を通して〜. 第32回日本糖尿病合併症学会・第23回日本糖尿病眼学会総会, 東京, 2017年10月27-29日.
65. 今野里美, 下田ゆかり, 高橋久子, 山田光洋, 小林庸子, 塚田芳枝, 鈴木絹世, 浅野紀子, 鈴木光一, 田中耕史, 児玉優太, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 糖尿病透析予防指導管理チームによる多職種カンファレンスの実態一質的帰納法による分析, 評価一. 第32回日本糖尿病合併症学会・第23回日本糖尿病眼学会総会, 東京, 2017年10月27-29日.
66. 山崎幸, 小沼裕寿, 野中麻衣, 澤井梓, 竹脇史絵, 永瀬惟, 村嶋俊隆, 炭谷由計, 高橋和人, 田中利明, 久場起志, 荻野聡之, 宮邦泰彦, 白鳥嵩之, 綾野水樹, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 高血糖高浸透圧症候群による浸透圧性脱髄症候群を発症したと考えられる一例. 第32回日本糖尿病合併症学会・第23回日本糖尿病眼学会総会, 東京, 2017年10月27-29日.

67. 小林庸子, 保坂利男, 近藤琢磨, 今野里美, 高橋久子, 下田ゆかり, 鈴木絹世, 佐藤真由美, 鈴木光一, 田中耕史, 石田均: 糖尿病透析予防指導管理指導の継続による合併症予防の効果. 第32回日本糖尿病合併症学会・第23回日本糖尿病眼学会総会, 東京, 2017年10月27-29日.
68. 竹脇史絵, 小沼裕寿, 澤井梓, 永瀬惟, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 保坂利男, 鳥居正剛, 安藤良将, 北善幸, 平形明人, 石田均: 頸動脈狭窄症による血管新生緑内障を認め頸動脈内膜剥離術を行った2型糖尿病の1例. 第32回日本糖尿病合併症学会・第23回日本糖尿病眼学会総会, 東京, 2017年10月27-29日.
69. 土岐真朗, 落合一成, 七条裕孝, 後藤知之, 吉田翼, 深澤友里, 太田博崇, 権藤興一, 渡邊俊介, 倉田勇, 蓮江智彦, 中村健二, 保坂利男, 山口康晴, 高橋信一, 森秀明, 石田均, 久松理一: 2型糖尿病に発症した膵癌の臨床的特徴についての検討—膵癌の早期発見を目指して—. 第32回日本糖尿病合併症学会・第23回日本糖尿病眼学会総会, 東京, 2017年10月27-29日.
70. 保坂利男: 展開する療養指導とDPP-4阻害薬のポジショニング. 第2回糖尿病治療を考える会in由利本庄, 由利本庄, 2017年11月1日.
71. 保坂利男: 当院における糖尿病網膜症の眼科との連携システム. 第2回糖尿病と眼疾患を考える会in米子, 米子, 2017年11月2日.
72. 石田均: 「食品交換表」に準拠したカーボカウントの手びき—適切な糖質調整食の継続のために—. 第15回1型糖尿病研究会, 盛岡, 2017年11月4日.
73. 石田均: 食事のなかの炭水化物の意義を考える—日本人の糖尿病食事療法のために—. Diabetes Update 2017, 東京, 2017年11月14日.
74. 近藤琢磨: 介護に必要な糖尿病の知識. 平成29年度北多摩北部保健医療圏糖尿病ネットワーク医療介護従事者向け研修会, 東村山, 2017年11月16日.
75. 樂得隆之, 津村哲郎, 近藤健, 澤井梓, 七条裕孝, 永瀬惟, 石本麻衣, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 糖尿病性ケトアシドーシス発症を契機に比較的高齢で診断されたミトコンドリア糖尿病の1例. 第46回杏林医学会総会, 三鷹, 2017年11月18日.
76. 山崎幸, 小沼裕寿, 澤井梓, 永瀬惟, 村嶋俊隆, 炭谷由計, 高橋和人, 田中利明, 白鳥嵩之, 綾野水樹, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 高血糖高浸透圧症候群による浸透圧性脱髄症候群を発症したと考えられる1例. 第46回杏林医学会総会, 三鷹, 2017年11月18日.
77. 石田均: 食事のなかの炭水化物の意義を考える. 第58回日本内科学会北海道支部生涯教育講演会, 旭川, 2017年11月19日.
78. 竹脇史絵, 近藤琢磨, 七条裕孝, 近藤健, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 保坂利男, 石田均: 放射線治療後に下垂体前葉機能低下症を発症した一例. 第27回臨床内分泌代謝Update, 神戸, 2017年11月24-25日.
79. 近藤健, 炭谷由計, 村嶋俊隆, 竹脇史絵, 七条裕孝, 澤井梓, 鶴久大介, 石本麻衣, 小沼裕寿, 田中利明, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 成人期に診断された膵形成不全を伴う糖尿病の一例. 第27回臨床内分泌代謝Update, 神戸, 2017年11月24-25日.
80. 鶴久大介, 炭谷由計, 嶋崎枝里, 石本麻衣, 七条裕孝, 澤井梓, 小沼裕寿, 田中利明, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 視覚障害と動眼神経麻痺を認め緊急手術となった下垂体卒中の一例. 第27回臨床内分泌代謝Update, 神戸, 2017年11月24-25日.
81. 七条裕孝, 近藤琢磨, 鶴久大介, 竹脇史絵, 近藤健, 石本麻衣, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 保坂利男, 石田均: 経過中に眼底出血を来したサイトカイン産生性褐色細胞腫の一例. 第27回臨床内分泌代謝Update, 神戸, 2017年11月24-25日.
82. 石田均: 糖尿病のお話～糖尿病にならない・悪化させないために～. 三鷹ネットワーク大学, 三鷹, 2017年11月26日.
83. 近藤琢磨: 病態とアドヒアランスを考慮した2型糖尿病の治療戦略. これからの糖尿病治療薬について～アンメットメディカルニーズを目指して～, 西東京, 2017年11月29日.
84. 近藤琢磨: 1型糖尿病治療の変遷と今後の課題. 1型糖尿病治療を考える勉強会, 武蔵野, 2017年12月7日.
85. 石田均: 糖尿病食事療法の正しい糖質調整食への新たな流れ. 第3回食事を通して糖尿病治療を考える会, 京都, 2017年12月8日.
86. 近藤琢磨: 高齢者糖尿病治療の現状と課題. 小平地区学術講演会「高齢化を見据えた糖尿病治療戦略とは」, 西東京, 2017年12月14日.
87. 保坂利男: 合併症予防を見据えた糖尿病治療戦略. Meet The Specialist, 三鷹, 2017年12月15日.
88. 保坂利男: インスリンシグナルと脂肪細胞. 第11回中東京臨床糖尿病フォーラム, 武蔵野, 2018年1月10日.
89. 北原敦子, 高橋和人, 森田奈瑠, 村嶋俊隆, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 膵β細胞保護効果におけるアスタキサンチンの細胞内作用機構に関する検討. 第21回日本病態栄養学会年次学術集会, 京都, 2018年1月12-14日.
90. 石飛実紀, 保坂利男, 石本麻衣, 近藤健, 森田奈瑠, 村嶋俊隆, 小沼裕寿, 炭谷由計, 近藤琢磨, 石田均: 糖尿病患者における血清乳酸値増加の意義—インスリン抵抗性非侵襲代謝マーカーとしての可能性. 第21回日本病態栄養学会年次学術集会, 京都, 2018年1月12-14日.
91. 登内彩絵, 鈴木絹世, 塚田芳枝, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 急激な視力低下で初めて糖尿病を指摘された腎症合併患者に奏功した栄養教育. 第21回日本病態栄養学会年次学術集会, 京都, 2018年1月12-14日.
92. 竹脇史絵, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 保坂利男, 鳥居正剛, 安藤良将, 北善幸, 平形明人, 石田均: 内頸動脈狭窄症による血管新生緑内障を認め頸動脈内膜剥離術を行った2型糖尿病の1例. 第55回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 新潟, 2018年1月20日.
93. 高橋奈央, 東海俊史, 三橋順子, 若山真理子, 池田和穂, 田中直見, 田中利明, 西田進, 石田均: 糖尿病患者に対するCGM施行後の栄養指導の効果について. 第55回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 新潟, 2018年1月20日.
94. 鶴久大介, 石本麻衣, 嶋崎枝里, 澤井梓, 七条裕孝, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: IgG4関連の自己免疫性膵炎に腹部大動脈周囲炎を合併した1型糖尿病と思われる1例. 第55回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 新潟, 2018年1月20日.
95. 樂得隆之, 近藤琢磨, 津村哲郎, 近藤健, 七条裕孝, 石本麻衣, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 保坂利男, 石田均: DKA発症を契機に比較的高齢で診断されたミトコンドリア糖尿病 (MIDD) の1例. 第55回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 新潟, 2018年1月20日.
96. 石田均: 糖尿病食事療法のなかのカーボカウントの意義と正しい糖質調整食. 第15回西東京インスリン治療研究会, 武蔵野, 2018年2月24日.
97. 石田均: 正しい糖質調整食のためのカーボカウントの手引き. 平成29年度糖尿病療養支援ネットワーク研修会in関東「糖尿病療養支援の幅が広がる! 1型でも2型でも使えるカーボカウント」, 東京, 2018年2月25日.
98. 石田均: 糖尿病食事療法における炭水化物の意義. 第101回 (公社) 日本栄養・食糧学会 関東支部大会シンポジウム, 東京, 2018年2月25日.

99. 石田均:日本人にふさわしい糖尿病食事療法を考える—カーボカウントの理論と実際—, 佐倉地区の糖尿病治療を考える会, 佐倉, 2018年3月7日.
100. 近藤琢磨:介護に必要な糖尿病の知識. 平成29年度北多摩北部保健医療圏糖尿病ネットワーク医療介護従事者向け研修会(第2回), 東村山, 2018年3月10日.
101. 石田均:糖尿病食事療法でのカーボカウントの意義と正しい糖質調整食への道. 第36回滋賀県インスリン治療懇話会, 大津, 2018年3月17日.
102. 近藤琢磨:知って得する!糖尿病に関する豆知識. 第41回東糖協多摩ブロック糖尿病教室・第24回西東京糖尿病患者会連合特別講演会, 国立, 2018年3月17日.
103. 石田均:糖尿病食事療法のなかの炭水化物の科学的意義を考える. 平成29年度川越地域糖尿病療養研究会 講演会, 川越, 2018年3月23日.
104. 保坂利男:経口剤での糖尿病治療の導入から維持療法. 第1回DM Link Meeting, 三鷹, 2018年3月23日.
105. 石田均:糖尿病食事療法における炭水化物の意義. 第8回DIET Forum in Kobe, 神戸, 2018年3月31日.

論 文

1. Kitahara A, Takahashi K, Morita N, Murashima T, Onuma H, Sumitani Y, Tanaka T, Kondo T, Hosaka T, Ishida H: The novel mechanisms concerning the inhibitions of palmitate-induced proinflammatory factor releases and endogenous cellular stresses with astaxanthin on MIN6 β cells. *Marine Drugs* 15(6) 185: 1-15, 2017.
2. Terauchi Y, Yamada Y, Ishida H, Ohsugi M, Kitaoka M, Satoh J, Yabe D, Shihara N, Seino Y: The efficacy and safety of sitagliptin as compared with glimepiride in Japanese patients aged 60 years or older with type 2 diabetes mellitus (START-J trial). *Diabetes Obes Metab* 0:1-5, 2017.
3. Nomoto H, Kimachi K, Miyoshi H, Kameda H, Cho KY, Nakamura A, Nagai S, Kondo T, Atsumi T: Effects of 50 mg vildagliptin twice daily vs. 50 mg sitagliptin once daily on blood glucose fluctuations evaluated by long-term self-monitoring of blood glucose. *Endocr J* 64:417-424, 2017.
4. Ito S, Hosaka T, Yano W, Ito T, Yasumura M, Shimizu Y, Kobayashi H, Nakagawa T, Inoue K, Tanabe S, Kondo T, Ishida H: Effects of tofogliflozin are efficiently enhanced with appropriate dietary carbohydrate ratio and are distinct from carbohydrate restriction. *Physiol Rep* 6(5): e13642, 2018.
5. Morita N, Hosaka T, Kitahara A, Murashima T, Onuma H, Sumitani Y, Takahashi K, Tanaka T, Kondo T, Ishida H: Novel mechanisms modulating palmitate-induced inflammatory factors in hypertrophied 3T3-L1 adipocytes by AMPK. *J Diab Res* 2018:11, 2018.
6. 石田均:「食品交換表」に準拠した「カーボカウントの手びき」. *Diabetes Journal* 45(3):111-115, 2017.
7. 石田均:「食品交換表」とカーボカウント—適切な糖質調整食の継続への道—. *食と医療 FALL-WINTER*(3): 106-115, 2017.
8. 保坂利男, 石田均:2型糖尿病の食事療法の考え方と展望. *糖尿病診療マスター* 15(12): 998-1004, 2017.
9. 石田均:「食品交換表」から「カーボカウント」への正しい流れ(Editorial). *DINE* 474: 1, 2017.
10. 保坂利男:肥満と脂質異常. *成人病と生活習慣病* 47(11):1379-1382, 2017.
11. 保坂利男:2型糖尿病の食事療法の考え方と展望. *糖尿病診療マスター* 15(12): 998-1004, 2017.
12. 石田均:糖尿病食事療法—「食品交換表」に準拠したカーボカウントと適切な糖質調整食への展開. *最新医学* 73(1): 58-64, 2018.
13. 石田均:「食品交換表」に準拠したカーボカウント—その方法と適切な糖質調整食の継続への道—. *DM Ensemble* 6(4): 47-51, 2018.
14. 保坂利男:高齢者糖尿病治療2017~SGLT2阻害薬の上手な使い方update—. *三鷹醫人往来* 38-41, 2018.
15. 保坂利男:学会レポート 第32回日本糖尿病合併症学会. *糖尿病の最新治療* 9(2): 92-95, 2018.

著 書

1. 石田均(食品交換表編集委員会・カーボカウント小委員会:委員長):カーボカウントの手びき—「糖尿病食事療法のための食品交換表」準拠—. 日本糖尿病学会編・著. 東京, 文光堂, 2017.
2. 石田均(食品交換表編集委員会・カーボカウント小委員会:委員長):[医療者のための]カーボカウント指導テキスト—「糖尿病食事療法のための食品交換表」準拠—. 日本糖尿病学会編・著. 東京, 文光堂, 2017.
3. 志村二三夫, 石田均(編集):カレント:人体の構造と機能及び疾病の成り立ち2 第2版. 東京, 建帛社, 2018.
4. 近藤琢磨:糖尿病の運動療法. 今日の治療指針60巻. 東京, 医学書院, 2018. p.711.

その他

1. 石田均:第32回日本糖尿病合併症学会主催, 東京, 2017年10月27-29日.
2. 石田均, 武井泉:(対談)これからの糖尿病治療. *成人病と生活習慣病* 47(4): 413-423, 2017.

腫瘍内科学教室

講 演

1. 長島文夫:高齢がん患者における高齢者総合的機能評価と問題点. *WJOG2017年虎の穴* レクチャー, 大阪, 2017年4月9日.
2. 長島文夫:高齢者の癌医療について. 神奈川県地域医療を考える会, 横浜, 2017年5月12日.
3. 長島文夫:高齢者の癌治療の考え方と消化器癌の実態. 第6回ならしのがん治療連携の会, 習志野, 2017年5月18日.
4. Ueno M, Ioka T, Ueno H, Park JO, Chang HM, Sasahira N, Kanai M, Chung KJ, Ikeda M, Nakamori S, Mizuno N, Omuro Y, Yamaguchi T, Hra H, Sugimori K, Furuse J, Takeuchi M, Okusaka T, Boku N, Hyodo I: TAS-118 (S-1 plus leucovorin) versus S-1 in gemcitabine-refractory advanced pancreatic cancer: A randomized, open-label, phase III trial (GRAPE trial). 2017 ASCO Annual Meeting, USA, June 2nd-6th, 2017.
5. Mizuno M, Fukutomi A, Mizusawa J, Katayama K, Nakamura S, Ito Y, Hiraoka N, Ioka T, Ueno M, Ikeda M, Sugimori K, Shimizu K, Okusaka T, Ozaka M, Yanagimoto H, Nakamori S, Azuma T, Hosokawa A, Ishii H, Furuse J: Effect of inflammatory and nutritional (IN) status on induction chemotherapy (CT) followed by chemoradiotherapy (CRT) for locally advanced pancreatic cancer (LAPC): An exploratory subgroup analysis of JCOG1106. 2017 ASCO Annual Meeting, USA, June 2nd-6th, 2017.
6. Ikeda M, Nakachi K, Konishi M, Mitsunaga S, Mizusawa J, Uesaka K, Saiura A, Yanagimoto H, Morinaga S, Eba J, Katayama H, Fukuda H, Ishii H, Okusaka T, Furuse J: A randomized phase III trial comparing adjuvant chemotherapy with S-1 vs. surgery alone in patients with resectable biliary tract cancer (JCOG1202: ASCOT). 2017 ASCO

- Annual Meeting, USA, June 2nd-6th, 2017.
7. 長島文夫: 高齢者のがんへの対策. 第77回尚仁会総会, 仙台, 2017年6月3日.
 8. Furuse J: Current status and clinical trials in progress of chemotherapy for unresectable biliary and pancreatic cancers in Japan. Up-to-Date Lecture. The 6th Biennial Congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association, Yokohama, June 7th-10th, 2017.
 9. 長島文夫: フレイルとサルコペニア 介入研究への展望 がん臨床研究における高齢者研究について. 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017年6月16日.
 10. 古瀬純司: 肝胆膵がんにおける化学療法の特ピックス. 第48回東葛地区消化器疾患研究会, 柏, 2017年6月17日.
 11. Furuse J: Cohort study of patients with initially unresectable pancreatic cancer in whom conversion surgery is planned after disease downstaging by FOLFIRINOX or gemcitabine plus nab-paclitaxel therapy. FACO international collaboration study. FACO-APCC joint symposium. 24th Asia Pacific Cancer Conference, Korea, June 22nd-24th, 2017.
 12. Furuse J: Current pancreatic cancer chemotherapy treatment according to Japanese guideline. Satellite symposium. 24th Asia Pacific Cancer Conference, Korea, June 22nd-24th, 2017.
 13. 古瀬純司: 肝細胞癌の薬物療法今後の展望 ソラフェニブのこれまでと関西号癌治療の今後の展望. 第16回日本肝がん分子標的治療研究会, 徳島, 2017年6月24日.
 14. 成毛大輔: 都市型がん医療と地方のがん医療～あなたの地域ではどのような特色がありますか?～. 第22回日本緩和医療学会学術大会, 横浜, 2017年6月24日.
 15. 岡野尚弘, 河合桐男, 山内芳也, 小林敬明, 成毛大輔, 長島文夫, 古瀬純司: 二次治療をみすえた切除不能膵癌の治療戦略. 第48回日本膵臓学会, 京都, 2017年7月14-15日.
 16. 新田理恵, 臼井浩明, 野田耕介, 岡野尚弘, 成毛大輔, 河合桐男, 小林敬明, 長島文夫, 古瀬純司: FOLFIRINOX療法を受ける切除不能再発膵がん患者の有害事象と電話相談・緊急入院の実態. 第48回日本膵臓学会, 京都, 2017年7月14-15日.
 17. 寺島健志, 小林智, 柴知史, 吉田幸生, 山田育弘, 岩堂昭太, 堀口繁, 高橋秀明, 上野誠, 古瀬純司: Multicenter retrospective study of systemic chemotherapy for unresectable combined hepatocellular and cholangiocarcinoma. 第15回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2017年7月27-29日.
 18. Shiba S, Morizane C, Imaoka H, Shioji K, Suzuki E, Horiguchi S, Terashima T, Kojima Y, Okuno T, Sukawa Y, Tsuji K, Umemoto K, Asagi A, Todaka A, Ueno M, Ikeda M, Furuse J: Clinical characteristics of 42 Japanese patients with epithelioid hemangioendothelioma: A multicenter retrospective study. 第15回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2017年7月27-29日.
 19. Mizutani T, Nakamura K, Fukuda H, Ogawa A, Hamaguchi T, Nagashima F: Geriatric Oncology Research. 第15回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2017年7月27-29日.
 20. 西岡真理子, 成毛大輔, 岡野尚弘, 長島文夫, 古瀬純司: 肺転移をきたした甲状腺粘表皮癌に対してレンパチニブが腫瘍縮小効果を認めた1例. 第15回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2017年7月27-29日.
 21. 長島文夫: 老年腫瘍学の考え方と実地診療の進め方. Educational Seminar in MATSUMOTO, 松本, 2017年8月18日.
 22. 長島文夫: 高齢者がん医療. 中国・四国広域がんプロ養成コンソーサム第9回チーム医療合同演習, 岡山, 2017年8月19日.
 23. 古瀬純司: すい臓がん. Japan Cancer Forum 2017, 東京, 2017年8月19日.
 24. Fukutomi A, Mizusawa J, Katayama H, Okusaka T, Ito T, Okano N, Mizuno N, Ikeda M, Ueno M, Shioji K, Ozaka M, Shimizu S, Sakamoto Y, Kondo S, Kawabe K, Eba J, Ishii H, Fukuda H, Furuse J: Randomized phase II study of modified FOLFIRINOX versus gemcitabine plus nab-paclitaxel combination therapy for locally advanced pancreatic cancer: Japan Clinical Oncology Group Study (JCOG1407). ESMO 2017, Spain, September 8th-12th, 2017.
 25. Kobayashi S, Ueshima K, Moriguchi M, Takayama T, Izumi N, Yoshiji H, Hino K, Oikawa T, Chiba T, Motomura K, Kato J, Yasuchika K, Ido A, Kinoshita J, Sato T, Ikeda M, Okusaka T, Kudo M, Tamura K, Furuse J: JET-HCC: A phase 3 randomized, double-blind, placebo-controlled study of tivantinib as a second-line therapy in patients with c-Met high hepatocellular carcinoma. ESMO 2017, Spain, September 8th-12th, 2017.
 26. Sasaki M, Ueno H, Omae K, Goto T, Murohisa G, Mizuno N, Ozaka M, Kobayashi S, Uesugi K, Kobayashi N, Hayashi H, Sudo K, Okano N, Horita Y, Kamei K, Hosokawa T, Henmi T, Kobayashi M, Todaka A, Fukutomi A: Risk factors for febrile neutropenia (FN) in unresectable/recurrent pancreatic cancer (PC) patients (pts) receiving FOLFIRINOX (FFX) from JASPAC06 study. ESMO 2017, Spain, September 8th-12th, 2017.
 27. Shirasu H, Omae K, Fujii H, Mizuno N, Ozaka M, Ueno H, Kobayashi S, Uesugi K, Kobayashi N, Hayashi H, Sudo K, Okano N, Horita Y, Kamei K, Seigo Y, Takafuni H, Henmi T, Kobayashi M, Todaka A, Fukutomi A: The impact of UGT1A1 genetic polymorphism on safety in unresectable pancreatic cancer patients receiving FOLFIRINOX therapy: A subset analysis of JASPAC 06 study. ESMO 2017, Spain, September 8th-12th, 2017.
 28. Kobayashi N, Omae K, Horita Y, Ueno H, Mizuno N, Uesugi K, Sudo K, Ozaka M, Hayashi H, Okano N, Kamei K, Yamaguchi A, Kobayashi S, Suzuki S, Ishihara S, Uchiyama T, Todaka A, Fukutomi A: FOLFIRINOX as second-line chemotherapy for advanced pancreatic cancer: a subset analysis from the nation-wide multicenter observational study (JASPAC06). ESMO 2017, Spain, September 8th-12th, 2017.
 29. 長島文夫: 高齢がん患者の薬物療法. 第34回千葉癌化学療法研究会, 千葉, 2017年9月15日.
 30. 成毛大輔: 都市に生活するがん患者における充実したサバイバーシップの実現に向けた調査研究. 第20回日本在宅ホスピス協会全国大会in多摩, 立川, 2017年9月23日.
 31. Furuse J: Clinical trials in progress of Chemotherapy for unresectable pancreatic cancer in Japan. International association of pancreatology 2017, Argentina, September 28th-30th, 2017.
 32. 古瀬純司: 切除不能膵癌に対する化学療法—現状と今後の展望. 第55回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2017年10月20-22日.
 33. Furuse J: Cohort study of patients with initially

- unresectable pancreatic cancer in whom conversion surgery is planned after disease downstaging by FOLFIRINOX or gemcitabine plus nab-paclitaxel therapy. 第55回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2017年10月20-22日.
34. 田中彰人, 小林敬明, 山内芳也, 河合桐男, 岡野尚弘, 成毛大輔, 長島文夫, 古瀬純司: 食道悪性黒色腫に対してNivolumab治療により副腎機能低下を来した1例. 第55回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2017年10月20-22日.
 35. 長島文夫, 成毛大輔, 岡野尚弘, 北村浩, 河合桐男, 小林敬明, 山内芳也, 前野聡子, 古瀬純司: 消化器がんの治療の限界と問題. 第55回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2017年10月21日.
 36. Furuse J: Neoadjuvant Treatment of Pancreatic Cancer including conversion surgery: Collaboration study in Asia. 10th Annual Meeting of Korea Association for Clinical Oncology, Korea, November 10th, 2017.
 37. Mizutani T, Nakamura K, Tashiro S, Yamasaki F, Inaba K, Ogawa A, Hamaguchi T, Fukuda H, Nagashima F: Decision-making capacity in geriatric cancer trials- methodological and ethical issue of geriatric cancer trials. SIOG 2017, Poland, November 10th, 2017.
 38. 古瀬純司, 他: 公開セカンドオピニオン. 第3回がん撲滅サミット, 横浜, 2017年11月12日.
 39. 古瀬純司: 最新のがん治療: 薬物療法の新時代. 杏林大学病院がんセンター「がんと共にすこやかに生きる」講演会シリーズ第5回, 三鷹, 2017年11月25日.
 40. 古瀬純司: 膵癌治療の最前線—最新の化学療法が治療戦略を変える!?. パンキャンジャパン勉強会, 東京, 2017年12月23日.
 41. 長島文夫: 高齢者の医療選択—あなたに癌が見つかった時. 市民公開シンポジウム<都市高齢者の今後>主体的な選択を行うために, 三鷹, 2018年1月13日.
 42. Morizane C, Okusaka T, Mizusawa J, Katayama H, Ueno M, Ikeda M, Ozaka M, Sugimori K, Fukutomi A, Hara H, Mizuno N, Yanagimoto H, Sano K, Tobimatsu K, Yane K, Nakamori S, Sata N, Yukisawa S, Ishii H, Furuse J: Randomized phase III study of gemcitabine plus S-1 combination therapy versus gemcitabine plus cisplatin combination therapy in advanced biliary tract cancer: A Japan Clinical Oncology Group study (JCOG1113, FUGA-BT). 2018 Gastrointestinal Cancers Symposium, USA, January 18th-20th, 2018.
 43. Kudo M, Ueshima K, Ikeda M, Torimura T, Tanabe N, Aikata H, Izumi N, Yamasaki T, Nojiri S, Hino K, Tsumura H, Kuzuya T, Isoda N, Yasui K, Yoshimura K, Okusaka T, Furuse J, Kokudo N, Okita K, Arai Y: Randomized, open label, multicenter, phase II trial comparing transarterial chemoembolization (TACE) plus sorafenib with TACE alone in patients with hepatocellular carcinoma (HCC): TACTICS trial. 2018 Gastrointestinal Cancers Symposium, USA, January 18th-20th, 2018.
 44. Ikeda M, Okusaka T, Ohno I, Mitsunaga S, Takahashi H, Kondo S, Morizane C, Furuse J: Phase 1 studies of 3- and 6-peptide vaccine cocktail derived from GPC3, WDRPUH, and NEIL3 in patients with advanced hepatocellular carcinoma (HCC). 2018 Gastrointestinal Cancers Symposium, USA, January 18th-20th, 2018.
 45. Okano N, Kawai K, Yamauchi Y, Kobayashi T, Naruge D, Nagashima F, Endou H, Furuse J: First-in-human phase I study of JPH203 in patients with advanced solid tumors. 2018 Gastrointestinal Cancers Symposium, USA, January 18th-20th, 2018.
 46. Umemoto K, Takahashi H, Morizane C, Yamada I, Shimizu S, Shioji K, Yoshida Y, Motoya M, Mizuno N, Kojima Y, Terashima T, Uesugi K, Ikeda M, Ueno M, Furuse J: FOLFIRINOX in advanced pancreatic cancer patients with the double-variant type of UGT1A1 polymorphism: A multicenter, retrospective study. 2018 Gastrointestinal Cancers Symposium, USA, January 18th-20th, 2018.
 47. Shitara K, Yamanaka T, Denda T, Tsuji Y, Shinozaki K, Komatsu Y, Kobayashi Y, Furuse J, Okuda H, Asayama M, Akiyoshi K, Kagawa Y, Kato T, Oki E, Ando T, Ohashi Y, Yoshino T: Reverse: Randomized phase II study of regorafenib followed by cetuximab versus the reverse sequence for metastatic colorectal cancer patients previously treated with fluoropyrimidine, oxaliplatin, and irinotecan. 2018 Gastrointestinal Cancers Symposium, USA, January 18th-20th, 2018.
 48. Honma Y, Ueno M, Kanemitsu Y, Ohkawa S, Kitahara H, Mizusawa J, Katayama H, Nakamura K, Furuse J, Shimada Y: Randomized phase III study of observation versus adjuvant capecitabine and oxaliplatin in curatively resected small bowel adenocarcinoma: A Japan Clinical Oncology Group study (JCOG1502C). 2018 Gastrointestinal Cancers Symposium, USA, January 18th-20th, 2018.
 49. Yuki S, Yamazaki K, Taniguchi H, Sunakawa Y, Kawazoe A, Kagawa Y, Kato K, Hara H, Denda T, Oki E, Moriwaki T, Shiozawa M, Satoh T, Kawakami H, Esaki T, Furuse J, Abe Y, Nomura S, Ohtsu A, Yoshino T: The nationwide screening project on plasma angiogenesis-related mediators for treatment selection of optimal antiangiogenic inhibitors in metastatic colorectal cancer: GI-SCREEN CRC-Ukit. 2018 Gastrointestinal Cancers Symposium, USA, January 18th-20th, 2018.
 50. 長島文夫: 高齢者におけるがん診療の考え方とその工夫. がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン国際協力型がん臨床指導者養成拠点第5回 Cancer Arena for Clinical Orientated Problem, つくば, 2018年2月1日.
 51. 古瀬純司: 膵癌治療と疼痛緩和治療 外来がん患者さんの疼痛治療—副作用対策を含めて. シオノギWebカンファレンス, 東京, 2018年2月5日.
 52. 古瀬純司: 膵癌治療の最前線—エビデンスとプラクティス. 第15回神奈川膵疾患研究会, 横浜, 2018年2月8日.
 53. 古瀬純司: 膵がんの薬物療法—最新の話題. Oncologyセミナー, 東京, 2018年2月9日.
 54. 古瀬純司: 胆道癌化学療法の最新情報—エビデンスの確立に向けて. 第12回消化器がん化学療法研究会, 名古屋, 2018年2月16日.
 55. Furuse J: Development of chemotherapy and conversion surgery for unresectable pancreatic cancer. Surgical Grand Round at Yonsei University College of Medicine, Korea, February 24th, 2018.
 56. 長島文夫: 高齢者のがん診療のあり方. 第31回日本老年脳神経外科学会, 東京, 2018年2月24日.
 57. 長島文夫: 高齢者ががん患者の診療における課題と対応. 自治医科大学がんプロ六大学合同セミナー, 下野, 2018年3月2日.

58. 古瀬純司: 膵がん治療の最前線—化学療法のエビデンスとプラクティス. 第48回千種川カンファレンス, 赤穂, 2018年3月8日.
59. 古瀬純司: 肝がん化学療法の動向: 最新情報とこれから. 第14回臨床消化器病フォーラム, 大阪, 2018年3月17日.
60. 古瀬純司: 切除不能膵癌に対する化学療法—最新の動向. 第51回制癌剤適応研究会, 下呂, 2018年3月23日.
61. 古瀬純司: 膵・消化管神経内分泌腫瘍の新たな展開～診断から治療まで～. 膵・消化管神経内分泌腫瘍 meet the Expert in Nara, 奈良, 2018年3月28日.

論文

欧文

1. Ikeda M¹, Morizane C², Ueno M³, Okusaka T², Ishii H⁴, Furuse J¹(¹National Cancer Center Hospital East, ² National Cancer Center Hospital, ³Kanagawa Cancer Center ⁴Shikoku Cancer Center): Chemotherapy for hepatocellular carcinoma: current status and future perspectives. *Jpn J Clin Oncol* 2017. doi: 10.1093/jjco/hyx180.
2. Ikeda M¹, Ioka T², Fukutomi A³, Morizane C⁴, Kasuga A, Takahashi H¹, Todaka A³, Okusaka T⁴, Creasy CL⁵, Gorman S⁵, Felitsky DJ⁶, Kobayashi M⁷, Zhang F⁷, Furuse J¹(¹National Cancer Center Hospital East, ²Osaka International Cancer Institute, ³Shizuoka Cancer Center, ⁴National Cancer Center Hospital, ⁵GlaxoSmithKline, ⁶Jounce Therapeutics, ⁷Novartis Pharma): Efficacy and safety of trametinib in Japanese patients with advanced biliary tract cancers refractory to gemcitabine. *Cancer Sci* 2017. doi: 10.1111/cas.13438.
3. Hagiwara Y¹, Ohashi Y², Okusaka T³, Ueno H³, Ioka T⁴, Boku N⁵, Egawa S⁶, Hatori T⁷, Furuse J, Mizumoto K⁸, Ohkawa S⁹, Yamaguchi T¹⁰, Yamao K¹¹, Funakoshi A¹², Cheng AL¹³, Kihara K¹, Sato A¹⁴, Tanaka M¹⁵(¹The University of Tokyo, ²Chuo University, ³National Cancer Center Hospital, ⁴Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Diseases, ⁵National Cancer Center Hospital, ⁶Tohoku University, ⁷International University of Health and Welfare Mita Hospital, ⁸Kyushu University Hospital Cancer Center, ⁹Kanagawa Cancer Center, ¹⁰Chiba Cancer Center, ¹¹Aichi Cancer Center Hospital, ¹²Fukuoka Sanno Hospital, ¹³National Taiwan University Hospital, ¹⁴Hirosaki University Graduate School of Medicine, ¹⁵Shimonoseki City Hospital) : Health-related quality of life in a randomised phase III study of gemcitabine plus S-1, S-1 alone and gemcitabine alone for locally advanced or metastatic pancreatic cancer: GEST study. *ESMO Open* 2(1):e000151, 2017.
4. Okano N, Kasuga A, Kawai K, Kobayashi T, Naruge D, Nagashima F, Furuse J: Axitinib for Gemcitabine-refractory Advanced Biliary Tract Cancer: Report of 5 Cases. *Anticancer Res* 37(7):3711-3715, 2017.
5. Ueno M¹, Li CP^{2,3}, Ikeda M⁴, Ishii H^{5,6}, Mizuno N⁷, Yamaguchi T⁸, Ioka T^{9,10}, Oh DY¹¹, Ichikawa W¹², Okusaka T¹³, Matsuyama Y¹⁴, Arai D¹⁵, Chen LT¹⁶, Park YS¹⁷, Furuse J¹(¹Kanagawa Cancer Center, ²Taipei Veterans General Hospital, ³National Yang-Ming University, ⁴National Cancer Center Hospital East, ⁵Cancer Institute Hospital, Japanese Foundation for Cancer Research, ⁶Clinical Research Center, National Hospital Organization Shikoku Cancer Center, ⁷Aichi Cancer Center Hospital, ⁸Chiba Cancer Center, ⁹Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Disease, ¹⁰Osaka International Cancer Institute, ¹¹Seoul National University Hospital, Cancer Research Institute, ¹²Showa University School of Medicine, ¹³National Cancer Center Hospital, ¹⁴The University of Tokyo, ¹⁵ZERIA Pharmaceutical, ¹⁶National Health Research Institutes, ¹⁷Samsung Medical Center, Sungkyunkwan University School of Medicine) : A randomized phase II study of gemcitabine plus Z-360, a CCK2 receptor-selective antagonist, in patients with metastatic pancreatic cancer as compared with gemcitabine plus placebo. *Cancer Chemother Pharmacol* 80(2):307-315, 2017.
6. Furuse J, Gemma A^{1,2}, Ichikawa W^{1,3}, Okusaka T^{1,4}, Seki A⁵, Ishii T⁵(¹Independent Advisory Board for Erlotinib, ²Nippon Medical School Graduate School of Medicine, ³Showa University Fujigaoka Hospital, ⁴National Cancer Center Hospital, ⁵Chugai Pharmaceuticals) : Postmarketing surveillance study of erlotinib plus gemcitabine for pancreatic cancer in Japan: POLARIS final analysis. *Jpn J Clin Oncol* 47(9):832-839, 2017.
7. Kudo M¹, Moriguchi M², Numata K³, Hidaka H⁴, Tanaka H⁵, Ikeda M⁶, Kawazoe S⁷, Ohkawa S⁸, Sato Y⁹, Kaneko S¹⁰, Furuse J, Takeuchi M¹¹, Fang X¹², Date Y¹¹, Takeuchi M¹³, Okusaka T¹⁴ (¹Kindai University, ²Kyoto Prefectural University of Medicine, ³Yokohama City University Medical Center, ⁴Kitasato University Hospital, ⁵Hyogo College of Medicine, ⁶National Cancer Center Hospital East, ⁷Saga-ken Medical Centre KOSEIKAN, ⁸Kanagawa Cancer Center, ⁹Aichi Cancer Center Hospital, ¹⁰Kanazawa University Hospital, ¹²Keio University, ¹³Kitasato University School of Pharmacy, ¹⁴National Cancer Center Hospital) : S-1 versus placebo in patients with sorafenib-refractory advanced hepatocellular carcinoma (S-CUBE): a randomised, double-blind, multicentre, phase 3 trial. *Lancet Gastroenterol Hepatol* 2(6):407-417, 2017.
8. Hamada C¹, Okusaka T², Ikari T³, Isayama H⁴, Furuse J, Ishii H⁵, Nakai Y⁶, Imai S⁷, Okamura S⁸(¹Tokyo University of Science, ²National Cancer Center Hospital, ³Tobu Chiiki Hospital, ⁴The University of Tokyo, ⁵Shikoku Cancer Center): Efficacy and safety of gemcitabine plus S-1 in pancreatic cancer: a pooled analysis of individual patient data. *Br J Cancer* 116(12):1544-1550, 2017.
9. Hijioka S¹, Hosoda W¹, Matsuo K², Ueno M³, Furukawa M⁴, Yoshitomi H⁵, Kobayashi N⁶, Ikeda M⁷, Ito T⁸, Nakamori S⁹, Ishii H¹⁰, Kodama Y¹¹, Morizane C¹², Okusaka T¹², Yanagimoto H¹³, Notohara K¹⁴, Taguchi H¹⁵, Kitano M¹⁶, Yane K¹⁷, Maguchi H¹⁷, Tsuchiya Y¹⁸, Komoto I¹⁹, Tanaka H²⁰, Tsuji A²¹, Hashigo S²², Kawaguchi Y²³, Mine T²³, Kanno A²⁴, Murohisa G²⁵, Miyabe K²⁶, Takagi T²⁷, Matayoshi N²⁸, Yoshida T¹, Hara K¹, Imamura M²⁰, Furuse J, Yatabe Y¹, Mizuno N¹ (¹Aichi Cancer Center Hospital, ²Aichi Cancer Center Research Institute, ³Kanagawa Cancer Center, ⁴National Kyushu Cancer Center, ⁵Chiba University, ⁶Yokohama City University Hospital, ⁷National Cancer Center Hospital East, ⁸Kyushu University, ⁹Osaka National Hospital, ¹⁰Cancer Institute Hospital, Japanese Foundation for Cancer Research, ¹¹Kyoto University, ¹²National Cancer Center Hospital, ¹³Kansai Medical University, ¹⁴Kurashiki Central Hospital, ¹⁵Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences, ¹⁶Kinki University, ¹⁷Teine-Keijinkai

- Hospital, ¹⁸Niigata Cancer Center Hospital, ¹⁹Kansai Electric Power Hospital, ²⁰Suzuka General Hospital, ²¹Kobe City Medical Center General Hospital, ²²Graduate School of Medical Sciences, Kumamoto University, ²³Tokai University School of Medicine, ²⁴Tohoku University Graduate School of Medicine, ²⁵Seirei Hamamatsu General Hospital, ²⁶Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences, ²⁷Fukushima Medical University School of Medicine, ²⁸University of Occupational and Environmental Health) : Rb Loss and KRAS Mutation Are Predictors of the Response to Platinum-Based Chemotherapy in Pancreatic Neuroendocrine Neoplasm with Grade 3: A Japanese Multicenter Pancreatic NEN-G3 Study. *Clin Cancer Res* 23(16):4625-4632, 2017.
10. Yamaguchi K¹, Okusaka T¹, Shimizu K¹, Furuse J, Ito Y¹, Hanada K¹, Shimosegawa T¹, Okazaki K¹ (Committee for Revision of Clinical Guidelines for Pancreatic Cancer of the Japan Pancreas Society) : Committee for Revision of Clinical Guidelines for Pancreatic Cancer of the Japan Pancreas Society. Clinical practice guidelines for pancreatic cancer 2016 from the Japan Pancreas Society: a synopsis. *Pancreas* 46(5):595-604, 2017.
 11. Ikeda M¹, Okusaka T², Sato Y³, Furuse J, Mitsunaga S¹, Ueno H², Morizane C², Inaba Y³, Kobayashi T², Arai Y¹ (¹National Cancer Center Hospital East, ²National Cancer Center Hospital, ³Aichi Cancer Center) : A Phase I/II trial of continuous hepatic intra-arterial infusion of 5-fluorouracil, mitoxantrone and cisplatin for advanced hepatocellular carcinoma. *Jpn J Clin Oncol* 47(6): 512-519, 2017.
 12. Okusaka T¹, Miyakawa H², Fujii H³, Nakamori S⁴, Satoh T⁵, Hamamoto Y⁶, Ito T⁷, Maguchi H⁸, Matsumoto S⁹, Ueno H¹, Ioka T¹⁰, Boku N¹, Egawa S¹¹, Hatori T¹², Furuse J, Mizumoto K¹³, Ohkawa S¹⁴, Yamaguchi T¹⁵, Yamao K¹⁶, Funakoshi A¹⁷, Chen JS¹⁸, Cheng AL¹⁹, Sato A²⁰, Ohashi Y²¹, Tanaka M²²; GEST group (¹National Cancer Center Hospital, ²Sapporo Kosei General Hospital, ³Jichi Medical University, ⁴Osaka National Hospital, ⁵Osaka University, ⁶Keio University Hospital, ⁷Kyushu University, ⁸Teine-Keijinkai Hospital, ⁹Kyoto University Hospital, ¹⁰Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Diseases, ¹¹Tohoku University, ¹²International University of Health and Welfare Mita Hospital, ¹³Kyushu University Hospital Cancer Center, ¹⁴Kanagawa Cancer Center, ¹⁵Chiba Cancer Center, ¹⁶Aichi Cancer Center Hospital, ¹⁷Fukuoka Sanno Hospital, ¹⁸Linkou Chang Gung Memorial Hospital and Chang Gung University, ¹⁹National Taiwan University Hospital, and National Taiwan University Cancer Center, ²⁰Hirosaki University Graduate School of Medicine, ²¹Chuo University, ²²Shimonoseki City Hospital) : Updated results from GEST study: a randomized, three-arm phase III study for advanced pancreatic cancer. *J Cancer Res Clin Oncol* 143(6):1053-1059, 2017.
 13. Kudo M¹, Hatano E², Ohkawa S³, Fujii H⁴, Masumoto A⁵, Furuse J, Wada Y⁶, Ishii H⁷, Obi S⁸, Kaneko S⁹, Kawazoe S¹⁰, Yokosuka O¹¹, Ikeda M¹², Ukai K¹³, Morita S¹⁴, Tsuji A¹⁵, Kudo T¹⁶, Shimada M¹⁷, Osaki Y¹⁸, Tateishi R¹⁹, Sugiyama G²⁰, Abada PB²¹, Yang L²¹, Okusaka T²², Zhu AX²³ (¹Kindai University, ²Kyoto University Hospital, ³Kanagawa Cancer Center, ⁴Jichi Medical University, ⁵Aso Iizuka Hospital, ⁶National Hospital Organization Kyushu Medical Center, ⁷The Cancer Institute Hospital of the Japanese Foundation for Cancer Research, ⁸Kyoundo Hospital, ⁹Kanazawa University Hospital, ¹⁰Saga-Ken Medical Centre Koseikan, ¹¹Chiba University Hospital, ¹²National Cancer Center Hospital East, ¹³Sendai Medical Center, ¹⁴Kochi Health Sciences Center, ¹⁵Kagawa University Hospital, ¹⁶Osaka University Hospital, ¹⁷Tokushima University Hospital, ¹⁸Osaka Red Cross Hospital, ¹⁹The University of Tokyo Hospital, ²⁰Kurume University Medical Center, ²¹Eli Lilly and Company, ²²National Cancer Center Hospital, ²³Massachusetts General Hospital Cancer Center) : Ramucirumab as second-line treatment in patients with advanced hepatocellular carcinoma: Japanese subgroup analysis of the REACH trial. *J Gastroenterol* 52(4): 494-503, 2017.
 14. Ikeda M¹, Shimizu S¹, Sato T², Morimoto M³, Kojima Y⁴, Inaba Y⁵, Hagihara A⁶, Kudo M⁷, Nakamori S⁸, Kaneko S⁹, Sugimoto R¹⁰, Tahara T¹¹, Ohmura T¹², Yasui K¹³, Sato K¹⁴, Ishii H¹⁵, Furuse J, Okusaka T¹⁶ (¹National Cancer Center Hospital East, ²Kyoto University School of Public Health, ³Kanagawa Cancer Center, ⁴National Center for Global Health and Medicine Center Hospital, ⁵Aichi Cancer Center Hospital, ⁶Osaka City University Hospital, ⁷Kinki University School of Medicine, ⁸Osaka National Hospital, ⁹Kanazawa University Hospital, ¹⁰National Hospital Organization Kyushu Cancer Center, ¹¹Saiseikai Utsunomiya Hospital, ¹²Sapporo Kosei General Hospital, ¹³Kyoto Prefectural University of Medicine, ¹⁴Kyoto University Hospital, ¹⁵Shikoku Cancer Center, ¹⁶National Cancer Center Hospital) : Reply to the Letter to the editor 'Sorafenib plus hepatic arterial infusion chemotherapy with cisplatin versus Sorafenib for advanced hepatocellular carcinoma: randomized phase II trial' by Fornaro et al. *Ann Oncol* 28(4):903-904, 2017.
 15. Matsuki R¹, Sugiyama M¹, Takei H², Kondo H², Fujiwara M³, Shibahara J³, Furuse J (¹Department of Surgery, School of Medicine, Kyorin University, ²Department of General Thoracic Surgery, School of Medicine, Kyorin University, ³Department of Pathology, School of Medicine, Kyorin University) : Long-term survival with repeat resection for lung oligometastasis from pancreatic ductal adenocarcinoma: a case report. *Surg Case Rep* 4(1): 26, 2018.
 16. Okano N, Kasuga A, Kawai K, Yamauchi Y, Kobayashi T, Naruge D, Nagashima F, Furuse J: The Modified Glasgow prognostic score in patients with gemcitabine-refractory biliary tract cancer. *Anticancer Res* 38(3):1755-1761, 2018.
 17. Kaibori M¹, Yoshii K², Yokota I², Hasegawa K³, Nagashima F, Kubo S⁴, Kon M¹, Izumi N⁵, Kadoya M⁶, Kudo M⁷, Kumada T⁸, Sakamoto M⁹, Nakashima O¹⁰, Matsuyama Y¹¹, Takayama T¹², Kokudo N¹³ (¹Kansai Medical University, Hirakata, ²Kyoto Prefectural University of Medicine, ³The University of Tokyo, ⁴Osaka City University Graduate School of Medicine, ⁵Musashino Red Cross Hospital, ⁶Shinshu University School of Medicine, ⁷Kinki University School of Medicine, ⁸Ogaki Municipal Hospital, ⁹Keio University School of Medicine, ¹⁰Kurume University Hospital, ¹¹School of Public Health University of Tokyo, ¹²Nihon University School of

- Medicine,¹³National Center for Global Health and Medicine); Liver Cancer Study Group of Japan: Impact of Advanced Age on Survival in Patients Undergoing Resection of Hepatocellular Carcinoma: Report of a Japanese Nationwide Survey. *Ann Surg.* 2017. doi: 10.1097/SLA.0000000000002526.
18. Hayashi N^{1,2}, Matsuoka A^{1,2}, Goto H², Gotoh M², Kiyoi H², Kadera Y², Nagino M², Nagashima F, Ando Y¹(¹Nagoya University Hospital, ²Nagoya University Graduate School of Medicine): Clinical effectiveness of geriatric assessment for predicting the tolerability of outpatient chemotherapy in older adults with cancer. *J Geriatr Oncol.* 9(1):84-86, 2018.
 19. Okano N, Kasuga A, Kawai K, Yamauchi Y, Kobayashi T, Naruge D, Nagashima F, Furuse J: The Modified Glasgow Prognostic Score in Patients with Gemcitabine-refractory Biliary Tract Cancer. *Anticancer Res* 38:1755-1761, 2018.
 20. Yamaguchi K^{1,2}, Fujitani K³, Nagashima F, Omuro Y⁴, Machida N⁵, Nishina T⁶, Koue T⁷, Tsujimoto M⁷, Maeda K⁷, Satoh T⁸(¹Saitama Cancer Center, ²Cancer Institute Hospital of Japanese Foundation for Cancer Research, ³Osaka General Medical Center, ⁴Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center Komagome Hospital, ⁵Shizuoka Cancer Center, ⁶National Hospital Organization Shikoku Cancer Center, ⁷Eli Lilly Japan, ⁸Osaka University Hospital): Ramucirumab for the treatment of metastatic gastric or gastroesophageal junction adenocarcinoma following disease progression on first-line platinum- or fluoropyrimidine-containing combination therapy in Japanese patients: a phase 2, open-label study. *Gastric Cancer*, 2018. doi.org/10.1007/s10120-018-0811-4.
- 和文**
1. 古瀬純司: 膵癌化学療法のup to date. *日本消化器病学会雑誌* 114(4):637-643, 2017.
 2. 古瀬純司: 胆道がん. 胆道がん化学療法. 最新医学(別冊)121:186-193, 2017.
 3. 古瀬純司: 切除不能胆道癌の治療成績とconversion surgery. *胆と膵* 38(5):439-442, 2017.
 4. 古瀬純司: 新しい標的. FGFR阻害薬. *腫瘍内科* 19(6):692-697, 2017.
 5. 古瀬純司: 神経内分泌腫瘍に対する内科治療—薬物療法のup-to-date. *医学のあゆみ* 262(7-8):719-724, 2017.
 6. 工藤正俊¹, 池田公史², 古瀬純司, 小笠原定久³(¹近畿大, ²国立がん研究センター東病院, ³千葉大学大学院): 急激に変化する肝細胞癌の薬物療法を語る. *肝胆膵* 75(2):187-208, 2017.
 7. 古瀬純司: 分子標的薬の開発のこれまでを振り返る. 1st line薬剤(スニチニブ, プリバニブ, リニファニブ) 標的分子と結果の概要・失敗原因の考察. *肝胆膵* 75(2):383-388, 2017.
 8. 古瀬純司: 分子標的治療の現在・未来—なぜ肝癌の臨床試験は難しいか. *クリニシアニ* 659(64):747-756, 2017.
 9. 古瀬純司: 局所進行切除不能膵癌に対する化学療法. *胆と膵* 38(11):1289-1293, 2017.
 10. 古瀬純司: 原発臓器別の転移性腫瘍(転移がん)の治療胆道癌. *日本臨牀* 75(9):219-223, 2017
 11. 古瀬純司: 局所進行切除不能膵癌に対する非切除治療アルゴリズム. *肝胆膵* 76(3): 411-417, 2018.
 12. 岡野尚弘, 河合桐男, 小林敬明, 成毛大輔, 長島文夫, 古瀬純司: 化学療法の進歩に伴う切除不能膵癌の新しい治療戦略. 二次治療をみすえた切除不能膵癌の治療戦略. *膵臓* 32(3):380, 2017.
 13. 岡野尚弘, 前野聡子, 長島文夫: 内科医が知っておくべきがん患者のマネジメント. 高齢者のがん診療における注意点を教えてください. 治療適応はどのように判断しますか. *Medicina* 54(8):1286-1289, 2017.
 14. 岡野尚弘, 長島文夫, 古瀬純司: 切除不能膵がんFOLFIRINOX療法. 膵がん化学療法の将来展望. *臨床腫瘍ブランクティス* 13(4):313-317, 2017.
 15. 河合桐男, 岡野尚弘, 小林敬明, 長島文夫, 柴原純二, 井本滋, 古瀬純司: 悪性リンパ腫寛解後に生じた原発不明癌の2例. *日本内科学会雑誌* 106(Suppl):192, 2017.
 16. 小林敬明, 正木忠彦¹, 野崎江里子, 高安甲平¹, 小嶋幸一郎¹, 渡邊武志¹, 松岡弘芳¹, 河合桐男, 岡野尚弘, 成毛大輔, 長島文夫, 古瀬純司(¹杏林大・医・第一外科): 大腸癌先進部における低分化胞巣・簇出の形成機序に関する検討. *日本大腸肛門病学会雑誌* 70(8):562, 2017.
 17. 松島英之¹, 海堀昌樹¹, 石崎守彦¹, 松井康輔¹, 井上健太郎¹, 長島文夫, 権雅憲¹(¹関西医科大学・医・外科学講座): 高齢者総合機能評価を用いた高齢者肝胆膵外科治療方針の提案. *胆と膵* 38(3):217-225, 2017.
 18. 新田理恵, 臼井浩明, 野田耕介, 岡野尚弘, 成毛大輔, 河合桐男, 小林敬明, 長島文夫, 古瀬純司: FOLFIRINOX療法を受ける切除不能再発膵がん患者の有害事象と電話相談・緊急入院の実態. *膵臓* 32(3):562, 2017.
 19. 成毛大輔, 渡邊清高¹, 関順彦¹, 林和彦², 河合桐男, 岡野尚弘, 小林敬明, 夏目まいか¹, 長島文夫, 古瀬純司(¹帝京大・医・腫瘍内科, ²東京女子医大・化学療法・緩和ケア科): 都市型がん医療と地方のがん医療. あなたの地域ではどのような特色がありますか? がん患者のニーズ調査と充実したサバイバーシップに向けたアンケート調査研究. *Palliative Care Research* 12(Suppl):S265, 2017.
 20. 深澤友里¹, 土岐真朗¹, 後藤知之¹, 吉田翼¹, 太田博崇¹, 落合一成¹, 権藤興一¹, 渡邊俊介¹, 岡野尚弘, 倉田勇¹, 小暮正晴², 立石秀勝³, 鈴木裕², 仲村明恒³, 下山田博明⁴, 望月真⁴, 柴原純二⁴, 森秀明¹, 古瀬純司, 久松理一¹, 杉山政則²(¹杏林大・医・第3内科, ²杏林大・医・第1外科, ³杏林大・医・放射線科, ⁴杏林大・医・病理学): 短期間の膵炎再発により診断に至った膵癌の1例. *杏林医学会誌* 48(4): 129-136, 2017.
 21. 熊野奈津美¹, 中島恵美子¹, 長島文夫(¹杏林大・保・看護学科): 併存疾患を理解する. 加齢に伴う変化. *がん看護* 23(1):27-30, 2018.
 22. 野崎江里子, 前野聡子, 長島文夫, 岡野尚弘, 河合桐男, 小林敬明, 山内芳也, 古瀬純司: 高齢者のがん治療に影響を及ぼす背景因子. *癌と化学療法* 45(1):8-11, 2018.
 23. 山内芳也, 長島文夫, 河合桐男, 岡野尚弘, 成毛大輔, 小林敬明, 古瀬純司: 高齢がん患者の機能評価. 外科と代謝・栄養 52(1):17-22, 2018.
 24. 前野聡子, 長島文夫, 成毛大輔, 岡野尚弘, 河合桐男, 山内芳也, 小林敬明, 北村浩, 古瀬純司: 高齢者のがん薬物療法ガイドライン策定に向けて. *腫瘍内科* 21(2):221-226, 2018.
- 著書**
1. 古瀬純司(分担執筆): 肝細胞癌/胆道癌/膵癌. 肝癌, 胆道癌, 膵癌化学療法の最近の動向. エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック2017. 大津敦監修. 東京, メディカルレビュー社, 2017. p.446-458.
 2. 成毛大輔, 古瀬純司(分担執筆): 肝細胞癌/胆道癌/膵癌. 胆道癌. GC療法. エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック2017. 大津敦監修. 東京, メディカルレビュー社, 2017. p.469-471.
 3. 成毛大輔, 古瀬純司(分担執筆): 肝細胞癌/胆道癌/膵癌. 胆道癌. GEM療法. エビデンスに基づいた癌化

学療法ハンドブック2017. 大津敦監修. 東京, メディカルレビュー社, 2017. p.472-473.

4. 河合桐男, 古瀬純司 (分担執筆): 肝細胞癌/胆道癌/膵癌 胆道癌 S-1[単剤, 併用 (GS療法, GCS療法)]. エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック2017. 大津敦監修. 東京, メディカルレビュー社, 2017. p.474-478.
5. 岡野尚弘, 古瀬純司 (分担執筆): 肝細胞癌/胆道癌/膵癌 膵癌 GEM. エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック2017. 大津敦監修. 東京, メディカルレビュー社, 2017. p.479-481.
6. 岡野尚弘, 古瀬純司 (分担執筆): 肝細胞癌/胆道癌/膵癌 膵癌 GEM+Nab-PTX. エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック2017. 大津敦監修. 東京, メディカルレビュー社, 2017. p.482-484.
7. 河合桐男, 古瀬純司 (分担執筆): 肝細胞癌/胆道癌/膵癌 膵癌 S-1. エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック2017. 大津敦監修. 東京, メディカルレビュー社, 2017. p.485-488.
8. 岡野尚弘, 古瀬純司 (分担執筆): 肝細胞癌/胆道癌/膵癌 膵癌 GEM+Erlotinib療法. エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック2017. 大津敦監修. 東京, メディカルレビュー社, 2017. p.489-491.
9. 小林敬明, 古瀬純司 (分担執筆): 肝細胞癌/胆道癌/膵癌 膵癌 OLFIRINOX. エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック2017. 大津敦監修. 東京, メディカルレビュー社, 2017. p.492-495.
10. 古瀬純司 (分担執筆): 肝疾患の治療薬〜エキスパートはこう使う!〜 肝癌治療薬 ソラフェニブ. 肝疾患治療マニュアルガイドラインを理解し, 応用する. 竹原徹郎, 持田智編集. 東京, 南江堂, 2017. p.194-199.
11. 古瀬純司 (分担執筆): 膵神経内分泌腫瘍・がん 組織診断がつく前に治療を開始した膵がんの1例. 消化器神経内分泌腫瘍薬物療法のケースファイリング. 古瀬純司, 奥坂拓志編集. 東京, 医学と看護社, 2017. p.60-64.
12. 成毛大輔 (分担執筆): 治療中, Ki-67値が変化した胃神経内分泌がんの1例. 消化器神経内分泌腫瘍薬物療法のケースファイリング. 古瀬純司, 奥坂拓志編集. 東京, 医学と看護社, 2017. p.86-89.
13. 岡野尚弘 (分担執筆): 小腸原発神経内分泌がんの1例. 消化器神経内分泌腫瘍薬物療法のケースファイリング. 古瀬純司, 奥坂拓志編集. 東京, 医学と看護社, 2017. p.95-100.
14. 成毛大輔 (分担執筆): 原発不明神経内分泌癌: 膵原発?. 消化器神経内分泌腫瘍薬物療法のケースファイリング. 古瀬純司, 奥坂拓志編集. 東京, 医学と看護社, 2017. p.126-128.
15. 岡野尚弘 (分担執筆): 肝原発神経内分泌腫瘍が疑われた1例. 消化器神経内分泌腫瘍薬物療法のケースファイリング. 古瀬純司, 奥坂拓志編集. 東京, 医学と看護社, 2017. p.129-133.
16. 古瀬純司 (分担執筆): レゴラフェニブの登場による今後の肝細胞癌薬物療法の展望. 肝細胞癌に対するレゴラフェニブ治療. 工藤正俊編集. 東京, アークメディア, 2017. p.116-121.
17. 新田理恵, 前野聡子, 長島文夫 (分担執筆): 5章 投与管理にまつわる重大ニュース. プロフェッショナルがんナース 7巻6号. 大阪, メディカ出版, 2017. p.564-571.
18. 古瀬純司 (分担執筆): 膵癌. 日常診療に活かす診療ガイドライン UP-TO-DATE. 門脇孝, 小室一成, 宮地良樹監修. 大阪, メディカルレビュー社, 2018. p.367-374.
19. 古瀬純司 (分担執筆): 薬物療法 抗癌剤. プリンシプ

ル消化器疾患の臨床4 膵・胆道疾患診療の最前線. 下瀬川徹, 佐々木裕編集. 東京, 中山書店, 2018. p.187-193.

20. 古瀬純司 (分担執筆): 悪性腫瘍 肝癌. 薬局 病気とくすり2018. 東京, 南山堂, 2018. p.1500-1504.
21. 岡野尚弘, 古瀬純司 (分担執筆): 悪性腫瘍 胆嚢・胆管癌. 薬局 病気とくすり2018. 東京, 南山堂, 2018. p.1505-1508.
22. 成毛大輔, 古瀬純司 (分担執筆): 悪性腫瘍 胆嚢・胆管癌. 薬局 病気とくすり2018. 東京, 南山堂, 2018. p.1508-1514.

報告書

1. 古瀬純司: 切除不能膵癌に対する標準治療の確立に関する研究. 日本医療研究開発機構 (革新的がん医療実用化研究事業) 平成29年度委託研究開発成果報告書.

その他

取材

1. 長島文夫: 高齢者への抗がん剤, 指針作り 大規模に症例調査 厚生労働省, 朝日新聞デジタル, 2017年4月27日.
2. 長島文夫: 抗がん剤選択のポイント, 朝日新聞, 2017年6月7日.
3. 長島文夫: NEWSのツボ, ナース専科, 2017, 第37巻7月号.
4. 長島文夫: 抗がん剤 積極治療せず, 読売新聞, 2017年8月9日.
5. 長島文夫: 高齢がん患者どこまで治療するか 手術も抗がん剤もしない選択, BuzzFeed News Japan, 2017年8月9日.
6. 長島文夫: がん治療, 高齢者は控える傾向, 共同通信社, 2017年8月9日.
7. 長島文夫: 高齢者のがん治療 本人の意思考慮し選択, 読売新聞, 2017年10月29日.
8. 長島文夫: 高齢者ががんになったとき 治療の選び方 Vol.1, がんナビ, 2017年12月15日.
9. 猿田雅之, 河上裕, 朴成和, 古瀬純司: 座談会 なぜ免疫チェックポイント阻害薬はがんに効くのか. 消化器病学サイエンス 1(2):49-57, 2017.
10. 長島文夫: 認知症配慮の治療体制を, 読売新聞, 2018年2月13日.

高齢医学教室

講演

1. 神崎恒一: 北多摩南部での認知症地域連携—認知症の地域包括ケアを目指して—. 認知症医療連携学術講演会, 焼津, 2017年4月20日.
2. 神崎恒一: フレイルと認知症. US-DCメモリアルアカデミー, 東京, 2017年4月21日.
3. 鳥居正剛, 長谷川浩, 塩川芳昭: 当施設の頸動脈狭窄症の治療成績および高齢者への積極的内科治療の有用性. 第30回日本老年脳神経学会, 東京, 2017年4月21日.
4. 大荷満生: 介護予防. 平成29年度健康運動指導士養成講習会, 東京, 2017年4月28日.
5. Iijima K, Tanaka T, Takahashi K, Hirano H, Kikutani T, Furuya H, Toba K, Kozaki K, Akishita M, Tsuji T: Strong association between declines in oral functions and sarcopenia among Japanese community-dwelling elderly in Kashiwa study: Designing a new concept 'Oral Frailty'. American Geriatrics Society Annual Scientific Meeting 2017, USA, May 18th-20th, 2017.

6. 長谷川浩:杏林大学病院もの忘れセンターにおける東京都認知症疾患医療センターとしての活動. 第3回北多摩南部認知症診療を考える会, 狛江, 2017年5月24日.
7. 神崎恒一, 名古屋恵美子:地域で認知症を診ていくために. 県央地区認知症にやさしい地域作りセミナー, 上尾, 2017年5月30日.
8. 大荷満生:高齢者の介護予防. 獨協大学市民公開講座, さいたま, 2017年6月9日.
9. 神崎恒一:東京都多摩地区における認知症のひとを支える仕組みづくり. 第59回日本老年医学会学術集会・第30回日本老年学会総会, 名古屋, 2017年6月14日.
10. 海老原孝枝:誤嚥性肺炎up to date—高齢者誤嚥性肺炎overview. 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017年6月14日.
11. 長谷川浩:高齢者総合的機能評価高齢者医療研修会. 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017年6月14日.
12. 岡崎達馬, 小松理世, 小林誠, 突田容子, 二瓶真由美, 海老原覚, 海老原孝枝, 一ノ瀬和:誤嚥性肺炎up to date—誤嚥性肺炎の新規治療標的としてのリンパ管と筋肉—サルコペニアを含めた実験モデルと症例の解析. 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017年6月14日.
13. 神崎恒一:新しい専門医制度の中の老年病専門医の今後. 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017年6月15日.
14. 海老原孝枝:レビー小体型認知症の咳嗽および咳衝動について. 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017年6月15日.
15. 船曳茜, 小原聡将, 海老原孝枝, 長谷川浩, 神崎恒一:高齢入院患者における中心静脈カテーテル挿入状況と中心静脈カテーテル関連血流感染発症要因の検討. 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017年6月15日.
16. 永井久美子, 小柴ひとみ, 平澤愛, 柴田茂貴, 海老原孝枝, 神崎恒一:高齢者において血清カルニチン値の低下は転倒や歩行器機能低下に関連する. 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017年6月15日.
17. 長谷川浩, 関根道昭, 榎本恵, 森田和元, 神崎恒一:地域在住および軽度認知障害(MCI)高齢者の運転能力の特徴および運転支援の可能性. 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017年6月15日.
18. 平澤愛, 永井久美子, 柴田茂貴, 宮澤太機, 小柴ひとみ, 神崎恒一:病型別にみた認知症と動脈硬化の関係. 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017年6月15日.
19. 小松理世, 岡崎達馬, 突田容子, 小林誠, 二瓶真由美, 杉浦久敏, 海老原孝枝, 海老原覚, 一ノ瀬正和:誤嚥性肺炎はマイオカインを誘導しサルコペニアを悪化させる. 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017年6月15日.
20. 神崎恒一:サルコペニア診断に関するレビュー. 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017年6月16日.
21. 小柴ひとみ, 永井久美子, 平澤愛, 柴田茂貴, 海老原孝枝, 神崎恒一:もの忘れ外来初診患者におけるフレイルの有症率と評価方法による差異. 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017年6月16日.
22. 宅美貴子, 長谷川浩, 海老原孝枝, 神崎恒一, 山田深, 岡島康友:意味性認知症における言語リハビリテーションの効果について(第二報)—言語機能や非言語性知的機能に関する検討—. 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017年6月16日.
23. 小原聡将, 小林義雄, 小柴ひとみ, 永井久美子, 山田如子, 長谷川浩, 神崎恒一:大脳白質病変を有するMCI患者の精神症状と介護負担との関連. 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017年6月16日.
24. 宮本孝英, 海老原孝枝, 船曳茜, 竹下実希, 神崎恒一:CTRXによる要介護高齢者偽胆石症. 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017年6月16日.
25. 高附里江, 海老原孝枝, 伊藤瑛佑, 小池裕美子, 船曳茜, 宮本孝英, 山田如子, 小原聡将, 田中政道, 神崎恒一:部位別インピーダンス測定法を用いた, 高齢者体組成と認知機能の連関. 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017年6月16日.
26. 宮澤太機, 柴田茂貴, 永井久美子, 平澤愛, 小柴ひとみ, 神崎恒一:認知症の病型と伝達関数解析から評価した脳血流自己調節機能の関連性. 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017年6月16日.
27. 神崎恒一:認知症診療における地域連携. 第二期TRACC中枢コース集合研修, 東京, 2017年6月19日.
28. 長谷川浩:認知症多職種協働の重要性. 東京都認知症多職種協働研修, 狛江, 2017年6月27日.
29. 長谷川浩:改正道路交通法のもとの認知症のとらえ方. 第11回さかえ認知症ネットワーク, 横浜, 2017年7月4日.
30. 永井久美子, 平澤愛, 宮澤太機, 柴田茂貴, 小柴ひとみ, 神崎恒一:高齢患者における動脈硬化危険因子の集積と脳血流動態との関連. 第49回日本動脈硬化学会疎開・学術集会, 広島, 2017年7月6日.
31. 長谷川浩:地域で支える認知症. 杏林大学公開講座, 三鷹, 2017年7月8日.
32. 神崎恒一:実地医家と専門医療機関の連携を利用した認知症診療. Mie AD Symposium, 津, 2017年7月13日.
33. Nagai K, Hirasawa A, Koshiba H, Shibata S, Miyazawa T, Kozaki K: Relationship between Cerebral Hemodynamics and the Severity of Cerebral White Matter Hyperintensities among the Elderly Patient. The 21th IAGG World Congress of Geriatrics, USA, July 23rd-27th, 2017.
34. 神崎恒一:高齢者における脂質異常症の管理について. パルモディアWebカンファレンス, 調布, 2017年8月2日.
35. 永井久美子, 平澤愛, 宮澤太機, 柴田茂貴, 小柴ひとみ, 神崎恒一:もの忘れ外来初診患者における脳血流動態と認知機能低下との関連—認知症病型別解析—. 第8回日本脳血管・認知症学会総会(Vas-Cog Japan 2017), 東京, 2017年8月5日.
36. 神崎恒一:認知症診療と高齢者の総合機能評価. 平成29年度第2解東京都認知症サポートフォローアップ研修, 東京, 2017年9月9日.
37. 長谷川浩:認知症に関する知識・認知症とは. 東京都看護師対応力向上研修会, 三鷹, 2017年9月9日.
38. 神崎恒一:サルコペニア・フレイルについて. 淀橋二火会9月例会, 東京, 2017年9月12日.
39. Kozaki K, Obara T, Koshiba H, Hasegawa H, Ebihara T, Nagai K: Relationship between the Severity of Cerebral White Matter Hyperintensities and Sympathetic Nervous Activity in the elderly. The 13th Congress of the European Union Geriatric Medicine Society, France, September 20th-22nd, 2017.
40. 永井久美子, 小柴ひとみ, 海老原孝枝, 神崎恒一:高齢者に置いて血清カルニチン値の低下は認知機能低下に関連する. 第7回日本認知症予防学会, 岡山, 2017年9月23日.
41. 長谷川浩:認知症アウトリーチチームの現状について. 三鷹医師会「認知症初期集中支援チーム設置」説明会, 三鷹, 2017年9月28日.
42. 宇宿永史郎, 井上慎一郎, 宮本孝英, 宮本彩子, 石黒みどり, 田中政道, 長谷川浩, 神崎恒一:経口摂取の増加

- に伴い意識レベルの増悪を認めた高齢女性の一例. 第66回日本老年医学会関東甲信越地方会, 川越, 2017年9月30日.
43. 佐藤俊, 長田正史, 高附里江, 船曳茜, 宮本孝英, 輪千督高, 田中政道, 海老原孝枝, 長谷川浩, 神崎恒一: 当科で入院中に経験した高齢者虐待4症例の検討. 第66回日本老年医学会関東甲信越地方会, 川越, 2017年9月30日.
 44. 神崎恒一: 認知機能とテストステロン. 第17回日本Men's Health医学会, 東京, 2017年10月6日.
 45. 神崎恒一: 認知症とフレイル. 第36回東播臨海地区認知症連絡会, 加古川, 2017年10月7日.
 46. 田中政道, 永井久美子, 小柴ひとみ, 海老原孝枝, 神崎恒一: フレイルの有無による転倒に対するリスク項目の差異. 第4回日本サルコペニア・フレイル学会, 京都, 2017年10月14日.
 47. 神崎恒一: コグニティブ・フレイル: その定義と意義を考える. 第4回日本サルコペニア・フレイル学会大会, 京都, 2017年10月15日.
 48. 保田直美, 望月豊, 寺島直樹, 中島久実子, 大荷満生, 秦葭哉: 高齢者の身体的自立障害度分類よりみた自立度と栄養の関係. 第39回日本臨床栄養学会総会, 千葉, 2017年10月15日.
 49. 神崎恒一: 認知症とフレイル. 第19回小田原認知症を考える会, 小田原, 2017年10月23日.
 50. 海老原孝枝: 内科医が診る, 高齢者摂食嚥下障害と誤嚥性肺炎の包括的診断治療予防戦略. 武蔵野呼吸器疾患フォーラム, 武蔵野, 2017年10月30日.
 51. 長谷川浩: 認知症を理解するために. 杏林大学公開講座, 羽村, 2017年11月2日.
 52. 神崎恒一: 高齢者の認知症を診る. 特定医療法人竹下会70周年記念講演会, 高知, 2017年11月4日.
 53. 大荷満生: 臨床生理学: 地域医療への新展開: 超高齢社会 予防から在宅まで. 第54回日本臨床生理学会総会, 宇都宮, 2017年11月4日.
 54. 長谷川浩: 認知症の治療の方向性について. 認知症専門医アドバイザリー会議, 東京, 2017年11月12日.
 55. 長谷川浩: 認知症の地域連携, 初期集中支援について. 認知症サポート医研修, 調布, 2017年11月17日.
 56. 海老原孝枝: 内科医が診る, 高齢者摂食嚥下障害と誤嚥性肺炎の包括的診断治療予防戦略. 第13回立川呼吸器疾患連携カンファレンス, 立川, 2017年11月21日.
 57. 神崎恒一: フレイル・サルコペニアの視点から高齢者をみる. 荒川区医師会学術講演会, 東京, 2017年11月24日.
 58. 宅実貴子, 長谷川浩, 海老原孝枝, 神崎恒一, 山田深, 岡島康友, 原修一: 意味性認知症における各高次脳機能の関連性について. 第36回日本認知症学会学術集会, 金沢, 2017年11月24日.
 59. 高附里江, 海老原孝枝, 宮本孝英, 船曳茜, 田中政道, 長田正史, 竹下実希, 永井久美子, 山田如子, 神崎恒一: 部位別インピーダンス測定法を用いた, 高齢者体組成と認知機能の連関. 第36回日本認知症学会学術集会, 金沢, 2017年11月25日.
 60. 長谷川浩: 地域で高齢者をみるために・フレイルと認知症. 第3回千葉県精神科専門・認定薬剤師講習会, 千葉, 2017年11月26日.
 61. 海老原孝枝: 誤嚥性肺炎早期発見のための, 包括的評価と層別予防ケア戦略の確立. AMED脳と心の研究会, 東京, 2017年11月30日.
 62. 長谷川浩: 杏林大学病院もの忘れセンターにおける東京都認知症疾患医療センターとしての活動. 第4回北多摩南部認知症診療を考える会, 狛江, 2017年12月13日.
 63. 大荷満生: 高齢者のフィジカルアセスメントと高齢者に多くみられる疾患のケア. 平成30年度東京都看護協会研修会, 東京, 2018年1月16日.
 64. 大荷満生: 高年期の生活習慣病. 一般社団法人日本家族計画協会平成29年度 第44回中高年女性保健セミナー, 東京, 2018年1月27日.
 65. 神崎恒一: フレイルとサルコペニアの視点から高齢者をみる〜アスタキサンチンへの期待〜. 健康博覧会2018, 東京, 2018年1月31日.
 66. 長谷川浩: 認知症について. 東京都かかりつけ医認知症研修, 三鷹, 2018年2月3日.
 67. 神崎恒一: 高齢者脂質異常症に対する包括的管理. 第18回動脈硬化教育フォーラム, 名古屋, 2018年2月4日.
 68. 長谷川浩: 高齢者虐待に対する当院の取り組み〜多職種連携の重要性〜. 杏林大学病院虐待防止講演会, 三鷹, 2018年2月9日.
 69. 長谷川浩: 高齢者高血圧における血圧治療の留意点. STOP HYPERTENSION Seminar in 武蔵野, 武蔵野, 2018年2月19日.
 70. 大荷満生: 高トリグリセライド血症の病態と最新治療. パルモディアWebカンファレンス, 東京, 2018年2月23日.
 71. 神崎恒一: 高齢者のフレイルの臨床的意義. 第31回日本老年脳神経外科学会, 東京, 2018年2月24日.
 72. 長谷川浩: 認知症の診断・治療における医療機関の役割について考える. 平成29年度杉並区認知症診断・治療に係る医療機関連絡会, 東京, 2018年2月28日.
 73. 園原和樹, 長谷川浩, 神崎恒一: 入院を契機にせん妄を来した高齢患者に対する運転再開の取り組み. 第67回日本老年医学会関東甲信越地方会, 東京, 2018年3月3日.
 74. 長谷川浩: ひとり住まいで, もの忘れのあるお年寄りに何ができるのか? チームアプローチ (多職種協働). 実践報告会調布, 調布, 2018年3月7日.
 75. 長谷川浩: 認知症と睡眠障害. 東大和市医師会市民公開講座, 東大和, 2018年3月10日.
 76. 神崎恒一: フレイルと抗血栓薬, 転倒との関連. 第43回日本脳卒中学会学術集会, 福岡, 2018年3月16日.
- ## 論 文
1. 大野一将, 小原聡将, 竹下実希, 井上慎一郎, 水川真二郎, 長谷川浩, 神崎恒一: 肝内門静脈シャントによる肝性脳症をきたした遺伝性出血毛細血管拡張型の1例. 日本老年医学会雑誌 54(2): 179-185, 2017.
 2. 田中政道, 永井久美子, 小柴ひとみ, 松井敏史, 神崎恒一: 杏林大学病院高齢診療科, もの忘れセンターに通院中の患者におけるサルコペニアの実態調査ならびに転倒との関連についての検討. 日本老年医学会雑誌 54: 63-74, 2017.
 3. 神崎恒一: 高齢者のフレイルとサルコペニア. 東京都医師会雑誌 70(5): 11-19, 2017.
 4. 神崎恒一: 高齢者の転倒 序文. Geriatric Medicine 55(9): 963-965, 2017.
 5. 神崎恒一: 認知的フレイル. THE BONE31 (3): 41-44, 2017.
 6. Nagai K, Koshiba H, Shibata S, Hirasawa A, Ebihara T, Kozaki K: Relationship of serum carnitine level with falls and gait disturbance in the elderly. The Journal of Frailty and Aging 6: 178-182, 2017.
 7. 保田直美, 寺島直樹, 望月豊, 中島久実子, 大荷満生, 秦葭哉: 片側下肢切断後の栄養・リハビリ治療により健側肢に筋肥大, 切断残部に筋萎縮をおこした2症例. 日本臨床栄養学会雑誌 39(1): 53-64, 2017.
 8. Obara T, Nagai K, Hirasawa A, Shibata S, Koshiba H, Hasegawa H, Ebihara T, Kozaki K: Relationship

between cerebral White Matter Hyperintensities and Sympathetic Nervous Activity in elderly. GGI 18: 569-575, 2018.

9. 神崎恒一: 専門職の養成強化 日本老年医学会専門医. 日本臨牀 76(増刊1): 334-338, 2018.
10. Miyamoto T, Ebihara T, Kozaki K: Ceftoraxone and pseudolithiasis in older people. Geriatrics Gerontology Int: 507-509, 2018.
11. Sawaguchi T¹, Nakajima T^{1*}, Hasegawa T¹, Shibasaki I², Obi S¹, Kuwata T², Toyoda S¹, Ohni M, Abe S¹, Fukuda H², Inoue T¹(¹Department of Cardiovascular Medicine, Dokkyo Medical University and Heart Center, Dokkyo Medical University Hospital, ²Department of Cardiovascular Surgery, Dokkyo Medical University, Dokkyo Medical University Hospital): Relationships between serum adiponectin and TNF α concentration and epicardial adipose tissue fatty acid profiles in patients receiving cardiovascular surgery. IJC Heart & Vasculture 18: 86-95, 2018.
5. 神崎恒一: 要介護高齢者, フレイル高齢者, 認知症高齢者に対する栄養療法, 運動療法, 薬物療法に関するガイドライン作成に向けた調査研究. 長寿医療研究開発費 2017年度 分担研究報告書.
6. 神崎恒一: フレイル高齢者のレジストリ研究及び地域高齢者におけるフレイル予防プログラムの開発・検証. 長寿医療研究開発費 2017年度 分担研究報告書.
7. 神崎恒一: 高齢者における認知症や脳血管障害の発症に脳小血管病が関与する臨床的意義の解明. 長寿医療研究開発費 2017年度 分担研究報告書.
8. 長谷川浩: 高齢者の認知機能低下に対する, 心機能への修飾を介した, 新規の予防法と治療法の開発(高齢者に普遍的に合併する左室拡張障害が脳循環へ与える影響に着目して). 長寿医療研究開発費 2017年度 分担研究報告書.
9. 長谷川浩: 動的・静的脳画像, 心拍変動を用いた新たな軽度認知機能低下高齢者安全運転支援の開発. 科学研究費補助金(基盤研究(C)) 2017年度 実績報告書.
10. 海老原孝枝: レビー小体関連変性疾患の呼吸感覚モダリティ解明と, 誤嚥性肺炎発症の連関. 科学研究費補助金(基盤研究(C)) 2017年度 実績報告書.
11. 海老原孝枝: 高齢者の誤嚥性肺炎の予防・早期発見のための研究. 日本医療研究開発機構委託研究開発費(長寿研究開発事業) 2017年度 成果報告書.

著書

1. 神崎恒一: 2. 老年医学 1. 加齢・老化. 内科学 第11版. 矢崎義雄総編集. 東京, 朝倉書店, 2017. p.43-46.
2. 大荷満生: 筋・骨格筋疾患. 臨床栄養学 新スタンダード栄養・食物シリーズ12. 東京, 東京化学同人, 2017. p.224-230.
3. 海老原孝枝: 脳機能と誤嚥性肺炎—認知症の観点から. Geriatric Medicine 55号11巻, 東京, 2017. p.1217-1220.
4. 海老原孝枝: II高齢者誤嚥性肺炎 各論7 嚥下受容体活性化. 高齢者の肺炎 改訂版. 松本慶蔵総監修, 佐々木英忠, 福地義之助監修, 山谷睦雄編集. 大阪, 医薬ジャーナル社, 2017. p.143-150.
5. 長谷川浩(分担執筆): 第3章高齢者に多い疾患 1神経疾患 血管性認知症. 高齢者総合診療ノート第2版. 大場健三編集. 東京, 日本医事新報社, 2017. p.220-228.
6. 鳥居正剛, 長谷川浩, 塩川芳昭: IV脳神経外科とフレイル. 老年脳神経外科診療マニュアル Practical Manual of Geriatric Neurosurgery. 新井一監修, 井川房夫, 森田明夫編集. 東京, メジカルビュー社, 2017. p.242-246.
7. 神崎恒一: 第2章サルコペニア②サルコペニアの原因(一次性, 二次性). リハ栄養からアプローチするサルコペニアバイブル. 若林秀隆, 葛谷雅文編集. 東京, 日本医事新報社, 2018. p.74-80.
8. 長田正史, 長谷川浩, 神崎恒一, 馬場理恵, 齊藤友美: 病棟をささえる設備. 杏林大学高齢診療科病棟の高齢者の特性に合わせた取り組み. 病院設備. 浅川卓也, 飯田稔, 小見山千恵子編集. 東京, 日本医療福祉設備協会, 2018. p.22-25.

報告書

1. 神崎恒一: 認知症地域包括ケア実現を目指した地域社会創生のための研究. 厚生労働科学研究費補助金(認知症政策研究事業) 2017年度 総括研究報告書.
2. 神崎恒一: 地域要因に基づいた在宅医療・介護連携推進に関する研究—汎用性の高い在宅医療・介護連携推進・ガイドラインの作成. 厚生労働科学研究費補助金(長寿科学政策研究事業) 2017年度 分担研究報告書.
3. 神崎恒一: 適時適切な医療・ケアを目指した, 認知症の人等の全国的な情報登録・追跡を行う研究. 日本医療研究開発機構委託研究開発費(認知症研究開発事業) 2017年度 成果報告書.
4. 神崎恒一: 身体活動の促進が認知症予防に対する効果についての検証. 長寿医療研究開発費 2017年度 分担研究報告書.

精神神経科学教室

講演

1. 渡邊衡一郎: 双極性障害の薬物治療について基本から最新の知識まで学ぶ②—薬物投与計画—薬物相互作用と妊婦における投与計画—「妊娠・授乳期の治療」. 第3回臨床精神薬理教育セミナー, 福岡, 2017年4月23日.
2. 片桐建志, 坪井貴嗣, 渡邊衡一郎: うつについて改めて知っていませんか?. 第4回杏林医学会市民公開フォーラム, 東京, 2017年5月13日.
3. 渡邊衡一郎: うつ病治療における「真のrecovery」の概念の提唱. 第17回日本外来精神医療学会, 京都, 2017年6月10日.
4. 渡邊衡一郎: 共同調査で分かったこと, 今後の展望. 第113回日本精神神経学会学術総会, 名古屋, 2017年6月22日.
5. 早坂友成, 長島泉, 坪井貴嗣, 松本由美, 渡邊衡一郎: 難治性気分障害と境界性パーソナリティ障害が併存する患者の作業遂行特徴. 第113回日本精神神経学会学術総会, 名古屋, 2017年6月22日.
6. 青木裕見, 渡邊衡一郎, 古野毅彦, 小林靖, 千葉裕美, 垣田康秀, 堀正士, 井上真郷: Shared decision-making 7日間プログラムの意思決定への関与度および満足度の検証—ランダム化比較試験. 第113回日本精神神経学会学術総会, 名古屋, 2017年6月22日.
7. 長島泉, 早坂友成, 坪井貴嗣, 松本由美, 渡邊衡一郎: 難治性気分障害と境界性パーソナリティ障害が併存する患者の作業遂行特徴. 第113回日本精神神経学会学術総会, 名古屋, 2017年6月22日.
8. 渡邊衡一郎: 精神科治療ガイドラインの教育と普及に向けて—EGUIDEプロジェクトの実践—. 第113回日本精神神経学会学術総会, 名古屋, 2017年6月23日.
9. 渡邊衡一郎: うつ病治療ガイドライン—これまで, そしてこれから—. 第113回日本精神神経学会学術総会, 名古屋, 2017年6月23日.
10. 渡邊衡一郎: 治療抵抗性うつ病—リスクと予測, 診断の再考—. 第113回日本精神神経学会学術総会, 名古屋, 2017年6月23日.

11. 神田優太, 中島亨: 入院加療により速やかに起床困難が軽快し, 背景に心因性が疑われた思春期症例. 第113回日本精神神経学会学術大会, 名古屋, 2017年6月24日.
12. 中島亨: 慢性的な睡眠不足により, 一夜の十分な睡眠ではレム関連症状や長時間の脱力が出現するヒトがセロトニン不足状態である可能性について. 日本睡眠学会第42回定期学術集会, 横浜, 2017年6月29-30日.
13. 坪井貴嗣: 睡眠障害を伴ううつ病治療における治療意思決定について. 日本睡眠学会第42回定期学術集会, 横浜, 2017年6月30日.
14. 渡邊衡一郎: 働く人のうつに対するレジリエンスを意識したアプローチ. 第24回日本産業精神保健学会, 東京, 2017年7月1日.
15. 中島亨: 老年期の睡眠障害. 宇都宮うつ病研究会, 宇都宮, 2017年7月6日.
16. 中島亨: 老年期の睡眠障害. 湾岸うつ病と不眠の研究会, 千葉, 2017年7月7日.
17. 渡邊衡一郎: アドヒアランス向上に向けた情報提供と薬剤師への要望. 第20回日本医薬品情報学会総会・学術大会, 東京, 2017年7月9日.
18. 野崎和博: 在宅医療における持効性注射薬の有用性. 杉並区精神科訪問看護セミナー, 東京, 2017年7月13日.
19. 澤頭亮, 橋本直樹, 山本智也, 稲田健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太, 久住一郎: 精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究 北海道地区, うつ病講習についての報告. 第14回日本うつ病学会総会, 東京, 2017年7月21日.
20. 田形弘実, 辻野尚久, 稲田健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太, 水野雅文: うつ病治療ガイドラインの教育効果についての検討 EGUIDEプロジェクトからの報告. 第14回日本うつ病学会総会, 東京, 2017年7月22日.
21. 渡邊衡一郎: うつ病の症状・病態から見た休業の判断基準. 第14回日本うつ病学会総会, 東京, 2017年7月22日.
22. 渡邊衡一郎: うつ病治療における「真のrecovery」概念の提唱. 第14回日本うつ病学会総会, 東京, 2017年7月22日.
23. 渡邊衡一郎: うつ病治療ガイドライン. 第14回日本うつ病学会総会, 東京, 2017年7月23日.
24. 堀合研二郎, 杉山暢宏, 渡邊衡一郎, 坪井貴嗣: リカバリーを促進する治療ガイドラインの活用. 地域精神保健福祉機構リカバリー全国フォーラム2017, 東京, 2017年8月25日.
25. 中島亨: 不眠症治療を考える. 武蔵野不眠症カンファレンス, 三鷹, 2017年9月13日.
26. 中島亨: 老年期の不眠とうつ. 三鷹市医師会学術講演会, 三鷹, 2017年9月19日.
27. 渡邊衡一郎: 抗うつ薬と自殺との関係—抗うつ薬は自殺を予防するのか, 惹起するのか—. 第41回日本自殺予防学会総会, つくば, 2017年9月23日.
28. 中島亨: 躁病相とうつ病相において特異なレム睡眠出現様式の変化を示した(季節性)双極性障害の1例. 第20回日本薬物脳波学会学術集会, 福島, 2017年9月23日.
29. 大石智, 田形弘実, 辻野尚久, 稲田健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太, 宮岡等: 統合失調症薬物治療ガイドラインの教育効果についての検討 EGUIDEプロジェクトからの報告. 第39回日本生物学的精神医学会・第47回日本神経精神薬理学会合同年会, 札幌, 2017年9月28日.
30. 根本清貴, 翠川晴彦, 星野直美, 関根彩, 山本智也, 橋本直樹, 渡邊衡一郎, 稲田健, 橋本亮太, 新井哲朗: EGUIDE講習会の効果測定 筑波大学精神神経科グループにおける基礎調査. 第39回日本生物学的精神医学会・第47回日本神経精神薬理学会合同年会, 札幌, 2017年9月28日.
31. Hayasaka T, Nagashima I, Katagiri T, Tsuboi T, Matsumoto Y, Watanabe K: The Occupational Performance Characteristics of Avoidant Personality Disorder in Treatment-Refractory Depressive State. The 1st APOTS, Taiwan, October 21st, 2017.
32. 渡邊衡一郎: 向精神薬の開発の流れ及び問題点. 第27回日本臨床精神神経薬理学会・第17回臨床精神神経薬理学会セミナー, 松江, 2017年11月1日.
33. 青木裕見, 渡邊衡一郎, 古野毅彦, 小林靖, 千葉裕美, 垣田康秀, 堀正士, 井上真郷: Shared decision-making 7日間プログラム—ランダム化比較試験. 第27回日本臨床精神神経薬理学会, 松江, 2017年11月2日.
34. 平野仁一, 竹内啓善, 櫻井準, 内田貴仁, 丸山恵美, 新名昌子, 久保田朋子, 入江祐司, 杉原弘容, 磯野僚子, 櫻井勇希, 加藤純子, 秋山珠美, 五日市奈緒, 磯上一成, 清宮啓介, 金澤和幸, 丸山順也, 仁王進太郎, 渡邊衡一郎: うつ病の服薬アドヒアランスにおける医療者への信頼度の影響. 第27回日本臨床精神神経薬理学会, 松江, 2017年11月3日.
35. 五十嵐俊, 坪井貴嗣, 今村弥生, 浅井宏友, 松本由美, 渡邊衡一郎: 薬剤性QT延長症候群によりコントロールに苦慮した統合失調感情障害の1例. 第27回日本臨床精神神経薬理学会, 松江, 2017年11月3日.
36. 渡邊衡一郎: 日本精神神経科診療所協会と本学会とのコラボレーションについての紹介. 第27回日本臨床精神神経薬理学会, 松江, 2017年11月3日.
37. 神田優太, 中島亨: 睡眠薬の精神依存と睡眠直前の投薬について. 第33回日本催眠学会学術大会, 東京, 2017年11月12日.
38. 中島亨: 小児・思春期の精神障害についての諸問題. 音楽療育研究指導ネットワーク講演会, 東京, 2017年11月20日.
39. 中島亨, 神田優太: 大脳基底核に鉄沈着を疑われる所見を伴い, 不眠と覚醒不全を訴える60台男性の1例. 第33回不眠研究会, 東京, 2017年12月2日.
40. 今村弥生, 菊地俊暁: 優しい精神医学. 川崎市高津区市民健康講演会, 川崎, 2018年1月23日.
41. 坪井貴嗣: やさしいうつ病治療を実現するために. 杏林大学公開講演会・羽村市こころの健康セミナー, 羽村, 2018年1月24日.
42. 野崎和博: 精神障害者への理解を深める一窓口での適切な対応をするために—. 杉並区保健福祉部障害者施策課, 東京, 2018年2月26日.
43. 渡邊衡一郎: うつ病治療のゴールについて考える—就労を見据えた真のrecoveryに向けて—. 第37回日本社会精神医学会, 京都, 2018年3月1日.
44. 今村弥生, 栗原真理子, 坪井貴嗣, 早坂友哉, 下寺信次, 水野雅文, 渡邊衡一郎: 難治性うつ病における家族の感情表出の実態調査 第2報. 第37回日本社会精神医学会, 京都, 2018年3月2日.
45. 村尾昌美, 野崎和博, 徳重真一, 松本由美, 渡邊衡一郎: うつ病の診断で入院加療中に筋萎縮性側索硬化症と判明した1例. 第112回東京精神医学会学術集会, 東京, 2018年3月3日.
46. 前田優那, 坪井貴嗣, 小谷万葉, 松本由美, 赤木美智男, 渡邊衡一郎: 薬物療法抵抗性であり電気けいれん療法で完全寛解に至った退行期メランコリーの1例. 第112回東京精神医学会学術集会, 東京, 2018年3月3日.
47. 渡邊菜保子, 片桐建志, 野村健介, 木実谷哲史, 渡邊衡一郎: 知的能力障害に併存した若年発症統合失調症の1例. 第112回東京精神医学会学術集会, 東京, 2018年3月3日.

48. 坪井貴嗣, 堀合研二郎, みずめ, 宇田川健, 丹羽大輔 : 当事者とともに作るガイドラインの未来. 東京精神医学学会第112回学術集会, 東京, 2018年3月3日.
49. 野崎和博: 昨今のうつ病治療について. 杉並区精神科医会, 東京, 2018年3月12日.
50. 渡邊衡一郎: 統合失調症治療における高プロラクチン血症の問題. 第13回日本統合失調症学会, 徳島, 2018年3月23日.

論文

1. 渡邊衡一郎: 双極性障害に対する心理社会療法の効果. カレントセラピー 35(5): 26-32, 2017.
2. 渡邊衡一郎: 遷延するうつのためのワンポイントアドバイス—治療者と当事者それぞれに対して—. 臨床精神医学 46(5): 654-656, 2017.
3. 渡部芳徳¹, 渡邊衡一郎, 平野陽子², 浅見優子² (¹市ヶ谷ひもろぎクリニック, ²ファイザー株式会社) : 近年の抗うつ薬の国内臨床試験におけるプラセボ反応性—そこからみる臨床試験の課題と将来展望. 臨床精神薬理 20(5): 565-579, 2017.
4. 渡邊衡一郎: 日本うつ病学会うつ病治療ガイドライン作成経緯と問題点, そして今後の展望. 臨床精神薬理 20(5): 491-494, 2017.
5. 早坂友成¹, 坪井貴嗣, 長島泉¹, 渡邊衡一郎 (¹杏林大・保健学部) : うつ病とパーソナリティ障害の併存. 精神科 30(6): 486-490, 2017.
6. 渡邊衡一郎: うつ病における「当事者に対するレジリエンスを意識したアプローチ」の提案. ストレス科学 31(4): 253-263, 2017.
7. Watanabe K, Thase ME¹, Kikuchi T², Tsuboi T, Asami Y³, Papadopoulos E³, Zhang Min³, Boucher M³, Kornstein S³ (¹ Philadelphia VA Medical Center, ²CBTT, ³Pfizer Japan Inc.) : Long-term function and psychosocial outcomes with venlafaxine extended release 75-225 mg/day versus placebo in the PREVENT study. Int Clin Psychopharmacol, 32(5): 271-280, 2017.
8. Harada E¹, Sato Y¹, Kuga A¹, Tokuoaka H¹, Kikuchi T², Watanabe K, Alev L¹, Mimura M³ (¹Eli Lilly Japan, ²CBTT, ³Keio, University) : Associations among depression severity, painful physical symptoms, and social and occupational functioning impairment in patients with major depressive disorder: a 3-month, prospective, observational study. Neuropsychiatr Dis Treat, 19(13):2437-2445, 2017.
9. 坪井貴嗣, 渡邊衡一郎: うつ病の治療—日本うつ病学会「うつ病の治療ガイドライン」のポイント—軽症うつ病. 日本臨床 75(10): 1519-1523, 2017.
10. 渡邊衡一郎: 田中健記念研究助成事業平成28年度助成対象者研究報告—双極性障害における大規模処方調査結果についてのご紹介—日本精神神経科診療所協会と日本臨床精神神経薬理学会との共同一次調査より. 日精神 43(5): 10-14, 2017.
11. 青木裕見¹, 渡邊衡一郎 (¹聖路加国際大学) : 忙しい外来診療でShared Decision-Makingを取り入れるには—ホームワーク式SDMの実践—. 精神科 31(5): 443-449, 2017.
12. 渡邊衡一郎: 働く人のうつに対するレジリエンスを意識したアプローチ. 産業精神保健 25(4): 312-321, 2017.
13. 渡邊衡一郎: 非定型抗精神病薬が統合失調症においてもたらしたものは. 精神医学 59(12): 1093-1100, 2017.
14. 渡邊衡一郎: うつ病患者の社会復帰—うつ病の寛解, リカバリーを考えたケアと薬物療法—. Progress in Medicine 37(12): 1387-1392, 2017.
15. 中島亨: 子どもの眠り—睡眠と覚醒の評価法—. 小児内科 49(8): 1101-1105, 2017.
16. 中島亨: 睡眠障害ケースカンファレンス(第44回)発達障害を有する患者にみられたCrohn病発症後の長時間睡眠の診断と治療. 睡眠医療 11(3): 427-432, 2017.
17. 坪井貴嗣: 抗うつ薬が本当に効くうつ病. Pharma Medica 35(12): 19-21, 2017.
18. 坪井貴嗣: わかりやすい「うつ病治療ガイドライン」1. うつ病治療ガイドラインとは?—こころの元気+ 11(8): 26-27, 2017.
19. 坪井貴嗣: わかりやすい「うつ病治療ガイドライン」2. うつ状態とうつ病の違い. こころの元気+ 11(9): 26-27, 2017.
20. 坪井貴嗣: わかりやすい「うつ病治療ガイドライン」3. 信頼と理解のために. こころの元気+ 11(10): 28-29, 2017.
21. 坪井貴嗣: わかりやすい「うつ病治療ガイドライン」4. 重症度を知る. こころの元気+ 11(11): 28-29, 2017.
22. 坪井貴嗣: わかりやすい「うつ病治療ガイドライン」5. 軽症うつ病の治療1—基礎的介入—. こころの元気+ 11(12): 28-29, 2017.
23. 今村弥生: プライマリケア医にもできる! 「不安」に対する精神療法. 総合診療 27(9): 1188-1192, 2017.
24. 吉田和生¹, 渡邊衡一郎 (¹慶應義塾大学・医・精神神経科学) : 認知症患者に対する抗精神病薬投与の是非. 臨床精神薬理 21(1): 51-58, 2018.
25. 渡邊衡一郎: うつ病治療におけるプラセボ反応性を当事者—治療者の関係から考える—. 臨床精神薬理 21(5): 647-652, 2018.
26. 坪井貴嗣: わかりやすい「うつ病治療ガイドライン」6. 軽症うつ病の治療2—薬物療法—. こころの元気+ 12(1): 26-27, 2018.
27. 坪井貴嗣: わかりやすい「うつ病治療ガイドライン」7. 軽症うつ病の治療3—精神療法, 他—. こころの元気+ 12(2): 26-27, 2018.
28. 坪井貴嗣: わかりやすい「うつ病治療ガイドライン」8. 中等症・重症のうつ病の治療. こころの元気+ 12(3): 26-27, 2018.
29. Takaesu Y^{1,2}, Inoue Y^{1,2}, Ono K¹, Murakoshi A¹, Futenma K¹, Komada Y², Inoue T¹ (¹Tokyomedical University, ²Japan Somnology Center) : Circadian Rhythm Sleep-Wake Disorders Predict Shorter Time to Relapse of Mood Episodes in Euthymic Patients With Bipolar Disorder: A Prospective 48-Week Study. J Clin Psychiatry. 79(1):2018. Pii : 17m11565. Doi : 10.4088/JCP.17m11565.
30. Shimura A¹, Hideo S², Takaesu Y¹, Nomura R³, Komada Y⁴, Inoue T¹ (¹Tokyo Medical University, ²Tokyo Gakugei University Senior High School, ³The University of Tokyo, ⁴Meiji Pharmaceutical University) : Comprehensive assessment of the impact of life habits on sleep disturbance, chronotype, and daytime sleepiness among high-school students. Sleep Med. 44:12-18, 2018. Doi : 10.1016/j.sleep.2017.10.011.
31. 村越晶子¹, 高江洲義和¹ (¹東京医科大学) : 高齢者の不眠とせん妄の関連—せん妄に配慮した高齢者の不眠症治療—. 老年医学 56: 55-59, 2018.
32. 今村弥生: 患者と地域を救う新時代の処方箋—メンタルヘルス. 治療 100(1): 104-108, 2018.
33. 今村弥生: 医療の中の多様性—「女性」のナラティブ—. 杏林医学会雑誌 49(1): 69-71, 2018.

34. 片桐建志: うつ病とはどのような病気でしょうか 早くうつと気付くためにはどうすればよいのでしょうか. 杏林医学会雑誌 49(1): 83-91, 2018.

著書

1. 渡邊衡一郎: 抗精神病薬 抗うつ薬 気分安定薬 精神刺激薬. 今日の治療薬 2018 解説と便覧. 浦部晶夫, 島田和幸, 川合眞一編集. 東京, 南江堂, 2018. p.845-885.
2. 渡邊衡一郎: 抗不安薬 睡眠薬. 今日の治療薬 2018 解説と便覧. 浦部晶夫, 島田和幸, 川合眞一編集. 東京, 南江堂, 2018. p.886-905.

その他

1. 中島亨: 睡眠時の鼻呼吸の重要性. 小林製薬ナイトミンテープ発売記念講演会, 東京, 2017年4月27日.

小児科学教室

講演

特別講演・シンポジウムなど

1. 吉野浩: 外来で遭遇する小児血液・腫瘍疾患. 第24回稲城市小児臨床研究会, 多摩, 2017年5月12日.
2. 楊國昌: ステロイド抵抗性機序に関わる新規分子 GLCCI1機能. 第60回日本腎臓学会学術総会, 東京, 2017年5月28日.
3. 福原大介: 変異機能解析一遺伝子情報から表現型を探るための基礎実験一. 第52回日本小児腎臓病学会, 東京, 2017年6月1日.
4. 楊國昌: グルココルチコイドの抗蛋白尿作用を追い求めて. 第52回日本小児腎臓病学会学術総会, 東京, 2017年6月2日.
5. Yan K: Anti-apoptotic function of novel gene product: Glucocorticoid Induced Transcript1 (GLCCI1). Pediatric Nephrology Seminar in Massachusetts General Hospital, USA, November 27th, 2017.
6. 吉野浩: 地域医療で遭遇する小児血液・腫瘍疾患. 小児がん地域連携推進研修会, 立川, 2018年2月9日.
7. 宮澤永尚: 日常診療で診る緊急性を有する小児血液・腫瘍性疾患. 小児がん地域連携推進研修会, 立川, 2018年2月9日.
8. 山本明日香: こどもの食物アレルギー. 市民健康講座「正しく知ろう! 子供の食物アレルギー」, 三鷹, 2017年11月13日.

口演

1. 朽名悟, 米谷正太, 荒木光二, 久保田眞由美, 柴山恵吾: 高齢者にみられた無莢膜型インフルエンザ菌による侵襲性感染症の2例. 第91回日本感染症学会総会・学術講演会, 東京, 2017年4月6-8日.
2. 瀧浦俊彦, 小川哲史, 太田知子, 小川敦, 伊藤純子: 小児期発症GH産生下垂体腺腫5例の臨床的特徴. 第120回日本小児科学会学術集会, 東京, 2017年4月14-16日.
3. 木村俊彦, 北見奈々恵, 安藤理恵, 上里忠光, 杉本雅子, 山本明日香, 保崎明, 吉野浩, 楊國昌: 根尖性歯周炎の3例. 第120回日本小児科学会学術集会, 東京, 2017年4月14-16日.
4. 宮田世羽, 眞下秀明, 西田裕哉, 白井育子, 栗原栄二, 熊田聡子: 免疫グロブリン療法で再発予防を試みた再発性有痛性眼筋麻痺性ニューロパチーの男児例. 第120回小児科学会学術集会, 東京, 2017年4月14日.
5. 宮田世羽, 眞下秀明, 西田裕哉, 白井育子, 栗原栄二, 熊田聡子: MRI画像から診断に至ったCoffin-Lowry症候群の1例. 第70回多摩小児神経懇話会, 東京, 2017年4月22日.
6. 田中佐門, 長谷川簾, 高島和章, 中野瑛子, 北見菜々恵:

腹痛を主訴に外来を救急受診した腎泌尿器系疾患の3症例. 第24回稲城市小児科臨床研究会, 多摩, 2017年5月12日.

7. Miyata Y, Oka A, Shimazaki M, Yan K: Hippocampal injury caused by lipoteichoic acid of Staphylococcus aureus in immature rat brains. 14th Asian and Oceanian Congress of Child Neurology, Fukuoka, May 12th, 2017.
8. Kiuchi Z, Hoshina H, Nozu K, Yan K: A novel SLC12A1 compound heterozygous mutation in Bartter syndrome type 1. 第52回日本小児腎臓病学会学術集会, 東京, 2017年6月1-3日.
9. 羽田伊知郎, 木内善太郎, 上里忠光, 楊國昌: 蚊による虫刺症を契機にネフローゼ症候群に伴う急性腎障害を発症した2歳男児例. 第52回日本小児腎臓病学会学術集会, 東京, 2017年6月1日.
10. 西條智子, 荒井清美, 稲見茉莉, 島崎真希子, 細井健一郎, 吉野浩, 楊國昌: 呼吸管理に難渋したMöbius症候群の1例. 第637回日本小児科学会東京都地方会講和会, 東京, 2017年6月10日.
11. 宮田世羽, 内野俊平, 内山由理, 熊田聡子, 眞下秀明, 西田裕哉, 白井育子, 栗原栄二, 松本直通: Xq21.1に重複を認めた“脳内鉄沈着を伴う神経変性症”の男児同胞例. 第59回日本小児神経学会総会, 大阪, 2017年6月16日.
12. 瀧浦俊彦: 神経性食思不振症での内分泌障害. 第17回三鷹小児内分泌セミナー, 三鷹, 2017年6月30日.
13. 稲見茉莉, 麓聖子, 細井健一郎, 楊國昌: 出生時より自発呼吸がなく四肢の拘縮を認めた新生児例. 第115回多摩新生児懇話会, 武蔵野, 2017年7月11日.
14. 羽田伊知郎, 細井健一郎, 保崎明, 楊國昌: 右異所性低形成腎, 左無形成腎に動脈管閉存症, 心房室室中隔欠損症を合併した新生児の一例. 第119回東京新生児研究会プログラム, 東京, 2017年9月12日.
15. 瀧浦俊彦, 福原大介, 楊國昌: 原発性副腎機能低下症を合併したNance-Horan症候群の1例. 第51回日本小児内分泌学会学術集会, 大阪, 2017年9月28-30日.
16. 荻野由香里, 木内善太郎, 楊國昌: HHV-6感染により顕在化したparoxysmal tonic upgaze of childhoodの8ヶ月女児例. 第120回多摩小児科臨床懇話会, 三鷹, 2017年9月29日.
17. 木内善太郎, 福原大介, 山本明日香, 野村優子, 水川良子, 楊國昌: アトピー性皮膚炎に合併した抗TIF1-γ抗体陽性若年性皮膚筋炎の1例. 第27回日本小児リウマチ学会学術集会, 京都, 2017年10月6-8日.
18. 宮田世羽, 内野俊平, 内山由理, 熊田聡子, 眞下秀明, 西田裕哉, 白井育子, 栗原栄二, 松本直通: 脳深部刺激療法が有効であった“脳内鉄沈着を伴う神経変性症”の男児同胞例. 第67回日本小児神経学会関東地方会, さいたま, 2017年10月7日.
19. 山本明日香: IgA血管炎に合併したワクチン株水痘の一例. 第44回日本小児臨床薬理学会学術集会, 静岡, 2017年10月8日.
20. Nishibori Y, Kiuchi Z, Hada I, Fukuhara D, Yan K: GLCCI1 as a novel therapeutic target of glucocorticoid-resistant T-cells. American Society of Nephrology Kidney Week 2017, USA, November 1st-5th, 2017.
21. Kiuchi Z, Nozu K, Yan K: A novel SLC12A1 compound heterozygous mutation in antenatal Bartter syndrome type 1 showing benign clinical course. American Society of Nephrology Kidney Week 2017, USA, November 1st-5th, 2017.
22. Hamano S, Hosoi K, Kimura T, Yamamoto A, Yan K,

Sasaki A, Hayasaka K: Loss of consciousness by exercise as an initial symptom of late-onset congenital central hypoventilation syndrome. *Asia Pacific Association of Pediatric Allergy, Respiriology & Immunology, China*, November 3rd, 2017.

23. 宮田世羽, 中村由紀子, 眞下秀明, 西田裕哉, 白井育子, 熊田聡子, 栗原栄二: 退行によって診断に至った Infantile spasms single-spasm variant の一例. 第51回日本てんかん学会学術集会, 京都, 2017年11月3日.
24. 宮澤永尚, 吉野浩, 安藤理恵, 羽田伊知郎, 木内善太郎, 大西宏明, 楊國昌: 両側腎浸潤による腎不全で発症した成熟B細胞性急性リンパ性白血病の1例. 第59回日本小児血液・がん学会学術集会, 松山, 2017年11月10日.
25. 濱野翔, 細井健一郎, 木村俊彦, 山本明日香, 中島享, 佐々木綾子, 早坂清, 楊國昌: 9歳で溺水を契機に診断された遅発型先天性中枢性低換気症候群の1例. 第50回日本小児呼吸器学会, 東京, 2017年11月10日.
26. 山本明日香: カパノキ科花粉に感作がありリンゴで食物依存性運動誘発アナフィラキシーを発症した一例. 第54回日本小児アレルギー学会学術集会, 宇都宮, 2017年11月18日.
27. 濱野翔, 山本明日香, 大越陽一, 上里忠光, 那須ゆかり, 杉本雅子, 楊國昌: 入浴が修飾因子と考えられた乳児消化管アレルギーの1例. 第54回日本小児アレルギー学会学術集会, 宇都宮, 2017年11月18日.
28. 天木祥子, 細井健一郎, 吉野浩, 大西宏明, 楊國昌: 抗Jra抗体により発症した胎児水腫の一例. 第46回杏林医学会総会, 三鷹, 2017年11月18日.
29. 木村俊彦, 瀧浦俊彦, 吉野浩, 楊國昌: 脊髄MRIの再検査で初めて診断し得た横断性脊髄炎の4歳男児例. 第46回杏林医学会総会, 三鷹, 2017年11月18日.
30. 宮田世羽, 才田謙, 熊田聡子, 眞下秀明, 西田裕哉, 白井育子, 栗原栄二, 三宅紀子, 松本直通: 脳室周囲小嚢胞病変を呈したCoffin-Lowry症候群の一例. 第12回小児神経放射線研究会, 京都, 2017年11月25日.
31. 細井健一郎, 天木祥子, 吉野浩, 大西宏明, 楊國昌: 抗Jra抗体により発症した胎児水腫の一例. 第116回多摩新生児懇話会, 武蔵野, 2017年11月28日.
32. 北見菜々恵, 木内善太郎, 森久保美保, 牧野篤司, 山本明日香, 大越陽一, 福原大介, 保崎明, 吉野浩, 楊國昌: *Yersinia enterocolitica* 感染による細菌性腸炎の4例. 第641回日本小児科学会東京都地方会講和会, 東京, 2017年12月9日.
33. 宮田世羽, 熊田聡子, 横地房子, 岡村泰, 川崎隆, 本郷博貴, 岩室宏一, 沖山亮一, 神山勉, 渡辺克成, 磯尾綾子, 弓削田晃弘, 戸島麻耶, 池澤淳, 良本翔子, 久保田真由美, 濱中耕平, 宮武聡子, 松本直通, 谷口真: *KMT2B* 遺伝子変異による早発型ジストニア症例に対する淡蒼球内節刺激術後に出現した下肢の不随意運動. 第57回日本定位・機能神経外科学会, 奈良, 2018年1月20日.
34. 小倉友美, 吉野浩, 鵜田雅俊, 野々山恵昭, 川口裕之: 生下時に血小板減少があり先天性血小板減少症の target sequence により Noonan 症候群と診断された1例. 第24回武蔵野小児血液・腫瘍懇話会, 東京, 2018年2月16日.
35. 西條智子, 木内善太郎, 上里忠光, 楊國昌: 涙囊炎から MRSA 敗血症を発症した1新生児例. 第25回多摩小児感染免疫研究会, 三鷹, 2018年2月17日.
36. 森久保美保, 山本明日香, 天木祥子, 牧野篤司, 濱野翔, 保崎明, 楊國昌: 熱傷を契機に発症した毒素性ショック症候群の2症例. 第121回多摩小児科臨床懇話会, 三鷹, 2018年2月23日.
37. 宮田世羽, 内野俊平, 熊田聡子, 眞下秀明, 西田裕哉, 白井育子, 栗原栄二, 宮武聡子, 濱中耕平, 松本直通:

第19回フリートーク「姿勢時に著明な上肢の不随意運動を呈する7歳男児」事後報告. 第23回小児神経症例検討会, 山形, 2018年3月10日.

論文

1. 別所文雄: 肝芽腫一低出生体重児における発生について. *日本新生児育成医学会雑誌* 29(1):22-27, 2017.
2. 吉野浩: 赤血球, 血小板の異常 赤血球増加症(多血症)と血小板増加症. *小児科診療* 80(10):1185-1190, 2017.
3. Gemma Y, Bessho F, Yoshino H: Treatment of acute lymphoblastic leukemia in Down syndrome. *Cogent Medicine* 4:1304512, 2017.
4. Ito Y, Katayama K, Nishibori Y, Akimoto Y, Kudo A, Kurayama R, Hada I, Takahashi S, Kimura T, Fukutomi T, Katada T, Suehiro J, Beltcheva O, Tryggvason K, Yan K: Wolf-Hirschhorn syndrome candidate 1-like 1 epigenetically regulates nephrin gene expression. *Am J Physiol Renal Physiol* 312(6):F1184-F1199, 2017.
5. Takagi H, Nishibori Y, Katayama K, Katada T, Takahashi S, Kiuchi Z, Takahashi S, Kamei H, Kawakami H, Akimoto Y, Kudo A, Asanuma K, Takematsu H, Yan K: USP40 gene knockdown disrupts glomerular permeability in zebrafish. *Am J Physiol Renal Physiol* 312(4):F702-F715, 2017.
6. Kutsuna S, Uesato T, Okoshi Y, Genma Y, Yoshino H, Yan K: A case of acute promyelocytic leukemia with retinal and intracranial hemorrhage in an adolescent girl. *Journal of Clinical and Medical Case Studies* 2(2):20-21, 2017.
7. Saraya T, Watanabe T, Tsukahara Y, Ohkuma K, Ishii H, Kimura H, Yan K, Goto H, Takizawa H: The Correlation between Chest X-ray Scores and the Clinical Findings in Children and Adults with *Mycoplasma pneumoniae* Pneumonia. *Intern Med* 56(21):2845-2849, 2017.

著書

1. 別所文雄: 腫瘍マーカー ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン(hCG). *小児臨床検査ガイド(第2版)*. 水口雅, 岡明, 尾内一信編集. 東京, 文光堂, 2017. p.538-540.
2. 細井健一郎: (11)消化管閉鎖(12)腸回転異常(13)ヒルシュスプルング病. *NICU最前線 新人ナースのための超早わかり! 新生児の疾患・症状きほんナビ40 正期産児編* ネオネイタルケア30(4). 大阪, メディカ出版, 2017. p.324-329.
3. 福原大介, 楊國昌: 患者背景別のステロイドの選び方・使い方 2. 小児. ステロイド療法の極意. 川合眞一編集. 東京, じほう, 2017. p.169-176.
4. 宮田世羽: II-9 自己免疫性神経疾患・感染後の神経障害 4. 感染後の脳血管障害 5. 全身性自己免疫性疾患に伴う神経障害. *小児神経専門医テキスト*. 日本小児神経学会編集. 東京, 診断と治療社, 2017. p.231-232.

その他

学会・研究会主催

1. 楊國昌: 第52回日本小児腎臓病学会学術集会, 東京, 2017年6月1-3日.
2. 楊國昌: 第119回多摩小児科臨床懇話会, 三鷹, 2017年6月9日.
3. 楊國昌: 第17回三鷹小児内分泌セミナー, 三鷹, 2017年6月30日.
4. 楊國昌: 第120回多摩小児科臨床懇話会, 三鷹, 2017年9月29日.
5. 楊國昌: 第42回東日本小児科学会, 東京, 2017年11月23日.

6. 楊國昌：第25回多摩小児感染・免疫研究会，三鷹，2018年2月17日。
7. 楊國昌：第121回多摩小児科臨床懇話会，三鷹，2018年2月23日。

外科学教室 (消化器・一般外科)

講演

1. Masaki T: Tumor Budding in Colorectal Cancer-Basic and Clinical implications-. 3rd APCCC & ICDS2017, Hong Kong, January 22nd, 2017.
2. Masaki T: Treatment of recurrent rectal cancer. 3rd APCCC & ICDS2017, Hong Kong, January 22nd, 2017.
3. 阿部展次，橋本佳和，竹内弘久，森俊幸，杉山政則：十二指腸腫瘍に対する腹腔鏡補助下縮小手術の実績。第13回日本消化管学会総会学術集会，名古屋，2017年2月18日。
4. 下山勇人，松木亮太，近藤恵里，鶴見賢直，大木亜津子，竹内弘久，橋本佳和，長尾玄，鈴木裕，松岡弘芳，阿部展次，正木忠彦，森俊幸，杉山政則：腹部大動脈Y字グラフト感染に伴う大動脈十二指腸瘻の1救命例。第53回腹部救急医学会，横浜，2017年3月2-3日。
5. 大木亜津子，阿部展次，竹内弘久，吉本恵理，近藤恵里，鶴見賢直，橋本佳和，正木忠彦，森俊幸，杉山政則：The clinical role of selective second-look endoscopy on post-ESD 6 days in patients taking antiplatelet or anticoagulant agents. 第89回日本胃癌学会総会，広島，2017年3月9日。
6. 阿部展次，吉本恵理，近藤恵里，鶴見賢直，橋本佳和，大木亜津子，竹内弘久，長尾玄，森俊幸，杉山政則：胃SMTに対する内視鏡的切除とLECSの成績。第89回日本胃癌学会総会，広島，2017年3月10日。
7. 竹内弘久，阿部展次，鶴見賢直，橋本佳和，大木亜津子，長尾玄，森俊幸，杉山政則：Effectiveness of SEMS for afferent loop obstruction caused by gastric cancer recurrence after TG. 第89回日本胃癌学会総会，広島，2017年3月10日。
8. Hashimoto Y, Abe N, Kondo E, Tsurumi M, Ohki A, Takeuchi H, Nagao G, Suzuki Y, Masaki T, Mori T, Sugiyama M : A new option for intracorporeal circular-stapled esophagojejunostomy : Use of a peroral endoscope. 第89回日本胃癌学会総会，広島，2017年3月10日。
9. Kishiki T, Lapin B, Jonson B, Patel L, Zapf M, Gitelis M, Cassera M, Swanström L, Ujiki M: "Teaching PerOral Endoscopic Myotomy (POEM) to practicing surgeons: An "into the fire" pre-/post-test curriculum". SAGES2017, USA, March 24th, 2017.
10. Sugiyama M: Biliary tract cancers associated with pancreaticobiliary maljunction. 2nd International Conference of the Korean Pancreatobiliary Association(IC-KPBA), Korea, April 7th, 2017.
11. Kishiki T, Kuchta K, Chen M, Linn J, Carbray J, Joehl R, Ujiki M, Haggerty S: A Valid Tool For Training and Assessment in Laparoscopic Appendectomy. The 38th Association for Surgical Education, USA, April 22nd-24th, 2017.
12. 小暮正晴，松木亮太，横山政明，中里徹矢，鈴木裕，阿部展次，正木忠彦，森俊幸，杉山政則：膵頭十二指腸切除術における膵管ホルダーとmucosa squeeze-out法による膵空腸粘膜吻合の工夫。第117回日本外科学会定期学術集会，横浜，2017年4月27-29日。
13. 百瀬博一，鈴木裕，森俊幸，松木亮太，小暮正晴，横山政明，中里徹矢，松岡弘芳，阿部展次，正木忠彦，杉山政則：肝内結石全国調査18年後コホート解析結果。第117回日本外科学会定期学術集会，横浜，2017年4月28日。
14. 金翔哲，鈴木裕，百瀬博一，松木亮太，小暮正晴，横山政明，中里徹矢，阿部展次，森俊幸，正木忠彦，杉山政則：膵体尾部切除後の膵液漏出に対する予防的・治療的な内視鏡的膵管ステント留置の有用性。第117回日本外科学会定期学術集会，横浜，2017年4月28日。
15. 竹内弘久，阿部展次，近藤恵里，鶴見賢直，大木亜津子，橋本佳和，長尾玄，正木忠彦，森俊幸，杉山政則：胃全摘後悪性輸入脚狭窄症に対する消化管金属ステント留置が奏功した2例。第117回日本外科学会定期学術集会，横浜，2017年4月29日。
16. 阿部展次，橋本佳和，大木亜津子，竹内弘久，長尾玄，森俊幸，杉山政則：十二指腸腫瘍に対する腹腔鏡補助下縮小手術の成績。第117回日本外科学会定期学術集会，横浜，2017年4月29日。
17. Sugiyama M, Suzuki Y, Nakazato T, Yokoyama M, Kogure M, Matsuki R, Abe N, Masaki T, MD, Mori T: Intestinal derotation procedure for facilitating pancreatoduodenectomy. 51st Annual Meeting of the Pancreas Club, USA, May 5th, 2017.
18. Sugiyama M, Suzuki Y, Nakazato T, Yokoyama M, Kogure M, Matsuki R, Abe N, Masaki T, MD, Mori T: Pancreatic duct holder and mucosa squeeze-out technique for duct-to-mucosa pancreatojejunostomy after pancreatoduodenectomy. 51st Annual Meeting of the Pancreas Club, USA, May 5th, 2017.
19. Sugiyama M, Suzuki Y, Nakazato T, Yokoyama M, Kogure M, Matsuki R, Abe N, Masaki T, MD, Mori T: Secure placement of peripancreatic drain after distal pancreatectomy. 58th Annual Meeting of the Society for Surgery of the Alimentary Tract (SSAT), USA, May 8th, 2017.
20. 竹内弘久，阿部展次，杉山政則：分化・未分化混在型早期胃癌における未分化型混在比率の病理学的半定量測定法の確立とその臨床的意義。第93回日本消化器内視鏡学会総会，大阪，2017年5月11日。
21. 竹内弘久，阿部展次，大木亜津子，森俊幸，杉山政則：中・下咽頭表在癌(経口的内視鏡切除症例)に対する多重癌の検討。第93回日本消化器内視鏡学会総会，大阪，2017年5月11日。
22. 大木亜津子，阿部展次，吉本恵理，近藤恵里，鶴見賢直，橋本佳和，竹内弘久，正木忠彦，森俊幸，杉山政則：超高齢者における胃ESDの有用性。第93回日本消化器内視鏡学会総会，大阪，2017年5月11日。
23. 橋本佳和，阿部展次，近藤恵里，鶴見賢直，大木亜津子，竹内弘久，長尾玄，鈴木裕，松岡弘芳，正木忠彦，森俊幸，杉山政則，岡部直太，下山田博明：LECS後に腹膜播種再発を来した胃GISTの1例。第93回日本消化器内視鏡学会総会，大阪，2017年5月11日。
24. 阿部展次，竹内弘久，杉山政則：Pure NOTESとしての内視鏡的全層切除術。第93回日本消化器内視鏡学会総会，大阪，2017年5月13日。
25. 橋本佳和，阿部展次，近藤恵里，鶴見賢直，大木亜津子，竹内弘久，長尾玄，鈴木裕，松岡弘芳，正木忠彦，森俊幸，杉山政則：これも広義のLECS—食道空腸吻合 efficient purse-string stapling technique(EST法)における経口内視鏡を用いた工夫—。第71回手術手技研究会，名古屋，2017年5月26日。
26. 正木忠彦：大腸がんで死なないために。北関東循環器病院第11回市民健康講座，渋川，2017年6月3日。
27. 小暮正晴，松木亮太，横山政明，中里徹矢，鈴木裕，杉

- 山政則: Management of late-onset pancreatic pseudocyst after distal pancreatectomy. 第29回日本肝胆膵外科学会, 横浜, 2017年6月7-10日.
28. Watanabe T, Masaki T, Matsuoka H, Kishiki T, Takayasu K, Kojima K, Sugiyama M: Treatment strategy for intra-pelvic local recurrence of rectal cancer. 2017 American Society of Colon and Rectal Surgeons, USA, June 10th-14th, 2017.
 29. 竹内弘久, 阿部展次, 橋本佳和, 杉山政則: 胃全摘後悪性輸入脚狭窄症に対して消化管金属ステント留置した2例. 第39回日本癌局所療法研究会, 京都, 2017年6月23日.
 30. 金翔哲, 鈴木裕, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 横山政明, 中里徹矢, 杉山政則: 膵疾患における興味深い症例. Tokyo Pancreas Club, 東京, 2017年6月23日.
 31. Sugiyama M: Invited lecture. Technical refinement for rational pancreatectomy. Shanghai International Pancreatic Surgery Summit 2017, China, July 23rd, 2017.
 32. 森俊幸: 医療現場からの報告①「ヒト胆嚢摘出術」. 順天堂大学先端メディカルイメージングセミナー 8Kで医療を変える, 東京, 2017年6月24日.
 33. 麻生喜祥, 正木忠彦, 紅谷鮎美, 小嶋幸一郎, 吉敷智和, 松岡弘芳, 下山田博明, 菅間博, 柴原純二: 直腸狭窄の1例. 第3回三鷹IBDセミナー, 三鷹, 2017年6月28日.
 34. 吉敷智和, 正木忠彦, 松岡弘芳, 小嶋幸一郎, 麻生喜祥, 紅谷鮎美, 阿部展次, 森俊幸, 大西宏明, 大塚弘毅, 岸野智則, 渡辺卓, 杉山政則: KRAS野生型転移性大腸癌の抗EGFR抗体薬治療における新しいbiomarkerの検討. 第87回大腸癌研究会, 四日市, 2017年7月7日.
 35. 吉敷智和: Surgical Education in Chicago University—シカゴ大学エバンストン病院での外科教育への取り組み—. 第4回外科教育研究会, 札幌, 2017年7月8日.
 36. 正木忠彦: 大腸癌浸潤先進部からみえるもの. 第40回神奈川術後代謝栄養研究会, 横浜, 2017年7月15日.
 37. 松木亮太, 小暮正晴, 横山政明, 鈴木裕, 古瀬純司, 杉山政則: 切除不能膵癌に対する化学療法後の切除成績の検討. 第48回日本膵臓学会大会, 京都, 2017年7月15日.
 38. 松木亮太, 金翔哲, 百瀬博一, 小暮正晴, 横山政明, 鈴木裕, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 切除不能・切除困難膵癌に対する化学療法後の切除成績の検討. 第72回日本消化器外科学会総会, 金沢, 2017年7月20日.
 39. 下山勇人, 鈴木裕, 橋本佳和, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 両側側腹部圧迫法による術後喀痰排出時疼痛の軽減の検討. 第72回日本消化器外科学会総会, 金沢, 2017年7月20-22日.
 40. 小暮正晴, 松木亮太, 横山政明, 中里徹矢, 鈴木裕, 紅谷鮎美, 阿部展次, 森俊幸, 正木忠彦, 杉山政則: 幽門輪温存膵頭十二指腸切除術における十二指腸断端, 幽門輪の血流についての検討. 第72回日本消化器外科学会総会, 金沢, 2017年7月20-22日.
 41. 橋本佳和, 森俊幸, 松木亮太, 小暮正晴, 横山政明, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 杉山政則: 院内鏡視下手術認定制度下の若手外科医教育とその成果(ラバコレの短期成績). 第72回日本消化器外科学会総会, 金沢, 2017年7月20日.
 42. 百瀬博一, 鈴木裕, 金翔哲, 松木亮太, 小暮正晴, 横山政明, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 安全かつ確実な膵空腸吻合に関する検討. 第72回日本消化器外科学会総会, 金沢, 2017年7月21日.
 43. 竹内弘久, 阿部展次, 近藤恵里, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 長尾玄, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 悪性腫瘍腹膜播種再発の消化管狭窄に対する緩和医療—内視鏡的SEMS留置術の有用性について—. 第72回日本消化器外科学会総会, 金沢, 2017年7月21日.
 44. 阿部展次, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 胃粘膜下腫瘍に対する究極の機能温存低侵襲切除法—内視鏡的全層切除術—. 第72回日本消化器外科学会総会, 金沢, 2017年7月21日.
 45. 大木亜津子, 阿部展次, 吉本恵理, 近藤恵里, 橋本佳和, 竹内弘久, 長尾玄, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 胃癌における胃内洗浄細胞診—胃内遊離癌細胞脱落のリスク因子と胃内洗浄—. 第72回日本消化器外科学会総会, 金沢, 2017年7月22日.
 46. 正木忠彦: 大腸癌浸潤先進部からみえるもの. 新世紀会議講演会, 東京, 2017年7月26日.
 47. 阿部展次: 日本における腹腔鏡下/内視鏡的胃全層部分切除術の変遷(外科医の立場から). Endoscopy Forum Japan, 小樽, 2017年8月5日.
 48. 小暮正晴, 金翔哲, 百瀬博一, 松木亮太, 横山政明, 中里徹矢, 鈴木裕, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 幽門輪温存膵頭十二指腸切除術における十二指腸断端, 幽門輪の血流についての検討. 第44回日本膵切研究会, 横浜, 2017年8月25-26日.
 49. 金翔哲, 鈴木裕, 百瀬博一, 松木亮太, 小暮正晴, 横山政明, 中里徹矢, 阿部展次, 森俊幸, 正木忠彦, 杉山政則: 重複膵管症例における膵頭十二指腸切除術の工夫. 第44回日本膵切研究会, 横浜, 2017年8月26日.
 50. 松木亮太, 杉山政則, 金翔哲, 百瀬博一, 小暮正晴, 横山政明, 鈴木裕: 腸回転解除を用いた膵頭十二指腸切除術. 第44回日本膵切研究会, 横浜, 2017年8月26日.
 51. 木庭露葉, 秋谷雅之, 正木忠彦, 吉敷智和, 小嶋幸一郎, 麻生喜祥, 紅谷鮎美, 蓮井宜宏, 吉田智幸, 橋本佳和, 長尾玄, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: S状結腸粘膜下腫瘍と鑑別困難だった腸管子宮内膜症. 第95回城西外科研究会, 三鷹, 2017年9月16日.
 52. Masaki T: Treatment strategy for intra-pelvic local recurrence of rectal cancer. 22nd China-Japan conference of the digestive surgery, China, September 22nd, 2017.
 53. 吉敷智和, Ujiki M, Haggerty S, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: Virtual reality simulatorを利用した腹腔鏡下虫垂切除術のアセスメントシートの開発. JDDW2017 第25回日本消化器関連学会週間, 福岡, 2017年10月12-14日.
 54. 小暮正晴, 鈴木裕, 杉山政則: IPMN国際ガイドラインの検証 術式選択, 至適郭清範囲について. 第25回日本消化器関連学会週間, 福岡, 2017年10月12-15日.
 55. 百瀬博一, 鈴木裕, 金翔哲, 松木亮太, 小暮正晴, 横山政明, 長尾玄, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 急性膵炎重症化と合併症発生に対する内臓脂肪の影響. 第25回日本消化器関連学会週間(第59回日本消化器病学会総会), 福岡, 2017年10月12日.
 56. 松木亮太, 鈴木裕, 杉山政則: 慢性炎症と消化器発癌 肝内結石症患者における胆管癌発生予測因子の検討. 第15回日本消化器外科学会大会, 福岡, 2017年10月12日.
 57. 下山勇人, 鈴木裕, 橋本佳和, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 両側側腹部圧迫法による術後喀痰排出時疼痛の軽減の検討. 第25回日本消化器関連学会週間, 福岡, 2017年10月12-15日.
 58. Sugiyama M: 1st Joint Session between JDDW & KDDW & TDDW, Current status in management of IPMN in Japan. JDDW 2017, Fukuoka, October 12th, 2017.
 59. 小島洋平, 阿部展次, 大塚弘毅, 吉本恵理, 近藤恵里, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄,

- 鈴木裕, 松岡弘芳, 大西宏明, 正木忠彦, 森俊幸, 渡邊卓, 杉山政則: 十二指腸腫瘍における癌関連遺伝子の網羅的解析, JDDW2017 第25回日本消化器関連学会週間, 福岡, 2017年10月12-14日.
60. 杉山政則: 消化器病学のプロフェッショナルをめざして. 第59回日本消化器病学会大会 (JDDW2017), 福岡, 2017年10月13日.
 61. 金翔哲, 鈴木裕, 百瀬博一, 鶴見賢直, 松木亮太, 小暮正晴, 横山政明, 阿部展次, 森俊幸, 正木忠彦, 杉山政則: 十二指腸乳頭部癌肉腫の検討—臨床病理学像とその取扱いについて. 第25回JDDW 第15回日本消化器外科学会大会, 2017年10月13日.
 62. 橋本佳和, 阿部展次, 杉山政則: 十二指腸腫瘍に対する腹腔鏡補助下縮小手術の成績. 第25回日本消化器関連学会週間 (JDDW2017), 福岡, 2017年10月13日.
 63. 竹内弘久, 阿部展次, 杉山政則: 胃全摘後腹膜播種再発による消化管狭窄に対する内視鏡的ステント留置術. JDDW2017, 福岡, 2017年10月14日.
 64. 大木亜津子, 阿部展次, 吉本恵理, 近藤恵里, 鶴見賢直, 橋本佳和, 竹内弘久, 長尾玄, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 胃癌における胃内洗浄細胞診—胃内遊離癌細胞脱落のリスク因子—. 第25回JDDW, 福岡, 2017年10月14日.
 65. 長尾玄, 阿部展次, 鈴木裕, 松岡弘芳, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 消化管手術における術後せん妄発症の危険因子の検討. JDDW2017, 福岡, 2017年10月14日.
 66. 蓮井宣宏, 山口高史, 田口怜, 片岡功, 白山才人, 柳田修: 吻合部再々発をきたした上行結腸癌の1例. 第15回日本消化器外科学会大会, 福岡, 2017年10月14日.
 67. 阿部展次: 胃・十二指腸腫瘍に対する最新の薬物療法と低侵襲治療. GI Conference in多摩, 東京, 2017年10月26日.
 68. 長尾玄, 阿部展次, 近藤恵里, 鶴見賢直, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 杉山政則: 肥満患者における腹腔鏡補助下幽門側胃切除術 (LADG) での予防的ドレーン留置の有用性に関する検討. 第47回胃外科・術後障害研究会, 横浜, 2017年11月4日.
 69. Kishiki T, Kuchta K, Masaki T, Mori T, Sugiyama M, Ujiki M: A Dedicated Simulation Curriculum Results in Technical Skill Improvement While Performing Laparoscopic Sigmoid colectomy. 第21回アジア外科学会, 東京, 2017年11月22-23日.
 70. Abe N, Hashimoto Y, Ohki A, Takeuchi H, Nagao G, Mori T, Sugiyama M: Laparoscopy-assisted transduodenal resection of superficial non-ampullary duodenal epithelial tumors. The 21st Asian Congress of Surgery, Tokyo, November 22nd, 2017.
 71. 小暮正晴, 松木亮太, 横山政明, 中里徹矢, 鈴木裕, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 膵頭十二指腸切除での再建の工夫 膵頭十二指腸切除術における膵管ホルダーとmucosa squeeze-out法による膵空腸粘膜吻合. 第79回日本臨床外科学会総会, 東京, 2017年11月23-25日.
 72. 麻生喜祥, 正木忠彦, 吉田智幸, 小嶋幸一郎, 吉敷智和, 橋本佳和, 長尾玄, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則, 下山田博明, 菅間博, 柴原純二: 腸結核が疑われたが, 術後病理検査にて子宮内膜症が原因と判明した直腸狭窄の1例. 第79回日本臨床外科学会総会, 東京, 2017年11月23-25日.
 73. 竹内弘久, 森俊幸, 小嶋幸一郎, 橋本佳和, 大木亜津子, 阿部展次, 正木忠彦, 杉山政則: 両側鼠径ヘルニアに対して単孔式TEPは有用か?. 第79回日本臨床外科学会総会, 東京, 2017年11月23日.
 74. Sugiyama M, Suzuki Y, Nakazato T, Yokoyama M, Kogure M, Matsuki R, Abe N, Masaki T, MD, Mori T: Technical refinement for rational pancreatotomy. 21st Asian Congress of Surgery, Tokyo, November 23rd, 2017.
 75. 松木亮太, 金翔哲, 百瀬博一, 小暮正晴, 横山政明, 鈴木裕, 杉山政則: 開腹手術での起死回生の一手 (胆膵) 涙管ブジーと膵管ホルダーを用いた細径膵管に対する安全かつ確実な膵空腸粘膜吻合術. 第79回日本臨床外科学会総会, 東京, 2017年11月24日.
 76. 百瀬博一, 鈴木裕, 金翔哲, 松木亮太, 小暮正晴, 横山政明, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 膵癌小腸転移の1例. 第79回日本臨床外科学会総会, 東京, 2017年11月25日.
 77. 下山勇人, 長尾玄, 橋本佳和, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: HIV感染症に伴う腸管アメーバ症, サイトメガロウイルス腸炎による下行結腸狭窄に対する手術例. 第30回外科感染症学会, 東京, 2017年11月29日-11月30日.
 78. 吉敷智和: 米国の外科専門医教育と, 日本の外科教育の現状と未来, 第847回外科集談会, 東京, 2017年12月2日.
 79. 森俊幸: 8KUHDと近未来の内視鏡手術. 第30回日本内視鏡外科学会総会, 京都, 2017年12月7日.
 80. 吉敷智和, 森俊幸, Lapin B, 正木忠彦, 杉山政則, Ujiki M: 米国消化器内視鏡外科学会のFLSプログラムとブタの生体モデルを利用し, トレーニング前後評価カリキュラムを導入したレジデント教育. 第30回日本内視鏡外科学会総会, 京都, 2017年12月7-9日.
 81. 竹内弘久, 森俊幸, 小嶋幸一郎, 橋本佳和, 大木亜津子, 阿部展次, 正木忠彦, 杉山政則: 両側鼠径ヘルニアに対する単孔式TEPの検討. 第30回日本内視鏡外科学会総会, 京都, 2017年12月7日.
 82. 阿部展次, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄, 森俊幸, 杉山政則: 十二指腸良性・低悪性度腫瘍に対する腹腔鏡補助下縮小手術の成績. 第30回日本内視鏡外科学会総会, 京都, 2017年12月7日.
 83. 麻生喜祥, 森俊幸, 小暮正晴, 小嶋幸一郎, 吉敷智和, 橋本佳和, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 杉山政則: 腹腔鏡下修復術を行った成人Bochdalek孔ヘルニアの2例. 第30回日本内視鏡外科学会総会, 京都, 2017年12月7-9日.
 84. 橋本佳和, 森俊幸, 近藤恵里, 鶴見賢直, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 杉山政則: Reduced Port Laparoscopic Nissen Fundoplicationの臨床検討. 第30回日本内視鏡外科学会総会, 京都, 2017年12月7日.
 85. 蓮井宣宏, 橋本佳和, 松木亮太, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 正木忠彦, 杉山政則: PTGBDを施行した急性胆嚢炎症例に対する至適手術時期の検討. 第30回日本内視鏡外科学会総会, 京都, 2017年12月7日.
 86. 石井俊, 福田雄三, 下里あゆ子, 山澤邦宏, 村田祐二郎, 奥田純一, 寺島裕夫: 腹腔鏡下胃切除術後に生じた食道裂孔ヘルニア嵌頓に対し腹腔鏡下に整復した1例. 第30回日本内視鏡外科学会総会, 京都, 2017年12月7-9日.
 87. 森俊幸, 三澤健之, 山口茂樹: 日本内視鏡外科学会技術認定制度 (消化器一般). 第30回日本内視鏡外科学会総会, 京都, 2017年12月8日.
 88. Koba T, Kishiki T, Matsuoka H, Kojima K, Aso N, Beniya A, Akiya M, Hasui N, Mori T, Masaki T, Sugiyama M: A case of intestinal endometriosis mimicking submucosal tumor. The 34th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association, U.S.A., February 16th-18th, 2018.

89. 木庭露葉, 近藤恵里, 竹内弘久, 阿部展次, 松岡弘芳, 正木忠彦, 森俊彦, 杉山政則: 成人十二指腸膜様狭窄症の一例. 第96回城西外科研究会, 調布, 2018年3月3日.

平成28年度追加分

1. 木庭露葉, 下山勇人, 小暮正晴, 松木亮太, 横山政明, 中里徹矢, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊彦, 杉山政則: 膵頭十二指腸切除術後に発症した閉鎖孔ヘルニアの2例. 第841回外科集談会, さいたま, 2016年6月11日.

論文

- 森俊幸, 阿部展次, 正木忠彦, 杉山政則: 最新の内視鏡外科手術の適応と注意点 胆道疾患. 臨床外科 2(1): 34-41, 2017.
- 百瀬博一, 森俊幸: 8K 軽量カメラによる内視鏡手術のレベルアップと展望. 新医療 44(9): 76-79, 2017.
- 森俊幸, 青木久恵, 阿部展次, 正木忠彦, 杉山政則: 内視鏡システムの選択とスコピストの役割. 消化器外科 40(8): 1167-1177, 2017.
- 森俊幸, 橋本佳和, 阿部展次, 杉山政則: 腹腔鏡手術の近未来. 外科 79(11): 1041-1047, 2017.
- Nakazawa T, Notohara K, Tazuma S, Tanaka A, Isayama H, Tsuyuguchi Y, Mori T, Takikawa H: The 2016 diagnostic criteria for primary sclerosing cholangitis. J Gastroenterol 52(7): 838-844, 2017.
- Tazuma S, Unno M, Igarashi Y, Inui K, Uchiyama K, Kai M, Tsuyuguchi T, Maguchi H, Mori T, Yamaguchi K, Ryozaawa S, Nimura Y, Fujita N, Kubota K, Shoda J, Tabata M, Mine T, Sugano K, Watanabe M, Shimosegawa T: Evidence-based clinical practice guidelines for cholelithiasis 2016. J Gastroenterol 52(3):276-300, 2017.
- Takeuchi H, Abe N, Hashimoto Y, Ooki A, Hirano K, Ookura Y, Masaki T, Mori T, Sugiyama M: Establishment of pathological quantitative method for determining undifferentiated component ratio in patients with differentiated/undifferentiated mixed-type early gastric cancer and clinical significance of this ratio. Gastric Cancer 2017. doi: 10.1007/s10120-017-0782-x. (Published Online).
- 小暮正晴, 鈴木裕, 松木亮太, 横山政明, 中里徹矢, 杉山政則: 胆膵内視鏡 治療 胆管結石除去術・砕石術. 消化器内視鏡 29(3): 615-617, 2017.
- 小暮正晴, 鈴木裕, 松木亮太, 横山政明, 中里徹矢, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 胆・膵 EST・EPBD後の乳頭・胆道機能障害. 消化器内視鏡 29(10): 1916-1921, 2017.
- 小暮正晴: 肝胆膵外科 IPMN国際診療ガイドライン 2012. 日本医事新報 4865: 61, 2017.
- 百瀬博一, 鈴木裕, 杉山政則: こっちも覚えておきたい! 消化器外科でする処置・介助のお作法ポイント+α 肝生検. 消化器外科Nursing 22(9): 834-836, 2017.
- 百瀬博一, 鈴木裕, 杉山政則: こっちも覚えておきたい! 消化器外科でする処置・介助のお作法ポイント+α 膵生検. 消化器外科Nursing 22(9): 837-839, 2017.
- 百瀬博一, 阿部展次, 橋本佳和, 正木忠彦, 森俊彦, 杉山政則: 腹腔鏡補助下胃全摘術後の左胃動脈仮性動脈瘤破裂の1例. 日本臨床外科学会雑誌 78(6): 1276-1281, 2017.
- 金翔哲¹, 三井秀雄¹, 吉田孝司¹, 橋本佳和, 松岡弘芳, 正木忠彦, 杉山政則 (¹東京都健康長寿医療センター): 術前に存在診断しえた小腸リンパ管腫の1例. 日本消化器外科学会雑誌 50(9):745-53, 2017.
- 金翔哲, 鈴木裕, 松木亮太, 小暮正晴, 横山政明, 中里

徹矢, 杉山政則: 術式別ドレーン管理とケア 胆道切除術(胆道再建を伴わないもの). 消化器外科Nursing 2017(春期増刊):107-112, 2017.

- 金翔哲, 鈴木裕, 松木亮太, 小暮正晴, 横山政明, 中里徹矢, 杉山政則: 術式別ドレーン管理とケア 胆道切除術. 消化器外科Nursing 2017(春期増刊):113-118, 2017.
- Abe N, Hashimoto Y, Takeuchi H, Ohki A, Nagao G, Suzuki Y, Masaki T, Mori T, Sugiyama M: Laparoscopy-assisted full-thickness resection of the duodenum for patients with gastrointestinal stromal tumor with ulceration. Asian J Endosc Surg 10(4):388-393, 2017.
- 阿部展次, 竹内弘久, 長尾玄, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 消化性潰瘍出血に対する外科治療の役割. 臨床消化器内科 32(3): 295-300, 2017.
- Kitano S¹, Inomata M¹, Mizusawa J², Katayama H², Watanabe M³, Yamamoto S⁴, Ito M⁵, Saito S⁶, Fujii S⁷, Konishi F⁸, Saida Y⁹, Hasegawa H¹⁰, Akagi T¹, Sugihara K¹¹, Yamaguchi T¹², Masaki T, Fukunaga Y¹³, Murata K¹⁴, Okajima M¹⁵, Moriya Y⁴, Shimada Y¹⁶ (¹Oita University, ²JCOG Data Center, Operations Office, National Cancer Center, ³Kitasato University Hospital, ⁴Division of Colorectal Surgery, National Cancer Center Hospital, ⁵National Cancer Center Hospital East, ⁶Shizuoka Cancer Center Hospital, ⁷Gastroenterological Centre, Yokohama City University, ⁸Jichi Medical University, ⁹Toho University Ohashi Medical Center, ¹⁰Keio University School, ¹¹Tokyo Medical and Dental University, ¹²National Hospital Organization, Kyoto Medical Centre, ¹³Osaka City General Hospital, ¹⁴Suita Municipal Hospital, ¹⁵Hiroshima University, ¹⁶Gastrointestinal Oncology Division, National Cancer Center Hospital): Survival outcomes following laparoscopic versus open D3 dissection for stage II or III colon cancer (JCOG0404): a phase 3, randomised controlled trial. Lancet Gastroenterol Hepatol. 2(4):261-268, 2017.
- Arima S, Shimizu K, Okamoto T, Toki M, Suzuki Y, Okano N, Naruge D, Kawai K, Kobayashi T, Kasuga A, Kitamura H, Takasu A, Nagashima F, Sugiyama M, Furuse J: A Multicenter Phase II Study of Gemcitabine plus S-1 Chemotherapy for Advanced Biliary Tract Cancer. Anticancer Res. 37(2):909-914, 2017.
- Kubota K, Kamisawa T, Okazaki K, Kawa S, Hirano K, Hirooka Y, Uchida K, Shiomi H, Ohara H, Shimizu K, Arakura N, Kanno A, Sakagami J, Itoi T, Ito T, Ueki T, Nishino T, Inui K, Mizuno N, Yoshida H, Sugiyama M, Iwasaki E, Irisawa A, Shimosegawa T, Takeyama Y, Chiba T: Low-dose maintenance steroid treatment could reduce the relapse rate in patients with type 1 autoimmune pancreatitis: a long-term Japanese multicenter analysis of 510 patients. J Gastroenterol. 52(8):955-964, 2017.
- Watanabe T, Furuse J, Okano N, Suzuki Y, Kamma H, Sugiyama M: A pathological complete response after combined chemotherapy of gemcitabine and S-1 in advanced biliary tract cancer with para-aortic lymph nodes metastasis: a case report. Surg Case Rep. 3(1):26, 2017.
- 杉山政則: 胆管結石の治療, 巻頭言. 臨床消化器内科 32(1): 7-8, 2017.
- 杉山政則: Mesopancreasとは何か?. 胆と膵 38(1): 11-12, 2017.

25. 杉山政則, 鈴木裕, 松木亮太, 小暮正晴, 横山政明, 中里徹矢, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸: 腸回転解除法を用いた臍頭十二指腸切除術. 胆と膵 38(1): 87-92, 2017.
26. 乾和郎, 正宗淳, 五十嵐良典, 大原弘隆, 田妻進, 杉山政則, 鈴木裕, 三好広尚, 山本智支, 竹山宜典, 中野絵里子, 宅間健介, 阪上順一, 林香月, 木暮敦子, 伊藤哲也, 向井強, 前谷容, 長濱正亜, 芹川正浩, 植木敏晴, 古家乾, 伊佐山浩通, 森山一郎, 重野賢也, 水上一弘, 七島篤志, 小穴修平, 池端敦, 渡邊典子, 廣岡芳樹, 大越恵一郎, 佐々木洋治, 岩田恵典, 工藤寧, 中山中, 中村雅史: 膵石症治療に関する全国実態調査. 膵臓 32(4): 714-726, 2017.
27. 蓮井宣宏, 照屋正則¹, 橋本佳和, 鶴見賢直¹, 吉澤奈央¹, 山口浩和¹, 上西紀夫¹(公立昭和病院): 腎不全を合併した胆石イレウスの2例. 杏林医学会雑誌 48(1):3-10, 2017.
28. 蓮井宣宏, 清水篤志¹, 麻生喜祥, 山口浩和¹, 杉山政則, 上西紀夫¹(公立昭和病院): A群溶連菌による原発性腹膜炎の2例. 日本臨床外科学会雑誌 78(8): 1904-1910, 2017.
29. Kubota K, Kamisawa T, Hirano K, Hirooka Y, Uchida K, Ikeura T, Shiomi H, Ohara H, Shimizu K, Arakura N, Kanno A, Sakagami J, Itoi T, Ito T, Ueki T, Nishino T, Inui K, Mizuno N, Yoshida H, Sugiyama M, Iwasaki E, Irisawa A, Okazaki K, Kawa S, Shimosegawa T, Takeyama Y, Chiba T: Clinical course of type 1 autoimmune pancreatitis patients without steroid treatment: a Japanese multicenter study of 97 patients. J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2018. doi: 10.1002/jhbp.541. (Epub ahead of print).
30. 杉山政則, 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 小暮正晴, 松木亮太, 阿部展次: 膵外傷のEUS診断. 胆と膵 39(1): 41-43, 2018.
31. 杉山政則: なかなか書けない外科医のための集中講義—英文論文を書いてみよう 1. なぜ研究をするのか?. 臨床外科 73(1): 90-96, 2018.
32. 杉山政則: なかなか書けない外科医のための集中講義—英文論文を書いてみよう 2. なぜ論文を書くのか?. 臨床外科 73(2): 226-227, 2018.
33. 杉山政則: なかなか書けない外科医のための集中講義—英文論文を書いてみよう 3. 論文の基本構成. 臨床外科 73(3): 376-385, 2018.
34. 杉山政則, 鈴木裕, 松木亮太, 小暮正晴, 横山政明, 中里徹矢, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸: 臍頭十二指腸切除の手術手技. 術野展開—腸回転解除法. 臨床外科 73(3): 292-297, 2018.

著書

1. 小暮正晴, 森俊幸: 胆嚢, 胆管結石症 観血的治療. 消化器疾患最新の治療2017. 小池和彦, 山本博徳, 瀬戸泰之編集. 東京, 南江堂, 2017. pp.416-418.
2. 杉山政則(企画): 最新医学別冊 診断と治療のABC 121 胆石症・胆管結石・胆道炎・胆道がん. 大阪, 最新医学社, 2017.
3. 杉山政則, 正木忠彦, 阿部展次(編集): 消化器外科手術 起死回生の一手. 東京, メジカルビュー社, 2017.
4. 橋本佳和, 阿部展次, 杉山政則: 脾臓からの出血が止まらない! 圧迫や止血剤で出血が止まらない時はどうする?. 消化器外科手術 起死回生の一手. 杉山政則, 正木忠彦, 阿部展次編集. 東京, メジカルビュー社, 2017. p.15-19.
5. 長尾玄, 阿部展次, 杉山政則: 第1章 食道切除後胃管盲端壊死! 再手術?—有茎肋間筋弁充填とEloesser's flap法による開窓術—. 消化器外科手術 起死回生の一手. 杉山政則, 正木忠彦, 阿部展次編集. 東京, メジカルビュー社, 2017. p.133-140.

6. 杉山政則(分担執筆): 膵・胆管合流異常. 内科学書 第11版. 矢崎義雄総編集. 東京, 朝倉書店, 2017. p.1164-1165.
7. 阿部展次: 胃切除後患者退院後のケア. 今日の治療指針. 医学書院, 東京, 2018, p.507-508.

報告書

1. 正木忠彦: 革新的がん医療実用化研究事業: 『直腸癌側方骨盤リンパ節転移の術前診断の妥当性に関する観察研究』日本医療研究開発機構 (AMED) 2016年度 分担研究報告書.

その他

1. 正木忠彦: 日本大腸肛門病学会『便失禁診療ガイドライン2017年版』書評, 南江堂, 2017年3月1日発行.
2. 阿部展次: Hands-on (胃・大腸モデル) 指導. 第7回佐賀内視鏡セミナー, 佐賀, 2017年7月14日.
3. 阿部展次: 座長 十二指腸非乳頭部腫瘍をどうする? (ワークショップ). JDDW 2017, 博多, 2017年10月13日.
4. 橋本佳和: コメンテーター, TAMA Laparoscopic Surgical Forum 2017—腹腔鏡下胃切除術—, 立川, 2017年11月10日.
5. 竹内弘久: 座長 第847回外科集談会, 東京, 2017年12月2日.

外科学教室 (呼吸器・甲状腺外科)

講演 国際学会

1. Tanaka R, Fujiwara M, Tachibana K, Miura J, Shimizu R, Nagashima Y, Miya T, Takei H, Shibahara J, Kamma H, Kondo H: Differentiating of Cytomorphological Characteristics in Non-small Cell Lung Cancer Predicts Value of Radiologic Features. IASLC WCLC 2017, Yokohama, October 15th-18th, 2017.
2. Miya T, Shimizu R, Tachibana K, Nagashima Y, Tanaka R, Takei H, Kondo H: Efficacy and safety of triple antiemetic therapy (palonosetron, dexamethasone, aprepitant) for chemotherapy-induced nausea and vomiting in patients receiving cisplatin-based highly emetogenic chemotherapy as postoperative adjuvant treatment. The 34th Congress of the Pan-pacific Surgical Association Japan Chapter, USA, February 16th-18th, 2018.

国内学会

1. 近藤晴彦: リンパ節郭清の範囲はどう区分するのがよいのか?. 第18回胸骨正中経路による肺癌手術懇話会, 東京, 2017年4月22日.
2. 須田一晴: Multi-Angle法によるTS肺葉切除術. 第9回TSの会, 福岡, 2017年5月17日.
3. 田中良太, 渋谷幸見, 新井信晃, 三ツ間智也, 橘啓盛, 河内利賢, 荻田真, 中里陽子, 長島鎮, 武井秀史, 近藤晴彦: 右開胸による左腕頭静脈と右心耳に一時バイパスを施行した局所進行肺癌の一例. 第34回日本呼吸器外科学会総会, 福岡, 2017年5月18-19日.
4. 長島鎮, 渋谷幸見, 新井信晃, 三ツ間智也, 橘啓盛, 河内利賢, 荻田真, 中里陽子, 田中良太, 武井秀史, 近藤晴彦: 遅発性に創部出血を来した肺癌術後の3例. 第34回日本呼吸器外科学会総会, 福岡, 2017年5月18-19日.
5. 古屋敷剛, 須田一晴, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 肺癌術後気管支断端瘻に対し胸腔鏡下にて断端バルーン閉鎖洗浄

後に大網断端牽引固定が奏功した1例. 第34回日本呼吸器外科学会総会, 福岡, 2017年5月18-19日.

6. 橋啓盛, 渋谷幸見, 三ツ間智也, 長島鎮, 田中良太, 武井秀史, 近藤晴彦: 右肺下葉切除後のS5区域切除術. 第34回日本呼吸器外科学会総会, 福岡, 2017年5月18-19日.
7. 新井信晃, 須田一晴, 古屋敷剛, 近藤晴彦: 自然縮小した胸壁デスマイド腫瘍の1例. 第34回日本呼吸器外科学会総会, 福岡, 2017年5月18-19日.
8. 須田一晴, 古屋敷剛, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 完全鏡視下右下葉管状切除術+気管支形成術. 第34回日本呼吸器外科学会総会, 福岡, 2017年5月18-19日.
9. 清水麗子, 児嶋秀晃, 林祥子, 水野潔道, 保浦慶之, 井坂光宏, 高橋利明, 大出泰久: 小細胞肺癌に対しsalvage手術を施行した3例. 第34回日本呼吸器外科学会総会, 福岡, 2017年5月18-19日.
10. 田中良太, 坂本憲彦, 鈴木瞳, 橋啓盛, 中里陽子, 武井秀史, 藤原正親, 柴原純二, 菅間博, 近藤晴彦: 肺癌の細胞診と画像診断—細胞形態と画像所見との対比—. 第58回日本臨床細胞学会総会(春期大会), 大阪, 2017年5月26-28日.
11. 三浦隼, 田中良太, 三ツ間智也, 橋啓盛, 武井秀史, 藤原正親, 菅間博, 近藤晴彦: 4D-CTが診断に有効であったsolitary fibrous tumorの1例. 第174回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 新潟, 2017年6月3日.
12. 須田一晴, 古屋敷剛, 近藤晴彦: cVATSを安全に行うためのMulti-Angle法. 第174回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 新潟, 2017年6月3日.
13. 三ツ間智也, 平野浩一, 渋谷幸見, 橋啓盛, 長島鎮, 武井秀史, 田中良太, 中里陽子, 菅間博, 高山信之, 近藤晴彦: Oncological emergencyを来した甲状腺悪性リンパ腫の1例. Oncological emergencyを来した甲状腺悪性リンパ腫の1例. 第845回外科集談会, 東京, 2017年7月1日.
14. 田中良太: 外科医を志す医学生を対象とした外科手技の体験実習. 4th Surgical Education Summit, 札幌, 2017年7月8-9日.
15. 清水麗子, 武井秀史, 三浦隼, 三ツ間智也, 橋啓盛, 長島鎮, 田中良太, 宮敏路, 近藤晴彦: 気管分岐部楔状切除を伴う右肺全摘 術後気管縫合不全の1例. 第4回多摩呼吸器外科医会, 立川, 2017年7月22日.
16. 橋啓盛, 三浦隼, 清水麗子, 長島鎮, 田中良太, 宮敏路, 武井秀史, 藤原正親, 横山健一, 近藤晴彦: 肺癌の超高精細CT所見と病理. 第25回SKAT研究会, 長岡, 2017年9月23日.
17. 高橋俊博, 武井秀史, 三浦隼, 三ツ間智也, 清水麗子, 橋啓盛, 長島鎮, 田中良太, 宮敏路, 平野浩一, 近藤晴彦: 超高齢者(92歳)に対する肺癌手術. 第846回外科集談会, 東京, 2017年9月30日.
18. 須田一晴, 古屋敷剛: 当院におけるcVATS肺葉切除術～分用不全に対する左上葉切除術～. 第5回新潟呼吸器外科手術手技研究会, 長岡, 2017年10月21日.
19. 田中良太, 坂本憲彦, 鈴木瞳, 中里陽子, 橋啓盛, 武井秀史, 大塚弘毅, 岸本浩次, 藤原正親, 柴原純二, 菅間博, 近藤晴彦: 肺癌診療領域におけるLBCを用いた遺伝子プロファイリング. 第56回日本臨床細胞学会秋期大会, 福岡, 2017年11月18-19日.
20. 武井秀史, 三浦隼, 三ツ間智也, 清水麗子, 橋啓盛, 長島鎮, 田中良太, 平野浩一, 近藤晴彦: 頸部気管腫瘍に対する気管管状切除. 第79回日本臨床外科学会学術集会, 東京, 2017年11月23-25日.
21. 犬飼美智子, 清水麗子, 三浦隼, 渋谷幸見, 三ツ間智也, 橋啓盛, 中里陽子, 長島鎮, 田中良太, 宮敏路, 武井秀

史, 近藤晴彦: 急速な呼吸不全を呈し分岐部楔状切除を伴う右肺全摘を施行した1例. 第847回外科集談会, 三鷹, 2017年12月2日.

22. 近藤晴彦: 呼吸器外科領域における技術認定制度は必要か? 胸腔鏡手術の技術認定についての考察. 第30回日本内視鏡外科学会総会, 京都, 2017年12月7日.
23. 橋啓盛: 肺癌の超高精細CT所見 ～どこまでみえる?～. 第170回城西胸部画像研究会, 武蔵野, 2018年1月23日.
24. 武井秀史: この気胸, どうやって治療する?. 第5回多摩呼吸器外科医会, 立川, 2018年1月27日.
25. 武井秀史: 術中肺瘻処理の方法 心膜周囲脂肪組織および皮下脂肪組織を用いた肺瘻被覆. 第11回General Thoracic Surgical Forum, 東京, 2018年2月3日.
26. 須田一晴, 古屋敷剛, 近藤晴彦: 肺癌術後, 有癭性膿胸に対してバルーン閉鎖ウロキナーゼ洗浄にて治癒した1例. 第29回長岡肺癌研究会, 長岡, 2018年2月9日.
27. 近藤晴彦: 転移性肺腫瘍の外科治療～update～(大腸癌を中心に). 第3回神戸呼吸器外科セミナー, 神戸, 2018年3月2日.
28. 清水麗子, 武井秀史, 三浦隼, 渋谷幸見, 三ツ間智也, 橋啓盛, 長島鎮, 田中良太, 宮敏路, 藤原正親, 菅間博, 近藤晴彦: 肺原発巨細胞腫の1例. 第181回日本肺癌学会関東支部学術集会, 東京, 2018年3月3日.
29. 三浦隼, 橋啓盛, 三ツ間智也, 清水麗子, 田中良太, 長島鎮, 武井秀史, 藤原正親, 菅間博, 近藤晴彦: 臓側胸膜の異所性子宮内膜組織から肺瘻を認めた月経随伴性気胸の1例. 第176回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 東京, 2018年3月10日.
30. 早川怜那, 清水麗子, 三浦隼, 渋谷幸見, 三ツ間智也, 橋啓盛, 長島鎮, 田中良太, 宮敏路, 武井秀史, 岡部直太, 大窪泰弘, 藤原正親, 菅間博, 近藤晴彦: 気管前リンパ節転移が疑われた迷走神経発生神経鞘腫の1例. 第848回外科集談会, 東京, 2018年3月17日.
31. 三ツ間智也, 武井秀史, 三浦隼, 渋谷幸見, 清水麗子, 橋啓盛, 田中良太, 長島鎮, 宮敏路, 麻生純平, 小田未来, 小川ゆかり, 横山琢磨, 滝澤始, 近藤晴彦: 摘出に難渋した気管支異物(サクランボ種子)の1例. 第164回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会, 東京, 2018年3月24日.

論文

1. Yamamoto H^{1,2}, Ishii J³, Chiba T¹, Nakazato Y, Hirano K, Kamma H¹(¹Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine, Division of ²Nephrology and Endocrinology, The University of Tokyo, School of Medicine, ³Department of Pathology, Dokkyo Medical University): Sporadic minute medullary carcinoma with a double RET mutation: A case report. Pathology International 67(11): 580-584, 2017. DOI: 10.1111/pin.12588.
2. Tanaka R, Sakamoto N¹, Suzuki H¹, Tachibana K, Takei H, Kishimoto K¹, Fujiwara M¹, Kamma H¹, Shibahara J¹, Kondo H¹(¹Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine): The cytomorphological characteristics of non-small cell lung cancer are associated with its radiological features. J Cytol Histol 8:482, 2017. DOI: 10.4172/2157-7099.1000482.
3. Tanaka R, DeAsis F¹, Vigneswaran Y¹, Linn J¹, Carbray J¹, Denham W¹, Haggerty S¹, Ujiki M¹(¹Department of Surgery, Section of Minimally Invasive Surgery, NorthShore University HealthSystem): Video review program enhances resident training in laparoscopic inguinal hernia: a randomized blinded controlled trial. Surg Endosc

2017. DOI: 10.1007/s00464-017-5992-0.
4. Dorian ED¹, DeAsis FJ¹, Lapin B¹, Amesbury R¹, Tanaka R, Ujiki MB¹(¹NorthShore University HealthSystem): A Comparative Assessment of Novel Mini-Laparoscopic Tools. *Surg Innov* 24(1):35-41, 2017. DOI: 10.1177/1553350616667351.
5. Okumura T¹, Boku N², Hishida T³, Ohde Y⁴, Sakao Y⁵, Yoshiya K⁶, Higashiyama M⁷, Hyodo I⁸, Mori K², Kondo H(¹University Hospital Mizonokuchi, Teikyo University School of Medicine, ²National Cancer Center Hospital, ³National Cancer Center Hospital East, ⁴Shizuoka Cancer Center, ⁵Aichi Cancer Center Hospital, ⁶Niigata Cancer Center Hospital, ⁷Osaka Medical Center for Cancer & Cardiovascular Diseases, ⁸University of Tsukuba): Surgical outcome and prognostic stratification for pulmonary metastasis from colorectal cancer. *Ann Thorac Surg* 104(3):979-987, 2017. DOI: 10.1016/j.athoracsur.2017.03.021.
6. Miyajima M¹, Watanabe A¹, Sato T², Teramukai S³, Ebina M⁴, Kishi K⁵, Sugiyama Y⁶, Kondo H, Kobayashi S⁷, Takahashi Y⁸, Ito H⁹, Yamamoto R¹⁰, Sawada S¹¹, Fujimori H¹², Okabe K¹³, Arikura J¹⁴, Shintani Y¹⁵, Nakamura H¹⁶, Toyooka S¹⁷, Hasumi T¹⁸, Watanabe T¹⁹, Hata Y²⁰, Iwata H²¹, Aoki M²², Funai K²³, Inoue S²⁴, Kawashima O²⁵, Iida T²⁶, Date H² (¹Sapporo Medical University School of Medicine, ²Kyoto University, ³Kyoto Prefectural University of Medicine Graduate School of Medical Science, ⁴Tohoku Pharmaceutical University, ⁵Toranomon Hospital, ⁶Jichi Medical University, ⁷Dokkyo Medical University, ⁸Kobe City Medical Centre General Hospital, ⁹Kanagawa Cancer Center, ¹⁰Osaka City General Hospital, ¹¹National Hospital Organization Shikoku Cancer Center, ¹²Ishikawa Prefectural Central Hospital, ¹³National Hospital Organization Yamaguchi-Ube Medical Center, ¹⁴National Hospital Organization Hokkaido Cancer Center, ¹⁵Osaka University, ¹⁶Tottori University Hospital, ¹⁷Okayama University, ¹⁸Okayama University, ¹⁹National Hospital Organization Nishi-Niigata Chuo National Hospital, ²⁰Toho University School of Medicine, ²¹Gifu University, ²²Nishi-Kobe Medical Center, ²³Hamamatsu University School of Medicine, ²⁴National Hospital Organization Higashi-Ohmi General Medical Center, ²⁵National Hospital Organization Nishigunma National Hospital, ²⁶Kimitsu Central Hospital): What factors determine the survival of patients with an acute exacerbation of interstitial lung disease after lung cancer resection? *Surg Today*, 2017. DOI: 10.1007/s00595-017-1605-8. (published online).
7. Endo S¹, Ikeda N², Kondo T³, Nakajima J⁴, Kondo H, Yokoi K⁵, Chida M⁶, Satoh M⁷, Toyooka S⁸, Yoshida K², Okada Y⁹, Sato Y¹⁰, Okada M¹¹, Okumura M¹², Chihara K¹³, Fukuchi E⁴, Miyata H⁴ (¹Jichi Medical University, ²Tokyo Medical University Hospital, ³Tohoku Medical and Pharmaceutical University Hospital, ⁴University of Tokyo Graduate School of Medicine, ⁵Nagoya University Graduate School of Medicine, ⁶Dokkyo Medical University, ⁷Kagoshima University, ⁸Okayama University, ⁹Tohoku University, ¹⁰University of Tsukuba, ¹¹Hiroshima University, ¹²Osaka University Graduate School of Medicine, ¹³Shizuoka Hospital): Model of lung cancer surgery risk derived from a Japanese nationwide web-based database of 78 594 patients during 2014-2015. *Eur J Cardiothorac Surg* 52(6):1182-1189, 2017. DOI:10.1093/ejcts/ezx190.
8. Hirata A¹, Saraya T¹, Arai N, Karita S², Kawachi R³, Takei H, Ohkuma K¹, Ishida M¹, Fujiwara M⁴, Takizawa H¹(¹Department of Respiratory medicine, School of Medicine, Kyorin University, ²JR Tokyo general hospital, ³Nihon university, ⁴Department of Pathology, School of Medicine, Kyorin University): Giant bulla formation in the lung because of a check-valve mechanism. *Respir Investig* 55(1):63-68, 2017. DOI: 10.1016/j.resinv.2016.10.006.
9. Nakazato T, Suzuki Y, Tanaka R, Abe N, Masaki T, Mori T, Ohkura Y¹, Sugiyama M(¹Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine): Effect of Reprimo Down-regulation on Malignant Transformation of Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm. *Pancreas* 47(3):291-295, 2018. DOI: 10.1097/MPA.0000000000001002.
10. Morimoto Y¹, Takei H, Tachibana K, Nakazato Y, Tanaka R, Nagashima Y, Watanabe K¹, Seki R², Shinohara T², Kondo H(¹Education and Research Center for Clinical Pharmacy, Showa Pharmaceutical University, ²Department of Pharmacy, Kyorin University Hospital): Risk factors for chest pain and fever in patients undergoing pleurodesis with OK-432. *Intern Med* 9. 2018. DOI: 10.2169/internalmedicine.9637-17.
11. Morimoto Y¹, Takei H, Tachibana K, Nakazato Y, Tanaka R, Nagashima Y, Watanabe K¹, Seki R², Shinohara T², Kondo H(¹Education and Research Center for Clinical Pharmacy, Showa Pharmaceutical University, ²Department of Pharmacy, Kyorin University Hospital): Role of Pharmacists in Completion of Adjuvant Cisplatin-Vinorelbine Chemotherapy in Japanese Patients with Non-small Cell Lung Cancer. *Yakugaku Zasshi* 138(3):437-442, 2018. DOI: 10.1248/yakushi.17-00192.
12. Matsuki R¹, Sugiyama M¹, Takei H, Kondo H, Fujiwara M², Shibahara J², Furuse J³(¹Department of Surgery, ²Department of Pathology, ³Department of Medical Oncology, School of Medicine, Kyorin University): Long-term survival with repeat resection for lung oligometastasis from pancreatic ductal adenocarcinoma: a case report. *Surg Case Rep* 4(1):26, 2018. DOI:10.1186/s40792-018-0435-2.
13. 古屋敷剛¹, 須田一晴, 近藤晴彦, 呉屋朝幸 (¹長岡中央総合病院): 肺原発滑膜肉腫の完全胸腔鏡下による1切除例. *日呼外会誌* 31(7): 859-863, 2017.
14. 平野浩一: 甲状腺超音波診断. *杏林医会誌* 48(1): 53-60, 2017.
15. 菅間博¹, 平野浩一 (¹杏林大・医・病理学): 甲状腺癌の分化・増殖抑制機構の変調. *杏林医会誌* 48(3): 21-24, 2017.
16. 岡野弘¹, 本保晃¹, 森山潔¹, 萬知子¹, 三ツ間智也, 平野浩一 (¹杏林大・医・麻酔科学): 経鼻高流量療法および逆Trendelenburg体位を併用した高度肥満患者の術後呼吸管理. *臨床麻酔* 41(11): 1547-1549, 2017.
17. 渋谷幸見, 河内利賢¹, 武井秀史, 藤原正親², 菅間博², 近藤晴彦 (¹日本大, ²杏林大・医・病理学): 肺原発リンパ上皮腫様癌と鑑別を要した非角化型扁平上皮癌の1例. *肺癌* 57(2): 118-123, 2017.

著書

1. 武井秀史 (分担執筆): 小細胞癌 手術適応はどのように考えますか?. *肺癌診療Q&A* 一つ上を行く診療の実践. 弦間昭彦監修. 東京, 中外医学社, 2017. p.256-257.

2. 武井秀史(分担執筆): 高齢者肺癌症例に対する手術療法の限界について教えて下さい. 肺癌診療Q&A 一つ上を行く診療の実践. 弦間昭彦監修. 東京, 中外医学社, 2017. p.290-292.
3. 近藤晴彦(医学監修): ナーシング・グラフィカ成人看護学4『周術期看護』第3版. 中島恵美子, 山崎智子, 武内佐智恵編集. 大阪, メディカ出版, 2017. ISBN978-4-8404-5376-9.
4. 田中良太, 近藤晴彦(分担執筆): 5. 転移性肺腫瘍監修. インフォームドコンセントのための図説シリーズ 肺がん 改訂5版. 西條長宏監修, 大江裕一郎, 鈴木健司編集. 大阪・東京, 医薬ジャーナル社, 2017. p.33-35. ISBN978-4-7532-2831-7.
5. 橘啓盛, 近藤晴彦(分担執筆): I 上部消化管 食道 肺損傷の対処法. 消化器外科手術 起死回生の一手. 杉山政則, 正木忠彦, 阿部展次編集. 東京, メジカルビュー社, 2017. p.101-105.

その他

1. 宮敏路: 腫瘍内科医に学ぶ「がんを知ろう」第4回. 乳がん治療の基礎その1. ー内分泌治療ーあTokyo, No144 2017年夏号.
2. 宮敏路: 腫瘍内科医に学ぶ「がんを知ろう」第5回. 乳がん治療の基礎その2. ー集学的治療ーあTokyo, No145 2017年秋号.
3. 宮敏路: 腫瘍内科医に学ぶ「がんを知ろう」第6回. 肺がん治療の最前線その1. ー呼吸器の構造と肺がんの発生ーあTokyo, No146 2017年冬号.
4. 宮敏路: 腫瘍内科医に学ぶ「がんを知ろう」第7回. 肺がん治療の最前線その2. ーがん遺伝子を標的とした究極の個別化治療ーあTokyo, No147 2018年春号.
5. 近藤晴彦: 第847回外科集談会主催, 三鷹, 2017年12月2日.

外科学教室 (乳腺外科)

講演

1. 上野貴之: ホルモン療法と分子標的治療. 埼玉・群馬乳腺疾患研究会, さいたま, 2017年5月20日.
2. 上野貴之: HER2陰性進行・再発乳癌の治療戦略. Breast Cancer Symposium in Nagoya. 名古屋, 2017年5月27日.
3. 上野貴之: 乳癌に関する最近の話題. Kyoto Breast Cancer Symposium 2017 in Summer. 京都, 2017年6月30日.
4. 上野貴之: 遺伝子診断. 第25回日本乳癌学会学術総会, 福岡, 2017年7月13-15日.
5. 麻賀創太, 木下貴之, 栗原俊明, 椎野翔, 神保健二郎, 高山伸, 吉田正行: 術前化学療法後non-pCR症例における予後予測因子. 第25回日本乳癌学会学術総会, 福岡, 2017年7月13-15日.
6. 伊東大樹, 上野貴之, 伊坂泰嗣, 宮本快介, 井本滋: 乳房一期再建術における合併症のリスク因子の検討. 第25回日本乳癌学会学術総会, 福岡, 2017年7月13-15日.
7. 上野貴之: トリプルネガティブ乳癌の治療戦略. 乳癌TV講座, 東京, 2017年9月1日.
8. 上野貴之: 分子標的治療をどのように理解するか. Breast Cancer Education Event: NEWS2017 in Kyushu, 福岡, 2017年9月9日.
9. 上野貴之: 微小環境をとらえた乳癌治療. 帯広乳癌研究会, 帯広, 2017年9月15日.
10. 上野貴之: 分子標的と組み合わせる乳癌治療. 第13回東

- 北Breast Cancer Workshop, 仙台, 2017年10月14日.
11. 上野貴之: がんとオートファジー. 西宮市ライフサイエンスセミナー2017, 西宮, 2017年10月25日.
12. 麻賀創太, 木下貴之, 荻澤佳奈, 栗原俊明, 椎野翔, 神保健二郎, 高山伸, 吉田正行: 術前化学療法後non-pCR症例における予後因子としてのKi67変化率. 第55回日本癌治療学会学術総会, 横浜, 2017年10月20-22日.
13. 上野貴之: HER2 positive breast cancer in Japan. Global Breast Cancer Meeting, Singapore, 2017年11月19日.
14. 麻賀創太, 木下貴之, 栗原俊明, 椎野翔, 神保健二郎, 高山伸: 根治可能な高齢者乳癌の治療における現状と課題. 第79回日本臨床外科学会総会, 東京, 2017年11月23-25日.
15. 上野貴之: HER2陰性進行再発乳がんの治療戦略を考える. 第15回日本乳癌学会近畿地方会, 京都, 2017年12月16日.
16. 上野貴之: 進行再発HER2陽性乳癌. New Year Conference 2018, さいたま, 2018年1月9日.
17. 上野貴之: トリプルネガティブ乳癌治療のUp To Date. 第7回乳癌Clinical Meeting, 東京, 2018年2月13日.
18. 上野貴之: 乳癌不均質性とリキッドバイオプシー. Breast Cancer Conference ~next generation~, 松山, 2018年2月24日.
19. Ueno T: Updates on the clinical utility of 21-gene assay recurrence score (Oncotype DX). Organisation for Oncology and Translational Research 13th Annual Conference, Hong Kong, June 9th-10th, 2017.
20. Imoto S: An international retrospective cohort study on oligometastases in breast cancer (OLIGO-BC-1). Presented at the 24th Asia Pacific Cancer Conference, Korea, June 22nd, 2017.
21. Imoto S, Ueno T, Yotsumoto D, Tsugawa K, Sugae S: Prognosis of sentinel lymph node-positive breast cancer patients who received no axillary lymph node dissection from a retrospective multicenter registry in Japan. Presented at the 47th World Congress of Surgery, Switzerland, August 15th, 2017.
22. Ito H, Ueno T, Suga H, Shiraishi T, Isaka H, Imi K, Miyamoto K, Kitamura M, Imoto S: Study on risk factors for complications of immediate breast reconstruction after mastectomy. The 47th the World Congress of Surgery, Switzerland, August 13th-17th, 2017.
23. Imoto S, Futamura M, Toi M, Fujiwara Y, Ueno T, Kitagawa Y, Nishiyama M: International Retrospective Cohort Study of Locoregional and Systemic Therapy in Oligometastatic Breast Cancer (OLIGO-BC1). Presented at FACO/JSCO joint symposium, Yokohama, October 22nd, 2017.
24. Masuda N, Sato N, Morimoto T, Ueno T, et al: Tailored neoadjuvant endocrine therapy and chemohormonal therapy for postmenopausal patients with estrogen receptor-positive human epidermal growth factor receptor 2-negative primary breast cancer. 2017 San Antonio Breast Cancer Symposium, USA, December 5th-9th, 2017.
25. Ignatiadis M, Silva MJ, Campbell C, Bradbury I, de Azambuja E, Maetens M, Fumagalli D, Rodrik-Outmezguine V, Di Cosimo S, Rosa D, Chia S, Wardley A, Ueno T, Janni W, Huober J, Baselga J, Piccart M, Sotiriou C, Loi S, Roth F, Dawson S: Circulating tumor DNA in HER2 amplified breast cancer: A translational research substudy of the

NeoALTTO phase 3 trial. 2017 San Antonio Breast Cancer Symposium, USA, December 5th-9th, 2017.

論文

1. Ishiguro H, Saji S, Nomura S, Tanaka S, Ueno T, Onoue M, Iwata H, Yamanaka T, Sasaki Y, Toi M: A phase I/II pharmacokinetics/pharmacodynamics study of irinotecan combined with S-1 for recurrent/metastatic breast cancer in patients with selected UGT1A1 genotypes (the JBCRG-M01 study). Cancer Med. 2017. doi: 10.1002/cam4.1258.
2. Tanaka S, Ueno T*, Ishiguro H, Morita S, Toi M: The lack of increases in circulating endothelial progenitor cell as a negative predictor for pathological response to neoadjuvant chemotherapy in breast cancer patients. Precision Oncology 1(1):6, 2017. doi: 10.1038/s41698-017-0006-1. *corresponding author.
3. Imoto S, Yamauchi C, Komoike Y, Tsugawa K, Yotsumoto D, Wada N, Ueno T, Oba MS, Shien T, Sugae S, Tsuda H, Yoneyama K: Trends in axillary treatment for breast cancer patients undergoing sentinel lymph node biopsy as determined by a questionnaire from the Japanese Breast Cancer Society. Breast Cancer. 24(3):427-432, 2017.
4. Ueno T, Saji S, Masuda N, Kuroi K, Sato N, Takei H, Yamamoto Y, Ohno S, Yamashita H, Hisamatsu K, Aogi K, Iwata H, Yamanaka T, Sasano H, Toi M: Impact of clinical response to neoadjuvant endocrine therapy on patient outcome: a follow-up study of JFMC34-0601 multicentre prospective neoadjuvant endocrine trial. ESMO Open. 3(2):e000314, 2018. doi: 10.1136/esmoopen-2017-000314. eCollection 2018.
5. Ito T, Oura S, Nagamine S, Takahashi M, Yamamoto N, Yamamichi N, Earashi M, Doihara H, Imoto S, Mitsuyama S, Akazawa K: Radiofrequency Ablation of Breast Cancer: A Retrospective Study. Clin Breast Cancer. 2017. Doi: 10.1016/j.clbc.2017.09.007. (Epub).
6. 上野貴之: 癌の代謝と新規転移抑制. CLINICIAN 65: 69-75, 2018.

小児外科学教室

講演

1. 渡邊佳子, 浮山越史, 鮫島由友: 当科における多職種連携による便秘症患児に対する取り組み. 第54回日本小児外科学会学術集会, 仙台, 2017年5月12日.
2. 渡邊佳子, 浮山越史: ショックで発症した小児外科疾患の3例. 第31回日本小児救急医学会, 東京, 2017年6月25日.
3. 渡邊佳子, 浮山越史: 先天性結腸閉鎖症の2例. 第53回日本周産期・新生児医学会総会, 横浜, 2017年7月16日.
4. 宮弘子, 浮山越史, 渡邊佳子: 幼児期に発症した特発性胃破裂の1例. 第52回日本小児外科学会関東甲信越地方会, 土浦, 2017年10月14日.
5. 渡邊佳子, 浮山越史, 宮弘子: 腸瘻造設によりQOLが向上した慢性特発性偽性腸閉塞症の1例. 第33回日本小児外科学会秋季シンポジウム, 川崎, 2017年10月28日.
6. 渡邊佳子, 浮山越史, 宮弘子: 手術中のインシデントを契機にした“透明ドレープ”の導入について. 第27回日本小児外科QOL研究会, 静岡, 2017年11月4日.
7. 宮弘子, 浮山越史, 渡邊佳子: 当科で経験した胃破裂の検討. 第832回外科集談会, 東京, 2017年12月2日.

論文

1. 浮山越史, 渡邊佳子, 鮫島由友: 小腸吻合: 機能的端々吻合 口径差のある小腸小腸吻合. 臨床外科

72(4):453-456, 2017.

2. 渡邊佳子, 浮山越史: 新生児乳児消化管アレルギー 新生児・乳児術後発症症例. 小児外科 49(7):709-714, 2017.
3. 渡邊佳子, 浮山越史: 小児科ケースカンファレンス 栄養障害, 代謝疾患, 消化器疾患 腸重積症, Meckel憩室. 小児科診療 80(増刊): 64-67, 2017.
4. 浮山越史, 伊藤泰雄: 腸重積症の診療ガイドライン. 小児外科 49(8):765-768, 2017.
5. 浮山越史: 外傷による臓器損傷・全身打撲への対応. 健康教室 802(9):21-23, 2017.
6. 鮫島由友, 浮山越史, 渡邊佳子, 宮弘子: 先天性結腸閉鎖症を合併した中間位鎖肛の1例. 日本小児外科学会雑誌 54(1):103-107, 2018.

著書

1. 浮山越史(分担執筆): 腹痛. あなたも名医! 徴候から見抜け! 小児救急疾患 押さえておきたい各徴候の病態と対応スキル. 東京, 日本医事新報社, 2017. p.91-100.

救急医学教室

講演

1. 庄司高裕, 原田裕久, 関本康人, 松井淳一, 山口芳裕: 透析シャント造設困難例に対する浅大腿静脈表在化内シャント術(浅大腿静脈転位法)の検討. 第45回日本血管外科学会学術総会, 広島, 2017年4月20-21日.
2. 樽井武彦, 持田勇希, 落合剛二, 庄司高裕, 井上孝隆, 山口芳裕: これからの外傷外科医の修練はどうあるべきか? ~救命救急センターでの症例構造および手術内容の変化を踏まえて~. 第117回日本外科学会定期学術集会, 横浜, 2017年4月27-29日.
3. 持田勇希, 樽井武彦, 落合剛二, 庄司高裕, 井上孝隆, 山口芳裕: 救命センターから展開する新たな血管外科学. 第117回日本外科学会定期学術集会, 横浜, 2017年4月27-29日.
4. 海田賢彦, 吉川慧, 加藤聡一郎, 宮内洋, 樽井武彦, 山口芳裕: 熱傷治療の革新~幹細胞治療の可能性~. 第43回日本熱傷学会総会・学術集会, 東京, 2017年5月25-26日.
5. 吉川慧, 海田賢彦, 加藤聡一郎, 宮内洋, 樽井武彦, 山口芳裕: 自家培養表皮の適応を考える~当施設での使用経験と治療成績を踏まえて~. 第43回日本熱傷学会総会・学術集会, 東京, 2017年5月25-26日.
6. 海田賢彦: 重症熱傷治療にインテグラを使用する際のポイント. 第43回日本熱傷学会総会・学術集会, 東京, 2017年5月25-26日.
7. 山口芳裕: 救急診療における薬毒物分析の重要性と課題. 第39回日本中毒学会総会・学術集会, つくば, 2017年6月30日-7月1日.
8. 大畑徹也, 稲田成作, 加藤聡一郎, 山口芳裕, 市村正一: 高齢者寛骨臼骨折に対して一時的腸骨動脈パルーンカテーテルを留置し手術加療を行った治療経験. 第43回日本骨折治療学会, 郡山, 2017年7月7-8日.
9. 大畑徹也, 稲田成作, 加藤聡一郎, 樽井武彦, 山口芳裕, 市村正一: 高エネルギー外傷に伴う65歳以上の高齢者骨盤輪骨折における生命予後の検討. 第66回東日本整形災害外科学会, 東京, 2017年9月15-16日.
10. 山口芳裕: 東京オリンピック・パラリンピック準備をめぐる整形外科医への提言. 第66回東日本整形災害外科学会, 東京, 2017年9月15-16日.
11. 宮内洋, 森山潔, 正木忠彦, 山口芳裕: 全死亡例報告における死後検証の仕組みとフィードバック. 第45回日本

救急医学会総会・学術集会, 大阪, 2017年10月24-26日.

12. 樽井武彦, 宮国泰彦, 庄司高裕, 海田賢彦, 大畑徹也, 福島秀起, 宮内洋, 山口芳裕: 個々の症例の重症度や病態に対応できる敗血症ガイドラインが必要である. 第45回日本救急医学会総会・学術集会, 大阪, 2017年10月24-26日.
13. 海田賢彦, 切刀主税, 五十嵐昂, 持田勇希, 守永広征, 庄司高裕, 宮内洋, 樽井武彦, 山口芳裕: 高齢者施設の嘱託医や協力医療機関に責任ある対応を求める. 第45回日本救急医学会総会・学術集会, 大阪, 2017年10月24-26日.
14. 宮国泰彦, 樽井武彦, 海田賢彦, 福島秀起, 宮内洋, 山口芳裕: 超高齢心肺停止患者の3次救急搬送についての検討. 第45回日本救急医学会総会・学術集会, 大阪, 2017年10月24-26日.
15. 守永広征, 庄司高裕, 五十嵐昂, 持田勇希, 荻野聡之, 加藤聡一郎, 海田賢彦, 宮内洋, 樽井武彦, 山口芳裕: 7Frシース対応細径IABOカテーテルの有用性. 第45回日本救急医学会総会・学術集会, 大阪, 2017年10月24-26日.
16. 持田勇希, 樽井武彦, 山口芳裕: 大動脈救急を極める. 第45回日本救急医学会総会・学術集会, 大阪, 2017年10月24-26日.
17. 持田勇希, 樽井武彦, 五十嵐昂, 荻野聡之, 庄司高裕, 宮内洋, 山口芳裕: 救急医主導による破裂性腹部大動脈瘤の新治療戦略～救命センターにおけるEVARの確率～. 第45回日本救急医学会総会・学術集会, 大阪, 2017年10月24-26日.
18. 守永広征, 樽井武彦, 大津晃康, 清水裕介, 笹沢俊吉, 坂本学映, 切刀主税, 五十嵐昂, 持田勇希, 宮内洋, 庄司高裕, 海田賢彦, 宮内洋, 山口芳裕: 重症救急患者の診療における放射線科サブスペシャリティの有用性. 第68回日本救急医学会関東地方会, 東京, 2018年1月27日.
19. 山口芳裕: 救急活動のピットフォール(内因性). 第55回救急隊員学術研究会, 東京, 2018年1月28日.
20. 切刀主税, 持田勇希, 荻野聡之, 守永広征, 宮国泰彦, 庄司高裕, 海田賢彦, 宮内洋, 樽井武彦, 山口芳裕: 集中治療室で治療した敗血症患者の社会的予後についての検討. 第45回日本集中治療医学会学術集会, 千葉, 2018年2月21-23日.
21. 守永広征, 樽井武彦, 五十嵐昂, 持田勇希, 宮方基行, 庄司高裕, 松田岳人, 福島秀起, 宮内洋, 山口芳裕: 重症出血に対する比較的大なゼラチンスポンジ細片を用いた鋳型状TEAの成績. 第45回日本集中治療医学会学術集会, 千葉, 2018年2月21-23日.

論文

1. 加藤聡一郎, 大畑徹也, 山口芳裕, 星亨², 稲田成作¹, 市村正一¹ (杏林大・医・整形外科, ²東大和病院): AO/OTA分類type Cの大腿骨骨幹部骨折に対する治療成績と問題点. 骨折 39(2): 379-381, 2017.
2. 大畑徹也, 稲田成作¹, 市村正一¹, 加藤聡一郎, 樽井武彦, 山口芳裕 (杏林大・医・整形外科): 骨折を伴う外傷性コンパートメント症候群の治療成績. 骨折 39(2): 451-454, 2017.
3. Kato S, Ohata T, Miyauchi H, Tarui T, Yamaguchi Y: Adjunctive hyperbaric oxygen therapy in the treatment of necrotizing soft tissue infections of the extremities. 日臨高気圧酸素潜水医学会誌 1(14): 7-14, 2017.
4. 加藤聡一郎, 海田賢彦, 井上孝隆, 持田勇希, 宮内洋, 樽井武彦, 山口芳裕: 多数熱傷患者の分散搬送と医療機関連携. 熱傷 43(2): 71-77, 2017.
5. Tarui T, Yamaguchi Y, Suzuki K¹, Tsuruta R¹, Ikeda

H¹, Ogura H¹, Kushimoto S¹, Kotani J¹, Shiraishi J¹, Suzuki Y¹, Takuma K¹, Takeyama N¹, Fujishima S¹, Mayumi T¹, Miki Y¹, Yamashita N¹, Aikawa N¹, Gando S¹ (¹Japanese Association for Acute Medicine Sepsis Registry Study Group): Early evaluation of severity in patients with severe sepsis: a comparison with "septic shock"- subgroup analysis of the Japanese Association for Acute Medicine Sepsis Registry. Acute Med Surg 4: 426-431, 2017.

6. 持田勇希, 島村淳一¹, 櫻井茂¹, 尾崎健介¹, 大島晋¹, 藤川拓也¹, 関根裕司², 山本晋¹, 笹栗志朗¹ (川崎幸病院, ²奈良県総合医療センター): 大動脈ステントグラフト内挿術後のtype I エンドリークに伴う瘤径拡大に対しOpen surgeryを施行した1例. 日心臓血管外会誌 47(1): 26-30, 2018.

著書

1. 守永広征, 山口芳裕 (分担執筆): 緊急IVRとその介助. 救急医学 第41巻第8号. 東京, へるす出版, 2017. p.926-932.
2. 山口芳裕 (分担執筆): 災害医療の倫理的系譜. 救急医学 第41巻第9号. 東京, へるす出版, 2017. p.1035-1041.
3. 加藤聡一郎, 山口芳裕 (分担執筆): 過去の事例に学ぶ大規模スポーツイベントと救急・災害医療. 救急医学 第42巻第3号. 東京, へるす出版, 2018. p.331-227.
4. 海田賢彦, 山口芳裕 (分担執筆): IV. 外傷・熱傷の診断・治療 44. 熱傷患者の管理指針. 救急・集中治療最新ガイドライン2018-19. 岡元和文編著. 東京, 総合医学社, 2018. p.152-153.
5. 庄司高裕, 原田裕久 (分担執筆): バスキュラーアクセスの作製・再建手術. 抹消血管疾患診療マニュアル. 東谷迪昭, 尾原秀明, 金岡祐司, 水野篤編集. 東京, 南江堂, 2018. p.451-456.

その他

1. 山口芳裕: 「テロの備えに「止血帯」」取組み紹介, 読売新聞. 2017年8月8日.
2. 山口芳裕: 「爆発テロ想定した装備導入＝手足切断時の止血帯」コメント. JIJ.com, 2017年10月7日.
3. 山口芳裕: 「日馬富士関の暴行問題 頭蓋底骨折について」コメント. 産経新聞, 2017年11月16日.
4. 山口芳裕: 「テロ対策 新たな止血法を東京消防庁で指導」. NHK, テレビ朝日 各ニュース, 2017年11月17日.
5. 山口芳裕: 第5回日本放射線事故災害医学会主催, 三鷹, 2017年9月16日.

脳神経外科学教室

講演

1. 塩川芳昭: 脳血管外科から入る脳神経外科手術修練 脳卒中の外科の今後. 第5回Hybrid Neurosurgery研究会, 東京, 2017年4月1日.
2. 永根基雄, 山岸夢希, 小林啓一, 齊藤邦昭, 久米賢, 川井田善太郎, 佐々木重嘉, 塩川芳昭: 高齢者膠芽腫に対する放射線治療およびtemozolomide併用または単独療法との成績と予後因子解析. 第30回日本老年脳神経外科学会, 東京, 2017年4月21日.
3. 鳥居正剛, 長谷川浩, 谷合誠一, 森山久美, 笹森寛生, 豊田研隆, 平野照之, 塩川芳昭: 当施設の頸動脈狭窄症の治療成績及び治療決定因子としてのフレイルの捉え方. 第30回日本老年脳神経外科学会, 東京, 2017年4月21日.
4. 丸山啓介, 吉田裕毅, 佐藤研隆, 野口明男, 塩川芳昭: 微小外科解剖に基づく傍鞍部髄膜腫へのアプローチ選択. 第31回日本微小脳神経外科解剖研究会, 東京, 2017年4

月22日。

5. Maruyama K, Watanabe E, Saito K, Sato K, Yoshida H, Kume S, Noguchi A, Shiokawa Y, Nagane M : Novel augmented reality-based neuronavigation using smart glasses and clinical application to brain tumor surgery. 5th Quadrennial Meeting of the World Federation of Neuro-Oncology Societies, Switzerland, May 5th, 2017.
6. Nagane M, Kobayashi K, Saito K, Sasaki N, Kume S, Yamagishi Y, Shimizu S, Suzuki K, Shiokawa Y: Efficacy and prognostic factors of combined immunochemotherapy R-MPV-A with reduced or deferred radiotherapy for patients with primary CNS lymphoma. 5th Quadrennial Meeting of the World Federation of Neuro-Oncology Societies (WFNOS), Switzerland, May 6th, 2017.
7. Saito K, Kobayashi K: Prognostic significance of MGMT promoter and mismatch repair system in newly-diagnosed and recurrent malignant gliomas. 5th QUADRENNIAL World Federation of Neurosurgical Societies Meeting(WFNS), Switzerland, May 6th, 2017.
8. 齊藤邦昭, 鈴木香, 清水早紀, 小林啓一, 島田大輔, 川井田善太郎, 千葉知宏, 柴原純二, 塩川芳昭, 永根基雄: テモゾロミド治療前後の悪性神経膠腫分子機構の統合解析と再発のメカニズムの検討. 第35回日本脳腫瘍病理学会, 宇都宮, 2017年5月19日.
9. Nagane M, Kobayashi K, Saito K, Shimizu S, Suzuki K, Chiba T, Shibahara J, Shiokawa Y (Symposium in English): Controversy in Diagnosis and Treatment of Anaplastic Gliomas in the Era of WHO2016 Update. 第35回日本脳腫瘍病理学会, 宇都宮, 2017年5月19日.
10. 黒木愛, 小野塚大介, 萩原明人, 嘉田晃子, 西村邦宏, 井戸啓介, 西村中, 有村公一, 佐山徹郎, 有賀徹, 豊田一則, 吉村紳一, 宮地茂, 塩川芳昭, 小笠原邦昭, 飯原弘二: 本邦の急性期脳梗塞に対する治療の現状-J-ASPECT study. 第4回日本心臓血管脳卒中学会学術集会, 福岡, 2017年6月2日.
11. 有村公一, 黒木愛, 小野塚大介, 安斉俊久, 岡山悟志, 奥地一夫, 嘉田晃子, 北園孝成, 塩川芳昭, 中島直樹, 西村邦宏, 萩原明人, 東尚弘, 安田聡, 吉村紳一, 西村中, 佐山徹郎, 坂本哲也, 飯原弘二: 本邦の脳卒中救急医療体制の現状と課題. 第4回日本心臓血管脳卒中学会学術集会, 福岡, 2017年6月2日.
12. 島居正剛, 笹森寛生, 今井大也, 豊田研隆, 平野照之, 塩川芳昭: 医原性頸部動脈損傷に対する診断および修復方法の検討. 第4回日本心臓血管脳卒中学会学術集会, 福岡, 2017年6月2-3日.
13. 黒木亮太, 西村邦宏, 嘉田晃子, 神谷論, 小笠原邦昭, 塩川芳昭, 豊田一則, 中川原譲二, 宮地茂, 吉村紳一, 松田晋哉, 奥地一夫, 永田泉, 小野塚大介, 井戸啓介, 黒木愛, 西村中, 有村公一, 佐山徹郎, 飯原弘二: DOAC 関連脳出血奨励における臨床的特徴の検討-J-ASPECT Study. 第4回日本心臓血管脳卒中学会学術集会, 福岡, 2017年6月3日.
14. 中西郁, 天野達雄, 松本淑恵, 笹森寛生, 本田有子, 河野浩之, 鈴木理恵子, 海野佳子, 佐藤栄志, 平野照之, 塩川芳昭: 回収した栓子により診断が確定した感染性心内膜炎の1例. 第4回日本心臓血管脳卒中学会学術集会, 福岡, 2017年6月3日.
15. 横井秀格, 児玉悟, 丸山啓介, 塩川芳昭, 齋藤康一郎: 内視鏡下経翼口蓋窩アプローチにて摘出した蝶形骨洞内蝶形骨縁髄膜腫の一例. 第29回日本頭蓋底外科学会, 松本, 2017年6月15日.
16. 丸山啓介, 吉田裕毅, 佐藤研隆, 野口明男, 塩川芳昭: 傍鞍部髄膜腫の摘出に必要な頭蓋底手技. 第29回日本頭蓋底外科学会, 松本, 2017年6月16日.
17. 天野達雄, 中西郁, 河野浩之, 鈴木理恵子, 海野佳子, 笹森寛生, 島居正剛, 佐藤栄志, 塩川芳昭, 平野照之: 指圧が契機となった椎骨動脈解離に伴う脳底動脈閉塞に対し血栓回収療法を行った1例. 第14回NPO法人日本脳神経血管内治療学会関東地方会学術集会, 東京, 2017年6月17日.
18. 笹森寛生, 佐藤栄志, 松本淑恵, 塩川芳昭: 2回の血管内治療が無効であったため開頭術を行なった眼窩内動静脈瘻の一例. 第14回NPO法人日本脳神経血管内治療学会関東地方会学術集会, 東京, 2017年6月17日.
19. 塩川芳昭: 大学病院における脳卒中診療体制の再構築—再発防止のために—. 第18回広島臨床脳循環代謝研究会, 広島, 2017年6月29日.
20. 永根基雄: 悪性脳腫瘍の治療. エーザイMR実践研修会. 東京, 2017年7月18日.
21. 永根基雄: 本邦における神経膠腫治療の過去・現在と将来展望: Glioma treatment in Japan: past and future perspectives. Clinical trials for malignant glioma in Temozolomide Era, 東京, 2017年8月19日.
22. 島居正剛, 平野照之, 塩川芳昭: 当センターでの若年性脳卒中(50歳以下)の診断的特徴及び臨床的検討. 第36回The Mt.Fuji Workshop on CVD, 大阪, 2017年8月26日.
23. 齊藤邦昭: 神経膠腫の手術—maximal safe removalはどこまで可能か—. 第22回日本脳腫瘍の外科学会, 鹿児島, 2017年9月8日.
24. 仁科彩子, 岡島康友, 山田深, 平野照之, 塩川芳昭: 脳動脈解離の急性期リハビリテーション. 第67回日本リハビリテーション医学界関東地方会, 東京, 2017年9月30日.
25. 井戸啓介, 西村中, 西村邦宏, 嘉田晃子, 小笠原邦昭, 豊田一則, 中川原譲二, 塩川芳昭, 宮地茂, 吉村紳一, 永田泉, 黒木愛, 有村公一, 飯原弘二: 心疾患を合併した頸動脈狭窄症に対する外科治療-J-ASPECT study. 第76回日本脳神経外科学会学術集会, 名古屋, 2017年10月12日.
26. 佐藤栄志, 島田篤, 清本政, 松本淑恵, 笹森寛生, 畑中良, 河合拓也, 小西善史, 塩川芳昭: 破裂脳動脈瘤に対するステント支援下塞栓術. 第76回日本脳神経外科学会学術集会, 名古屋, 2017年10月12日.
27. 齊藤邦昭, 小林啓一, 清水早紀, 鈴木香, 島田大輔, 久米賢, 飯島昌平, 川井田善太郎, 野口明男, 塩川芳昭, 永根基雄: 分子分類に応じたグリオーマ摘出目標の検討. 第76回日本脳神経外科学会学術集会, 名古屋, 2017年10月12日.
28. 島居正剛, 長谷川浩, 谷合誠一, 森山久美, 平野照之, 塩川芳昭: 頸動脈狭窄症治療決定因子としてのフレイルの捉え方. 日本脳神経外科学会第76回学術集会, 名古屋, 2017年10月12-14日.
29. 中富浩文, 塩川芳昭, 森田明夫, 寺岡暉, 金太一, 庄島正明, 齊藤延人: 臨床病理所見とCFD解析に基づく巨大, 大型血栓化紡錘状脳底動脈瘤の治療戦略. 第76回日本脳神経外科学会学術集会, 名古屋, 2017年10月13日.
30. 小林啓一, 永根基雄, 齊藤邦昭, 佐々木重嘉, 島田大輔, 久米賢, 飯島昌平, 塩川芳昭: 高齢者(71歳以上)中枢神経系原発悪性リンパ腫に対する大量methotrexate基盤初期治療の成績と展望. 第76回日本脳神経外科学会学術集会, 名古屋, 2017年10月13日.
31. 野口明男, 塩川芳昭, 丸山啓介, 佐藤栄志, 栗田浩樹: 複雑化した脳動静脈奇形の外科治療. 第76回日本脳神経外科学会学術集会, 名古屋, 2017年10月14日.

32. 島田大輔, 小林啓一, 齊藤邦昭, 久米賢, 川井田善太郎, 山岸夢希, 飯島昌平, 野口明男, 塩川芳昭, 永根基雄: 悪性脳腫瘍周術期のD-dimerと静脈血栓症の検討. 第76回日本脳神経外科学会学術集会, 名古屋, 2017年10月14日.
33. 有村公一, 黒木愛, 安齊俊久, 奥地一夫, 嘉田晃子, 北園孝成, 塩川芳昭, 中島直樹, 西村邦宏, 萩原明人, 東尚弘, 安田聡, 吉村紳一, 西村中, 坂本哲也, 飯原弘二: 本邦の脳卒中病院前救護の現状と課題: 全国消防本部へのアンケート調査より. 第76回日本脳神経外科学会学術集会, 名古屋, 2017年10月14日.
34. 笹森寛生, 熊切敦, 丸山啓介, 塩川芳昭: 術後短期間で増大をきたし再手術を必要とした高齢者髄膜腫の2症例. 第76回日本脳神経外科学会学術集会, 名古屋, 2017年10月14日.
35. 永根基雄, 山岸夢希, 小林啓一, 齊藤邦昭, 島田大輔, 久米賢, 飯島昌平, 佐々木重嘉, 塩川芳昭: MGMTメチル化のある初発高齢者膠芽腫における減量照射・temozolomide併用療法の単独療法に対する生存延長効果. 日本脳神経外科学会第76回学術集会, 名古屋, 2017年10月14日.
36. Torii M, Hasegawa H, Tani S, Moriyama K, Hirano H, Shiokawa Y: How to capture flail as carotid artery stenosis treatment (CEA) decision factor. The 8th Korean Japan joint Stroke conference, Niigata, October 20th, 2017.
37. 永根基雄: 中枢神経系悪性腫瘍. 第55回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2017年10月22日.
38. 小林啓一, 山岸夢希, 齊藤邦昭, 久米賢, 飯島昌平, 川井田善太郎, 佐々木重嘉, 塩川芳昭, 永根基雄: 高齢者膠芽腫の放射線治療およびテモゾロミド併用または単独療法の成績と予後因子解析. 第55回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2017年10月20-22日.
39. Nagane M, Kobayashi K, Saito K, Shimizu S, Suzuki K, Chiba T, Shibahara J, Shiokawa Y: Challenges in WHO2016 update-based diagnosis and treatment of anaplastic gliomas. The 14th Meeting of the Asian Society for Neuro-Oncology, Osaka, October 28th, 2017.
40. 丸山啓介, 吉田裕毅, 島田大輔, 野口明男, 永根基雄, 塩川芳昭: 脳室内腫瘍における神経内視鏡手術の役割. 第24回日本神経内視鏡学会, 東京, 2017年11月9日.
41. 笹森寛生: 血管内治療, 直達術が奏効しなかった眼窩内動静脈瘤の一例. 第56回多摩脳神経外科懇話会, 多摩, 2017年11月12日.
42. Saito K: Temozolomide-induced mismatch repair insufficiency and hypermethylation of MGMT promoter with hypermutation in malignant gliomas. 22nd Annual Meeting of the Society for Neuro-Oncology, USA, November 18th, 2017.
43. Nagane M, Yamagishi Y, Kobayashi K, Saito K, Shimada D, Kume K, Iijima S, Sasaki N, Shiokawa Y: Combined treatment with hypofractionated radiotherapy and temozolomide benefits over single treatment in elderly patients with methylated but not unmethylated MGMT glioblastoma. 22nd Annual Meeting of the Society for Neuro-Oncology, USA, November 18th, 2017.
44. 佐藤栄志, 島田篤, 清本政, 松本淑恵, 笹森寛生, 伊藤宣行, 前村栄治, 畑中良, 河合拓也, 塩川芳昭: ステンント支援下コイル塞栓術におけるED Complex coilの有用性. 第33回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 東京, 2017年11月23-25日.
45. 佐藤栄志, 島田篤, 清本政, 松本淑恵, 笹森寛生, 畑中良, 河合拓也, 小西善史, 塩川芳昭: 破裂脳動脈瘤に対するステント支援下塞栓術. 第33回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 東京, 2017年11月23-25日.
46. 笹森寛生: アプローチが困難なため血管内治療が未遂に終わった眼窩内動静脈瘤の1例. 第33回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 東京, 2017年11月23-25日.
47. 齊藤邦昭, 清水早紀, 鈴木香, 小林啓一, 島田大輔, 飯島昌平, 山田健, 千葉知宏, 柴原純二, 塩川芳昭, 永根基雄: テモゾロミド治療後の悪性神経膠腫における変異蓄積とMGMTメチル化の変化. 第35回日本脳腫瘍学会学術集会, 高松, 2017年11月26日.
48. 小林啓一, 永根基雄, 齊藤邦昭, 佐々木重嘉, 島田大輔, 久米賢, 飯島昌平, 山岸夢希, 塩川芳昭: 高齢者中枢神経系原発悪性リンパ腫に対する大量MTX基盤初期治療の成績と展望. 第35回日本脳腫瘍学会学術集会, 高松, 2017年11月26日.
49. 永根基雄, 山岸夢希, 小林啓一, 齊藤邦昭, 島田大輔, 久米賢, 飯島昌平, 佐々木重嘉, 清水早紀, 塩川芳昭: 高齢者初発膠芽腫における減量照射+テモゾロミド併用療法と単独療法の治療効果比較. 第35回日本脳腫瘍学会学術集会, 高松, 2017年11月27日.
50. 永根基雄, 西川亮, 清水綾香, 田村崇, 浦雅子: 日本人における悪性神経膠腫に対するベパシズマブ使用成績調査. 第35回日本脳腫瘍学会学術集会, 高松, 2017年11月27日.
51. 島田大輔, 小林啓一, 齊藤邦昭, 山田健, 飯島昌平, 久米賢, 谷口真, 塩川芳昭, 永根基雄: 神経膠腫患者における難治性てんかんがペランパネルで著効した一例. 第35回日本脳腫瘍学会, 高松, 2017年11月27日.
52. 塩川芳昭: 脳血管疾患について 杏林大学病院の地域連携のご紹介. 医療法人社団大和会多摩川病院第2回地域連携交流会, 多摩, 2017年12月4日.
53. 塩川芳昭: 脳卒中の救急 虚血と出血. 神経疾患に親しみ強くなる会 (SST) 第10回教育セミナー 神経救急の臨床vol.3~二次救急, 急性期を中心に, 東京, 2017年12月23日.
54. 島田大輔, 堀川弘吏, 横矢重臣, 堀川弘吏, 横矢重臣, 野口明男, 塩川芳昭, 野口明男, 塩川芳昭: 自動釘打ち機 (nail gun) で頭頂部から貫通された穿通性頭部外傷の2例. 脳神経外科救急学会, 奈良, 2018年2月2日.
55. 堀川弘吏, 丸山啓介, 渡辺英寿, 金太一, 齊藤邦昭, 笹森寛生, 野口明男, 永根基雄, 塩川芳昭: Augmented realityを応用したスマートグラスによる手術ナビゲーション. 第41回日本CI学会, 新潟, 2018年3月2-3日.

論文

1. 中島昌典, 岡野晴子, 傳法倫久, 平野照之, 千葉厚郎, 遠藤英仁, 窪田博, 磯村杏耶, 下山田博明, 大蔵康男, 塩川芳昭: 大動脈原性脳塞栓症を発症し, 上行大動脈置換術を施行した80歳男性例. 脳卒中 39(2):129-133, 2017.
2. 塩川芳昭: 無症候性脳血管病変. 日本医師会雑誌 146(特別1): S247-249, 2017.
3. 塩川芳昭: 第46回日本脳卒中の外科学会学術集会印象記. 脳卒中の外科 45:312-313, 2017.
4. Kurogi R, Kada A, Nishimura K, Kamitani S, Nishimura A, Sayama T, Nakagawara J, Toyoda K, Ogasawara K, Ono J, Shiokawa Y, Aruga T, Miyachi S, Nagata I, Matsuda S, Yoshimura S, Okuchi K, Suzuki A, Nakamura F, Onozuka D, Hagihara A, Iihara K: J-ASPECT Study Collaborators: Effect of treatment modality on in-hospital outcome in patients with subarachnoid hemorrhage: a nationwide study in Japan (J-ASPECT Study). J

Neurosurg 2017. doi: 10.3171/2016.12.JNS161039.

5. 塩川芳昭:画像検査と未破裂脳動脈瘤03 脳ドックに関わる最近の文献情報. 日本脳ドック学会報 5: 63-64, 2017.
 6. 塩川芳昭: 脳神経外科ホットラインの運用について: 自施設での経年的比較から. 脳神経外科ジャーナル 27(2):130, 2017.
 7. Nakamura T, Yamashita S, Fukumura K, Tanaka K, Tamura K, Tateishi K, Kinoshita M, Fukushima S, Takami H, Fukuoka K, Yamazaki K, Matsushita Y, Ohno M, Miyakita Y, Shibui S, Kubo A, Shuto T, Kocialkowski S, Yamanaka S, Mukasa A, Sasayama T, Mishima K, Maehara T, Kawahara N, Nagane M, Narita Y, Mano H, Ushijima T, Ichimura K: Genome-wide DNA methylation profiles identifies primary central nervous system lymphomas as a distinct entity from systemic diffuse large B-cell lymphomas. *Acta Neuropathol* 133(2):321-324, 2017. doi: 10.1007/s00401-016-1664-8. (Epub).
 8. Fukushima S, Yamashita S, Kobayashi H, Takami H, Fukuoka K, Nakamura T, Yamasaki K, Matsushita Y, Nakamura H, Totoki Y, Kato M, Suzuki T, Mishima K, Yanagisawa T, Mukasa A, Saito N, Kanamori M, Kumabe T, Tominaga T, Nagane M, Iuchi T, Yoshimoto K, Mizoguchi M, Tamura K, Sakai K, Sugiyama K, Nakada M, Yokogami K, Takeshima H, Kanemura Y, Matsuda M, Matsumura A, Kurozumi K, Ueki K, Nonaka M, Asai A, Kawahara N, Hirose Y, Takayama T, Nakazato Y, Narita Y, Shibata T, Matsutani M, Ushijima T, Nishikawa R, Ichimura K: On behalf of The Intracranial Germ Cell Tumor Genome Analysis Consortium (The iGCTConsortium): Genome-wide methylation profiles in primary intracranial germ cell tumors indicate a primordial germ cell origin for germinomas. *Acta Neuropathol* 133(3): 445-462, 2017. DOI 10.1007/s00401-017-1673-2.
 9. Aihara K, Mukasa A, Nagae G, Nomura M, Yamamoto S, Ueda H, Tatsuno K, Shibahara J, Takahashi M, Momose T, Tanaka S, Takayanagi S, Yanagisawa S, Nejo T, Takahashi S, Omata M, Otani R, Saito K, Narita Y, Nagane M, Nishikawa R, Ueki K, Abratani H, Saito N: Genetic and epigenetic stability of oligodendrogliomas at recurrence. *Acta Neuropathol Comm* 5: 18, 2017. DOI 10.1186/s40478-017-0422-z.
 10. Wang W, Zhang H, Liu S, Kim CK, Xu Y, Hurley LA, Nishikawa R, Nagane M, Hu B, Stegh AH, Cheng SY, Cheng C: Internalized CD44s splice isoform attenuates EGFR degradation by targeting Rab7A. *Proc Natl Acad Sci* 114(31):8366-8371, 2017.
 11. Nomura M, Mukasa A, Nagae G, Yamamoto S, Tatsuno K, Ueda H, Fukuda S, Umeda T, Suzuki T, Otani R, Kobayashi K, Maruyama T, Tanaka S, Takayanagi S, Nejo T, Takahashi S, Ichimura K, Nakamura T, Muragaki Y, Narita Y, Nagane M, Ueki K, Nishikawa R, Shibahara J, Aburatani H, Saito N: Distinct molecular profile of diffuse cerebellar gliomas. *Acta Neuropathol* 134: 941-956, 2017. DOI 10.1007/s00401-017-1771-1.
 12. 永根基雄: 中枢神経系悪性腫瘍. 日本癌治療学会会誌 (J Japan Soc Clin Oncol) 52 (1): 181-183, 2017.
 13. 丸山啓介: 各種地図アプリの使い分け 日常診療に役立つIT. 脳神経外科速報 27(1):91-94, 2017.
 14. 丸山啓介: 理解しやすいプレゼンテーションの作り方 日常診療に役立つIT. 脳神経外科速報 27(3):305-309, 2017.
 15. 丸山啓介: DICOMファイルを操作しよう 日常診療に役立つIT. 脳神経外科速報 27(5):515-519, 2017.
 16. 丸山啓介: 術前3次元シミュレーション画像を作ろう 日常診療に役立つIT. 脳神経外科速報 27(7):755-758, 2017.
 17. 丸山啓介: ipadによる手術趣味レーション 日常診療に役立つIT. 脳神経外科速報 27(9):945-948, 2017.
 18. 丸山啓介: 3Dプリンタで出力するデータを作ろう 日常診療に役立つIT. 脳神経外科速報 27(11):1177-1181, 2017.
 19. Saito K, Suzuki K, Shimizu S, Kobayashi K, Shimada D, Kume S, Iijima I, Chiba T, Shibahara J, Shiokawa Y, Nagane M: GENE-61. TEMOZOLOMIDE-INDUCED MISMATCH REPAIR INSUFFICIENCY AND HYPERMETHYLATION OF MGMT PROMOTER WITH HYPERMUTATION IN MALIGNANT GLIOMAS. *Neuro-Oncology*, 19(suppl_6): vi106 2017. doi.org/10.1093/neuonc/nox168.433.
 20. 吉田裕毅, 塩川芳昭: 脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血の最新治療. *CURRENT THERAPY* 35(12): 73-78, 2017.
 21. Yoshida H, Higashihara E, Maruyama K, Nutahara K, Nitatori T, Miyazaki I, Shiokawa Y: Relationship between intracranial aneurysms and the severity of autosomal dominant polycystic kidney disease. *Acta Neurochir (Wien)*. 159(12):2325-2330, 2017. doi: 10.1007/s00701-017-3316-8.
 22. 島田大輔, 永根基雄: 脳転移の治療. 日本臨牀 75(増刊9): 81-87, 2017.
 23. 島田大輔, 永根基雄: 脳腫瘍 (Brain tumor) . 日本臨牀 75(増刊9): 283-288, 2017.
 24. Maruyama K, Watanabe E, Kin T, Saito K, Kumakiri A, Noguchi A, Nagane M, Shiokawa Y: Smart glasses for neurosurgical navigation by augmented reality. *Oper Neurosurg (Hagerstown)*. 2018. doi: 10.1093/ons/oxp279.
 25. 鳥居正剛, 重昌裕也, 松岡秀樹, 青木孝親, 森岡基浩: 網膜動脈分枝閉塞症を契機に発見された中等度頸動脈狭窄症—微妙な眼虚血所見は症候性としてよいのか? NASCET<50%でCEAを勧めるか?. 脳神経外科速報 28(1): 66-71, 2018.
- 著書**
1. 永根基雄: ニムスチン, カルムスチン, カルムスチン, テモゾロミド, プロカルバジン. プロフェッショナルがんナースング2017別冊 これだけは押さえておきたいがん化学療法の薬. 古瀬純司編著. 大阪, メディカ出版, 2017.p.142-151.
 2. 野口明男: Modified Dolenc approach. カダバーと動画で学ぶ 頭蓋底アプローチ. 東京, 中外医学社, 2017.p.102-106.
 3. 丸山啓介: 手術ビデオ編集のポイント. 脳血管外科 手術器具&機器—必ず知っておきたい. 菱川朋人編集. 大阪, メディカ出版, 2017. pp.30-39.
 4. 塩川芳昭: 脳卒中 (脳出血・脳梗塞・クモ膜下出血・もやもや病). year note TOPICS 2018-2019 内科・外科編. 東京, メディックメディア, 2018. p.J1-J9.
- その他**
1. 内山真一郎, 阿部康二, 松本昌泰, 鈴木倫保, 北川一夫, 塩川芳昭: 座談会 脳卒中研究・臨床におけるトピックス2017. 分子脳血管病vol.16 No.1:1-7, 先端医学社, 2017.
 2. 塩川芳昭: 第1回杏林大学医学部付属病院医療連携フ

ーラム. 杏林大学医学部同窓会誌 第80号: 33, 杏林大学医学部同窓会事務局, 2017.

3. 塩川芳昭: 第2回杏林大学医学部付属病院医療連携フォーラム開催. あんずねっとNo.432: 8, 平成29年10,11月合併号.
4. 鈴木則宏, 荒木信夫, 宇川義一, 桑原聡, 塩川芳昭編集: *Neurology 2018 Annual Review* 神経 2018, 中外医学社, 東京, 2017.
5. 鳥居正剛: チョイス@病気になったとき「気になる脳の病気 もやもや病&無症候性脳梗塞」, NHK, 2017年11月11日.

心臓血管外科学教室

講演

1. Funata S, Nunokawa M, Hosoi Y, Ikezoe T, Nishino Y, Kubota H: Rare involvement of von Recklinghausen disease to arterial structure causing pseudoaneurysm of the brachial artery and surrounding nerve paralysis. The 10th Korea-Japan Joint Meeting for Vascular Surgery, Korea, April 15th, 2017.
2. 池添亨, 布川雅雄, 市川洋平, 笹嶋寛史, 藤巻圭介, 船田敏子, 西野純史, 芳賀真, 細井温, 窪田博: 炎症性腹部大動脈瘤に対する外科治療の検討. 第45回日本血管外科学会学術総会, 広島, 2017年4月20日.
3. 細井温, 布川雅雄, 芳賀真, 池添亨, 西野純史, 船田敏子, 藤巻圭介, 窪田博: 深部静脈血栓症を有する症例の周術期管理に関する検討. 第45回日本血管外科学会学術総会, 広島, 2017年4月21日.
4. 遠藤英仁, 石井光, 土屋博司, 稲葉雄亮, 大浦紀彦, 窪田博: MRSA人工血管感染・縦隔炎に対し, ウシ心膜ロールグラフトも用いた再置換術および筋皮弁術を施行した1例. 第25回日本大動脈外科学会, 横浜, 2017年4月28日.
5. 稲葉雄亮, 遠藤英仁, 石井光, 土屋博司, 窪田博: 上行置換術後遺残解離大動脈瘤・再解離に対し Hybrid TEVAR を施行した1例. 第174回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 新潟, 2017年6月3日.
6. 西野純史, 布川雅雄, 細井温, 芳賀真, 池添亨, 船田敏子, 藤巻圭介, 窪田博: 悪性腫瘍に関連する深部静脈血栓症症例の検討. 第37回日本静脈学会総会, 徳島, 2017年6月15日.
7. 船田敏子, 布川雅雄, 細井温, 芳賀真, 池添亨, 西野純史, 窪田博: 妊娠中に発症した深部静脈血栓症症例に関する臨床的検討. 第37回日本静脈学会総会, 徳島, 2017年6月16日.
8. Haga M, Hosoi Y, Funata S, Nishino Y, Ikezoe T, Nunokawa M, Kubota H: Anticoagulation Reduces the risk of Thrombus Recurrence and is associated with resolution in isolated calf deep vein Thrombosis. European Society for Vascular Surgery 31th, France, September 22nd, 2017.
9. 稲葉雄亮, 遠藤英仁, 寺川勝也, 土屋博司, 石井光, 窪田博: Xenopericardial roll graftを用いた感染性胸部大動脈瘤および人工血管感染の10例における手術成績. 第70回胸部外科学会定期学術集会, 札幌, 2017年9月27日.
10. 窪田博, 遠藤英仁, 石井光, 土屋博司, 稲葉雄亮, 寺川勝也, 高橋雄, 新野哲也: 人工血管感染に対する分枝付きウシ心膜ロールグラフトによる全弓部置換術. 第70回胸部外科学会定期学術集会, 札幌, 2017年9月28日.
11. 土屋博司, 遠藤英仁, 石井光, 稲葉雄亮, 寺川勝也, 窪田博, 太田信, 清水一夫, 于凱鴻: 感温インク寒天ゲルを用いた心筋焼灼モデルの開発. 第70回胸部外科学会定期学術集会, 札幌, 2017年9月28日.
12. 遠藤英仁, 石井光, 土屋博司, 稲葉雄亮, 寺川勝也, 窪田博: 大動脈病理分類によるA型急性大動脈解離の手術および遠隔期成績の検討. 第70回胸部外科学会定期学術集会, 札幌, 2017年9月29日.
13. 石井光, 遠藤英仁, 土屋博司, 稲葉雄亮, 寺川勝也, 窪田博: 急性大動脈解離に対するFrozen Elephant Trunk法を用いた弓部置換手術における, 至適グラフトサイズ選択の検討. 第70回胸部外科学会定期学術集会, 札幌, 2017年9月29日.
14. Ishii H, Endo H, Tsuchiya H, Inaba Y, Terakawa K, Kubota H: Successful repair of acute aortic Dissection complicated with abdominal malperfusion using the frozen elephant trunk technique. EACTS 31th, Austria, October 11th, 2017.
15. 池添亨, 細井温, 布川雅雄, 芳賀真, 西野純史, 船田敏子, 窪田博: 内科疾患で入院中の患者における深部静脈血栓症の特徴. 第58回日本脈管学会総会, 名古屋, 2017年10月20日.
16. Tsuchiya H, Endo H, Ishii H, Inaba Y, Terakawa K, Kubota H: Creating A Conduction Block On Beating Atrial Free Wall Epicardially Using An Infrared Coagulator. The 15th edition of Venice Arrhythmias, Italy, October 25th, 2017.
17. 寺川勝也, 窪田博, 宮本隆司: 開心術において手術終了時にECMOを要した症例の検討. 第46回杏林医学会総会, 三鷹, 2017年11月18日.
18. Kubota H: Infrared Coagulator "Kyo-co" to Treat Arrhythmia, Infectious Endocarditis, and Cardiac Tumor. ICI meeting, Technology parade/Device, Israel, December 3rd-5th, 2017.
19. 土屋博司, 遠藤英仁, 石井光, 稲葉雄亮, 寺川勝也, 窪田博: 生食豚と感温インク寒天ゲルを用いた効率的な心筋焼灼条件の検討. 第38回多摩不整脈研究会, 東京, 2018年1月20日.
20. 寺川勝也, 遠藤英仁, 石井光, 土屋博司, 稲葉雄亮, 大浦紀彦, 窪田博: 術後人工血管感染に対し異種心膜ロールグラフトを用いて全弓部再置換を行った1例. 第32回心臓血管外科ウィンターセミナー学術集会, 八幡平, 2018年1月25日.
21. 稲葉雄亮, 遠藤英仁, 石井光, 土屋博司, 寺川勝也, 窪田博: オープンステントグラフトを用いた全弓部置換術後の人工血管感染に対しオープンステントグラフト抜去を伴う再置換を施行した2症例. 第15回多摩心臓外科学会, 東京, 2018年2月10日.
22. 寺川勝也, 遠藤英仁, 石井光, 土屋博司, 稲葉雄亮, 大浦紀彦, 窪田博: 人工心肺シミュレータECCSIMを用いた技術参加型Off-jobトレーニングの工夫. 第48回日本心臓血管外科学会学術総会, 津, 2018年2月19日.
23. 遠藤英仁, 石井光, 土屋博司, 稲葉雄亮, 寺川勝也, 窪田博: 間歇的圧増強逆行性脳灌流法(IPA-RCP)による循環停止時間の安全域の検討. 第48回日本心臓血管外科学会学術総会, 津, 2018年2月20日.
24. 稲葉雄亮, 遠藤英仁, 石井光, 土屋博司, 寺川勝也, 窪田博: 胸部大動脈人工血管感染に対する手術および中期成績の検討. 第48回日本心臓血管外科学会学術総会, 津, 2018年2月20日.
25. 土屋博司, 遠藤英仁, 石井光, 稲葉雄亮, 寺川勝也, 窪田博: 生食豚と感温インク寒天ゲルを用いた効率的な心筋焼灼条件の検討. 第48回日本心臓血管外科学会学術総会, 津, 2018年2月21日.

論文

1. Haga M, Yamamoto S, Okamoto H, Hoshina K,

Asakura T, Watanabe T: Histological Reactions and the In Vivo Patency Rates of Small Silk Vascular Grafts in a Canine Model. *Annals of Vascular Diseases* 10(2): 132-138, 2017.

2. Nemoto Y, Hosoi Y, Hoshina K, Nunokawa M, Kubota H, Watanabe T: In Situ Reconstruction with Extended Debridement in Patients with Mycotic Abdominal Aortic Aneurysms. *Annals of Vascular Diseases*. 2017. doi: 10.3400/avd.hdi.17-00001.
3. Ishii H, Endo H, Kubota H: Brain infarction associate with a mobile thrombus in the aortic arch at the previous site of the ductus arteriosus. *J Thorac Cardiovasc Surg*. 154(1):e1-e3, 2017. doi: 10.1016/j.jtcvs.2017.01.007.
4. Ishii H, Endo H, Tsuchiya H, Kubota H: Enhanced hemostasis with a sealant consisting of Hydrofit and Surgicel. *J Card Surg*. 32(9):576-578, 2017. doi: 10.1111/jocs.13202.
5. Kubota H, Endo H, Ishii H, Tsuchiya H, Takahashi Yu, Inaba Y, Noma M, Yoshimoto A, Higuchi S, Kohshoh H, Taniai S, Ishiguro H, Yoshino H, Sudo K: Patency of Saphenous Vein Grafts Using the PAS-Port System During Coronary Artery Bypass Surgery. *104(2): 560-567*, 2017.
6. 船田敏子, 内田徹郎, 浜崎安純, 山下淳, 林潤, 高橋愛, 貞弘光章: 血管外科処置後の鼠径部創治癒不全に対する縫筋弁充填の経験. *日本心臓血管外科学会雑誌* 46(6): 330-333, 2017.
7. Tsuchiya H, Endo H, Ishii H, Inaba Y, Terakawa K, Kubota H: Creating A Conduction Block On Beating Atrial Free Wall Epicardially Using An Infrared Coagulator. *The American College of Cardiology*. 3(10,Suppl): S24, 2017.
8. Ishii H, Aomi S, Tomioka H, Umeda E, Higashi R, Yamazaki K: Root aneurysm following aortic valve replacement 20 years after an arterial switch operation. *Send to J Card Surg*. 32(11):721-723, 2017. doi: 10.1111/jocs.13226.

著書

1. 窪田博: 杏林医学会 第24回例会 開催報告. 杏林医学会雑誌 Vol.48 (2017) No.1. 三鷹, 杏林医学会, 2017. p.111.
2. 窪田博: 編集後記. 心臓 SHINZO Vol.49 No.11. 2017.

その他

1. 布川雅雄: 座長. Poster presentation I. The 10th Korea-Japan Joint Meeting for Vascular Surgery, Korea, April 15th, 2017.
2. 船田敏子: ポスターアワード. Rare involvement of von Recklinghausen disease to arterial structure causing pseudoaneurysm of the brachial artery and surrounding nerve paralysis. The 10th Korea-Japan Joint Meeting for Vascular Surgery, Korea, April 15th, 2017.
3. 布川雅雄: 座長. 会長要望演題4 急性動脈塞栓に対する治療. 第45回日本血管外科学会学術総会, 広島, 2017年4月20日.
4. 細井温: 座長. 会長要望演題11IFU適応外EVERの中期成績. 第45回日本血管外科学会学術総会, 広島, 2017年4月21日.
5. 布川雅雄: 座長. 一般演題 (ポスター) ブラッドアクセス-2. 第37回日本静脈学会総会, 徳島, 2017年6月15日.
6. 細井温: 座長. 一般演題 (ポスター) VTE-2. 第37回日本静脈学会総会, 徳島, 2017年6月16日.

7. 窪田博: 座長. ポスター (大血管 17). 第70回胸部外科学会定期学術集会, 札幌, 2017年9月29日.
8. 布川雅雄: 座長. ポスター発表 後半. 末梢動脈瘤 P-4 1~10. 第58回日本脈管学会総会, 名古屋, 2017年10月19日.
9. 石井光: 座長. 心臓: 大血管④. 第175回胸部外科学会地方会, 東京, 2017年11月11日.
10. 吉田瑛建: トラベルアワード. 乳癌治療薬トラスツズマブ投与中にmobile LV thrombusを伴う心不全を呈した1例. 第46回杏林医学会総会, 三鷹, 2017年11月18日.
11. 石井光: 座長. 一般演題 Session1. 第15回多摩心臓外科学会, 東京, 2018年2月10日.
12. 窪田博: 座長. ポスターセッション 66 大血管. 第48回日本心臓血管外科学会学術総会, 津, 2018年2月21日.
13. Kubota H, Endo H, Ishii H: Reply: *Ann Thorac Surg*. 105(1):334-335, 2018.

整形外科教室

講演 講演

1. 市村正一: 骨粗鬆症性椎体骨折の治療—椎体形成術 (BKP) を中心に—. 第24回整形外科アップデートセミナー, 東京, 2017年4月22日.
2. 市村正一: 骨粗鬆症治療におけるテリパラチドの有用性. 臨床脊椎フォーラム in TAMA, 多摩, 2017年5月27日.
3. 佐藤行紀: 膝の痛みとそれに対する治療について—変形性膝関節症を中心に—. 福生ペインフォーラム, 福生, 2017年6月27日.
4. 市村正一: 骨粗鬆症領域における骨形成促進剤の有用性. 山形整形外科研究会骨代謝医セミナー (第75回山形整形外科セミナー), 山形, 2017年7月5日.
5. 市村正一: 高齢者のロコモティブシンドローム (ロコモ). 福島矢吹町と三鷹市老人会の交流会, 矢吹町, 2017年7月8日.
6. 佐藤行紀: 膝の痛みとそれに対する治療について—変形性膝関節症を中心に—. 東大和慢性疼痛セミナー, 東大和, 2017年7月28日.
7. 市村正一: 骨粗鬆症治療薬の特徴と適応. 第26回近整会夏季研究会, 堺, 2017年8月26日.
8. 佐藤行紀: 膝の痛みとそれに対する治療について—変形性膝関節症を中心に—. OA疼痛治療を考える会, 札幌, 2017年9月29日.
9. 佐藤行紀: 膝の痛みとそれに対する治療について—変形性膝関節症を中心に—. Joint Pain Seminar, 札幌, 2017年9月30日.
10. 佐藤行紀: 膝の痛みとそれに対する治療について—変形性膝関節症を中心に—. 道南変形性関節症セミナー, 函館, 2017年10月7日.
11. 大畑徹也: 当院の高齢者大腿骨近位部骨折の現状と展望. 第1回多職種連携アプローチセミナー in 杏林大学, 三鷹, 2017年11月4日.
12. 市村正一: 骨粗鬆症関連疾患におけるテリパラチドの活用法. 第4回PTH研究会, 福岡, 2017年11月22日.
13. 市村正一: 医療安全を踏まえた骨粗鬆症診療—脆弱性骨折予防の重要性—. 新潟県臨床整形外科研究会, 新潟, 2017年11月30日.
14. 市村正一: 医療倫理を考えた骨粗鬆症診療. 函館骨粗鬆症研究会学術講演会, 函館, 2018年2月16日.
15. 大畑徹也: 大学病院における高齢者大腿骨近位部骨折の多診療科・多職種連携治療の必要性和試み. 第31回多摩

整形外科連携医療研究会, 三鷹, 2018年3月8日。

16. 市村正一: 骨粗鬆症—整形外科から—。第433回国際治療談話会例会, 東京, 2018年3月15日。

口演

1. 佐野秀仁, 長谷川雅一, 高橋雅人, 長谷川淳, 佐藤俊輔, 市村正一: 骨粗鬆症性椎体骨折後癒合不全例と椎体後壁膨隆typeに対するBKPの成績〜BKPの新たな試み〜。第46回日本脊椎脊髄病学会, 札幌, 2017年4月13-15日。
2. 佐野秀仁, 高橋雅人, 里見和彦, 長谷川淳, 佐藤俊輔, 長谷川雅一, 太田道紀, 市村正一: 頸椎症性筋萎縮症(CSA)の術中脊髄モニタリングによる麻痺回復予測。第46回日本脊椎脊髄病学会, 札幌, 2017年4月13-15日。
3. 佐藤俊輔, 高橋雅人, 里見和彦, 長谷川淳, 竹内拓海, 大祢英昭, 長谷川雅一, 市村正一: 転移性頸椎腫瘍モデルの作成と頸髄麻痺の検証—行動学的評価と3D μ X線CTによる腫瘍進展様式—。第46回日本脊椎脊髄病学会, 札幌, 2017年4月13-15日。
4. Morii T, Yoshiyama A, Susa M, Morioka H, Kobayashi E, Asano N, Mori T, Anazawa U, Watanabe I, Takeuchi K, Kushima Y, Aoyagi T, Ichimura S: Preoperative evaluation of renal cell carcinoma patients with bone metastases on risks for blood loss, performance status and lethal event. The 19th International Society of Limb Salvage General Meeting, Kanazawa, May 12th, 2017.
5. 森井健司, 岸野智則, 寫森直子, 本橋美津江, 本谷啓太, 青柳貴之, 田島崇, 大西宏明, 市村正一: 超音波検査による軟部肉腫悪性度判定の試み。第90回日本整形外科学会学術総会, 仙台, 2017年5月18-21日。
6. 坂倉健吾, 佐々木茂, 小谷明弘, 市村正一: 腱板修復術の縫合法による術後成績の比較—Dual rowとdouble anchor footprint fixation—。第90回日本整形外科学会学術総会, 仙台, 2017年5月18-21日。
7. 稲田成作, 大畑徹也, 丸野秀人, 森脇孝博, 五十嵐一峰, 藤井肇, 市村正一: 骨粗鬆症の程度と大腿骨骨頭下骨折の関係。第90回日本整形外科学会学術総会, 仙台, 2017年5月18-21日。
8. 青柳貴之, 森井健司, 田島崇, 市村正一: 悪性骨・軟部腫瘍の化学療法における発熱性好中球減少症対策としてのpegfilgrastimの有効性。第90回日本整形外科学会学術総会, 仙台, 2017年5月18-21日。
9. 佐藤俊輔, 高橋雅人, 里見和彦, 長谷川淳, 竹内拓海, 大祢英昭, 長谷川雅一, 市村正一: 転移性頸椎腫瘍モデルの作成と頸髄麻痺の検証—行動学的評価と3D μ X線CTによる腫瘍進展様式—。第90回日本整形外科学会学術総会, 仙台, 2017年5月18-21日。
10. 森井健司: J-DOS登録システムの検証—杏林大学における試用—。第40回日本骨関節感染症学会, 東京, 2017年6月16-17日。
11. 片山和洋, 佐藤行紀, 坂倉健吾, 鈴木啓司, 小谷明弘, 市村正一: 蝶番型TKA術後にhinge postが外れ膝関節が脱臼した1例。JOSKAS, 神戸, 2017年6月22-24日。
12. 大畑徹也, 稲田成作, 加藤聡一郎, 樽井武彦, 山口芳裕, 市村正一: 高齢者寛骨臼骨折に対して一時的腸骨動脈バルーンカテーテルを留置し手術加療を行った治療経験。第43回骨折治療学会, 福島, 2017年7月7-8日。
13. 稲田成作, 大畑徹也, 丸野秀人, 森脇孝博, 五十嵐一峰, 藤井肇, 市村正一: 大腿骨頸部骨折のうち骨頭下骨折は骨粗鬆症化の強い症例に発生する。第43回骨折治療学会, 福島, 2017年7月7-8日。
14. 森井健司, 岸野智則, 寫森直子, 本橋美津江, 本谷啓太, 青柳貴之, 田島崇, 大西宏明, 市村正一: 超音波検査による軟部腫瘍手術出血量の術前予測の試み。第50回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 東京, 2017年7月13-14日。
15. 森井健司, 望月眞, 平野和彦, 本谷啓太, 青柳貴之, 田島崇, 市村正一, 柴原純二: 右大腿部軟部腫瘍。第50回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 東京, 2017年7月13-14日。
16. 高橋雅人, 長谷川淳, 佐藤俊輔, 佐野秀仁, 長谷川雅一, 市村正一: 成人脊柱変形に対するOLIF(Oblique lateral interbody fusion)を用いたshort fusionの効果。第51回日本側彎症学会学術集会, 札幌, 2017年8月24-25日。
17. 高橋雅人, 佐藤俊輔, 長谷川雅一, 佐野秀仁, 市村正一: 高齢者脊柱変形に対するLIFを用いた腰椎限局の短椎間固定術。第66回東日本整形災害外科学会, 東京, 2017年9月15-16日。
18. 佐野秀仁, 長谷川雅一, 高橋雅人, 長谷川淳, 佐藤俊輔, 市村正一: BKP後の隣接椎体骨折の画像評価と治療戦略。第66回東日本整形災害外科学会, 東京, 2017年9月15-16日。
19. 大畑徹也, 稲田成作, 加藤聡一郎, 樽井武彦, 山口芳裕, 市村正一: 高エネルギー外傷を伴う65歳以上の高齢者骨盤輪骨折における生命予後の検討。第66回東日本整形災害外科学会, 東京, 2017年9月15-16日。
20. 井上功三朗, 小寺正純, 森脇孝博, 市村正一: 当院におけるPeriprosthetic femoral fractureの治療。第66回東日本整形災害外科学会, 東京, 2017年9月15-16日。
21. 坂倉健吾, 佐々木茂, 小谷明弘, 市村正一: 高齢者腱板断裂に対するMini-open直視下腱板修復術と鏡視下腱板修復術の比較。第66回東日本整形災害外科学会, 東京, 2017年9月15-16日。
22. 稲田成作, 大畑徹也, 丸野秀人, 松隈卓徳, 安部一平, 安部学, 西野雅人, 星亨, 藤井肇, 森脇孝博, 市村正一: 上腕骨近位部骨折の術後矯正損失を術前に予測できるか?。第66回東日本整形災害外科学会, 東京, 2017年9月15-16日。
23. 市村正一: 脊椎インストゥルメンテーション手術における術後感染の全国調査(J-DOS)。第26回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 金沢, 2017年10月13-14日。
24. 高橋雅人: 成人脊柱変形に対するOLIF(Oblique lateral interbody fusion)を用いたShort fusionの効果。第26回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 金沢, 2017年10月13-14日。
25. 市村正一: ビスホスホネート治療における骨代謝マーカーの活用。第19回日本骨粗鬆症学会, 大阪, 2017年10月19-22日。
26. 小寺正純, 井上功三朗, 市村正一: インピーダンス法を用いた人工股関節節節術後の筋量測定の有効性。第44回日本股関節学会, 東京, 2017年10月20-21日。
27. 佐野秀仁, 長谷川雅一, 高橋雅人, 長谷川淳, 佐藤俊輔, 市村正一: BKP後の隣接椎体骨折の画像評価と治療戦略。第25回日本腰痛学会, 東京, 2017年11月3-4日。
28. 大畑徹也: 骨盤輪・寛骨臼骨折に対する私の治療戦略〜生きて歩いて帰るを目標に〜。第16回水戸関節症研究会, 水戸, 2017年11月10日。
29. 森井健司, 田島崇, 市村正一, 今給黎直明: 悪性腱滑膜巨細胞腫の診断と治療。第45回日本関節病学会, 東京, 2017年11月16-17日。
30. 佐藤俊輔, 佐野秀仁, 高橋雅人, 長谷川雅一, 小西一斉, 市村正一: 非常に稀な脊柱管内に発生した筋上皮腫の1例。第52回日本脊髄障害医学会, 千葉, 2017年11月16-17日。
31. Morii T, Tajima T, Ichimura S: Preoperative evaluation of renal cell carcinoma patients with bone metastases on postoperative survival. The 34th Congress of the Pan-pacific Surgical Association -

Japan Chapter, USA, February 17th 2018.

32. 佐藤行紀, 坂倉健吾, 片山和洋, 小谷明弘, 佐々木茂, 市村正一: 人工膝関節置換術前のストレス撮影による関節開大量とインサート厚の関係. 第48回日本人工関節学会, 東京, 2018年2月23-24日.
33. 井上功三朗, 小寺正純, 市村正一: 当院における M/L Taper Kinectiv Technology®を使用したTHAの短期成績. 第48回日本人工関節学会, 東京, 2018年2月23-24日.
34. 大畑徹也, 稲田成作, 長谷川浩, 神崎恒一, 市村正一: 大学病院における高齢者大腿骨近位部骨折の現状と課題. 第6回日本脆弱性骨折ネットワーク, 浜松, 2018年3月2-4日.
35. 稲田成作, 大畑徹也: 低身長症に対するホルモン療法中に両側同時脛骨粗面裂離骨折を生じた1例. 第13回東日本骨軟部研究会, 東京, 2018年3月3日.
36. 長谷川雅一, 稲永紗季, 川野洋介, 井上功三朗, 市村正一: 骨粗鬆症治療におけるtreat to target(T to T) 骨代謝マーカーの視点から. 第58回関東整形災害外科学会, 東京, 2018年3月16-17日.

論文

1. Yoshiyama A, Morii T, Susa M^{1,2}, Morioka H¹, Kobayashi E³, Asano N³, Mori T, Anazawa U⁴, Watanabe I⁴, Takeuchi K⁵, Kushima Y⁵, Aoyagi T, Ichimura S (¹Keio University, ²National Defense Medical College, ³National Cancer Center Hospital, ⁴Tokyo Dental College Ichikawa General Hospital, ⁵Tochigi Cancer Center): Preoperative evaluation of renal cell carcinoma patients with bone metastases on risks for blood loss, performance status and lethal event. *J Orthop Sci.* 22(5): 924-930, 2017. DOI: 10.1016/j.jos. 2017. 07. 006.
2. Araki N¹, Chuman H², Matsunobu T³, Tanaka K⁴, Katagiri H⁵, Kunisada T⁶, Hiruma T⁷, Hiraga H⁸, Morioka H⁹, Hatano H¹⁰, Asanuma K¹¹, Nishida Y¹², Hiraoka K¹³, Okamoto T¹⁴, Abe S¹⁵, Watanuki M¹⁶, Morii T, Sugiura H^{17,12}, Yoshida Y¹⁸, Ohno T¹⁹, Outani H²⁰, Yokoyama K²¹, Shimose S²², Fukuda H², Iwamoto Y³(¹Osaka Medical Center for Cancer and CVD, ²National Cancer Center, ³Kyushu Rosai Hospital, ⁴Oita University, ⁵Shizuoka Cancer Center, ⁶Okayama University, ⁷Kanagawa Cancer Center, ⁸Hokkaido Cancer Center, ⁹Keio University, ¹⁰Niigata Cancer Center Hospital, ¹¹Mie University, ¹²Nagoya University, ¹³Kurume University, ¹⁴Kyoto University, ¹⁵Teikyo University, ¹⁶Tohoku University, ¹⁷Aichi Cancer Center, ¹⁸Nihon University, ¹⁹Gifu University, ²⁰Osaka University, ²¹Kyushu Cancer Center, ²²Hiroshima University): Factors associated with the decision of operative procedure for proximal femoral bone metastasis: Questionnaire survey to institutions participating the Bone and Soft Tissue Tumor Study Group of the Japan Clinical Oncology Group. *J Orthop Sci.* 22(5):938-945, 2017. DOI: 10.1016/j.jos.2017.05.012.
3. 森井健司: 各臓器がんに対する周術期治療; エビデンス・展望 (12)骨・軟部腫瘍. 腫瘍内科 20(6): 624-629, 2017.
4. Morii T, Kishino T¹, Shimamori N¹, Motohashi M¹, Ohnishi H¹, Honya K², Aoyagi T, Tajima T, Ichimura S(¹ Department of Laboratory Medicine, ² Department of Medical Radiological Technology, Faculty of Health Sciences): Preoperative evaluation of intraoperative blood loss during malignant soft tissue tumor resection by ultrasonography. *J Orthop Sci.*23(2):403-407, 2018. DOI: 10.1016/j.jos. 2017.12.011.
5. 長谷川雅一, 市村正一: 脊椎脊髄疾患 骨粗鬆症および骨粗鬆症性椎体骨折の診断. *MB Orthop* 30(10): 65-72, 2017.
6. 伊藤全哉¹, 松山幸弘², 安藤宗治³, 川端茂徳⁴, 寒竹司⁵, 田所伸朗⁶, 小林祥², 藤原靖⁷, 山田圭⁸, 山本直也⁹, 高橋雅人, 和田簡一郎¹⁰, 谷俊一⁶(¹名古屋大, ²浜松医大, ³和歌山労災, ⁴東京医科歯科大, ⁵山口大, ⁶高知大, ⁷安佐市民病院, ⁸久留米大, ⁹東京女子医大八千代医療センター, ¹⁰弘前大): 胸椎後縦靱帯骨化症(胸椎OPLL)手術におけるBr(E)-MsEPのアラームポイント 全国多施設研究. 脊髄機能診断37: 84-89, 2017.
7. 山田圭¹, 松山幸弘², 川端茂徳³, 安藤宗治⁴, 山本直也⁵, 小林祥², 寒竹司⁶, 今釜史郎⁷, 小林和克⁷, 和田簡一郎⁸, 田所伸朗⁹, 高橋雅人, 藤原靖¹⁰, 木田和伸¹¹, 溝田敦子¹, 角谷智¹², 谷俊一¹¹, 長濱賢¹³, 岩崎博¹⁴, 村本明生⁷, 関庄二¹⁵, 平尾雄二郎¹⁶, 清水敬親¹⁷, 大田亮¹⁸, 齋藤貴徳¹⁹, 里見和彦²⁰, 四宮謙一²¹(¹久留米大, ²浜松医大, ³東京医科歯科大, ⁴和歌山労災, ⁵山口大, ⁶高知大, ⁷名古屋大, ⁸弘前大, ⁹高知大, ¹⁰安佐市民病院, ¹¹くまかわ病院, ¹²北海道大, ¹³和歌山県立医大, ¹⁴富山大, ¹⁵東京大, ¹⁶榛名荘群馬脊椎脊髄病センター, ¹⁷広島大, ¹⁸関西医大滝井病院, ¹⁹久我山病院, ²⁰横浜市立みなと赤十字病院): 脊柱変形手術による神経障害機序の検討 日本脊椎脊髄病学会脊髄モニタリングワーキンググループ多施設前向き研究. *J. Spine Res.*8: 1493-1501, 2017.
8. 佐野秀仁, 市村正一, 長谷川雅一, 高橋雅人, 長谷川淳, 佐藤俊輔: 長期椎体骨折例と椎体後壁膨隆タイプに対するBKPの適応. *J. Spine Res* 8: 1172-1178, 2017.
9. 佐野秀仁, 長谷川雅一, 市村正一, 高橋雅人, 五十嵐一峰, 長谷川淳, 佐藤俊輔, 里見和彦: 骨粗鬆症性椎体骨折に対するBKPと後方固定術の手術成績—過度のアライメント矯正は術後新規椎体骨折を合併する—. *J. Spine Res* 8: 1568-1573, 2017.
10. 大畑徹也, 稲田成作, 加藤聡一郎, 樽井武彦, 山口芳裕, 市村正一: 骨折を伴った外傷性コンパートメント症候群の治療成績. 骨折39(2): 451-454, 2017.
11. Qiao Z¹, Tajima T, Kito F¹, Arai Y¹, Kawai A⁴ Kondo T¹ (¹National Cancer Center Research Institute, ²National Cancer Center Hospital): Metastasis-associated gene signature in primary myxoid liposarcoma identified through a gene expression study. *J Electrophoresis* 61: 9, 2017.
12. 市村正一, 山本謙吾¹ (¹東京医大): 「人工関節および脊椎手術におけるインプラント周囲感染の全国調査」序文. 日整会誌92(1): 3-4, 2018.
13. Morii T, Kishino T¹, Shimamori N¹, Motohashi M¹, Ohnishi H¹, Honya K², Aoyagi T, Tajima T, Ichimura S (¹ Department of Laboratory Medicine, ² Department of Medical Radiological Technology, Faculty of Health Sciences): Differential diagnosis between benign and malignant soft tissue tumors utilizing ultrasound parameters. *J Med Ultrason* (2001) 45(1):113-119, 2018. DOI: 10.1007/s10396-017-0796-3.
14. Morii T, Kishino T¹, Shimamori N¹, Motohashi M¹, Ohnishi H¹, Honya K², Aoyagi T, Tajima T, Ichimura S(¹ Department of Laboratory Medicine, ² Department of Medical Radiological Technology, Faculty of Health Sciences): Preoperative Ultrasonographic Evaluation for Malignancy of Soft-Tissue Sarcoma: A Retrospective Study. *Open Orthop J.* 12:75-83, 2018. DOI:10.2174/1874325001812010075.eCollection 2018.
15. 佐野秀仁, 佐藤俊輔, 高橋雅人, 長谷川雅一, 長谷川淳,

市村正一: 胸腰椎黄色靱帯骨化切除後に胸椎椎間板ヘルニアを発生した手術症例. *J. Spine Res* 9: 29-33, 2018.

16. 坂倉健吾, 佐々木茂, 小谷明弘, 市村正一: 高齢者腱板断裂に対するMini-open直視下腱板修復術と鏡視下腱板修復術の比較. *東日整災会誌* 30(1): 62-65, 2018.
17. 稲田成作, 大畑徹也, 丸野秀人, 市村正一: 非転位型大腿骨頸部骨折における骨頭下骨折と骨粗鬆症との関連性. *骨折* 40(1): 131-134, 2018.
18. 片山和洋, 佐藤行紀, 坂倉健吾, 鈴木啓司, 小谷明弘, 市村正一: 蝶番型TKA術後にhinge postが外れ膝関節が脱臼した1例. *JOSKAS* 43: 450-451, 2018.

著書

1. 市村正一 (分担執筆): 腰部脊柱管狭窄症. 日常診療に活かす診療ガイドラインUP-TO-DATE 2018→2019. 門脇孝他監修. 大阪, メディカルレビュー社, 2018. p.560-563.
2. 長谷川雅一 (分担執筆): 第28回腰痛シンポジウム講演記録集【保存療法による腰痛へのアプローチ】薬物療法の選択と開始のタイミング. 2018. http://lbp.cat.eisai.jp/lbp/members/secure/record/028/pdf/028_4.pdf.

その他

学会主催

1. 市村正一: 第40回日本骨・関節感染症学会主催, 東京, 2017年6月16-17日.
2. 市村正一: 第66回東日本整形災害外科学会主催, 東京, 2017年9月15-16日.

受賞

1. 佐野秀仁: 第25回日本腰痛学会 優秀論文賞受賞, 東京, 2017年11月3日.

皮膚科学教室

講演

1. 大山路: 病態から考える一なぜ脱毛症は難治なのか. 第33回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会, 神戸, 2017年4月22-23日.
2. 水川良子: 急性発疹症 初期対応のコツ—何をすべきか, 何をすべきでないか—. 第33回日本臨床皮膚科医会・臨床学術大会, 神戸, 2017年4月22-23日.
3. 早川順, 木下美咲, 福山雅大, 下田由莉江, 大山路: 屋外作業中に生じたフッ化水素酸による化学熱傷の2例. 第33回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会, 神戸, 2017年4月22-23日.
4. Sato Y, Takahashi R, Kimishima M, Yamasaki Y, Shiohara T, Ohyama M: Identification of early predictors of the efficacy of intravenous corticosteroid pulse therapy in rapidly-progressive diffuse alopecia areata patients. 76th Annual Meeting of the Society for Investigative Dermatology, USA, April 26th-29th, 2017.
5. Kinoshita-Ise M, Tsukashima A, Kinoshita T, Yamazaki Y, Ohyama M: Human scalp -derived fibroblasts alter FGF expression profile upon WNT activation: implication of their role to provide folliculogenic microenvironment. 76th Annual Meeting of the Society for Investigative Dermatology, USA, April 26th-29th, 2017.
6. 水川良子: SJS/TENのモデルとしての固定薬疹—なぜ, 固定薬疹はSJS/TENにならないのか—. 第116回日本皮膚科学会総会学術大会, 仙台, 2017年6月2-4日.
7. 佐藤洋平, 大山路: 急速進行性円形脱毛症に対するステロイドパルス療法—治療の実際と今後の課題. 第116回日本皮膚科学会総会, 仙台, 2017年6月2-4日.
8. 菅野秀美, 佐藤洋平, 早川順, 桑原彩子, 高山信之, 大山路: 骨髄異形成症候群に合併し腋窩に広範囲に潰瘍を形成した壊疽性膿皮症の1例. 第116回日本皮膚科学会総会, 仙台, 2017年6月2-4日.
9. 大山路: 円形脱毛症. 平成29年度日本皮膚科学会研修講習会 総会, 仙台, 2017年6月4日.
10. 嵩幸恵, 水川良子, 新田桐子, 勝田倫江, 大山路: 局面状紅斑を認めたCutaneous arteritisの一例. 日本皮膚科学会第872回東京地方会 (城西地区), 東京, 2017年6月17日.
11. 佐藤洋平, 福井香苗, 早川順, 大山路: ペムラフェニブ中断後に急速な骨髄浸潤を認めた悪性黒色腫の1例. 第33回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 秋田, 2017年6月30日-7月1日.
12. 福山雅大, 吉池沙保里, 清水晶, 大山路: ヒドロキシクロロキンにて脱毛症状の改善をみた慢性皮膚エリテマトーデスの1例. 第873回日本皮膚科学会東京支部合同臨床地方会, 東京, 2017年7月8日.
13. 伊藤 (村松) 有亜, 福山雅大, 早川順, 大山路: ケラトアカントマ様外観を呈した低色素性悪性黒色腫の1例. 第44回皮膚かたち研究学会学術大会, 名古屋, 2017年7月8日.
14. 加藤峰幸, 嵩幸恵, 下田由莉江, 大山路: 乾癬様皮疹が先行し紫外線治療後に結節性痒疹様皮疹主体の臨床像を呈した水疱性類天疱瘡の1例. 第39回水疱症研究会, 札幌, 2017年7月15-16日.
15. 大山路: ヒト毛包再生に向けた上皮-間葉系相互作用を可能にする細胞の作成—Dermal papilla細胞を中心に—. 第38回日本炎症・再生医学会, 大阪, 2017年7月18-19日.
16. 厚木徹, 横内麻里子, 平林愛, 大山路, 天谷雅行, 久保亮治: 皮膚脂腺におけるタイトジャンクションバリアの局在と機能. 第38回日本炎症・再生医学会, 大阪, 2017年7月18-19日.
17. 吉池沙保里, 下田由莉江, 早川順, 水川良子, 大山路: 鉍石を用いた民間療法による接触皮膚炎の合併が疑われた尋常性乾癬の1例. 第32回日本乾癬学会学術大会, 東京, 2017年9月8-9日.
18. 飯島幸四郎, 加藤峰幸, 大山路: ダーモスコピー所見から基底細胞癌を疑ったNodular hidradenomaの1例. 第874回日本皮膚科学会東京地方会, 東京, 2017年9月9日.
19. 武内朝子, 加藤峰幸, 下田由莉江, 唐帆健浩, 福田のぞみ, 滝沢始, 大山路: 頸部食道裂孔による嚥下障害を認めた皮膚筋炎の1例. 第874回日本皮膚科学会東京地方会, 東京, 2017年9月9日.
20. 佐藤洋平, 大山路: サックス演奏による外的刺激が誘因と考えられた肉芽腫性口唇炎の1例. 第81回日本皮膚科学会東部支部学術大会, 郡山, 2017年9月23-24日.
21. 大山路: 脱毛症診療のロジックとテクニック. 第69回日本皮膚科学会西部支部学術大会, 熊本, 2017年10月28-29日.
22. 嵩幸恵, 下田由莉江, 水川良子, 高山信之, 大山路: Blue toe症候群が疑われ本態性血小板血症と診断した足指潰瘍の一例. 第69回日本皮膚科学会西部支部学術総会, 熊本, 2017年10月28-29日.
23. Ohyama M: From Blisters via Bethesda to the Bulge - A Decade of Journey to Find my Own Niche. Future Leader Symposium 47th Annual European Society for Dermatological Research Meeting, Austria, September 27th-30th, 2017.
24. Kubo A, Atsugi T, Yokouchi M, Hirabayashi A, Ohyama M, Amagai M: Tight junction barriers in

- sebaceous glands are crucial for proper terminal differentiation of sebocytes. 47th Annual European Society for Dermatological Research Meeting, Austria, September 27th-30th, 2017.
25. Shimoda Y, Yamazaki Y, Ohyama M: Immunohistochemical insight into the association between the collapse of immune privilege in the sweat gland and syringotrophic infiltrates in collagen diseases. 47th Annual European Society for Dermatological Research Meeting, Austria, September 27th-30th, 2017.
 26. Takahashi R, Sato Y, Kimishima M, Shiohara T, Ohyama M: Influence of programmed cell death-1 immune checkpoint blockade on T cell profile and response to melanoma-associated antigen in advanced malignant melanoma patients. 47th Annual European Society for Dermatological Research Meeting, Austria, September 27th-30th, 2017.
 27. 水川良子, 塩原哲夫: 薬剤性過敏症症候群—臨床から診断, 治療, non-HIVIRISの概念をふまえて—. 第66回日本感染症学会東日本地方会学術集会, 東京, 2017年10月31日-11月2日.
 28. Fukuyama M, Sato Y, Kinoshita-Ise M, Yamazaki Y, Ohyama M: Sequential clinicopathological characterization of the response to multicycle systemic steroid pulse therapy for severe alopecia areata. 10th World Congress of Hair Research, Kyoto, Japan, November 1st-3rd, 2017.
 29. Sato Y, Takahashi R, Yamazaki Y, Ohyama M: Quantitative clinicopathological analyses identify poor prognostic factors for systemic steroid pulse therapy in acute alopecia areata. 10th World Congress for Hair Research, Kyoto, Japan, November 1st-3rd, 2017.
 30. 伊藤有亜, 下田由莉江, 早川順, 下山田博明, 柴原純二, 大山学: 再発乳癌と鑑別を要した顆粒細胞腫の1例. 第875回日本皮膚科学会東京地方会, 東京, 2017年11月11日.
 31. 菅野秀美, 福山雅大, 伊藤有亜, 早川順, 石田正, 大山学: 角化性局面・症状結節を呈した扁平苔癬の経過中に類天疱瘡を合併した1例. 第81回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 東京, 2017年11月18-19日.
 32. 福井香苗, 下田由莉江, 木下美咲, 渡邊格, 山田昌大, 石井文人, 橋本隆, 大山学: 結節性痒疹様皮疹をともなった粘膜類天疱瘡の1例. 第81回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 東京, 2017年11月18-19日.
 33. 小野蘭, 田代康哉, 安藤はるか, 渡辺秀晃, 末木博彦, 水川良子, 大山学, 井川健, 小豆澤宏明, 浅田秀夫, 池田信昭, 山口由衣, 相原道子: 細胞増殖に作用する分子標的薬による皮膚障害の検討. 第81回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 東京, 2017年11月18-19日.
 34. 水川良子, 吉池沙保里, 下田由莉江, 加藤峰幸, 早川順, 高橋孝幸, 大山学: 皮膚筋炎加療中の帯状疱疹後にStevens-Johnson症候群を生じた1例. 第47回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会, 鹿児島, 2017年12月8-10日.
 35. 大山学: 膠原病における脱毛のマネジメント. 第47回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会学術大会・第41回皮膚脈管・膠原病研究会, 鹿児島, 2017年12月12月8-10日.
 36. Shimoda Y, Yamazaki Y, Ohyama M: Dysregulated expression of immune privilege molecules in the sweat gland neighbours cell infiltration in syringotropic autoimmune disorders. The 42st Annual meeting of the Japanese society for investigative dermatology, Kochi, Japan, December 15th-16th, 2017.
 37. 福山雅大, 木下美咲, 早川順, 舩越建, 大山学: チオ硫酸ナトリウムにて軽快した近位型カルシフィラキシスの1例. 第876回日本皮膚科学会東京支部地方会, 東京, 2017年12月16日.
 38. Takahashi R, Sato Y, Kimishima M, Shiohara T, Ohyama M: Characterization of the influence of PD-1 blockade on IFN- γ , granzyme B and IL-9 production by T cells in advanced melanoma patients. The 42st Annual meeting of the Japanese society for investigative dermatology, Kochi, Japan, December 16th-17th, 2017.
 39. 飯島孝四郎, 佐藤洋平, 佐野彰彦, 大山学: 多発結節を呈した皮膚腺病の1例. 第877回日本皮膚科学会東京地方会, 東京, 2018年1月20日.
 40. 早川順, 菅野秀美, 佐藤洋平, 大山学: 顔面に類上皮細胞肉芽腫を伴い発症したシェーグレン症候群の1例. 第466回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2018年3月11日.
 41. 福山雅大, 塚島明希, 君嶋桃子, 山崎好美, 大山学: 安定した3次元培養皮膚作成のためのフィーダーフリー培養ヒトiPS細胞由来細胞調整法の検討. 第17回日本再生医療学会総会, 横浜, 2018年3月21-23日.
 42. 加藤峰幸, 早川順, 林田真理, 久松理一, 大山学: クローン病に対するインフリキシマブ投与中に生じた掌蹠膿疱症様皮疹の1例. 第100回日本皮膚科学会栃木地方会, 宇都宮, 2018年3月31日.
- ## 論文
1. 大山学: フィナステリド・デュタステリド. *Derma*. 255: 183-188, 2017.
 2. Shimoda Y, Sato Y, Hayashida Y¹, Yamazaki Y, Mizukawa Y, Nakajima K², Shiohara T, Aoyama Y¹ (¹Kawasaki medical School, ²Kochi University): Lichen amyloidosis as a sweat gland/duct-related disorder: Resolution associated with restoration of sweating disturbance. *Br J Dermatol* 176: 1308-1315, 2017.
 3. Nakatsuji H¹, Araki A^{1,2}, Hashizume A¹, Hijikata Y¹, Yamada S¹, Inagaki T¹, Suzuki K^{1,3}, Banno H¹, Suga N^{1,4}, Okada Y^{5,6}, Ohyama M, et al (¹Nagoya University, ²Kasugai Municipal Hospital, ³Innovation Center for Clinical Research, ⁴Sarashina Rehabilitation Clinic, ⁵Aichi Medical University, ⁶Keio University): Correlation of insulin resistance and motor function in the spinal and bulbar muscular atrophy. *J Neurol* 264: 839-847, 2017.
 4. 下田由莉江, 早川順, 堀江千穂, 荒木光二¹, 塩原哲夫(¹杏林大・臨床検査部): 当教室における過去6年間の溶連菌による蜂窩織炎の臨床的特徴. *皮膚臨床* 59: 1127-1132, 2017.
 5. Okuno H¹, Nakabayashi K², Abe K², Ando T¹, Sanosaka T¹, Kohyama J¹, Akamatsu W³, Ohyama M, Takahashi T¹, Kosaki K¹, Okano H¹ (¹Keio University, ²National Research Institute for Child Health and Development, ³Juntendo University): Changeability of the fully methylated status of the 15q11.2 region in induced pluripotent stem cells derived from a patient with Prader-Willi syndrome. *Congenit Anom (Kyoto)* 57: 96-103, 2017.
 6. Endo Y¹, Takahashi M¹, Obayashi Y¹, Serizawa T¹, Murakoshi M¹, Ohyama M (¹Lion Corporation): The

- ovariectomized mouse simulates the pathophysiology of postmenopausal female pattern hair loss. *J Dermatol Sci* 87: 79-82, 2017.
7. 大山庄: 小児の円形脱毛症の診察. *小児科* 58: 695-702, 2017.
 8. 水川良子: スキルアップのためのQ&A 薬疹におけるステロイドの始め方と減らし方を教えてください. *皮アレルギーフロンテ* 15: 47, 2017.
 9. Fukuyama M, Sato Y, Yamazaki Y, Ohyama M: Immunohistochemical dissection of cystic panfolliculoma focusing on the expression of multiple hair follicle lineage markers with an insight into the pathogenesis. *J Cutan Pathol*, 44: 861-866, 2017.
 10. Hayashi A¹, Mikami Y¹, Miyamoto K¹, Kamada N², Sato T¹, Mizuno S¹, Naganuma M¹, Teratani T¹, Aoki R¹, Fukuda S¹, Suda W¹, Hattori M^{3,4}, Amagai M¹, Ohyama M, Kanai T¹ (¹Keio University, ²University of Michigan Medical School, ³University of Tokyo, ⁴Waseda University): Intestinal Dysbiosis and Biotin Deprivation Induce Alopecia through Overgrowth of *Lactobacillus murinus* in Mice. *Cell Rep*. 20: 1513-1524, 2017.
 11. 下田由莉江, 堀江千穂, 早川順, 塩原哲夫: リンパ浮腫患者にみられる血液培養でB群溶連菌が検出された蜂窩織炎の1例 当教室のretrospectiveな解析を含めて. *臨皮* 71: 715-719, 2017.
 12. 福山雅大, 大山庄: (Part2)非特異的皮疹(case17) 脱毛(ヒドロキシクロロキンにて改善をみた例). *Visual Dermatol* 16(8): 780-781, 2017.
 13. Sueki H¹, Mizukawa Y, Aoyama Y² (¹Showa University, ²Kawasaki Medical University): Immune reconstitution inflammatory syndrome in non-HIV immunosuppressed patients. *J Dermatol* 45: 3-9, 2018.
 14. Fukuyama M, Sato Y, Yamazaki Y, Ohyama M: Immunohistochemical dissection of cystic panfolliculoma focusing on the expression of multiple hair follicle lineage markers with an insight into the pathogenesis. *J Cutan Pathol* 44: 861-866, 2017.
 15. 水川良子: 固定薬疹の発症機序—なぜ同じ部位に再発するのか—. *アレルギーの臨* 37: 1055-1057, 2017.
 16. 下田由莉江, 佐藤洋平, 吉池沙保里, 磯村杏耶¹, 下山田博明¹, 早川順, 大山庄(¹杏林大・医・病理学): 有茎性腫瘍を呈した肛門乳房外Paget病の1例. *臨皮* 71: 923-928, 2017.
 17. Kasami S, Sowa-Osako J¹, Fukai K¹, Tokimasa S¹, Kaga SI¹, Saito R², Tanaka A², Hide M², Tsuruta D¹ (¹Osaka City University, ²Hiroshima University): Presymptomatic genetic diagnosis of two siblings with hereditary angioedema, presenting with unusual normal levels of serum C4. *J Dermatol* 45: e31-32, 2017.
 18. Kurata M, Shiohara T: Herpes simplex virus reactivation: is it common or rare in drug-induced hypersensitivity syndrome/drug reaction with eosinophilia and systemic symptoms?. *Eur J Dermatol* 27: 658-659, 2017.
 19. 坪井良治¹, 板見智², 眞鍋求³, 天羽康之⁴, 伊藤泰介⁵, 乾重樹⁶, 植木理恵⁷, 内山真樹¹, 大山庄, 他6名, 日本皮膚科学会円形脱毛症ガイドライン作成委員会 (¹東京医科大学, ²大阪大学, ³秋田大学, ⁴北里大学, ⁵浜松医科大学, ⁶心斎橋いぬい皮フ科, ⁷順天堂東京江東高齢者医療センター): 日本皮膚科学会円形脱毛症診療ガイドライン2017年版. *日皮会誌* 127: 2741-2762, 2017.
 20. 眞鍋求¹, 坪井良治², 板見智³, 長田真一¹, 天羽康之⁴, 伊藤泰介⁵, 乾重樹⁶, 植木理恵⁷, 大山庄, 他8名, 男性型および女性型脱毛症診療ガイドライン作成委員会(¹秋田大学, ²東京医科大学, ³大阪大学, ⁴北里大学, ⁵浜松医科大学, ⁶心斎橋いぬい皮フ科, ⁷順天堂東京江東高齢者医療センター): 日本皮膚科学会ガイドライン 男性型および女性型脱毛症診療ガイドライン2017年版. *日皮会誌* 127: 2763-2777, 2017.
 21. 佐藤洋平, 大山庄: 急速進行性円形脱毛症に対する点滴静注ステロイドパルス療法が全身に与える影響に対する調査. *臨皮* 71: 1036-1040, 2017.
 22. Narita YM, Horie C, Hirahara K, Kano Y, Shiohara T, Mizukawa Y: Bullous pemphigoid complicated by cytomegalovirus disease as a manifestation of immune reconstitution inflammatory syndrome: retrospective analyses of our institutional cases and literature review. *Int J Dermatol* 57: 202-208, 2018.
 23. Kato M, Nitta K, Kano Y, Yamada M¹, Ishii N², Hashimoto T², Ohyama M (¹Department of Ophthalmology, Kyorin University School of Medicine, ²Kurume University): Case of phenylephrine hydrochloride-induced periorbital contact dermatitis with fulminant keratoconjunctivitis causing pseudomembrane formation. *J Dermatol* 45: e27-e28, 2018.
 24. 川北梨乃, 水川良子, 内田理美, 新田桐子, 大山庄: 前腕伸側に多発した皮膚コレステリン肉芽腫の1例. *臨皮* 72: 163-167, 2018.
 25. Kakuta R¹, Yamagami J¹, Funakoshi T¹, Takahashi H¹, Ohyama M, Amagai M¹ (¹Keio University): Azathioprine monotherapy in autoimmune blistering diseases: A feasible option for mild to moderate cases. *J Dermatol* 45: 334-339, 2018.
- ### 著書
1. 大山庄: 男性型脱毛症治療update. 専門医でも聞きたい皮膚科診療100の質問. 宮地良樹編集. 東京, メディカルレビュー社, 2017. p.212-213.
 2. 大山庄: 毛・爪疾患 男性型脱毛症. 1336専門家による私の治療 2017-2018年度版. 猿田享男, 北村惣一郎監修. 東京, 日本医事新報社, 2017. p.987-989.
 3. Shiohara T, Mizukawa Y: Lichen planus and lichenoid dermatoses. *Dermatology 4th Edition Bologna* JL, et al. eds. U.S.A. Elsevier, 2017. p.188-207.
 4. 水川良子: 単純疱疹. 今日の治療指針 2018年版. 戸倉新樹編集. 東京, 医学書院, 2018. p.1246.
- ### 報告書
1. Kato M, Nitta K, Kano Y, Yamada M, Ishii N, Hashimoto T, Ohyama M: A case of periorbital contact dermatitis with Stevens-Johnson syndrome like ocular pseudomembrane formation caused by an ophthalmic solution. 難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業): 重症多形滲出性紅斑に関する調査研究(H29-難治等(難))—一般-028)平成29年度第2回班会議プログラム, 東京, 2018年1月13日.
- ### その他
1. 大山庄: 眼科医のための皮膚科最新事情—杏林大学の取り組みも含めて—. 第8回多摩眼科連携セミナー, 東京, 2017年4月15日.
 2. 水川良子: 乾癬治療とIL-17—IL-17阻害薬治療経験をふまえて—. 第1回川崎北部若手乾癬勉強会, 東京, 2017年6月9日.
 3. 大山庄: アトピー性皮膚炎とスキンケア—皮膚科における薬剤療法を中心に—. 杏林大学病院薬剤部薬薬連携講

演会，東京，2017年6月14日。

4. 大 山 学：円形脱毛症 平成29年度日本皮膚科学会研修講習会テキスト 必須（総会）テキスト，2017年6月。
5. 大 山 学：病態理解に基づく脱毛症治療—円形脱毛症とアトピー素因の関連を含めて—。タリオン学術講演会，東京，2017年9月2日。
6. 加藤峰幸：分子標的薬による皮膚障害とその対策。West Tokyo Dermatology Update Seminar，東京，2017年9月13日。
7. 嵩幸恵，下田由莉江，水川良子，高山信之，大 山 学：当初Blue toe症候群が疑われた本態性血小板血症の1例。第18回皮膚合同カンファレンス，三鷹，2017年9月16日。
8. 早川順：糖尿病治療薬による水疱性類天疱瘡。第18回皮膚合同カンファレンス，三鷹，2018年9月16日。
9. 福山雅大，木下美咲，早川順，大 山 学：チオ硫酸ナトリウムにて軽快した近位型カルシフィラキシスの1例。第18回皮膚合同カンファレンス，三鷹，2017年9月16日。
10. 佐藤洋平：悪性黒色腫に対するNivolumabの使用経験。Meet the Specialist in Immuno-Ocology，三鷹，2017年9月19日。
11. 加藤峰幸：分子標的薬による皮膚障害とその対策。多摩皮膚科専門医会，武蔵野，2017年10月14日。
12. 佐藤洋平：悪性黒色腫・最新の治療と副作用。多摩皮膚科専門医会，武蔵野，2017年10月14日。
13. 下田由莉江：ビダーザ®による皮膚障害。多摩皮膚科専門医会，武蔵野，2017年10月14日。
14. 大 山 学：皮膚関連産業におけるこれからの組織幹細胞・ヒトiPS細胞の活用法について—hair biologyからの視点を中心に—。資生堂リサーチセミナー，横浜，2017年11月10日。
15. 嵩幸恵，水川良子，高山信之，大 山 学：足指潰瘍を呈しBlue toe症候群を疑った本態性血小板血症の一例。第46回杏林医学会総会，三鷹，2017年11月18日。
16. 水川良子：ヘルペス感染etc—ヘルペス感染が引き起こす様々な皮膚疾患を中心に—。第51回川越Dermatology Club，川越，2017年12月14日。
17. 水川良子：保湿剤外用エトセトラ。スキンケアセミナー，東京，2018年1月28日。
18. 佐藤洋平，大 山 学：潰瘍性大腸炎に合併した壊疽性膿皮症の2例。三鷹 皮膚科・内科関連疾患フォーラム，三鷹，2018年2月28日。

形成外科学教室

講 演

1. 大浦紀彦：重症下肢虚血の診療における形成外科医の役割。第60回日本形成外科学会総会・学術集会，大阪，2017年4月12日。
2. 関山琢也，大浦紀彦，山下雄太郎，嶋崎仁孝，森脇裕太，多久嶋亮彦，波利井清紀：重症下肢虚血に対するLDL-アフェレーシスの治療効果と適応の検討。第60回日本形成外科学会総会・学術集会，大阪，2017年4月12日。
3. 嶋崎仁孝，大浦紀彦，山下雄太郎，関山琢也，匂坂正信，多久嶋亮彦，波利井清紀：微小循環改善のための集学的治療法が奏功したCalciphylaxisの1症例。第60回日本形成外科学会総会・学術集会，大阪，2017年4月12日。
4. 尾崎峰，藤木政英，岩科裕己，加地展之，井原玲，栗田昌和，多久嶋亮彦，波利井清紀：小児期動脈奇形の治療。第60回日本形成外科学会総会・学術集会，大阪，2017年4月12日。
5. 多久嶋亮彦：顔面神経麻痺に対する遊離筋肉移植術の変

遷。第60回日本形成外科学会総会・学術集会，大阪，2017年4月14日。

6. 菅浩隆，白石知大，辻直子，多久嶋亮彦，波利井清紀：乳房再建におけるティッシュ・エクスパンダーに関する合併症のリスク因子の解析。第60回日本形成外科学会総会・学術集会，大阪，2017年4月14日。
7. 成田圭吾，多久嶋亮彦，波利井清紀：放射線性骨壊死の再建。第60回日本形成外科学会総会・学術集会，大阪，2017年4月12-14日。
8. 白石知大，菅浩隆，辻直子，多久嶋亮彦：患者満足度と整容性は関連するののか。第60回日本形成外科学会総会・学術集会，大阪，2017年4月12-14日。
9. 岩科裕己，尾崎峰，井原玲，藤木政英，多久嶋亮彦：舌部巨大静脈奇形に対する舌形成術。第60回日本形成外科学会総会・学術集会，大阪，2017年4月12-14日。
10. 尾崎峰：乳児血管腫および小児血管奇形病変に対する治療戦略。三鷹医師会学術講演会，三鷹，2017年4月18日。
11. 大浦紀彦：糖尿病・透析患者さんの足を守る 一生自分の足で歩き続けるために。岡村病院CLIセンター健康講座，高知，2017年4月22日。
12. 大浦紀彦：Olive Registryを読み解くOlive Registryは本邦のCLI治療に何をもたらしたのか 創傷治療の立場からoliveのlimitation。第9回日本下肢救済足病学会学術集会，福岡，2017年5月26日。
13. 大浦紀彦：足病分野の法制化に向けて足病ガイド／冊子作成に向けて。第9回日本下肢救済足病学会学術集会，福岡，2017年5月26日。
14. 大浦紀彦：重症下肢虚血における創傷治療—形成外科が考える新しいチーム医療—。第9回日本下肢救済足病学会学術集会，福岡，2017年5月27日。
15. 成田圭吾，多久嶋亮彦，白石知大，波利井清紀：三叉神経麻痺を合併した陳旧性顔面神経麻痺患者に対する角膜知覚の再建。第40回日本顔面神経学会，さいたま，2017年5月31日-6月1日。
16. 多久嶋亮彦，成田圭吾，白石知大：陳旧性麻痺に対する一期的遊離広背筋移植術—顔面神経のみと，顔面神経及び咬筋神経の両方を動力源とした方法の比較—。第40回日本顔面神経学会，さいたま，2017年6月1日。
17. Takushima A: Dual Innervated Latissimus Dorsi Muscle Transfer. Video Seminar XII International Facial Nerve Symposium, USA, June 4th, 2017.
18. Takushima A: One-stage Latissimus Dorsi Muscle transfer for facial reanimation - Comparison between single and dual innervation -. XII International Facial Nerve Symposium, USA, June 4th, 2017.
19. 大浦紀彦：下肢救済の現状と最新の治療—透析患者さんが一生元気に歩くために—。東京都臨床工学技士会 都民公開講座，東京，2017年6月4日。
20. 成田圭吾，多久嶋亮彦，波利井清紀：放射線性下顎骨壊死に対して下歯槽神経を温存した下顎骨区域切除と血管柄付き骨移植を行った2例。第41回日本頭頸部癌学会，京都，2017年6月8-9日。
21. Takushima A: One stage reanimation with LD flap. Pre-Congress Video Workshop 2017, The 9th Congress of World Society for Reconstructive Microsurgery, Korea, June 14th, 2017.
22. Takushima A: One-stage Latissimus Dorsi Muscle transfer for facial reanimation - Comparison between single and dual innervation -. The 9th Congress of World Society for Reconstructive Microsurgery, Korea, June 17th, 2017.
23. Fujiki M, Ozaki M, Iwashina Y, Takushima A: Strategy of surgical re-exploration for the thrombosis

- formation of transferred flap in head and neck reconstruction: transferred flap salvage or re-reconstruction?. The 9th Congress of World Society for Reconstructive Microsurgery, Korea, June 14th-17th, 2017.
24. 大浦紀彦: 重症下肢虚血の治療戦略. 第30回日本熱傷学会甲信地方会, 山梨, 2017年6月17日.
 25. 尾崎峰, 藤木政英, 岩科裕己, 井原玲, 栗田昌和, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 血管奇形病変からの出血に対する治療法の検討. 第9回日本創傷外科学会総会・学術集会, 岐阜, 2017年7月7日.
 26. 浅野悠, 成田圭吾, 白石知大, 菅浩隆, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 陳旧性顔面神経麻痺に対する広背筋採取後の漿液腫発生に関するリスク因子解析. 第9回日本創傷外科学会総会・学術集会, 岐阜, 2017年7月6-7日.
 27. 谷川昭子, 成田圭吾, 山崎究, 林雅裕: 下咽頭癌術後に生じた遅発性胃管気管瘻の1例. 第9回日本創傷外科学会総会・学術集会, 岐阜, 2017年7月6-7日.
 28. 大浦紀彦: CLIに対する包括的医療の現状 足を切らずに歩いて帰すためのチーム医療 形成外科の立場から. 下肢救済足病学会合同企画 シンポジウム CVIT, 京都, 2017年7月8日.
 29. 岩科裕己, 尾崎峰, 井原玲, 藤木政英, 多久嶋亮彦: 劇症型A群溶血性連鎖球菌感染症を発症した左上肢体幹部リンパ管静脈奇形の1例. 第14回血管腫血管奇形学会学術集会, 福島, 2017年7月14-15日.
 30. 大浦紀彦: 予後改善を見据えたBTK Intervention院内・院外連携で患者を救う. EVT Course シンポジウム TOPIC2017, 東京, 2017年7月20日.
 31. 大浦紀彦: VACultaの臨床使用・適応. VAC Summit 2017, 東京, 2017年7月29日.
 32. 大浦紀彦: 形成外科医から見た糖尿病性足病変. 第5回日本糖尿病リウマチ靴技術研究会, 東京, 2017年8月20日.
 33. 大浦紀彦: 新しいキズの治し方 キズってどうやって治るの? 地(知)の拠点. 杏林大学・三鷹ネットワーク大学共催 市民公開講座3, 三鷹, 2017年9月2日.
 34. 大浦紀彦: 足病重症化予防における献腎移植の重要性 足病 重症化予防 下肢末梢動脈指導管理加算 新設の背景. 臓器横断的シンポジウム15日本移植学会, 旭川, 2017年9月9日.
 35. 大浦紀彦, 田中マキ子, 吉村美音, 帯刀朋代, 関山琢也: Theater - Act against Pressure Injury (T-Actress) の活動 手術室褥瘡ゼロを目指して. 第19回日本褥瘡学会学術集会, 盛岡, 2017年9月1-5日.
 36. 大浦紀彦: 糖尿病性足病変の重症化を予防する. 第17回茨城フットケア研究会, 水戸, 2017年9月21日.
 37. 菅浩隆, 白石知大, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 二期的乳房再建中の体重変化が健側乳房体積に及ぼす影響. 第5回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会, 東京, 2017年9月21日.
 38. 白石知大: 概要・学会HP揭示内容. 第5回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会, 東京, 2017年9月21-22日.
 39. 白石知大, 菅浩隆, 辻直子, 多久嶋亮彦: NSM後の乳輪乳頭偏位の原因と予防. 第5回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会, 東京, 2017年9月21-22日.
 40. 白石知大: プレストインプラントを用いた再建困難症例に対する対応. 第5回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会, 東京, 2017年9月21-22日.
 41. 白石知大: インプラント乳房再建を見据えた乳房切除術, 乳房再建術の工夫. 第5回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会, 東京, 2017年9月21-22日.
 42. 大浦紀彦: 透析患者の下肢重症化予防—下肢末梢動脈疾患指導管理加算の意義—. 第1回新発田足を学ぶ会, 新潟, 2017年9月28日.
 43. 大浦紀彦: 透析CLIの重症化予防—下肢末梢動脈疾患指導管理加算の意義—. 北九州透析合併症カンファレンス, 北九州, 2017年10月12日.
 44. Ohura N: Aiming at ZERO incidence rate of the pressure ulcers in the operating room. Best Practice of PUP in perioperative setting by using dressing. 1st International Wound Care Conference Symposium, Seoul, October 13th, 2017.
 45. 大浦紀彦: 下肢救済のためのチーム医療 チームの中で形成外科は何をするか. 第3回日本下肢救済足病学会関西地方会, 奈良, 2017年10月14日.
 46. 菅浩隆, 倉地功, 栗田恵里奈, 多久嶋亮彦: 創傷治癒過程における単球・マクロファージ系細胞による線維化制御. 第26回日本形成外科学会基礎学術集会, 大阪, 2017年10月20日.
 47. 大浦紀彦: 形成外科からみたCLIの創傷治療. 第25回 Kansai Peripheral Revascularization 研究会: KPR, 大阪, 2017年10月21日.
 48. 大浦紀彦: 糖尿病性足病変の重症化予防—フットケアの基礎知識—. 第32回日本糖尿病合併症学会, 東京, 2017年10月29日.
 49. 森重侑樹, 大浦紀彦, 三鍋俊春: 当院での重症下肢虚血に対する大切断の周術期合併症と中期成績. 第42回日本足の外科学会総会, 2017年11月9-10日.
 50. 大浦紀彦: 糖尿病・透析患者の下肢重症化予防 Act Against Amputation のために. 東三河足病連携講演会, 豊橋, 2017年11月16日.
 51. 多久嶋亮彦: 顔面神経麻痺に対する遊離筋移植術の歴史と変遷. 第35回日本頭蓋顎顔面外科学会, 福岡, 2017年11月16日.
 52. 岩科裕己, 尾崎峰, 藤木政英, 多久嶋亮彦: 耳介部動静脈奇形切除後の耳介再建術. 第35回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 福岡, 2017年11月16-17日.
 53. 尾崎峰, 海野早織, 多久嶋亮彦: 簡便な眉毛挙上術の併用により寛解が得られた難治性眼瞼痙攣の2例. 第35回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 福岡, 2017年11月17日.
 54. 大浦紀彦: V.A.C.Ultimate™ Negative Pressure Wound Therapy Systemエビデンスと臨床使用のコツ. VAC Summit 2017, 名古屋, 2017年11月25日.
 55. 匂坂正信, 大浦紀彦, 松永洋明, 中山大輔, 小倉ふみ子, 多久嶋亮彦: 遊離皮弁移植術を施行する重症下肢虚血における局所陰圧閉鎖療法の適応. 第44回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 宮崎, 2017年12月7日.
 56. 大浦紀彦: 手術室褥瘡発生率ゼロをめざして ドレッシングを使った周術期褥瘡対策のベストプラクティス. PUP seminar, 東京, 2017年12月8日.
 57. 白石知大: 形成外科領域における新しい超音波装置の有用性と展望. 第44回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 宮崎, 2017年12月7-8日.
 58. 成田圭吾, 岩科裕己, 多久嶋亮彦: 二重神経支配型遊離筋肉移植による笑いの再建と脳の可塑性—Functional MRIによる検討—. 第44回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 宮崎, 2017年12月7-8日.
 59. 大浦紀彦: 手術室褥瘡発生率ゼロをめざして ドレッシングを使った周術期褥瘡対策のベストプラクティス. PUP seminar, 大阪, 2017年12月9日.
 60. 大浦紀彦: 第2回足部創傷患者のリスク管理 リハビリ

テーションが患者の人生を変える.第2回足部創傷患者 Free Conference, 東京, 2018年1月21日.

61. 大浦紀彦: V.A.C.UltTM Negative Pressure Wound Therapy Systemエビデンスと臨床使用のコツVAC. VAC Summit 2018 in Shikoku, 徳島, 2018年1月27日.
62. 大浦紀彦: 糖尿病性足病変の重症化予防—フットケアの基礎知識—. 第14回相模原フットケアセミナー, 相模大野, 2018年2月7日.
63. 多久嶋亮彦: 健側顔面神経と患側咬筋神経を動力源とする広背筋移植術を用いた陳旧性顔面神経麻痺に対する再建術. 第23回日本形成外科手術手技学会, 兵庫, 2018年2月10日.
64. 尾崎峰, 佐藤大介, 藤木政英, 多久嶋亮彦: ナイロン糸を用いた簡便な眉毛挙上術の適応拡大—陳旧性顔面神経麻痺などへの応用—. 第23回日本形成外科手術手技学会学術集会, 尼崎, 2018年2月10日.
65. Takushima A: Education Lecture Dual Innervated Latissimus Dorsi Muscle Transfer for Longstanding Paralyzed Face. The 34th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter, USA, February 17th, 2018.
66. 大浦紀彦: 創傷観察のポイント. JET2018, 大阪, 2018年2月23日.
67. 大浦紀彦: 奥深きCLI創傷管理 CLIの創傷管理 形成外科的見地から. JET2018, 大阪, 2018年2月23日.
68. 大浦紀彦: 大切断後の予後の検討. JET2018, 大阪, 2018年2月24日.
69. 大浦紀彦: 外科手術不能, EVT不能, CLI患者に対する新治療の国際共同治験の試み 創傷治癒評価と創傷治療. JET2018, 大阪, 2018年2月23日.
70. 大浦紀彦: 糖尿病性足病変の重症化予防—フットケアの基礎知識—. 第3回玄々堂君津病院足を学ぶ会, 第3回SMU糖尿病セミナー, 君津, 2018年3月1日.
71. 大浦紀彦: 糖尿病性足病変の重症化予防—免荷の重要性—. Scientific Medical Update, 横浜, 2018年3月10日.

論文

1. 大浦紀彦, 岩科祐己, 倉地彩奈, 関山琢也, 森重侑樹, 松永洋明: 上皮形成期における滲出液の管理. WOC Nursing 5(4): 64-68, 2017.
2. 大浦紀彦, 匂坂正信, 加賀谷優, 関山琢也, 寺部雄太, 山下雄太郎: CLI患者の予後はどのくらい不良なのか?. Heart View 21(11): 1113-1116, 2017.
3. 大浦紀彦, 匂坂正信, 関山琢也, 松永洋明, 寺部雄太, 森重侑樹, 木下幹雄, 多久嶋亮彦: 下肢末梢動脈疾患指導管理加算の意義と透析施設の留意点. 日本フットケア学会雑誌 15(4): 1-5, 2017.
4. 桐渕英人, 尾崎峰, 山崎和紀, 木村勇亮, 佐久間文子, 神尾友信, 波利井清紀: 上顎洞内に多発嚢胞性病変を生じたセメント質骨形成線維腫の1例. 形成外科 60(4): 445-452, 2017.
5. 尾崎峰, 岩科祐己, 井原玲, 清家志円: 頭頸部動静脈奇形に対する分割切除法 bordering method. 形成外科 60(6): 624-634, 2017.
6. 大浦紀彦, 吉村美音, 加賀谷優, 関山琢也, 森重侑樹, 糟谷祐輔, 庭山由香, 丹波光子, 多久嶋亮彦: 脊椎後方手術の術中褥瘡予防におけるソフトシリコンフォームドレッシングの有用性 - BOSS trial -. 形成外科 60(11): 1246-1255, 2017.
7. 尾崎峰: 乳児血管腫に対する色素レーザー治療後に目立つ瘢痕を生じた1例. 形成外科 60(12): 1345-1349, 2017.
8. 佐藤大介, 尾崎峰: 炭酸ガスレーザーによる黒子治療後に生じた陥凹瘢痕に対してトレチノイン軟膏により良好な結果が得られた1例. 形成外科 60(12): 1350-1352, 2017.
9. Moriyama K, Mitsuda M, Kurita M, Ozaki M, Moriyama K, Yorozu T: When can we give general anesthesia to an infant with anticipated difficult airway management caused by facial vascular malformation?. JA Clin Rep 3(1): 12, 2017.
10. Ozaki M, Narita K, Kurita M, Iwashina Y, Takushima A, Harii K: Implantation of Thickened Artificial Bone for Reduction of Dead Space and Prevention of Infection Between Implant and Dura in Secondary Reconstruction of the Skull. J Craniofac Surg 28(4): 888-891, 2017.
11. Suga H, Ozaki M, Narita K, Shiraishi T, Takushima A, Harii K: Preoperative asymmetry is a risk factor for reoperation in involutional blepharoptosis. J Plast Reconstr Aesthet Surg 70(5): 686-691, 2017.
12. Fukuoka H, Narita K, Suga H: Hair regeneration therapy: application of adipose-derived stem cells. Curr Stem Cell Res Ther 12(7): 531-534, 2017.
13. Fujiki M, Ozaki M, Kai A, Takushima A, Harii K: Successful second microsurgical replantation for amputated penis. Plast Reconstr Surg Glob Open 5(9): e1512, 2017.
14. Suga H, Shiraishi T, Tsuji N, Takushima A: Risk factors for complications in expander-based breast reconstruction: multivariate analysis in Asian patients. Plast Reconstr Surg Glob Open 5(11): e1563, 2017.
15. Fukuoka H¹, Narita K, Suga H (Cherry-Blossom Plastic and Regenerative Surgery): Hair regeneration therapy: Application of adipose-derived stem cells. Current Stem Cell Res Ther 12(7): 531-534, 2017.
16. 大浦紀彦, 寺部雄太: 外来で役立つ糖尿病足病変に対する靴と免荷の知識. Monthly Book Orthopaedics 31(3): 51-57, 2018.
17. Yanagi H, Terashi H, Takahashi Y, Okabe K, Tanaka K, Kimura C, Ohura N, Goto T, Hashimoto I, Noguchi M, Sasayama J, Shimada K, Sugai A, Tanba M, Nakayama T, Tsuboi R, Sugama J, Sanada H: The Japanese registry for surgery of ischial pressure ulcers: STANDARDS-I. J Wound Care 27(3): 174-183, 2018.
18. Satoh T, Kurita M, Suga H, Eto H, Ozaki M, Takushima A, Harii K: Efficient isolation and culture of endothelial cells from venous malformation using the Rho-associated protein kinase inhibitor Y27632. J Plast Surg Hand Surg 52(1): 60-66, 2018.

著書

1. 菅浩隆, 多久嶋亮彦: 縫合の基本手技. 外科系医師が知っておくべき創傷治療のすべて. 東京, 南江堂, 2017. p.61-66.
2. 山下雄太郎, 大浦紀彦, 関山琢也: 静脈鬱滞性潰瘍. 外科系医師が知っておくべき創傷治療のすべて. 東京, 南江堂, 2017. p.252-257.
3. 大浦紀彦, 倉地功, 加賀谷優, 多田朋子, 斉藤隆文, 浅野悠, 吉村美音, 丹波光子, 多久嶋亮彦: 各症状への対応 15褥瘡. がん領域における緩和医療の実践. 鈴木直, 藤村正樹, 宮城悦子, 東口高志編集. 東京, 金原出版, 2017. pp.144-149.
4. 大浦紀彦, 匂坂正信, 加賀谷優, 関山琢也, 森重侑樹, 木村武一郎, 田中俊一: PADとフットケア. 基礎からわかる透析療法パーフェクトガイド改訂第2版. 東京, 学

研メディカル秀潤社, 2017. p.244-249.

5. 大浦紀彦: Nutrition Support Team 栄養サポートチーム. NST PDN通信. 東京, NPO法人PDN, 2017.

その他

1. 多久嶋亮彦: 学会主催: 第44回日本マイクロサージャリー学会, 宮崎, 2017年12月7-8日.
2. 大浦紀彦: 研究会主催: 東京CLIの会, 東京, 2017年4月6日.
3. 大浦紀彦: 研究会主催: Lswann_meeting, 武蔵野, 2017年4月15日.
4. 大浦紀彦: 研究会主催: Act Against Amputation. 産学協議会2017, 東京, 2017年7月28日.
5. 大浦紀彦: 研究会主催: 東京CLIの会, 東京, 2017年8月10日.
6. 大浦紀彦: 研究会主催: TOWN Meeting, 武蔵野, 2017年8月31日.
7. 大浦紀彦: 研究会主催: 東京CLIの会, 東京, 2018年1月25日.
8. 大浦紀彦: 研究会主催: Lswann_meeting, 武蔵野, 2018年2月3日.
9. 浅野悠, 成田圭吾, 白石知大, 菅浩隆, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 最優秀演題受賞: 陳旧性顔面神経麻痺に対する広背筋採取後の漿液腫発生に関するリスク因子解析. 第9回日本創傷外科学会総会学術集会, 岐阜, 2017年7月6-7日.
10. 成田圭吾: 連載: 教室だより北〜南(34)杏林大学医学部形成外科学教室医局紹介 形成外科 60(10), 2017.

泌尿器科学教室

講演

1. 多久嶋亮彦: 学会主催: 第44回日本マイクロサージャリー学会, 宮崎, 2017年12月7-8日.
2. 大浦紀彦: 研究会主催: 東京CLIの会, 東京, 2017年4月6日.
3. 大浦紀彦: 研究会主催: Lswann_meeting, 武蔵野, 2017年4月15日.
4. 大浦紀彦: 研究会主催: Act Against Amputation. 産学協議会2017, 東京, 2017年7月28日.
5. 大浦紀彦: 研究会主催: 東京CLIの会, 東京, 2017年8月10日.
6. 大浦紀彦: 研究会主催: TOWN Meeting, 武蔵野, 2017年8月31日.
7. 大浦紀彦: 研究会主催: 東京CLIの会, 東京, 2018年1月25日.
8. 大浦紀彦: 研究会主催: Lswann_meeting, 武蔵野, 2018年2月3日.
9. 浅野悠, 成田圭吾, 白石知大, 菅浩隆, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 最優秀演題受賞: 陳旧性顔面神経麻痺に対する広背筋採取後の漿液腫発生に関するリスク因子解析. 第9回日本創傷外科学会総会学術集会, 岐阜, 2017年7月6-7日.
10. 成田圭吾: 連載: 教室だより北〜南(34)杏林大学医学部形成外科学教室医局紹介 形成外科 60(10), 2017.
- 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: HoLEP後に見つかった前立腺癌の臨床経過と関連因子の検討. 第105回日本泌尿器科学会総会, 鹿児島, 2017年4月22日.
8. 北村盾二, 宮川昌悟, 田中界, 長嶺陽平, 舩田一樹, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術(RALP)術後のPSA再発予測因子の検討. 第105回日本泌尿器科学会総会, 鹿児島, 2017年4月22日.
9. 桶川隆嗣, 舩田一樹, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 奴田原紀久雄: 去勢抵抗性前立腺癌治療における末梢循環癌細胞のARV7を用いた治療して効果予測. 第105回日本泌尿器科学会総会, 鹿児島, 2017年4月23日.
10. 桶川隆嗣, 宮川昌悟, 田中界, 長嶺陽平, 北村盾二, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 奴田原紀久雄: 当院におけるロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術の初期成績. 第105回日本泌尿器科学会総会, 鹿児島, 2017年4月23日.
11. 中村雄, 田中界, 宮川昌悟, 長嶺陽平, 北村盾二, 舩田一樹, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 金城真実, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 当院における進行性尿路上皮癌に対する化学療法の治療成績. 第105回日本泌尿器科学会総会, 鹿児島, 2017年4月23日.
12. 山口剛, 東原英二, 北村盾二, 中村雄, 榎本香織, 板谷直, 原秀彦, 金城真実, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 宮崎功, 似鳥俊明, 奴田原紀久雄: 多発性嚢胞腎(ADPKD)患者におけるTKV, logTKV, eGFRと遺伝子変異型との関連. 第105回日本泌尿器科学会総会, 鹿児島, 2017年4月23日.
13. 金城真実, 宮川昌悟, 田中界, 長嶺陽平, 北村盾二, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 女性過活動膀胱患者における治療効果と精神症状への影響. 第105回日本泌尿器科学会総会, 鹿児島, 2017年4月23日.
14. 松本龍貴, 小田金哲広, 加藤司顯, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 当院におけるESWLの治療成績. 第105回日本泌尿器科学会総会, 鹿児島, 2017年4月21-24日.
15. 山口剛, 東原英二, 宮川昌悟, 松本龍貴, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 中村雄, 板谷直, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 宮崎功, 似鳥俊明, 奴田原紀久雄: 多発性嚢胞腎患者におけるTKV, eGFRと遺伝子変異型との関連. 第60回日本腎臓学会学術総会, 仙台, 2017年5月26-28日.
16. 山口剛, 東原英二, 宮川昌悟, 松本龍貴, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 中村雄, 板谷直, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 宮崎功, 似鳥俊明, 奴田原紀久雄: ADPKD患者のtolvaptan内服の有無による最適eGFR式の検討. 第60回日本腎臓学会学術総会, 仙台, 2017年5月26-28日.
17. 武藤智, 望月俊雄, 土谷健, 西尾妙織, 花岡一成, 乳原善文, 奴田原紀久雄, 鶴屋和彦, 成田一衛, 丸山彰一, 堀江重郎: 多発性嚢胞腎患者全国登録による多施設共同研究 (J-PKDレジストリー研究): 中間報告. 第60回日本腎臓学会学術総会, 仙台, 2017年5月26-28日.
18. 奴田原紀久雄: 小児の尿路結石. 第52回日本小児腎臓学会学術集会, 東京, 2017年6月2日.
19. 中村雄: 各施設からみた結節性硬化症とその課題 (大学病院). 多摩地区結節性硬化症診療連携セミナー, 立川, 2017年6月8日.
20. 金城真実, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 東京西部大学病院における女性泌尿器科手術に関する検討. 第30回日本老年泌尿器科学会, 東京, 2017年6月9日.
21. 桶川隆嗣: CRPCにおけるPrecision medicineの展望. 第10回Apricot Urology Forum, 東京, 2017年6月22日.
22. Kinjo M, Yoshimura Y, Okegawa T, Nutahara K: Does anti-incontinence surgery affect urinary incontinence-specific quality of life in prolapse

- patients after trans-vaginal mesh surgery?. International Urogynecology Association 42th Annual Meeting, Canada, June 23rd, 2017.
23. 桶川隆嗣：去勢抵抗性前立腺癌におけるPrecision medicineを実現する治療戦略. 第107回千葉泌尿器科集談会, 千葉, 2017年6月24日.
 24. 鮫島未央, 宮川昌悟, 松本龍貴, 大村章太, 北村盾二, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 前立腺癌硬膜転移の1例. 第624回日本泌尿器科学会東京地方会, 東京, 2017年6月24日.
 25. 奴田原紀久雄: 前立腺がん検診の最近の話題—三鷹市前立腺がん検診の変遷を踏まえて—. 三鷹市医師会高齢者疾患研究会講演会, 三鷹, 2017年7月14日.
 26. 奴田原紀久雄: 前立腺がん内分泌療法—中止できる症例はあるのか—. 第13回多摩前立腺がん医療連携研究会, 武蔵野, 2017年7月26日.
 27. 金城真実, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 尿道スリング術前後で性機能は変化するか?. 第19回女性骨盤底医学会, 福井, 2017年7月30日.
 28. 桶川隆嗣: 去勢抵抗性前立腺癌におけるPrecision medicineの展望. アカデミック in MIYAGI, 仙台, 2017年9月5日.
 29. Kinjo M, Okegawa T, Nutahara K: Does mirabegron treatment affect the mental status of treatment-naive female patients with overactive bladder?. International continence society 2017, Italy, September 13th, 2017.
 30. 桶川隆嗣, 多武保光宏, 奴田原紀久雄: 前立腺癌バイオマーカーのパラダイムシフト—去勢抵抗性前立腺癌におけるliquid biopsyの現状と展望. 第82回日本泌尿器科学会東部総会, 東京, 2017年9月16日.
 31. 宮川昌悟, 松本龍貴, 大村章太, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 舩田一樹, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 金城真実, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 転移性腎癌治療における好中球／リンパ球比と腫瘍縮小率との関連. 第82回日本泌尿器科学会東部総会, 東京, 2017年9月16日.
 32. 大村章太, 宮川昌悟, 松本龍貴, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: アジュバント化学療法を行った腎盂尿管癌における予後予測因子に関する検討. 第82回日本泌尿器科学会東部総会, 東京, 2017年9月16日.
 33. 二宮直紀, 宮川昌悟, 松本龍貴, 大村章太, 鮫島未央, 北村盾二, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 多武保光宏, 金城真実, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 当院における根治的膀胱全摘除術の周術期合併症の検討. 第82回日本泌尿器科学会東部総会, 東京, 2017年9月16日.
 34. 松本龍貴, 宮川昌悟, 大村章太, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 去勢抵抗性前立腺癌に対するカバジタキセルの使用経験. 第82回日本泌尿器科学会東部総会, 東京, 2017年9月16日.
 35. 鮫島未央, 宮川昌悟, 松本龍貴, 大村章太, 北村盾二, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 金城真実, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 転移性腎細胞癌に対する分子標的投与における腎機能障害の検討. 第82回日本泌尿器科学会東部総会, 東京, 2017年9月17日.
 36. 山口剛: 当科におけるCRPCに対するエンザルタミドの効果についての検討. 第139回多摩泌尿器科医会, 立川, 2017年9月22日.
 37. 金城真実, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 女性過活動膀胱患者におけるミラベグロンの精神症状に及ぼす効果. 第24回日本排尿機能学会, 東京, 2017年9月28日.
 38. 桶川隆嗣: 泌尿器科がんにおけるバイオマーカー研究. 中外製薬学術セミナー, 東京, 2017年10月12日.
 39. 桶川隆嗣: 再発前立腺がん治療の最前線. 前立腺がん市民公開講座, 八王子, 2017年11月5日.
 40. 桶川隆嗣: 前立腺癌のPrecision medicineについて—liquid biopsy最前線. Urologic Oncology Forum in Saitama, さいたま, 2017年11月10日.
 41. 中村雄, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 多摩地区におけるTSC医療連携の取り組み. 第5回日本結節性硬化症学会学術総会, 東京, 2017年11月11日.
 42. 多武保光宏, 大村章太, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 上部尿路結石に対する治療のタイミングと術式選択—10mmの腎結石に対するストラテジー. 第31回日本泌尿器内視鏡学会, 徳島, 2017年11月17日.
 43. 多武保光宏: Impacted stoneに対する治療戦略を考える—PNLの立場から—. 第31回日本泌尿器内視鏡学会, 徳島, 2017年11月17日.
 44. 二宮直紀, 松本龍貴, 大村章太, 鮫島未央, 北村盾二, 中村雄, 板谷直, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: ロボット支援腎部分切除術と腹腔鏡下腎部分切除術についての臨床的検討. 第31回日本泌尿器内視鏡学会, 徳島, 2017年11月17日.
 45. 松本龍貴, 宮川昌悟, 大村章太, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 舩田一樹, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 当院における腹腔鏡下腎盂形成術についての検討. 第31回日本泌尿器内視鏡学会, 徳島, 2017年11月17日.
 46. 大村章太, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 嵌頓結石におけるTULの治療成績. 第31回日本泌尿器内視鏡学会, 徳島, 2017年11月17日.
 47. 宮川昌悟, 松本龍貴, 大村章太, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 舩田一樹, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 金城真実, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 腎盂尿管腫瘍に対する腹腔鏡下手術と開腹手術についての臨床的検討. 第31回日本泌尿器内視鏡学会, 徳島, 2017年11月17日.
 48. 中村雄, 宮川昌悟, 松本龍貴, 大村章太, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 山口剛, 板谷直, 金城真実, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: ロボット支援前立腺全摘除術と腹腔鏡下前立腺全摘除術の術後尿禁制の比較検討. 第31回日本泌尿器内視鏡学会, 徳島, 2017年11月18日.
 49. 鮫島未央, 宮川昌悟, 松本龍貴, 大村章太, 北村盾二, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: PNLを施行した蛋白結石の2例. 第31回日本泌尿器内視鏡学会, 徳島, 2017年11月18日.
 50. 多武保光宏: 前立腺肥大症の診断と治療. 第4回新川BPHミーティング, 東京, 2017年12月7日.
 51. 桶川隆嗣: 去勢抵抗性前立腺癌におけるバイオマーカー研究. アステラス学術セミナー, 東京, 2017年12月14日.
 52. 松本龍貴, 宮川昌悟, 大村章太, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 舩田一樹, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 大森嘉彦, 千葉知宏, 長濱清隆, 藤原正親, 菅間博, 柴原純二: 両側腎オンコサイトーマの1例. 第625回日本泌尿器科学会東京地方会, 東京, 2017年12月21日.
 53. 多武保光宏: 症状がない怖い泌尿器腫瘍. 杏林大学公開講演会, 八王子, 2018年1月6日.
 54. 宮川昌悟, 松本龍貴, 大村章太, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 中村雄, 藤田直之, 山口剛, 板谷直, 金城真

実, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 下大静脈腫瘍塞栓および右房内進展を伴う腎癌に対して術前スニチニブ投与後に手術を施行した1例. 第141回多摩泌尿器科医会, 武蔵野, 2018年1月26日.

55. 中村雄: 障害者施設からの受け入れ症例について. 多摩地区結節性硬化症診療連携セミナー, 立川, 2018年2月2日.
56. 桶川隆嗣: 前立腺がんにおける薬物治療について—最近の知見も踏まえて—. 第7回泌尿器単孔式・Reduced port腹腔鏡手術ワークショップ, 豊中, 2018年3月31日.

論文

1. Okegawa T, Morimoto M¹, Nishizawa S¹, Kitazawa S¹, Honda K¹, Araki H¹, Tamura T¹, Ando A¹, Satomi Y¹, Nutahara K, Hara T¹ (¹Takeda Pharmaceutical Company Limited) : Intratumor heterogeneity in primary kidney cancer revealed by metabolic profiling of multiple spatially separated samples within tumors. *EBioMedicine* 19:31-38, 2017. doi: 10.1016/j.ebiom.2017.04.009.
2. Shimizu F^{1,2}, Muto S³, Taguri M⁴, Ieda T¹, Tsujimura A^{1,5}, Sakamoto Y^{1,2}, Fujita K^{1,6}, Okegawa T, Yamaguchi R³, Horie S^{1,3} (¹Juntendo University Graduate School of Medicine, ²Juntendo Nerima Hospital, ³Teikyo University School of Medicine, ⁴Yokohama City University School of Medicine, ⁵Juntendo Urayasu Hospital, ⁶Juntendo Shizuoka Hospital) : Effectiveness of platinum-based adjuvant chemotherapy for muscle-invasive bladder cancer: A weighted propensity score analysis. *Int J Urol* 24(5): 367-372, 2017. doi: 10.1111/iju.13324.
3. Fujita N, Tambo M, Okegawa T, Higashihara E¹, Nutahara K (¹Department of Autosomal Dominant Polycystic Kidney Disease Research, Kyorin University School of Medicine) : Distinguishing testicular torsion from torsion of the appendix testis by clinical features and signs in patients with acute scrotum. *Res Rep Urol* 9: 169-174, 2017. doi: 10.2147/RRU.S140361.
4. Yoshida H¹, Higashihara E², Maruyama K¹, Nutahara K, Nitatori T³, Miyazaki I³, Shiokawa Y¹ (¹Department of Neurosurgery, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Polycystic Kidney Research, Kyorin University School of Medicine, ³Department of Radiology, Kyorin University School of Medicine) : Relationship between intracranial aneurysms and the severity of autosomal dominant polycystic kidney disease. *Acta Neurochir* 159(12): 2325-2330, 2017. doi: 10.1007/s00701-017-3316-8.
5. 桶川隆嗣, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 奴田原紀久雄: 去勢抵抗性前立腺癌における末梢循環癌細胞と androgen-receptor splice variant 7 の意義. 泌外 30(臨増): 679-682, 2017.
6. 多武保光宏: 尿路結石に対する外科的治療 stone free 100%を目指して—上部尿路結石内視鏡治療と尿路感染症—. *臨泌* 71(9): 662-669, 2017.
7. 金城真実, 嘉村康邦¹, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄 (¹四谷メディカルキューブ) : TVM手術時尿道スリング術併用の有無における下部尿路症状に関する検討. *日女性骨盤底医会誌* 14(1): 59-62, 2017.
8. Narita M¹, Kageyama S¹, Okegawa T, Kinoshita H², Sato F³, Nakagawa K⁴, Habuchi T⁵, Hoshi A⁶, Matsubara A⁷, Yoshimura K⁸, Terachi T⁶, Mimata H³, Kawauchi A¹ (¹Shiga University of Medical Science, ²Kansai Medical University, ³Oita University, ⁴Tokyo Dental College Ichikawa General Hospital, ⁵Akita

University Graduate School of Medicine, ⁶Tokai University School of Medicine, ⁷Hiroshima University, ⁸Shizuoka General Hospital) : Urological laparoendoscopic single-site and reduced port surgery: A nationwide survey in Japan. *Int J Urol* 25(3): 263-268, 2018. doi: 10.1111/iju.13504.

9. Fujita N, Tambo M, Terado Y¹, Fujita M², Okegawa T, Nutahara K (¹Kawasaki Saiwai Hospital, ²Fujita Clinic) : Vesicoenteric Fistula Arising from an Adenocarcinoma of Ectopic Pancreatic Tissue in a Meckel Diverticulum. *Case Rep Oncol* 11(1): 6-10, 2018. doi: 10.1159/000485458.
10. 桶川隆嗣, 舩田一樹: 前立腺がんにおけるプレシジョンメディシンの現状と今後. *腎臓内科・泌尿器科* 7(2): 140-147, 2018.
11. 舩田一樹, 桶川隆嗣: 前立腺癌におけるLiquid biopsyの現状と展望. *西日泌* 80(2): 43-49, 2018.

著書

1. 奴田原紀久雄 (分担執筆): 16. 【13】 嚢胞性腎疾患. 1336 専門家による私の治療 [2017-18年度版]. 猿田享男, 北村惣一郎監修. 東京, 日本医事新報社, 2017. p.1190-1192.
2. 奴田原紀久雄 (分担執筆): III. 5. 尿管鏡検査. 日本臨床 75増刊号6 新腎・泌尿器症 (上) —基礎・臨床研究の進歩—. 東京, 日本臨床社, 2017. p.471-474.
3. 桶川隆嗣 (分担執筆): CTCとAR-V7ってなんですか? のように有効でしょうか? Q&Aでスッキリわかる前立腺癌. 鈴木啓悦編集. 東京, メジカルビュー社, 2017. p.202-209.
4. 山本新吾, 奴田原紀久雄, 山口秋人, 麦谷荘一, 山田仁, 松崎純一, 高橋聡, 安田満, 和田浩一郎, 宮崎淳 (共著): 尿管ステントマニュアル. 日本泌尿器内視鏡学会尿路ステント部会編集. 東京, 日本泌尿器内視鏡学会, 2017.
5. 桶川隆嗣 (分担執筆): 19. 泌尿器科疾患 腎盂・尿管腫瘍. 今日の治療指針2018年版 (ポケット版). 福井次矢, 高木誠, 小室一成総編集. 東京, 医学書院, 2018. p.1152-1153.
6. 桶川隆嗣 (分担執筆): 19. 泌尿器科疾患 腎盂・尿管腫瘍. 今日の治療指針2018年版 (ポケット版). 福井次矢, 高木誠, 小室一成総編集. 東京, 医学書院, 2018. p.1152-1153.
7. 多武保光宏 (分担執筆): 尿路感染症. 腎疾患・透析最新の治療2017-2019. 山懸邦弘, 南学正臣編集. 東京, 南江堂, 2017. p.213-216.

その他

1. 奴田原紀久雄: 「前立腺肥大症のレーザー治療」の特集に寄せて. *日レーザー医会誌* 38(1): 13, 2017
2. 桶川隆嗣: 泌尿生殖器腫瘍: 後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節廓清術. 先進医療BooK. ソニー生命保険株式会社, 2017, p.5.
3. 桶川隆嗣: Doctor's Message for NURSE. PROSTELLA summer, 2017, p.3.
4. 桶川隆嗣: 前立腺癌におけるliquid biopsyの現状と展望. *Prostate Cancer Front Line* Vol6, No1. 2017, p.2-9.
5. 谷口珠実, 奴田原紀久雄: 平成29年度三鷹・武蔵野・小金井 排尿障害勉強会 開催報告. 多摩泌尿器科医会雑誌 21:35-45, 2017.
6. 桶川隆嗣: 第2回Liquid Biopsy研究会主催, 東京, 2018年1月20日.
7. 金城真実, 奴田原紀久雄, 蒲生忍: 多摩地区における健診受信者の下部尿路症状の実態調査. 平成29年度杏林大学杏林CCRC研究所紀要 2018, p.119-121.

論文

英文

1. Kugita M¹, Nishii K², Yamaguchi T³, Suzuki A⁴, Yuzawa Y⁵, Horie S⁶, Higashihara E, Nagao S¹(¹Fujita Health University, ²Fujita Health University, ³Suzuka University of Medical Science, ⁴Fujita Health University, ⁵Fujita Health University School of Medicine, ⁶Juntendo University School of Medicine): Beneficial effect of combined treatment with octreotide and pasireotide in PCK rats, an orthologous model of human autosomal recessive polycystic kidney disease. PLoS One. 12(5):e0177934, 2017. doi: 10.1371/journal.pone.0177934.
2. Fujita N, Tambo M, Okegawa T, Higashihara E, Nutahara K: Distinguishing testicular torsion from torsion of the appendix testis by clinical features and signs in patients with acute scrotum. Res Rep Urol. 9:169-174, 2017. doi: 10.2147/RRU.S140361.
3. Yoshida H, Higashihara E, Maruyama K, Nutahara K, Nitatori T, Miyazaki I, Shiokawa Y: Relationship between intracranial aneurysms and the severity of autosomal dominant polycystic kidney disease. Acta Neurochir (Wien). 159(12):2325-2330, 2017.
4. Grantham JJ¹, Chapman AB², Blais J³, Czerwiec FS³, Devuyt O⁴, Gansevoort RT⁵, Higashihara E, Krasa H³, Zhou W³, Ouyang J³, Perrone RD⁶, Torres VE⁷; TEMPO 3:4 Investigators(¹Kansas University Medical Center, ²University of Chicago, ³Otsuka Pharmaceutical Development and Commercialization, ⁴University of Zurich, ⁵University of Groningen, ⁶Tufts Medical Center, ⁷Mayo Clinic): Tolvaptan suppresses monocyte chemotactic protein-1 excretion in autosomal-dominant polycystic kidney disease. Nephrol Dial Transplant. 32(6):969-975, 2017.
5. Higashihara E, Horie S¹, Kinoshita M², Harris P³, Okegawa T, Tanbo M, Hara H, Yamaguchi T, Shigemori K, Kawano H¹, Miyazaki I, Kaname S, Nutahara K(¹Juntendo University School of Medicine, ²Otsuka Pharmaceutical Co.,Ltd.,³Mayo Clinic): A potentially crucial role of the *PKD1* C-terminal tail in renal prognosis. Clin Exp Nephrol. 2017. DOI: 10.1007/s10157-017-1477-7.

眼科学教室

講演

1. 平形明人：我が国の先進医療制度の概念。第121回日本眼科学会総会，東京，2017年4月6-9日。
2. 安藤良将，慶野博，宮東昭彦，梅澤一夫，岡田アナベルあやめ：エンドトキシン誘導ぶどう膜炎に対するNF-κB阻害剤DHMEQの抗炎症効果の検討。第121回日本眼科学会総会，東京，2017年4月6-9日。
3. 井上真：ガス注入眼でのOptos超広角眼底像。日本眼科学会イブニングセミナー，東京，2017年4月6日。
4. 山田昌和：メタボ・ロコモだけで大丈夫？見直そう目の大切さ。第121回日本眼科学会総会，東京，2017年4月9日。
5. 厚東隆志，安藤良将，慶野博，井上真，平形明人：YAGレーザー硝子体照射による網膜への影響。第121回日本眼科学会総会，東京，2017年4月6-9日。
6. 斎藤恒浩，北善幸，堀江大介，五月女典久，村井顕子，平形明人：緑内障眼における視神経乳頭周囲の網膜全層厚と網膜神経線維層厚の再現性の比較。第121回日本眼

科学会総会，東京，2017年4月6-9日。

7. 佐野公彦，伊東裕二，廣田和成，北善幸，厚東隆志，井上真，平形明人：近視眼の増殖糖尿病網膜症に対する硝子体手術の検討。第121回日本眼科学会総会，東京，2017年4月6-9日。
8. 北善幸：緑内障に対するMP-3およびRS-3000の有用性OCT-Angiographyの読影と症例検討（Part2）進化した活用法。第121回日本眼科学会総会，東京，2017年4月6-9日。
9. 平形明人：糖尿病網膜症のチーム医療。第33回糖尿病眼合併症を考える会，東京，2017年4月13日。
10. 山田健司，慶野博，柳沼重晴，渡辺敏樹，岡田アナベルあやめ：眼部帯状ヘルペス発症後に脈絡膜の斑状脱色素と菲薄化を生じた一例。第9回東京多摩眼科連携セミナー，東京，2017年4月15日。
11. 井上真：網膜静脈閉塞症の治療戦略。第15回トラバの会，東京，2017年4月26日。
12. 井上真：RVO治療のUpdate。RVOUpdateセミナー，東京，2017年4月27日。
13. 平形明人：網膜分離様所見を呈する病変の手術。第7回仙台網膜道場，仙台，2017年4月29日。
14. 北善幸：緑内障手術療法について。アルコンファーマ社内講演会，東京，2017年4月27日。
15. 鈴木由美：両眼性先天性斜筋麻痺。第9回Eye Center Summit，東京，2018年5月13日。
16. 井上真：増殖糖尿病網膜症。硝子体手術ビデオセミナー，東京，2017年5月21日。
17. 山田昌和：日本のクリニックのドライアイ診療実態，DECS-Jからの学び。第11回箱根ドライアイクラブ，小田原，2017年5月26日。
18. 山田昌和：ちょっと気になる前眼部疾患。第14回多摩外眼部疾患研究会，立川，2017年6月1日。
19. 井上真：術中OCT併用硝子体手術。第18回愛知眼科アカデミー，名古屋，2017年6月1日。
20. 井上真：術中OCT併用硝子体手術。第1回Satama Ophthalmology Update Seminar (SOUS)，さいたま，2017年6月4日。
21. 山田昌和：ドライアイ診療のトレンド，新しい定義と診断基準を交えて。第9回コルニアフェイコセミナー，横浜，2017年6月8日。
22. 山田昌和：コンタクトレンズとオキュラーサーフェス。第265回長野県眼科医会集談会，松本，2017年6月11日。
23. 百田陽介，鈴木由美，満川忠宏，富田茜，浜由起子，山田昌和：前眼部OCTを用いた調節機能の他覚的評価の試み。第73回日本弱視斜視学会総会，金沢，2017年6月16日。
24. 関口愛，鈴木由美，満川忠宏，富田茜，浜由起子，山田昌和：遠視性不同視例のOcular biometric components。第73回日本弱視斜視学会総会，金沢，2017年6月16日。
25. 満川忠宏，鈴木由美，吉川泉，富田茜，浜由起子，富田香，山田昌和：Paradoxical head tiltを呈した両眼性上斜筋麻痺の1例。第73回日本弱視斜視学会総会，金沢，2017年6月16日。
26. 井上真：小切開硝子体手術最前線。第5回盛岡手術懇話会，盛岡，2017年6月17日。
27. 井上真：眼内炎治療アップデート。第32回JSCRS学術総会，福岡，2017年6月23日。
28. 山田昌和：ドライアイの診かた，考えかた Update。山形県眼科集談会，山形，2017年7月2日。
29. Hirakata A, Sano M, Kita Y, Inoue M: Vitrectomy for macular retinoschisis associated with glaucomatous

- optic neuropathy in eye with normal intraocular pressure: a case report. the 15th Aegean Retina Meeting, Greece, July 3rd-5th, 2017.
30. 慶野博: ベーチェット病ぶどう膜炎の最新治療. 第68回 MRC (Marianna Research Council), 川崎, 2017年7月6日.
 31. Inoue M: panelist, Vitreoretinal Surgical techniques; (How do I do it?) 3D Video Panel. ASRS, USA, July 11th-16th, 2017.
 32. Inoue M: Combination of external drainage and subretinal tissue-plasminogen activator injection for massive subretinal hemorrhage. ASRS, USA, July 11th-16th, 2017.
 33. Inoue M, Itoh Y, Koto T, Hirakata A: Correlation of intraoperative optical coherence tomographic images with postoperative visual outcome in eyes with idiopathic macular hole. ASRS, USA, July 11th-16th, 2017.
 34. 慶野博: The Great Debate Part6強膜炎の治療 局所治療による強膜炎のマネジメント. 第51回日本眼炎症学会, 大阪, 2017年7月14-16日.
 35. 中山真紀子, 慶野博, 安藤良将, 渡辺交世, 岡田アナベルあやめ: 超広角眼底撮影による原田病急性期の眼底造影所見の検討. 第51回日本眼炎症学会, 大阪, 2017年7月14-16日.
 36. 安藤良将, 慶野博, 中山真紀子, 渡辺交世, 岡田アナベルあやめ: 杏林アイセンターにおける後部強膜炎の臨床像の検討. 第51回日本眼炎症学会, 大阪, 2017年7月14-16日.
 37. 渡辺交世: 眼と全身—臨床医の先生に知ってほしい眼科領域の話. 西東京市医師会学術講演会, 西東京, 2017年7月18日.
 38. 平形明人: 病理を意識した網膜硝子体手術. the 5th Shizuoka Next Generation Workshop, 静岡, 2017年7月22日.
 39. 井上真: コ・メディカルのための教育セミナー 眼底画像診断: 何を見るのか, どう撮るのか「広角眼底撮影でわかることと撮影ポイント」. 眼循環学会教育セミナー, 大阪, 2017年7月22日.
 40. 岡田アナベルあやめ: 網膜疾患に対する薬理療法の新時代. 第5回KAMOセミナー, 京都, 2017年7月26日.
 41. 山田昌和: 眼科検診の医学的効果 シンポジウム眼科健診の現状と未来. 第58回人間ドック学会学術大会, さいたま, 2017年8月24日.
 42. 山田昌和: 人間ドックにおける視野検査の公衆衛生学的意義. 第58回人間ドック学会学術大会, さいたま, 2017年8月24日.
 43. 平形明人: 緑内障眼に合併する網膜分離. 第19回Japan Macula Club, 蒲郡, 2017年8月26-27日.
 44. 井上真: 術中OCT所見と黄斑円孔手術の視力予後. 第19回Japan Macula Club, 蒲郡, 2017年8月27日.
 45. 平形明人: 高齢者の眼の病気と治療の現状. 東京女子大学2017年度夏季特別講座, 東京, 2017年9月2日.
 46. 山田昌和: コンタクトレンズ, 合併症や問題点のトピックス. 平成28年度コンタクトレンズ管理者講習会, 東京, 2017年9月2日.
 47. 井上真: 小切開硝子体手術の進歩. 第32回千葉県眼科手術懇話会, 千葉, 2017年9月2日.
 48. 山田昌和: 涙のひみつ ドライアイと流涙症. 第2回西東京涙液・涙道治療研究会, 東京, 2017年9月7日.
 49. 山田昌和: ドライアイの診かた, 考えかた Update. 第9回福島眼科シンポジウム, 郡山, 2017年9月9日.
 50. 井上真: 硝子体手術におけるOCT. 大阪眼科手術シンポジウム, 大阪, 2017年9月9日.
 51. 北善幸: OCTで解決! これって初期緑内障?. 多摩地区緑内障勉強会AYR2017, 立川, 2017年9月9日.
 52. Hirakata A: Surgical treatment of myopic maculopathy. EURETINA Update Session 1, Myopia: New Perspectives, Prevention & Treatment. 17th Euretina Congress, Spain, September 7th-10th, 2017.
 53. Hirakata A: ARC Vitreoretinal Surgery Rounds. 17th European VitreoRetinal Society Meeting, Italy, September 14th-17th, 2017.
 54. Inoue M, Itoh Y, Koto K, Kita Y, Hirota K, Hirakata A: Fundus Autofluorescence Images in Gas-filled Eyes Immediately After Macular Hole Surgery. 17th European VitreoRetinal Society Meeting, Italy, September 14th-17th, 2017.
 55. 平形明人: Retinoschisis associated with glaucomatous cupping. 硝子体手術講習会, 東京, 2017年9月23-24日.
 56. 平形明人: Case presentation and reply for question from audience. 硝子体手術講習会, 東京, 2017年9月23-24日.
 57. 井上真: 10K-Beveled cutter. Advanced Vitreous Surgery Course in Tokyo, 東京, 2017年9月22-23日.
 58. 井上真: iOCT assisted MIVS. Advanced Vitreous Surgery Course in Tokyo, 東京, 2017年9月22-23日.
 59. 岡田アナベルあやめ: Drug therapy for retinal disorders: a new era. Capital Retina Club, 東京, 2017年9月29日.
 60. 北善幸: マイクロペリメーターを用いた新たな緑内障診断 緑内障診断に役立つMultimodal imaging. 第28回日本緑内障学会, 広島, 2017年9月29日-10月1日.
 61. Inoue M: Microstructural recovery after inverted ILM flap technique for macular hole retinal detachment. Taiwan Macular Society Annual meeting 2017, Taiwan, October 2nd-3rd, 2017.
 62. Inoue M: Intraoperative OCT for myopic macular hole and macular hole retinal detachment. Taiwan Macular Society Annual meeting 2017, Taiwan, October 2nd-3rd, 2017.
 63. Inoue M: Fundus autofluorescence to predict visual outcome after macular hole surgery. Taiwan Macular Society Annual meeting 2017, Taiwan, October 2nd-3rd, 2017.
 64. 平形明人: 先天乳頭部形態異常とOCT. 第71回日本臨床眼科学会, 東京, 2017年10月12-15日.
 65. 高橋寛二, 岡田アナベルあやめ, 寺野泰弘, 小林正人, 大路正人: wAMDにおけるアフリベルセプトのT&Eレジメンの評価: ALTAIR試験52週結果. 第71回日本臨床眼科学会, 東京, 2017年10月15日.
 66. 井上真: ナイトメア最後の聖戦「見えるけど届かない」. 第71回日本臨床眼科学会, 東京, 2017年10月12-15日.
 67. 井上真: 徹底討論! 糖尿病網膜症マネジメントのすべて 2017—アップデートと症例検討会—「2nd choiceの座は? 硝子体手術」. 第71回日本臨床眼科学会, 東京, 2017年10月12-15日.
 68. 井上真: 硝子体手術—私のtrend—黄斑円孔. 第71回日本臨床眼科学会, 東京, 2017年10月12-15日.
 69. 加藤悠, 井上真, 高橋洋如, 佐野公彦, 江本宜暢, 伊東裕二, 北善幸, 廣田和成, 厚東隆志, 平形明人: 増殖糖尿病網膜症での血糖コントロールおよび腎機能と25ゲージ硝子体手術成績. 第71回日本臨床眼科学会, 東京,

2017年10月12-15日.

70. 久須見有美, 松木奈央子, 井上真, 鵜澤亮, 江本宜暢, 山本亜希子, 岡田アナベルあやめ, 平形明人: 加齢黄斑変性に対する硝子体注射後の白内障手術合併症についての検討. 第71回日本臨床眼科学会, 東京, 2017年10月12-15日.
71. 佐野公彦, 満川忠宏, 富田茜, 厚東隆志, 山内康行, 宇多重員, 井上真, 平形明人: アトピー性皮膚炎に合併した黄斑円孔網膜剥離の1例. 第71回日本臨床眼科学会, 東京, 2017年10月12-15日.
72. 望月司, 廣田和成, 富田茜, 津田麻祐子, 平形明人: 25G トロッカー刺入時に巨大角膜上皮下嚢胞を生じた角膜切開白内障術後網膜剥離の1例. 第71回日本臨床眼科学会, 東京, 2017年10月12-15日.
73. 北善幸, 齋藤恒浩, 村井顕子, 五月女典久, 堀江大介, 平形明人: マイクロペリメーターMP-3を用いた視神経乳頭周囲網膜感度による緑内障検出力. 第71回日本臨床眼科学会, 東京, 2017年10月12-15日.
74. 中山真紀子, 慶野博, 高橋あずさ, 津田麻祐子, 渡辺交世, 岡田アナベルあやめ: サイトメガロウイルス網膜炎における視神経乳頭部血流の評価. 第71回日本臨床眼科学会, 東京, 2017年10月12-15日.
75. 北善幸: 緑内障のサージカル治療最前線—MIGSからImplantまで—, まだ治せる! あきらめないで使ってみよう—アームド緑内障バルブ—. 第71回日本臨床眼科学会, 東京, 2017年10月12-15日.
76. 渡邊仁, 島崎潤, 横井則彦, 山田昌和: ドライアイシェパリストの老舗こだわり講座, ドライアイ新診断基準を考える. 第71回日本臨床眼科学会, 東京, 2017年10月13日.
77. 平塚義宗, 川崎良, 小野浩一, 山田昌和, 山下英俊: 眼科医のための臨床研究デザイン塾2, 後ろ向きコホート研究をやってみよう. 第71回日本臨床眼科学会, 東京, 2017年10月13日.
78. 秋山陽一, 名畑浩昌, 重安千花, 久須美有美, 山田昌和: ジクアホソルナトリウム点眼液の角膜上皮バリア機能への影響. 第71回日本臨床眼科学会, 東京, 2017年10月13日.
79. 山田昌和: 眼科医療と健康寿命. 第4回日本サルコペニア・フレイル学会大会, 京都, 2017年10月15日.
80. Keino H: Prognostic value of OCT imaging of the choroid in new-onset acute Vogt-Koyanagi-Harada (VKH) disease. The 14th Congress of the International Ocular Inflammation Society (IOIS), Switzerland, October 18th-21st, 2017.
81. 江本宜暢, 佐野公彦, 厚東隆志, 廣田和成, 伊東裕二, 井上真, 平形明人: 若年者の裂孔厳正網膜剥離における硝子体手術の検討. 第60回東京多摩地区眼科集談会, 三鷹, 2017年10月21日.
82. 井上真: PAT surveyからみた糖尿病網膜症診療の変遷. 第4回若手DR研究会, 東京, 2017年10月27日.
83. 加藤悠: 血糖コントロール, 腎機能と増殖糖尿病網膜症25ゲージ硝子体手術成績. 第4回若手DR研究会, 東京, 2017年10月27日.
84. 平形明人: 硝子体手術のBack to the Future. 第32回日本糖尿病合併症学会・第23回日本糖尿病眼学会総会, 東京, 2017年10月27-29日.
85. 千葉彩香, 安部晶子, 前川亜樹, 新井千賀子, 平形明人: 視機能低下があり自宅退院に向けて多職種介入が必要であった一症例. 第32回日本糖尿病合併症学会・第23回日本糖尿病眼学会総会, 東京, 2017年10月27-29日.
86. 久保さえ子, 厚東隆志, 富田茜, 加藤悠, 中山真紀子, 井上真, 平形明人, 石田均: 増殖糖尿病網膜症治療中に両眼網脈中心動脈閉塞症を合併した一例. 第32回日本糖尿病合併症学会・第23回日本糖尿病眼学会総会, 東京, 2017年10月27-29日.
87. Inoue M: Peripapillary staphyloma. Machemer's round. AAO, USA, November 12th, 2017.
88. Hirakata A, Lai T, Cheung G, Ohno-Matsui K: Understand the diagnosis and surgical treatment for myopic traction maculopathy. The Cutting Edge of Pathologic Myopia. American Academy of Ophthalmology 2017, USA, November 13th, 2017.
89. 山田昌和: ドライアイの診かた, 考えかた Update. 第15回横浜臨床シンポジウム, 横浜, 2017年11月18日.
90. 井上真: 硝子体手術の現在と未来. 第34回さざなみ眼科研究会, 大津, 2017年11月18日.
91. Inoue M: Duration of prone positioning after macular hole surgery determined by SS-OCT. PCV summit 2017, China, November 24th, 2017.
92. Inoue M: Strategy of treatment for submacular hemorrhage. PCV summit 2017, China, November 24th, 2017.
93. 平形明人: 緑内障に合併する網膜分離様所見と治療. アイファガン点眼液0.1%発売5周年記念講演会in福岡, 福岡, 2017年11月25日.
94. 北善幸: 緑内障診療におけるOCTの有用性とその注意点. 第19回西東京眼科フォーラム, 武蔵野, 2017年11月22日.
95. 山本亜希子, 古泉英貴, 小笠原雅, 荒川久弥, 長谷川泰司, 丸子一朗, 板垣可奈子, 中山真紀子, 石龍鉄樹, 飯田知弘, 岡田アナベルあやめ: 滲出型AMDに対するアフリベルセプト1か月毎Treat & Extend法の1年成績. 第56回日本網膜硝子体学会総会, 東京, 2017年12月1日.
96. 望月司, 鵜澤亮, 佐野公彦, 江本宜暢, 折原唯史, 北善幸, 伊東裕二, 廣田和成, 厚東隆志, 井上真, 岡田アナベルあやめ, 平形明人: 硝子体手術を施行した硝子体内注射後の眼内炎の起炎菌と臨床像. 第56回日本網膜硝子体学会総会, 東京, 2017年12月1-3日.
97. 厚東隆志, 坂本泰二, 平形明人, 山本修一, 馬場隆之, 西塚弘一, 山切啓太, 門之園一明, 大路正人, 山下英俊, 小椋祐一郎, 網膜硝子体学会疾患登録委員会: 日本網膜硝子体学会における網膜硝子体手術・治療情報データベース事業. 第56回日本網膜硝子体学会総会, 東京, 2017年12月1-3日.
98. 山田昌和: 薬剤による眼障害 Update. 第48回東京都眼科医会研修会, 東京, 2017年12月2日.
99. 井上真: 網膜硝子体手術の基本手技「PDR」. 第56回日本網膜硝子体学会, 東京, 2017年12月3日.
100. 北善幸: 緑内障手術(流出路再建術とアームド緑内障バルブについて). 興和創薬株式会社社内勉強会, 調布, 2017年12月4日.
101. 井上真: 網膜疾患サージカルテクニック. 第2回Vitreous Surgeon's Night in Takasaki, 高崎, 2017年12月16日.
102. 井上真: NGENUITY® 3Dビジュアルシステム使用経験. 第3回SCOOP meeting, 浜松, 2018年1月6日.
103. Inoue M: Microstructural recovery after inverted ILM flap technique for macular hole retinal detachment. Cairo Retina Meeting 2018, Egypt, January 11th-13th, 2018.
104. Inoue M: Fundus autofluorescence to predict visual outcome after macular hole surgery. Cairo Retina Meeting 2018, Egypt, January 11th-13th, 2018.
105. 平形明人: 増殖糖尿病網膜症の硝子体手術. 第14回神奈川県眼科DMカンファレンス, 横浜, 2018年1月13日.

106. 平形明人: 網膜疾患. 平成29年度東京都眼科医会卒後研修会, 東京, 2018年1月13日.
 107. 岡田アナベルあやめ: ぶどう膜炎に対する薬理療法の新時代. 第7回New Year Ophthalmic Seminar 2018 in 東海, 名古屋, 2018年1月13日.
 108. 平形明人: 強度近視牽引性黄斑症. 第207回茨城県眼科医会学術講演会, 水戸, 2018年1月14日.
 109. 北善幸: 緑内障診断に役立つOCTの活用法. 第13回西東京市眼科医会学術講演会, 西東京, 2018年1月23日.
 110. 井上真: 糖尿病網膜症への治療, 薬物治療から外科的治療まで. 第47回いわき眼科集談会, いわき, 2018年1月24日.
 111. 井上真: 世話人特別セッション” MIOS Battle Royal” ~ 1min,VTR session ~. 第3回 MIOS(Minimally Invasive Ophthalmic Surgery)の会, 京都, 2018年1月27日.
 112. 井上真: 術中OCTを駆使した硝子体手術. 埼玉慶應の会, さいたま, 2018年1月31日.
 113. Inoue M: Surgical Technique and Outcomes of 27-gauge vitrectomy for primary retinal detachment. APAO meeting, Hong Kong, February 8th-10th, 2018.
 114. 川島素子, 内野美樹, 重安千花, 洲脇和久, 横井則彦, 平塚義宗, 坪田一男, 山田昌和: 全身併存疾患とドライアイの関係. 第42回日本角膜学会, 広島, 2018年2月17日.
 115. 佐藤真帆, 内野美樹, 川島素子, 内野裕一, 山田昌和, 坪田一男: 機械学習を用いたドライアイスクリーニングツールの作成. 第42回日本角膜学会, 広島, 2018年2月17日.
 116. 秋山陽一, 名畑浩昌, 重安千花, 久須見有美, 山田昌和: エピナスチン点液の角膜上皮バリア機能への影響. 第42回日本角膜学会, 広島, 2018年2月17日.
 117. 山田健司, 重安千花, 久須見有美, 藤井かな, 柳沼重晴, 山田昌和: 大腸菌による角膜潰瘍の1例. 角膜カンファレンス2018, 広島, 2018年2月17日.
 118. 久須見有美, 重安千花, 松木奈央子, 藤井かな, 山田昌和: 角膜混濁例における超広角走査型レーザー検眼鏡の有用性. 第42回日本角膜学会, 広島, 2018年2月17日.
 119. 平形明人: 緑内障眼に合併する網膜分離様所見と治療. 第6回Senju Ophthalmic Seminar in 岡山, 岡山, 2018年2月24日.
 120. 山田昌和: どうやってやる? 涙液検査の実際. ドライアイ研究会主催講習会2018, 東京, 2018年2月25日.
 121. 井上真: Vitrectomy for pediatric complicated retinal detachment. 第43回日本小児眼科学会総会, 名古屋, 2018年3月2日.
 122. 井上真: 小児網膜疾患への術中OCT. 第43回日本小児眼科学会総会, 名古屋, 2018年3月3日.
 123. 山田昌和: ドライアイの診かた, 考えかた Update. 第14回北九州眼科フォーラム, 北九州, 2018年3月8日.
 124. 平形明人: 緑内障眼に合併する網膜分離様所見と治療. 群馬県眼科医会学術講演会, 前橋, 2018年3月9日.
 125. Okada AA: Update on subfoveal hemorrhage workstream. Vision Academy Meeting, Austria, March 9th, 2018.
 126. 北善幸: 増殖糖尿病網膜症に対する硝子体手術後の血管新生緑内障. 第2回網膜硝子体 竹内塾!, 東京, 2018年3月9日.
 127. Okada AA: Update on ALTAIR study. Vision Academy Meeting, Austria, March 10th, 2018.
 128. 山田昌和: 角結膜疾患の薬物療法. 第45回大阪医大眼科セミナー, 高槻, 2018年3月10日.
 129. 北善幸: 血管新生緑内障に対するチューブシャント手術について. 第33回緑内障よろず勉強会, 東京, 2018年3月16日.
 130. 平形明人: 視神経乳頭ピット黄斑症の鑑別と対応. 第18回Tokyo Retina League, 東京, 2018年3月23日.
 131. 井上真: 術中OCTを併用した硝子体手術. 第1回Hokkaido Vit Surgical Club, 名古屋, 2018年3月31日.
- 論文**
1. Ando Y, Hirakata A, Ohara A, Yokota R, Orihara T, Hirota K, Koto T, Inoue M: Vitrectomy and scleral imbrication in patients with myopic traction maculopathy and macular hole retinal detachment. Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 255:673-680, 2017.
 2. Sano M, Inoue M, Itoh Y, Kita Y, Hirota K, Koto T, Hirakata A: Duration of prone positioning after macular hole surgery determined by swept-source optical coherence tomography. Retina 37:1483-1491, 2017.
 3. Kunita D, Inoue M, Itoh Y, Matsuki N, Nagamoto T, Hirakata A: Effects of optical diameter of intraocular lenses with intrascleral fixation on higher-order aberrations. BMC Ophthalmol 17:82, 2017.
 4. Inoue M, Koto T, Hirota K, Hirakata A: Ultra-widefield fundus imaging in gas-filled eyes after vitrectomy. BMC Ophthalmol 17:114, 2017.
 5. Kita Y, Inoue M, Kita R, Sano M, Orihara T, Itoh Y, Hirota K, Koto T, Hirakata A: Changes in the size of the foveal avascular zone after vitrectomy with internal limiting membrane peeling for a macular hole. Jpn J Ophthalmol 61:465-471, 2017.
 6. 望月司, 佐野公彦, 折原唯史, 北善幸, 伊東裕二, 廣田和成, 厚東隆志, 井上真, 平形明人: 硝子体手術を施行した白内障術後急性眼内炎の起炎菌と手術成績の推移. 日眼会誌 121: 749-754, 2017.
 7. Fukuhara D, Takiura T, Keino H, Okada AA, Yan K: Iatrogenic Cushing's syndrome due to topical ocular glucocorticoid treatment. Pediatrics 139(2), 2017. pii:e20161233.
 8. Yamamoto A, Okada AA, Nakayama M, Yoshida Y, Kobayashi H. One-year outcomes of a treat-and-extend regimen of aflibercept for exudative age-related macular degeneration. Ophthalmologica 237:139-144, 2017.
 9. Koh A, Lai TYY, Takahashi K, Wong TY, Chen LJ, Ruamviboonsuk P, Tan CS, Feller C, Margaron P, Lim TH, Lee WK: for the EVEREST II study group (including AA Okada): Efficacy and Safety of Ranibizumab With or Without Verteporfin Photodynamic Therapy for Polypoidal Choroidal Vasculopathy: A Randomized Clinical Trial. JAMA Ophthalmology 135:1206-1213, 2017.
 10. Lanzetta P, Loewenstein A, Vision Academy Steering Committee (including Okada AA): Fundamental principles of an anti-VEGF treatment regimen; optimal application of intravitreal anti-vascular endothelial growth factor therapy of macular diseases. Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 255:1259-1273, 2017.
 11. Jabs DA, Dick A, Doucette JT, Gupta A, Lightman S, McCluskey P, Okada AA, Palestine AG, Rosenbaum JT, Saleem SM, Thorne J, and Trusko B; for the Standardization of Uveitis Nomenclature (SUN) Working Group: Inter-observer agreement among

- uveitis experts on uveitic diagnoses: the Standardization of Uveitis Nomenclature (SUN) experience. *Am J Ophthalmol* 186:19-24, 2018.
12. Acharya NR, Browne EN, Rao N, Mochizuki M, for the International Sarcoidosis Working Group (including AA Okada): Distinguishing features of ocular sarcoidosis in an international cohort of uveitis patients. *Ophthalmology* 125:119-126, 2018.
 13. Hunyor AP, Merani R, Darbar A, Korobelnik JF, Lanzetta P, Okada AA: Topical antibiotics and intravitreal injections. *Acta Ophthalmologica* 2017. doi: 10.1111/aos.13417. (Epub).
 14. 蕪城俊克, 岡田アナベルあやめ: 眼炎症性疾患 (ぶどう膜炎, 強膜炎など). *あたらしい眼科* 35(1):63-68, 2018.
 15. 名畑浩昌, 秋山陽一, 重安千花, 新崎賢一¹, 山田昌和, 平形明人 (¹タカギセイコー株式会社): スリットランプ型スベキュラーマイクロスコープを用いた角膜内皮の評価. *あたらしい眼科* 34(10): 1450-1454, 2017.
 16. Terasaki H¹, Ogura Y², Kitano S³, Sakamoto T⁴, Murata T⁵, Hirakata A, Ishibashi T⁶(¹Nagoya University Graduate School of Medicine, ²Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences, ³Tokyo Women's Medical University, ⁴Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences, ⁵Shinshu University School of Medicine, ⁶Kyushu University Hospital): Management of diabetic macular edema in Japan: a review and expert opinion. *Jpn J Ophthalmol* 62:1-23, 2018.
 17. Yaginuma S, Inoue M, Itoh Y, Takahashi H, Hirakata A: Utility of intraoperative optical coherence tomography in acute endophthalmitis. *Retin Cases Brief Rep*. 2017. doi: 10.1097/ICB.0000000000000632 (Epub ahead of print).
 18. Takahashi H, Inoue M, Koto T, Itoh Y, Hirota K, Hirakata A: Inverted internal limiting membrane flap technique for treatment of macular hole retinal detachment in highly myopic eyes. *Retina*. 2017. Doi: 10.1097/IAE.0000000000001898. (Epub ahead of print).
 19. Kita Y, Holló G¹, Saito T, Murai A, Kita R, Hirakata A(¹Semmelweis University): Circumpapillary microperimetry to detect glaucoma: a pilot study for sector-based comparison to circumpapillary retinal nerve fiber layer measurement. *Int Ophthalmol*. 2017. doi: 10.1007/s10792-017-0796-8. (Epub ahead of print)
 20. Watanabe T, Keino H, Nakayama K, Taki W, Echizen N, Okada AA: Clinical features of patients with diabetic anterior uveitis. *Br J Ophthalmol*. 2018. pii: bjophthalmol-2017-311453. Doi: 10.1136/bjophthalmol-2017-311453.
 21. Fukuhara D, Takiura T, Keino H, Okada AA, Yan K: Iatrogenic Cushing's Syndrome Due to Topical Ocular Glucocorticoid Treatment. *Pediatrics*. 139(2), 2017. doi: 10.1542/peds.2016-1233.
 22. Shigeyasu C, Yamada M, Akune Y, Fukui M: The Effect of Rebamipide Ophthalmic Suspension on Ocular Surface Mucins in Soft Contact Lens Wearers. *Contact Lens Ant Eye*. 2017. doi: 10.1016/j.clae.2017.12.016.
 23. 朝井知佳子, 小川佳子, 川島素子, 平塚義宗, 山田昌和: 視覚障害の疾病負担についての検討 両眼性と片眼性の比較. *眼臨紀要* 10:891-896, 2017.
 24. Shigeyasu C, Yamada M, Aoki K, Ishii Y, Tateda K, Yaguchi T, Okajima Y, Hori Y: Metagenomic Analysis for Detecting *Fusarium solani* in a Case of Fungal Keratitis. *J Infect Chemother*. 2018. doi: 10.1016/j.jiac.2017.12.019. (Epub ahead of print).
 25. Vu CHV, Kawashima M, Yamada M, Suwaki K, Uchino M, Shigeyasu C, Hiratsuka Y, Yokoi N, Tsubota K: Dry Eye Cross-Sectional Study in Japan Study Group: Influence of Meibomian Gland Dysfunction and Friction-Related Disease on the Severity of Dry Eye. *Ophthalmology*. 2018. doi: 10.1016/j.ophtha.2018.01.025. (Epub ahead of print).
 26. Niihata K, Fukuma S, Hiratsuka Y, Ono K, Yamada M, Sekiguchi M, Otani K, Kikuchi S, Konno S, Fukuhara S: Association between vision-specific quality of life and falls in community-dwelling older adults: LOHAS. *PLoS One*. 13:e0195806, 2018.
 27. 重安千花, 山田昌和: 全層角膜移植術. *眼科* 59:789-795, 2017.
 28. 山田昌和: 前眼部形成異常. *眼科* 59:931-936, 2017.
 29. 山田昌和: 眼科医療における点眼薬の位置づけ. *あたらしい眼科* 34:1215-1219, 2017.
 30. 山田昌和: ドライアイのあたらしい定義と診断基準. *日本の眼科* 88:1589-1590, 2017.
 31. Kita Y, Holló G¹, Murai A, Kita R, Hirakata A(¹Semmelweis University): Optical coherence tomography angiography findings of an optic disc melanocytoma in a glaucoma eye. *Int Ophthalmol*. 2018. doi: 10.1007/s10792-018-0839-9. (Epub ahead of print).
 32. Sugita S, Shimizu J, Makabe K, Keino H, Watanabe T, Takahashi M: Inhibition of T cell-mediated inflammation in uveitis by a novel anti-CD3 antibody. *Arthritis Res Ther* 19:176, 2017. doi: 10.1186/s13075-017-1379-9.
 33. Seo H, Nam DH, Lee JY, Park SJ, Kim YJ, Kim SW, Chung TY, Inoue M, Kim T: Macular photostress and visual experience between microscope and intracameral illumination during cataract surgery. *J Cat Ref Surg* 44(2):190-197, 2018.
 34. Yokota R, Hirakata A, Hayashi N, Hirota K, Rii T, Itoh Y, Orihara T, Inoue M: Ultrastructural analyses of internal limiting membrane excised from highly myopic eyes with myopic traction maculopathy. *Jpn J Ophthalmol*. 62(1):84-91, 2018.
 35. 慶野博: 生物学的製剤の時代における非感染性ぶどう膜炎の治療戦略 硝子体内注射(ベバシズマブ, メトトレキセート). 34:475-482, 2017年.
 36. 渡辺交世, 慶野博: 必修! やっておくべきぶどう膜炎の検査と読み方 外来でよくみるぶどう膜炎の特徴的なOCT所見. *眼科グラフィック* 6:375-381, 2017.
 37. 慶野博: 酸化ストレスと眼 ぶどう膜炎と酸化ストレス. *OCULISTA* 51:35-40, 2017.
 38. Kurimori HY, Inoue M, Hirakata A: Adjustments of haptics length for tilted intraocular lens after intrascleral fixation. *Am J Ophthalmol Case Rep* 10: 180-184, 2018.
- 著書**
1. 平形明人: 糖尿病網膜症. 成人病と生活習慣病Vol.47 No.4. 東京, 東京医学社, 2017. p.483-492.
 2. 慶野博, 岡田アナベルあやめ: ぶどう膜炎. 1336専門家による私の治療 2017年-18年度版 第1版. 猿田享男, 北村惣一郎監修. 東京, 日本医事新報社, 2017. p.1279-1280.

3. 重安千花, 山田昌和 (分担執筆): BUT縮型ドライアイ. 眼科診療ビジュアルラーニング 角膜, 結膜. 井上幸次編集. 東京, 中山書店, 2017. p.240-243.
4. 井上真: ICCを伴った網膜剥離. 画像診断から考える病的近視診療. 東京, 医学書院, 2017. p.174-176.
5. 井上真: 巻頭言 糖尿病黄斑浮腫に対する治療と画像解析. 日眼会誌121(8). 東京, 日本眼科学会, 2017. p.583-584.
6. 井上真: 若年者の増殖糖尿病網膜症 (PDR) における手術適応. 週刊日本維持新報4867. 東京, 日本医事新報社, 2017. p.66.
7. 井上真: 機器・薬剤紹介 術中OCT RESCAN 700. 眼科59(9). 東京, 金原出版, 2017. p.937-940.
8. 伊東裕二, 井上真: 眼手術関連薬物治療 硝子体注射による網膜硝子体疾患の薬物治療(解説). 眼薬理31(1). 岐阜, 日本眼薬理学会, 2017. p.50-52.
9. 井上真: 糖尿病網膜症に対するサージカルアプローチ(解説/特集). あたらしい眼科34(5). 東京, メディカル葵出版, 2017. p.645-650.
10. 前野貴俊, 井上真: 重症網膜剥離でのシリコーンオイル抜去のタイミング 術後3ヵ月程度の抜去が理想. 眼圧7mmHg以上かつ角膜内皮細胞密度1000cells/mm²以上が条件(Q&A). 日本医事新報4876. 東京, 日本医事新報社, 2017. p.58-59.
11. 山田昌和, 和田直子, 小林昭子, 中川真紀: 角膜疾患. 視能検査学. 若山睦美編集. 東京, 医学書院, 2018. p.311-316.
12. 井上真: 今月の話題. 27G硝子体手術アップデート. 臨床眼科72(1). 東京, 医学書院, 2018. p.5-10.
13. 平形明人, 岡田アナベルあやめ, 山田昌和, 井上真 (編集): 全身病の眼病変 早わかり便利帖. 東京, メジカルビュー社, 2018.
14. 井上真: 眼虚血症候群. 全身病の眼病変 早わかり便利帖. 平形明人, 岡田アナベルあやめ, 山田昌和, 井上真編集. 東京, メジカルビュー社, 2018. p.74-78.
15. 北善幸 (分担執筆): 大動脈炎症候群. 全身病の眼病変 早わかり便利帖. 平形明人, 岡田アナベルあやめ, 山田昌和, 井上真編集. 東京, メジカルビュー社, 2018. p.79-84.
16. 中山真紀子 (分担執筆): 水痘・带状疱疹ウイルス, 風疹ウイルス/再発性多発軟骨炎, 多発血管炎性肉芽腫症, HLA-B27関連疾患. 全身病の眼病変 早わかり便利帖. 平形明人, 岡田アナベルあやめ, 山田昌和, 井上真編集. 東京, メジカルビュー社, 2018. p.99-105/p.137-146.
17. 渡辺交世 (分担執筆): 結核. 全身病の眼病変 早わかり便利帖. 平形明人, 岡田アナベルあやめ, 山田昌和, 井上真編集. 東京, メジカルビュー社, 2018. p.106-111.
18. 渡辺交世 (分担執筆): 梅毒. 全身病の眼病変 早わかり便利帖. 平形明人, 岡田アナベルあやめ, 山田昌和, 井上真編集. 東京, メジカルビュー社, 2018. p.112-116.
19. 渡辺交世 (分担執筆): 細菌性心内膜炎. 全身病の眼病変 早わかり便利帖. 平形明人, 岡田アナベルあやめ, 山田昌和, 井上真編集. 東京, メジカルビュー社, 2018. p.117-119.
20. 渡辺交世 (分担執筆): 転移性真菌感染症. 全身病の眼病変 早わかり便利帖. 平形明人, 岡田アナベルあやめ, 山田昌和, 井上真編集. 東京, メジカルビュー社, 2018. p.120-123.
21. 安藤良将, 慶野博 (分担執筆): 若年性関節リウマチ. 全身病の眼病変 早わかり便利帖. 平形明人, 岡田アナベルあやめ, 山田昌和, 井上真編集. 東京, メジカルビュー社, 2018. p.127-130.
22. 安藤良将, 慶野博 (分担執筆): 全身性エリテマトーデス. 全身病の眼病変 早わかり便利帖. 平形明人, 岡田アナベルあやめ, 山田昌和, 井上真編集. 東京, メジカルビュー社, 2018. p.131-136.
23. 慶野博 (分担執筆): サルコイドーシス. 全身病の眼病変 早わかり便利帖. 平形明人, 岡田アナベルあやめ, 山田昌和, 井上真編集. 東京, メジカルビュー社, 2018. p.147-153.
24. 慶野博 (分担執筆): Vogt-小柳-原田病. 全身病の眼病変 早わかり便利帖. 平形明人, 岡田アナベルあやめ, 山田昌和, 井上真編集. 東京, メジカルビュー社, 2018. p.154-161.
25. 慶野博 (分担執筆): Behcet's病. 全身病の眼病変 早わかり便利帖. 平形明人, 岡田アナベルあやめ, 山田昌和, 井上真編集. 東京, メジカルビュー社, 2018. p.162-168.
26. 渡辺交世 (分担執筆): 糖尿病虹彩炎. 全身病の眼病変 早わかり便利帖. 平形明人, 岡田アナベルあやめ, 山田昌和, 井上真編集. 東京, メジカルビュー社, 2018. p.174-177.
27. 慶野博 (分担執筆): 眼内悪性リンパ腫. 全身病の眼病変 早わかり便利帖. 平形明人, 岡田アナベルあやめ, 山田昌和, 井上真編集. 東京, メジカルビュー社, 2018. p.188-194.
28. 鈴木由美 (分担執筆): 神経疾患 眼球運動障害 (核下性麻痺) / 眼球運動障害 (核上性麻痺). 全身病の眼病変 早わかり便利帖. 平形明人, 岡田アナベルあやめ, 山田昌和, 井上真編集. 東京, メジカルビュー社, 2018. p.208-219/p.220-225.
29. 北善幸 (分担執筆): ステロイド. 全身病の眼病変 早わかり便利帖. 平形明人, 岡田アナベルあやめ, 山田昌和, 井上真編集. 東京, メジカルビュー社, 2018. p.298-301.
30. 北善幸 (分担執筆): OCTで判断する黄斑部内層厚変化. 緑内障を見逃さない 眼底・OCTの見かた. 富田剛司編集. 東京, 日本医事新報社, 2018. p.44-48.
31. 北善幸 (分担執筆): OCT診断のピットフォール. 緑内障を見逃さない 眼底・OCTの見かた. 富田剛司編集. 東京, 日本医事新報社, 2018. p.73-79.

報告書

1. 山田昌和 (分担研究者): 平成28年度厚生労働省科学研究費補助金 (難治性疾患政策研究事業), 希少難治性角膜疾患の疫学調査報告書, 2017年.
2. 山田昌和 (研究代表者): 平成28年度厚生労働省科学研究費補助金 (循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業), 成人眼科検診の有用性, 実施可能性に関する研究報告書, 2017年.

その他

1. 平形明人: 先進医療制度の概念. 日本眼科社会保険会議シンポジウム報告. 日本の眼科88: 119-120, 2017.
2. 平形明人: 網膜剥離の病態. 第9回記者懇談会, 東京, 2017年11月29日.
3. 宇都宮一典, 平形明人 (座長): 第32回日本糖尿病合併症学会・第23回日本糖尿病眼学会総会 ~チームで結ぶ輪と和~ シンポジウム DITN No.478. p4. 東京, メディカルジャーナル, 2018.
4. 井上真: みえる喜びインタビュー. <http://www.mieru-yorokobi.com/life/diabetic-macular-edema1/>. <http://www.mieru-yorokobi.com/life/diabetic-macular-edema2/>.

耳鼻咽喉科学教室

講演

- 唐帆健浩：嚥下造影検査の実際と観察のポイント．第15回日本耳鼻咽喉下障害講習会，東京，2017年4月2日．
- 渡邊格，中川秀樹，齋藤康一郎：咽喉頭炎を初発症状として診断された皮膚筋炎の1例．第29回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会，盛岡，2017年4月6-7日．
- 桑原敏彰，宮本真，岩井大：非扁平上皮喉頭癌3症例．第29回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会，盛岡，2017年4月6-7日．
- 川田往嗣，横井秀格，松本祐磨，齋藤康一郎：アレルギー性鼻炎の病態とGalaninならびにGalanin受容体2型の関係—モデルマウスを用いた検討—．第35回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会，旭川，2017年4月13-15日．
- 齋藤康一郎：音声障害診療．第118回日本耳鼻咽喉科学会通常総会・学術講演会，広島，2017年5月17-20日．
- 横井秀格，児玉悟，松本祐磨，川田往嗣，山中英敬，齋藤康一郎：術式選択に検討を要した若年性鼻咽喉血管線維腫の2例．第118回日本耳鼻咽喉科学会通常総会・学術講演会，広島，2017年5月17-20日．
- 茂呂順久，笠倉奈津子，佐藤大，濱之上泰裕，尾川昌孝，川原敬祐，齋藤康一郎：声門上癌に対する化学放射線治療後に下咽頭の完全閉塞を生じた1例．第118回日本耳鼻咽喉科学会通常総会・学術講演会，広島，2017年5月17-20日．
- 増田正次，守田雅弘，松田雄大，中村健大，松本文武，佐藤佑樹，茂呂順久，尾川昌孝，小野修平，甲能直幸，齋藤康一郎：術前耳管機能検査により鼓膜形成術（接着法）後の再穿孔リスクを予測できるか．第118回日本耳鼻咽喉科学会通常総会・学術講演会，広島，2017年5月17-20日．
- 佐藤大，笠倉奈津子，濱之上泰裕，尾川昌孝，茂呂順久，齋藤康一郎：当科における耳下腺腫瘍に対する切開方法の臨床的検討．第118回日本耳鼻咽喉科学会通常総会・学術講演会，広島，2017年5月17-20日．
- 笠倉奈津子，茂呂順久，佐藤大，濱之上泰裕，尾川昌孝，川原敬祐，唐帆健浩，齋藤康一郎：高齢者の喉頭癌における（化学）放射線治療時の摂食状況と呼吸器合併症に関する臨床的検討．第118回日本耳鼻咽喉科学会通常総会・学術講演会，広島，2017年5月17-20日．
- 甲能直幸，齋藤康一郎，矢部はる奈，宇野光祐，此枝生恵，富永健裕，小川郁：喉頭乳頭腫に対する外科的治療の病変制御と音声機能に関する検討．第118回日本耳鼻咽喉科学会通常総会・学術講演会，広島，2017年5月17-20日．
- 黒田一慶，八木正夫，鈴木健介，宇都宮敏生，阪上智史，藤澤琢郎，宮本真，岩井大：深頸部膿瘍の在院日数長期化因子の検討．第118回日本耳鼻咽喉科学会通常総会・学術講演会，広島，2017年5月17-20日．
- 池田哲也：口腔ケアと手術—あなたの知らない口の中の話—．杏林大学公開講演会，三鷹，2017年5月27日．
- Watanabe I, Nakagawa H, Mato S, Saito K: Serious Systemic Diseases with Laryngeal Disorders as First Symptoms. The Voice Foundation 46th Annual Symposium Care of the Professional Voice, USA, May 31st-June 4th, 2017.
- Mato S, Nakagawa H, Watanabe I, Saito K: Clinical Feasibility of Three Days Voice Rest after Vocal Fold Surgery—Preliminary Report. The Voice Foundation 46th Annual Symposium Care of the Professional Voice, USA, May 31st-June 4th, 2017.
- 八木正夫，桑原敏彰，鈴木健介，藤澤琢郎，岩井大，宮本真：非扁平上皮喉頭悪性腫瘍4症例．日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会第341回例会，大阪，2017年6月3日．
- 齋藤康一郎：耳鼻咽喉科内視鏡の感染制御．第41回日本頭頸部癌学会，京都，2017年6月8-9日．
- 佐藤大，茂呂順久，笠倉奈津子，濱之上泰裕，尾川昌孝，齋藤康一郎：心タンポナーデを契機に発見された中咽頭癌の1例．第41回日本頭頸部癌学会，京都，2017年6月8-9日．
- 唐帆健浩：誤嚥性肺炎up to date高齢者の嚥下機能評価．第59回日本老年医学会学術集会，名古屋，2017年6月14-16日．
- 横井秀格：内視鏡下経翼口蓋窩アプローチにて摘出した蝶形骨洞内蝶形骨縁髄膜腫の一例．第29回日本頭蓋底外科学会，松本，2017年6月15-16日．
- 池田哲也：多職種によるSSI予防対策当院における周術期管理外来での口腔衛生評価の取り組み．第40回日本骨・関節感染症学会，東京，2017年6月16-17日．
- Karaho T, Lacau St Guily J, Rommel N, Woisardues V: Rehabilitation and surgical Intervention for UES dysfunction. The 21st IFOS ENT World Congress, France, June 24th-28th, 2017.
- Mueller A, Sandu G, Saito K, Yilmaz T, Zheng H: Bilateral Laryngeal paralysis today and tomorrow. The 21st IFOS ENT World Congress, France, June 24th-28th, 2017.
- Basta D, Goto F, Masuda M, Rossi-Izquierdo M, Sienko K: Current strategies for vestibular rehabilitation in chronic vestibular dysfunction. The 21st IFOS ENT World Congress, France, June 24th-28th, 2017.
- 唐帆健浩：嚥下障害の治療—外科的治療とリハビリテーション—．第43回日本耳鼻咽喉科夏期講習会，軽井沢，2017年7月1-2日．
- 齋藤康一郎：音声障害の診かた 喉頭内視鏡検査．第79回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会，下関，2017年7月6-7日．
- 横井秀格，齋藤康一郎：内視鏡下鼻内アプローチにて摘出した鼻副鼻腔Solitary fibrous tumor (SFT) の1例．第79回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会，下関，2017年7月6-7日．
- 渡邊格，齋藤康一郎：甲状軟骨に化膿性軟骨炎を来した2症例の検討．第79回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会，下関，2017年7月6-7日．
- 池田哲也，萬知子，森山久美，加賀あかり，田村まどか，松田剛明，齋藤康一郎：周術期口腔機能評価項目と術後合併症との関連について．日本外科代謝栄養学会第54回学術集会，新潟，2017年7月6-7日．
- 加賀あかり，池田哲也，萬知子，田村まどか，森山久美，松田剛明，齋藤康一郎：周術期における口腔リハビリテーションの効果．日本外科代謝栄養学会第54回学術集会，新潟，2017年7月6-7日．
- 齋藤康一郎：音声障害を診る外来診療のコツ．東邦大学の三講座（大森，大橋，佐倉）合同の研究会，東京，2017年7月8日．
- 横井秀格：Extended transsphenoidal approach—鼻副鼻腔の解剖と頭蓋底へのcorridor作成—．第23回杏林大学脳神経外科学教室多摩微小解剖セミナー，三鷹，2017年7月28-31日．
- Yokoi H, Kodama S, Saito K: A sphenoidal ridge meningioma in the sphenoid sinus excised using endoscopy via the pterygopalantine fossa approach: A case study. Rhinology World Congress-Hong Kong 2017, Hong Kong, September 1st-3rd, 2017.
- 笠倉奈津子，佐藤大，加藤泰奈，松田昌之，茂木翼，小

- 野修平, 尾川昌孝, 茂呂順久, 齋藤康一郎: 広頸筋皮弁再建と上頸部郭清術を同時に行った頬粘膜癌の1例. 第30回日本口腔・咽頭科学会総会ならびに学術講演会, 金沢, 2017年9月7-8日.
35. 加藤泰奈, 佐藤大, 笠倉奈津子, 齋藤康一郎: 舌に発生した神経鞘腫の一例. 第30回日本口腔・咽頭科学会総会ならびに学術講演会, 金沢, 2017年9月7-8日.
36. Watanabe I, Nakagawa H, Kono T, Saito K: Laryngeal Disorders Indicative of Systemic Diseases. AAO-HNSF ANNUAL MEETING & OTO EXPERIENCE, USA, September 10th-13th, 2017.
37. 唐帆健浩: 摂食嚥下障害の評価・診断: 嚥下造影得検査. 第5回摂食嚥下機能評価実習研修会, 千葉, 2017年9月17日.
38. 横井秀格, 齋藤康一郎: 右側流涙, 涙嚢炎が初発症状であった悪性リンパ腫例. 第5回日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会総会・学術講演会, 大津, 2017年9月21-22日.
39. 横井秀格, 兄玉悟, 山中英敬, 濱之上泰裕, 齋藤康一郎: 外傷性鼻中隔湾曲症例に対するOpenseptorhinoplasty. 第56回日本鼻科学会総会・学術講演会, 甲府, 2017年9月28-30日.
40. 松田昌之, 横井秀格, 山中英敬, 茂木翼, 齋藤康一郎: 動眼神経麻痺を認めた慢性副鼻腔炎急性増悪の一例. 第56回日本鼻科学会総会・学術講演会, 甲府, 2017年9月28-30日.
41. 松本祐磨, 横井秀格, 川田往嗣, 永藤裕, 山中英敬, 池田哲也, 大森嘉彦, 芝原純二, 高山信之, 齋藤康一郎: 当科における鼻副鼻腔悪性リンパ腫の検討. 第56回日本鼻科学会総会・学術講演会, 甲府, 2017年9月28-30日.
42. 濱之上泰裕, 横井秀格, 佐藤大, 川田往嗣, 松田昌之, 齋藤康一郎: 経鼻内視鏡手術により摘出した上咽頭(軟口蓋の鼻咽頭側上) papillary squamous cell carcinoma 症例. 第56回日本鼻科学会総会・学術講演会, 甲府, 2017年9月28-30日.
43. 宮本真, 渡邊格, 間藤翔悟, 林良幸, 石井翼, 中川秀樹, 齋藤康一郎: 当科音声外来における声帯ポリープ症例の検討. 第62回日本音声言語医学会総会・学術講演会, 仙台, 2017年10月5-6日.
44. 渡邊格, 宮本真, 間藤翔悟, 林良幸, 石井翼, 中川秀樹, 齋藤康一郎: 当院音声外来における臨床統計. 第62回日本音声言語医学会総会・学術講演会, 仙台, 2017年10月5-6日.
45. 間藤翔悟, 中川秀樹, 渡邊格, 宮本真, 林良幸, 石井翼, 齋藤康一郎: 当院音声専門外来を受診した声帯萎縮症例の臨床的検討. 第62回日本音声言語医学会総会・学術講演会, 仙台, 2017年10月5-6日.
46. 宮田恵里, 宮本真, 城本修, 八木正夫, 友田幸一, 岩井大: 食道癌術後の一側性反回神経麻痺患者に対する音声治療の効果の検討. 第62回日本音声言語医学会総会・学術講演会, 仙台, 2017年10月5-6日.
47. 唐帆健浩: 摂食嚥下機能療法. 第11回嚥下機能評価研修会, 東京, 2017年10月8日.
48. 宮本真: 経口的(内視鏡的)輪状咽頭筋切断術. 第14回大阪摂食嚥下研究会, 大阪, 2017年10月14日.
49. 佐藤麻梨香, 池田哲也, 米山勇哉, 笠原由香, 加賀あかり, 里見貴史, 近津大地, 齋藤康一郎: 硬口蓋裂傷が主訴であったが咽頭外傷を併発し縦隔気腫を来した乳幼児の1例. 第62回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会, 京都, 2017年10月20-22日.
50. 池田哲也, 里見貴史, 米山勇哉, 笠原由香, 加賀あかり, 近津大地, 齋藤康一郎: 当科における口腔白色病変の臨床病理組織学的検討. 第62回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会, 京都, 2017年10月20-22日.
51. 加賀あかり, 池田哲也, 田村まどか, 米山勇哉, 佐藤麻梨香, 笠原由香, 里見貴史, 齋藤康一郎: 術前口腔衛生評価と術後合併症との関連について. 第62回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会, 京都, 2017年10月20-22日.
52. 田村まどか, 池田哲也, 加賀あかり, 米山勇哉, 佐藤麻梨香, 笠原由香, 里見貴史, 齋藤康一郎: 術前口腔衛生評価と術後合併症との関連について. 第62回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会, 京都, 2017年10月20-22日.
53. 笠原由香, 池田哲也, 里見貴史, 米山勇哉, 加賀あかり, 近津大地, 齋藤康一郎: ビスフォスフォネート関連顎骨壊死とデノスマブ関連顎骨壊死の比較検討. 第62回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会, 京都, 2017年10月20-22日.
54. 齋藤康一郎: 経皮的気管切開時代の外科的気道確保について. 兵庫県耳鼻咽喉科医会 第210回臨床懇話会臨床セミナー, 神戸, 2017年10月22日.
55. 横井秀格: 高齢者における耳鼻咽喉科疾患. 東大和市医師会学術集会, 東大和, 2017年10月27日.
56. 齋藤康一郎: 内視鏡感染制御について. 千葉県耳鼻咽喉科医会総会・講演会, 千葉, 2017年11月5日.
57. 齋藤康一郎, 宮本真: ハンズオンセミナー経皮的気道確保手技. 第69回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会, 大阪, 2017年11月8-9日.
58. 宮本真, 渡邊格, 中川秀樹, 齋藤康一郎: ラパヘルクロージャーを使用した声帯外方移動術. 第69回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会, 大阪, 2017年11月8-9日.
59. 渡邊格, 宮本真, 中川秀樹, 齋藤康一郎: 当科における声帯内アテロコラーゲン注入術症例の検討. 第69回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会, 大阪, 2017年11月8-9日.
60. 清水皆貴, 宮田恵里, 八木正夫, 宮本真, 阪上智史, 岩井大: 食道癌術後声帯麻痺に関わる因子の検討. 第69回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会, 大阪, 2017年11月8-9日.
61. 齋藤康一郎: 内視鏡の洗浄・消毒について. 第36回城南耳鼻咽喉科臨床懇話会, 東京, 2017年11月18日.
62. 武内朝子, 加藤峰幸, 下田由莉江, 大山学, 唐帆健浩, 福田のぞみ, 滝澤始: 頸部食道穿孔による嚥下障害を認めた皮膚筋炎の1例. 第81回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 東京, 2017年11月18-19日.
63. 唐帆健浩: 嚥下機能検査—嚥下造影検査を中心に—. 第21回関東嚥下訓練技術者講習会, 東京, 2017年11月19日.
64. 茂呂順久, 増田正次, 齋藤康一郎: 確定診断が困難であった重症ANCA関連血管炎性中耳炎の1例. 第27回日本耳科学会総会・学術講演会, 横浜, 2017年11月22-24日.
65. 齋藤康一郎: 音声専門外来での標準的検査とその応用. 豊島区耳鼻科医会総会 豊島区耳鼻咽喉科セミナー, 東京, 2017年11月25日.
66. 齋藤康一郎: 音声障害の診療—検査を中心に—. 神奈川地方部会 北里大学講演, 横浜, 2017年12月2日.
67. 佐藤大, 茂呂順久, 笠倉奈津子, 濱之上泰裕, 尾川昌孝, 川原敬祐, 齋藤康一郎: 当科にて外科的加療を行った口腔癌症例の検討—特に高齢者における検討—. 第28回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 宇都宮, 2018年1月25-26日.
68. 横井秀格, 齋藤康一郎: 経鼻内視鏡下髄液漏閉鎖手術のpitfall. 第28回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 宇都宮, 2018年1月25-26日.

69. 増田正次:高齢者の難聴と耳鳴り. 杏林大学公開講演会, 三鷹, 2018年1月27日.
 70. 横井秀格:高齢者における鼻副鼻腔疾患. 第28回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス・講習会, 三鷹, 2018年2月3日.
 71. 佐藤大:高齢者の口腔癌症例. 第28回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス・講習会, 三鷹, 2018年2月3日.
 72. 増田正次:高齢者の聴覚障害. 第28回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス・講習会, 三鷹, 2018年2月3日.
 73. 渡邊格:高齢者の発声障害. 第28回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス・講習会, 三鷹, 2018年2月3日.
 74. 横井秀格:アレルギー性鼻炎の診断と治療—最新の知見—. 第27回埼玉呼吸器アレルギーセミナー, 埼玉, 2018年2月8日.
 75. 川原敬祐, 唐帆健浩, 中島純子, 林良幸, 中村みゆき, 中島笑, 齋藤康一郎: Presbyphagia (老人性嚥下) における咽頭期嚥下機能の検討. 第41回日本嚥下医学会総会ならびに学術講演会, 仙台, 2018年2月9-10日.
 76. 宮田恵里, 阪本大樹, 宮本真, 岩井大: 口腔癌術後に生じた送り込み障害に対して市販のボトルを用いた経験. 第41回日本嚥下医学会総会ならびに学術講演会, 仙台, 2018年2月9-10日.
 77. Kohno N: The Role of Sentinel node biopsy for Head and Neck Squamous Cell Carcinoma Patients using the HyperEye Medical System. The 34th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter, USA, February 16th-18th, 2018.
 78. 齋藤康一郎:耳鼻咽喉科診療における内視鏡の感染制御. 第33回日本環境感染学会総会・学術集会, 東京, 2018年2月23日.
 79. 齋藤康一郎, 宇野光佑: 喉頭気管領域を標的としたコーンビームCTの利用. 第30回日本喉頭科学会総会・学術講演会, 高知, 2018年3月1-2日.
 80. 橋本麻未, 宮本真, 久保村郁子, 渡邊格, 中川秀樹, 齋藤康一郎: 当科で経験した喉頭アミロイドーシスの一例. 第30回日本喉頭科学会総会・学術講演会, 高知, 2018年3月1-2日.
 81. 齋藤伸夫, 宮本真, 橋本麻未, 渡邊格, 中川秀樹, 齋藤康一郎: 声帯膜様部中央の癒着した2例. 第30回日本喉頭科学会総会・学術講演会, 高知, 2018年3月1-2日.
 82. 宮本真, 渡邊格, 中川秀樹, 齋藤康一郎: 超高精細CTの喉頭・気管領域における使用経験. 第30回日本喉頭科学会総会・学術講演会, 高知, 2018年3月1-2日.
 83. 渡邊格, 宮本真, 中川秀樹, 齋藤康一郎: 咽喉頭病変を契機に診断された全身疾患の5例. 第30回日本喉頭科学会総会・学術講演会, 高知, 2018年3月1-2日.
 84. Karaho T, Nakajima J, Kawahara K, Hayashi Y, Nakamura M, Saito K: Videofluorographic characteristics of pharyngeal stage of swallowing function in very elderly people. Dysphagia Research Society 26th Annual Meeting, USA, March 15th-17th, 2018.
 85. 横井秀格: 主な抗ヒスタミン剤の特徴と販売戦略?!. 大鵬薬品社内研修会, 東京, 2018年3月29日.
- 論文**
1. 齋藤康一郎, 矢部はる奈¹ (川崎市立井田病院): 両側声帯運動障害. ENTONI 205: 111-117, 2017.
 2. 齋藤康一郎, 渡邊格: 《咽喉頭・頭頸部領域》急性喉頭蓋炎. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 89(6): 445-448, 2017.
 3. 齋藤康一郎, 池田哲也: 症状からみた対応と病院に送るタイミング 開口障害, 咬合障害. JOHNS 33(5): 601-604, 2017.
 4. 唐帆健浩: 嚥下検査Q&A(Q26)胃瘻造設の適応を検討するために必要な検査は? . 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 89(5): 347-348, 2017.
 5. 永藤裕, 増田正次, 茂呂順久, 佐藤大, 甲能直幸, 齋藤康一郎: 声門下狭窄をきたした喉頭軟骨肉腫の1例. 日本気管食道科学会会報 68(4): 301-306, 2017.
 6. 齋藤康一郎: 気管切開および経皮的気道確保の適応と注意点. 日本耳鼻咽喉科学会会報 120(9): 1178-1181, 2017.
 7. 齋藤康一郎, 渡邊格: 診断 喉頭乳頭腫はHPVのDNAタイピングを全例にしたほうが良いのでしょうか? . JOHNS 33(9): 1156-1158, 2017.
 8. 齋藤康一郎: かぜと耳鼻咽喉科疾患 音声障害. ENTONI 212: 32-38, 2017.
 9. 唐帆健浩, 茂呂順久, 間藤翔梧¹ (杏林大学医学部付属病院リハビリテーション室): 頭頸部癌に対する化学放射線治療後の嚥下障害. 嚥下医学 6(2): 155-161, 2017.
 10. 細矢慶¹, 小町太郎¹, 浅香大也², 児玉悟³, 小林正佳⁴, 中川隆之⁵, 伊藤伸⁶, 横井秀格, 許芳行⁷, 朝子幹也⁸, 大久保公裕¹ (日本医科大学, ²東京慈恵会医科大学, ³大分大学医学部付属病院, ⁴三重大学, ⁵京都大学, ⁶順天堂大学医学部附属順天堂医院, ⁷昭和大学, ⁸関西医科大学): 内視鏡下副鼻腔手術のインフォームド・コンセントにおける手術説明に関するアンケート調査 眼窩損傷・髄液漏の説明の重要性. 日本鼻科学会会誌 56(4): 557-563, 2017.
 11. 中川隆之¹, 児玉悟², 小林正佳³, 讃岐徹治⁴, 田中秀峰⁵, 花井信広⁶, 花澤豊行⁷, 物部寛子⁸, 横井秀格, 鈴木元彦⁹, 山下勝¹, 大森孝一¹ (京都大学, ²大分大学医学部付属病院, ³三重大学, ⁴熊本大学, ⁵筑波大学, ⁶愛知県がんセンター中央病院, ⁷千葉大学, ⁸日本赤十字社医療センター, ⁹名古屋市立大学): 鼻副鼻腔悪性腫瘍の内視鏡手術 嗅神経芽細胞腫に対する内視鏡下経鼻手術の応用に関する多施設後向き研究. 耳鼻と臨床 63(Suppl.1): S60-S65, 2017.
 12. 横井秀格: 鼻入口部: 皮膚・粘膜 毛嚢炎, 鼻前庭炎. JOHNS 33(12): 1676-1678, 2017.
 13. 宮本真, 宮田恵里¹ (関西医科大学): 心因性発声障害. ENTONI 213: 79-85, 2017.
 14. 宮本真, 宮田恵里¹, 岩井大¹, 友田幸一¹ (関西医科大学): 当科における迷走神経麻痺10症例の検討. 喉頭 29(2): 90-93, 2017.
 15. 井原遥¹, 宮本真, 熊澤博文¹, 岩井大¹ (関西医科大学): 歯根膿瘍の処置中に発症した顔面・頸部皮下縦隔気腫の1症例. 日本気管食道科学会 68(6): 388-395, 2017.
 16. 宮本真, 宮田恵里¹, 岩井大¹, 友田幸一¹ (関西医科大学): カフ付気管カニューレ挿入患者における経口摂取およびカニューレ抜去についての検討. 嚥下医学 6(2): 1-6, 2017.
 17. 宮田恵里¹, 宮本真, 友田幸一¹ (関西医科大学): 当科における音声治療の終了群およびドロップアウト群の疾患別の検討—疾患別での検討—. 日本音声言語医学 58(3): 223-227, 2017.
 18. 宮田恵里¹, 宮本真, 友田幸一¹ (関西医科大学): 成人まで持ち越した唇歯音化症例の治療経験. 音声言語医学 58(2): 185-190, 2017.
 19. Kasakura-Kimura N, Masuda M, Mutai H¹, Masuda S², Morimoto N³, Ogahara N⁴, Misawa H⁵, Sakamoto H⁶, Saito K, Matsunaga T⁷ (National Institute of Sensory Organs, National Hospital Organization

- Tokyo Medical Center, ²National Mie Hospital, ³National Center for Child Health and Development, ⁴Kanagawa Children's Medical Center, ⁵National Hospital Organization Nagoya Medical Center, ⁶Hyogo Prefectural Kobe Children's Hospital, ⁷Medical Genetics Center, National Hospital Organization Tokyo Medical Center) : WFS1 and GJB2 mutations in patients with bilateral low-frequency sensorineural hearing loss. *Laryngoscope* 127(9) : 324-329, 2017.
20. Nakagawa T¹, Kodama S², Kobayashi M³, Sanuki T⁴, Tanaka S⁵, Hanai N⁶, Hanazawa T⁷, Monobe H⁸, Yokoi H, Suzuki M⁹, Yamashita M¹, Omori K (¹Graduate School of Medicine, Kyoto University, ²Oita University Faculty of Medicine, ³Mie University Graduate School of Medicine, ⁴Kumamoto University Hospital, ⁵Faculty of Medicine, University of Tsukuba, ⁶Aichi Cancer Center Hospital, ⁷Graduate School of Medicine, Chiba University, ⁸Japanese Red Cross Medical Center, ⁹Graduate School of Medicine, Nagoya City University) : Endoscopic endonasal management of esthesioneuroblastoma : A retrospective multicenter study. *Auris Nasus Larynx* 45(2) : 281-285, 2017. (WEB)
 21. Watabe T¹, Xu M¹, Watanabe M², Nabekura J³, Higuchi T⁴, Hori K⁴, Sato MP⁴, Nin F⁴, Hibino H^{4,5}, Ogawa K¹, Masuda M, Tanaka KF¹(¹Keio University School of Medicine, ²Hamamatsu University School of Medicine, ³National Institute for Physiological Sciences, ⁴Niigata University School of Medicine, ⁵Niigata University) : Time-controllable Nkcc1 knockdown replicates reversible hearing loss in postnatal mice. *Sci Rep* 7(1) : 13605, 2017.
 22. Sato MP^{1,2}, Higuchi T¹, Nin F^{1,3}, Ogata G^{1,3}, Sawamura S¹, Yoshida T^{1,3,4}, Ota T¹, Hori K¹, Komune S⁵, Uetsuka S^{1,6}, Choi S^{3,7}, Masuda M, Watabe T⁸, Kanzaki S⁸, Ogawa K⁸, Inohara H⁶, Sakamoto S³, Takebayashi H⁹, Doi K², Tanaka KF⁸, Hibino H^{1,3,7}(¹Niigata University School of Medicine, ²Kindai University Faculty of Medicine, ³Niigata University, ⁴Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University, ⁵Yuaikai Oda Hospital, ⁶Graduate School of Medicine, Osaka University, ⁷AMED-CREST, ⁸Keio University School of Medicine, ⁹Graduate School of Medical and Dental Sciences, Niigata University) : Hearing Loss Controlled by Optogenetic Stimulation of Nonexcitable Nonglial Cells in the Cochlea of the Inner Ear. *Front Mol Neurosci* 10 : 300, 2017.
 23. Oishi N¹, Yamada H¹, Kanzaki S¹, Kurita A², Takiguchi Y³, Yuge I⁴, Asama Y⁵, Masuda M, Ogawa K¹ (¹Keio University School of Medicine, ²Saitama Red Cross Hospital, ³Eiju Sogo Hospital, ⁴Yuge E.N.T. Clinic, ⁵Asama Jibiinkoka Clinic) : Assessment of hyperacusis with a newly produced Japanese version of the Khalfa hyperacusis questionnaire. *Acta Otolaryngol* 137(9) : 957-961, 2017.
 24. Masuda M, Li Y^{1,2}, Pak K^{1,2}, Chavez E^{1,2}, Mullen L^{1,2}, Ryan AF^{1,2} (¹UCSD School of Medicine, ²Veterans Administration) : The Promoter and Multiple Enhancers of the pou4f3 Gene Regulate Expression in Inner Ear Hair Cells. *Mol Neurobiol* 54(7) : 5414-5426, 2017.
 25. Miyamoto M, Kobayashi Y¹, Miyata E¹, Sakagami T¹, Yagi M¹, Kanda A¹, Michiura T¹, Tomoda K¹ (¹Kansai Medical University) : Residual Recurrent Nerve Paralysis After Esophagectomy is Associated with Preoperative Lower Serum Albumin. *Dysphagia* 32(4) : 520-525, 2017.
- 著 書**
1. 横井秀格: 30舌下免疫療法が保険適応になったそうですね。むかしの頭で診ていませんか? 呼吸器診療をスッキリまとめました。滝澤始編集。東京, 南江堂, 2017. p.193-197.
 2. 齋藤康一郎: 第4章音声障害の検査と診断法④内視鏡検査. 音声障害診療ガイドライン2018年版. 日本音声言語医学会日本喉頭科学会編集。東京, 金原出版, 2018. p.28-29.
 3. 齋藤康一郎: 第6章Clinical Questions(CQ)CQ3喉頭視鏡検査は有効か?. 音声障害診療ガイドライン2018年版. 日本音声言語医学会日本喉頭科学会編集。東京, 金原出版, 2018. p.57-59.
 4. 齋藤康一郎: 第6章Clinical Questions(CQ)CQ9音声障害に副腎皮質ステロイドの使用は推奨されるか?. 音声障害診療ガイドライン2018年版. 日本音声言語医学会日本喉頭科学会編集。東京, 金原出版, 2018. p.76-78.
 5. 齋藤康一郎, 矢部はる奈: 喉頭編喉頭手術1.喉頭良性病変の手術2)喉頭顕微鏡下手術における喉頭展開困難時の対応. イラスト手術手技のコツ 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 咽喉頭頸部編 改訂第2版. 村上泰, 久育男監修. 東京, 東京医学社, 2017. p.253-256.
 6. 齋藤康一郎: 縦隔・気管・食道編Ⅱ. 気管・食道手術4.経皮的気管切開術—適応と実際. イラスト手術手技のコツ 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 咽喉頭頸部編 改訂第2版. 村上泰, 久育男監修. 東京, 東京医学社, 2017. p.407-408.
 7. 齋藤康一郎: 8章喉頭科1.声帯結節・声帯ポリープ. 小児耳鼻咽喉科第2版. 日本小児耳鼻咽喉科学会編集。東京, 金原出版, 2017. p.258-262.
 8. 甲能直幸: 第5章頭部および頸部 I 頭部・頸部の疾患 A口腔・咽頭・喉頭・頸部の疾患. 系統看護学講座別巻臨床外科看護各論 第9版. 北島政樹, 江川幸二編集。東京, 医学書院, 2018. p.434-443.
- その他**
1. 甲能直幸: 杉並区の「災害時医療対策」. 頼れるドクター 新宿・中野・杉並・吉祥寺 2018-2019版. Doctors File. ドクターズ・ファイル編集部。東京, 株式会社ガミックス, 2018. p.60-63.
 2. 甲能直幸: 佼成病院. 頼れるドクター 新宿・中野・杉並・吉祥寺 2018-2019版. Doctors File. ドクターズ・ファイル編集部。東京, 株式会社ガミックス, 2018. p.82.
 3. 甲能直幸: Doctors File vol.10787, <https://doctorsfile.jp/>, 2017.
- 産科婦人科学教室**
- 講 演**
1. Tanaka K, Sakai K, Matsushima M, Matsuzawa Y, Izawa T, Nagashima T, Furukawa S, Kobayash Y, Iwashita M: Non-essential and branched-chain amino acids differently regulate insulin-like growth factor binding protein-1 production and phosphorylated status in cultured HepG2 cells. 公益社団法人日本産科婦人科学会第69回学術講演会, 広島, 2017年4月13-16日.
 2. Furukawa S, Iwashita M, Miyakawa K, Shibata J, Nakano Y, Ikeda R: High dose intravenous immunoglobulin therapy for pregnancy with aspirin-heparin resistant antiphospholipid syndrome. 公益社団法人日本産科婦人科学会第69回学術講演会, 広島,

2017年4月13-16日。

3. 長内喜代乃, 西ヶ谷順子, 渋谷英里子, 北村亜也, 澁谷裕美, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 若年子宮頸癌術後患者において骨密度・脂質代謝異常のフォローアップは重要である. 公益社団法人日本産科婦人科学会第69回学術講演会, 広島, 2017年4月13-16日。
4. 本田理貢, 小林陽一, 宮川実果, 戸田友美, 渡邊百恵, 長内喜代乃, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 岩下光利: 婦人科癌化学療法における発熱性好中球減少症の検討. 公益社団法人日本産科婦人科学会第69回学術講演会, 広島, 2017年4月13-16日。
5. 井澤朋子, 安部美由紀, 竹森聖, 渋谷英里子, 鳥海玲奈, 田中啓, 松島実穂, 松澤由記子, 長島隆, 古川誠志, 小林陽一, 岩下光利: 治療的頸癌縫縮術の適応に関する検討. 公益社団法人日本産科婦人科学会第69回学術講演会, 広島, 2017年4月13-16日。
6. 鳥海玲奈, 井澤朋子, 野田清香, 田中啓, 長島隆, 古川誠志, 小林陽一, 岩下光利: 妊娠中期の胎胞形成例における治療的頸管縫縮術と保存的加療の比較. 公益社団法人日本産科婦人科学会第69回学術講演会, 広島, 2017年4月13-16日。
7. 松島実穂, 安部美由紀, 竹森聖, 渋谷英里子, 田中啓, 井澤朋子, 長島隆, 古川誠志, 小林陽一, 岩下光利: 子宮筋腫核出術後妊娠の帝王切開における出血リスク因子についての検討. 公益社団法人日本産科婦人科学会第69回学術講演会, 広島, 2017年4月13-16日。
8. Sato Y, Oota K, Ooishi M, Kobayashi A, Yoshida K, Kobayashi Y, Iwashita M: Giant polyp of the uterine cervix: a case report. 第69回日本産科婦人科学会学術講演会, 広島, 2017年4月13-16日。
9. 岡愛子, 田中啓, 山田研二, 松澤由記子, 井澤朋子, 長島隆, 古川誠志, 小林陽一, 岩下光利: 妊娠初期に置ける妊娠糖尿病スクリーニングに関する検討. 公益社団法人日本産科婦人科学会第69回学術講演会, 広島, 2017年4月13-16日。
10. 竹森聖, 田中啓, 安部美由紀, 渋谷英里子, 松島実穂, 井澤朋子, 長島隆, 古川誠志, 小林陽一, 岩下光利: 妊娠34週未満前期破水症例の妊娠延長期間を予測する因子の検討. 公益社団法人日本産科婦人科学会第69回学術講演会, 広島, 2017年4月13-16日。
11. 渡邊百恵, 澁谷裕美, 富岡紀子, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 当院におけるベパシズマブ投与症例についての後方視的検討. 公益社団法人日本産科婦人科学会第69回学術講演会, 広島, 2017年4月13-16日。
12. 小林陽一: 子宮腺筋症の診断と治療. 北多摩エリアフェーマシーセミナー, 西東京, 2017年5月17日。
13. 井上亜結美, 井澤朋子, 竹森聖, 渋谷英里子, 田中啓, 松島実穂, 長島隆, 古川誠志, 小林陽一, 岩下光利: 分娩時に子宮破裂をきたした双角子宮の1例. 第382回東京産科婦人科学会例会, 東京, 2017年5月20日。
14. 百村麻衣, 小林陽一, 渋谷英里子, 長内喜代乃, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 望月眞, 坂本憲彦, 金田由香子, 鈴木淳: 子宮頸部リンパ上皮腫様扁平上皮癌の1例. 第58回日本臨床細胞学会春期大会, 大阪, 2017年5月27日。
15. 金田由香子, 鈴木淳, 村田栄一郎, 眞嗣睦, 井上慶子, 百村麻衣, 小林陽一, 二階堂孝, 木村英三: 子宮頸部擦過細胞診が診断の契機となった卵管原発扁平上皮癌の1例. 第58回日本臨床細胞学会春期大会, 大阪, 2017年5月27日。
16. 竹森聖, 松島実穂, 渋谷英里子, 鳥海玲奈, 井澤朋子, 長島隆, 古川誠志, 小林陽一, 岩下光利: 妊娠21週に完全子宮破裂を発症した子宮奇形合併妊娠の1例. 第133回関東連合産科婦人科学会, 東京, 2017年6月17日。
17. 北村亜也, 松本浩範, 宮川実果, 野田清香, 長内喜代乃, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 小林陽一, 岩下光利: 当院における新旧メッシュを使用したTVM手術の検討. 第133回関東連合産科婦人科学会, 東京, 2017年6月17日。
18. 村岡由真, 井澤朋子, 古川誠志, 小林陽一, 岩下光利: 産褥マイコプラズマ感染症. 第377回四水回, 東京, 2017年6月21日。
19. 戸田友美, 百村麻衣, 本田理貢, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 高齢女性に発生した硬化性間質性腫瘍の一例. 第59回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 熊本, 2017年7月27-29日。
20. 渡邊百恵, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 望月眞, 小林陽一, 岩下光利: 子宮体癌術後に発生したMalignant small round cell tumorの1例. 第59回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 熊本, 2017年7月27-29日。
21. 佐藤泰紀, 長内喜代乃, 竹森聖, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 急速な腫瘍の増大により診断に至った子宮平滑筋肉腫の1例. JSAWI 18th, 淡路, 2017年9月1日。
22. 鈴木珠美子, 澁谷裕美, 片山紗弥, 渡邊百恵, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 外陰部侵襲性血管粘液腫の1例. 第383回東京産婦人科学会例会, 東京, 2017年9月2日。
23. Shibuya H, Watanabe M, Kobayashi Y, Iwashita M: Study of patients underwent total laparoscopic hysterectomy for early-stage endometrial cancer in our department. 18th annual congress of APAGE, Okayama, September 7th, 2017.
24. 渡邊百恵, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 腹腔鏡下付属器切除後に未熟奇形腫と診断された1例. 第57回日本産科婦人科内視鏡学会, 岡山, 2017年9月9日。
25. 小林陽一: がん医療の現状. がん看護研修 基礎編, 三鷹, 2017年9月16日。
26. 谷垣伸治: 助産師の行う超音波検査. 東京母性衛生学会チーム医療推進助産師研修, 東京, 2017年9月17日。
27. 正古悠一, 谷垣伸治, 芝田恵, 関口将軌, 梅原永能, 左合治彦: 当院における母体菌血症の原因と児の予後. 第383回東京産科婦人科学会例会, 東京, 2017年9月23日。
28. 松田祐奈, 小川浩平, 岡崎有香, 金子佳代子, 関口将軌, 佐々木愛子, 谷垣伸治, 小澤伸晃, 左合治彦: 経膈分娩後13日目に静脈血栓塞栓症と診断された1例. 第383回東京産科婦人科学会例会, 東京, 2017年9月23日。
29. Shibuya H, Kobayashi Y, Watanabe M, Nishigaya Y, Momomura M, Matsumoto H, Iwashita M: A case of vaginal squamous cell carcinoma occurred after resection of flat condyloma with rapid progression presenting right hydronephrosis due to multiple lymph node metastasis. The 21th Korea Taiwan Japan joint meeting. Sendai, October 28th, 2017.
30. Tanigaki S, Nagata C, Iwashita M: Cesarean scar pregnancy: Is an operation unavoidable?. BIT's 5th Annual Global Health Conference 2017 (International Congress of Obstetrics and Gynaecology (ICGO) China 2017), China, November 1st-3rd, 2017.
31. 長内喜代乃, 西ヶ谷順子, 澁谷裕美, 百村麻衣, 松本浩範, 柳本茂久, 小林陽一, 岩下光利: 閉経前婦人科悪性腫瘍患者における卵巣摘出後の骨密度の推移とHRTを中心とした加療効果について. 第32回日本女性医学学会学術集会, 大阪, 2017年11月4-5日。
32. 西ヶ谷順子, 小林陽一, 高松潔, 武隈宗孝, 喜多川亮, 小林栄仁, 戸澤明子, 長尾昌二, 西尾真, 三上幹男: 本

邦での子宮頸癌患者におけるホルモン補充療法の実態調査～JGOGアンケート調査結果～. 第32回日本女性医学学会学術集会, 大阪, 2017年11月4-5日.

33. 鳥海玲奈, 長島隆, 松澤由記子, 小林陽一, 岩下光利: AMH低値例に対する採卵周期での卵巣刺激法の検討. 第62回日本生殖医学会学術講演会, 山口, 2017年11月16日.
34. 渋谷英里子, 百村麻衣, 長内喜代乃, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利, 坂本憲彦, 岸本浩次, 下山田博明, 柴原純二: 外陰部基底細胞癌の1例. 第56回日本臨床細胞学会秋期大会, 福岡, 2017年11月18日.
35. 稲嶺圭祐, 岸本浩次, 坂本憲彦, 水谷奈津子, 市川美雄, 鈴木瞳, 菅野大輝, 古川由香, 船田さやか, 長濱清隆, 藤原正親, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 小林陽一, 柴原純二: Papillary immature metaplasia/immature condyloma の一例. 第56回日本臨床細胞学会秋期大会, 福岡, 2017年11月19日.
36. 野田清香, 鈴木淳, 金田由香子, 井上慶子, 村田英一郎, 當間嗣睦, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 二階堂孝, 木村英三, 小林陽一: 子宮内膜及び腹水細胞診上での組織型の推定が可能であった腹膜原発漿液性腺癌の1例. 第56回日本臨床細胞学会秋期大会, 福岡, 2017年11月19日.
37. 田中啓, 松島実穂, 松澤由記子, 井澤朋子, 長島隆, 古川誠志, 小林陽一, 岩下光利: TNF- α -IGF-Iがヒト絨毛癌株BeWoの増殖能・血管新生能に与える影響. 第25回日本胎盤学会学術集会, 雲仙, 2017年11月24-25日.
38. 鳥海玲奈, 谷垣伸治, 野田清香, 田中啓, 松澤由記子, 長島隆, 小林陽一, 岩下光利: 頸管妊娠に対して子宮動脈塞栓術を施行した後Asherman症候群を呈した一例. 第378回四水会, 東京, 2017年11月22日.
39. Watanabe M, Shibuya H, Nishigaya Y, Momomura M, Matsumoto H, Kobayashi Y, Iwashita M: Preoperative value of serum D-dimer and risk factors for deep venous thrombosis in gynecological malignant patients. 5th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology, Tokyo, November 30th, 2017.
40. 村岡由真, 井澤朋子, 田中啓, 井上亜結実, 本田理貢, 古川誠志, 小林陽一, 岩下光利: 産褥マイコプラズマ感染症について. 第134回関東連合産科婦人科学会, 宇都宮, 2017年12月9-10日.
41. 中山真恵, 百村麻衣, 岡愛子, 渋谷英里子, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 成人Nuck管水腫は高率に内膜症を併存する. 第134回関東連合産科婦人科学会, 宇都宮, 2017年12月9-10日.
42. 田中啓, 松島実穂, 井澤朋子, 古川誠志, 小林陽一, 岩下光利: 母体肥満が妊娠時期別の胎児発育に与える影響. 第134回関東連合産科婦人科学会, 宇都宮, 2017年12月9-10日.
43. 堂園溪, 東眞, 渡部耕平, 酒井謙, 小山典宏, 小林陽一, 岩下光利: 大腸癌術後に卵巣癌および子宮体癌を発症しLynch症候群が疑われた1例. 第134回関東連合産科婦人科学会, 宇都宮, 2017年12月9-10日.
44. 大沢草宣, 長島隆, 富岡紀子, 北村亜也, 松島実穂, 谷垣伸治, 小林陽一, 岩下光利: 肺高血圧合併妊娠の2例. 第384回東京産科婦人科学会例会, 東京, 2017年12月16日.
45. 谷垣伸治: いつから始まる? 周産期管理. 平成29年度多摩地域周産期ネットワークグループ連携会議, 武蔵野, 2018年1月11日.
46. 谷垣伸治: 妊娠初期評価 限られた情報をよみきれ. 武蔵野産婦人科医会平成29年度第3回総会学術講演会, 武蔵野, 2018年1月27日.
47. 小林陽一: 子宮頸癌ガイドライン2017の解説. 平成29

年度熊本県がん検診従事者(機関)認定協議会 子宮がん検診従事者講習会, 熊本, 2018年2月3日.

48. Iwashita M: Decreasing birth rate in Japan. The 7th International Symposium of TAOG, Taiwan, March 18th, 2018.

論文

1. Tanaka K, Yamada K, Matsushima M, Izawa T, Furukawa S, Kobayashi Y, Iwashita M: Prediction of spontaneous preterm delivery in asymptomatic twin pregnancies using cervical length and granulocyte elastase. *Taiwan J Obstet Gynecol* 56:188-191, 2017. doi: 10.1016/j.tjog.2016.07.014.
2. Fujisaki M¹, Furukawa S, Maki Y¹, Ohashi M¹, Doi K¹, Sameshima H¹ (¹University of Miyazaki): Maternal Morbidity in Women with Placenta Previa Managed with Prediction of Morbidly Adherent Placenta by Ultrasonography. *J Pregnancy* 2017: 8318751, 2017.
3. 渡邊百恵, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 早期子宮体癌に対し腹腔鏡下子宮全摘術を施行した症例についての検討. *日産婦人視鏡会誌* 33:63-68, 2017.
4. 渡邊百恵, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 腹腔鏡下卵巣子宮内膜症性嚢胞術後症例の検討. *東京産婦会誌* 66:202-206, 2017.
5. 岡愛子, 松島実穂, 安部美由紀, 竹森聖, 渋谷英里子, 井澤朋子, 長島隆, 古川誠志, 小林陽一, 岩下光利: 特発性赤芽球癆合併妊娠の1例. *東京産婦会誌* 66:357-362, 2017.
6. 井上亜結実, 井澤朋子, 竹森聖, 渋谷英里子, 田中啓, 松島実穂, 長島隆, 古川誠志, 小林陽一, 岩下光利: 分娩中に子宮破裂をきたした双角子宮の1例. *東京産婦会誌* 66:735-740, 2017.
7. 古川誠志: 胎児心拍数モニタリング”あるある”お悩み症例集 急速遂娩?経過観察?病態・生理学的背景を踏まえて対応力アップ! 徐脈. *ペリネイタルケア* 36:44-48, 2017.
8. 永森久美子¹, 谷垣伸治, 小川浩平², 芝田恵², 左合治彦²(¹聖路加助産院, ²国立成育医療センター研究所周産期・母性診療センター): 教科書には載っていない分娩進行のアセスメント 開業助産師の“ここで分かる”をエビデンスで解説 吐き気・嘔吐. *ペリネイタルケア* 36:882-886, 2017.
9. Tanaka K, Sakai K, Matsushima M, Matsuzawa Y, Izawa T, Kobayashi Y, Iwashita M: Non-essential and branched-chain amino acids differentially regulate insulin-like growth factor binding protein-1 production and phosphorylation in HepG2 cells. *Growth Factors* 35:19-28, 2017.
10. Tanaka K, Kobayashi Y, Sugiyama J¹, Yamazaki T², Dozono K, Watanabe M, Shibuya H, Nishigaya Y, Momomura M, Matsumoto H, Umezawa S², Takamatsu K¹, Iwashita M (¹The Tokyo Dental College Ichikawa General Hospital, ²The Japanese Red Cross Musashino Hospital): Histologic grade and peritoneal cytology as prognostic factors in type 1 endometrial cancer. *Int J Clin Oncol* 22:533-540, 2017. doi: 10.1007/s10147-016-1079-5.
11. Furukawa S, Miyakawa K¹, Shibata J², Iwashita M (¹Taisei Hospital, ²Shibata Obstetrics and Gynecology Clinic): Women with Subclinical Hypothyroidism Are at Low Risk of Poor Pregnancy Outcome in Japan. *Tohoku J. Exp. Med.* 242:167-172, 2017.

12. Tanaka K, Muraoka Y, Toda Y, Kiyomoto C, Okubo Y, Nagashima T, Furukawa S, Fujiwara M, Mochizuki M, Kobayashi Y, Iwashita M: Finegoldia magna myometritis with uterine necrosis after uterine artery embolisation. J Obstet Gynaecol 37:688-689, 2017. doi: 10.1080/01443615.2017.1286303.
 13. Osanai K, Kobayashi Y, Ostu M¹, Izawa T, Sakai K, Iwashita M (¹University of Birmingham): Ramelteon, a selective MT1/2 receptor antagonist, suppresses the proliferation and invasiveness of endometrial cancer cells. Hum Cell 30:209-215, 2017.
 14. 古川誠志: 子宮収縮抑制剤投与法これから一長期投与の立場から. 産婦の実際 66:837-843, 2017.
 15. Ogawa K^{1,2}, Urayama KY^{1,3}, Tanigaki S, Sago H^{1,2}, Sato S⁴, Saito S⁵, Morisaki N¹ (¹National Center for Child Health and Development, ²Tohoku University, ³St Luke's International University, ⁴Oita Prefectural Hospital, ⁵University of Toyama): Association between very advanced maternal age and adverse pregnancy outcomes: a cross sectional Japanese study. BMC Pregnancy Childbirth. 10:17:349, 2017. doi:10.1186/s12884-017-1540-0.
 16. Kaneko K¹, Mishima S¹, Goto M¹, Mitsui M¹, Tanigaki S, Oku K², Ozawa N¹, Inoue E¹, Atsumi T², Sago H¹, Murashima A¹ (¹National Center for Child Health and Development, ²Hokkaido University): Clinical feature and anti-phospholipid antibody profiles of pregnancy failure in young women with antiphospholipid antibody syndrome treated with conventional therapy. Mod Rheumatol. 25:1-6, 2017. doi: 10.1080/14397595. 2017. 1386845. (Epub ahead of print).
 17. Kobayashi Y, Osanai K, Tanaka K, Nishigaya Y, Matsumoto H, Momomura M, Hashiba M¹, Mita S¹, Kyo S², Iwashita M (¹Mochida Pharmaceutical Co., Ltd., ²Shimane University School of Medicine): Endometrial cyst fluid induces reactive oxygen species (ROS) in human immortalized epithelial cells derived from ovarian endometrioma. Redox Rep 22:361-366, 2017.
 18. Suyama F¹, Ogawa K¹, Tazaki Y², Miwa T¹, Taniguchi K¹, Nakamura N¹, Tanaka S¹, Tanigaki S, Sago H¹ (¹National Center of Child Health and Development, ²Fukuoka Children's Hospital): The outcomes and risk factors of fetal bradycardia associated with external cephalic version. J Matern Fetal Neonatal Med. 2017 Nov 2:1-5. doi: 10.1080/14767058.2017.1395846. [Epub ahead of print]
 19. Tanaka K, Yamada K, Matsushima M, Izawa T, Furukawa S, Kobayashi Y, Iwashita M: Increased maternal insulin resistance promotes placental growth and decreases placental efficiency in pregnancies with obesity and gestational diabetes mellitus. J Obstet Gynaecol Res. doi: 10.1111/jog.13474, 2017.
 20. Nakamura M¹, Umehara N², Ishii K³, Sasahara J³, Kiyoshi K⁴, Ozawa K⁵, Tanaka K, Tanemoto T⁶, Ichizuka K¹, Hasegawa J⁷, Ishikawa H⁸, Murakoshi T⁹, Sago H³ (¹Shiga University School of Medicine, ²National Center for Child Health and Development, ³Osaka Medical Center and Research Institute for Maternal and Child Health, ⁴Hyogo Children's Hospital, ⁵Miyagi Children's Hospital, ⁶Jikei University Hospital, ⁷St. Marianna University School of Medicine, ⁸Kanagawa Children's Medical Center, ⁹Seirei Hamamatsu General Hospital): A poor long-term neurological prognosis is associated with abnormal cord insertion in severe growth-restricted fetuses. J Perinat Med. Dec 21, 2017. pii:/j/jpme.ahead-of-print/jpm-2017-0240/jpm-2017-0240.xml. doi: 10.1515/jpm-2017-0240. [Epub ahead of print]
 21. 谷垣伸治, 芝田恵¹, 舟木哲¹, 小川浩平¹, 赤石理奈¹, 佐々木愛子¹, 左合治彦¹ (¹国立成育医療センター研究所 周産期・母性診療センター): 母と子の羅針盤, 産科編, 全身症状, 妊産婦の発熱. 周産期医学 47(増刊):87-91, 2017.
 22. 正古悠一¹, 谷垣伸治, 関口将軌¹, 松田裕奈¹, 大西純貴¹, 芝田恵¹, 梅原永能¹, 左合治彦¹ (¹国立成育医療センター研究所 周産期・母性診療センター): 当院における母体菌血症と児の予後. 東京産婦会誌 67:17-21, 2018.
 23. 鈴木珠美子, 澁谷裕美, 片山紗弥, 渡邊百恵, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 外陰部侵襲性血管粘液腫の1例. 東京産婦会誌 67:62-65, 2018.
 24. 谷垣伸治, 村岡由真, 本田理貢, 島海玲奈, 田中啓, 松島実穂, 松澤由記子, 井澤朋子, 岩下光利: 脳性麻痺をいかに予防するか?—産科医療補償制度再発防止に関する報告書をもとに, 臍帯脱出の誘因・診断・対処法. 周産期医学 48:329-332, 2018.
- 著 書**
1. 谷垣伸治: 超音波診断. 新版 助産師業務要覧 第3版 II 実践編 2018年版. 福井トシ子編集. 東京, 日本看護出版協会, 2017. p.296-306.
 2. 谷垣伸治: 産婦人科疾患, 合併症妊娠(内科疾患). 今日の治療指針 2018年版. 福井次矢, 高木誠, 小室一成 総編集. 東京, 医学書院, 2018. p.1329-1334.
- 報告書**
1. 谷垣伸治: 女性の健康の包括的支援のための情報収集および情報発信と医療提供体制等に関する研究(分担研究). 厚生労働科学研究研究費補助金.
- 放射線医学教室**
- 講 演**
1. Gomyo M, Tsuchiya K, Ohara A, Katase S, Miyazaki I, Nitatori T: Differential diagnosis between HGG and lymphoma by consecutive acquisition methods (DCE-MRDSA-DSC) by using a 1.0-M gadolinium-based contrast agent. 第76回日本医学放射線学会総会, 横浜, 2017年4月13-16日.
 2. 横山健一: MRIで心臓をみる. 杏林大学大学院セミナー, 三鷹, 2017年6月5日.
 3. 横山健一: 体内埋め込み型医療機器のMRI検査安全性についての課題と対応 臨床医の立場から. バイオビューセミナー, 東京, 2017年6月23日.
 4. 横山健一: エキスパートに学ぶ読影の基本手順 心臓. 第36回東京MRI研究会, 東京, 2017年7月8日.
 5. 横山健一: 1年間の進歩を丸ごとレビュー Coronary imaging. SCMR Japan WG Seminar 2017, 東京, 2017年7月15日.
 6. 荻安俊哉: CT Subtractionに関する紹介. 第65回関東核医学画像処理研究会, 東京, 2017年9月2日.
 7. 五明美穂: ベイズ推定法によるperfusionの臨床的有用性. 第45回日本磁気共鳴医学会大会, 宇都宮, 2017年9月14日.
 8. Masuda Y, Kuroki K, Tateishi H, Kariyasu T, Kinoshita Y, Shiga H, Watanabe M, Yokoyama K: Successful balloon-occluded retrograde transvenous obliteration (BRTO) for large gastric varices using

- selective coil embolization of multiple hepatofugal collateral vessels. Cardiovascular and interventional radiological society of Europe, Denmark, September 16th-20th, 2017.
9. 荏安俊哉: 胸部造影CT 基礎から最新画像診断. 第4回根本杏林堂イブニングセミナー, 東京, 2017年9月26日.
 10. 町田治彦: Dual-energy CTの臨床応用. 平成29年度国公立大学病院医療技術関係職員研修 (診療放射線技術者), 東京, 2017年10月2日.
 11. 町田治彦: 循環器領域のDual Energy CTの展望. 第18回循環器CT・MRI研究会, 東京, 2017年10月21日.
 12. 横山健一: 1.心臓MRIの基礎と最新動向 2.次世代イメージング 超高精細CTの可能性. 第34回新潟県放射線医会 第26回新潟市医師会放射線科医会, 新潟, 2017年10月28日.
 13. 五明美穂: 神経膠腫の画像診断～遺伝子型との関連～. 第28回多摩脳腫瘍研究会, 三鷹, 2017年11月4日.
 14. 町田治彦: Precisionの臨床と運用. TMSC最前線CTセミナー2017in首都圏, 東京, 2017年11月11日.
 15. 横山健一: 心臓MRIの基礎と最新動向～3T装置の話題も含めて～. 平成29年度日本医師会生涯教育講座北見医師会学術講演会, 北見, 2017年11月22日.
 16. Kariyasu T, Machida H, Yamamura W, Adachi T, Koyanagi M, Nishikawa M, Yokoyama K: Technological Factors for Realizing State-of-the-art Ultra-high-resolution CT and Its Clinical Impact: What the Radiologist and Radiological Technologist Need to Know. Radiological Society of North America (RSNA) 2017, USA, November 26th,-December 1st, 2017.
 17. Adachi T, Machida H, Yamamura W, Arai T, Enomoto H, Kariyasu T, Koyanagi M, Yamashita K, Shimizu Y, Fukushima K, Nakanishi A, Nitatori T, Yokoyama K: Technological Development for Improving Spatial Resolution in CT Images and Its Whole-body Clinical Impact What the Radiologist and Radiological Technologist Need to Know. Radiological Society of North America (RSNA) 2017, USA, November 26th,-December 1st, 2017.
 18. Yamamura W, Adachi T, Shimizu Y, Fukushima K, Koyanagi M, Arai T, Yamashita K, Nakanishi A, Machida H, Kariyasu T, Yokoyama K: Improved Spatial Resolution of High-Contrast Structures Using an Ultra-High-Resolution CT Scanner: Phantom Studies and Clinical Pilot Studies. Radiological Society of North America (RSNA) 2017, USA, November 26th,-December 1st, 2017.
 19. 横山健一: MRI対応デバイスの現状と課題. 第51回ベISING治療研究会, 東京, 2017年12月2日.
 20. 横山健一: 超高精細CTの基礎および臨床応用. 日本放射線技術学会第64回関東支部研究発表大会, 甲府, 2017年12月9日.
 21. 立石秀勝, 黒木一典, 増田裕, 荏安俊哉, 横山健一, 井上政則, 福岡利仁: 多発筋炎によると考えられた難治性乳癌胸に対しリポドールリンパ管造影が奏功した1例. 東京アンギオ・IVR会, 東京, 2018年1月11日.
 22. 町田治彦, 鈴木滋, 中岡隆志, 横山健一: 心臓領域におけるDual energy CTの臨床応用. 第28回日本心血管画像動態学会, 東京, 2018年1月13日.
 23. 立石秀勝, 黒木一典, 増田裕, 荏安俊哉, 木下雄介, 志賀久恵, 渡邊正中, 横山健一: 術前塞栓術が有効であった咽頭後間隙のCastleman's disease. ER画像・IVR研究会, 東京, 2018年2月2日.
 24. 立石秀勝, 五明美穂, 町田治彦, 黒木一典, 横山健一: 結節性硬化症における腎血管筋脂肪腫AMLと腎動脈瘤の画像診断とIVR. 多摩地区結節性硬化症診療ネットワークセミナー, 立川, 2018年2月22日.
 25. Ohara A, Toyoda K, Matsuda M, Kotoku J, Haruyama T, Oba H, Kanda T, Furui S, Tsuchiya K, Nitatori T: Evaluation of Peritonsillar Abscess Using Reconstructed Enhanced CT Images: Difference in Characteristics of Upper Portion Type and Lower Portion Type. 第37回日本画像医学会, 東京, 2018年2月23-24日.
 26. Kuroki K, Honya K, Kariyasu T, Yokoyama K: Influence of Magnetic Substances on Sensor-based Electromagnetic navigation system. The 24th European Congress of Radiology (ECR), Austria, February 28th,- March 4th, 2018.
 27. Ohara A, Machida H, Adachi T, Shimizu Y, Yamashita K, Koyanagi M, Shiga H, Gomyo M, Yokoyama K: Image Quality of an Ultra-High-Resolution CT Scanner Virtual Bronchoscopy: Comparison of Various Reconstruction Parameters. European Congress of Radiology, Austria, February 28th,- March 4th, 2018.
 28. Ohara A, Shiga H, Machida H, Gomyo M, Yamamura W, Kariyasu T, Masuda Y, Kuroki K, Yokoyama K: Temporal Bone CT Evaluation of Middle Ear Cholesteatoma with the Latest Ultra-high-resolution CT: What the Radiologist Needs to Know. European Congress of Radiology, Austria, February 28th,- March 4th, 2018.
 29. Gomyo M, Tsuchiya K, Machida H, Katase S, Koyanagi M, Ohara A, Shiga H, Yokoyama K: Demonstration of brain perforating arteries by ultra-high-resolution CT angiography. The 24th European Congress of Radiology (ECR), Austria, February 28th,- March 4th, 2018.
 30. Shiga H, Machida H, Ohara A, Gomyo M, Yamamura W, Kinoshita Y, Nishikawa M, Hayashi M, Yokoyama K: Improved Image Quality of Temporal Bone CT with an Ultra-High-Resolution CT Scanner: Clinical Pilot Studies. European Congress of Radiology, Austria, February 28th,-March 4th, 2018.
 31. Shiga H, Ohara A, Machida H, Yamamura W, Gomyo M, Shen J, Watanabe M, Katase S, Yokoyama K: Image Quality of Temporal Bone CT with an Ultra-high-resolution CT Scanner: Comparison between Super-high-resolution and Normal-resolution Reconstruction Modes. European Congress of Radiology, Austria, February 28th,-March 4th, 2018.
 32. Koyanagi M, Machida H, Kariyasu T, Fukushima K, Yamashita K, Ohara A, Gomyo M, Nakanishi A, Yokoyama K: Clinical Applications of the Latest Ultra-High-Resolution CT and Iterative Reconstruction Algorithm: Things Radiologist and Radiographer Need to Know. The 24th European Congress of Radiology (ECR), Austria, February 28th,- March 4th, 2018.
 33. Yamashita K, Shirakawa Y, Hashimoto N, Adachi T, Yamamura W, Shimizu Y, Nakanishi A, Nitatori T, Yokoyama K: Feasibility of Transferring Large Volumes of Image Data Acquired by Ultra-high-resolution CT. The 24th European Congress of Radiology (ECR), Austria, February 28th,- March 4th, 2018.
 34. 新井隆弘, 五明美穂, 土屋一洋, 小柳正道, 中西章仁,

横山健一：超高精細CTによる新たな逐次近似再構成法 (FIRST)を用いた頭部CTAでの微小血管描出能の検討. 第41回日本脳神経CI学会, 新潟, 2018年3月2-3日.

35. 横山健一：MRI対応デバイスの現状と課題. 奈良県MRI対応デバイスカンファレンス 特別講演, 奈良, 2018年3月3日.
36. 鈴木理恵子, 五明美穂, 河野浩之, 天野達雄, 海野佳子, 岡野晴子, 鳥居正剛, 平野照之：椎骨脳底動脈解離の診断における造影T1強調型高分解能MRIの有用性. 第43回日本脳卒中学会, 福岡, 2018年3月15-18日.
37. Ohara A, Tsuchiya K, Gomyo M, Watanabe M, Katase S, Yokoyama K: Brain Metastasis Originating from a Leptomeningeal Lesion: Report of Three Cases. The 12th Asian-Oceanian Congress Of Neuroradiology, Taiwan, March 18th-23rd, 2018.
38. Gomyo M, Tsuchiya K, Miyazaki I, Ohara A, Katase S, Yokoyama K: Serial changes in signal and contrast enhancement of the dissected vertebral artery examined on 3D T1-weighted black-blood imaging. The 12th Asian-Oceanian Congress of Neuroradiology and Head and Neck Radiology, Taiwan, March 18th-20th, 2018.
39. 町田治彦：心臓CTにおける最先端技術の臨床応用. Tama Cardiac CT Seminar, 立川, 2018年3月29日.

論文

1. 濱田健司, 横山健一：MRI対応植込み型デバイス症例に対する検査の現状と展望. INNERVISION 32(6): 21-24, 2017.
2. Ohara A, Toyoda K¹, Matsuda M¹, Kotoku J¹, Haruyama T¹, Oba H¹, Kanda T¹, Furui S¹, Tsuchiya K², Nitatori T (1Teikyo University, 2Saitama Medical University): Evaluation of Peritonsillar Abscess Using Reconstructed Enhanced CT Images: Difference in Characteristics of Upper Portion Type and Lower Portion Type. Japanese Journal of Diagnostic Imaging. 35 : 109-117, 2017.
3. Takeuchi H¹, Suzuki S^{2,3}, Machida H, Ishikawa T³, Ueno E³ (1Fukujiji Hospital, 2,3Kitasato University, 3Tokyo Women's Medical University Medical Center East) : Preliminary results: can dual-energy computed tomography help distinguish cardiogenic pulmonary edema and acute interstitial lung disease?. J Comput Assist Tomogr 42:39-44, 2018.
4. Abe H¹, Iguchi N², Utanohara Y², Takada K², Hen Y², Machida H, Takeda N², Sumiyoshi T² (1The University of Tokyo, 2Sakakibara Heart Institute) : Planimetry of the orifice area in aortic valve stenosis using phase-contrast cardiac magnetic resonance imaging. Int Heart J 59:77-80, 2018.
5. Hen Y¹, Tsugu-Yagawa M¹, Iguchi N¹, Utanohara Y¹, Takada K¹, Machida H, Takara A¹, Teraoka K¹, Inoue K¹, Takamisawa I¹, Takayama M¹, Yoshikawa T¹ (1Sakakibara Heart Institute) : Prognostic value of cardiovascular magnetic resonance imaging for life-threatening arrhythmia detected by implantable cardioverter-defibrillator in Japanese patients with hypertrophic cardiomyopathy. Heart Vessels 33:49-57, 2018.
6. Hen Y¹, Takara A¹, Iguchi N¹, Utanohara Y¹, Teraoka K¹, Takada K¹, Machida H, Takamisawa I¹, Takayama M¹, Yoshikawa T¹ (1Sakakibara Heart Institute) : High signal intensity on T2-weighted cardiovascular magnetic resonance image predicts life-threatening arrhythmic events in patients with hypertrophic cardiomyopathy patients. Circ J

82:1062-1069, 2018.

7. 町田治彦：Dual energy CTの現状. インナービジョン 33:2-5, 2018.
 8. 五明美穂, 土屋一洋¹(1埼玉医科大学総合医療センター・放射線科)：頭蓋内血管壁イメージング. 分子脳血管病 17: 66-72, 2018.
 9. 荻安俊哉, 横山健一：大血管CTの必須知識 -治療に直結する最新の情報も含めて 肺高血圧症. 画像診断 38: 192-200, 2018.
- ## 著書
1. 横山健一：画像診断・血管内治療に伴う医療安全 MRI. 臨床脈管学. 日本脈管学会編集. 東京, 日本医学出版, 2017. p.242-243.
 2. 五明美穂, 土屋一洋 (分担執筆)：脳アミロイドアンギオパチー. Case One. https://www.esite-db.com/CaseOne/archive/hp/CO_25A_hp.php?p0=11tam4hp30&ad=esite1.
 3. 五明美穂, 土屋一洋 (分担執筆)：可逆性脳梁膨大部病変. Case One. https://www.esite-db.com/CaseOne/CaseOne_31g-A.php?p0=41whi3te30&p1=002&p2=1.

その他

1. 五明美穂：ペイズ推定法によるperfusionの臨床的有用性. 画像診断37:巻末, 2017.
2. Gomyo M, Tsuchiya K, Machida H, Katase S, Koyanagi M, Ohara A, Shiga H, Yokoyama K: Cam Laude Award, The 24th European Congress of Radiology (ECR), Austria, February 28th,- March 4th, 2018.
3. 横山健一：特集 大血管CTの必須知識-治療に直結する最新の情報を含めて一序説. 画像診断38:133, 2018.

麻酔科学教室

講演

1. 徳嶺譲芳：超音波ガイド下中心静脈穿刺ハンズオンセミナー. 関東労災病院, 川崎, 2017年4月8日.
2. 澤田龍治, 宮澤典子：小児の待機的腹腔鏡下虫垂切除術に対する腰方形筋ブロックの術後鎮痛の効果. 日本区域麻酔学会第4回学術集会, 名古屋, 2017年4月14日.
3. 渡辺邦太郎, 森山久美, 徳嶺譲芳, 萬知子：橈骨動脈カテーテル留置による手根管症候群の診断に超音波画像検査が有用であった一症例. 日本区域麻酔学会第4回学術集会, 名古屋, 2017年4月15日.
4. Yorozu T, Moriyama K, Tokumine J, Motoyasu A: New Strategy Is Necessary To Reduce Catheter Related Bloodstream Infection In The Intensive Care Unit Of A University Hospital. 91th International Anesthesia Research Society Washington DC, USA, May 5th, 2017.
5. 徳嶺譲芳：PBLD基本手技のピットフォール(超音波ガイド下中心静脈穿刺). 日本麻酔科学会第64回学術集会, 神戸, 2017年6月8日.
6. 鶴澤康二：基本手技のピットフォール CICO(:cannot intubation, cannot oxygenation):適切な管理とは?. 第64回日本麻酔科学会, 神戸, 2017年6月8日.
7. 鶴澤康二：麻酔科の保険医療報酬を考える2017 脊髄くも膜下麻酔や末梢神経ブロックにおける重症加算の新設について. 第64回日本麻酔科学会, 神戸, 2017年6月8日.
8. 森山久美：周術期管理と医療の質. 日本麻酔科学会第64回学術集会, 神戸, 2017年6月8日.
9. 神保一平, 森山潔, 神山智幾, 中澤春政, 徳嶺譲芳, 萬

- 知子: 当院における術後30日以内死亡症例の検討. 第64回日本麻酔学会総会, 神戸, 2017年6月9日.
10. 岡野弘, 森山潔, 金井理一郎, 神山智幾, 中澤春政, 萬知子: パルスオキシメーターの精度解析に, 酸素解離曲線のS字型カーブが及ぼす影響. 第64回日本麻酔学会総会, 神戸, 2017年6月9日.
 11. 徳嶺譲芳: 中心静脈穿刺の手引き改訂: 医療安全のための改訂ポイント. 日本麻酔科学会第64回学術集会, 神戸, 2017年6月9日.
 12. 本保晃, 満田真吾, 小谷真理子, 糟谷洋平, 鎮西美栄子, 萬知子: 経鼻高流量酸素療法を施行した急性呼吸不全患者の非侵襲的パラメーターを用いた治療効果の検討. 第64回日本麻酔科学会, 神戸, 2017年6月9日.
 13. 渡辺邦太郎: 宮崎大学神経ブロックセミナー講師(講演) 兼神経ブロックセミナーインストラクター 日常診療の疑問から研究へ(区域麻酔とペインクリニックに関する臨床研究と基礎研究の作り方). 宮崎大学医学部付属病院, 宮崎, 2017年6月13日.
 14. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺ハンズオンセミナー. 東芝病院, 東京, 2017年6月23日.
 15. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺ハンズオンセミナー. 沖縄県立中部病院, うるま, 2017年6月30日.
 16. 徳嶺譲芳: 中心静脈穿刺をめぐる諸問題. 杏林大学イブニングセミナー, 三鷹, 2017年7月5日.
 17. 池田哲也, 萬知子, 森山久美: 周術期口腔機能評価項目と術後合併症との関連について. 日本外科代謝栄養学会第54回大会, 新潟, 2017年7月7日.
 18. 加賀あかり, 池田哲也, 萬知子, 田村まどか, 森山久美, 松田剛明, 齋藤康一郎: 周術期における口腔リハビリテーションの効果. 日本外科代謝栄養学会第54回大会, 新潟, 2017年7月7日.
 19. 徳嶺譲芳: 中心静脈カテーテル管理の基本(特定行為研修: 栄養に係るカテーテル管理). 公益社団法人日本看護協会看護研修学校, 清瀬, 2017年7月10日.
 20. 徳嶺譲芳: 中心静脈カテーテル管理の実践(特定行為研修: 栄養に係るカテーテル管理). 公益社団法人日本看護協会看護研修学校, 清瀬, 2017年7月13日.
 21. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺ハンズオンセミナー. 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター, 南風原, 2017年7月14日.
 22. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下末梢血管穿刺セミナー. 秋田大学附属病院, 秋田, 2017年7月16日.
 23. 渡辺邦太郎, 森山久美, 満田真吾, 鶴沢康二, 徳嶺譲芳, 鎮西美栄子: LigaSure™を用いた新しい神経障害モデルラットの作成方法の検討: パイロット研究. 日本ペインクリニック学会第51回大会, 岐阜, 2017年7月21日.
 24. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺. 2017年度第1回日本医療機能評価機構CVC講習会, 仙台, 2017年7月28日.
 25. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺ハンズオンセミナー. 板橋中央総合病院, 東京, 2017年8月5日.
 26. 鎮西美栄子: 緩和ケアについて. 平成29年度「がんと共にすこやかに生きる」, 三鷹, 2017年8月5日.
 27. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺ハンズオンセミナー. 水戸協同病院, 水戸, 2017年8月19日.
 28. 徳嶺譲芳: 安全な中心静脈穿刺の諸問題. 両毛麻酔カンファレンス(獨協医科大学医学部麻酔科学講座主催), 足利, 2017年8月25日.
 29. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺ハンズオンセミナー. 常滑市民病院, 常滑, 2017年9月1日.
 30. 大久保茉莉, 森山久美, 森山潔, 神山智幾, 渡辺邦太郎, 鎮西美栄子, 萬知子: 閉鎖神経ブロック後に大腿血腫を生じた一症例. 日本麻酔科学会関東甲信越支部会, 東京, 2017年9月1日.
 31. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺ハンズオンセミナー. 足利赤十字病院, 足利, 2017年9月8日.
 32. 徳嶺譲芳: 中心静脈穿刺: 最新の考え方. 日本麻酔科学会東海・北陸支部第15回学術集会麻酔科領域講習, 名古屋, 2017年9月9日.
 33. 中澤春政: エコーガイド下中心静脈穿刺に垣間見るトリックアートの世界. 日本心臓血管麻酔学会第22回学術大会, 宇都宮, 2017年9月17日.
 34. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺. 2017年度第2回日本医療機能評価機構CVC講習会, 東京, 2017年9月22日.
 35. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺ハンズオンセミナー. 長崎みなとメディカルセンター, 長崎, 2017年9月23日.
 36. 渡辺邦太郎: 講師(講演) 兼神経ブロックハンズオンセミナーインストラクター, QLBができるようになっておいてしみじみ思った症例と, 臨床研究を2個同時に行う方法. 第9回三国街道PNB研究会, さいたま, 2017年9月23日.
 37. 鶴沢康二: 『目標思考型の輸液戦略』招待講演. Enhanced Surgical Recovery Forum in Tokyo, 東京, 2017年9月23日.
 38. 鶴沢康二: 『目標思考型輸液戦略』招待講演. 福岡周術期管理セミナー, 福岡, 2017年9月30日.
 39. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺ハンズオンセミナー. 岡崎市民病院, 岡崎, 2017年10月6日.
 40. 萬知子: 中心静脈カテーテルに関連する機械的合併症と血流感染症を防ぐ一杏林大学病院の組織的な取り組み. 青森臨床麻酔研究会, 弘前, 2017年10月14日.
 41. Uzawa K: Ultrasonographic identification of the cricothyroid membrane in patients with a difficult airway due to neck mass effect. American Society of Anesthesiologist Annual Meeting, USA, October 23rd, 2017.
 42. Nakazawa H, Kobayashi M, Kaneki M: Coenzyme Q10 prevented mitochondrial dysfunction/disintegrity and NLRP3 inflammasome activation in burned mice. American Society of Anesthesiologist Annual Meeting, USA, October 23rd, 2017.
 43. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下末梢血管穿刺セミナー. 日本医療開発機構循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業 超音波ガイド下穿刺のチームトレーニングプログラムAMED, 東京, 2017年10月29日.
 44. 森山久美, 箱根雅子, 田嶋佳代子, 森山潔, 田口敦子, 中澤春政, 鎮西美栄子, 萬知子: 大学病院一施設における術後肺血栓塞栓症に関する後ろ向き調査. 日本臨床麻酔学会第37回大会, 東京, 2017年11月3日.
 45. 竹内徳子, 森山久美, 鶴沢康二, 渡辺邦太郎, 徳嶺譲芳, 本保晃, 箱根雅子, 萬知子: 気道確保困難が想定された巨大甲状腺腫瘍の麻酔管理. 日本臨床麻酔学会第37回大会, 東京, 2017年11月3日.
 46. 谷合誠一, 伊藤準之助, 森山久美, 萬知子, 吉野秀朗: 非心臓手術の周術期におけるAHAガイドラインに沿った循環器リスクによる統一スクリーニングの効果. 日本臨床麻酔学会第37回大会, 東京, 2017年11月3日.
 47. 田口敦子, 森山久美, 竹内徳子, 神山智幾, 森山潔, 徳嶺譲芳, 鎮西美栄子, 萬知子: 直前手術中止理由から見る, 周術期管理センターの役割. 日本臨床麻酔学会第37回大会, 東京, 2017年11月4日.
 48. 渡辺邦太郎: ナビゲーション機能付き超音波診断装置は, 穿刺手技に革命を起こすか?. 日本臨床麻酔学会第37回

大会，東京，2017年11月5日．

49. 和田望：抗NMDA受容体抗体脳炎患者の腹腔鏡下卵巣腫瘍摘出術の麻酔経験．日本臨床麻酔学会第37回大会，東京，2017年11月5日．
50. 徳嶺譲芳：超音波ガイド下中心静脈穿刺ハンズオンセミナー．松阪市民病院，松阪，2017年11月8日．
51. 萬知子：杏林大学医学部付属病院周術期管理センター～多職種による周術期管理．5号線沿い麻酔科懇話会，札幌，2017年11月11日．
52. 徳嶺譲芳：超音波ガイド下中心静脈穿刺．栄養療法ハンズオンセミナー，千葉，2017年11月25日．
53. 徳嶺譲芳：超音波ガイド下中心静脈穿刺．2017年度第3回日本医療機能評価機構CVC講習会，東京，2017年12月1日．
54. 徳嶺譲芳：超音波ガイド下中心静脈穿刺．第24回日本静脈麻酔学会CVC実践セミナー，下関，2017年12月2日．
55. 萬知子：医療技術の進歩の陰で私達が忘れてきたもの．島根大学麻酔科講演，島根，2017年12月2日．
56. 徳嶺譲芳：超音波ガイド下中心静脈穿刺ハンズオンセミナー．日本医学シミュレーション学会第168回CVC実践セミナー，諏訪，2017年12月9日．
57. 徳嶺譲芳：超音波ガイド下中心静脈穿刺ハンズオンセミナー．刈谷豊田総合病院，刈谷，2017年12月15日．
58. 徳嶺譲芳：超音波ガイド下中心静脈穿刺ハンズオンセミナー．日本医学シミュレーション学会第116回CVC指導者養成コース，東京，2017年12月16日．
59. 徳嶺譲芳：超音波ガイド下中心静脈穿刺ハンズオンセミナー．日本医学シミュレーション学会第167回CVC実践セミナー，東京，2017年12月16日．
60. 徳嶺譲芳：超音波ガイド下中心静脈穿刺ハンズオンセミナー．日本医学シミュレーション学会第165回CVC実践セミナー，前橋，2017年12月17日．
61. 徳嶺譲芳：超音波ガイド下中心静脈穿刺ハンズオンセミナー．日本医学シミュレーション学会第114回CVC指導者養成コース，前橋，2017年12月17日．
62. 徳嶺譲芳：超音波ガイド下中心静脈穿刺ハンズオンセミナー．豊見城中央病院，豊見城，2018年1月6日．
63. 徳嶺譲芳：超音波ガイド下中心静脈穿刺ハンズオンセミナー．日本医学シミュレーション学会第170回CVC実践セミナー，伊東，2018年1月13日．
64. 徳嶺譲芳：中心静脈カテーテル管理の基本(特定行為研修：栄養に係るカテーテル管理)．公益社団法人日本看護協会看護研修学校，清瀬，2018年1月25日．
65. 徳嶺譲芳：中心静脈カテーテル管理の実践(特定行為研修：栄養に係るカテーテル管理)．公益社団法人日本看護協会看護研修学校，清瀬，2018年1月31日．
66. 徳嶺譲芳：超音波ガイド下中心静脈穿刺ハンズオンセミナー．日本医学シミュレーション学会第115回CVC指導者養成コース，前橋，2018年1月28日．
67. 徳嶺譲芳：超音波ガイド下中心静脈穿刺ハンズオンセミナー．日本医学シミュレーション学会第166回CVC実践セミナー，前橋，2018年1月28日．
68. 徳嶺譲芳：超音波ガイド下中心静脈穿刺．2017年度第4回日本医療機能評価機構CVC講習会，東京，2018年2月2日．
69. 徳嶺譲芳：超音波ガイド下中心静脈穿刺ハンズオンセミナー．板橋中央総合病院，東京，2018年2月3日．
70. 徳嶺譲芳：超音波ガイド下中心静脈穿刺CVCアップデートコース．第13回日本医学シミュレーション学会，沼津，2018年2月11日．
71. 徳嶺譲芳：超音波ガイド下中心静脈穿刺CVC実践セミナ

一．第13回日本医学シミュレーション学会，沼津，2018年2月11日．

72. 森山潔：麻酔と医療安全事例3．第四回日本医療安全学会学術総会，東京，2018年2月17日．
73. 森山潔：インフォームドコンセントの現状．第四回日本医療安全学会学術総会，東京，2018年2月17日．
74. 徳嶺譲芳：超音波ガイド下末梢血管穿刺セミナー．日本医療開発機構循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業 超音波ガイド下穿刺のチームトレーニングプログラムAMED，東京，2018年2月18日．
75. 徳嶺譲芳：超音波ガイド下中心静脈穿刺ハンズオンセミナー．日本医学シミュレーション学会第118回CVC指導者養成コース，三鷹，2018年3月10日．
76. 徳嶺譲芳：超音波ガイド下中心静脈穿刺ハンズオンセミナー．日本医学シミュレーション学会第173回CVC実践セミナー，三鷹，2018年3月10日．
77. 徳嶺譲芳：超音波ガイド下中心静脈穿刺ハンズオンセミナー．日本医学シミュレーション学会第119回CVC指導者養成コース，福島，2018年3月11日．
78. 徳嶺譲芳：超音波ガイド下中心静脈穿刺ハンズオンセミナー．日本医学シミュレーション学会第174回CVC実践セミナー，福島，2018年3月11日．
79. 徳嶺譲芳：超音波ガイド下中心静脈穿刺ハンズオンセミナー．日本医学シミュレーション学会第120回CVC指導者養成コース，東京，2018年3月31日．
80. 徳嶺譲芳：超音波ガイド下中心静脈穿刺ハンズオンセミナー．日本医学シミュレーション学会第175回CVC実践セミナー，東京，2018年3月31日．

論文

1. 田中和美¹，浅尾高行¹，菊地麻美¹，徳嶺譲芳，太田直哉¹，永井弥生¹，荒川浩一¹(群馬大学)：上級医のための超音波ガイド下中心静脈穿刺シミュレーション・トレーニング．医療の質・安全学会誌 12(4):454-459, 2017.
2. Moriyama K, Mitsuda M, Kurita M, Ozaki M, Moriyama K, Yorozu T: When can we give general anesthesia to an infant with anticipated difficult airway management caused by facial vascular malformation?. JA Clin Rep. 3(1):12, 2017. doi: 10.1186/s40981-017-0082-9.
3. Nakazawa H, Ikeda K, Shinozaki S, Kobayashi M, Ikegami Y, Fu M, Nakamura T, Yasuhara S, Yu YM, Martyn JAJ, Tompkins RG, Shimokado K, Yorozu T, Ito H, Inoue S, Kaneki M: Burn-induced muscle metabolic derangements and mitochondrial dysfunction are associated with activation of HIF-1α and mTORC1: Role of protein farnesylation. Sci Rep. 7(1):6618, 2017.
4. Watanabe K, Mitsuda S, Motoyasu A, Tokumine J, Moriyama K, Yorozu T: Iatrogenic carpal tunnel syndrome induced by wrist extension for placement of an indwelling radial artery catheter: a case report. JA Clin Rep. 3(1):51, 2017. doi: 10.1186/s40981-017-0120-7.
5. Mitsuda S, Motoyasu A, Tokumine J, Watanabe K, Morimoto Y¹, Yorozu T (Ube Industries Central Hospital): Atypical Venous Valve of the Internal Jugular Vein. J Cardiothorac Vasc Anesth. 32(1):e30-e31, 2018. doi: 10.1053/j.jvca.2017.10.033.
6. Okano H, Uzawa K, Watanabe K, Motoyasu A, Tokumine J, Lefor AK¹, Yorozu T (Jichi Medical University): Ultrasound-guided identification of the cricothyroid membrane in a patient with a difficult airway: a case report. BMC Emerg Med. 18(1):5, 2018. doi: 10.1186/s12873-018-0156-7.

7. Tanaka T, Nakazawa H, Kuriyama N, Kaneki M: Farnesyltransferase inhibitors prevent HIV protease inhibitor (lopinavir/ritonavir)-induced lipodystrophy and metabolic syndrome in mice. *Exp Ther Med*. 15(2):1314-1320, 2018.
8. 岡野弘, 森山潔: 人生の最終段階における医療の在り方とDNAR(Do not Attempt Resuscitation)指示の拡大解釈. *臨床麻酔* 42: 147-151, 2018.
9. 中澤春政: 重症敗血症治療の新たな可能性 偽性低酸素血症とミトコンドリア機能障害の改善を目指して. *臨床麻酔* 42(3):471-477, 2018.

著書

1. 鶴澤康二, 徳嶺譲芳, 萬知子: 実践躬行 肩の力を抜いてまずはやってみよう コラム: やって見よう, significant event analysis. *LiSA* 24巻4号. 高田真二編集. 東京, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2017. p.340-343.
2. 徳嶺譲芳 (監修): 必ずうまくいく! PICC 末梢挿入型中心静脈カテーテルの挿入テクニックから管理まで. 金井理一郎編集. 東京, 羊土社, 2017.
3. 松島久雄, 徳嶺譲芳: 第1章8.中心静脈穿刺. レジデントノート別冊 研修医になったら必ずこの手技を身につけてください. 上嶋浩順, 森本康裕編集. 東京, 羊土社, 2017. p.73-84.
4. 岡野弘, 満田真吾, 徳嶺譲芳: 第1章9.末梢挿入型中心静脈カテーテル(PICC)挿入. レジデントノート別冊 研修医になったら必ずこの手技を身につけてください. 上嶋浩順, 森本康裕編集. 東京, 羊土社, 2017. p.85-94.
5. 渡辺邦太郎, 徳嶺譲芳: Blockstories 超音波ガイド下末梢神経ブロック 実践49症例 その後 ステロイド添加によるブロック延長効果 局所麻酔薬にステロイドを加えると腕神経叢ブロックの効果が延長する!. *LiSA* 24巻8号. 東京, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2017. p.810-813.
6. 森山久美, 山田達也: 知っておこう! 周術期管理 術前検査. *臨床検査* 61巻9号. 東京, 医学書院, 2017. p.1014-1021.
7. 森山潔, 萬知子: Q&A 酸素療法. 救急・集中治療 エキスパートに学ぶ 呼吸管理のすべて. 東京, 総合医学社, 2017. p.671-677.
8. 森山潔: Q&A 酸塩基平衡異常・電解質異常. 救急・集中治療 エキスパートに学ぶ 輸液管理のすべて. 東京, 総合医学社, 2017. p.835-840.
9. 鶴澤康二, 安藤直朗, 満田真吾: アドバンス編—重症患者の輸液管理をワンランクアップさせるために—重症患者の輸液管理にはどの製剤を用いるべきか?. 救急・集中治療 エキスパートに学ぶ 輸液管理のすべて. 東京, 総合医学社, 2017. p.911-918.
10. 森山久美: 基礎編 周術期管理のキホン イマドキの周術期管理とERAS 現状はどうなっている? 周術期管理の今. 月刊ナーシング37巻14号. 東京, 学研メディカル秀潤社, 2017. p.16-17.
11. Tokumine J, Lefor AK: Vascular Access and Hemodynamic Monitoring Part VII. Central Venous Access-Anatomic Landmark Technique. *Intensivist* 2017(9). Yokobori S, Takei T, eds. Tokyo, Medical Science International, Ltd., 2017. p.1050-1054.
12. Tokumine J, Lefor AK: Vascular Access and Hemodynamic Monitoring Part VIII. Central Venous Access-Ultrasound-guided Placement. *Intensivist* 2018(10). Inoue S, Fujitani S, eds. Tokyo, Medical Science International, Ltd., 2018. p.233-237.
13. Naito Y, Moriyama K, Sawa T: Chapter 7. Anti - PcrV Immunization for *Pseudomonas aeruginosa*

Pneumonia in Cystic Fibrosis. Progress in Understanding Cystic Fibrosis. INTECH. 2017. <http://dx.doi.org/10.5772/intechopen.69767>.

14. Sawa T, Kainuma A, Moriyama K, Naito Y: Antibody Engineering. Chapter 6. Construction and Characteristics of a Recombinant Single-Chain Antibody Fragment against Bacterial Type III Secretion. *INTECH. 2018. <http://dx.doi.org/10.5772/intechopen.70316>.*

電子メディア

1. 西脇公俊, 河本昌志, 柴田康之, 竹内護, 田中克哉, 徳嶺譲芳; WG委員: 日本麻酔科学会 安全な中心静脈カテーテル挿入と管理のプラクティカルガイド2017. 神戸, 公益社団法人日本麻酔科学会安全委員会 安全な中心静脈カテーテル挿入・管理の手引き改訂WG(作成), 2017. http://www.anesth.or.jp/guide/pdf/JSA_CV_practical_guide_2017.pdf.
2. 徳嶺譲芳: 中心静脈穿刺の死亡事故を防ぐための30のポイント. 医療安全レポート No.2. 東京, 一般社団法人医療安全全国共同行動, 2017. p.10-14.
3. 徳嶺譲芳: 中心静脈穿刺の致死合併症を防ぐ新たな仕組み(1)機械的合併症. 医療安全レポート No.6. 東京, 一般社団法人医療安全全国共同行動, 2017. p.10-14.
4. 徳嶺譲芳: 中心静脈穿刺の致死合併症を防ぐ新たな仕組み(2)機械的合併症(続き)「ダイレーターの取り扱い」&「カテーテルの先端位置」. 医療安全レポート No.9. 東京, 一般社団法人医療安全全国共同行動, 2017. p.12-16.

報告書

1. 鶴澤康二: 重症病態における内皮細胞機能の解明. 2014.4.1-2017.3.31科学研究費補助事業: 若手研究(B) 研究者番号: 26861248 2016年度研究報告書.

その他

1. 鶴澤康二: 重症病態における内皮細胞機能変化の時間空間的イメージング手法による病態生理の解明. 科学研究費助成事業 基盤C 研究課題番号: 16K10973(2016年—2018年).
2. 鶴澤康二: 微小循環生理学による肥満パラドックスの病態解明への挑戦. 科学研究費補助事業 挑戦的萌芽 分担研究 研究課題番号: 16K15680(2016-2018年).
3. 鶴澤康二: 周術期輸液と術中人工呼吸管理の違いによる患者予後改善に関する研究. 杏林大学臨床研究(2016.7—2019.4) UMIN000022459.

臨床検査医学教室

講演

1. 森井健司, 岸野智則, 鴫森直子, 本橋美津江, 本谷啓太, 青柳貴之, 田島崇, 大西宏明, 市村正一: 超音波検査による軟部肉腫悪性度判定の試み. 第90回日本整形外科学会学術総会, 仙台, 2017年5月18-21日.
2. 石井隆浩, 小倉航, 小島直美, 関口久美子, 大西宏明, 渡邊卓: RhD血液型判定に苦慮したweak partial D type 15の1例. 第66回日本医学検査学会, 千葉, 2017年6月17-18日.
3. 山本美里, 関口久美子, 小島直美, 岡崎ゆり子, 石井隆浩, 沼野井恵, 高橋桂子, 忠岡太慶, 大西宏明, 渡邊卓: 当院における輸血ラウンド実施状況. 第65回日本輸血・細胞治療学会, 千葉, 2017年6月22-24日.
4. 森井健司, 岸野智則, 鴫森直子, 本橋美津江, 本谷啓太, 青柳貴之, 田島崇, 大西宏明, 市村正一: 超音波検査による軟部腫瘍手術出血量の術前予測の試み. 第50回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会, 東京, 2017年7月13-14日.

5. 米谷正太, 大西宏明, 大楠清文, 松本哲哉, 渡邊卓: 自家製サポニン法を用いたMALDI-TOF MSによる血液培養陽性ボトルからの直接菌種同定の検討. 第42回日本医用マスメクトル学会年会, 東京, 2017年9月14-15日.
6. 米谷正太, 荒木光二, 井田陽子, 本間慎太郎, 西圭史, 倉井大輔, 佐野彰彦, 河合伸, 大西宏明, 渡邊卓: *Neisseria skkuensis*による感染性心内膜炎の一例. 第66回日本感染症学会東日本地方会学術集会第64回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会, 東京, 2017年10月31日-11月2日.
7. 牧野博, 井田陽子, 本間慎太郎, 米谷正太, 荒木光二, 河合弘子, 西圭史, 佐野彰彦, 河合伸, 神谷茂, 大西宏明, 渡邊卓: 各種抗菌薬に耐性傾向を示す*Helicobacter cinaedi*が血液培養から検出された1症例. 第66回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第64回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会, 東京, 2017年10月31日-11月2日.
8. 井田陽子, 米谷正太, 本間慎太郎, 荒木光二, 西圭史, 倉井大輔, 佐野彰彦, 河合伸, 大西宏明, 渡邊卓: 当院で分離された*Aeromonas*属菌の薬剤感受性動向調査. 第66回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第64回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会, 東京, 2017年10月31日-11月2日.
9. 本間慎太郎, 荒木光二, 井田陽子, 米谷正太, 奥山貴洋, 高城靖志, 大西宏明, 渡邊卓: 血液培養ボトルから*Clostridium tertium*が検出された2症例. 第66回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第64回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会, 東京, 2017年10月31日-11月2日.
10. 宮澤永尚, 吉野浩, 安藤理恵, 羽田伊知郎, 井内善太郎, 大西宏明, 楊國昌: 両側腎浸潤による腎不全で発症した成熟B細胞性急性リンパ性白血病の1例. 第59回日本小児血液・がん学会学術集会, 松山, 2017年11月9-11日.
11. 小倉航, 大塚弘毅, 横山琢磨, 田中良太, 藤原正親, 高城靖志, 大西宏明, 渡邊卓: 非小細胞肺癌症例における全ゲノム増幅を用いたEGFR遺伝子変異検査の有用性の検討. 第64回日本臨床検査医学会学術集会, 京都, 2017年11月16-19日.
12. 鳥森直子, 岸野智則, 森井健司, 岡部直太, 山崎聡子, 大塚弘毅, 青柳貴之, 宮脇晴子, 関口久美子, 高城靖志, 柴原純二, 大西宏明, 渡邊卓: 脂肪肉腫の組織型と超音波画像の対比. 第64回日本臨床検査医学会学術集会, 京都, 2017年11月16-19日.
13. 宮脇晴子, 岸野智則, 山崎聡子, 大塚弘毅, 伊坂泰嗣, 千葉知宏, 鳥森直子, 関口久美子, 高城靖志, 大西宏明, 渡邊卓: 乳癌甲状腺転移の2例. 第64回日本臨床検査医学会学術集会, 京都, 2017年11月16-19日.
14. 高木愛美, 米谷正太, 井田陽子, 奥山貴洋, 荒木光二, 高城靖志, 久保村郁子, 齋藤康一郎, 大西宏明, 渡邊卓: *Candida auris*が耳分泌物から検出された1症例. 第64回日本臨床検査医学会学術集会, 京都, 2017年11月16-19日.
15. 山崎聡子, 大西宏明, 坂本大典, 小倉航, 松島早月, 大塚弘毅, 岸野智則, 高山信之, 渡邊卓: 再発時にFLT3-ITD+NPM1変異, トリソミー8を認め, M5b→M2へ形質転換したAMLの一例. 第64回日本臨床検査医学会学術集会, 京都, 2017年11月16-19日.
16. 紅谷鮎美, 大西宏明, 大塚弘毅, 松島早月, 渡邊卓, 佐藤靖史, 正木忠彦, 杉山政則: 大腸癌患者におけるvasohibin-1の発現解. 第64回日本臨床検査医学会学術集会, 京都, 2017年11月16-19日.
17. 上田真樹子, 大西宏明, 大塚弘毅, 渡邊卓, 荻田真, 横山琢磨, 相磯聡子: 肺癌患者血清におけるmiR-21 isoform分子の検出. 第64回日本臨床検査医学会学術集会, 京都, 2017年11月16-19日.
18. 大西宏明: 安全で正確な採血～採血器具が与える影響を中心として～. 第64回日本臨床検査医学会学術集会, 京都, 2017年11月16-19日.
19. 大西宏明: 臨床検査医が求める穿刺液検査の内容. 第66回日本医学検査学会, 千葉, 2017年6月17-18日.
20. Ohnishi H: Examinations of pleural effusion and ascites: A clinical pathologist's perspective. The 29th World Congress of World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine, Kyoto, November 15th-18th, 2017.
21. Yonetani S, Ohnishi H, Ohkusu K, Matsumoto T, Watanabe T: Direct identification of microorganisms from positive blood cultures by MALDI-TOF MS using an in-house saponin method. The 29th World Congress of World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine, Kyoto, November 15th-18th, 2017.
22. Ohtsuka K, Yamasaki S, Matsushima S, Kishino T, Ohnishi H, Watanabe T: Whole genome sequencing of family members with the germline EGFR V843I mutation predisposed to lung adenocarcinoma. The 29th World Congress of World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine, Kyoto, November 15th-18th, 2017.
23. Ohnishi H, Ohtsuka K, Kazumi Y, Takii T, Mitarai S, Matsushima S, Yonetani S, Otani S, Yoshiyama T, Kato Y, Hayashi Y, Machiya J, Kida K, Sugihara J, Yamasaki S, Kishino T, Goto H, Watanabe T: *Mycobacterium kyorinense* infection: Clinical, biological and genetic features. The 29th World Congress of World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine, Kyoto, November 15th-18th, 2017.
24. 田中良太, 坂本憲彦, 鈴木瞳, 中里陽子, 橘啓盛, 武井秀史, 大塚弘毅, 岸本浩次, 藤原正親, 柴原純二, 菅間博, 近藤晴彦: 肺癌診療領域におけるLBCを用いた遺伝子プロファイリング. 第56回日本臨床細胞学会秋期大会, 福岡, 2017年11月18-19日.
25. 忠岡太慶, 小島直美, 岡崎ゆり子, 牧野博, 石井隆浩, 高城靖志, 関口久美子, 大西宏明: 輸血部門におけるISO15189取得までの取り組み. 第13回東京都医学検査学会, 東京, 2018年2月4日.
26. 米谷正太, 荒木光二, 井田陽子, 広井愛美, 平尾千尋, 大西宏明: グラム陰性桿菌に対する直接薬剤感受性試験の検討. 第29回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 岐阜, 2018年2月9-11日.

論文

1. Sakamoto D, Satoh N¹, Ohnishi H, Yamasaki S, Watanabe T, Takayama N¹(¹Dept Hematol Med, Kyorin Univ.): Simultaneous Occurrence of Double-Hit Lymphoma and Acute Myeloid Leukemia in Bone Marrow. *J Blood Lymph* 7: 188, 2017. DOI: 10.4172/2165-7831.1000188.
2. Kawano Y, Kishino T, Ohnishi H, Sugiyama M¹, Mori H², Nishikawa K², Matsushima S, Ohtsuka K, Mochizuki M³, Watanabe T(¹Dept Surg, Kyorin Univ., ²The Third Dept Intern Med, Kyorin Univ., ³Dept Pathol, Kyorin Univ.): Mass-forming pancreatitis possibly due to localized obstructive chronic pancreatitis: sonographic characteristics. *Rinsyo Byori* 65: 860-864, 2017.
3. Aoto Y, Kishino T, Harashima K¹, Ohnishi H, Fukuta N¹, Hashimoto S¹, Seki M¹, Shimo Y¹, Sekiguchi K,

Takagi Y, Otaki J¹, Watanabe T (¹Fac Health Sci, Kyorin Univ.) : Influence of eating breakfast on sonographic examination of the gallbladder. *Rinsyo Byori* 65 : 1177-1181, 2017.

4. 米谷正太¹, 荒木光二¹, 井田陽子¹, 広井愛美¹, 奥山貴洋¹, 平尾千尋¹, 本間慎太郎¹, 高城靖志¹, 大西宏明 (¹杏林大・医・付属病院・臨床検査部) : *Actinotignum schaalii* (旧 *Actinobaculum schaalii*) が血液培養から検出された4例. *日臨床微生物誌* 28 : 35-41, 2017.
5. 大西宏明 : 採血合併症の予防と対応のポイント. *Lab Clin Pract* 35 : 51-54, 2017.
6. 米山里香, 大西宏明 : スターターズ必修! 検査業務の基礎知識 採血における患者と術者のリスク. *臨検* 61 : 340-341, 2017.
7. Kojima Y¹, Ohtsuka K, Ohnishi H, Abe N¹, Furuse J², Watanabe T, Sugiyama M¹ (¹Dept Surg, Kyorin Univ., ²Dept Med Oncol, Kyorin Univ.): APC:T1556fs and STK11 mutations in duodenal adenomas and adenocarcinomas. *Surg Today*. 2018. DOI: 10.1007/s00595-018-1649-4.
8. Morii T¹, Kishino T, Shimamori N, Motohashi M, Ohnishi H, Honya K², Aoyagi T¹, Tajima T¹, Ichimura S¹ (¹Dept Orthopaedic Surg, Kyorin Univ., ²Dept Med Radiol Technol, Fac Health Sci, Kyorin Univ.) : Differential diagnosis between benign and malignant soft tissue tumors utilizing ultrasound parameters. *J Med Ultrason* (2001) 45 : 113-119, 2018. DOI: 10.1007/s10396-017-0796-3.
9. Morii T¹, Kishino T, Shimamori N, Motohashi M, Ohnishi H, Honya K², Aoyagi T¹, Tajima T¹, Ichimura S¹ (¹Dept Orthopaedic Surg, Kyorin Univ., ²Dept Med Radiol Technol, Fac Health Sci, Kyorin Univ.) : Preoperative evaluation of intraoperative blood loss during malignant soft tissue tumor resection by ultrasonography. *J Orthop Sci* 23 : 403-407, 2018. DOI: 10.1016/j.jos.2017.12.011.
10. Morii T¹, Kishino T, Shimamori N, Motohashi M, Ohnishi H, Honya K², Aoyagi T¹, Tajima T¹, Ichimura S¹ (¹Dept Orthopaedic Surg, Kyorin Univ., ²Dept Med Radiol Technol, Fac Health Sci, Kyorin Univ.): Preoperative ultrasonographic evaluation for malignancy of soft-tissue sarcoma: A retrospective study. *Open Orthop J* 12:75-83, 2018. DOI: 10.2174/1874325001812010075.
11. Aiso T¹, Takigami S¹, Yamaki A¹, Ohnishi H (¹Dept Med Technol, Fac Health Sci, Kyorin Univ.): Degradation of serum microRNAs during transient storage of serum samples at 4°C. *Ann Clin Biochem* 55:178-180, 2018. DOI: 10.1177/0004563217704233.

著書

1. 大西宏明 (分担執筆) : プラスミノゲン, α_2 プラスミンインヒビター (α_2 PI, アンチプラスミン), プラスミン・ α_2 プラスミンインヒビター複合体 (PIC). 小児臨床検査ガイド (第2版). 水口雅, 岡明, 尾内一信編集, 東京, 文光堂, 2017. p.101-103.
2. 大西宏明 (分担執筆) : 正しい採血法とその実際. エキスパートの臨床知による検査値ハンドブック第2版. 中原彦監修, 東京, 総合医学社, 2017. p.33-40.

総合医療学教室

講演

1. 河合弘子, 西圭史, 佐野彰彦, 河合伸: 肺高血圧症 (PH) 患者のCRBSIの現状と抗MRSA薬使用状況. 第91回日本感染症学会学術講演会, 東京, 2017年4月6-8日.

2. 西圭史, 河合弘子, 吉田博昭, 田中宏明, 篠原高雄, 佐野彰彦, 河合伸: アミノグリコシド系薬の投与症例についての検証. 第91回日本感染症学会学術講演会, 東京, 2017年4月6-8日.
3. 佐野彰彦: インフルエンザのパンデミックとインフルエンザ肺炎. 弥生会勉強会, 旭川, 2017年4月14日.
4. 佐野勇貴, 植地貴弘, 須田智也, 平吹一訓, 畑典孝, 平澤愛, 西尾崇高, 高野裕也, 柴田茂貴, 松田剛明: 蘇生講習会における医療職種別コース設計の検討. 第20回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 東京, 2017年5月26-28日.
5. 杉原徳彦, 佐野彰彦, 栗田富美子, 杉原壽彦: 当院におけるメボリズムマップの使用経験について. 第66回日本アレルギー学会学術大会, 東京, 2017年6月16-18日.
6. 徳永健吾, 伊藤慎芳, 浅岡大介, 松久威史, 嶋田裕慈, 永原章仁, 小俣富美雄, 栗原直人, 川村洋, 河合隆, 鈴木秀和, 大草敏史, 峯徹哉, 榊信廣, 高橋信一 (東京HP研究会): ポノブラザンを用いた *H. pylori* 三次除菌療法の有用性—東京都内多施設検討—. 第23回日本ヘリコバクター学会学術集会, 函館, 2017年7月1日.
7. 徳永健吾, 田中昭文, 大野亜希子, 高橋信一, 久松理一: *Helicobacter pylori* 二次除菌不成功例における再感染診断の重要性. 第23回日本ヘリコバクター学会学術集会, 函館, 2017年7月1日.
8. 伊藤慎芳, 浅岡大介, 永原章仁, 鈴木秀和, 栗原直人, 森英毅, 松久威史, 榊信廣, 徳永健吾, 高橋信一, 河合隆 (東京HP研究会): ペニシリンアレルギー症例のポノブラザンを含む除菌治療成績—東京地区多施設共同調査—. 第23回日本ヘリコバクター学会学術集会, 函館, 2017年7月1日.
9. 徳永健吾: *H. pylori* 陰性時代における酸関連疾患. 第25回Digestive Disease Conference, 三鷹, 2017年7月12日.
10. 徳永健吾: *H. pylori* 陰性時代における上部消化管疾患治療の新たな展望. 消化器病セミナー, 相模原, 2017年9月8日.
11. 植地貴弘, 須田智也, 平吹一訓, 畑典孝, 佐野勇貴, 平澤愛, 松田剛明, 柴田茂貴: 起立性頻脈症候群への運動療法において経時的な3次元心臓超音波検査の有効性が示された1例. 第72回日本体力医学会大会, 松山, 2017年9月16-18日.
12. 畑典孝, 平吹一訓, 須田智也, 佐野勇貴, 植地貴弘, 平澤愛, 松田剛明, 柴田茂貴: 3次元心臓超音波法で測定した左室容量と心機能の再現性. 第72回日本体力医学会大会, 松山, 2017年9月16-18日.
13. 須田智也, 平吹一訓, 畑典孝, 佐野勇貴, 植地貴弘, 平澤愛, 松田剛明, 柴田茂貴: 3次元スペクトラッキング法による運動群と非運動群における左心室心筋ストレインの比較. 第72回日本体力医学会大会, 松山, 2017年9月16-18日.
14. 平吹一訓, 須田智也, 畑典孝, 佐野勇貴, 植地貴弘, 平澤愛, 松田剛明, 柴田茂貴: 若年者における運動経験と失神症候に関するアンケート調査. 第72回日本体力医学会大会, 松山, 2017年9月16-18日.
15. 石川智, 森岡剛, 関口康平: ロール・プレイングをとり入れた職場内研修の機能と課題—児童福祉施設 (乳児院) での実践から—. 日本ヒューマンケア心理学会第19回大会, 山梨, 2017年9月30-10月1日.
16. Tokunaga K, Tanaka, Saito D, Miura M, Hayashida M, Mori H, Takahashi S, Hisamatsu T: Efficacy of the dual therapy with vonoprazone and amoxicillin as the 3rd *Helicobacter pylori* eradication regimen based on amoxicillin susceptibility. American College of Gastroenterology (ACG) 2017 Annual Scientific

Meeting, USA, October 16th, 2017.

17. 佐野勇貴, 中島義之, 國谷有里, 石上雄一郎, 内藤啓子, 本間洋輔, 井上哲也, 志賀隆, 植地貴弘, 松田剛明: ICLSのプレテスト, ポストテストによる医師—コメディカルの比較検討. 第45回日本救急医学会総会・学術集会, 大阪, 2017年10月24-26日.
18. 朽名貴史, 川口祐美, 廣瀬圭太, 畑典孝, 須田智也, 佐野勇貴, 植地貴弘, 平澤愛, 柴田茂貴, 松田剛明: 胸骨圧迫の正確性の可視化による心肺蘇生法訓練法の検討. 第45回日本救急医学会総会・学術集会, 大阪, 2017年10月24-26日.
19. 栗原智, 畑典孝, 廣瀬圭太, 須田智也, 佐野勇貴, 廣瀬能華, 平吹一訓, 植地貴弘, 得津敬之, 柴田茂貴, 松田剛明: 救急外来に来院した非アルコール性Wernicke脳症が疑われた3症例の検討. 第45回日本救急医学会総会・学術集会, 大阪, 2017年10月24-26日.
20. 平吹一訓, 菅原誠太郎, 本間洋輔, 植地貴弘, 松田剛明, 井上哲也, 志賀隆, 舩越拓: 高齢者の高分子吸収体誤飲により低酸素をきたし, 気管挿管後に緊急内視鏡検査を要した1例. 第45回日本救急医学会総会・学術集会, 大阪, 2017年10月24-26日.
21. 山本祐資, 廣瀬圭太, 畑典孝, 須田智也, 廣瀬能華, 平吹一訓, 植地貴弘, 得津敬之, 柴田茂貴, 松田剛明: 顔面腫脹と呼吸困難感を主訴に搬送され, びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫 (DLBCL) による気管圧排を来していた1例. 第45回日本救急医学会総会・学術集会, 大阪, 2017年10月24-26日.
22. 河合伸: 敗血症性ARDS: 病態と治療の変遷. 第66回日本感染症学会東日本地方会学術集会 第64回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会, 東京, 2017年10月31日.
23. 佐野彰彦: カンジダ血症の臨床的解析. 第64回日本化学療法学会東日本支部総会, 東京, 2017年10月31日-11月1日.
24. 井田陽子, 米谷正太, 本間慎太郎, 荒木光二, 西圭史, 倉井大輔, 佐野彰彦, 河合伸, 大西宏明, 渡邊卓: 当院で分離された *Aeromonas* 属菌の薬剤感受性動向調査. 第64回日本化学療法学会東日本支部総会, 東京, 2017年10月31日-11月1日.
25. 岡野弘, 米谷正太, 佐野彰彦, 河合伸: 血液培養提出率にみる他職種で取り組む中心静脈カテーテル関連血流感染予防. 第64回日本化学療法学会東日本支部総会, 東京, 2017年10月31日-11月1日.
26. 吉田博昭, 西圭史, 篠原高雄, 倉井大輔, 佐野彰彦, 河合伸: 杏林大学医学部付属病院 (以下当院) におけるMRSA菌血症患者への病棟薬剤師関与によるアウトカムの検証. 第64回日本化学療法学会東日本支部総会, 東京, 2017年10月31日-11月1日.
27. 若林進, 西圭史, 佐野彰彦, 小林治, 河合伸: 抗HIV薬の処方実態からみた併用状況の調査. 第64回日本化学療法学会東日本支部総会, 東京, 2017年10月31日-11月1日.
28. 牧野博, 井田陽子, 本間慎太郎, 米谷正太, 荒木光二, 河合弘子, 西圭史, 佐野彰彦, 河合伸, 神谷茂, 大西宏明, 渡邊卓: 各種抗菌薬に耐性傾向を示す *Helicobacter cinaedi* が血液培養から検出された1例. 第64回日本化学療法学会東日本支部総会, 東京, 2017年10月31日-11月1日.
29. 西圭史, 河合弘子, 吉田博昭, 田中宏明, 佐野彰彦, 河合伸: 高齢診療科におけるテイコプラニンの使用成績. 第64回日本化学療法学会東日本支部総会, 東京, 2017年10月31日-11月1日.
30. 本間慎太郎, 米谷正太, 井田陽子, 荒木光二, 西圭史, 倉井大輔, 佐野彰彦, 河合伸, 大西宏明, 渡邊卓: 血液培養から *Clostridium tertium* が分離された2例. 第64回日本化学療法学会東日本支部総会, 東京, 2017年10月31日-11月1日.
31. 米谷正太, 荒木光二, 井田陽子, 西圭史, 倉井大輔, 佐野彰彦, 河合伸, 大西宏明, 渡邊卓: *Neisseria skkuensis* による感染性心内膜炎の一例. 第64回日本化学療法学会東日本支部総会, 東京, 2017年10月31日-11月1日.
32. 徳永健吾, 田中昭文, 久松理一: *Helicobacter pylori* 三次除菌前における感染診断の再確認の重要性. 第45回日本潰瘍学会, 京都, 2017年11月20日.
33. 佐野彰彦: HIV感染症の診断から治療までの流れ. 鳥居製薬社内講演, 東京, 2017年12月21日.
34. Hata N, Shibata S, Hirose K, Hirose Y, Hirabuki K, Kawaguchi Y, Suda T, Uechi T, Tokutsu T, Matsuda T: Clinical Features of Fitz-Hugh-Curtis Syndrome in the Emergency Department: Report of 6 Cases. The 34th Congress of the Pan-pacific Surgical Association Japan Chapter (PPSA-JC), USA, February 16th-18th, 2018.
35. Suda T, Tokutsu T, Hirose K, Hirose Y, Hirabuki K, Kawaguchi Y, Hata N, Sano Y, Uechi T, Shibata S, Matsuda T: Cameron lesion (Esophageal Hiatal Hernia Ulcer) developed Perforation with Pneumomediastinum: A Case Report. The 34th Congress of the Pan-pacific Surgical Association Japan Chapter (PPSA-JC), USA, February 16th-18th, 2018.
36. Sano Y, Uechi T, Hirose Y, Hirose K, Hirabuki K, Kawaguchi Y, Suda T, Hata N, Hirasawa A, Nishio M, Tkano Y, Tokutsu T, Shibata S, Matsuda T: Effects of Immediate Cardiac Life Support Course for Various Healthcare Professionals. The 34th Congress of the Pan-pacific Surgical Association Japan Chapter (PPSA-JC), USA, February 16th-18th, 2018.
37. 佐野彰彦: 当院のHIV診療の流れ. ヤンセンファーマ社内講演, 東京, 2018年3月16日.

論 文

1. 河合伸: 感冒様症状への抗菌薬の適正使用とは? . 医事新報 4872: 58-59, 2017.
2. 河合伸, 佐野彰彦, 佐野麻里子¹, 寺沢典子¹, 佐藤範英², 高山信之² (1杏林大・医・付属病院看護部, 2杏林大・医・第二内科学): 臍帯血移植により良好な経過が得られたエイズ関連悪性リンパ腫の1例. 日本エイズ学会雑誌 19: 171-175, 2017.
3. 徳永健吾, 田中昭文¹, 大森嘉彦², 高橋信一¹, 久松理一¹ (1杏林大・医・第三内科学, 2杏林大・医・病理学): 黄色腫. *Helicobacter Research* 21: 660-663, 2017.
4. 徳永健吾: 三鷹医師会 胃がんリスク検診 (ABC検診) の事後指導について〜平成29年度からの変更点を中心に〜. 三鷹医人往来 39: 34-37, 2017.
5. 徳永健吾, 久松理一¹ (1杏林大・医・第三内科学): 人間ドックでヘリコバクター・ピロリに感染していると言われました. 何も症状はないのですが, 除菌をするべきでしょうか? . 内科 120(3): 422-424, 2017.
6. 徳永健吾, 久松理一¹ (1杏林大・医・第三内科学): 十二指腸潰瘍を繰り返してヘリコバクター・ピロリ感染が原因と診断されています. ペニシリンアレルギーのため除菌できないと言われたのですが, 諦めるしかないのでしょうか? . 内科 120(3): 425-426, 2017.
7. 徳永健吾, 久松理一¹ (1杏林大・医・第三内科学): 昨年, 除菌療法を受けてヘリコバクター・ピロリが消えました. それでも毎年胃の検査が必要と言われたのですが本当でしょうか? . 内科 120(3): 427-428, 2017.
8. 北村浩¹, 井戸田一郎², 岡山里香³, 大河戸光章⁴, 佐野

彰彦, 佐野麻里子⁵, 小林治⁴, 河合伸, 古瀬純司¹ (杏林大・医・腫瘍内科, ²しらかば診療所, ³群馬バース大学, ⁴杏林大・保・臨床検査技術学科, ⁵杏林大・医・付属病院看護部): 拡大肛門尿検査によるHIV陽性者の肛門上皮内病変の診断と治療. 日本エイズ学会誌 20:25-31, 2018.

9. 徳永健吾, 鎌田智有¹ (川崎医科大学): Beyond ポンブラザン標準療法. 日本ヘリコバクター学会誌 19: 98-99, 2018.
10. 前川あさ美¹, 上村紀子², 島田正亮, 志村和哉³, 隅由記子⁴, 畑玲子⁵, 若林聖子⁶ (東京女子大, ²横浜市大, ³武蔵小杉あんしんクリニック, ⁴世田谷区教育相談室, ⁵東京都児童相談センター, ⁶伊勢原市役所子ども家庭相談課): 心理士が向き合う困難ケース—経験を積む過程でのGSV. 東京女子大学心理臨床センター紀要 8:1-18, 2018.

著 書

1. 村部妙美 (分担執筆): 第8章 他の検査との統合—SCTの場合. 力動的心理学定 ロールシャッハ法の継起分析を中心に. 馬場禮子監修. 東京, 岩崎学術出版社, 2017. p.191-208.

リハビリテーション医学教室

講 演

1. Matsuda K, Yamada S, Okajima Y: Application of ICF rehabilitation core set to a pediatric patient. International Society of Physical and Rehabilitation Medicine world congress, Argentina, April 30th-May 4th, 2017.
2. 岡島康友: 脳血管障害リハビリテーション. 第5回医師のための総合リハビリテーション講座, 東京, 2017年5月27-28日.
3. 山田深: 心・脳血管病のリハビリテーションの現状と未来—脳卒中急性期の視点から—. 第4回日本心臓脳卒中学会学術集会, 福岡, 2017年6月3日.
4. 藤井浩優, 山田深, 松田恭平, 平野照之, 岡島康友: 日常生活動作に関するFIM得点とICF評価点の互換性. 第54回日本リハビリテーション医学会学術集会, 岡山, 2017年6月9日.
5. 千手佑樹, 向野雅彦, 尾関恩, 大河内由紀, 水谷公司, 才藤栄一, 山田深, 園田茂, 出江紳一: ICFリハビリテーションセットの臨床使用における評点の信頼性に関わる検討. 第54回日本リハビリテーション医学会学術集会, 岡山, 2017年6月9日.
6. Yamada S: What we have been doing with ICF in Japan. WHO-FIC FDRG Mid-Year Meeting 2017, Stellenbosch, South Africa, June 28th-29th, 2017.
7. 岡島康友: 機能的自立度評価法の歴史的背景. 第21回看護師・コメディカルのためのFIM講習会【基礎編】, 三鷹, 2017年7月2日.
8. 山田深: 機能的自立度評価法の歴史的背景. 第21回看護師・コメディカルのためのFIM講習会【応用編】, 三鷹, 2017年7月2日.
9. 山田深: 有人宇宙開発最前線. 楽しい科学教室宇宙講座, 東京, 2017年7月9日.
10. 仁科彩子, 岡島康友, 山田深, 平野照之, 塩川芳昭: 脳動脈解離の急性期リハビリテーション. 第67回日本リハビリテーション医学会関東地方会, 東京, 2017年9月30日.
11. 山田深: 廃用症候群に対するリハビリテーションのポイント—宇宙から地域まで—. 第1回日本リハビリテーション

ン医学会秋季学術集会, 大阪, 2017年10月28日.

12. 山田深: 運動器と重力—有人宇宙医学の視点から—. Orthopedic Festa 2017, 東京, 2017年11月11日.
13. 岡島康友: 機能的自立度評価法の歴史的背景. 第23回看護師・コメディカルのためのFIM講習会【基礎編】, 三鷹, 2017年12月10日.
14. 山田深: 宇宙飛行のお話. コズミックカレッジ山梨, 北杜, 2017年12月9日.
15. 山田深, 松田恭平: 脳卒中ケアユニットにおける生活機能評価. 第7回厚生労働省ICFシンポジウム, 東京, 2018年1月20日.
16. 山田深: 宇宙での生活. ミッションX特別授業, 東郷町, 2018年2月21日.

論 文

1. 山田深: ICFコアセット日本語版. 総合リハ 46(1): 13-18, 2018.
2. 松田恭平, 岡島康友: 運動失調症の病態とリハビリテーション. Clin Neurosci 35(5): 602-603, 2017.
3. 藤澤祐基, 岡島康友: 巧緻運動障害評価の考え方. Jpn J Rehabil Med 54: 219-225, 2017.
4. Takahashi N, Takahashi H¹, Takahashi O², Ushijima R², Umebayashi R¹, Nishikawa J, Okajima Y (Saitama Medical University, ²Neuro Business Advisor): Tone-Inhibiting Insoles Enhance the Reciprocal Inhibition of Ankle Plantarflexors of Subjects With Hemiparesis After Stroke: An Electromyographic Study. PM&R 10: 168-174, 2018.

著 書

1. 岡島康友 (分担執筆): 第3章1節 電気診断学. 現代リハビリテーション医学第4版. 千野直一監修. 東京, 金原出版, 2017. p.51-63.
2. 山田深 (分担執筆): 第5章5節 FIM採点支援ツールとFIM短縮版. 現代リハビリテーション医学第4版. 千野直一監修. 東京, 金原出版, 2017. p.122-123.
3. 岡島康友 (分担執筆): 第6章4節 物理療法. 現代リハビリテーション医学第4版. 千野直一監修. 東京, 金原出版, 2017. p.140-144.
4. 岡島康友 (分担執筆): 第6章5節 バイオフィードバック療法. 現代リハビリテーション医学第4版. 千野直一監修. 東京, 金原出版, 2017. p.145-148.
5. 岡島康友 (分担執筆): 第6章6節 牽引療法. 現代リハビリテーション医学第4版. 千野直一監修. 東京, 金原出版, 2017. p.148-150.
6. 岡島康友 (分担執筆): 第7章17節 疼痛性疾患. 現代リハビリテーション医学第4版. 千野直一監修. 東京, 金原出版, 2017. p.370-375.
7. 岡島康友 (編著), 山田深 (分担執筆): 臨床につながる脳疾患学. 東京, 医歯薬出版, 2017.
8. 岡島康友: 医学総論. 言語聴覚士テキスト第3版. 大森孝一, 永井知代子, 深浦順一, 渡邊修編集. 東京, 医歯薬出版, 2018. p.2-7.

報告書

1. 山田深: ICFにおける評価尺度としての信頼性・妥当性検証. 厚生労働科学研究費補助金 (社会構造の変化を反映し医療・介護分野の施策立案に効果的に活用し得る国際統計分類の開発に関する研究) 2017年度分担研究報告書.

その他

1. 岡島康友: 腰に負担のかからない座位 (解説). ドクターサロン 61: 260-263, 2017.
2. 山田深: 特集 筋肉と筋力増強訓練 (巻頭言), Jpn J Rehabil Med 54(19): 739, 2017.

**リハビリテーション室
(リハビリテーション医学教室)**

講 演

1. 児玉優太, 炭谷由計, 田中耕史, 水石裕, 廣瀬道宣, 須崎由香, 横山敏彦, 小笠原準悦, 近藤琢磨, 保坂利男, 岡島康友, 石田均: 2型糖尿病症例の心理的負担度と運動実施状況についての検討. 第60回日本糖尿病学会年次学術集会, 名古屋, 2017年5月18-20日.
2. 宅美貴子, 長谷川浩, 海老原孝枝, 神崎恒一, 山田深, 岡島康友: 意味性認知症における言語リハビリテーションの効果について(第二報)一言語機能や非言語性知的機能に関する検討. 第59回日本老年医学会学術集会, 名古屋, 2017年6月14-16日.
3. 石井翼, 山田深, 林良幸, 間藤翔悟, 岡島康友: 右側頭葉腫瘍による交叉性失語が術中マッピングと腫瘍摘出術後で否定された症例—覚醒下手術と術後経過の記録から—. 第18回日本言語聴覚学会, 松江, 2017年6月23-24日.
4. 池田光代, 山田深, 岡島康友: 講演. 第10回看護師・コメディカルのためのFIM講習会講師【応用編】. 三鷹, 2017年7月2日.
5. 飛田和基, 藤田博暁, 合田あゆみ, 佐藤徹, 岡島康友: 軽負荷のピラティスを用いた運動療法が肺高血圧症患者の自律神経機能に及ぼす影響の検討—シングルケーススタディー—. 第23回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 岐阜, 2017年7月15-16日.
6. 若林俊夫, 西田悠一郎, 山田深: 大学生投手における股関節機能が上肢機能に及ぼす影響についての検討—股関節内外転筋力に着目して—. 第43回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 宮崎, 2017年9月8-9日.
7. 児玉優太, 平さより, 村田裕康, 大畑徹也, 山田深, 岡島康友: 精神疾患を合併した多発外傷に対する急性期理学療法法の検討. 第66回東日本整形災害外科学会, 東京, 2017年9月15-16日.
8. 宅美貴子, 長谷川浩, 海老原孝枝, 神崎恒一, 山田深, 岡島康友, 原修一: 意味性認知症における各高次脳機能の関連性について. 第36回日本認知症学会学術集会, 金沢, 2017年11月24-26日.
9. 石田幸平, 山田深, 岡島康友: 講演. 第23回看護師・コメディカルのためのFIM講習会講師【基礎編】. 三鷹, 2017年12月10日.
10. 池田光代, 山田深, 岡島康友: 講演. 第11回看護師・コメディカルのためのFIM講習会講師【応用編】. 三鷹, 2017年12月10日.
11. 境哲生, 岡島康友: ダウン症の母親の手紙からふり返る母親の心理とリハビリテーション. 第3回日本周産期精神保健研究会, 名古屋, 2018年1月27-28日.
12. 櫻井俊光, 藤澤祐基, 須崎由香, 水石裕, 山田深, 野口明男, 岡島康友, 塩川芳昭: 急性期脳疾患患者におけるDynamic Gait Indexによる歩行自立度判定. 第43回日本脳卒中学会学術集会, 福岡, 2018年3月15-18日.
13. 池田光代, 山田深, 石田幸平, 岡島康友, 塩川芳昭, 平野照之: テント上ラクナ梗塞の急性期リハビリにおける上肢運動麻痺の回復. 第43回日本脳卒中学会学術集会, 福岡, 2018年3月15-18日.
14. 石田幸平, 池田光代, 山田深, 岡島康友, 野口明男, 塩川芳昭: 急性期におけるくも膜下出血患者の機能回復. 第43回日本脳卒中学会学術集会, 福岡, 2018年3月15-18日.
15. 坂本勇斗, 山田深, 飛田和基, 神山裕司, 水石裕, 岡島康友, 塩川芳昭, 平野照之: 脳卒中片麻痺患者における体幹機能とADLの関係性. 第43回日本脳卒中学会学術集会, 福岡, 2018年3月15-18日.

脳卒中医学教室

講 演

1. 平野照之: 新・DOAC選びの基礎知識. 大阪北部地区Core Member Meeting, 大阪, 2017年4月11日.
2. 河野浩之: 心原性脳塞栓症の再発予防と抗凝固療法. 北多摩地区抗凝固療法Network Meeting, 西東京, 2017年4月14日.
3. 天野達雄: 血栓回収療法を行う脳卒中内科医. 第7回Tama-FAST, 立川, 2017年4月14日.
4. 鳥居正剛, 長谷川浩, 谷合誠一, 森山久美, 笹森寛生, 豊田研隆, 平野照之, 塩川芳昭: 当施設の頸動脈狭窄症の治療成績及び治療決定因子としてのフレイルの捉え方. 第30回日本老年脳神経外科学会, 東京, 2017年4月21日.
5. 平野照之: 間違いだらけのNOAC選び. むつ下北医師会学術講演会, むつ, 2017年4月21日.
6. 平野照之: 潜因性脳梗塞へのアプローチ: LINQ vs ESUS. 宮崎脳卒中連携を考える会, 宮崎, 2017年4月25日.
7. 平野照之: 究極のLDL-C低下療法をどう活かすか. ATISへの新たな挑戦—PCSK9阻害薬は脳梗塞治療を変えるか?—, 大阪, 2017年4月27日.
8. 平野照之: 新・DOAC選びの基礎知識. 鳥取県Core Member Meeting, 米子, 2017年5月12日.
9. Kawano H, Bivard A, Parsons MW, Paul CL, Krause M, D'Este CA, Bladin CF, Lindley RI, Attia JR, Henskens F, Longworth M, Middleton S, Ryan A, Kerr E, Sanson-Fisher RW, Levi CR: Hospital arrival times and post-imaging delays in stroke thrombolysis implementation. The 3rd European Stroke Organisation Conference (ESOC 2017). Czech Republic, May 16th-18th, 2017.
10. 内山真一郎, Amarenco P, 平野照之, 長尾毅彦, 野川茂: リアルワールドエビデンスの意義とリバーロキサパンのエビデンスからの知見. SPAF座談会, Czech Republic, 2017年5月17日.
11. 長尾毅彦, 田中亮太, 平野照之: これからの抗凝固療法を考える—Practice based dataから見えてきたDOACへの期待と展望—. ダビガトラン座談会, Czech Republic, 2017年5月17日.
12. 河野浩之: 脳卒中診療の現状と今後の展望. KY Stroke Summit, 東京, 2017年5月26日.
13. 平野照之: ICM(埋め込み型心臓モニタ) vs ESUS—隠れた犯人を見つけ出す?—. エリキュースイインターネット講演会, 東京, 2017年5月30日.
14. 平野照之: リスクを共有する脳卒中和認知症. 第15回新居浜認知症ネットワーク, 新居浜, 2017年6月1日.
15. 平野照之: ESUSではどこまで心房細動を追求すべきか?—. 第4回日本心血管脳卒中学会, 福岡, 2017年6月2日.
16. 平野照之: 脳血管再開通療法, 今そこにある危機. 第4回日本心血管脳卒中学会, 福岡, 2017年6月2日.
17. 鳥居正剛, 笹森寛生, 今井大也, 豊田研隆, 平野照之, 塩川芳昭: 医原性頸部動脈損傷に対する診断および修復方法の検討. 第4回日本心血管脳卒中学会学術集会, 福岡, 2017年6月2日.
18. 中西郁, 天野達雄, 松本淑恵, 笹森寛生, 本田有子, 河野浩之, 鈴木理恵子, 海野佳子, 佐藤栄志, 塩川芳昭, 平野照之: 回収した栓子により診断が確定した感染性心内膜炎の1例. 第4回日本心血管脳卒中学会学術集会, 福岡, 2017年6月3日.
19. 城野喬史, 河野浩之, 本田有子, 天野達雄, 鈴木理恵子, 鳥居正剛, 海野佳子, 平野照之: 脳梗塞の病型診断に苦慮した進行性筋ジストロフィーの1例. 第221回日本神経

- 学会関東・甲信越地方会, 東京, 2017年6月3日.
20. 平野照之: 第2次パラダイムシフトを迎えた脳梗塞治療. 脳梗塞治療最前線～日本人に適した脳梗塞予防と治療～, 渋川, 2017年6月6日.
 21. 平野照之: 脳ドックにおける超音波検査および脳血流検査. 第26回日本脳ドック学会総会, 福岡, 2017年6月9日.
 22. 藤井浩優, 山田深, 松田恭平, 平野照之, 岡島康友: 日常生活動作に関するFIM得点とICF評価点の互換性. 第54回日本リハビリテーション医学会学術集会, 岡山, 2017年6月9日.
 23. 平野照之: リスク&ベネフィットから選ぶべきものは?. MASTERCLASS, 東京, 2017年6月10日.
 24. 平野照之: 急性期血行再開通療法の現状 1. 血栓溶解療法. Idarucizumab t-PA Advisory Board Meeting, 大阪, 2017年6月17日.
 25. 平野照之: ICM (埋め込み型心臓モニタ) vs. ESUS～隠れた犯人を見つけ出す?～. ストップ! NO卒中プロジェクト第10回エリアエキスパート会議, 大阪, 2017年6月17日.
 26. 天野達雄: 各種血栓回収デバイスを用いた血栓回収療法のコスト. 第14回日本脳神経血管内治療学会関東地方会, 東京, 2017年6月17日.
 27. 天野達雄, 中西郁, 河野浩之, 鈴木理恵子, 海野佳子, 笹森寛生, 鳥居正剛, 佐藤栄志, 塩川芳昭, 平野照之: 指圧が契機となった椎骨動脈解離に伴う脳底動脈閉塞に対し血栓回収療法を行った1例. 第14回日本脳神経血管内治療学会関東地方会, 東京, 2017年6月17日.
 28. 平野照之: 新・DOAC選びの基礎知識. プリズバインド発売記念講演会, 新潟, 2017年6月22日.
 29. 平野照之: 神経超音波によるTRAIT評価は可能か?. 第36回日本脳神経超音波学会総会, 高松, 2017年6月23日.
 30. 平野照之: 超高齢社会ニッポンにおける脳梗塞診療DOACの役割. 第30回三重中央脳卒中ホットライン, 津, 2017年7月4日.
 31. 平野照之: 超高齢社会ニッポンにおける脳梗塞診療DOACの役割. 第8回神経セミナー, 富山, 2017年7月5日.
 32. 平野照之: 治療標的に入った脳血管障害の未開拓分野. 第49回日本動脈硬化学会総会・学術集会, 広島, 2017年7月6日.
 33. 平野照之: Reveal LINQで変わる脳梗塞2次予防. 脳血管内治療ブラッシュアップセミナー2017, 神戸, 2017年7月9日.
 34. 平野照之: 煙に巻かずに脳を守る話. チャンピックスイーパーネットシンポジウム, 調布, 2017年7月10日.
 35. 平野照之: DOACのセカンドステージ-Real World Evidenceを読み解く-. イグザレイトウェブカンファレンス, 東京, 2017年7月11日.
 36. 河野浩之: 超急性期脳卒中治療. 時間と脳組織評価. Stroke Neurologistの会, 仙台, 2017年7月15日.
 37. 平野照之: ESUSの功罪: 信頼できる道しるべとなるか?. 第10回脳血管山峰会研究会, 東京, 2017年7月16日.
 38. 河野浩之: 今までの10年, これからの10年. 第10回脳血管山峰会研究会, 東京, 2017年7月16日.
 39. 中西郁, 河野浩之, 天野達雄, 本田有子, 鈴木理恵子, 海野佳子, 平野照之: 幻聴を認めた脳出血の1例. 三鷹ニューロ, 三鷹, 2017年7月20日.
 40. 岡田靖, 神村英利, 平野照之, 藤本茂: 医療連携における抗凝固療法の課題. 高齢者AFのトータルケアBEYOND Stroke座談会, 東京, 2017年7月22日.
 41. 平野照之: FASTで繋ぐ脳梗塞治療: Tissue-based時代を迎えて. 第6回内科疾患カンファレンス, 福岡, 2017年7月27日.
 42. 河野浩之: 脳卒中後のてんかん. エーザイ株式会社社員研修会, 東京, 2017年7月28日.
 43. 平野照之: 急性期脳主幹動脈閉塞の画像診断 (脳血管・脳実質). 第3回軽井沢脳血管内治療セミナー, 軽井沢, 2017年7月29日.
 44. 平野照之: アルテプラゼ静注療法. 第3回軽井沢脳血管内治療セミナー, 軽井沢, 2017年7月29日.
 45. 天野達雄: 脳梗塞の病型診断とESUS. 第3回軽井沢脳血管内治療セミナー, 軽井沢, 2017年7月29日.
 46. 天野達雄: 脳梗塞の血圧・血糖・脂質管理・合併症管理. 第3回軽井沢脳血管内治療セミナー, 軽井沢, 2017年7月30日.
 47. 河野浩之: 急性期脳梗塞における定量的側副血行評価と組織予後. Tokyo Stroke Expert Meeting, 東京, 2017年8月4日.
 48. 平野照之: 第2次パラダイムシフトを迎えた脳梗塞治療. Stroke Expert Meeting, 東京, 2017年8月7日.
 49. 鳥居正剛, 平野照之, 塩川芳昭: 当センターでの若年性脳卒中 (50歳以下) の診断的特徴及び臨床的検討. 第36回The Mt. Fuji Workshop on CVD, 大阪, 2017年8月26日.
 50. 城野喬史, 河野浩之, 本田有子, 天野達雄, 鈴木理恵子, 鳥居正剛, 海野佳子, 平野照之: 脳梗塞の病型診断に苦慮した進行性筋ジストロフィーの1例. 第36回The Mt. Fuji Workshop on CVD, 大阪, 2017年8月26日.
 51. 平野照之: 煙の向こうの塞栓源. ストップ! NO卒中プロジェクトエリア会議鹿児島, 鹿児島, 2017年8月28日.
 52. 平野照之: 超高齢社会ニッポンにおける脳梗塞診療DOACの役割. 日本人の血栓症を考える会, 東京, 2017年8月30日.
 53. 天野達雄: 脳梗塞血栓回収療法のすすめ～抗血小板療法におけるボノプラザンの役割～. Takeda Scientific Web Seminar of Young Doctors, Web講演会, 2017年8月31日.
 54. 平野照之: 超高齢社会ニッポンにおける脳梗塞診療DOACの役割. 第2回福岡脳卒中カンファレンス, 福岡, 2017年9月1日.
 55. 中西郁, 河野浩之, 天野達雄, 本田有子, 鈴木理恵子, 海野佳子, 平野照之: 幻聴を認めた脳出血の1例. 第222回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 2017年9月2日.
 56. 平野照之: 脳卒中の治療の最前線. 第3回杏林大学医学部附属病院脳卒中センターStroke Care open lecture 2017, 三鷹, 2017年9月2日.
 57. 平野照之: リスク&ベネフィットから選ぶべきものは?. Area Master Class in 城北, 東京, 2017年9月5日.
 58. 平野照之: 究極のLDL-C低下療法をどう活かすか. 多摩脳神経内科小規模講演会, 東京, 2017年9月7日.
 59. Unno Y, Iwashita T: Clinical evaluation of dissection of the cerebral arteries with headache. 18th Congress of the International Headache Society, Canada, September 7th-10th, 2017.
 60. 平野照之: 第2次パラダイムシフトを迎えた脳梗塞治療. 超高齢社会における抗凝固療法～総合診療医における1次予防・2次予防～, 武蔵野, 2017年9月8日.
 61. Hirano T: Current status of Mechanical Thrombectomy and role of neurologists for acute ischemic stroke in Japan. XXIII World Congress of Neurology, Kyoto, September 20th, 2017.

62. Unno Y, Nagai K, Johno T, Hirano T : MIGRAINE-RELATED ISCHEMIC STROKE. The XXIII World Congress of Neurology, Kyoto, September 16th-21st, 2017.
63. Kawano H, Bivard A, Parsons MW, Hirano T, Levi CR: Early hospital arrival and post-imaging delays in stroke thrombolysis. XXIII World Congress of Neurology, Kyoto, September 16th-21st, 2017.
64. Okano H, Nakajima M, Chiba A, Shiokawa Y, Hirano T : Eosinophilia observed among stroke patients : three case series. XXIII World Congress of Neurology, Kyoto, September 16th-21st, 2017.
65. Amano T: Approaches to the endovascular therapy for AIS from the standpoint of stroke neurologist. XXIII World Congress of Neurology, Kyoto, September 16th-21st, 2017.
66. 平野照之: ESUSと潜因性脳梗塞. 第11回東京脳卒中の血管内治療セミナー (TSNET 2017), 東京, 2017年9月23日.
67. 平野照之: 第2次パラダイムシフトを迎えた脳梗塞治療. 脳をまもる地域連携セミナー, 神栖, 2017年9月26日.
68. 海野佳子: 心原性脳塞栓症の再発予防薬～杏林大学病院脳卒中センターでの使い分け～. 第2回脳をまもる地域連携セミナー, 鹿島, 2017年9月26日.
69. 天野達雄: 超急性期脳梗塞血管内治療～血栓回収から血圧管理まで～. Stroke Seminar 2017, 三鷹, 2017年9月27日.
70. 平野照之: 潜因性脳梗塞へのアプローチ: ICM vs ESUS. 多摩Stroke Core Member Meeting, 東京, 2017年9月28日.
71. 平野照之: 進化する脳梗塞急性期治療: 新たな夜明けを迎えて. 第37回かずさ脳血管障害談話会, 一宮, 2017年9月29日.
72. 平野照之: リスク&ベネフィットから選ぶべきものは?. MASTERCLASS In HOKURIKU, 金沢, 2017年9月30日.
73. 天野達雄: 杏林大学での脳梗塞血栓回収療法. Chikugo Neuro Intervention Seminar, 福岡, 2017年9月30日.
74. 山下ひとみ, 天野達雄, 中西郁, 本田有子, 鈴木理恵子, 河野浩之, 海野佳子, 島居正剛, 岡野晴子, 塩川芳昭, 平野照之: Accessory MCAを伴う内頸動脈頂部閉塞に対して血栓回収療法が奏功した一例. 第20回日本栓子検出と治療学会, 東京, 2017年9月30日.
75. 仁科彩子, 岡島康友, 山田深, 平野照之, 塩川芳昭: 脳動脈解離の急性期リハビリテーション. 第67回日本リハビリテーション医学会関東地方会, 東京, 2017年9月30日.
76. 平野照之: ICM (埋め込み型心臓モニタ) vs ESUS～隠れた犯人を見つけ出す?～. ストップ! NO卒中エリアエキスパートセミナーin埼玉, さいたま, 2017年10月3日.
77. 平野照之: 脳血管障害の画像診断. 第61回社会保険指導者講習会, 東京, 2017年10月5日.
78. 平野照之: 脳梗塞治療のパラダイムシフト: 脳血管再開通療法とリスク管理の進歩. 第6回多摩血管一代謝研究会, 武蔵野, 2017年10月11日.
79. Hirano T : Acute revascularization utilizing thrombectomy and/or thrombolysis in patients with emergent large vessel occlusion. The 76th Annual Meeting of the Japan Neurosurgical Society, Nagoya, October 12th, 2017.
80. 島居正剛, 長谷川浩, 谷合誠一, 森山久美, 平野照之, 塩川芳昭: 頸動脈狭窄症治療決定因子としてのフレイルの捉え方. 日本脳神経外科学会第77回学術集会, 名古屋, 2017年10月12日.
81. 平野照之: 抗凝固療法のリスクマネジメント. 4F-PCC(プロトロンビン複合体)の役割. 日本脳神経外科学会第76回学術総会, 名古屋, 2017年10月14日.
82. 平野照之: シャレたDOACの見分け方・付き合い方. JONAN Atrial Fibrillation Meeting, 東京, 2017年10月16日.
83. 平野照之: 脳卒中診療の最前線: 2017年の動向. 第42回岳南脳疾患研究会特別講演会, 富士, 2017年10月18日.
84. Hirano T: Newer Thrombolytic Agents. 8th Korea-Japan Joint Stroke Conference, Niigata, October 19th-21st, 2017.
85. Hirano T: The second stage of DOAC era – Interpreting Real World Evidence-. 8th Korea-Japan Joint Stroke Conference, Niigata, October 19th-21st, 2017.
86. Kawano H, Bivard A, Parsons MW, Hirano T, Levi CR: Salvaged penumbral volume and clinical improvement after acute stroke thrombolysis. The 8th. Korea-Japan Joint Stroke Conference 2017, Niigata, October 19th-21st, 2017.
87. Torii M, Hasegawa H, Tani S, Moriyama K, Hirano T, Shiokawa Y : How to capture flail as carotid artery stenosis treatment (CEA) decision factor. The 8th. Korea-Japan Joint Stroke Conference 2017, Niigata, October 19th-21st, 2017.
88. Amano T, Uchida S, Nakanishi K, Kawano H, Suzuki R, Torii M, Okano H, Unno Y, Shiokawa Y, Hirano T: Hematoma Expansion and Clinical Outcome of Intracerebral Hemorrhage with Direct Oral Anticoagulants or Vitamin K Antagonist. The 8th. Korea-Japan Joint Stroke Conference 2017, Niigata, October 19th-21st, 2017.
89. 平野照之: 脳卒中診療の最前線: 2017年の動向. 脳卒中治療を考える会, 館山, 2017年10月24日.
90. 平野照之: 潜因性脳梗塞患者へのアプローチLINQ vs ESUS. 熊本神経内科臨床医会, 熊本, 2017年10月25日.
91. 平野照之: DOAC時代の脳卒中連携医療. 脳卒中シームレス医療in東葛, 松戸, 2017年10月26日.
92. 平野照之: Tissue-based時代のブレインアタック画像診断. 第19回みやぎブレインアタック研究会, 仙台, 2017年10月27日.
93. 河野浩之: 脳卒中診療の現状と今後の展望. KY Stroke Summit 2nd. 東京, 2017年10月27日.
94. 平野照之: 超高齢社会の浮沈を握る脳卒中・認知症対策. 第32回日本糖尿病合併症学会・第23回日本糖尿病眼学会総会, 東京, 2017年10月28日.
95. 平野照之: 脳卒中治療のUp to date. 第9回旭川脳卒中地域医療連携講演会, 旭川, 2017年10月31日.
96. Hirano T: Current Status of Acute Stroke Imaging in Patients with Large Vessel Occlusion in Japan. 4th International Symposium on Collaterals to the Brain, Collaterals 2017, USA, (WEB), November 3rd, 2017.
97. 河野浩之, Bivard A, Parsons MW, Levi CR, 平野照之: 虚血ペナンプラの救出と臨床症状改善の関連. 第60回日本脳循環代謝学会学術集会, 大阪, 2017年11月3日.
98. 平野照之: シャレたDOACの見分け方・付き合い方. 第60回日本脳循環代謝学会, 大阪, 2017年11月4日.
99. 平野照之: 第2次パラダイムシフトを迎えた脳梗塞治療. 埼玉西部地区脳卒中セミナー2017, 所沢, 2017年11月7日.

100. 鈴木理恵子: 脳卒中診療で役立つ超音波診断. 埼玉県南西部脳卒中連携フォーラム, 朝霞, 2017年11月9日.
101. 丸岡響, 岡野晴子, 鈴木理恵子, 本田有子, 天野達雄, 鳥居正剛, 河野浩之, 海野佳子, 平野照之: 抗リン脂質抗体症候群が原疾患の脳梗塞で, 頭蓋内主幹動脈の限局性狭窄を認めた52歳男性. 三鷹ニューロ, 三鷹, 2017年11月9日.
102. 平野照之: 脳梗塞急性期再開通療法—これまでとこれから—. 第400回記念水菓会, 別府, 2017年11月10日.
103. 海野佳子: 頭痛発症脳動脈解離患者の臨床的検討. 第45回日本頭痛学会総会, 大阪, 2017年11月10日.
104. 本田有子, 城野喬史, 天野達雄, 河野浩之, 鈴木理恵子, 野口明男, 海野佳子, 塩川芳昭: 頭痛を主訴に脳ドックを訪れた受診者の調査 Study of subject with headache in undergoing medical check-up. 第45回日本頭痛学会総会, 大阪, 2017年11月11日.
105. 平野照之: 二次予防の立場から—高齢者の脳梗塞急性期から慢性期のマネジメント—. 全国学術講演会 高齢心房細動患者の抗凝固療法を考える—日本人のリアルワールドエビデンスを読み解く—, 福岡, 2017年11月12日.
106. 平野照之: シャレたDOACの見分け方・付き合い方. 安房地区抗凝固療法Network Meeting, 館山, 2017年11月14日.
107. 平野照之: 脳梗塞急性期治療2017 Update. 第35回日本神経治療学会, さいたま, 2017年11月16日.
108. 平野照之: 抗凝固療法のリスクマネジメント: 4F-PCC (プロトロンビン複合体) の役割. 第9回ちば北西部脳神経外科懇話会, 柏, 2017年11月17日.
109. 平野照之: シャレたDOACの見分け方, 付き合い方. 尾張地区Network Meeting, 名古屋, 2017年11月18日.
110. 丸岡響, 岡野晴子, 鈴木理恵子, 本田有子, 天野達雄, 鳥居正剛, 河野浩之, 海野佳子, 平野照之: 抗リン脂質抗体症候群を原疾患とする脳梗塞で, 頭蓋内主幹動脈の限局性狭窄を認めた52歳男性. 第46回杏林医学会総会, 三鷹, 2017年11月18日.
111. 平野照之: 間違いだらけのNOAC選び. 第3回Brain Heart Conference, 水戸, 2017年11月21日.
112. 岩下達雄, 海野佳子: もの忘れ外来受診者の臨床的検討. 第36回日本認知症学会学術集会, 金沢, 2017年11月24-26日.
113. 平野照之: Reveal LINQでアプローチする潜因性脳梗塞. 脳梗塞患者のAF診断を考える会, 青森, 2017年11月27日.
114. 平野照之: 超高齢社会ニッポンを救う抗凝固療法. 第601回八戸胸部疾患懇話会, 八戸, 2017年11月28日.
115. 鈴木理恵子: 脳卒中診療における超音波診断. 第29回京都脳神経脈管超音波セミナー, 京都, 2017年12月2日.
116. 天野達雄: 後方循環再開通はどうなる?. 第51回西関東Neuro IVRセミナー, さいたま, 2017年12月2日.
117. 丸岡響, 岡野晴子, 鈴木理恵子, 本田有子, 天野達雄, 鳥居正剛, 河野浩之, 海野佳子, 平野照之: 抗リン脂質抗体症候群を原疾患とする脳梗塞で, 頭蓋内主幹動脈の限局性狭窄を認めた52歳男性. 第223回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 2017年12月2日.
118. 平野照之: 脳卒中診療の新たな潮流: Known unknownへの挑戦. 平成29年度日本神経学会関東甲信越地区生涯教育講演会, 東京, 2017年12月3日.
119. 平野照之: DOACのセカンドステージ—Real World Evidenceを読み解く—. 抗凝固療法を考える会in北多摩, 西東京, 2017年12月7日.
120. 平野照之: シャレたDOACの見分け方, 付き合い方. 大分県南地区Network Meeting, 臼杵, 2017年12月8日.
121. 平野照之: リスク&ベネフィットから選ぶべきものは?. Master Class in Okayama, 岡山, 2017年12月9日.
122. 平野照之: 寝たきりからの護身術. 高齢者AFのトータルケア: 高齢者AFのアドヒアランスについて考える (WEB講演), 東京, 2017年12月11日.
123. 平野照之: 第2次パラダイムシフトを迎えた脳梗塞治療. 学術講演会, 大分, 2017年12月12日.
124. 平野照之: 脳梗塞の診断と治療: 基礎知識から最近の話題まで. アステラス製薬社内勉強会, 武蔵野, 2017年12月18日.
125. 天野達雄: 後方循環再開通について考えてみた. 鹿児島脳血管内科の会2018, 鹿児島, 2018年1月6日.
126. 平野照之: 脳卒中診療の最前線: 2018年の動向. Neurology Seminar, 東京, 2018年1月11日.
127. 平野照之: 究極のLDL低下療法と脳梗塞. IMTから全身の動脈硬化を考える会, 東京, 2018年1月18日.
128. 平野照之: 進化する脳梗塞急性期治療: 新たな夜明けを迎えて. 第14回鹿児島ストローク研究会, 鹿児島, 2018年1月19日.
129. 天野達雄: この研究会で得た引き出し得たい引き出し. 第10回Stroke Neurologist研究会, 東京, 2018年1月20日.
130. Kawano H, John T, Torii M, Kamiyama H, Amano T, Honda Y, Suzuki R, Okano H, Unno Y, Yamada S, Okajima Y, Shiokawa Y, Hirano T: Functional Independence Scores of Acute Stroke Patients is Associated with Discharge Directly to Home. International Stroke Conference 2018, USA, January 24th-26th, 2018.
131. John T, Kawano T, Torii M, Kamiyama H, Amano T, Honda Y, Suzuki R, Okano H, Unno Y, Yamada S, Okajima Y, Shiokawa Y, Hirano T: Functional Independence Score of Acute Stroke Patients can Predict Favorable Clinical Outcome at 3 Months after Stroke Onset. International Stroke Conference 2018, USA, January 24th-26th, 2018.
132. Amano T: Fluid-Attenuated Inversion Recovery Hyperintense Vessel Predicts Pre- and Post-Recanalization Infarct Lesion. International Stroke Conference 2018, USA, January 25th, 2018.
133. 平野照之: 脳卒中専門医の立場から見た一次予防の重要性. NVAF患者の脳梗塞二次予防におけるリアルワールドエビデンス, 高齢・腎機能低下心房細動患者における抗凝固療法. Xarelto Voices Season II, 東京, 2018年1月30日.
134. 平野照之: 潜因性脳梗塞へのアプローチ ICM vs ESUS. 西宮市脳卒中連携セミナー, 西宮, 2018年2月1日.
135. 平野照之: ESUSと超音波・CTA. 第18回神奈川神経・血管超音波セミナー, 横浜, 2018年2月3日.
136. 平野照之: シャレたDOACの見分け方・付き合い方. 第2回熊本心血管総合カンファレンス, 熊本, 2018年2月10日.
137. 河野浩之: ヘパリン起因性血小板減少症の診断, 治療ガイドライン策定にむけて—検討すべきClinical Questionとは— 臨床的診断. 第12回日本血栓止血学会SSCシンポジウム, 東京, 2018年2月10日.
138. 平野照之: Tissue-based時代の脳梗塞画像診断. 第2回神奈川脳血栓回収療法セミナー, 横浜, 2018年2月17日.
139. 平野照之: 脳画像の診かた —画像から症状を予測する—. 東京都理学療法士協会北多摩ブロック部主催第8回ブロック部学術集会, 三鷹, 2018年2月18日.
140. 天野達雄: 超高齢者に対する急性期脳梗塞血栓回収. 第

- 31回日本老年脳神経外科学会，東京，2018年2月24日．
141. 平野照之：脳卒中診療の最前線：2018年の動向．中部ろうさい病院第8回脳卒中セミナー，名古屋，2018年2月22日．
 142. 平野照之：シャレたDOACの見分け方・付き合い方～心原性脳塞栓症予防のエッセンス～．府中市医師会学術講演会，府中，2018年2月23日．
 143. 平野照之：脳卒中の最新事情とSRCNへの期待．脳卒中リハビリテーション看護の将来を考える会，東京，2018年2月24日．
 144. 平野照之：高齢者の脳卒中二次予防 最新の抗血栓療法．第31回日本老年脳神経外科学会，東京，2018年2月24日．
 145. 天野達雄：超高齢者に対する急性期脳梗塞血栓回収．第31回日本老年脳神経外科学会，東京，2018年2月24日．
 146. 平野照之：Late time windowとEarly AC initiation．第3回Stroke and Neuroimaging Meeting in 横浜マリントワー，横浜，2018年3月1日．
 147. 平野照之：シャレたDOACの見分け方・付き合い方．脳と心臓を考える会，福生，2018年3月2日．
 148. 平野照之：超高齢社会ニッポンの抗凝固療法．脳卒中Total Careフォーラム，岡山，2018年3月6日．
 149. 平野照之：シャレたDOACの見分け方・付き合い方．Anticoagulation Risk Management Meeting，広島，2018年3月7日．
 150. 平野照之：シャレたDOACの見分け方・付き合い方．Stroke Café 2018，静岡，2018年3月12日．
 151. 平野照之：イダルズマブに係る最新の話（抗凝固療法中の急性血行再建療法を含めて）．第43回日本脳卒中学会学術集会，福岡，2018年3月15日．
 152. 河野浩之：脳卒中センターにおける急性期脳梗塞の診断から治療 最新のモダリティと解析の活用．STROKE2018，福岡，2018年3月15日．
 153. 天野達雄：前方循環主幹動脈閉塞症例におけるASPECTS+Wは血栓回収療法の転帰予測因子となる．第43回日本脳卒中学会学術集会，福岡，2018年3月15日．
 154. 天野達雄：後方循環主幹動脈閉塞症例におけるpc-ASPECTSは血栓回収療法の転帰予測因子となる．第43回日本脳卒中学会学術集会，福岡，2018年3月15日．
 155. 河野浩之，城野喬史，鳥居正剛，神山祐司，中西郁，斎藤幹人，丸岡響，天野達雄，本田有子，鈴木理恵子，岡野晴子，海野佳子，山田深，岡島康友，塩川芳昭，平野照之：急性期脳血管障害のFIMスコアは自宅退院と関連する．STROKE2018，福岡，2018年3月15-18日．
 156. 城野喬史，河野浩之，鳥居正剛，神山祐司，中西郁，斎藤幹人，丸岡響，天野達雄，本田有子，鈴木理恵子，岡野晴子，海野佳子，山田深，岡島康友，塩川芳昭，平野照之：急性期脳血管障害のFIMスコアは発症3ヶ月後の臨床転帰を予測する．STROKE2018，福岡，2018年3月15-18日．
 157. 丸岡響，河野浩之，斎藤幹人，城野喬史，中西郁，山下ひとみ，本田有子，天野達雄，鈴木理恵子，鳥居正剛，岡野晴子，海野佳子，塩川芳昭，平野照之：脳出血における血腫拡大とコレステロール値の関連．STROKE2018，福岡，2018年3月15-18日．
 158. 中西郁，河野浩之，斎藤幹人，城野喬史，丸岡響，山下ひとみ，天野達雄，本田有子，鈴木理恵子，海野佳子，塩川芳昭，平野照之：3次救急外来に搬送された脳梗塞患者の現状．STROKE2018，福岡，2018年3月15-18日．
 159. 山下ひとみ，河野浩之，斎藤幹人，城野喬史，丸岡響，中西郁，本田有子，天野達雄，鈴木理恵子，鳥居正剛，岡野晴子，海野佳子，塩川芳昭，平野照之：発症後6時間を越えた脳梗塞に虚血ペナンプラは存在する．STROKE2018，福岡，2018年3月15-18日．
 160. 綾野水樹，蛭沢志織，大辻恵，露木菜緒，小松由佳，小河百合子，河野浩之，塩川芳昭，千葉厚郎，平野照之：他疾患のため入院中の患者に発症した虚血性脳卒中の特徴．STROKE2018，福岡，2018年3月15-18日．
 161. 平野照之：超高齢社会と心原性脳塞栓症．第43回日本脳卒中学会学術集会，福岡，2018年3月16日．
 162. 平野照之：抗凝固療法のアンメット・ニーズ～XaPASS，RELAXEDから見えてきたこと．STROKE2018，福岡，2018年3月17日．
 163. 平野照之：世界の潮流はlate time windowへ．第3回栃木から世界の脳卒中を知る，宇都宮，2018年3月22日．
 164. 平野照之：潜因性脳梗塞へのアプローチ：LINQ vs ESUS．脳神経・循環器クロストークカンファレンス，東京，2018年3月29日．
 165. 平野照之：超高齢社会ニッポンの抗凝固療法．脳卒中診療 up to date，秋田，2018年3月30日．
- ## 論 文
1. 平野照之：第2次パラダイムシフトを迎えた脳梗塞治療．臨床神経 57(5)：203-207，2017．
 2. Hirano T, Kaneko H¹, Mishina S¹, Wang F¹, Morita S² (¹Bristol-Myers Squibb, ²Kyoto University) : Suboptimal anticoagulant management in Japanese nonvalvular atrial fibrillation patients receiving warfarin for stroke prevention. J Stroke Cerebrovasc Dis 26: 2102-2110, 2017.
 3. 鈴木理恵子，平野照之：頸動脈・椎骨動脈解離 病因と病態．日本臨牀 75(増刊4)：370-375，2017．
 4. 平野照之：脳卒中や急性期の薬物療法が施設によって違うのはなぜでしょうか？．脳神経外科速報27(6)：631，2017．
 5. 平野照之：塞栓源不明脳塞栓症．BRAIN and NERVE 69(6)：651-656，2017．
 6. 平野照之：脳梗塞の抗凝固療法．日本血栓止血学会誌 28(3)：335-344，2017．
 7. 河野浩之：2分で覚える解剖生理 神経の伝導路編 皮質．Brain Nursing 33(7)：722，2017．
 8. 平野照之：血栓溶解療法．日本医師会雑誌146 特別号(1)：S168-S170，2017．
 9. 平野照之：抗血小板薬の特徴と使い分け．レジデントノート 19(7)：1157-1162，2017．
 10. 平野照之：潜因性脳卒中とESUS．分子脳血管病 16(2)：151-154，2017．
 11. 河野浩之：2分で覚える解剖生理 神経の伝導路編 内包・基底核．Brain Nursing 33(8)：812，2017．
 12. 平野照之：危険因子を共有する脳卒中と認知症．日本早期認知症学会誌 10(1)：59-63，2017．
 13. 平野照之：未＜非＞破裂脳動脈瘤への包括的内科治療．Proceedings of the 35th Meeting of The Mt. Fuji Workshop on CVD 35：18-21，2017．
 14. Mizuta I¹, Hosomi-Watanabe A¹, Koizumi T¹, Mukai M¹, Hamano A¹, Tomii Y¹, Kondo M¹, Nakagawa M¹, Tomimoto H², Hirano T, Uchino M³, Onodera O⁴, Mizuno T¹ (¹Kyoto Prefectural University of Medicine, ²Mie University, ³Johann Hospital, ⁴Niigata University) : New diagnostic criteria for Cerebral Autosomal Dominant Arteriopathy with Subcortical Infarcts and Leukoencephalopathy in Japan. J Neurol Sci 381(10): 62-67, 2017.
 15. 海野佳子：慢性頭痛の治療戦略．日本頭痛学会誌 44(1)：59-63，2017．

16. Kawano H, Bivard A¹, Parsons MW¹, Paul CL¹, Krause M², D'Este CA³, Bladin CF⁴, Lindley RJ², Attia JR¹, Henskens F¹, Longworth M⁵, Middleton S⁶, Ryan A¹, Kerr E¹, Sanson-Fisher RW¹, Levi CR¹(¹University of Newcastle, ²University of Sydney, ³The Australian National University College of Medicine, Biology and Environment, ⁴University of Melbourne, ⁵Western Sydney Local Health District, ⁶Australian Catholic University): Hospital arrival times and post-imaging delays in stroke thrombolysis implementation. *J Neurol Disord Stroke*. 5(3): 1127, 2017.
 17. Gao J¹, Parsons MW¹, Kawano H, Levi CR¹, Evans TJ¹, Lin L¹, Bivard A¹ (¹University of Newcastle, Australia): Visibility of CT early ischemic change is significantly associated with time from stroke onset to baseline scan beyond the first 3 hours of stroke onset. *J Stroke*. 19(3): 340-346, 2017.
 18. Wada S¹, Koga M¹, Toyoda K¹, Minematsu K¹, Yasaka M², Nagai Y³, Aoki S⁴, Nezu T⁴, Hosomi N⁴, Kagimura T⁵, Origasa H⁶, Kamiyama K⁷, Suzuki R, Ohtsuki T^{4,8}, Maruyama H⁴, Kitagawa K⁹, Uchiyama S¹⁰, Matsumoto M^{4,11}; Japan Statin Treatment Against Recurrent Stroke (J-STARS) Echo Study Collaborators. (¹National Cerebral and Cardiovascular Center, ²National Hospital Organization Kyushu Medical Center, ³Kobe University Hospital, ⁴Hiroshima University, ⁵Translational Research Informatics Center, ⁶University of Toyama, ⁷Nakamura Memorial Hospital, ⁸Kinki University, ⁹Tokyo Women's Medical University, ¹⁰International University of Health and Welfare, ¹¹Hoshigaoka Medical Center): Factors Associated with Intima-Media Complex Thickness of the Common Carotid Artery in Japanese Noncardioembolic Stroke Patients with Hyperlipidemia: The J-STARS Echo Study. *J Atheroscler Thromb*. 2017. doi: 10.5551/jat.41533. [Epub ahead of print].
 19. 山下ひとみ, 平野照之: 抗凝固療法による心原性脳塞栓の予防. *神経内科* 87(5): 493-498, 2017.
 20. 平野照之: 脳卒中治療の進化と深化 序文. *医学と薬学* 74(12): 1533-1534, 2017.
 21. 平野照之: 超急性期のrt-PA静注療法update. *カレントセラピー* 35(12): 40-44, 2017.
 22. 中西郁, 平野照之: 高齢者の脳梗塞. *日老会誌* 54(4): 508-513, 2017.
 23. 平野照之: 脳小血管病(無症候性脳梗塞・大脳白質病変・微小出血)の画像診断. *日本脳ドック学会報* 5: 4-12, 2017.
 24. Koretsune Y¹, Ikeda T², Kozuma K³, Hirano T, Yasaka M⁴, Kida M⁵, Chachin M⁶, Imura M⁶ (¹Osaka National Hospital, ²Toho University, ³Teikyo University, ⁴Kyushu Medical Center, ⁵Bristol-Myers Squibb, ⁶Pfizer): Patient satisfaction after switching from warfarin to apixaban in patients with nonvalvular atrial fibrillation: AGAIN study. *Patient Prefer Adherence* 11: 1987-1996, 2017.
 25. Koga M¹, Toyoda K¹, Minematsu K¹, Yasaka M², Nagai Y³, Aoki S⁴, Nezu T⁴, Hosomi N⁴, Kagimura T⁵, Origasa H⁶, Kamiyama K⁷, Suzuki R, Ohtsuki T^{4,8}, Maruyama H⁴, Kitagawa K⁹, Uchiyama S¹⁰, Matsumoto M^{4,11}; J-STARS Investigators. (¹National Cerebral and Cardiovascular Center, ²National Hospital Organization Kyushu Medical Center, ³Kobe University Hospital, ⁴Hiroshima University, ⁵Translational Research Informatics Center, ⁶University of Toyama, ⁷Nakamura Memorial Hospital, ⁸Kinki University, ⁹Tokyo Women's Medical University, ¹⁰International University of Health and Welfare, ¹¹Hoshigaoka Medical Center): Long-Term Effect of Pravastatin on Carotid Intima-Media Complex Thickness: The J-STARS Echo Study (Japan Statin Treatment Against Recurrent Stroke). *Stroke* 49: 107-113, 2018.
 26. 中西郁, 河野浩之, 天野達雄, 大森嘉彦¹, 菅間博¹, 平野照之 (¹杏林大・医・病理学): 回収した血栓より診断した感染性心内膜炎の1例. *臨床神経* 58: 35-40, 2018.
- 著書**
1. 平野照之(分担執筆): 側頭動脈炎(巨細胞性血管炎). 今日の治療指針2017. 福井次矢, 高木誠, 小室一成編集. 東京, 医学書院, 2017. p.891-892.
 2. 河野浩之(分担執筆), 橋本洋一郎: 第IV章 主要な原因疾患 1脳梗塞・脳出血. 標準的神経治療 しびれ感. 日本神経治療学会監修, 福武敏夫, 安藤哲朗, 富本秀和編集. 東京, 医学書院, 2017. p.28-35.
 3. 海野佳子(分担執筆): 薬剤の使用過多による頭痛(MOH): 頭痛を治そうと飲んだ薬で頭が痛い? 「日本の高価値医療」シリーズ② 頭痛外来チャレンジケース. 稲福徹也編集. 東京, カイ書林, 2017. p.67-77.
 4. 平野照之(分担執筆): 神経内科医が考える心原性脳塞栓症予防・治療の課題. *Circulation Up-to-Date Books* 心房細動患者を「脳卒中」から守る! 井上耕一, 金子英弘編集. 東京, メディカ出版, 2017. p.195-208.
 5. 天野達雄(分担執筆): 第V章 1頭蓋内動脈の急性閉塞 01血栓回収デバイスの適応と各方法の使い分け. プライム脳神経外科 2脳虚血. 木内博之, 斉藤延人監修. 斉藤延人編集. 東京, 三輪書店, 2017. p.182-192.
 6. 平野照之(分担執筆): 急性期内科的治療 抗凝固療法. プライム脳神経外科 2脳虚血. 木内博之, 斉藤延人監修. 斉藤延人編集. 東京, 三輪書店, 2017. p.235-240.
 7. 平野照之(分担執筆): 急性期脳梗塞(ブレインアタック). 今日の治療指針2018. 福井次矢, 高木誠, 小室一成編集. 東京, 医学書院, 2018. p.890-892.
 8. 平野照之(分担執筆): 脳卒中治療におけるPCSK9阻害薬の可能性. *Annual Review神経*2018. 鈴木則宏, 荒木信夫, 宇川義一, 桑原聡, 塩川芳昭編集. 東京, 中外医学社, 2018. p.159-165.
 9. 岩下達雄, 海野佳子(分担執筆): 三叉神経. イラスト神経診察. 鈴木則宏編集. 東京, 診断と治療社, 2018. p.100-108.
- その他**
1. 平野照之: 潜因性脳梗塞 心房細動の検出で的確な治療を. *Medical Tribune*, 2017年5月18日, vol.50 No.14.
 2. 池田隆徳, 平野照之: 脳と心臓の診療科連携で命を救え! 週刊朝日MOOK脳卒中と心臓病のいい病院, 朝日新聞出版, 東京, 2017, p.46-49.
 3. 長尾毅彦, 平野照之, 田中亮太: これからの抗凝固療法を考えるー新たなステージを迎えたDOACー. *日経メディカルSPECIAL*, 2017秋号, p.31-34.
 4. 平野照之, 鳥居正剛: チョイス@病気になったとき「気になる脳の病気 もやもや病&無症候性脳梗塞」, NHK, 2017年11月11日.
 5. 内山真一郎, Amarenco P, 平野照之, 長尾毅彦, 野川茂: 脳梗塞急性期における抗凝固療法を考える. *Medical Tribune*, 2017年11月23日号, p.12-13.

医学教育学教室

講 演

1. 赤木美智男, 他: Down症候群に合併する先天性心疾患の性差(第2報). 第120回日本小児科学会学術集会, 東京, 2017年4月15日.
2. 矢島知治: 炎症って何?それが腸に起こったら?. 第12回ちばIBD潰瘍性大腸炎とクローン病 医療講演会 2017, 千葉, 2017年6月18日.
3. 富田泰彦, 赤木美智男, 矢島知治: 臨床研修指導医養成講習会の研修内容に関する現状と課題. 第49回日本医学教育学会総会, 札幌, 2017年8月19日.
4. 赤木美智男: 実習生とのコミュニケーション-フィードバックとふり返りの技法. 第2回東京薬科大学 実務実習指導のためのFD研修会, 東京, 2017年8月27日.
5. 矢島知治: 潰瘍性大腸炎外来診療のエッセンス. 浜松IBDを学ぶ会, 浜松, 2017年9月22日.
6. 赤木美智男: 実習生とのコミュニケーション-フィードバックとふり返りの技法. 第3回東京薬科大学 実務実習指導のためのFD研修会, 東京, 2018年2月11日.
7. 富田泰彦: 「正しく知ろう!認知症」-早期発見, 早期診断が大切です-, 東久留米市役所保健福祉部主催 認知症講演会, 東久留米, 2018年3月9日.

論 文

1. 富田泰彦(地域交流委員会: 医学部執筆担当): 杏林CCRC構想における地域活動. 杏林大学杏林CCRC研究所紀要 4:97-99, 2018.
2. 富田泰彦(地域交流委員会: 医学部執筆担当): 杏林CCRC構想における教育活動. 杏林大学杏林CCRC研究所紀要 4:107-109, 2018.
3. 古本泰之, 井上晶子, 富田泰彦 他: 災害に備えるまちづくり研究. 杏林大学杏林CCRC研究所紀要 4:127-137, 2018.
4. 岡本晋, 赤木美智男, 富田泰彦, 江頭説子: 医学部におけるキャリア教育-杏林大学医学部の取り組み-. 杏林医学会雑誌, 49(1): 51-63, 2018.

著 書

1. 矢島知治: 腹部・腰部の症状[右上腹部痛]. 症候から考える画像診断アトラス 内科119(4). 東京, 南江堂, 2017. p.709-711.
2. 矢島知治: 消化器疾患における睡眠障害. 内科医と睡眠障害 内科120(5). 東京, 南江堂, 2017. p.1091-1094.
3. 矢島知治 他: 第111回医師国家試験問題解説. 東京, メディックメディア, 2017.
4. 矢島知治: 炎症性腸疾患に合併する大腸癌の予防. 炎症性腸疾患(第2版) 病因解明と診断・治療の最新知見 2018年4月増刊号. 東京, 日本臨床社, 2018. p.410-413.

その他

1. 赤木美智男: 杏林大学医学部付属病院 第25回指導医養成ワークショップ ディレクター, 東京, 2017年6月2-3日.
2. 富田泰彦: 杏林大学医学部付属病院 第25回指導医養成ワークショップ チーフタスクフォース, 東京, 2017年6月2-3日.
3. 矢島知治: 杏林大学医学部付属病院 第25回指導医養成ワークショップ タスクフォース, 東京, 2017年6月2-3日.
4. 矢島知治: 第13回専門医セミナー「ドクターガストロ～臨床推論からの消化器病学～」を主催, 第346回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2017年9月30日.
5. 赤木美智男: 杏林大学医学部付属病院 第26回指導医養成ワークショップ ディレクター, 東京, 2017年10月20-21日.

6. 富田泰彦: 杏林大学医学部付属病院 第26回指導医養成ワークショップ チーフタスクフォース, 東京, 2017年10月20-21日.
7. 矢島知治: 杏林大学医学部付属病院 第26回指導医養成ワークショップ タスクフォース, 東京, 2017年10月20-21日.
8. 赤木美智男: 全国自治体病院協議会・全国国民健康保険診療施設協議会 第143回臨床研修指導医養成講習会ディレクター, 東京, 2018年1月12-14日.
9. 矢島知治: 第6回Academy of Crohn's & colitis Young Experts (ACE), 企画 および 司会, 六本木アカデミーヒルズ, 2017年11月18日.
10. 富田泰彦: 全国自治体病院協議会・全国国民健康保険診療施設協議会 第144回臨床研修指導医養成講習会チーフタスクフォース, 東京, 2018年2月16-18日.
11. 矢島知治: 第14回専門医セミナー「ドクターガストロ～臨床推論からの消化器病学～」を主催, 第348回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2018年2月17日.
12. 矢島知治: 特集「肝臓を診る」企画 および 巻頭言『本特集のねらい』. 内科119(6), 2017.
13. 矢島知治, 松本伸行, 井津井康浩: 特集「肝臓を診る」座談会『肝臓をどう診てどう教えるか?』内科119(6), 2017.

解剖学教室 (肉眼解剖学)

講 演

1. 松村譲児: 篤志解剖全国連合会会長の立場から. 第52回日本理学療法学会学術大会, 千葉, 2017年5月12-14日.
2. 長瀬美樹, 栗原秀剛, 坂井建雄: 生活習慣病に伴う腎障害～環境要因による低分子量G蛋白質Rac1活性化と形態機能連関. 環境医学研究所プロジェクト研究発表会, 東京, 2017年5月26日.
3. 長瀬美樹, 栗原秀剛, 坂井建雄: 培養ポドサイト細胞株の物理的刺激に対する応答機構の解析. 第60回日本腎臓学会学術総会, 仙台, 2017年5月26-28日.
4. 長瀬美樹: 低分子量G蛋白質と腎臓病. お茶の水がんでアカデミア第138回集会, 東京, 2017年10月18日.
5. 長瀬美樹: 腎糸球体ポドサイト傷害におけるメカニカルストレスの役割. 第40回日本高血圧学会総会, 松山, 2017年10月20-22日.
6. 長瀬美樹: アルドステン, メタボリックシンドロームと食塩感受性高血圧. 第17回日本内分泌学会北陸支部学術集会, 福井, 2017年11月3日.
7. 長瀬美樹: 腎糸球体ポドサイトのメカノバイオロジーの解明と糸球体内圧評価法の開発. 革新的先端研究開発支援事業 メカノバイオロジー機構の解明による革新的医療機器及び医療技術の創出 ソロタイプ (PRIME) 領域会議 (平成28年度採択課題), 東京, 2018年1月18-20日.
8. Nagase M, Kurihara H, Sakai T, Matsumura G: Mechanical stretch activates Rac1-dependent pathway in cultured renal glomerular podocytes. Gordon Research Conference (Angiotensin), USA, February 18th-23rd, 2018.
9. Nagase M, Kurihara H, Sakai T, Matsumura G: Effects of cyclic mechanical stretch on cultured renal glomerular podocytes. ISN Frontiers 2018, Tokyo, February 23rd-25th, 2018.
10. 灰塚嘉典, 長瀬美樹, 高篠智, 藤倉義久, 松村譲児: N-Vinyl-2-pyrrolidone注入固定遺体の関節可動域の定量

的評価. 第123回日本解剖学会総会・全国学術集会, 武蔵野, 2018年3月28-30日.

11. 高篠智, 灰塚嘉典, 北村修, 長瀬美樹, 藤倉義久, 松村譲児: N-ビニール-2ピロリドンを固定液として用いた遺体の関節可動性等についての意識調査. 第123回日本解剖学会総会・全国学術集会, 武蔵野, 2018年3月28-30日.
12. 長瀬美樹, 灰塚嘉典, 高篠智, 中村眞二, 藤倉義久, 松村譲児: ピロリドン固定解剖体の組織所見, 画像所見の解析. 第123回日本解剖学会総会・全国学術集会, 武蔵野, 2018年3月28-30日.
13. 深谷一勤, 松村譲児: 杏林大学医学部における昨今の進級動向と在学生からみた実情及び改善案. 第123回日本解剖学会総会・全国学術集会, 武蔵野, 2018年3月28-30日.
14. 松村譲児: 献体を用いた外科手術手技研修の課題: 献体団体と解剖学教室のかかわり. 第123回日本解剖学会総会・全国学術集会, 武蔵野, 2018年3月28-30日.

論文

1. 高篠智¹, 宮木孝昌^{2,3}, 氣賀澤秀明¹, 廣川達也¹, 吉田昌記¹, 王璐¹, 松村譲児, 北村修¹ (1杏林大・医・法医学, ²東京医大, ³愛知医大): 両側性過長茎状突起の肉眼的及び組織学的検索. 形態化学 20:103-116, 2017.
2. 島田和幸^{1,2}, 天野カオリ, 内藤美智子³ (1鹿児島大, ²東京医大, ³日本大): 明治期に出版された『石版刷着色解剖圖全五十八枚』について. 形態化学 20:75-79, 2017.
3. 八木沼洋行¹, 松村譲児, 藤山文乃², 中村桂一郎³, 綱塚憲生⁴, 一條裕之⁵, 瀬藤光利^{6,7}, 柴田昌宏⁸, 渡辺雅彦⁹ (1福島県立医科大, ²同志社大院, ³久留米大, ⁴北海道大院, ⁵富山大院, ⁶国立国際スマイイメーシングセンター, ⁷浜松医科大, ⁸鹿児島大院, ⁹北海道大院): 若手育成に関するアンケート調査の結果報告 (2017年3月). 日本解剖学会教育・若手育成委員会 (2015-2016). 解剖誌92: 2-8, 2017.
4. 松村譲児, 保田井智之¹, 芦谷耕平², 松本零士² (1東北芸術工科大, ²宝塚大): 省略と強調のデフォルメ. 美術解剖学雑誌 20:13-45, 2017.
5. 島田和幸^{1,2}, 天野カオリ, 内藤美智子³ (1鹿児島大, ²東京医大, ³日本大): 加門桂太郎の京都府醫学校 (明治25年~26年頃)での解剖学・局所解剖学講義録について. 形態化学 21:1-5, 2018.
6. Amano K, Mitsukawa N¹, Harada T², Aizawa S², Shimada K^{3,4} (1Chiba University Faculty of Medicine, ²Nihon University School of Medicine, ³Kagoshima University, ⁴Tokyo Medical University): Study of human Wharton's duct structure and its relationship with salivary flow. IJAE 122:185-191, 2017.
7. Haizuka Y, Nagase M (1st coauthor), Takashino S¹, Kobayashi Y², Fujikura Y³, Matsumura G (1Department of Forensic Medicine, Kyorin University School of Medicine, ²National Defense Medical College, ³Oita University): A new substitute for formalin: Application to embalming cadavers. Clin Anat 31(1):90-98, 2018. DOI: 10.1002/ca.23011.

著書

1. 松村譲児: 「なぜ?」からはじめる解剖生理学. 東京, ナツメ社, 2017.
2. 松村譲児: 病気がみえる Vol.11 運動器・整形外科. 東京, メディックメディア, 2017.
3. 松村譲児: うんこ先生と学ぶ! うんこができるまで!. 小学一年生 11月号. 東京, 小学館, 2017. p.25-37.

報告書

1. 長瀬美樹: 腎系球体ポドサイトのメカノバイオロジーの解明と糸球体内圧評価法の開発. 革新的先端研究開発支

援事業 (AMED) メカノバイオロジー機構の解明による革新的医療機器及び医療技術の創出 ソロタイプ (PRIME) 2017年度 研究報告書.

その他

1. 松村譲児: 全身にある「筋肉」のつくりと働き. 体と心保健総合大百2017, 2015年度 少額保健ニュース・心の健康ニュース収録 縮刷活用版 小学校編:37-38, 東京, 少年写真新聞社, 2017.
2. 松村譲児: 超解体新書 意外と知らない自分のカラダ【第98回副鼻腔】, Tarzan, 719: 74, 東京, マガジンハウス, 2017.
3. 松村譲児: 超解体新書 意外と知らない自分のカラダ【第99回脾臓】, Tarzan, 720: 74, 東京, マガジンハウス, 2017.
4. 松村譲児: 超解体新書 意外と知らない自分のカラダ【第101回回腸】, Tarzan, 722: 90, 東京, マガジンハウス, 2017.
5. 松村譲児: 超解体新書 意外と知らない自分のカラダ【第102回関節】, Tarzan, 723: 84, 東京, マガジンハウス, 2017.
6. 松村譲児: 超解体新書 意外と知らない自分のカラダ【第103回喉】, Tarzan, 724: 66, 東京, マガジンハウス, 2017.
7. 松村譲児: 超解体新書 意外と知らない自分のカラダ【第104回塩分】, Tarzan, 725: 82, 東京, マガジンハウス, 2017.
8. 松村譲児: 超解体新書 意外と知らない自分のカラダ【第105回喫煙】, Tarzan, 726: 78, 東京, マガジンハウス, 2017.
9. 松村譲児: 超解体新書 意外と知らない自分のカラダ【第106回ビタミン】, Tarzan, 727: 74, 東京, マガジンハウス, 2017.
10. 松村譲児: 超解体新書 意外と知らない自分のカラダ【第107回血液】, Tarzan, 728: 92, 東京, マガジンハウス, 2017.
11. 松村譲児: 超解体新書 意外と知らない自分のカラダ【第108回骨】, Tarzan, 729: 78, 東京, マガジンハウス, 2017.
12. 松村譲児: 超解体新書 意外と知らない自分のカラダ【第109回白髪】, Tarzan, 730: 76, 東京, マガジンハウス, 2017.
13. 松村譲児: 献体で手術力向上 新規導入に厚労省助成, 毎日新聞, 2017年11月27日.
14. 松村譲児: 献体で手術訓練拡大 医療事故減へ 大学助成を整備 厚労省方針, 京都新聞社, 2017年11月27日.
15. 松村譲児: 超解体新書 意外と知らない自分のカラダ【第110回尿酸】, Tarzan, 731: 80, 東京, マガジンハウス, 2017.
16. 松村譲児: 死後の「献体」希望者が年々増加中, 注目を集める理由とは, YAHOOニュース, 2017年12月11日.
17. 松村譲児: 超解体新書 意外と知らない自分のカラダ【第111回脂肪肝】, Tarzan, 732: 84, 東京, マガジンハウス, 2017.
18. 松村譲児: 超解体新書 意外と知らない自分のカラダ【第112回副腎皮質ホルモン】, Tarzan, 733: 82, 東京, マガジンハウス, 2018.
19. 松村譲児: 超解体新書 意外と知らない自分のカラダ【第113回小脳】, Tarzan, 734: 68, 東京, マガジンハウス, 2018.
20. 松村譲児: 超解体新書 意外と知らない自分のカラダ【第114回大脳】, Tarzan, 735: 90, 東京, マガジンハウス, 2018.

21. 松村譲児:超解体新書 意外と知らない自分のカラダ【第115回妊娠】, Tarzan, 736: 72, 東京, マガジンハウス, 2018.
22. 松村譲児:超解体新書 意外と知らない自分のカラダ【第116回胎盤】, Tarzan, 737: 78, 東京, マガジンハウス, 2018.

解剖学教室 (顕微解剖学)

講 演

1. 安藤良将, 慶野博, 宮東昭彦, 梅澤一夫, 岡田アナベルあやめ: エンドトキシン誘導ぶどう膜炎に対するNF- κ B阻害剤DHMEQの抗炎症効果の検討. 第121回日本眼科学会総会, 東京, 2017年4月6-9日.
2. 坂本憲一, 竹本稔, 古市泰郎, 高橋恵, 秋元義弘, 山本雅, 石川崇広, 前澤善朗, 清水孝彦, 眞鍋康子, 藤井宣晴, 横手幸太郎: 新規筋衛星細胞発現遺伝子R3hdm1は筋衛星細胞の増殖能を制御し, 骨格筋の分化再生に関わる. 第54回日本臨床分子医学会学術集会, 東京, 2017年4月14-15日.
3. Sakamoto K, Takemoto M, Furuichi Y, Takahashi M, Akimoto Y, Yamamoto M, Ishikawa T, Shimizu T, Manabe Y, Fujii N, Maezawa Y, Yokote K: R3h domain containing-like (R3hdm1) has crucial roles in skeletal muscle development and regeneration through the regulation of satellite cell proliferation. Keystone Symposia: Aging and Mechanisms of Aging-Related Disease, Yokohama, May 15th-19th, 2017.
4. 井出真太郎, 前澤善朗, Scott R, Onay T, 井出佳奈, 石川崇広, 竹本稔, 秋元義弘, Quaggin S, 横手幸太郎: 糖尿病腎症の腎線維化における転写因子Tcf21の機能解析. 第60回日本糖尿病学会年次学術集会, 名古屋, 2017年5月18-20日.
5. 井出真太郎, 前澤善朗, Scott R, Onay T, 竹本稔, 秋元義弘, Quaggin S, 横手幸太郎: 腎間質における転写因子Tcf21は間質と尿細管, 集合管との相互作用において必須である. 第60回日本腎臓学会学術総会, 仙台, 2017年5月26-28日.
6. 秋元義弘: 免疫組織細胞化学の基礎. 日本顕微鏡学会第73回学術講演会, 札幌, 2017年5月30日-6月1日.
7. 高橋昌兵, 西堀由紀野, 高木永, 秋元義弘, 宮東昭彦, 松阪泰二, 楊國昌: ポドサイト障害におけるUSP40-nestin-Hint 1複合体の機能的役割. 第52回日本小児腎臓病学会学術集会, 東京, 2017年6月1-3日.
8. Sakamoto K, Takemoto M, Furuichi Y, Takehashi M, Akimoto Y, Yamamoto M, Ishikawa T, Shimizu T, Manabe Y, Fujii N, Maezawa Y, Betsholtz C, Yokote K: R3h domain containing-like is important for skeletal muscle development and regeneration. American Diabetes Association's 77th Scientific Sessions, USA, June 9th-13th, 2017.
9. 菅原大介, 秋元義弘, 川上速人: マウス腸管におけるFuc α 1,2Gal β 1,3-フコシル化糖鎖の発現分布. 第36回日本糖質学会年会, 旭川, 2017年7月19-21日.
10. 宮東昭彦: 画像解析の基礎. 第42回組織細胞化学講習会, 前橋, 2017年8月2-3日.
11. 秋元義弘: 免疫電顕法(1)包埋前染色法. 電顕サマースクール, 東京, 2017年8月3-5日.
12. Akimoto Y, Yan K, Miura Y, Toda T, Fukutomi T, Sugahara D, Kudo A, Hart GW, Endo T, Kawakami H: Changes of localization of the O-GlcNAcylated actin accompanied with diabetic nephropathy. 24th International Symposium on Glycoconjugates, Korea, August 27th-September 1st, 2017.
13. 早川敦子, 三浦ゆり, 津元裕樹, 岩本真知子, 福井浩二, 秋元義弘, 遠藤玉夫: GKラット腎臓のプロテオーム変化と組織の線維化. 第68回日本電気泳動学会総会, 広島, 2017年11月24-25日.
14. 小川裕子, 糸田奈宝子, 秋元義弘, 川上速人, 辻本雅文, 矢ノ下良平: ヒト唾液由来エキソソームの膜構造体としての安定性の検討. 第62回日本唾液腺学会学術集会, 東京, 2017年11月25日.
15. 秋元義弘, 楊國昌, 三浦ゆり, 戸田年総, 福富俊之, 菅原大介, 宮東昭彦, Hart GW, 遠藤玉夫, 川上速人: 糖尿病性腎におけるO-GlcNAc化アクチンとO-リン酸化アクチンの局在: 免疫組織化学的解析. 日本顕微鏡学会第60回記念シンポジウム, 宮崎, 2017年12月1-2日.
16. 菅原大介, 福富俊之, 小林夕香, 秋元義弘, 川上速人: 腸管ニッチ細胞の新たな分子特性としてのフコシル化糖鎖発現. 2017年度生命科学系学会合同年次大会, 神戸, 2017年12月6-9日.
17. 小川裕子, 村上舞, 本車田悠希, 吉川侑, 市川結樹, 陰山采夏, 鈴木恵理香, 平山碧穂, 糸田奈宝子, 後藤芳邦, 辻本雅文, 秋元義弘, 川上速人, 矢ノ下良平: ヒト唾液由来エキソソームの表面に存在する分子は免疫活性化作用を制御する. 2017年度生命科学系学会合同年次大会, 神戸, 2017年12月6-9日.
18. 後藤芳邦, 小川裕子, 津元裕樹, 三浦ゆり, 中村孝博, 小川健司, 服部明, 秋元義弘, 川上速人, 遠藤玉夫, 矢ノ下良平, 辻本雅文: ERAP1結合型エキソソームによるマクロファージの古典的活性化. 2017年度生命科学系学会合同年次大会, 神戸, 2017年12月6-9日.
19. 能村卓慈, 渡部聡朗, 宮川さとみ, 竹本記章, 城本悠助, 宮東昭彦, 金井正美, 田代文, 宮崎早月, 刀谷在美, 中馬新一郎, 宮崎純一: マウスGTSF1はPIWI-piRNAがターゲットRNAを切断するために重要な因子である. 2017年度生命科学系学会合同年次大会, 神戸, 2017年12月6-9日.
20. 田中昭代, 平田美由紀, 池原譲, 秋元義弘, 中西速夫, 田中宏昌, 堀勝: プラズマ活性培養液のマウス腹腔内投与による生体影響評価. 第88回日本衛生学会学術総会, 東京, 2018年3月22-24日.
21. 小川裕子, 池本守, 村上舞, 本車田悠希, 吉川侑, 糸田奈宝子, 後藤芳邦, 辻本雅文, 秋元義弘, 川上速人, 矢ノ下良平: マクロファージ活性化に関与するヒト唾液由来エキソソーム表面分子の解析. 日本薬学会第138年会, 金沢, 2018年3月25-28日.
22. 秋元義弘, 楊國昌, 三浦ゆり, 戸田年総, 福富俊之, 菅原大介, 宮東昭彦, Hart GW, 遠藤玉夫, 川上速人: 糖尿病性腎症に伴うリン酸化アクチンの局在の変化. 第123回日本解剖学会総会・学術集会, 東京, 2018年3月28-30日.
23. 菅原大介, 小林夕香, 秋元義弘, 川上速人: マウス腸管ニッチ細胞に特徴的なフコシル化糖鎖の発現. 第123回日本解剖学会総会・全国学術集会, 武蔵野, 2018年3月28-30日.

論 文

1. Nakanishi K¹, Morikane S¹, Ichikawa S¹, Kurohane K¹, Niwa Y¹, Akimoto Y, Matsubara S², Kawakami H, Kobayashi H¹, Imai Y¹ (¹University of Shizuoka, ²Laboratory for Electron Microscopy, Kyorin University School of Medicine): Protection of human colon cells from Shiga toxin by plant-based recombinant secretory IgA. Sci Rep 7: 45843, 2017. Doi: 10.1038/srep45843.
2. Isoda K¹, Daibo T¹, Yushina K¹, Yoshioka Y², Tsutsumi Y², Akimoto Y, Kawakami H, Taira Y¹,

- Taira I¹, Yanoshita R¹, Nishimura T¹, Ishida I¹ (1Teikyo Heisei University, 2Osaka University): Hepatotoxicity, nephrotoxicity, and drug/chemical interaction toxicity of platinum nanoparticles in mice. *Pharmazie* 72: 10-16, 2017.
3. Takagi H¹, Nishibori Y¹, Katayama K², Katada T², Takahashi S¹, Kiuchi Z¹, Takahashi S⁴, Kamei H⁴, Kawakami H, Akimoto Y, Kudo A, Asanuma K⁵, Takematsu H⁵, Yan K¹ (1Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, 2Karolinska Institute, Sweden, 3Department of Pharmacology and Toxicology, Kyorin University School of Medicine, 4The University of Tokyo, 5Kyoto University): USP40 gene knockdown disrupts glomerular permeability in zebrafish. *Am J Physiol Renal Physiol* 312: F702-F715, 2017.
 4. Kataoka H¹, Ushiyama A², Akimoto Y, Matsubara S³, Kawakami H, Iijima T¹ (1Showa University, 2National Institute of Public Health, 3Laboratory for Electron Microscopy, Kyorin University School of Medicine): Structural behavior of the endothelial glycocalyx is associated with pathophysiologic status in septic mice: an integrated approach to analyzing the behavior and function of the glycocalyx using both electron and fluorescence intravital microscopy. *Anesth Analg* 125: 874-883, 2017.
 5. Ito Y¹, Katayama K², Nishibori Y¹, Akimoto Y, Kudo A, Kurayama R¹, Hada I¹, Takahashi S¹, Kimura T¹, Fukutomi T³, Katada T³, Suehiro J³, Beltcheva O⁴, Tryggvason K², Yan K¹ (1Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, 2Karolinska Institute, Sweden, 3Department of Pharmacology and Toxicology, Kyorin University School of Medicine, 4Medical University of Sofia, Bulgaria): Wolf-Hirschhorn syndrome candidate 1-like 1 epigenetically regulates nephrin gene expression. *Am J Physiol Ren Physiol* 312: F1184-F1199, 2017.
 6. Tsumoto H¹, Akimoto Y, Endo T¹, Miura Y¹ (1Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology): Quantitative analysis of O-GlcNAcylation in combination with isobaric tag labeling and chemoenzymatic enrichment. *Bioorg Med Chem Lett* 27: 5022-5026, 2017.
 7. Kumeda N¹, Ogawa Y¹, Akimoto Y, Kawakami H, Tsujimoto M¹, Yanoshita R¹ (1Teikyo Heisei University): Characterization of membrane integrity and morphological stability of human salivary exosomes. *Biol Pharm Bull* 40: 1183-1191, 2017.
 8. Nakabayashi K¹, Fukuoka K¹, Sumiishi A², Sano K¹, Nose M³, Yan K⁴, Kudo A, Matsubara S⁵, Arimura Y¹ (1Department of Internal Medicine, Kyorin University, School of Medicine, 2Department of Pathology, Kyorin University, School of Medicine, 3Ehime University, 4Department of Pediatrics, Kyorin University, School of Medicine, 5Laboratory of Electron Microscopy, Kyorin University, School of Medicine): The appearance of *in vivo* ANA positivity after a period of 17 years in a patient with Lupus nephritis who had received both methylprednisolone and cyclophosphamide pulse therapy. *J Kidney* 4: 163, 2018. Doi: 10.4172/2472-1220.1000163.
 9. Shiojiri N¹, Kametani H¹, Ota N¹, Akai Y¹, Fukuchi T¹, Abo T¹, Tanaka S², Sekiguchi J³, Matsubara S³, Kawakami H (1Shizuoka University, 2Tokai University, 3Laboratory for Electron Microscopy, Kyorin University School of Medicine): Phylogenetic analyses of the hepatic architecture in vertebrates. *J Anat* 232: 200-213, 2018.
- 著書**
1. Zachara N, Akimoto Y, Hart GW: The O-GlcNAc Modification. *Essentials of Glycobiology*. 3rd ed. Varki A, Cummings RD, Esko JD, Stanley P, Hart GW, Aebi M, Darvill A, Kinoshita T, Packer NH, Prestegard JJ, Schnaar RL, Seeberger PH, eds. USA, Cold Spring Harbor Laboratory Press, 2017. Chapter 19.
 2. 宮東昭彦, 川上速人 (分担): 画像解析の基礎. 組織細胞化学2017. 日本組織細胞化学会編集. 東京, 学際企画, 2017, p.127-138.
- 統合生理学教室**
- 講演**
1. Nakajima T, Suzuki S, Irie S, Ariyasu R, Sasada S, Komiyama T, Ohki Y: Plasticity of cervical inhibitory systems reduces movement discontinuities of finger extension. 第40回日本神経科学大会, 千葉, 2017年7月20-23日.
 2. 渋谷賢, 畠中智志, 座間拓郎, 嶋田総太郎, 大木紫: 身体化した偽の手の行為観察は運動システムを活性化する. 第40回日本神経科学学会, 千葉, 2017年7月20-23日.
 3. 中島剛: 歩行運動の最新基礎知見から応用まで 歩行のヒト脊髄神経機構. 25回日本運動生理学会, 横浜, 2017年7月29-30日.
 4. 小西一斉, 中島剛, 佐野秀仁, 五十嵐一峰, 大森雅夫, 諸井威彦, 高橋雅人, 鈴木伸弥, 入江駿, 有安諒平, 大木紫, 市村正一: 錐体路と末梢神経の連合刺激によるヒト間接的皮質-脊髄路興奮の長期増強・刺激頻度の違いによる検討. 第32回日本整形外科学会基礎学術集会, 宜野湾, 2017年10月26-27日.
 5. 大木紫: 身体意識とそのマーカー—特に身体保持感に着目して—. 東北大学肢体不自由学メジャーセミナー, 仙台, 2017年10月26日.
 6. Unenaka S, Shibuya S, Zama T, Shimada S, Ohki Y: Movement back projection during observation of an illusory embodied hand: Evidence by EEG mu-rhythm. Society for Neuroscience, USA, November 11th-15th, 2017.
 7. 大木紫: ヒト脊髄内の代替神経機構を強化する運動機能の回復戦略. 第47回日本臨床神経生理学会学術大会サテライトシンポジウム第28回磁気刺激法の臨床応用と安全性に関する研究会「神経機能回復の基礎と臨床」, 横浜, 2017年11月29日.
 8. 渋谷賢, 畠中智志, 座間拓郎, 嶋田総太郎, 大木紫: 身体化した他者の手の行為観察は運動システムを活性化する. 第36回日本基礎心理学会, 大阪, 2017年12月1-3日.
 9. 八木淳一, 小林靖: C線維は一体何を伝えているのか?: 記録と解析の諸問題について. 平成29年度生理研研究会「痛みを中心とする有害状況適応の神経戦略バイオロジー」, 岡崎, 2017年12月14-15日.
 10. 中島剛: 脊髄障害後の歩行機能再建に向けた神経リハビリテーション戦略. 順天堂大学リハビリテーションセミナー, 東京, 2018年1月13日.
 11. 中島剛, 小宮山伴与志, 大木紫: ヒト脊髄内の代替神経機構を強化する運動機能の回復戦略. 慈恵医大生理学セミナー, 東京, 2018年2月2日.
 12. 畠中智志, 渋谷賢, 座間拓郎, 嶋田総太郎, 大木紫: 身体化した他者の手の運動観察に伴うμ波抑制: 遅延視覚フィードバックの影響. 第6回身体性システム領域全体,

霧島, 2018年3月1-3日.

13. 中島剛: 脊髄障害後の歩行機能再建戦略. BiNI Perspective Conference 2018, 東京, 2018年3月3日.

論文

1. Suzuki S, Nakajima T, Irie S, Ariyasu R, Komiyama T¹, Ohki Y (¹Chiba University): Vestibular stimulation-induced facilitation of cervical premotoneuronal systems in humans. PLOS ONE 12: e0175131, 2017.
2. Shibuya S, Unenaka S, Zama T¹, Shimada S¹, Ohki Y (¹Meiji University): Spontaneous imitative movements induced by an illusory embodied fake hand. Neuropsychologia 111: 77-84, 2018. DOI: 10.1016/j.neuropsychologia.2018.
3. 中島剛, 小宮山伴与志¹, 大木紫(¹千葉大学): 運動機能再建を目指すヒト間接的皮質-脊髄路の機能とその賦活化. 日本運動生理学雑誌 25: 9-16, 2018.

細胞生理学教室

講演

1. Kofuji T, Hayashi Y, Fujiwara T, Tamaru M, Akagawa K: Five cases of autism spectrum disorder with syntaxin1A gene haploid. 14th Asian and Oceanian Congress of Child Neurology, Fukuoka, May 11th-14th, 2017.
2. Yoshiike T, Honma M, Kuriyama K: Bright light enhances precocious expression of motor skill consolidation while optimizing speed-accuracy trade-off in humans. 13th World Congress of Biological Psychiatry, Denmark, June 18th-22nd, 2017.
3. 三嶋竜弥, 藤原智徳, 小藤剛史, 寺尾安生, 赤川公朗: シンタキシン1B遺伝子欠損マウスの行動・神経機能の表現型解析: シンタキシン1Bの熱性けいれんへの関与. 第40回日本神経科学大会, 千葉, 2017年7月20-23日.
4. Suga K, Nishino M, Terao Y, Akagawa K: Effect of ER stress modulator on ER-Golgi SNARE expression and Ab peptide secretion in NG108-15 cell. 第60回日本神経化学会大会, 仙台, 2017年9月7-9日.
5. 小藤剛史, 藤原智徳, 三嶋竜弥, 赤川公朗: Seizure phenotype in syntaxin1B gene ablated mice was associated with GABAergic system. 第60回日本神経化学会, 仙台, 2017年9月7-9日.
6. Terao Y, Tokushige S-I: "Tapping out" the pace of internal clock and rhythm generation in neurological patients. The second international symposium on the science of mental time, Nara, September 13th, 2017.
7. Honma M, Masaoka Y, Kuroda T, Futamura A, Shiromaru A, Terao Y, Kawamura M: Inability to modify duration production in Parkinson's disease. The 2nd International Symposium on the Science of Mental Time, Nara, September 12th-13th, 2017.
8. Terao Y, Fukuda H, Tokushige S, Inomata-Terada S, Hamada M, Ugawa Y: Oculomotor task repetition reveals differential short-term modulation of saccade performance in neurological disorders. XXIII World Congress of Neurology, Kyoto, September 16th-21st, 2017.
9. Tokushige S, Matsuda S, Oyama G, Shimo Y, Umemura A, Sekimoto S, Sasaki T, Inomata-Terada S, Yugeta A, Hamada M, Ugawa Y, Hattori N, Tsuji S, Terao Y: How deep brain stimulation affects saccades in visual scanning in Parkinson's disease patients. XXIII World Congress of Neurology, Kyoto, September 16th-21st, 2017.
10. Inomata-Terada S, Tokushige S, Matsuda S, Yugeta A, Hamada M, Ugawa Y, Tsuji S, Terao Y: Saccadic eye movements in hereditary spinocerebellar degeneration - horizontal and vertical saccades. XXIII World Congress of Neurology, Kyoto, September 16th-21st, 2017.
11. Matsukawa M, Ishiura H, Ichikawa Y, Higashihara M, Sakiyama Y, Otsuka M, Ueki A, Kaida K, Tanaka M, Takahashi Y, Mitsui J, Matsukawa T, Hanajima R, Hayashi T, Terao Y, Inomata-Terada S, Hamada M, Shirota Y, Kubota A, Tsuji S: Genetic anticipation and clinical features of 32 patients with benign adult myoclonic epilepsy (BAFME). XXIII World Congress of Neurology, Kyoto, September 18th, 2017.
12. Hoshino K, Kimura K, Hayashi M, Nagao Y, Hachimori K, Terao Y, Kawahata I, Shintaku H, Ichinose H: Gene analysis of Segawa disease at the neurological clinic for children. XXIII World Congress of Neurology, Kyoto, September 19th, 2017.
13. Matsumoto H, Ritsuko H, Terao Y, Hashida H, Ugawa Y: Cauda equina conduction time in Guillain-Barré syndrome and chronic inflammatory demyelinating polyradiculoneuropathy. XXIII World Congress of Neurology, Kyoto, September 20th, 2017.
14. Sakurai Y, Uchiyama Y, Terao Y: On-reading predominance over kun-reading in progressive gogi (word-meaning) aphasia; characteristics of Kanji reading in the Japanese semantic dementia patients. XXIII World Congress of Neurology, Kyoto, September 20th, 2017.
15. Honma M, Masaoka Y, Kuroda T, Futamura A, Shiromaru A, Izumizaki M, Kawamura M: Impairment of cross-modality of vision and olfaction in Parkinson's disease. XXIII World Congress of Neurology, September 16th-21st, 2017.
16. Futamura A, Kuroda T, Shiromaru A, Honma M, Masaoka Y, Midorikawa A, Yamamoto S, Kitazawa S, Kawamura M, Ono K: The disconnecting syndromes and temporal order judgment. XXIII World Congress of Neurology, September 16th-21st, 2017.
17. 本間元康: 身体感覚の基盤となる多感覚統合の学習過程. 日本心理学会第81回大会, 久留米, 2017年9月20-22日.
18. Yotsumoto Y, Okajima M, Futamura A, Honma M, Kawamura M: Roles of cortical and sub-cortical pathways on time perception: a case study with agenesis of the corpus callosum. 1st Conference of the Timing Research Forum, France, October 23rd-25th, 2017.
19. Fujiwara T, Kofuji T, Mishima T, Terao Y, Akagawa K: HPC-1/syntaxin1A regulates reciprocal feedforward interactions between DA and OXT systems, which, in turn, affect social behavior. Neuroscience 2017, USA, November 11th-15th, 2017.
20. Mishima T, Fujiwara T, Kofuji T, Terao Y, Akagawa K: A study on the behavioral and neuronal phenotype of syntaxin 1B gene-ablated mice: Involvement of syntaxin 1B in the fever-associated epilepsy syndromes. Neuroscience 2017, USA, November 11th-15th, 2017.
21. Kofuji T, Fujiwara T, Mishima T, Sanada M, Hayashi Y, Tamaru M, Terao Y, Akagawa K: Disturbance of HPC-1/syntaxin1A gene expression and variation of its gene number are highly associated with autism

- spectrum disorder. *Neuroscience* 2017, USA, November 11th-15th, 2017.
22. Matsukawa M, Ishiura H, Ichikawa Y, Higashihara M, Sakiyama Y, Otsuka M, Ueki A, Kaida K, Tanaka M, Takahashi Y, Mitsui J, Matsukawa T, Hanajima R, Hayashi T, Terao Y, Inomata-Terada S, Hamada M, Yuichiro S, Kubota A, Tsuji S : Genetic anticipation of 32 patients with benign adult familial myoclonic epilepsy (BAFME). 日本人類遺伝学会第62回大会/日本人類遺伝学会第62回大会, 神戸, 2017年11月15-18日.
 23. 寺尾安生: 視線解析法による神経疾患患者の病態解明. 第47回日本臨床神経生理学会学術大会, 横浜, 2017年11月30日.
 24. 徳重真一, 松田俊一, 他田正義, 矢部一郎, 武田篤, 田中洋康, 畠中めぐみ, 榎本博之, 小林俊輔, 清水和敬, 清水崇宏, 花島律子, 辻省次, 宇川義一, 寺尾安生: 脊髄小脳変性症の病型ごとの時間的統合能力. 第47回日本臨床神経生理学会学術大会, 横浜, 2017年11月30日.
 25. 寺田さとみ, 徳重真一, 松田俊一, 弓削田晃弘, 濱田雅, 宇川義一, 寺尾安生: 脊髄小脳変性症における眼球運動一臨床症状との対応. 第47回日本臨床神経生理学会学術大会, 横浜, 2017年11月30日.
 26. 中山高宏, 福富俊之, 藤原智徳, 寺尾安生, 赤川公朗: P300/CBP is a neuron-specific positive regulator of the syntaxin 1A gene expression: participation to unusual behavioral profile. : P300/CBPはsyntaxin 1A遺伝子の神経特異的発現誘導に関わるエピゲノム因子である: 異常行動への関与. 2017年度生命科学系学会合同年次大会 (ConBio2017), 神戸, 2017年12月6-9日.
 27. 宇川義一, 寺田さとみ, 徳重真一, 松田俊一, 濱田雅, 寺尾安生: 眼球運動を用いた小脳症状のバイオマーカーの確立. 運動失調症の分子病態解明・治療法開発に関する研究班 班会議, 東京, 2018年1月12-13日.
 28. 寺尾安生, 徳重真一: 同期タッピング課題と時間的統合. こころの時間学領域会議, 宜野湾, 2018年1月29-30日.
 29. 藤原智徳, 小藤剛史, 三嶋竜弥, 寺尾安生, 赤川公朗: HPC-1/syntaxin 1A欠損マウスにおける社会行動障害の解析. 第95回日本生理学会大会, 高松, 2018年3月28日.
 30. 三嶋竜弥, 藤原智徳, 小藤剛史, 寺尾安生, 赤川公朗: シンタキシン1Bの熱性けいれんへの関与. 第95回日本生理学会大会, 高松, 2018年3月28-30日.
- ## 論文
1. Sasaki T¹, Tokushige S¹, Togashi N¹, Inomata-Terada S, Terao Y, Ugawa Y², Hamada M¹ (¹The University of Tokyo, ²Fukushima Medical University) : Effect of subthreshold paired associative stimulation during voluntary contraction on motor learning. *Brain stimulation* 8(2): 352-353, 2017.
 2. Tokushige S¹, Terao Y, Matsuda S¹, Oyama G², Shimo Y², Umemura J², Sekimoto S², Sasaki T¹, Inomata-Terada S, Yugeta A¹, Hamada M¹, Ugawa Y³, Hattori N², Tsuji S¹ (¹The University of Tokyo, ²Juntendo University, ³Fukushima Medical University) : The effect of deep brain stimulation on visual scanning of Parkinson's disease patients. *Brain Stimulation* 10(2):375, 2017.
 3. Hanajima R^{1,2,3}, Tanaka N², Tsutsumi R^{2,1}, Enomoto H⁴, Abe M⁴, Nakamura K⁴, Kobayashi S⁴, Hamada M², Shimizu T^{2,1}, Terao Y, Ugawa Y⁴ (¹Kitasato University School of Medicine, ²The University of Tokyo, ³Tottori University, ⁴Fukushima Medical University) : The effect of age on the homotopic motor cortical long-term potentiation-like effect induced by quadripulse stimulation. *Exp Brain Res* 235(7):2103-2108, 2017. doi: 10.1007/s00221-017-4953-0.
 4. Terao Y, Fukuda H¹, Hikosaka O² (¹Neurological Clinic for Children, ²National Eye Institute) : What do eye movements tell us about patients with neurological disorders? -An introduction to saccade recording in the clinical setting. *Proceedings of the Japan Academy, Series B* 93(10):772-801, 2017. doi: 10.2183/pjab.93.049.
 5. Honma M, Murai Y¹, Shima S¹, Yotsumoto Y¹, Kuroda T², Futamura A², Shiromaru A², Murakami I¹, Kawamura M² (¹The University of Tokyo, ²Showa University School of Medicine) : Spatial distortion related to time compression during spatiotemporal production in Parkinson's disease. *Neuropsychologia* 102: 61-69, 2017.
 6. Okajima M¹, Futamura A², Honma M, Kawamura M², Yotsumoto Y¹ (¹The University of Tokyo, ²Showa University School of Medicine) : Interhemispheric cortical connections and time perception: a case study with agenesis of the corpus callosum. *Brain and Cogn* 117: 12-16, 2017.
 7. 二村明徳¹, 四郎丸あずさ¹, 黒田岳志¹, 本間元康, 金野竜太¹, 小野賢二郎¹, 河村満^{1,2} (¹昭和大学, ²奥沢病院) : 時刻表の行動: 時間, 行動, 認知機能. *Brain and Nerve* 69: 639-649, 2017.
 8. Nakayama T, Akagawa K : The transcription regulation mechanism of the syntaxin 1A gene via protein kinase A. *Biochemical J* 474 (14):2465-2473, 2017.
 9. Inomata-Terada S, Tokushige S¹, Matsuda S¹, Yugeta A¹, Hamada M¹, Ugawa Y², Terao Y (¹The University of Tokyo, ²Fukushima Medical University) : Saccadic eye movements in Spinocerebellar Degeneration - study of saccades in eight directions. *Clin Neurophysiol* 128(9):e176, 2017.
 10. Terao Y, Fukuda H¹, Sugiyama Y², Inomata-Terada S, Tokushige S-I³, Hamada M², Ugawa Y⁴ (¹Segawa Memorial Neurological Clinic for Children, ²University of Tokyo, ³Department of Neurology, Kyorin University, ⁴Fukushima Medical University) : Recording horizontal saccade performances accurately in neurological patients using electro-oculogram. *J Vis Exp* (133): e56934, 2018. doi: 10.3791/56934.
 11. Kurihara M¹, Ishiura H¹, Sasaki T¹, Otsuka J¹, Hayashi T¹, Terao Y, Matsukawa T¹, Mitsui J¹, Kaneko J², Nishiyama K², Doi K¹, Yoshimura J¹, Morishita S¹, Shimizu J¹, Tsuji S¹ (¹University of Tokyo, ²Kitasato University School of Medicine) : Novel de Novo KCND3 mutation in a Japanese patient with intellectual disability, cerebellar ataxia, myoclonus, and dystonia. *Cerebellum* 17(2):237-242, 2018. doi: 10.1007/s12311-017-0883-4.
 12. Matsumoto H¹, Hanajima R², Terao Y, Hamada M³, Shirota Y³, Yugeta A³, Nakatani-Enomoto S⁴, Hashida H⁵, Ugawa Y⁴ (¹Japanese Red Cross Medical Center; The University of Tokyo, ²Tottori University, ³The University of Tokyo, ⁴Fukushima Medical University, ⁵Japanese Red Cross Medical Center) : A significant correlation between cauda equina conduction time and cerebrospinal fluid protein in chronic inflammatory demyelinating polyradiculoneuropathy. *J Neurol Sci* 384:7-9, 2018. doi: 10.1016/j.jns.2017.11.006.

13. Sasaki T¹, Kodama S¹, Togashi N¹, Shiota Y¹, Sugiyama Y¹, Tokushige S^{1,2}, Inomata-Terada S, Terao Y, Ugawa Y³, Hamada M¹(¹The University of Tokyo, ²Department of Neurology, Kyorin University School of Medicine, ³Fukushima Medical University) : The intensity of continuous theta burst stimulation, but not the waveform used to elicit motor evoked potentials, influences its outcome in the human motor cortex. *Brain Stimul.* 11(2):400-410, 2018. doi: 10.1016/j.brs.2017.12.003.
14. Ishiura H¹, Doi K², Mitsui J¹, Yoshimura J², Matsukawa MK¹, Fujiyama A³, Toyoshima Y⁴, Kakita A⁴, Takahashi H⁴, Suzuki Y², Sugano S², Qu W², Ichikawa K², Yurino H⁵, Higasa K⁶, Shibata S¹, Mitsue A¹, Tanaka M¹, Ichikawa Y⁷, Takahashi Y⁸, Date H¹, Matsukawa T¹, Kanda J¹, Nakamoto FK¹, Higashihara M⁹, Abe K¹⁰, Koike R¹¹, Sasagawa M¹², Kuroha Y¹¹, Hasegawa N¹¹, Kanesawa N¹³, Kondo T⁶, Hitomi T⁶, Tada M⁴, Takano H¹⁴, Saito Y¹⁵, Sanpei K¹⁶, Onodera O⁴, Nishizawa M¹⁷, Nakamura M¹⁸, Yasuda T¹⁹, Sakiyama Y²⁰, Otsuka M²¹, Ueki A²², Kaida KI²³, Shimizu J¹, Hanajima R²⁴, Hayashi T¹, Terao Y, Inomata-Terada S, Hamada M¹, Shiota Y¹, Kubota A¹, Ugawa Y²⁵, Koh K²⁶, Takiyama Y²⁶, Ohsawa-Yoshida N², Ishiura S^{2,27}, Yamasaki R²⁸, Tamaoka A²⁹, Akiyama H³⁰, Otsuki T³¹, Sano A¹⁸, Ikeda A⁶, Goto J³², Morishita S², Tsuji S^{1,21}(¹The University of Tokyo Hospital, ²The University of Tokyo, ³National Institute of Genetics, ⁴Niigata University, ⁵Kanazawa University, ⁶Kyoto University, ⁷Department of Neurology, Kyorin University, ⁸National Center of Neurology and Psychiatry, ⁹Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, ¹⁰Okayama University, ¹¹Nishi-Niigata Chuo National Hospital, ¹²Toyosato Hospital, ¹³National Hospital Organization Takasaki General Medical Center, ¹⁴Tachikawa General Hospital, ¹⁵Sannocho Hospital, ¹⁶Sado General Hospital, ¹⁷Niigata Medical Center, ¹⁸Kagoshima University, ¹⁹Kurashikiken Hospital, ²⁰Jichi Medical University, ²¹International University of Health and Welfare, ²²Teikyo University School of Medicine, ²³National Defense Medical College, ²⁴Kitasato University, ²⁵Fukushima Medical University, ²⁶University of Yamanashi, ²⁷Doshisha University, ²⁸Kyushu University, ²⁹University of Tsukuba, ³⁰Hiratsuka Hospital, ³¹Epilepsy Hospital Bethel Japan, ³²International University of Health and Welfare Mita Hospital) : Expansions of intronic TTTCA and TTTTA repeats in benign adult familial myoclonic epilepsy. *Nat Genet* 50(4):581-590, 2018. doi: 10.1038/s41588-018-0067-2.
15. Mitsutake A¹, Matsukawa T¹, Ishiura H¹, Mitsui J¹, Taira K¹, Tokushige S¹, Iwata A¹, Terao Y, Shimizu J¹, Sakai N², Tsuji S¹ (¹The University of Tokyo, ²Osaka University) : A case of late-onset Krabbe disease which showed subacute progression of spastic paresis with bilateral spinal cord lesions. *Neurology and Clinical Neuroscience* 2018. doi: 10.1111/ncn3.12188
16. Honma M, Masaoka Y¹, Kuroda T¹, Futamura A¹, Shiromaru A¹, Izumizaki M¹, Kawamura M¹(¹Showa University School of Medicine) : Impairment of cross-modality of vision and olfaction in Parkinson's disease. *Neurology* 90: e977-e984, 2018.
17. Honma M, Yoshiike T^{1,2}, Ikeda H^{1,3}, Kuriyama K^{1,2}(¹National Institute of Mental Health, ²Shiga University of Medical Science, ³National Institute of

Occupational Safety and Health) : COMT genotype is associated with plasticity in sense of body ownership: a pilot study. *Psychological Research* 82: 634-644, 2018.

18. Futamura A¹, Honma M, Shiromaru A¹, Kuroda T¹, Masaoka Y¹, Midorikawa A², Miller MW³, Kawamura M¹, Ono K¹(¹Showa University School of Medicine, ²Chuo University, ³The University of Tokyo) : The singular case of the driving instructor: temporal and topographical disorientation. *Neurol Clin Neurosci* 6: 16-18, 2018.

著書

1. 寺尾安生: 眼電図(EOG). 臨床神経生理検査入門. 宇川義一編集. 東京, 中山書店, 2017. pp.224-237.

報告書

1. 宇川義一, 寺田さとみ, 徳重真一, 松田俊一, 濱田雅, 寺尾安生: 眼運動を用いた小脳症状のバイオマーカーの確立. 運動失調症の分子病態解明・治療法開発に関する研究班, 班会議, 報告書.
2. 寺尾安生: 先進的な無線システムに関するワーキンググループ. 先進的な無線システムに関する電場防護について. 総務省, 生体電磁環境に関する検討会, 報告書. 2018年2月.

生化学教室(1)

講演

1. 山本隆史, 飯塚陽子, 藤田敏郎, 後藤田貴也: キヌレン酸代謝系が糖代謝制御に及ぼす影響. 第54回日本臨床分子医学会学術集会, 東京, 2017年4月14-15日
2. 山本隆史, 飯塚陽子, 藤田敏郎, 後藤田貴也: キヌレン酸代謝系が糖代謝制御に及ぼす影響. 第60回日本糖尿病学会年次学術集会, 名古屋, 2017年5月18-20日.
3. 山本隆史, 飯塚陽子, 藤田敏郎, 後藤田貴也: メタボリックシンドローム関連遺伝子 KAT-1 (kynurenine aminotransferase-1) の糖代謝に及ぼす影響. 第49回日本動脈硬化学会総会・学術集会, 広島, 2017年7月6-7日.
4. 後藤田貴也: コレステロール治療における合成および吸収経路阻害の重要性. 脂質異常症フォーラム, さいたま, 2017年11月28日.

論文

1. 後藤田貴也: EBMに基づいた最近の脂質治療の動向. *ブラクティス* 34(3):278-280, 2017.

生化学教室(2)

講演

シンポジウム

1. Aoyagi K, Itakura M, Nakamichi Y, Nishiwaki C, Torii S, Nagamatsu S, Ohara-imaizumi M: VAMP7 regulates autophagy to maintain mitochondrial homeostasis and to control insulin secretion in pancreatic β -cells. 第60回日本糖尿病学会年次学術集会, 名古屋, 2017年5月18-20日
2. Ohara-imaizumi M, Hida Y, Yoshida M, Aoyagi K, Ohkura M, Sakimura K, Nakai J, Kakei M, Nagamatsu S, Ohtsuka T: Role of active zone protein ELKS in insulin secretion from pancreatic β -cells. 第11回Diabetes Leading-edge Conference, 大津, 2017年8月8-9日.

国内会議

1. 青柳共太, 西脇知世乃, 中道洋子, 福富俊之, 鳥居征司, 牧山智彦, 櫻井裕之, 板倉誠, 今泉美佳: 膵 β 細胞にお

けるVAMP7によるオートファゴソーム形成の制御機構. 第90回日本生化学会大会, 神戸, 2017年12月6-9日.

2. 今泉美佳: 研究者人生における様々な選択肢. ConBio2017(第90回日本生化学会大会, 第40回日本分子生物学会年会合同大会)(2017年度生命科学系学会合同年次大会), 神戸, 2017年12月6-9日.

論文

1. Krishnankutty A¹, Kimura T¹, Saito T¹, Aoyagi K, Asada A¹, Takahashi SI², Ando K¹, Ohara-Imaizumi M, Ishiguro K³, Hisanaga SI¹(¹Tokyo Metropolitan University, ²The University of Tokyo, ³Juntendo University): In vivo regulation of glycogen synthase kinase 3 β activity in neurons and brains. Scientific Reports 7(1): 8602, 2017.

薬理学教室

講演

1. 堅田智久, 櫻井裕之: アミノ酸トランスポーターLAT1は脊索及び眼の発生に必須である. 第137回日本薬理学会関東部会, 東京, 2017年10月28日.
2. 江藤晃一朗, 山賀貴, 櫻井裕之: LAT1阻害薬はアポトーシスによらずに癌細胞増殖を抑制する. 第137回日本薬理学会関東部会, 東京, 2017年10月28日.

論文

1. Homareda H¹, Otsu M¹, Yamamoto S¹, Ushimaru M¹, Ito S², Fukutomi T, Jo T³, Eishi Y⁴, Hara Y⁴ (¹Department of Chemistry, Kyorin University School of Medicine, ²Tokyo University of Technology, ³University of Michigan, ⁴Tokyo Medical and Dental University Graduate School): A possible mechanism for low affinity of silkworm Na⁺/K⁺-ATPase for K. J Bioenerg Biomembr 49:463-472, 2017.
2. Yonezawa H¹, Osaki T¹, Fukutomi T, Hanawa T¹, Kurata S¹, Zaman C¹, Hojo F², Kamiya S¹ (¹Department of Infectious Diseases, Kyorin University School of Medicine, ²Institute of Laboratory Animals, Graduate School of Medicine, Kyorin University): Diversification of the AlpB Outer Membrane Protein of Helicobacter pylori Affects Biofilm Formation and Cellular Adhesion. J Bacteriol 199(6), 2017. DOI:10.1128/JB.00729-16.
3. Niikura M¹, Inoue SI¹, Fukutomi T, Yamagishi J², Asahi H¹, Kobayashi F¹ (¹Department of Infectious Diseases, Kyorin University School of Medicine, ²Hokkaido University): Comparative genomics and proteomic analyses between lethal and nonlethal strains of Plasmodium berghei. Exp Parasitol 185:1-9, 2018.

著書

1. Tanaka G (分担執筆), Kawaguchi Y, Kuwata K, Takeuchi T, Nakase I, Futaki S: Photoaffinity Labeling Methods to Explore Internalization Mechanisms of Arginine-Rich Cell-Penetrating Peptides. Photoaffinity Labeling for Structural Probing Within Protein. Yasumaru Hatanaka, Makoto Hashimoto, (eds). Tokyo, Springer Japan, 2017. p.225-240.

病理学教室

講演

1. 大熊康介, 皿谷健, 宮岡智花, 和田翔子, 小川ゆかり, 田村仁樹, 高田佐織, 渡辺雅人, 横山琢磨, 倉井大輔,

藤原正親, 石井晴之, 滝澤始: 当院におけるIgG4関連疾患の臨床像及び画像的検討. 第57回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2017年4月21-23日.

2. 千葉知宏, 藤原正親, 下山田博明, 住石歩, 近藤凡子, 佐藤徹, 菅間博: 杏林大学における肺高血圧症剖検例の解析. 第106回日本病理学会総会, 東京, 2017年4月27-29日.
3. 橋本浩次, 倉田厚, 藤原正親, 原啓, 名城珠希, 増田芳雄, 鈴木良夫, 菅間博, 黒田雅彦, 堀内啓: Solitary pulmonary capillary hemangiomaの臨床病理学的特徴. 第106回日本病理学会総会, 東京, 2017年4月27-29日.
4. 藤原正親, 岡部直太, 大森嘉彦, 大窪泰弘, 千葉知宏, 下山田博明, 吉野浩, 尾崎峰, 柴原純二, 菅間博: 小児の静脈奇形における組織球集簇を伴う器質化血栓. 第106回日本病理学会総会, 東京, 2017年4月27-29日.
5. 柴原純二: 混合型肝癌・細胆管細胞癌に関わる諸問題と新たな知見比較. 第106回日本病理学会総会, 東京, 2017年4月27-29日.
6. 三角健人, 林玲匡, 國土典弘, 柴原純二, 深山正久: 肝内胆管癌におけるBAP1およびPBRM1の発現消失. 第106回日本病理学会総会, 東京, 2017年4月27-29日.
7. 吉池信哉, 岡部直太, 千葉知宏, 井本滋, 柴原純二, 菅間博: 乳癌におけるタイプ10アデニル酸シクラーゼ発現の検討. 第106回日本病理学会総会, 東京, 2017年4月27-29日.
8. 北村浩, 藤原正親, 古瀬純司: Innovative Therapeutic Endoscopy 下部消化管の腫瘍性病変 拡大肛門鏡検査を用いたHPV関連肛門管上皮内腫瘍に対する診断・治療. 第93回日本消化器内視鏡学会総会, 大阪, 2017年5月11-13日.
9. 千葉知宏, 山田健, 島田大輔, 小林啓一, 齊藤邦昭, 藤原正親, 塩川芳昭, 永根基雄, 柴原純二: 右側頭葉悪性末梢神経鞘腫瘍の一例. 第35回日本脳腫瘍病理学会, 宇都宮, 2017年5月19-20日.
10. 齊藤邦昭, 鈴木香, 清水早紀, 小林啓一, 島田大輔, 川井田善太郎, 千葉知宏, 柴原純二, 塩川芳昭, 永根基雄: テモゾロミド治療前後の悪性神経膠腫分子機構の統合的解析と再発のメカニズムの検討. 第35回日本脳腫瘍病理学会学術集会, 宇都宮, 2017年5月19-20日.
11. 小池司, 武笠晃武, 高柳俊作, 田中将太, 牛久哲男, 吉川学史, 堤一生, 柴原純二, 齊藤延人: 膠芽腫に近接して異なる遺伝子異常プロファイルを有する乏突起神経膠腫様の腫瘍が併存した一例. 第35回日本脳腫瘍病理学会学術集会, 宇都宮, 2017年5月19-20日.
12. 菅間博: 甲状腺腫瘍の組織診断変更と細胞診. 第58回日本臨床細胞学会総会, 大阪, 2017年5月26-28日.
13. 田中良太, 坂本憲彦, 鈴木瞳, 橋啓盛, 中里陽子, 武井秀史, 藤原正親, 柴原純二, 菅間博, 近藤晴彦: 知って得する呼吸器疾患の細胞診と画像診断 肺癌の細胞診と画像診断 細胞形態と画像所見との対比. 第58回日本臨床細胞学会総会, 大阪, 2017年5月26-28日.
14. 田中良太, 坂本憲彦, 鈴木瞳, 中里陽子, 橋啓盛, 武井秀史, 大塚弘毅, 岸本浩次, 藤原正親, 柴原純二, 菅間博, 近藤晴彦: 肺癌診療領域におけるLBCを用いた遺伝子プロファイリング. 第58回日本臨床細胞学会春期大会, 大阪, 2017年5月26-28日.
15. 三浦隼, 田中良太, 三ツ間智也, 橋啓盛, 武井秀史, 藤原正親, 菅間博, 近藤晴彦: 4D-CTが診断に有効であったsolitary fibrous tumorの1例. 第174回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 新潟, 2017年6月3日.
16. 仲長奈央子, 小池健太郎, 山中修一郎, 松本啓, 清水昭博, 坪井伸夫, 宮崎陽一, 川村哲也, 小倉誠, 横尾隆, 長濱清隆: 糸球体内への著明なfoam cell浸潤ならびに内皮障害を認めた家族性III型高脂血症の一例. 第89回東

京腎生検カンファランス，東京，2017年7月4日。

17. 渋谷幸見，田中良太，三ツ間智也，橘啓盛，中里陽子，武井秀史，近藤晴彦，藤原正親，菅間博：急性肺炎で発見された肺癌術後肺転移の1例。第182回日本肺癌学会関東支部学術集会，東京，2017年7月7日。
18. 渡邊俊介，土岐真朗，小栗典明，野坂岳志，吉田翼，深澤友里，太田博崇，落合一成，権藤興一，倉田勇，蓮江智彦，中村健二，山口康晴，藤原正親，望月眞，菅間博，柴原純二，高橋信一，森秀明，久松理一：肺癌の肺転移による肺炎に対して内視鏡的経鼻肺管ドレナージが有用であった1例。第48回日本肺臓学会大会，京都，2017年7月14-15日。
19. 菅間博：小児甲状腺癌から解る甲状腺癌のPathogenesis. 第72回東海小児がん研究会，名古屋，2017年9月9日。
20. 菅間博：小児甲状腺癌から解る甲状腺癌のPathogenesis. 獨協医大セミナー，壬生町，2017年9月11日。
21. 松本祐磨，横井秀格，川田往嗣，永藤裕，山中英敬，池田哲也，大森嘉彦，柴原純二，高山信之，齋藤康一郎：当科における鼻副鼻腔悪性リンパ腫の検討。第56回日本鼻科学会総会・学術講演会，甲府，2017年9月28-30日。
22. 石井順，木村徹，山本浩之，千葉知宏，有益優，平野浩一，矢澤卓也，菅間博：SLC26A7が甲状腺の新たなヨード輸送体である可能性について。第60回日本甲状腺学会，別府，2017年10月5-7日。
23. 山本浩之，石井順，澤文，千葉知宏，菅間博：甲状腺癌の増殖シグナルにおけるアデニル酸シクラーゼの作用。第50回甲状腺外科学会，福島，2017年10月26-27日。
24. 菅間博：小児甲状腺癌から解る甲状腺癌のPathogenesis. 第21回日本臨床内分泌病理学会，東京，2017年10月27-28日。
25. 有益優，廣川達也，山本浩之，千葉知宏，藤原正親，菅間博：甲状腺癌細胞株におけるTERTプロモーター領域の点突然変異とrSNP。第21回日本臨床内分泌病理学会，東京，2017年10月27-28日。
26. 廣川達也，有益優，山本浩之，千葉知宏，藤原正親，矢澤卓也，北村修，菅間博：甲状腺乳頭癌におけるTERTプロモーター領域の点突然変異とrSNPの検討。第21回日本臨床内分泌病理学会，東京，2017年10月27-28日。
27. 七条裕孝，近藤琢磨，津村哲郎，嶋崎枝里，澤井梓，鶴久大介，竹脇史絵，永瀬惟，石本麻衣，近藤健，小沼裕寿，炭谷由計，保坂利男，笹野公伸，菅間博，石田均：短期間に眼底所見の増悪を認めたサイトカイン産生性褐色細胞腫合併糖尿病の1例。第32回日本糖尿病合併症学会，東京，2017年10月27-29日。
28. 柳智貴，大谷恵，小出高彰，西山早乃，桂川史子，七松東，安藝昇太，青柳誠，田中啓之，長濱清隆：緩徐な経過を辿った抗糸球体基底膜（GBM）抗体型糸球体腎炎の1例。第47回日本腎臓学会東部学術大会，横浜，2017年10月28-29日。
29. 桂川史子，西山早乃，小出高彰，大谷恵，柳智貴，七松東，安藝昇太，青柳誠，田中啓之，長濱清隆：ネフローゼ症候群を呈し腎生検を施行した妊娠16週の1例。第47回日本腎臓学会東部学術大会，横浜，2017年10月28-29日。
30. 金久恵理子，中野雄太，大橋敦希，山室めぐみ，山口若葉，熊谷二郎，長濱清隆，藤澤一：ステロイドとシクロスポリンにより透析を離脱したTAFRO症候群の1例。第47回日本腎臓学会東部学術大会，横浜，2017年10月28-29日。
31. 山室めぐみ，中野雄太，大橋敦希，金久恵理子，山口若葉，熊谷二郎，長濱清隆，藤澤一：ANCA関連血管炎に続発するTMAを発症し，免疫抑制剤と血漿交換療法にて透析を離脱した1例。第47回日本腎臓学会東部学術大会，横浜，2017年10月28-29日。
32. 源馬拓，大石真理子，平井俊行，西田秀範，藤井徹郎，長濱清隆：高齢女性に発症したTINU症候群に対し経口ステロイド投与で加療した1例。第47回日本腎臓学会東部学術大会，横浜，2017年10月28-29日。
33. 浅野史男，大熊康介，小林史，井上真奈美，皿谷健，倉井大輔，横山琢磨，石井晴之，藤原正親，滝澤始：自己免疫性溶血性貧血を合併した器質性肺炎の1例。第637回日本内科学会関東地方会，東京，2017年11月11日。
34. 薦盛直子，岸野智則，森井健司，山崎聡子，大塚弘毅，青柳貴之，宮脇晴子，岡部直太，関口久美子，高城靖志，柴原純二，大西宏明，渡邊卓：脂肪肉腫の組織型と超音波画像の対比。第64回日本臨床検査医学会学術集会，京都，2017年11月16-19日。
35. 田中良太，坂本憲彦，鈴木瞳，中里陽子，橘啓盛，武井秀史，大塚弘毅，岸本浩次，藤原正親，柴原純二，菅間博，近藤晴彦：肺癌診療領域におけるLBCを用いた遺伝子プロファイリング。第56回日本臨床細胞学会秋期大会，福岡，2017年11月18-19日。
36. 稲嶺圭祐，岸本浩次，坂本憲彦，水谷奈津子，市川美雄，鈴木瞳，菅野大輝，古川由香，船田さやか，長濱清隆，藤原正親，西ヶ谷順子，百村麻衣，小林陽一，柴原純二：Papillary immature metaplasia/immature condylomaの一例。第56回日本臨床細胞学会秋期大会，福岡，2017年11月18-19日。
37. 岸本浩次，坂本憲彦，水谷奈津子，市川美雄，鈴木瞳，稲嶺圭祐，菅野大輝，古川由香，近藤凡子，住石歩，大森嘉彦，柴原純二：反応性病変と鑑別を要するT細胞性リンパ腫について。第56回日本臨床細胞学会秋期大会，福岡，2017年11月18-19日。
38. 渋谷英里子，百村麻衣，長内清代乃，西ヶ谷順子，松本浩範，小林陽一，岩下光利，坂本憲彦，岸本浩次，下山田博明，柴原純二：外陰部基底細胞癌の一例。第56回日本臨床細胞学会秋期大会，福岡，2017年11月18-19日。
39. 小倉航，大塚弘毅，藤原正親，田中良太，横山琢磨，高城靖志，大西宏明，渡邊卓：非小細胞肺癌症例における全ゲノム増幅を用いたEGFR遺伝子変異検査の有用性の検討。第64回日本臨床検査医学会学術集会，京都，2017年11月16-19日。
40. 麻生喜祥，正木忠彦，小嶋幸一郎，吉敷智和，橋本佳和，鈴木裕，松岡弘芳，阿部展次，森俊幸，杉山正則，下山田博明，菅間博，柴原純二：腸結核が疑われたが，術後病理検査にて子宮内膜症が原因と判明した直腸狭窄の1例。第79回日本臨床外科学会総会，東京，2017年11月23-25日。
41. 羽二生静，佐藤俊輔，高橋雅人，佐野秀仁，小西一斉，長谷川雅一，千葉知宏，柴原純二，市村正一：胸椎くも膜囊腫術後に小脳出血・頭蓋内硬膜下血腫を来した1例。第58回関東整形災害外科学会，東京，2018年3月16-17日。

論文

1. Lee J¹, Shishido-Hara Y², Suzuki K¹, Shimizu S¹, Kobayashi K¹, Kamma H, Shiokawa Y¹, Nagane M¹ (¹Department of Neurosurgery Kyorin University, ²Tokyo Medical University): Prognostic factors for primary central nervous system lymphomas treated with high-dose methotrexate-based chemoradiotherapy. Jpn J Clin Oncol. 47(10): 925-934, 2017. DOI: 10.1093/jjco/hyx098.
2. Yamamoto H¹, Ishii J², Chiba T, Nakazato Y³, Hirano K³, Kamma H (¹The University of Tokyo, ²Dokkyo Medical University, ³Department of General Thoracic Surgery, Kyorin University): Sporadic minute medullary thyroid carcinoma with a double RET mutation: A case report. Pathol Int. 67(11):580-584, 2017. DOI: 10.1111/pin.12588.

3. Sawa A¹, Chiba T, Ishii J, Yamamoto H³, Hara H², Kamma H (¹University of Tsukuba Hospital, ²University of Tsukuba, ³The University of Tokyo): Effects of sorafenib and an adenylyl cyclase activator on in vitro growth of well-differentiated thyroid cancer cells. *Endocr J.* 64(11): 1115-1123, 2017. DOI: 10.1507/endocrj.EJ16-0525.
4. Kigasawa H¹, Fujiwara M, Ishii J, Chiba T, Terado Y, Shimoyamada H, Mochizuki M, Kitamura O¹, Kamma H, Ohkura Y (¹Department of Forensic Medicine, Kyorin University): Altered expression of cytokeratin 7 and CD117 in transitional mucosa adjacent to human colorectal cancer. *Oncol Lett.* 14(1):119-126, 2017. DOI: 10.3892/ol.2017.6156.
5. Watanabe T¹, Furuse J², Okano N², Suzuki Y¹, Kamma H, Sugiyama M¹ (¹Department of Surgery, Kyorin University ²Department of Medical Oncology, Kyorin University): A pathological complete response after combined chemotherapy of gemcitabine and S-1 in advanced biliary tract cancer with para-aortic lymph nodes metastasis: a case report. *Surg Case Rep.* 3(1):26, 2017. DOI: 10.1186/s40792-017-0303-5.
6. Tanaka R¹, Sakamoto N, Suzuki H, Tachibana K¹, Takei H¹, Kishimoto K, Fujiwara M, Kamma H, Shibahara J, Kondo H¹ (¹Department of Surgery, Kyorin University): The Cytomorphological Characteristics of Non-small Cell Lung Cancer are Associated with Its Radiological Features. *J Cytol Histol.* 8(5):482, 2017. DOI: 10.4172/2157-7099.1000482.
7. Hisamatsu T¹, Ohno A¹, Chiba T (¹Third Department of Internal Medicine, Kyorin University): Linked color imaging identified ulcerative colitis-associated colorectal cancer: A case report. *Dig Endosc.* 30(2):267, 2018. DOI: 10.1111/den.12992.
8. Gamou S¹, Kataoka M², Aimi Y³, Chiba T, Momose Y³, Isoe S², Hirayama T^{2,3}, Yoshino H³, Fukuda K², Satoh T³ (¹Kyorin University Center for Comprehensive Regional Collaboration, ²Keio University, ³Division of Cardiology, Second Department of Internal Medicine, Kyorin University): Genetics in pulmonary arterial hypertension in a large homogeneous Japanese population. *Clin Genet.* 2017. DOI: 10.1111/cge.13154.
9. Matsuki R¹, Sugiyama M¹, Takei H², Kondo H², Fujiwara M, Shibahara J, Furuse J³ (¹Department of Surgery, Kyorin University, ²Department of General Thoracic Surgery, Kyorin University, ³Department of Medical Oncology Kyorin University.): Long-term survival with repeat resection for lung oligometastasis from pancreatic ductal adenocarcinoma: a case report. *Surg Case Rep* 4(1):26-30, 2018. DOI:10.1186/s40792-018-0435-2.
10. Wada H¹, Hayashida M², Sato T², Minowa S², Ikezaki O², Mitsui T², Miura M², Ohmori Y³, Saito D², Sakuraba A², Kamiichi H³, Tokunaga K², Mochizuki M, Shibahara J, Mori H², Hisamatsu T² (¹General Education Center, Kyorin University, ²Third Department of Internal Medicine, Kyorin University, ³National Disaster Medical Center): A Caucasian American patient with celiac disease diagnosed in Japan and successfully treated with a gluten-free diet. *Clin J Gastroenterol* 11(1):23-28, 2018. DOI: 10.1007/s12328-017-0794-4.
11. Nomura M¹, Mukasa A¹, Nagae G¹, Yamamoto S¹, Tatsuno K¹, Ueda H¹, Fukuda S¹, Umeda T¹, Suzuki T², Otani R³, Kobayashi K⁴, Maruyama T⁵, Tanaka S¹, Takayanagi S¹, Nejo T¹, Takahashi S¹, Ichimura K⁶, Nakamura T⁷, Muragaki Y⁵, Narita Y⁶, Nagane M⁴, Ueki K³, Nishikawa R², Shibahara J, Aburatani H¹, Saito N¹ (¹The University of Tokyo, ²Saitama Medical University, ³Dokkyo Medical University, ⁴Department of Neurosurgery, Kyorin University, ⁵Tokyo Women's Medical University, ⁶National Cancer Center Research Institute, ⁷Yokohama City University): Distinct molecular profile of diffuse cerebellar gliomas. *Acta Neuropathol* 134(6):941-956, 2017. DOI: 10.1007/s00401-017-1771-1.
12. Matsuki R¹, Okuda K¹, Mitani A¹, Yamauchi Y¹, Tanaka G¹, Kume H¹, Homma Y¹, Hinata M¹, Hayashi A¹, Shibahara J, Fukayama M¹, Nagase T¹ (¹The University of Tokyo Hospital): A case of delayed exacerbation of interstitial lung disease after discontinuation of temsirolimus. *Respir Med Case Rep* 22:158-163, 2017. DOI: 10.1016/j.rmcr.2017.08.008.
13. Miyata Y¹, Ishizawa T¹, Kamiya M¹, Yamashita S¹, Hasegawa K¹, Ushiku A¹, Shibahara J, Fukayama M¹, Urano Y¹, Kokudo N¹ (¹The University of Tokyo): Intraoperative imaging of hepatic cancers using γ -glutamyltranspeptidase-specific fluorophore enabling real-time identification and estimation of recurrence. *Sci Rep* 7(1):3542, 2017. DOI: 10.1038/s41598-017-03760-3.
14. Sakamoto Y¹, Kokudo N², Watadani T¹, Shibahara J, Yamamoto M³, Yamaue H⁴, Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery (¹The University of Tokyo, ²National Center for Global Health and Medicine, ³Tokyo Women's Medical University, ⁴Wakayama Medical University): Proposal of size-based surgical indication criteria for liver hemangioma based on a nationwide survey in Japan. *J Hepatobiliary Pancreat Sci* 24(7):417-425, 2017. DOI: 10.1002/jhbp.464.
15. Tani K¹, Shindoh J¹, Takamoto T¹, Shibahara J, Nishioka Y², Hashimoto T², Sakamoto Y¹, Hasegawa K¹, Makuuchi M², Kokudo N¹ (¹The University of Tokyo, ²Japanese Red Cross Medical Center): Kinetic Changes in Liver Parenchyma After Preoperative Chemotherapy for Patients with Colorectal Liver Metastases. *J Gastrointest Surg* 21(5):813-821, 2017. DOI: 10.1007/s11605-017-3359-4.
16. Ogawa Y¹, Saraya T¹, Fujiwara M, Takizawa H¹ (¹Department of Respiratory Medicine, Kyorin University School of Medicine): Massive Neurosarcoidosis. *Intern Med.* 56:2537-2538, 2017. DOI: 10.2169/internalmedicine.8217-16.
17. Saraya T¹, Ohkuma K¹, Fujiwara M, Miyaoka C¹, Wada S¹, Watanabe T¹, Mikura S¹, Inoue M¹, Oda M¹, Sada M¹, Ogawa Y¹, Honda K¹, Tamura M¹, Yokoyama T¹, Kurai D¹, Ishii H¹, Takizawa H¹ (¹Department of Respiratory Medicine, Kyorin University School of Medicine): Clinical characterization of 52 patients with immunoglobulin G4-related disease in a single tertiary center in Japan: Special reference to lung disease in thoracic high-resolution computed tomography. *Respir Med.* 132:62-67, 2017. DOI: 10.1016/j.rmed.2017.09.006.
18. Morikubo H¹, Saito D¹, Miura M¹, Sato T¹, Minowa S¹, Ikezaki O¹, Mitsui T¹, Sakuraba A¹, Hayashida M¹, Fujiwara M, Tokunaga K¹, Shibahara J, Mori H¹,

Masaki T², Kawai S³, Hisamatsu T¹ (¹Third Department of Internal Medicine, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Surgery, Kyorin University School of Medicine, ³Department of Infectious Diseases, Kyorin University School of Medicine): A Case of an HIV-infected Patient with Confirmed Overlapping Complications of Severe Amebic Colitis and CMV Enteritis. Intern Med. 2018. DOI: 10.2169/internalmedicine.0112-17.

19. Kobayashi F¹, Saraya T¹, Ohkuma K¹, Fujiwara M, Takizawa H¹ (¹Department of Respiratory Medicine, Kyorin University School of Medicine): Rapid diffuse pleural thickening due to metastatic meningioma. Respirol Case Rep. 6:e00313, 2018. doi: 10.1002/rcr2.313.
20. Matsuki R¹, Sugiyama M¹, Takei H², Kondo H², Fujiwara M, Shibahara J, Furuse J³ (¹Department of Surgery, Kyorin University School of Medicine, ²Department of General Thoracic Surgery, Kyorin University School of Medicine, ³Department of Medical Oncology, Kyorin University School of Medicine): Long-term survival with repeat resection for lung oligometastasis from pancreatic ductal adenocarcinoma: a case report. Surg Case Rep. 4:26, 2018. doi: 10.1186/s40792-018-0435-2.
21. Fukunaga M¹, Nagahama K, Aoki M², Shimizu A², Hara S³, Matsunaga A⁴, Muso E⁵, Saito T⁶ (¹Toyonaka Keijinkai Clinic, ²Nippon Medical School, ³Kobe University, ⁴Fukuoka University Hospital, ⁵Kitano Hospital, ⁶Sanko Clinic): Membranous Nephropathy-Like Apolipoprotein E Deposition Disease with Apolipoprotein E Toyonaka (Ser197Cys) and a Homozygous Apolipoprotein E2/2. Case Rep Nephrol Dial. 8(1):45-55, 2018. DOI: 10.1159/000487919.
22. Kishimoto D¹, Kirino Y¹, Tamura M¹, Takeno M², Kunishita Y¹, Takase-Minegishi K¹, Nakano H¹, Kato I¹, Nagahama K, Yoshimi R¹, Igarashi K³, Aoki I¹, Nakajima H¹ (¹Yokohama City University, ²Nippon Medical School, ³Tohoku University): Dysregulated heme oxygenase-1low M2-like macrophages augment lupus nephritis via Bach1 induced by type I interferons. Arthritis Res Ther. 20(1):64-74, 2018. DOI: 10.1186/s13075-018-1568-1.
23. 渋谷幸見¹, 河内利賢¹, 武井秀史¹, 藤原正親, 菅間博, 近藤晴彦¹ (杏林大・医・呼吸器・甲状腺外科学): 肺原発リンパ上皮腫様癌と鑑別を要した非角化型扁平上皮癌の1例. 肺癌 57:118-123, 2017.
24. 岡部直太, 菅間博: 予後不良な高分化癌 (乳頭癌, 濾胞癌)とは?. 日内分泌・甲状腺外会誌 34(2):93-96, 2017. DOI: 10.11226/jaesjsts.34.2_Ann02_1.
25. 渋谷幸見¹, 河内利賢¹, 武井秀史¹, 藤原正親, 菅間博, 近藤晴彦¹ (杏林大・医・外科): 肺原発リンパ上皮腫様癌と鑑別を要した非角化型扁平上皮癌の1例. 肺癌 57(2):118-123, 2017.
26. 宍戸由紀子¹, 佐藤範英², 桑原彩子², 高山信之², 菅間博¹ (東京医大・医・病理学, ²杏林大・医・内科): CPC 解説(第96回) 非血縁者間同種骨髄移植後64日目に死亡した鼻型NK/T細胞リンパ腫の1剖検例. 病理と臨床 35(7):667-675, 2017.
27. 中西郁¹, 河野浩之¹, 天野達雄¹, 大森嘉彦, 菅間博, 平野照之¹ (杏林大・医・脳卒中): 回収した血栓により診断した感染性心内膜炎の1例. 臨床神経学 58(1):35-40, 2018.

その他

1. 菅間博: 小児甲状腺癌とは. 全国保険医新聞第2720号

2017年6月.

感染症学教室 (微生物学)

講演

1. 花輪智子, 米澤英雄, 大崎敬子, 神谷茂: 百日咳菌の栄養飢餓応答のマクロファージ内生残性への影響. 第91回日本感染症学会総会・学術集会, 東京, 2017年4月6-8日.
2. 蔵田訓, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 田口晴彦, 神谷茂: *In vitro*における *Mycoplasma pneumoniae* 抗原感作とTh2免疫応答. 第91回日本感染症学会総会・学術集会, 東京, 2017年4月6-8日.
3. 大崎敬子, 奥田真珠美, 米澤英雄, 蔵田訓, 花輪智子, 神谷茂: 腸肝系 *Helicobacter* 属細菌感染と膵臓癌および胆道癌との関連について. 第91回日本感染症学会総会・学術集会, 東京, 2017年4月6-8日.
4. 米澤英雄, 大崎敬子, 花輪智子, 蔵田訓, 神谷茂: *Helicobacter pylori* 外膜タンパク質 AlpB の多様性が及ぼす構造変化とバイオフィーム形成. 第91回日本感染症学会総会・学術集会, 東京, 2017年4月6-8日.
5. Kamiya S: Clinical significance of urease-positive bacterial infections. The 25th Korean College of *Helicobacter* and Upper Gastrointestinal Research Annual Scientific Meeting, Korea, April 7th-8th, 2017.
6. Kamiya S, Osaki T, Tokunaga K, Yonezawa H, Tanaka A, Zaman C, Hojo F, Takahashi S: Metagenomic analysis for microbial ecology between *Helicobacter pylori* and gastric microbiota in the chronic gastritis patients. The 14th Japan-Korean Joint Symposium on *Helicobacter* Research, Korea, April 8th, 2017.
7. 神谷茂: 腸内フローラと健康. 杏林大学公開講演会, 三鷹, 2017年5月20日.
8. 神谷茂: 無菌マウスを用いた感染病態の研究. 札幌医大実験動物施設講演会, 札幌, 2017年5月31日.
9. Kamiya S: *Clostridium (Clostridioides) difficile* – Microbiology and Pathogenesis. The Joint Congress of the 19th International Symposium on Gnotobiology, the 50th Congress of Japanese Association of Germfree Life and Gnotobiology and the 39th Congress of the Society for Microbial Ecology and Disease, Tokyo, June 7th-10th, 2017.
10. Hanawa T, Yonezawa H, Hojo F, Osaki T, Kurata S, Kamiya S: Impact of (p)ppGpp on the stress tolerance, the biofilm formation and the production of virulence factors in *Bordetella pertussis*. The Joint Congress of the 19th International Symposium on Gnotobiology, the 50th Congress of Japanese Association of Germfree Life and Gnotobiology and the 39th Congress of the Society for Microbial Ecology and Disease, Tokyo, June 7th-10th, 2017.
11. Kurata S, Osaki T, Yonezawa H, Hanawa T, Taguchi H, Kamiya S: Enhanced effect of *Mycoplasma pneumoniae* antigens on asthmatic cytokine responses by murine splenocyte. The Joint Congress of the 19th International Symposium on Gnotobiology, the 50th Congress of Japanese Association of Germfree Life and Gnotobiology and the 39th Congress of the Society for Microbial Ecology and Disease, Tokyo, June 7th-10th, 2017.
12. Osaki T, Tokunaga K, Yonezawa H, Tanaka A, Motomichi T, Oka K, Zaman C, Hojo F, Kurata S,

- Hanawa T, Taguchi H, Kamiya S: The impact of *Helicobacter pylori* infection on gastric microbiota. The Joint Congress of the 19th International Symposium on Gnotobiology, the 50th Congress of Japanese Association of Germfree Life and Gnotobiology and the 39th Congress of the Society for Microbial Ecology and Disease, Tokyo, June 7th-10th, 2017.
13. Yonezawa H, Osaki T, Hanawa T, Kurata S, Zaman C, Hojo F, Kamiya S: Diversification of AlpA and AlpB outer membrane proteins of *Helicobacter pylori* affects biofilm formation. The Joint Congress of the 19th International Symposium on Gnotobiology, the 50th Congress of Japanese Association of Germfree Life and Gnotobiology and the 39th Congress of the Society for Microbial Ecology and Disease, Tokyo, June 7th-10th, 2017.
 14. 大崎敬子, 林櫻松, 米澤英雄, 北条史, 奥田真珠美, 福田能啓, 菊地正悟, 神谷茂: 胆道癌および膵臓癌患者における胆汁からの*Helicobacter*属細菌の検出と血清抗体価の測定. 第23回日本ヘリコバクター学会学術集会, 函館, 2017年6月30日-7月1日.
 15. 米澤英雄, 大崎敬子, Zaman C, 北条史, 神谷茂: *Helicobacter pylori* 外膜タンパク質AlpAおよびその多様性領域が及ぼすバイオフィーム形成能への影響. 第23回日本ヘリコバクター学会学術集会, 函館, 2017年6月30日-7月1日.
 16. 米澤英雄, 大崎敬子, 花輪智子, 蔵田訓, 神谷茂: *Helicobacter pylori* 外膜タンパク質AlpAの直接的および間接的に及ぼすバイオフィーム形成への影響. 第31回日本バイオフィーム学会学術集会, つくば, 2017年7月7-8日.
 17. Kamiya S, Yonezawa H, Hojo F, Osaki T, Hanawa T: Involvement of stringent response in oxidative stress response and biofilm formation in *Helicobacter pylori* infection. XXXth International Workshop on *Helicobacter* & Microbiota in Inflammation & Cancer, France, September 7th-9th, 2017.
 18. Osaki T, Yonezawa H, Takahashi M, Nozaki E, Zaman C, Hojo F, Kamiya S: 16S metagenomic analysis for gastric microbiota of Mongolian gerbil infected with *Helicobacter pylori*. XXXth International Workshop on *Helicobacter* & Microbiota in Inflammation & Cancer, France, September 7th-9th, 2017.
 19. Yonezawa H, Osaki T, Hojo F, Kamiya S: AlpA, an outer membrane protein of *Helicobacter pylori* is involved directly and indirectly in biofilm formation. XXXth International Workshop on *Helicobacter* & Microbiota in Inflammation & Cancer, France, September 7th-9th, 2017.
 20. 神谷茂: ヘリコバクター・ピロリ感染症～病原性と伝播様式. 第100回日本細菌学会関東支部総会, 東京, 2017年9月28-29日.
 21. Kamiya S: *Helicobacter pylori* and microbiota. "Microbiota of the humans and the animals" Institute for Experimental Medicine conference 2017, Russia, October 2nd-3rd, 2017.
 22. Kamiya S: *Helicobacter pylori* and gastric indigenous microbiota. ISTC (International Science and Technology Center) Conference, Armenia, October 23rd-24th, 2017.
 23. 神谷茂: 腸内フローラ研究の医学へのインパクト. 第16回日本更年期と加齢のヘルスケア学会学術集会, 東京, 2017年10月28-29日.
 24. 花輪智子, 荒木光二, 大西宏明, 神谷茂, 松田剛明: 2015-2016年に当院で分離されたMRSAの遺伝型および性状解析. 第66回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第64回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会, 東京, 2017年10月31日-11月2日.
 25. 蔵田訓, 神谷茂: サイトカイン産生からの考察. 第66回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第64回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会, 東京, 2017年10月31日-11月2日.
 26. 大崎敬子, 米澤英雄, 蔵田訓, 花輪智子, 神谷茂: 膵臓癌および胆道癌患者の腸管系*Helicobacter* 属細菌および抗体の保有状況. 第66回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第64回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会, 東京, 2017年10月31日-11月2日.
 27. 米澤英雄, 大崎敬子, 花輪智子, 蔵田訓, 神谷茂: *Helicobacter pylori* はバイオフィーム形成により抗菌薬抵抗性を亢進する. 第66回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第64回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会, 東京, 2017年10月31日-11月2日.
 28. 神谷茂: ヒト疾患の腸内細菌モデル～ヒト疾患を対象とした実験動物での腸内細菌研究. 平成29年度(公社)日本実験動物学会維持会員懇談会, 東京, 2017年11月16日.
 29. Kamiya S, Yonezawa H, Hojo F, Osaki T, Hanawa T: Involvement of stringent response in oxidative stress response and biofilm formation in *Helicobacter pylori* infection. The 30th International Congress of Chemotherapy and Infection, Taipei, November 24th-27th, 2017.
 30. 神谷茂: 腸内フローラ研究の医学へのインパクト. 第4回静岡プロバイオティクス学術セミナー, 浜松, 2017年12月8日.
 31. 神谷茂: 無菌マウスを用いた医学微生物学研究. 第51回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会, 大阪, 2018年1月26-27日.
 32. 大崎敬子, 神谷茂: *Helicobacter pylori* 感染胃炎とマイクrobiオーム. 第51回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会, 大阪, 2018年1月26-27日.
 33. 神谷茂: プロバイオティクスの医学への応用. 山口小児消化器学術講演会, 山口, 2018年2月8日.
 34. 神谷茂: プロバイオティクスの医学への応用. 第29回日本臨床微生物学会学術講演会, 岐阜, 2018年2月8-10日.
 35. 神谷茂: 腸内細菌と感染症. 第28回東京小児科医会セミナー, 東京, 2018年3月11日.
 36. 宮岡千尋, 花輪智子, 青山隆夫, 川上速人, 神谷茂: ピロリ菌における緊縮応答の役割. 日本薬学会第138年会, 金沢, 2018年3月25-28日.
 37. 花輪智子, 蒲地一成, 米澤英雄, 蔵田訓, 北条史, 大崎敬子, 神谷茂: バイオフィーム中で発現する百日咳菌病原因子の定着における役割. 第91回日本細菌学会総会, 福岡, 2018年3月27-29日.
 38. 蔵田訓, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 田口晴彦, 神谷茂: マウスを用いた*Mycoplasma pneumoniae*菌体抗原感作によるTh2ケモカイン産生誘導についての検討. 第91回日本細菌学会総会, 福岡, 2018年3月27-29日.
 39. 大崎敬子, 北条史, 米澤英雄, 高橋志達, 岡健太郎, 花輪智子, 蔵田訓, 神谷茂: Gastro intestinal microbiota of Mongolian gerbil infected with *Helicobacter pylori*. 第91回日本細菌学会総会, 福岡, 2018年3月27-29日.
 40. 米澤英雄, 大崎敬子, 花輪智子, 蔵田訓, 北条史, 神谷茂: *Helicobacter pylori* global regulator CsrAのバイオフィーム形成におよぼす影響. 第91回日本細菌学会総会, 福岡, 2018年3月27-29日.

論文

1. Senpuku H¹, Yonezawa H, Yoneda S^{1,2}, Suzuki I^{1,3}, Nagasawa R^{1,4}, Narisawa N^{1,3} (¹National Institute of Infectious Diseases, ²Kagawa University, ³Nihon University, ⁴Hosei University): SMU.940 regulates dextran-dependent aggregation and biofilm formation in *Streptococcus mutans*. Mol Oral Microbiol. 33(1): 47-58, 2017.
2. Kato S¹, Osaki T, Kamiya S, Zhang XS², Blaser MJ² (¹Tohoku University, ²New York University): *Helicobacter pylori* *sabA* gene is associated with iron deficiency anemia in childhood and adolescence. PLoS One 12(8):e0184046, 2017. DOI: 10.1371/journal.pone.0184046.
3. Osaki T, Mabe K^{1,2}, Zaman C, Yonezawa H, Okuda M³, Amagai K⁴, Fujieda S⁴, Goto M⁴, Shibata W⁵, Kato M^{1,2}, Kamiya S (¹National Hospital Organization Hakodate Hospital, ²Hokkaido University Hospital, ³Hyogo College of Medicine, ⁴Ibaraki Prefectural Central Hospital, ⁵Yokohama City University): Usefulness of detection of clarithromycin-resistant *Helicobacter pylori* from fecal specimens for young adults treated with eradication therapy. Helicobacter 22(5), 2017. DOI: 10.1111/hel.12396. (Epub).
4. Okubo T¹, Osaki T, Nozaki E², Uemura A¹, Sakai K¹, Matsushita M¹, Matsuo J¹, Nakamura S³, Kamiya S, Yamaguchi H¹ (¹Hokkaido University, ²Department of Infectious Diseases, Kyorin University School of Medicine, ³Juntendo University): Walker's occupancy has an impact on changing airborne bacterial communities in an underground pedestrian space, as small-dust particles increased with raising both temperature and humidity. PLoS One 12(9):e0184980, 2017. DOI: 10.1371/journal.pone.0184980.
5. Takahashi M¹, McCartney E², Knox A³, Francesch M⁴, Oka K¹, Yuge K¹, Ideno M¹, Uno K¹, Kozlowski K⁵, Jankowski J⁵, Gracia M⁶, Morales J⁷, Kritas S⁸, Esteve-Garcia E⁴, Kamiya S (¹Miyarisan Pharmaceutical Co., Ltd., ²Pen & Tec Consulting S.L.U., ³Roslin Nutrition Ltd., ⁴Animal Nutrition, IRTA Centre Mas Bover, ⁵Olsztyn University, ⁶Imasde Agroalimentaria S.L., ⁷PigCHAMP Pro Europa S.L., ⁸Aristotle University): Effect of the butyric acid-producing strain *Clostridium butyricum* MIYAIRI588 on broiler and piglet zootechnical performance and prevention of necrotic enteritis. Animal Sci J, 2018. DOI: 10.1111/asj.13006.
6. Osaki T, Zaman C, Yonezawa H, Lin Y¹, Okuda M^{1,2}, Nozaki E³, Hojo F⁴, Kurata S, Hanawa T, Kikuchi S¹, Kamiya S (¹Aichi Medical University, ²Hyogo College of Medicine, ³Core Laboratory for Proteomics and Genomics, Kyorin University School of Medicine, ⁴Graduate School of Medicine, Institute of Laboratory Animals, Kyorin University): Influence of Intestinal Indigenous Microbiota on Intrafamilial Infection by *Helicobacter pylori* in Japan. Front Immunol, 2018. DOI: 10.3389/fimmu.2018.00287.
7. 神谷茂：腸内細菌叢(Microbiota)研究の現状と展望。小児科臨床 70(5):599-605, 2017.
8. 神谷茂：腸内マイクロバイオームの変化と宿主免疫。感染症 47(3):25-32, 2017.
9. 高橋志達¹, 田口晴彦², 神谷茂 (¹ミヤリサン製薬株式会社, ²杏林大・保・免疫学)： *Clostridium difficile* 感染症(CDI)と腸内細菌叢～プロバイオティクスの作用～。臨床腸内微生物学会誌 19(1):31-34, 2017.
10. 神谷茂：マイクロバイオーーム研究の進歩。Helicobacter Research 21(3):210-216, 2017.
11. 米澤英雄：口腔細菌叢と *Helicobacter pylori* 感染。Helicobacter research 21(3):230-234, 2017.
12. 大崎敬子：腸内細菌叢と *Helicobacter pylori* 感染。Helicobacter research 21(3):246-250, 2017.
13. 神谷茂：総論：ライフスタイルと腸内マイクロビオータ：その形成から役割，加齢，疾患まで。Progress in Medicine 37(6):645-650, 2017.
14. 神谷茂：抗菌薬関連下痢症に対するプロバイオティクスと抗菌薬感受性。薬局 68(11):3422-3428, 2017.
15. 神谷茂：TOPICS①プロバイオティクスの効果と作用機序。Medical Technology 45(10):1062-1065, 2017.
16. 神谷茂：薬剤耐性菌の現況～オーバービュー。セフィロー 26:1-6, 2017.
17. Zaman C, 大崎敬子, 米澤英雄, 北条史, 蔵田訓, 花輪智子, 神谷茂：家族由来 *Helicobacter pylori* 菌株の遺伝子型別とスナネズミ感染性の比較。無菌生物 47(1): 43-44, 2017.
18. 大崎敬子, 徳永健吾¹, 米澤英雄, 高橋志達², 岡健太郎², Zaman C, 北条史³, 蔵田訓, 花輪智子, 田口晴彦⁴, 神谷茂 (¹杏林大・医・総合医療学, ²ミヤリサン製薬株式会社, ³杏林大・医・実験動物施設, ⁴杏林大・保・免疫学)： *Helicobacter pylori* 感染者における胃内細菌叢。無菌生物 47(1):77-78, 2017.
19. 神谷茂：腸内細菌叢研究の歴史。医学のあゆみ 264(1):5-11, 2018.
20. 神谷茂, 大崎敬子：尿素呼吸試験(UBT)陽性反応を起こす *Helicobacter pylori* 以外の細菌。日本ヘリコバクター学会誌 19(2):117-122, 2018.
21. 神谷茂：無菌生物とノートバイオロジー。化学療法の領域 34(3):36-44, 2018.
22. 神谷茂：腸内フローラ研究の医学へのインパクト。更年期と加齢のヘルスケア 17:1-8, 2018.
23. 神谷茂：抗菌薬と腸内マイクロビオータ。日小医会報 55:14-19, 2018.
24. 大崎敬子, 神谷茂：腸内マイクロビオータの形成と影響する因子～より良い腸内細菌叢の形成はコントロールできるのか。生物の科学 遺伝 72(2):118-123, 2018.

著書

1. 神谷茂(分担執筆)：総論I.A.微生物の分類。感染症専門医テキスト 第I部解説編(改訂第2版)。日本感染症学会編集。東京，南江堂，2017。p.3-19.
2. 神谷茂(分担執筆)：6-3.細菌感染症(13)ヘリコバクター・ピロリ(*Helicobacter pylori*)感染症。内科学(第11版)。矢崎義雄総編集。東京，朝倉書店，2017。p.273-276.
3. 米澤英雄(分担執筆)：*Helicobacter pylori* が形成するバイオフィルムの構造。バイオフィルム制御に向けた構造と形成過程—特徴・問題点・事例・有効利用から読み解くアプローチ。松村吉信監修。東京，シーエムシー出版，2017。p.35-45.
4. 米澤英雄(分担執筆)：第4章第13節 食と胃内微生物～胃の中に棲む微生物。食と微生物の事典。北本勝ひこ，春田伸，丸山潤一，後藤慶一，尾花望，齋藤勝晴編集。東京，朝倉書店，2017。p.344-345.

その他

1. 神谷茂, 北条史：ドライクリーニング用液体洗剤の抗菌活性機序の形態学的解析。平成28年度クリーニングと公衆衛生に関する研究報告書(クリーニングと公衆衛生に関する研究委員会委員長，相澤好治編)，第43巻，p.12-15, 2017.

- 大崎敬子: 特集 *Helicobacter pylori* 感染とマイクロバイオーム 序, *Helicobacter research* 21(3):23, 2017.
- 大崎敬子: 第13回日本臨床腸内微生物学会 大島賞受賞 2017年8月.
- 神谷茂: 楽毅の世界・続編. モダンメディア2018.

感染症学教室 (寄生虫学)

講演

学会・研究会

- 新倉保, 井上信一, 朝日博子, 小林富美恵: Metabolic adaptations during pregnancy are involved in the susceptibility to malaria parasites. 第86回日本寄生虫学会大会, 札幌, 2017年5月28-29日.
- 井上信一, 新倉保, 朝日博子, 小林富美恵: $V\gamma 1^+ \gamma \delta T$ 細胞はマラリア原虫感染防御を促進することでその機能低下を引き起こす. 第86回日本寄生虫学会大会, 札幌, 2017年5月28-29日.
- 朝日博子, 井上信一, 新倉保, 救仁郷圭祐, 鈴木穰, 小林富美恵, 仙道富士郎: Opioid antagonist 及び artemisinin 誘導体による pyknosis を伴う熱帯熱マラリア原虫の分化増殖アレスト. 第86回日本寄生虫学会大会, 札幌, 2017年5月28-29日.
- 新倉保, 井上信一, 稲岡ダニエル健, 北潔, 小林富美恵: 赤内期マラリア原虫のフマル酸回路の役割. 第25回分子寄生虫学ワークショップ&第15回分子寄生虫マラリアフォーラム合同大会, 帯広, 2017年8月27-30日.
- 小林富美恵: 寄生虫感染症の現状とその対策・予防法. 第42回東日本小児科学会, 東京, 2017年11月23日.
- Niikura M, Inoue SI, Asahi H, Inaoka DK, Kita K, Kobayashi F: MQO-mediated mitochondrial functions are required for full virulence of asexual blood-stage *Plasmodium* parasites. グローバルヘルス合同大会2017 (第58回日本熱帯医学会大会/第32回日本国際保健医療学会学術大会/第21回日本渡航医学会学術集会 合同大会), 東京, 2017年11月24-26日.
- Inoue SI, Niikura M, Kurata S, Asahi H, Osaki T, Kamiya S, Kobayashi F: Immunological memory to malaria is affected by *Salmonella* infection. グローバルヘルス合同大会2017 (第58回日本熱帯医学会大会/第32回日本国際保健医療学会学術大会/第21回日本渡航医学会学術集会 合同大会), 東京, 2017年11月24-26日.
- 新倉保, 井上信一, 松田理沙, 稲岡ダニエル健, 北潔, 小林富美恵: 赤内期マラリア原虫の malate:quinone oxidoreductase の役割. 2017年度生命科学系学会合同年次大会 (第40回日本分子生物学会/第90回日本生化学会), 神戸, 2017年12月6-9日.
- Inoue SI, Niikura M, Kobayashi F: Maintenance of immunological memory to malaria is impaired by *Salmonella* infection. 第46回日本免疫学会学術集会, 仙台, 2017年12月12-14日.
- Niikura M, Inoue SI, Asahi H, Kobayashi F: Why is *Plasmodium berghei* XAT nonlethal strain?. 第11回寄生虫感染免疫研究会, 三鷹, 2018年2月22-23日.
- Inoue SI, Niikura M, Asahi H, Kurata S, Osaki T, Kamiya S, Kobayashi F: Immunological memory to malaria is impaired by *Salmonella* infection. 第11回寄生虫感染免疫研究会, 三鷹, 2018年2月22-23日.
- Niikura M, Inoue SI, Asahi H, Kobayashi F: Comparative proteomic analyses between lethal and nonlethal strains of *Plasmodium berghei*. 第87回日本

寄生虫学会大会, 東京, 2018年3月17-18日.

- 井上信一, 新倉保, 朝日博子, 小林富美恵: $V\gamma 1^+ \gamma \delta T$ 細胞によるマラリア原虫感染防御機構の解明. 第87回日本寄生虫学会大会, 東京, 2018年3月17-18日.

国際学会

- Kobayashi F, Niikura M, Inoue SI, Asahi H: Japan-India Research Exchange Projects within SICIP. Scientific Symposium of Japan-India Research Exchange Projects within "Strategic International Research Cooperative Program (SICIP)", India, March 6th, 2018.
- Niikura M, Inoue SI, Asahi H, Kobayashi F: IFNGR1 signaling plays a pivotal role in placental pathology during *Plasmodium* infection. Scientific Symposium of Japan-India Research Exchange Projects within "Strategic International Research Cooperative Program (SICIP)", India, March 6th, 2018.
- Inoue SI, Niikura M, Asahi H, Kobayashi F: Role of $\gamma \delta T$ cells in protective immunity against malaria. Scientific Symposium of Japan-India Research Exchange Projects within "Strategic International Research Cooperative Program (SICIP)", India, March 6th, 2018.
- Niikura M, Inoue SI, Asahi H, Inaoka DK, Kita K, Kobayashi F: The role of MQO-mediated mitochondrial functions during asexual blood stage *Plasmodium* parasites. The 19th Forum Cheju, Tokyo, March 16th, 2018.
- Inoue SI, Niikura M, Asahi H, Kobayashi F: $\gamma \delta T$ cells are crucial for protective immunity against malaria. The 19th Forum Cheju, Tokyo, March 16th, 2018.

地域の講演会

- 新倉保: 寄生虫感染症の臨床ならびにその検査法. 第12回寄生虫検査法技術講習会, 東京, 2017年6月11日.
- 井上信一: 身近な食品から寄生虫をさがそう!. やさしい科学技術セミナー, 東京, 2017年7月22-23日.
- 新倉保: 寄生虫からのメッセージ. 杏林大学医学部オープンキャンパス模擬講義, 三鷹, 2017年7月29日.
- 井上信一: 観察・体験エリア担当. 免疫ふしぎ未来2017, 東京, 2017年8月6日.
- Inoue SI, Niikura M, Asahi H, Kobayashi F: Protective immunity to malaria. Seminars in Departmental Lecture Theatre of PGIMER, India, September 16th, 2017.

論文

- Niikura M, Komatsuya K^{1,2}, Inoue S, Matsuda R, Asahi H, Inaoka DK^{1,2}, Kita K^{1,2}, Kobayashi F (1Nagasaki University, 2The University of Tokyo): Suppression of experimental cerebral malaria by disruption of malate:quinone oxidoreductase. *Malar J* 16(1): 247, 2017. DOI: 10.1186/s12936-017-1898-5.
- Asahi H, Inoue SI, Niikura M, Kunigo K¹, Suzuki Y¹, Kobayashi F, Sendo F² (1The University of Tokyo, 2Miyuki no Oka, Geriatric Health Service Facilities): Profiling molecular factors associated with pyknosis and developmental arrest induced by an opioid receptor antagonist and dihydroartemisinin in *Plasmodium falciparum*. *PLoS One* 12(9): e0184874, 2017. DOI:10.1371/journal.pone.0184874.
- Niikura M, Inoue SI, Mineo S¹, Asahi H, Kobayashi F (1Tokyo Medical University): IFNGR1 signaling is associated with adverse pregnancy outcomes during

infection with malaria parasites. PLoS One 12(11) : e0185392, 2017. DOI: 10.1371/journal.pone.0185392.

- 小林富美恵, 井上信一: 赤内型マラリア原虫感染における防御免疫機構～ $\gamma\delta$ T細胞の役割～. 日本原生動物学雑誌 50(1): 1-14, 2017.
- 井上信一, 小林富美恵: マラリアにおける $\gamma\delta$ T細胞の役割. 細胞 49(14): 725-729, 2017.
- Sakamoto H¹, Takeo S, Takashima E¹, Miura K², Kanoi BN¹, Kaneko T¹, Han ET³, Tachibana M¹, Matsuoka K¹, Sattabongkot J⁴, Udomsangpet R⁵, Ishino T², Tsuboi T² (¹Ehime University, ²National Institutes of Health, USA, ³Kangwon National University, Republic of Korea, ⁴Armed Forces Research Institute of Medical Sciences, Bangkok, ⁵Mahidol University, Thailand) : Identification of target proteins of clinical immunity to *Plasmodium falciparum* in a region of low malaria transmission. Parasitol Int 67(2) : 203-208, 2018. DOI : 10.1016/j.parint.2017.12.002. (Web公開2017).
- Niikura M, Inoue SI, Fukutomi T¹, Yamagishi J², Asahi H, Kobayashi F (¹Department of Pharmacology and Toxicology, Kyorin University School of Medicine, ²Hokkaido University) : Comparative genomics and proteomic analyses between lethal and nonlethal strains of *Plasmodium berghei*. Exp Parasitol 185 : 1-9, 2018. DOI : 10.1016/j.exppara.2018.01.001.
- 新倉保, 小林富美恵: 世界における妊娠マラリアの現状と問題点. 杏林医学会雑誌 49(1): 27-34, 2018.

著書

- 小林富美恵 (分担執筆): 検査データの読み方 12 便検査一虫卵. 小児臨床検査ガイド第2版. 東京, 文光堂, 2017. pp.649-652.
- 小林富美恵 (監修): 寄生虫感染症. イヤーノート2018. 東京, メディックメディア, 2017. pp.H114-H130.
- 小林富美恵 (監修): 獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 寄生虫病学 改訂版. 日本獣医寄生虫学会監修. 東京, 緑書房, 2017. pp.10-213.
- 小林富美恵 (監修): 寄生虫感染症. イヤーノート2019. 東京, メディックメディア, 2018. pp.H114-H130.

報告書

- 小林富美恵: 三日熱マラリアの重症化におけるTLRの役割と重症化を予測する早期診断技術の開発. 日本医療研究開発機構 (医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業, 戦略的国際科学技術協力プログラム) 事後評価報告書, 2018.

その他

- 小林富美恵: 講演企画, 座長「グローバルヘルス: 日本の女性・若手が世界で活躍するために」. 日本熱帯医学会男女共同参画推進委員会企画シンポジウム, グローバルヘルス合同大会2017 (第58回日本熱帯医学会大会・第32回日本国際保健医療学会学術大会, 第21回日本渡航医学会学術集会 合同大会), 東京, 2017年11月24-26日.
- 松田理沙, 新倉保, 井上信一, 朝日博子, 小林富美恵: 杏林医学会 第6回学生リサーチ賞 受賞報告「マラリア原虫のプリンヌクレオチド生合成を介した新たなエネルギー代謝システムの解明」. 杏林医学会雑誌 48(4): s1-2, 2017.
- 遠藤沙佑美, 井上信一, 蔵田訓, 新倉保, 朝日博子, 大崎敬子, 神谷茂, 小林富美恵: 杏林医学会 第6回トラベルアワード 受賞報告「マラリア免疫記憶に対するサルモネラ感染の影響」. 杏林医学会雑誌 48(4): s19-20, 2017.
- 小林富美恵: 第11回寄生虫感染免疫研究会主催, 三鷹,

2018年2月22-23日.

衛生学公衆衛生学教室

講演

- 吉田正雄: 公衆衛生と医の倫理～今, そして未来の生を衛る～. 第6回埼玉回生病院特別講演, 八潮, 2017年4月15日.
- Yoshida M, Mizuki N, Meguro A, Kawagoe T, Yamane T, Okada E: A fourteen year large scale follow-up study on the distribution of astigmatic axis in Japan. - The result of analysis of the astigmatic power of approximately 550,000 eyes of Japanese patients -. ARVO 2017, USA, May 7th-11th, 2017.
- Okada E, Mizuki N, Meguro A, Kawagoe T, Yamane T, Yoshida M: A thirteen year large-scale, follow-up study into the number of prescriptions of single vision and bifocal contact lenses. - The result of age group analysis of approximately 102,000 eyes of Japanese patients over 40 years old -. ARVO 2017, USA, May 7th-11th, 2017.
- 石川守, 吉田正雄: 人間ドック健診の将来を担う医師に対する教育への取り組み. 第27回九州農村医学会, 長崎, 2017年6月2-3日.
- 西尾聖剛, 吉富悠騎, 杉山康司, 祝原豊, 辻川比呂斗, 白土健, 櫻井拓也, 木崎節子, 大野秀樹, 長澤純一: 高地における高強度運動が酸化ストレスセンサーおよび酸化酵素のmRNAに及ぼす影響. 第37回日本登山医学会学術集会, 松本, 2017年6月2-4日.
- Shirato K, Takanari J, Misu M, Koda T, Sakurai T, Ogasawara J, Ishibashi Y, Imaizumi K, Ohno H, Kizaki T: Enzyme-treated asparagus extract has suppressive effect on ultraviolet-B radiation-induced NF- κ B nuclear translocation in normal human dermal fibroblasts. The 25th Annual Meeting of International Congress on Nutrition and Integrative Medicine (ICNIM2017), Sapporo, July 8th-9th, 2017.
- Koda T, Takanari J, Misu M, Shirato K, Imai H: Protective effects of enzyme-treated asparagus extract (ETAS) on UV-B-irradiated keratinocytes. The 25th Annual Meeting of International Congress on Nutrition and Integrative Medicine (ICNIM2017), Sapporo, July 8th-9th, 2017.
- Yoshida M, Karita K, Kokaze A, Take S, Ishikawa M, Okada E: Association of age with refractive change - 5 years prospective study against 287,019 Japanese eyes-. IEA World Congress of Epidemiology, Saitama, August 19th-22nd, 2017.
- 田村憲治, 原邦夫, 佐々木俊介, 矢野栄二, 菊田香苗: 常時監視局SPM, PM2.5濃度による平成29年5月黄砂飛来の確認. 第58回大気環境学会年会, 西宮, 2017年9月6-8日.
- 山崎絵里, 渡邊舞子, 高橋恭子, 今泉和彦, 阿部麻友子, 岳真一郎, 吉田正雄: 慢性期患者の経口摂取を予測する因子の検討ー嚥下機能評価を3ヶ月間追跡した結果からー. 第59回全日本病院学会in石川, 金沢, 2017年9月9-10日.
- 櫻井拓也, 白土健, 小笠原準悦, 石橋義永, 井澤鉄也, 大石修司, 芳賀脩光, 大野秀樹, 木崎節子: 運動は肥満による脂肪組織のプロサイモニン α 発現増加を抑制する. 第72回日本体力医学会大会, 松山, 2017年9月16-18日.
- 白土健, 櫻井拓也, 小笠原準悦, 今泉和彦, 大野秀樹, 木崎節子: マクロファージのインスリン感受性に及ぼす自発性運動の効果とその生理的意義. 第72回日本体力医

学会大会, 松山, 2017年9月16-18日.

13. 小笠原準悦, 加藤久詞, 白土健, 井澤鉄也, 吉岡英治, 西條泰明, 木崎節子, 吉田貴彦: 強制的な持久的走運動トレーニングにより肩甲部褐色脂肪組織量は減少する. 第72回日本体力医学会大会, 松山, 2017年9月16-18日.
14. 川崎渚, 富田裕司, 佐藤千佳, 伊賀文恵, 高橋恭子, 岳真一郎, 吉田正雄: 胃瘻から経口摂取へと回復した患者の一例. 第25回日本慢性期医療学会, 仙台, 2017年10月19-20日.
15. 鈴木晶子, 渡邊雅巳, 橋本磨人, 高橋恭子, 虻川和博, 岳真一郎, 吉田正雄: デイケア利用者における生活機能と身体機能との関連性—ニーズに応じたIADL向上を目指して—. 第25回日本慢性期医療学会, 仙台, 2017年10月19-20日.
16. 荻田香苗, 吉田正雄, 井上聡, 原田まつ子, 田村憲治: 鹿児島市の大気中浮遊粒子状物質濃度および降灰量と救急隊出場状況との関係. 第76回日本公衆衛生学会, 鹿児島, 2017年10月31日-11月2日.
17. 吉田正雄, 荻田香苗, 石川守, 岳真一郎, 原田まつ子, 井上聡, 岡田栄一: 屈折異常の分布に関する5年間の大規模疫学研究—日本人約33万眼を分析した結果—. 第82回日本健康学会in沖縄, 恩納村, 2017年11月10-11日.
18. 原田まつ子, 林あつみ, 吉田正雄, 井上聡, 近喰ふじ子, 本尾友紀, 荻田香苗: ラットにおける亜鉛の栄養状態とアルコール経口摂取との関係. 第82回日本健康学会in沖縄, 恩納村, 2017年11月10-11日.
19. Shirato K, Sakurai T, Ogasawara J, Imaizumi K, Ohno H, Kizaki T: *O*-linked *N*-acetylglucosamine but not high glucose suppresses lipopolysaccharide-stimulated macrophage inflammatory responses. RIKEN International Symposium “Systems Glycobiology and Beyond -Toward a bridge between fundamental research and applied science-”, Wako, November 16th-17th, 2017.
20. 白土健, 櫻井拓也, 木本紀代子, 大野秀樹, 木崎節子: マクロファージの泡沫化に対するインスリンの影響と習慣的運動の効果. 第46回杏林医学会総会, 三鷹, 2017年11月18日.
21. 白土健, 櫻井拓也, 小笠原準悦, 今泉和彦, 大野秀樹, 木崎節子: インスリンによるマクロファージ泡沫化亢進のメカニズム. 第90回日本生化学会大会, 神戸, 2017年12月6-9日.
22. 菅田慎一, 平光彩乃, 杉山昌彦: レプチン受容体欠損メダカの眼病変に関する病理組織学的検討. 第34回日本毒性病理学会総会及び学術総会, 那覇, 2018年1月25-26日.
23. 高橋恭子, 山崎絵里, 阿部麻友子, 渡邊舞子, 岳真一郎, 吉田正雄: 慢性期患者の経口摂取を予測する因子の検討. 第5回慢性期リハビリテーション学会, 横浜, 2018年2月26-27日.
24. 荻田香苗: 女性研究者の活躍推進とは?—杏林大学における男女共同参画活動の経験から—. 群馬大学医学系研究科男女共同参画推進委員会キックオフ講演会, 前橋, 2018年3月6日.
25. 櫻井拓也, 白土健, 小笠原準悦, 石橋義永, 井澤鉄也, 大石修司, 芳賀脩光, 大野秀樹, 木崎節子: 肥満によって増加するプロサイモシン α は脂肪細胞の分化を促進する. 第88回日本衛生学会学術総会, 東京, 2018年3月22-24日.
26. 白土健, 櫻井拓也, 小笠原準悦, 今泉和彦, 大野秀樹, 木崎節子: インスリンによるマクロファージの脂質合成促進作用と習慣的運動の効果. 第88回日本衛生学会学術総会, 東京, 2018年3月22-24日.
27. 白土健, 小宇田智子, 高成準, 三栖菜奈美, 櫻井拓也,

小笠原準悦, 今泉和彦, 大野秀樹, 木崎節子: ETASは紫外線による正常ヒト皮膚線維芽細胞のNF- κ B核内移行を抑制する. 第88回日本衛生学会学術総会, 東京, 2018年3月22-24日.

28. 小風暁, 石川守, 吉田正雄, 荻田香苗, 落合裕隆, 白澤貴子, 吉本隆彦, 箕浦明, 佐藤正雄, 高島豊: 長寿関連ミトコンドリアDNA多型におけるコーヒー飲用と血清電解質濃度との関係解析. 第88回日本衛生学会学術総会, 東京, 2018年3月22-24日.

論文

1. 荻田香苗, 村田勝敬¹ (秋田大): 環境のリスクアセスメント. 日本医師会雑誌 146(特別2):S54-S57, 2017.
2. 荻田香苗, 江頭説子¹ (杏林大・男女共同参画室): 女性医療専門職者の仕事と育児の両立支援. 保健の科学 59(10):671-675, 2017.
3. 北原玲子¹, 鈴木晴喜¹, 山下としえ¹, 山崎絵里¹, 岳真一郎¹, 吉田正雄 (1埼玉回生病院): ワセリン使用による褥瘡好発部位の保湿効果—1ヶ月の追跡調査—. 全日本病院協会雑誌 28(1):245-248, 2017.
4. Chisada S, Hirako A¹, Sugiyama A¹ (Tottori University): Ocular lesions in leptin receptor-deficient medaka (*Oryzias latipes*). Journal of Toxicologic Pathology, 31(1):65-72, 2018.
5. 荻田香苗: 日本医学会連合加盟学会における男女共同参画活動と今後の課題. 杏林医学会雑誌 49(1):77-82, 2018.
6. 野村恭子¹, 荻田香苗 (1秋田大): 学術研究からの少子化対策—日本衛生学会からの提言に向けて—. 日衛誌 73(1):283-84, 2018.
7. 原田まつ子¹, 林あつみ¹, 吉田正雄, 井上聡², 荻田香苗 (1東京家政大, 2帝京科学大): ラットにおける亜鉛の栄養状態とアルコール経口摂取との関係. 東京家政大学附属臨床相談センター紀要第18集: 55-69, 2018.

著書

1. 松浦賢長, 小林廉毅, 荻田香苗: コンパクト公衆衛生学第6版第1刷. 東京, 朝倉書店, 2018.
2. 荻田香苗: 第II部5. 環境汚染と公害. コンパクト公衆衛生学 第6版第1刷. 松浦賢長, 小林廉毅, 荻田香苗編集. 東京, 朝倉書店, 2018. p.31-41.
3. 荻田香苗: 第IV部20. 国際保健. コンパクト公衆衛生学 第6版第1刷. 松浦賢長, 小林廉毅, 荻田香苗編集. 東京, 朝倉書店, 2018. p.130-134.
4. 吉田正雄: 第III部9. 健康教育・行動変容. コンパクト公衆衛生学 第6版第1刷. 松浦賢長, 小林廉毅, 荻田香苗編集. 東京, 朝倉書店, 2018. p.65-70.

報告書

1. 荻田香苗 (分担): 光化学オキシダントの健康影響評価書—オゾンの健康影響に関する人志願者実験の知見. 平成29年度環境省請負業務結果報告書, 日本エス・ユー・エス, 2018年3月.
2. 荻田香苗 (分担): メチル水銀曝露による健康影響に関するレビュー; 「水俣病に関する総合的研究 (重金属等の健康影響に関する総合研究)». 平成29年度環境省委託業務報告書, 2018年3月.
3. 白土健, 今泉和彦, 木崎節子: 2型糖尿病マウスにおける慢性炎症反応に対する運動の効果とメカニズム—マクロファージのO-結合型N-アセチルグルコサミンに着目して—. 第32回 (平成27年度) 若手研究者のための健康科学研究助成成果報告書, 公益財団法人明治安田厚生事業団, 32: 75-80, 2017.
4. 白土健, 木崎節子: 運動による慢性炎症性代謝疾患改善効果: マクロファージのグルコース代謝経路に着目して. 第28回研究助成業績集 (公益財団法人中富健康科学振

興財団), 平成29年版:1-4, 2017.

その他

1. Karita K et al: Committee for Recommendation of Occupational Exposure Limits, Japan Society for Occupational Health. Occupational exposure limits for ethylene glycol monobutyl ether, isoprene, isopropyl acetate and propyleneimine, and classifications on carcinogenicity, occupational sensitizer and reproductive toxicant. J Occup Health 59 (4): 364-366, 2017.
2. 菅田慎一, 杉山晶彦[特許出願]: 糖尿病網膜症及び白内障モデル実験動物(特願2017-177416) 認証日: 2017年9月15日.
3. 野村恭子, 荻田香苗: 日本衛生学会における男女共同参画推進活動. 第15回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム資料集, p.91, 2017年10月.
4. 野村恭子, 荻田香苗: 少子高齢化社会日本における学術研究からの問題提起. 第88回日本衛生学会シンポジウム 13 開催趣旨. 日衛誌73 (Supplement): S157, 2018年3月.
5. 吉田正雄: 第82回日本健康学会総会ポスターセッション1優秀ポスター賞「屈折異常の分布に関する5年間の大規模疫学研究—日本人約33万眼を分析した結果—」, 2017年11月11日.
6. 櫻井拓也(取材協力): 「活性酸素」増えすぎると. 読売新聞. 2017年12月21日.
7. 櫻井拓也(取材協力): ラク過ぎもキツ過ぎもNG! 抗酸化力UPエクササイズ. Tarzan721: 28-29, 2017.
8. 白土健: 第46回杏林医学会総会準優秀賞「マクロファージの泡沫化に対するインスリンの影響と習慣的運動の効果」, 2017年11月18日.

法医学教室

講演

1. 武市敏明, 北村修, 王璐, 塚正彦: Methamphetamine 反復投与における線条体および中脳の神経マーカーと運動量の解析. 第101次日本法医学会学術全国集会, 岐阜, 2017年6月7-9日.
2. 氣賀澤秀明, 廣川達也, 高橋かすみ, 吉田昌記, 高篠智, 王璐, 北村修: 脳底動脈—後大脳動脈分岐部の破綻部にアミロイド様物質の沈着を認めた1剖検例. 第101次日本法医学会学術全国集会, 岐阜, 2017年6月7-9日.
3. 廣川達也, 有益優, 山本浩之, 千葉知宏, 藤原正親, 矢澤卓也, 北村修, 菅間博: 甲状腺乳頭癌におけるTERTプロモーター領域の点突然変異とrSNPの検討. 第21回日本臨床内分泌病理学会学術総会, 東京, 2017年10月27-28日.
4. 高篠智, 阿部光伸, 氣賀澤秀明, 廣川達也, 吉田昌記, 桐生京佳, 高橋かすみ, 奥間弘美, 北村修: 頭皮縫合時に頭蓋冠がずれない頭蓋の鋸断法. 第86回日本法医学会学術関東地方集会, 三鷹, 2017年10月28日.
5. 高篠智, 灰塚嘉典, 北村修, 長瀬美樹, 藤倉義久, 松村讓児: N-ビニル-2-ピロリドンを用いた遺体の関節可動性等についての意識調査. 第123回日本解剖学会総会・全国学術集会, 武蔵野, 2018年3月28-30日.
6. 灰塚嘉典, 長瀬美樹, 高篠智, 藤倉義久, 松村讓児: (N-Vinyl-2-pyrrolidone)注入固定遺体の関節可動域の定量的評価. 第123回日本解剖学会総会・全国学術集会, 武蔵野, 2018年3月28-30日.
7. 長瀬美樹, 灰塚嘉典, 高篠智, 中村眞二, 藤倉義久, 松村讓児: ピロリドン固定解剖体の組織所見, 画像所見の

解析. 第123回日本解剖学会総会・全国学術集会, 武蔵野, 2018年3月28-30日.

論文

1. 高篠智, 宮木孝昌^{1,2}, 氣賀澤秀明, 廣川達也, 吉田昌記, 王璐, 松村讓児³, 北村修 (¹東医大, ²愛知医大, ³杏林大・医・解剖学): 両側性過長茎状突起の肉眼的及び組織学的検索. 形態科学 20(2): 103-116, 2017.
2. Kigasawa H, ¹Fujiwara M, ¹Ishii J, ¹Chiba T, ¹Terado Y, ¹Shimoyamada H, ¹Mochizuki M, Kitamura O, ¹Kamma H, ¹Ohkura Y (¹Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine): Altered expression of cytokeratin 7 and CD117 in transitional mucosa adjacent to human colorectal cancer. Oncol Lett. 14(1): 119-126, 2017.

著書

1. 美作宗太郎, 佐藤喜宣, 氣賀澤秀明(分担執筆), 高瀬泉, 清水恵子, 兵頭秀樹, 山田典子: II各論 死亡診断書と死体検案書. 臨床法医学入門. 山田典子編著. 東京, 明石書店, 2017. p.21-30.

その他

1. 北村修: 第86回日本法医学会学術関東地方集会主催, 三鷹, 2017年10月28日.
2. 北村修: 平成29年度東京都法医学ワークショップ(医学生向け)主催, 東京, 2018年3月17日.

共同研究施設

RI部門

講演

学会発表

1. Tanaka S, Kato E, Kofuji T, Fukushima T, Hori Y: NMDA receptor 2B subunit and BK channel may affect mechanical allodynia by regulating the activity of enkephalinergic neurons in the spinal dorsal horn. Experimental Biology 2017, USA, April 22nd-26th, 2017.
2. Kofuji T, Hayashi Y, Fujiwara T, Tamaru M, Akagawa K: Five cases of autism spectrum disorder with syntaxin1A gene haploid. 14th Asian and Oceanian Congress of Child Neurology, Fukuoka, May 11th-14th, 2017.
3. 三嶋竜弥, 藤原智徳, 小藤剛史, 寺尾安生, 赤川公朗: シンタキシン1B遺伝子欠損マウスの行動・神経機能の表現型解析: シンタキシン1Bの熱性けいれんへの関与. 第40回日本神経科学大会, 千葉, 2017年7月20-23日.
4. 小藤剛史, 藤原智徳, 三嶋竜弥, 赤川公朗: Seizure phenotype in syntaxin1B gene ablated mice was associated with GABAergic system. 第60回日本神経化学会, 仙台, 2017年9月7-9日.
5. Fujiwara T, Kofuji T, Mishima T, Terao Y, Akagawa K: HPC-1/syntaxin1A regulates reciprocal feedforward interactions between DA and OXT systems, which, in turn, affect social behavior. Neuroscience2017, USA, November 11th-15th, 2017.
6. Kofuji T, Fujiwara T, Mishima T, Sanada M, Hayashi Y, Tamaru M, Terao Y Akagawa K: Disturbance of HPC-1/syntaxin1A gene expression and variation of its gene number are highly associated with autism spectrum disorder. Neuroscience2017, USA, November 11th-15th, 2017.
7. Mishima T, Fujiwara T, Kofuji T, Terao Y Akagawa K: A study on the behavioral and neuronal phenotype of syntaxin 1B gene-ablated mice: Involvement of syntaxin 1B in the feve-associated epilepsy

syndromes. Neuroscience2017, USA, November 11th-15th, 2017.

8. 藤原智徳, 小藤剛史, 三嶋竜弥, 寺尾安生, 赤川公朗 : HPC-1/syntaxin 1A欠損マウスにおける社会行動障害の解析. 第95回日本生理学会大会, 高松, 2018年3月28-30日.
9. 三嶋竜弥, 藤原智徳, 小藤剛史, 寺尾安生, 赤川公朗 : シンタキシン1Bの熱性けいれんへの関与. 第95回日本生理学会大会, 高松, 2018年3月28-30日.

論文

1. Fujiwara T¹, Kofuji T, Mishima T¹ Akagawa K¹(¹Kyorin Univ. Sch. Med., Dept. Cell Physiol.) : Syntaxin1B contributes to regulation of the dopaminergic system through GABA transmission in the CNS. Eur J Neurosci, 46:2867-2874, 2017.

フローサイトメトリー部門

講演

1. Sato Y, Takahashi R, Kimishima M, Yamaszaki Y, Shiohara T, Ohya M: Identification of early predictors of the efficacy of intravenous corticosteroid pulse therapy in rapidly-progressive diffuse alopecia areata patients. 76th Annual Meeting of the Society for Investigative Dermatology, USA, April 27th, 2017.
2. Takahashi R, Sato Y, Kimishima M, Shiohara T, Ohya M: Influence of programmed cell death-1 immune checkpoint blockade on T cell profile and resposen to melanoma-associated antigen in advanced malignant melanoma patients. 47th Annual European Society for Dermatological Research Meeting, Austria, September 30th, 2017.
3. Sato Y, Takahashi R, Yamazaki Y, Ohya M: Quantitative clinicopathological analyses identify poor prognostic factors for systemic steroid pulse therapy in acute slopecia areata. 10th World Congress for Hair Research, Kyoto, November 2nd, 2017.
4. Takahashi R, Sato Y, Kimishima M, Shiohara T, Ohya M: Characterization of the influence of PD-1 blockade on IFN- γ , granzyme B and IL-9 production by T cells in advanced melanoma patients. The 42st Annual meeting of the Japanese society for investigative dermatology, Kochi, December 16th-17th, 2017.

報告書

1. 高橋良 : スティーブンス・ジョンソン症候群は, なぜマイコプラズマ肺炎に伴って発症するのか?. 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 2017年度 実施状況報告書 (研究実施状況報告書) .

その他

1. 高橋良 : 第28回日本サイトメトリー学会技術講習会主催, 東京, 2018年2月16日.

実験動物施設部門

講演

1. Hojo F, Osaki T, Yonezawa H, Hanawa T, Satoshi K, Zaman C, Kamiya S : Survival of *Helicobacter pylori* inoculated in collected environmental soil. The Joint Congress of The 19th International Symposium on Gnotobiology, The 50th Congress of Japanese Association of Germfree Life and Gnotobiology and

The 39th Congress of the Society for Microbial Ecology and Disease, Tokyo, June 7th-10th, 2017.

2. Hanawa T, Yonezawa H, Hojo F, Osaki T, Satoshi K, Kamiya S : Impact of (p)ppGpp on stress tolerance, the biofilm formation and the production of virulence factors in *Bordetella pertusis*. The Joint Congress of The 19th International Symposium on Gnotobiology, The 50th Congress of Japanese Association of Germfree Life and Gnotobiology and The 39th Congress of the Society for Microbial Ecology and Disease, Tokyo, June 7th-10th, 2017.
3. Osaki T, Tokunaga K, Yonezawa H, Tanaka A, Takahashi M, Oka K, Zaman C, Hojo F, Satoshi K, Hanawa T, Taguchi H, Kamiya S : The impact of *Helicobacter pylori* on gastric microbiota. The Joint Congress of The 19th International Symposium on Gnotobiology, The 50th Congress of Japanese Association of Germfree Life and Gnotobiology and The 39th Congress of the Society for Microbial Ecology and Disease, Tokyo, June 7th-10th, 2017.
4. Zaman C, Osaki T, Yonezawa H, Hojo F, Satoshi K, Hanawa T, Kamiya S : Enhanced infectivity of child strain of *Helicobacter pylori* in gastric mucosa of Mongolian gerbils compared with father and mother strains. The Joint Congress of The 19th International Symposium on Gnotobiology, The 50th Congress of Japanese Association of Germfree Life and Gnotobiology and The 39th Congress of the Society for Microbial Ecology and Disease, Tokyo, June 7th-10th, 2017.
5. Yonezawa H, Osaki T, Hanawa T, Satoshi K, Zaman C, Hojo F, Kamiya S : Diversification of AlpA and AlpB outer membrane proteins of *Helicobacter pylori* affects biofilm formation. The Joint Congress of The 19th International Symposium on Gnotobiology, The 50th Congress of Japanese Association of Germfree Life and Gnotobiology and The 39th Congress of the Society for Microbial Ecology and Disease, Tokyo, June 7th-10th, 2017.
6. 北条史, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, ザマンシンシア, 神谷茂 : 環境土壌における *Helicobacter pylori* の生存性について. 第23回日本ヘリコバクター学会学術集会, 函館, 2017年6月30日-7月2日.
7. 大崎敬子, 林櫻松, 米澤英雄, 北条史, 奥田真珠美, 福田能啓, 神谷茂 : 胆道癌および膵臓癌患者における胆汁からの *Helicobacter* 属細菌の検出と血清抗体価の測定. 第23回日本ヘリコバクター学会学術集会, 函館, 2017年6月30日-7月2日.
8. 米澤英雄, 大崎敬子, ザマンシンシア, 北条史, 神谷茂 : *Helicobacter pylori* 外膜タンパク質 AlpA およびその多様性領域が及ぼすバイオフィーム形成能への影響. 第23回日本ヘリコバクター学会学術集会, 函館, 2017年6月30日-7月2日.
9. Kamiya S, Yonezawa H, Hojo F, Osaki T, Hanawa T : Involvement of stringent response in oxidative stress response and biofilm formation in *Helicobacter pylori* infection. European *Helicobacter* and Microbiota Study Group - EHMSG XXXth International Workshop on *Helicobacter* & Microbiota in Inflammation and Cancer, French, September 7th-9th, 2017.
10. Yonezawa H, Hojo F, Osaki T, Kamiya S : AlpA, an outer membrane protein of *Helicobacter pylori* is involved directly and indirectly in biofilm formation. European *Helicobacter* and Microbiota Study Group - EHMSG XXXth International Workshop on

Helicobacter & Microbiota in Inflammation and Cancer, French, September 7th-9th, 2017.

11. Hojo F, Osaki T, Yonezawa H, Hanawa T, Kurata S, Zaman C, Kamiya S: Survival of *Helicobacter pylori* in environmental soil. European *Helicobacter* and Microbiota Study Group – EHMSG XXXth International Workshop on *Helicobacter* & Microbiota in Inflammation and Cancer, French, September 7th-9th, 2017.
12. Osaki T, Yonezawa H, Hojo F, Takahashi M, Nozaki E, Zaman C, Oka K, Kamiya S: 16S metagenomic analysis for gastric microbiota of Mongolian gerbil infected with *Helicobacter pylori*. European *Helicobacter* and Microbiota Study Group – EHMSG XXXth International Workshop on *Helicobacter* & Microbiota in Inflammation and Cancer, French, September 7th-9th, 2017.
13. 北条史, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 蔵田訓, 神谷茂: 環境土壌および滅菌土壌内における *Helicobacter pylori* の生存性について. 第46回杏林医学会総会, 三鷹, 2017年11月18日.
14. 北条史, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 蔵田訓, 神谷茂: 環境土壌および滅菌土壌内における *Helicobacter pylori* の生存性について. 第51回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会, 大阪, 2018年1月26-27日.
15. 北条史, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 蔵田訓, 神谷茂: 環境土壌および滅菌土壌内における *Helicobacter pylori* の生存性について. 第91回日本細菌学会総会, 福岡, 2017年3月27-29日.
16. 大崎敬子, 北条史, 高橋志達, 岡健太郎, 米澤英雄, 蔵田訓, 花輪智子, 神谷茂: *Helicobacter pylori* 感染スナネズミの消化管細菌叢について. 第91回日本細菌学会総会, 福岡, 2017年3月27-29日.
17. Yonezawa H, Osaki T, Hanawa T, Satoshi K, Hojo F, Kamiya S: Role of the CsrA in biofilm formation by *Helicobacter pylori*. 第91回日本細菌学会総会, 福岡, 2017年3月27-29日.
18. Hanawa T, Kamachi K, Yonezawa H, Satoshi K, Osaki T, Hojo F, Kamiya S: Role of virulence factors detected in the biofilm in colonization of *Bordetella pertussis*. 第91回日本細菌学会総会, 福岡, 2017年3月27-29日.

論文

1. Osaki T, Zaman C, Yonezawa H, Lin Y, Okuda M, Nozaki E, Hojo F, Kurata S, Hanawa T, Kikuchi S, Kamiya S: Influence of Intestinal Indigenous Microbiota on Intrafamilial Infection by *Helicobacter pylori* in Japan. *Front. Immunol.* 9:287, 2018.

その他

1. 神谷茂, 北条史: ドライクリーニング用液体洗剤の抗菌性細菌作用の解析. 平成28年度クリーニングと公衆衛生に関する研究報告書(クリーニングと公衆衛生に関する研究委員会委員長, 相澤好治編), 第43巻, p.12-15, 2017.
2. 北条史, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 蔵田訓, 神谷茂: 第46回杏林医学会総会一般口演優秀賞受賞, 環境土壌および滅菌土壌内における *Helicobacter pylori* の生存性について, 三鷹, 2017年11月18日.

生物学教室

講演

1. Hirai K, Suzuki H, Minakuchi Y, Toyoda A, Matsuda M: The initiation and progression of the earliest

cycles in parthenogenetic *Drosophila ananassae*. The 4th Asia-Pacific *Drosophila* Research Conference, Suita, 2017年5月8-11日.

2. Ueda R, Saito K, Takano T, Watada M, Awasaki T: National BioResource Project "Drosophila". The 4th Asia-Pacific *Drosophila* Research Conference, Suita, 2017年5月8-11日.
3. Awasaki T: Clonal Development and Organization of the Adult *Drosophila* Central Brain. 50th Annual meeting of japan society of developmental biologists, 東京, 2017年5月10-12日.
4. Kato K, Tomura M, Awasaki T: Adult glial architectures are established by a plastic and robust developmental strategy in *Drosophila*. 50th Annual meeting of japan society of developmental biologists, 東京, 2017年5月10-12日.
5. Awasaki T, Kato K: Glial cell biology in *Drosophila* brain. 40th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, 横浜, 2017年7月20-23日.
6. 大橋拓朗, 栗崎健, 石川由希, 森本奈央¹, 上川内あづさ: ショウジョウバエの求愛歌情報処理システムの進化の理解に向けて. 日本進化学会第19回大会, 京都, 2017年8月24-26日.
7. 上田龍, 齋藤都暁, 近藤周, 矢野弘之, 高野敏行, 都丸雅敏, 大迫隆史, 和多田正義, 栗崎健, 佐藤玄, 平井和之, 明石良: NBRP「ショウジョウバエ」: ショウジョウバエーバイオリソースと先駆的研究の共進化ー. ConBio2017, 神戸, 2017年12月6-8日.
8. Orihara-Ono M, Kato K, Awasaki T: Developmental robustness of *Drosophila* adult glial architecture. グリアアセンブリ第5回公開シンポジウム, 東京, 2018年1月19日.
9. Kato K, Orihara-Ono M, Awasaki T: Developmental robustness of *Drosophila* adult glial architecture. CDB symposium 2018, Kobe, March 26th-28th, 2018.

論文

1. Kudo A¹, Awasaki T, Ishikawa Y¹, Matsuo T¹(¹Univ. of Tokyo): piggyBac- and phiC31 integrase-mediated transgenesis in *Drosophila* *prolongata*. *Genes Genet Syst.* 2017. doi: 10.1266/ggs.17-00024.
2. Kato K, Losada-Perez M¹, Hidalgo A²(¹Cajal Institute CSIC, Spain, ²University of Birmingham, UK): Gene network underlying the glial regenerative response to central nervous system injury. *Dev Dyn* 247(1): 85-93, 2018.

物理学教室

講演

1. Tohyama M: Progress in density-matrix theory and applications. Workshop on Theory and applications of RPA-and-beyond methods in physics and chemistry, France, May 2nd, 2017.
2. 遠山満: 拡張RPAにおける粒子一粒子, 空孔一空孔遷移の効果. 日本物理学会2017秋季大会, 宇都宮, 2017年9月13日.
3. 大谷宗久: 有限温度媒質中における中性ベクトル中間子と荷電ベクトル中間子の質量差. 日本物理学会2017秋季大会, 宇都宮, 2017年9月15日.
4. 遠山満: 密度行列方程式の連結チェーンの切断法II. 日本物理学会第73回年次大会, 野田, 2018年3月22日.

論文

1. Tohyama M, Schuck P¹ (¹IPN Orsay): Truncation

scheme of time-dependent density-matrix approach II. Eur Phys J A 53: 186-1-4, 2017.

2. Tohyama M: Role of small-norm components in extended random-phase approximation. Prog Theor Exp Phys 2017: 093D06-1-11, 2017.

化学教室

講演

1. 須賀圭, 西野将史, 寺尾安生, 赤川公朗: Effect of ER stress modulator on ER-Golgi SNARE expression and A β peptide secretion in NG108-15 cell. 第60回日本神経化学学会大会, 仙台, 2017年9月7日.
2. Yamamoto S, Takehara M, Ushimaru M: Inhibition of sarcoplasmic reticulum Ca²⁺-ATPase activity by linoleamide and oleamide. The 15th International conference on Na, K-ATPase and Related Transport ATPases, Otsu, September 24th-30th, 2017.
3. 山本幸子, 須賀圭, 菅田晴夫, 丑丸真: ゴルジ体局在Ca²⁺/Mn²⁺ポンプSPCAの阻害剤の探索. 生体エネルギー研究会第43回討論会, 京都, 2017年12月19-21日.

論文

1. Homareda H, Otsu M, Yamamoto S, Ushimaru M, Ito S¹, Fukutomi T², Jo T³, Eishi Y⁴, Hara Y⁴ (¹Tokyo University of Technology, ² Department of Pharmacology and Toxicology, Kyorin University School of Medicine, ³ University of Michigan, USA, ⁴Tokyo Medical and Dental University): A possible mechanism for low affinity of silkworm Na⁺/K⁺-ATPase for K. J Bioenerg Biomembr 49(6): 463-472, 2017. DOI: 10.1007/s10863-017-9729-5.

英語学教室

講演

1. Kuroda K: How(normal=>ordinary) people respond to(potentially deviant) sentences is not as simple as linguists thought to be: An initial report on Acceptability Rating Database of Japanese (ARDJ) project. An invited talk presented at the 23rd Joint Workshop of Linguistics and Language Processing (JWLLP 24), Tokyo, December 16th, 2017.
2. 黒田航: “文法”の概念の最適化が妥当な記述と説明を与える. 「文法の動的体系性を探る(1)」研究発表会, 府中, 2018年2月11日.
3. Kuroda K, Yokono H, Abe K, Tsuchiya T, Asao Y, Kobayashi Y, Kanamaru T, Tagawa T: Development of Acceptability Rating Data of Japanese (ARDJ): An Initial Report. 言語処理学会第23回年次大会, 岡山, 2018年3月13-15日.

